

OLYMPUS

デジタルカメラ

E-M1X

取扱説明書



Model No. : IM010

- オリンパスデジタルカメラのお買い上げ、ありがとうございます。カメラを操作しながらこの説明書をお読みいただき、安全に正しくお使いください。特に「8 安全にお使いいただくために」は、製品をご使用になる前によくお読みください。またお読みになったあとも、必ず保管してください。
- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、大切な撮影の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
- 取扱説明書で使用している画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。
- カメラのファームアップにより機能の追加・変更があった場合、記載内容が異なります。最新情報は当社ホームページをご確認ください。

本製品の説明書について

本製品では、付属の「クイックガイド」と「取扱説明書」（本書）の他に、PDF版の取扱説明書や「機能活用ガイド」をご用意しています。あわせてご利用ください。



クイックガイド

カメラのボタンの働きやカメラの機能を設定するための機能パネルやメニューの操作の仕方を簡単に紹介しています。また、カメラの連写やAFの性能を発揮するために同時に使用すると有効な機能が記載されています。



取扱説明書(本書およびPDF版)

カメラの使い方と機能について説明しています。PDF版は、当社ホームページの下記URLからダウンロードすることができます。

http://cs.olympus-imaging.jp/jp/support/cs/man/man_esystem.html#omd

- PDF版については、スマートフォン用アプリ OLYMPUS Image Share (OI.Share)から直接ダウンロードもできます。



機能活用ガイド




このカメラの機能をご活用いただくために、機能や設定についての情報を掲載しています。OI.Shareからもご利用いただけるようにスマートフォンなどの表示にも最適化されています。

<http://cs.olympus-imaging.jp/jp/support/cs/webmanual/index.html>



本書の表記について

本文中、以下の表記を使用しています。

	使用上便利なことや役に立つ情報を記載しています。
	補足説明や補足事項を記載しています。
	関連する情報の参照ページを記載しています。

本製品の説明書について	P.2
もくじ	P.4
機能目次	P.16
各部の名称	P.20
カメラと付属品を確認する	P.24
はじめにご確認ください	P.25
1 準備する	P.27
静止画用、ムービー用どちらのカメラとしてお使いになる方も、他とあわせてお読みください。	
2 静止画の撮影と再生	P.51
静止画用カメラとしてお使いの方はお読みください。	
3 ムービーの撮影と再生	P.293
ムービー用カメラとしてお使いの方はお読みください。	
4 カメラをカスタマイズする	P.453
ダイヤルやボタンの働きを使い方に合わせて変更できます。	
5 フィールドセンサー機能を使う	P.567
フィールドセンサーやGPS機能をお使いになるときにお読みください。	
6 カメラを外部機器と接続する	P.581
無線LANやケーブルでモニターやパソコンなどと接続します。	
7 資料	P.631
エラーコードや初期設定の一覧表などの情報です。	
8 安全にお使いいただくために	P.663
製品のご使用に関する注意です。必ずお読みください。	
9 索引	P.671
10 ファームアップによる追加・変更	P.679

もくじ



本製品の説明書について.....	2
機能目次.....	16
各部の名称.....	20
カメラと付属品を確認する.....	24
はじめにご確認ください.....	25
1 準備する	27
ストラップを取り付ける.....	28
ケーブルプロテクターを取り付ける.....	29
アイカップを取り外す.....	30
電池を充電する／入れる.....	31
電池／充電器についてのご注意.....	33
海外での使用について	33
外部電源を使う	34
USB接続機器を使う	34
別売のACアダプターを使う	35
1-1 カードを入れる.....	36
カードを2枚使用するときは.....	37
カードについて.....	37
カードを初期化する(カードセットアップ).....	38
1-2 レンズを取り付ける.....	39
レンズを取り外す.....	40
MFクラッチを搭載したレンズについて.....	41
交換レンズについて	42
1-3 モニターを操作する.....	43
1-4 電源を入れる	44
カメラのスリープ動作について.....	44
1-5 初期設定をする.....	45
言語の表示がおかしい／設定した言語が表示されないときは.....	47
GPS自動日時補正について	48
1-6 ファインダーの視度を調整する.....	49

2	静止画の撮影と再生	51
2-1	基本操作	52
	撮影する	52
	カメラを構える	52
	シャッターボタンを使って撮影する	53
	タッチパネルを使って撮影する	54
	リモート撮影をする	55
	撮影した画像を再生する	56
	再生するカードを切り換える	57
	音量を調節する	58
	タッチパネルを使って見る	58
2-2	撮影機能を設定する方法	59
	ダイレクトボタンで設定する	60
	LVスーパーコンパネ/スーパーコンパネで設定する	62
	メニューで設定する	66
	LVコントロール(ライブコントロール)で設定する	68
2-3	カードについての設定	71
	記録するカードを設定する(☑記録設定)	72
	記録するカードを指定する(☑記録スロット)	74
	記録するカードを切り換える	75
	撮影した画像を記録するフォルダを指定する(記録フォルダ指定)	76
2-4	画像の記録	78
	静止画撮影で記録する画像サイズを選択する(☑画質モード)	78
	画像サイズや圧縮率の組み合わせを設定する(画質設定)	81
	[M]や[S]の画像サイズの設定を変更する(ピクセルサイズ)	82
2-5	ファインダーとモニターの表示	83
	表示を切り換える	83
	画面の情報表示を選ぶ	84
	モニター/ファインダーの自動切り換えの設定を変更する (EVF自動切換設定)	85
	撮影時の情報表示	86
	ファインダー表示を自然な表示にする(OVFシミュレーション)	89
2-6	撮影直後に画像を表示する時間を設定する(撮影確認)	90
2-7	カメラの設定を初期状態に戻す(リセット)	91
2-8	撮影モードを選択する	93
	絞り値とシャッター速度を自動で設定して撮影する (P プログラムAE撮影)	94
	Pモード時の設定操作について	95
	プログラムシフトについて	95
	絞りを決めて撮影する(A 絞り優先AE撮影)	96
	Aモード時の設定操作について	97

シャッター速度を決めて撮影する (S シャッター優先AE撮影)	98
S モード時の設定操作について	100
絞りとシャッター速度を自分で決めて撮影する	
(M マニュアル撮影)	101
M モード時の設定操作について	102
M モード時の露出補正について	103
バルブ/タイム撮影を行う (B 長秒時撮影)	104
ピントを操作しながら撮影する (BULB/TIME中MF)	107
比較明合成撮影を行う (B ライブコンポジット撮影)	108
コンポジット撮影時のシャッター速度を設定する	
(コンポジット撮影設定)	110
任意の設定をモードダイヤルに登録する	
(C1/C2/C3/C4 カスタムモード)	111
残しておきたい設定内容を登録する (カスタム登録)	111
カスタムモードを使う (C1/C2/C3/C4)	112
2-9 ピント合わせの機能	114
ピント合わせの方法を設定する (AF方式)	115
ピント合わせの範囲を選ぶ (AFターゲットモード)	120
ピント合わせの位置を自分で決める (AFターゲット位置)	123
AFターゲットをカスタマイズする (AFターゲットモード設定)	125
レンズのMFクラッチ (マニュアルフォーカスクラッチ)	127
MFクラッチを無効にする (MFクラッチ)	128
あらかじめ決めた距離にピントを合わせる (プリセットMF)	129
顔優先AF / 瞳優先AFを使う	133
顔優先AF / 瞳優先AFを使って撮影する	135
拡大枠AF / 拡大AFを使う (スーパースポットAF)	136
[Q] (拡大)の機能をボタンに割り当てる	136
[Q] (拡大)の機能を使う	137
拡大表示中の動作を設定する (LV拡大設定)	139
AEL/AFLボタンを使ってピント合わせや測光を行う	
(AEL/AFLモード)	141
ピント合わせのときのレンズの動作範囲を設定する	
(AFリミッター)	143
C-AF動作時のピント合わせの感度を設定する	
(C-AF追従感度)	145
C-AF動作時のレンズのスキャン動作を設定する (AFスキャン)	146
C-AF動作時のピント合わせ開始位置を設定する	
(C-AF中央スタート)	147
C-AF動作時に中央優先でピント合わせをする	
(C-AF中央優先)	148

特定の被写体を追尾してピント合わせをする (追尾被写体設定)	149
2-10 ドライブの機能 (/())	151
連写する／セルフタイマーを使う	151
連写時の速度や枚数の上限を設定する(L設定／H設定)	155
セルフタイマーの待ち時間や枚数を設定する (カスタムセルフタイマー)	157
シャッター動作時の振動を防いで撮影する(低振動()撮影)	160
低振動撮影機能を設定する	160
電子シャッターを使って撮影する(静音()撮影)	163
静音撮影時のノイズを低減する(静音()長秒時ノイズ低減)	166
静音撮影時の動作を設定する(静音()撮影時動作)	167
レリーズタイムラグを防いで撮影する(プロキャプチャー撮影)	168
一定時間ごとに自動的に撮影する(インターバル撮影設定)	172
連写中の手ぶれ補正の動作を設定する(連写中手ぶれ補正)	174
ファインダー撮影時の表示速度を設定する(フレームレート)	175
2-11 手ぶれ補正の機能	176
手ぶれを抑えて撮影する(手ぶれ補正)	176
シャッターボタン半押し中の手ぶれ補正動作を設定する (半押し中手ぶれ補正)	178
2-12 測光・露出の機能	179
画像の明るさを変えて撮影する(露出補正)	180
感度を変更する(ISO感度)	181
[ISO感度] を [AUTO] にしたときの動作条件を設定する (ISOオート設定)	183
[ISO感度] の [AUTO] が動作する露出モードを設定する (ISOオート有効)	185
明るさを測る方法を選ぶ(測光)	186
露出を固定する(AEロック)	188
蛍光灯による明るさのちらつきを抑えて撮影する (フリッカー低減)	190
撮影時の画面表示のちらつきを抑える(フリッカーレスLV)	190
シャッターが切れるタイミングを設定する (フリッカーレス撮影)	191
LED照明による明るさのちらつきを抑えて撮影する (フリッカーレスキャン)	193
ハイダイナミックレンジ撮影をする(HDR撮影)	195
明るい環境下でスローシャッター撮影をする(ライブND撮影)	197
露出設定を表示画面に反映する(LVプースト)	200

2-13 色・画質の機能	202
画像の色合いを調整する(☑WBモード)	202
WBオート設定で電球の色合いを残して撮影する (☑WBオート 電球色残し)	205
ホワイトバランスを微調整する(☑ホワイトバランス補正)	206
任意のホワイトバランスを設定する (ワンタッチホワイトバランス ///)	207
より解像度の高い静止画を撮影する(ハイレゾショット)	210
ハイレゾショット撮影の画質を設定する(☑画質モード)	213
画像の仕上がりを設定する(ピクチャーモード)	215
ピクチャーモードを設定する	217
任意のピクチャーモードを登録する (☑カスタムピクチャーモード)	219
鮮鋭さを微調整する(シャープネス)	220
明暗の差を微調整する(コントラスト)	221
色の鮮やかさを微調整する(彩度)	222
階調を微調整する(階調)	223
モノトーンにフィルター効果をつける(フィルター効果)	224
モノトーンの調色をする(調色)	225
i-Finishの効果を調整する(効果)	226
ハイライト部/シャドウ部の明るさを変えて撮影する (ハイライト&シャドウコントロール)	227
画面全体の色味を調整する(カラークリエイター)	229
特定の色だけを残す(パートカラー)	231
色の再現方式を設定する(カラー設定)	232
2-14 特殊撮影の機能	233
アスペクト比を設定する(アスペクト比設定)	233
被写体を拡大して記録する(デジタルテレコン)	235
条件を少しずつ変化させて撮影する(ブラケット撮影)	236
被写界深度の深い写真を撮影する(深度合成)	243
複数の画像を重ね合わせて撮影する(多重露出撮影)	246
台形補正をする/遠近感を強調する(デジタルシフト撮影)	248
フィッシュアイレンズ使用時の画像の歪みを補正する (フィッシュアイ補正撮影)	250
2-15 フラッシュを使う	252
専用外部フラッシュについて	252
発光モードを設定する(フラッシュ)	254
フラッシュの発光量を調節する(フラッシュ発光量補正)	259
フラッシュ使用時のシャッター速度の上限を設定する (同調速度)	260

フラッシュ使用時のシャッター速度の下限を設定する ( 低速制限)	261
ワイヤレスRCフラッシュ撮影	262
市販のフラッシュについて	264
2-16 記録した画像を操作する機能	265
画像の情報表示を選ぶ	265
画像再生時の情報表示	266
画像を拡大して見る(クローズアップ再生)	267
画像をすばやく探す(インデックス再生/カレンダー再生)	268
画像を回転する(回転)	269
画像を保護する(プロテクト)	270
全てのプロテクトを解除する(全プロテクト解除)	271
カード間で画像をコピーする(1コマコピー)	272
全ての画像をコピーする(全コマコピー)	274
画像を消去する(1コマ消去)	275
撮影した画像を一度に全コマ消去する(全コマ消去)	276
画像の転送予約をする(シェア予約)	277
全ての転送予約を解除する(全シェア予約解除)	278
複数の画像を一括で処理する(プロテクト/選択コマコピー/ 選択コマ消去/選択コマシェア予約)	279
記録した画像に音声をつける(録音)	281
縦位置で撮影した画像を自動で回転表示する(回転再生)	283
撮影した画像を加工する(編集)	284
RAW画像を編集する(RAW編集)	284
JPEG画像を加工する(JPEG編集)	287
画像を合成する(画像合成)	289
画像の印刷指定をする(プリント予約—DPOF)	291
3 ムービーの撮影と再生	293
3-1 基本操作	294
ムービー撮影について	294
撮影する	295
カメラを構える	295
タッチパネルを使って撮影する	295
リモート撮影をする	297
タッチパネルの設定をする	298
ピントを合わせる被写体を確認する()	298
ファインダーを使って撮影する	299
撮影したムービーを再生する	300
再生時の音声を調節する	301
4GBを超えるサイズのムービーを再生する	301

	再生するカードを切り換える	302
	タッチパネルを使って見る	303
3-2	機能を設定する方法	304
	ダイレクトボタンで設定する	305
	タッチ操作で設定する(静音操作)	306
	LVスーパーコンパネで設定する	309
	LVコントロール(ライブコントロール)で設定する	312
	メニューで設定する	314
3-3	カードについての設定	316
	記録先を指定する(記録スロット)	316
	記録するカードを切り換える	318
	撮影した画像を記録するフォルダを指定する(記録フォルダ指定)	319
3-4	ムービーの記録	321
	ムービーの画質を設定する(画質モード)	321
	記録するタイムコードを設定する(タイムコード設定)	324
3-5	ファインダーとモニターの表示	326
	画面の情報表示を選ぶ	327
	モニター/ファインダーの自動切り換えを設定する (EVF自動切換え設定)	328
	撮影時の情報表示	329
	カメラの機能設定を初期状態に戻す(リセット)	331
3-6	撮影の方法を選ぶ	332
	静止画撮影の効果を使って撮影する (モード(ムービー露出モード))	332
	絞り値とシャッター速度を自動で設定して撮影する (P プログラムAE撮影)	334
	絞りを決めて撮影する(A 絞り優先AE撮影)	335
	シャッター速度を決めて撮影する (S シャッター優先AE撮影)	336
	絞り値とシャッター速度を自分で決めて撮影する (M マニュアル撮影)	337
	ハイスピードムービーを撮影する(画質モード)	339
	スローモーション/クイックモーション撮影をする (スロー/クイック撮影)	342
3-7	ピント合わせの機能(AF/MF)	345
	ピント合わせの方法を設定する(AF方式)	345
	ピント合わせの範囲を選ぶ(AFターゲットモード)	349
	ピント合わせの位置を自分で決める(AFターゲット位置)	352
	レンズのMFクラッチ(マニュアルフォーカスクラッチ)	355
	MFクラッチを無効にする(MFクラッチ)	356

あらかじめ決めた距離にピントを合わせる(プリセットMF)	357
顔優先AFを使う	360
顔優先AFを使って撮影する.....	361
C-AF動作時のピント合わせの感度を設定する (☞C-AF追従感度)	362
C-AF動作時のピント合わせの速さを設定する (☞C-AF動作速度)	363
拡大枠AF / 拡大AFを使う	364
3-8 測光・露出の機能.....	367
画像の明るさを変えて撮影する(露出補正)	367
感度を変更する(☞ISO感度)	369
明るさに合わせて自動的に感度を変える(☞MISOオート設定)	372
露出を固定する(AEロック)	373
LED照明による明るさのちらつきを抑えて撮影する (☞フリッカースキャン).....	374
3-9 手ぶれ・色・画質の機能	376
手ぶれを抑えて撮影する(☞手ぶれ補正)	376
手ぶれ補正の効きを調整する(☞手ぶれ補正強度)	378
高感度撮影時の画像ノイズを抑える(☞高感度ノイズ低減).....	379
画像の色合いを調整する(☞WBモード)	380
[WBオート]設定で電球の色合いを残して撮影する (☞WBオート 電球色残し)	383
ホワイトバランスを微調整する(☞ホワイトバランス補正).....	384
ホワイトバランスを一律に微調整する(☞全WBモード補正)	385
任意のホワイトバランスを設定する (ワンタッチホワイトバランス ☞1/☞2/☞3/☞4)	386
画像の仕上がりを設定する(ピクチャーモード)	388
ピクチャーモードを設定する.....	390
任意のピクチャーモードを登録する (☑カスタムピクチャーモード)	392
カラーグレーディングに適した画質に設定する (☞ピクチャーモード)	393
[☞ピクチャーモード]時のモニター表示を設定する (☞ピュアシスト).....	395
鮮鋭さを微調整する(シャープネス)	396
明暗の差を微調整する(コントラスト)	397
色の鮮やかさを微調整する(彩度)	398
階調を微調整する(階調).....	399
モノトーンにフィルター効果をつける(フィルター効果).....	400
モノトーンの調色をする(調色)	401
i-Finishの効果を調整する(効果)	402

ハイライト部／シャドウ部の明るさを変えて撮影する (ハイライト&シャドウコントロール)	403
画面全体の色味を調整する(カラークリエイター)	405
特定の色だけを残す(パートカラー)	407
3-10 効果をつける機能	408
電動ズームレンズを使って撮影する(☞電動ズーム速度)	408
撮影しながら被写体を拡大して撮影する(ムービーテレコン)	409
被写体を拡大して記録する(デジタルテレコン)	411
3-11 録音の機能	412
録音の設定をする(ムービー録音)	413
オリンパス製ICレコーダー使ってムービー音声を録音する	415
3-12 ボタンやダイヤルの機能を変える	417
ボタン機能を変える(☞ボタン機能)	417
シャッターボタンの機能を変える(☞シャッターボタン機能)	423
フロント／リアダイヤルの機能を変える(☞ダイヤル機能)	424
Fnレバーの機能を変える(☞Fnレバー機能)	426
3-13 画面表示の内容を変える	428
機能設定パネルの表示設定をする(☞Control表示)	428
機能設定アイコンの表示内容を変える(☞Info表示)	429
電池残量の表示を変える(☞残量表示)	431
3-14 HDMI機器を接続して撮影する	432
HDMI機器への出力設定をする(☞HDMI出力)	432
外部モニターへの出力設定をする(HDMI)	434
3-15 記録したムービーを操作する機能	436
画像の情報表示を選ぶ	436
ムービー再生時の情報表示	437
ムービーをすばやく探す(インデックス再生／カレンダー再生)	438
ムービーを保護する(プロテクト)	439
全てのプロテクトを解除する(全プロテクト解除)	440
カード間で画像をコピーする(1コマコピー)	441
全ての画像をコピーする(全コマコピー)	443
画像を消去する(1コマ消去)	444
撮影した画像を一度に全コマ消去する(全コマ消去)	445
ムービーの転送予約をする(シェア予約)	446
全ての転送予約を解除する(全シェア予約解除)	447
複数の画像を一括で処理する(プロテクト／選択コマコピー／ 選択コマ消去／選択コマシェア予約)	448
撮影したムービーを加工する(ムービー編集)	450
ムービーをトリミングする(トリミング)	450
ムービーから静止画を作る(静止画切り出し)	451

4	カメラをカスタマイズする	453
4-1	カメラの基本的な機能を設定する(↑セットアップメニュー)	454
	カードを初期化する/カードの画像・ムービーを全て消去する (カードセットアップ).....	454
	日付・時刻を設定する(日時設定)	455
	カメラで表示する言語を設定する(🗨️ 言語切り換え)	455
	モニターの色合い・明るさを調整する(モニター調整).....	456
	撮影直後に画像を表示する時間を設定する(撮影確認).....	456
	無線LAN接続のための設定をする(Wi-Fi/Bluetooth設定)	457
	ファームウェアのバージョンを確認する(バージョン).....	457
4-2	モードダイヤルのカスタマイズ.....	458
	任意の設定をモードダイヤルに登録する(カスタム登録).....	458
	カスタムモードを使う(C1/C2/C3/C4)	460
4-3	ボタン/ダイヤルのカスタマイズ.....	462
	ボタンの機能を変更する(📷ボタン機能)	463
	マルチファンクションボタンを設定する(マルチFn)	470
	フロント/リアダイヤルの機能を変える(📷ダイヤル機能)	473
	Fn レバーの機能を変える(📷Fnレバー機能)	475
4-4	メニューのカスタマイズ	477
	自分用のメニューを用意する(マイメニュー)	477
4-5	各機能をカスタマイズする	480
	ピント合わせに関する機能(カスタムメニュー A1/A2/A3/A4)	480
	操作部のカスタマイズの機能(カスタムメニュー B1/B2)	498
	リリース・連写設定のカスタマイズ機能 (カスタムメニュー C1/C2)	505
	表示・音・接続に関する機能(カスタムメニュー D1/D2/D3/D4)	513
	露出動作に関する機能(カスタムメニュー E1/E2/E3)	530
	フラッシュに関する機能(カスタムメニュー F).....	539
	画質・WB・色に関する機能(カスタムメニュー G)	542
	記録・消去に関する機能(カスタムメニュー H1/H2)	547
	ファインダーに関する機能(カスタムメニュー I).....	553
	その他のカスタマイズ機能(カスタムメニュー J1/J2/J3)	558
5	フィールドセンサー機能を使う	567
5-1	フィールドセンサー機能を使ってできることとご注意	568
	GPS機能をお使いのときのご注意.....	568
	GPS機能を使う前に(GPSアシストデータ)	569
	スマートフォンを使ってGPSアシストデータを更新する.....	569
	パソコンを使ってGPSアシストデータを更新する	569
5-2	フィールドセンサー機能を使う	570
	撮影時に画像に位置情報を付ける(GPS位置情報記録)	570

行動をログで記録する	571
ログを取得する／記録する(フィールドセンサーログ)	571
センサー情報を表示する(☒/Info表示設定)	574
センサー情報表示の設定をする	575
センサー情報の表示を設定する(標高/温度設定)	578
GPSの動作の仕方を設定する(GPS動作モード)	579
5-3 GPS機能を停止する	580
6 カメラを外部機器と接続する	581
6-1 接続によってできることとソフトウェアについて	582
Wi-Fi、Bluetooth®機能をお使いのときのご注意	583
6-2 スマートフォンと接続する(Wi-Fi)	584
アプリのインストール	585
スマートフォンとの接続設定をする(Wi-Fi/Bluetooth設定)	586
接続の準備をする(Wi-Fi/Bluetooth)	586
カメラとスマートフォンで接続設定をする	587
電源オフ時の無線接続設定をする(バックグラウンド通信)	590
スマートフォンに画像を転送する	592
OI.Shareを使って転送する	592
シェア予約を使って自動転送する	594
シェア予約を解除する	595
スマートフォンからリモート撮影する	596
カメラに記録されたフィールドセンサーログ情報を使う	597
スマートフォン接続の終了と停止	598
接続中の通信を停止する	598
Wi-Fi/Bluetooth®機能を停止する	598
6-3 パソコンと接続する(Wi-Fi)	600
ソフトウェアのインストール	601
WindowsOSのパソコンで、Wi-Fiでパソコンと	
接続するための準備	602
接続するパソコンをカメラに登録する(新規ペアリング)	603
Wi-Fi接続の設定をする(☑Wi-Fi接続)	605
カメラのWi-Fi機能をオンにする(Wi-Fi/Bluetooth設定)	606
自動接続を使う(WPSで接続)	607
手動で接続する(手動で接続)	609
アクセスポイントを検索して接続する	
(アクセスポイント一覧から接続)	612
撮影しながらパソコンに画像を転送する	614
アクセスポイントとの接続を終了する	616
接続中の通信を停止する	616
Wi-Fi/Bluetooth®機能を停止する	617











6-4	設定を変更する	618
	パスワードを変更する(接続パスワード設定)	618
	Wi-Fi/Bluetooth®設定を初期化する (Wi-Fi/Bluetooth設定リセット)	619
6-5	パソコンと接続する(USB)	620
	接続できるパソコンについて	621
	ソフトウェアのインストール	621
	撮影しながらパソコンに画像を転送する(□▶コントロール)	622
	パソコンに画像を取り込んで保存する(ストレージ)	624
6-6	USB外部電源を使う(USB PD)	625
6-7	外部モニター(テレビ)と接続する(HDMI)	626
	カメラの画像やムービーをテレビで見る(HDMI)	627
	HDMIの出力信号を設定する	627
	カメラをテレビに接続する	629
	テレビのリモコンで操作する(HDMIコントロール)	630
7	資料	631
7-1	カメラのお手入れと保管	632
7-2	アフターサービス	634
7-3	こんなときは?	635
7-4	エラーコード	638
7-5	機能と初期設定一覧	641
	LVコントロール／LVスーパーコンパネ	641
	📷撮影メニュー	643
	🎞️動画メニュー	644
	▶再生メニュー	646
	⚙️セットアップメニュー	647
	★カスタムメニュー	648
7-6	画質設定と記録枚数／記録時間	655
7-7	仕様	657
7-8	システムチャート	660
8	安全にお使いいただくために	663
8-1	安全にお使いいただくために	664
8-2	使用上のご注意	667
8-3	その他のご注意	668
9	索引	671
10	ファームアップによる追加・変更	679




























機能を使った作品例 サポートマニュアル 機能活用ガイド

詳しくは当社ホームページの下記URLをご覧ください。

<http://cs.olympus-imaging.jp/jp/support/cs/webmanual/index.html>

機能目次

機能	ページ
撮影モード	93–110
カスタムモード	111, 460
モニターの表示	83, 326
ファインダーの表示	83, 326
ダイレクトボタンの機能	60, 305
LVコントロールの機能	68, 312
LVスーパーコンパネの機能	62, 309
 撮影メニュー 1	
リセット/カスタム設定	91, 111, 331, 458, 460
ピクチャーモード	215, 388
 画質モード	78, 82, 213, 543
アスペクト比設定	233
デジタルテレコン	235, 411
 /  /  (ドライブ)	151
 撮影メニュー 2	
ブラケット撮影	236
HDR撮影	195
多重露出撮影	246
デジタルシフト撮影	248
低振動[◆]/静音[♥]撮影	160, 163
ハイレゾショット	210
ライブND撮影	197
 動画メニュー	
 モード設定	
 モード	332
 フリッカースキャン	374




機能	ページ
 画質設定	
 画質モード	321, 339
 MISOオート設定	372
 高感度ノイズ低減	379
 WBモード	380
 全WBモード補正	385
 WBオート電球色残し	383
 ピクチャーモード	393
 AF/手ぶれ補正設定	
 AF方式	345
 C-AF動作速度	363
 C-AF追従感度	362
 手ぶれ補正	376
 手ぶれ補正強度	378
 ボタン/ダイヤル/レバー	
 ボタン機能	417
 ダイヤル機能	424
 Fnレバー機能	426
 シャッターボタン機能	423
 電動ズーム速度	408
 表示設定	
 Control表示	428
 Info表示	429
タイムコード設定	324
 残量表示	431
 ビューアシスト	395
 ムービー録音	413
 HDMI出力	432

機能	
▶ 再生メニュー	
回転再生	283
編集	284
プリント予約	291
全プロテクト解除	271, 440
全シェア予約解除	278, 447
全コマコピー	274, 443
(Wi-Fi) Wi-Fi接続	586
★ カスタムメニュー	
A1 AF/MF	
📷 AF方式	115
📷 AF+MF	481
📷 AEL/AFLモード	141
AFスキャン	146, 482
📷 C-AF追従感度	145, 483
📷 C-AF中央スタート	147, 483
📷 C-AF中央優先	148, 484
A2 AF/MF	
📷 [::]Mode表示設定	485
AFターゲット表示	486
AFターゲットパッド	486
[::]Home登録	487
[::]選択画面設定	488
[::]ターゲットモード設定	125, 488
📷 [::]縦位置/横位置切換	489
A3 AF/MF	
AFリミッター	143, 490
AFイルミネーター	490
☉顔優先	133, 360, 491
📷 追尾被写体設定	149, 491
AF微調節	492

機能	
A4 AF/MF	
プリセットMF距離	129, 357, 494
MFアシスト	495
MFクラッチ	128, 356, 496
フォーカスリング	496
BULB/TIME中MF	107, 497
レンズリセット	497
B1 ボタン/ダイヤル/レバー	
📷 ボタン機能	463
📷 中央ボタン機能	499
📷 方向キー機能	499
📷 ダイヤル機能	473, 500
ダイヤル方向	500
📷 Fnレバー機能	475, 501
Fnレバー /電源レバー	501
B2 ボタン/ダイヤル/レバー	
📷 電動ズーム速度	502
C-LOCK設定	503
C1 レリーズ/連写/手ぶれ補正	
レリーズ優先S	505
レリーズ優先C	505
📷 L設定	155, 506
📷 H設定	155, 507
フリッカー低減	190, 509
C2 レリーズ/連写/手ぶれ補正	
📷 手ぶれ補正	176, 510
連写中手ぶれ補正	174, 511
半押し中手ぶれ補正	178, 511
レンズ手ぶれ補正優先	512

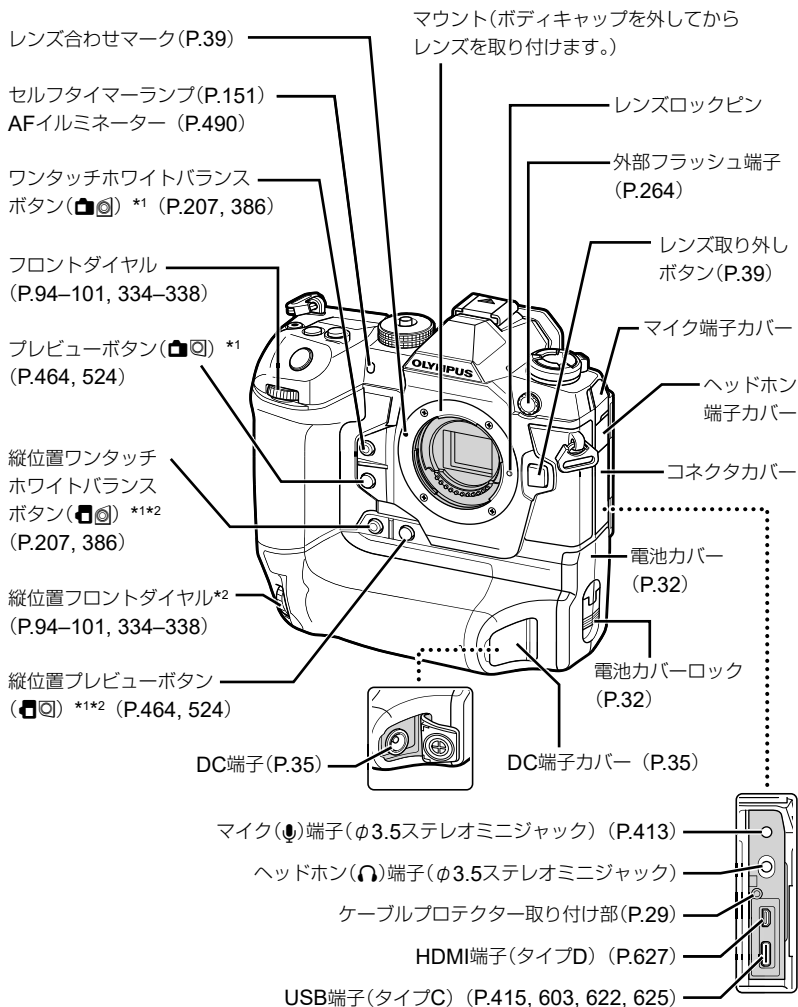
機能	
D1 表示/音/接続	
Control表示	513
/Info表示設定	515
ピクチャーモード表示	520
/表示設定	520
マルチFn表示設定	521
D2 表示/音/接続	
LVブースト	200, 521
アートLVモード	522
フレームレート	175, 522
LV拡大設定	139, 523
再生拡大倍率設定	523
プレビュー設定	524
D3 表示/音/接続	
ガイド線表示設定	524
ピーキング表示	525
ヒストグラム警告設定	526
モードガイド表示	526
自分撮りアシスト	527
D4 表示/音/接続	
電子音	527
HDMI	434, 528, 627
USB接続モード	529
E1 露出/ISO/BULB/測光	
露出ステップ	530
ISO感度ステップ	530
ISOオート設定	183, 531
ISOオート有効	185, 531
高感度ノイズ低減	532
低感度画像処理	532
長秒時ノイズ低減	533

機能	
E2 露出/ISO/BULB/測光	
BULB/TIMEリミッター	533
BULB/TIME輝度設定	534
ライブBULB設定	534
ライブTIME設定	535
コンボジット撮影設定	110, 535
フリッカーキャン	536
E3 露出/ISO/BULB/測光	
測光	186, 536
AEL測光モード	537
[::]連動スポット測光	537
露出基準調整	538
F フラッシュ	
同調速度	260, 539
低速制限	261, 539
+ 連動	540
+WB連動	540
RCモード撮影	541
G 画質/WB/色	
画質設定	81, 542
ピクセルサイズ	82, 543
シェーディング補正	543
WBモード	544
全WBモード補正	545
WBオート電球色残し	205
カラー設定	232

機能	
H1 記録/消去	
カードスロット設定	547
ファイルネーム	548
ファイルネーム編集	548
dpi設定	549
著作権情報	549
レンズ情報登録	550
H2 記録/消去	
ワンタッチ消去	551
RAW+JPEG消去	551
実行優先設定	552
I EVF	
EVF自動切換設定	85, 328, 553
EVF調整	553
EVF表示スタイル	554
 Info表示設定	555
EVFガイド線表示設定	556
 半押し中水準器表示	556
OVFシミュレーション	89, 557
J1 その他	
ピクセルマッピング	558, 633
ボタン長押し時間調整	558
水準器調整	559
タッチパネル設定	559
メニューカーソル保持	560
フィッシュアイ補正撮影	250, 560

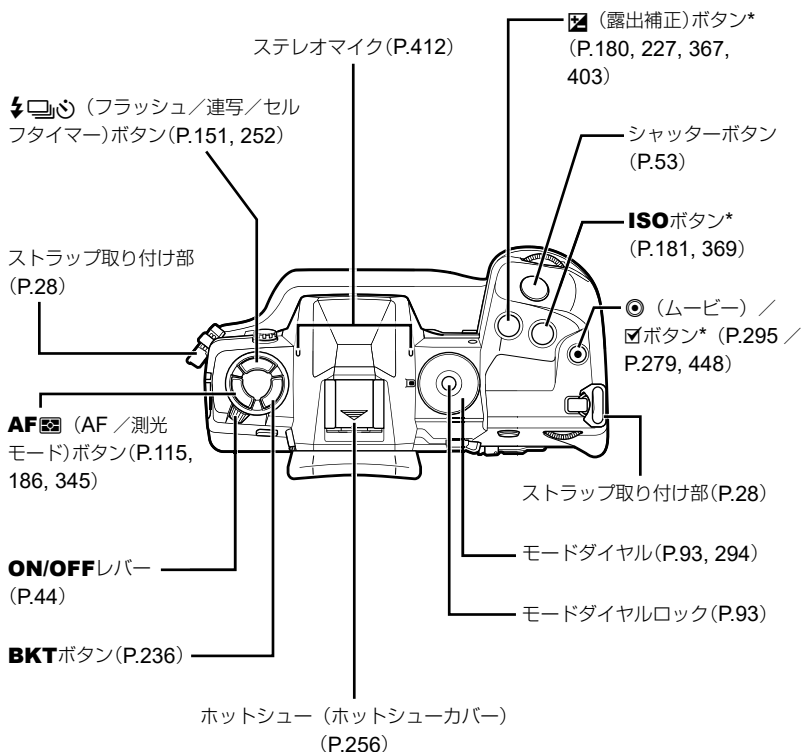
機能	
J2 その他	
電池設定	561
バックライト時間	561
スリープ時間	562
自動電源Off	562
低消費電力撮影	563
J3 その他	
GPS位置情報記録	570
GPS動作モード	564, 579
標高/温度設定	565, 578
フィールドセンサーログ	565, 571
認証マーク表示	566
Y セットアップメニュー	
カードセットアップ	38, 276, 445, 454
日時設定	455
 (言語設定)	455
モニター調整	456
撮影確認	90, 456
Wi-Fi/Bluetooth設定	457, 586, 607
バージョン	457
マイメニュー	477

各部の名称



*1 ボタンに割り当てられている機能を変更できます。📷 「ボタンに機能を割り当てる (📷 ボタン機能)」 (P.463)、「ボタン機能を変える (📷 ボタン機能)」 (P.417)

*2 縦位置で撮影するときには使用します。正位置のボタンやダイヤルなどと同じ機能が割り当てられています。



* ボタンに割り当てられている機能を変更できます。📷「ボタンに機能を割り当てる(📷ボタン機能)」(P.463)、「ボタン機能を変える(📷ボタン機能)」(P.417)

AEL/AFL / **On** (プロテクト) ボタン*1
(P.141, 188, 373 / P.270, 439)

Fnレバー (P.94–102,
334–338, 426, 475)

Fn ボタン*1 (P.417, 463)

ロックレバー (P.503)

WB (ホワイトバランス) /
☞ (シェア予約) ボタン*1
(P.202, 380 / P.277, 446)

CARD (カードセレクト)
ボタン(P.75, 318)

☒ (消去) ボタン
(P.275, 444)

MENU ボタン
(P.66, 314)

▶ (再生) ボタン(P.56, 300)

縦位置マルチセレクター (☉ / ☎) *2*4
(P.120, 123, 137, 349, 352, 410)

縦位置**AEL/AFL** /
On (プロテクト) ボタン*1*2
(P.141, 188, 373 / P.270, 439)

縦位置リアダイヤル*2
(P.94–101, 334–338)

リアダイヤル(P.94–101,
334–338)

マルチセレクター (☉ / ☎) *4
(P.120, 123, 137, 349,
352, 410)

INFO ボタン
(P.84, 265, 436)

カードアクセス
ランプ

十字ボタン(△▽◀▶) *3
(P.56, 300)

OK ボタン(P.56, 62, 66, 300)

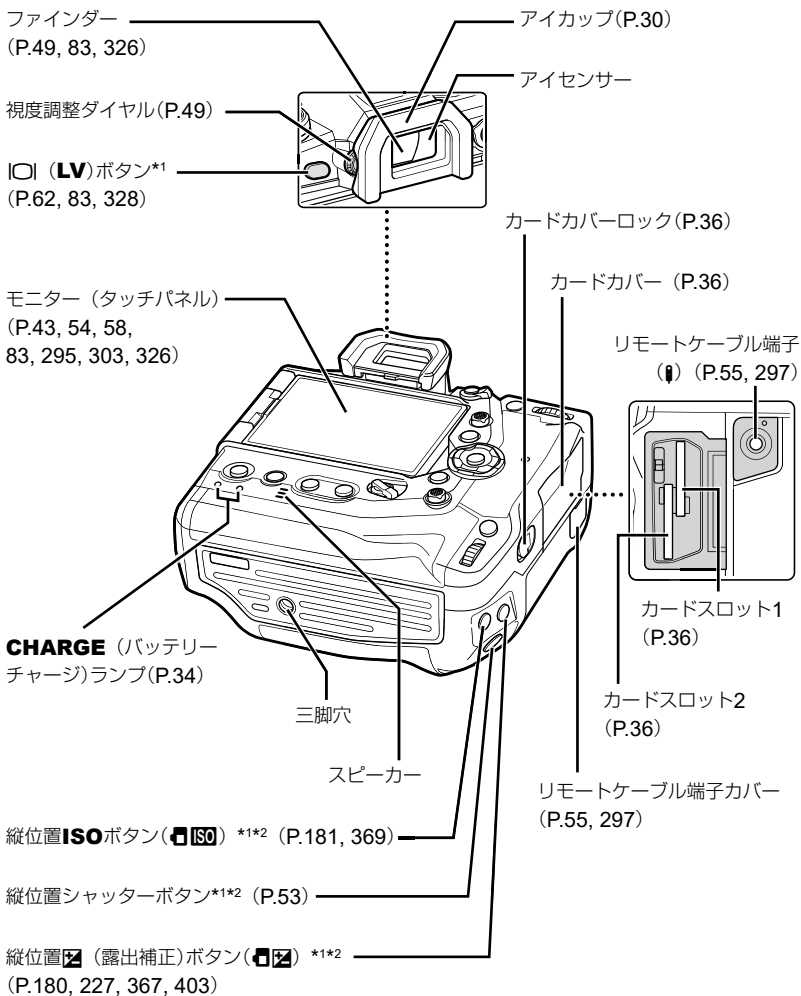
*1 ボタンに割り当てられている機能を変更できます。☞ 「ボタンに機能を割り当てる(☎ ボタン機能)」(P.463)、「ボタン機能を変える(☒ ボタン機能)」(P.417)

*2 縦位置で撮影するとき 사용됩니다。正位置のボタンやダイヤルなどと同じ機能が割り当てられています。

*3 十字ボタンの▶および▽に割り当てられている機能を変更できます。☞ 「ボタンに機能を割り当てる(☎ ボタン機能)」(P.463)、「ボタン機能を変える(☒ ボタン機能)」(P.417)

*4 マルチセレクターは2つの操作ができる構造になっています。

☎は、マルチセレクターに軽く指をあてて、目的の方向に倒して操作することを示しています。☉は、ボタンのように中央を押すことを示しています。

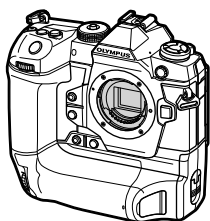


*1 ボタンに割り当てられている機能を変更できます。ISO「ボタンに機能を割り当てる (シャッターボタン機能)」(P.463)、「ボタン機能を変える (ISOボタン機能)」(P.417)

*2 縦位置で撮影するときには使用します。正位置のボタンやダイヤルなどと同じ機能が割り当てられています。

カメラと付属品を確認する

お買い上げの商品には、カメラ本体と以下の付属品が入っています。万一、不足していたり、破損していた場合には、お買い上げ販売店までご連絡ください。



カメラ本体



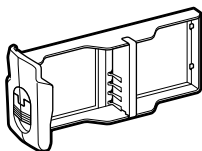
ボディキャップ*1



アイカップ
EP-17*1



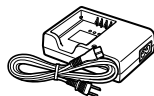
ホットシュー
カバー *1



バッテリー
カートリッジ*1



リチウムイオン電池
BLH-1*2



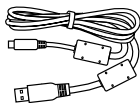
リチウムイオン充電器
BCH-1*2



ケーブルクリップ
CC-1



ケーブルプロテクター
CP-1



USBケーブル
CB-USB11



ストラップ



クイックガイド



取扱説明書(本書)

- 保証書

*1 ボディキャップ、アイカップ、ホットシューカバー、バッテリーカートリッジは、あらかじめカメラ本体に取り付けられています。

*2 充電電池、充電器はそれぞれ2つ付属しています。

はじめにご確認ください

「8 安全にお使いいただくために」をお読みください

誤った使い方をしたときに生じる人への危害や火災などの財産への損害を未然に防ぐために、製品をご使用になる前に「8 安全にお使いいただくために」(P.663)をよくお読みください。

カメラを操作しながらこの説明書をお読みいただき、安全に正しくお使いください。お読みになったあとも必ず保管してください。

このカメラを購入した国・地域以外での使用については、その国・地域の規則に違反する恐れがありますので、当社では一切の責任は負えません。

このカメラの無線LAN、Bluetooth®、GPS機能について

このカメラは、無線LAN、Bluetooth®、およびGPS機能を搭載しています。カメラを購入された地域以外での使用については、その国の電波管理規定に違反する恐れがありますので、あらかじめご確認ください。当社では一切の責任は負えません。

使用が禁止されている場所では、無線LAN、Bluetooth®、およびGPS機能を停止させてください。☞「5 フィールドセンサー機能を使う」(P.567)、「6 カメラを外部機器と接続する」(P.581)

電波法令により、W52、W53の帯域を利用した無線LAN機能の屋外での使用は禁止されています。屋内でのみご使用ください。

■ ユーザー登録について

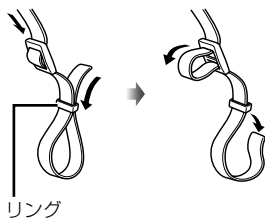
お買い求めいただいた製品のユーザー登録をお願いします。ユーザー登録の方法は、当社ホームページをご確認ください。

1 準備する

静止画用、ムービー用どちらのカメラとしてお使いになる方もお読みください。

ストラップを取り付ける

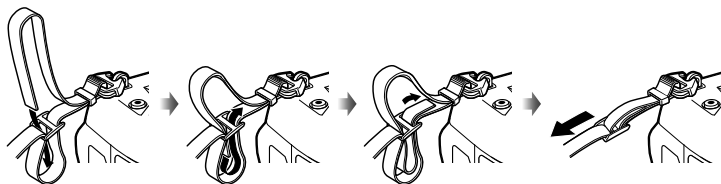
- 1 カメラに取り付けるために、一度リングから外してほどこきます。



- 2 ストラップの端をカメラのストラップ取り付け部に通してから、再度リングに通します。



- 3 ストラップの端を留め具に通して固定します。

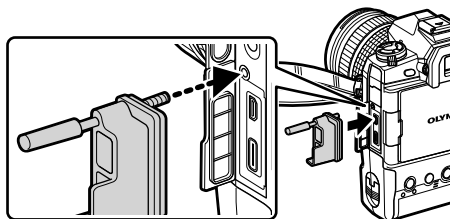


- 同様に逆側も取り付けます。
- 最後にストラップを少し強めに引っ張り、抜けないことを確認してください。

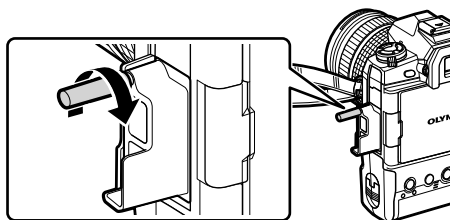
ケーブルプロテクターを取り付ける

USBケーブルやHDMIケーブルをカメラに接続して使用するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください。使用中のケーブルの抜けや端子の破損を防ぎます。

- 1 ケーブルプロテクターをカメラに取り付けます。

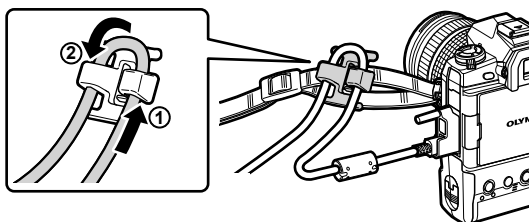


- 2 スクリューを回して固定します。



- 3 ケーブルクリップにケーブルをとめ、ストラップに取り付けます。

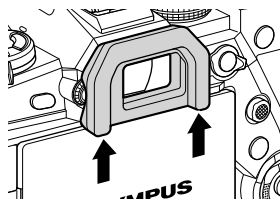
- ケーブルクリップはストラップ取り付け部にも取り付けられます。



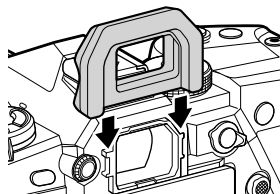
アイカップを取り外す

アイカップを取り外すときは、図のように外します。

- 1 矢印の部分を下から指で押し上げます。



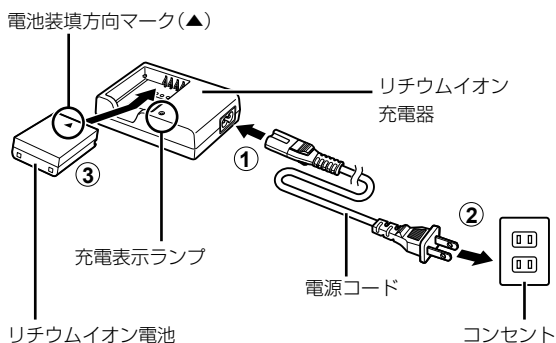
- 2 アイカップを取り付けるときは、レールの部分を合わせて真っ直ぐに押し込みます。



電池を充電する／入れる

電池は2個入れることができます。1個のみでの使用も可能です。

1 電池を充電します。

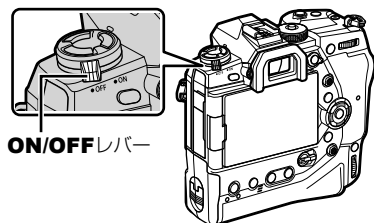


- 充電時間は約2時間です。充電表示ランプの状態と充電状況は以下の通りです。

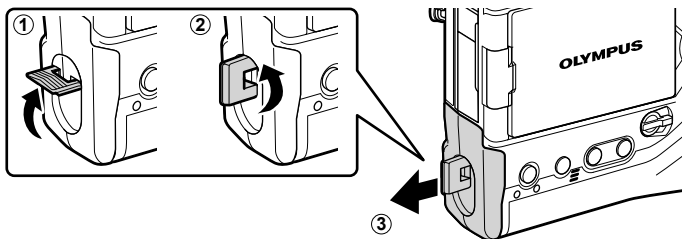
充電表示ランプの状態	充電状況	
橙点滅(1回/秒)	充電中	50%未満
橙点滅(2回/秒)		50%以上80%未満
橙点滅(3回/秒)		80%以上100%未満
緑点灯	充電完了	
緑点滅(5回/秒)	充電エラー	

- 充電が完了したら必ず充電器の電源プラグをコンセントから抜いてください。
- このカメラでは、外部機器とのUSB接続時や別売のACアダプター使用時に、電池をカメラに入れた状態で充電することができます。☑「USB機器を經由して充電する」(P.34)、「別売のACアダプターを使う」(P.35)、「6-6 USB外部電源を使う(USB PD)」(P.625)

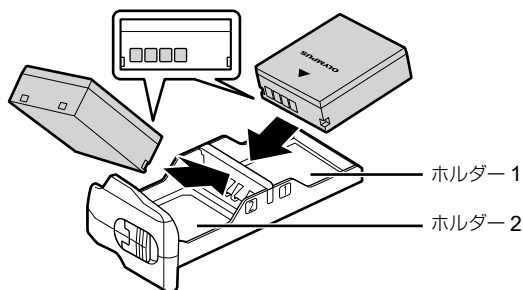
2 カメラの電源がオフになっていることを確認します。



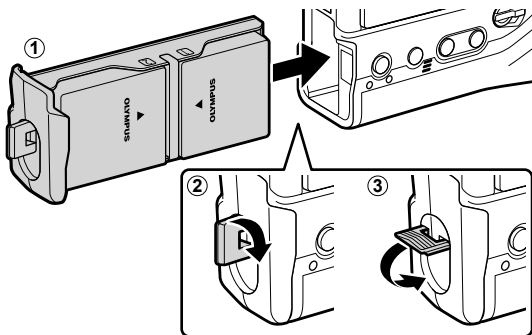
- 3 電池カバーロックを解除し、バッテリーカートリッジをカメラから引き抜きます。



- 4 バッテリーカートリッジに電池を入れます。



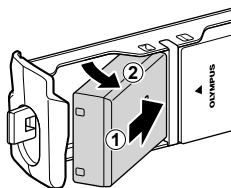
- 5 バッテリーカートリッジをカメラに差し込んで、電池カバーロックをロックします。



- 長時間の撮影には、電池の消耗に備えて予備の電池を用意されることをおすすめします。
- 「電池／充電器についてのご注意」も併せてお読みください(P.33)。
- カメラに電池を2個入れたときの、電池の使用順序の設定ができます。🔋【電池設定】(P.561)

■ 電池を取り出すときは

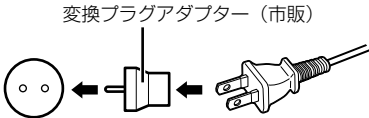
電池をカメラから取り出すときは、電池を端子方向に押し上げて引き抜きます。



電池／充電器についてのご注意

- 電池は、当社製リチウムイオン電池2個を使用します。当社純正の充電電池以外は使用できません。
- カメラの消費電力は、使用条件などにより大きく異なります。
- 以下の条件では、撮影をしなくても電力を多く消費するため、電池の消費が早くなります。
 - 撮影モードでシャッターボタンを半押しして、オートフォーカス動作を繰り返す。
 - 長時間、モニターで画像を表示する。
 - Wi-Fi/Bluetooth®機能やGPS機能が動作しているとき
 - パソコンとの接続時
- 消耗した電池をお使いのときは、電池残量警告が表示されずにカメラの電源が切れることがあります。
- ご購入の際、充電電池は十分に充電されていません。ご使用前に付属の充電器で充電を行ってください。
- 長期間(1ヶ月以上)カメラを使わない場合、カメラから電池を取り出して保管してください。長期間電池をカメラに入れたままにしておくと、電池の寿命が短くなったり、電池が使えなくなる可能性がありますのでご注意ください。
- 付属の充電器による充電電池の充電時間は、通常約2時間(目安)です。
- 付属の電池は専用の充電器以外は使用しないでください。また、付属の充電器は専用の電池以外に使用しないでください。
- 指定以外の電池を使用した場合、爆発(または破裂)の危険があります。
- 使用済み電池は取扱説明書の「8-2 使用上のご注意」(P.667)に従って廃棄してください。

海外での使用について

- 充電器は、世界中のほとんどの家庭用電源AC100～240V(50/60Hz)でご使用になれます。ただし、国や地域によっては、コンセントの形状が異なるため、変換プラグアダプター(市販)が必要になる場合があります。
 - イラストの変換プラグアダプター(市販)は一例です。詳しくは電気店や旅行代理店でご確認ください。
- 
- 市販の海外旅行用電子式変圧器(トラベルコンバーター)は、充電器が故障することがありますので使用しないでください。

外部電源を使う

USB接続機器を使う

USB-ACアダプターやパソコンなどのUSB機器とUSBケーブルで接続しているときは、カメラ本体内の電池を充電することができます。充電は、カメラの電源がオフのときのみ行われます。

また、USB PD規格に準拠したUSB機器から給電してカメラを使用することもできます。🔌 「6-6 USB外部電源を使う(USB PD)」(P.625)

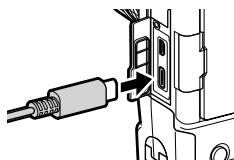
■ USB機器を経由して充電する

1 カメラの電源が切れていることを確認します。

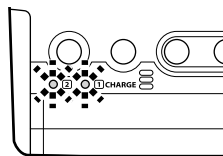


2 カメラと外部機器をUSBケーブルで接続します。

- カメラとUSBケーブルを接続するときは、端子の破損を防ぐために付属のケーブルプロテクターとケーブルクリップをご使用ください。🔌 「ケーブルプロテクターを取り付ける」(P.29)



- 本体内充電中は**CHARGE**ランプが点灯します。接続しているUSB機器の出力の仕様によって、充電の時間は変わります。充電が完了するとランプが消灯します。
- 装填されている電池が1個のときは、ホルダー 1、ホルダー 2のどちらに入っているとも充電します。



3 カメラの電源を入れると充電が終了します。

- カメラの電源がオンのときは、USB機器による充電はできません。
- CHARGE**ランプが点滅しているときは充電エラーです。USBケーブルを外して接続しなおしてください。
- 電池の温度が0°～40°のときに、USB機器による充電ができます。



- 外部機器とUSB接続した状態でACアダプターを使用するときは、ACアダプターからのみ電源供給が行われます。
- 充電が完了すると電源供給も終了します。再度充電するときは、USBケーブルを接続しなおしてください。
- カメラの電源がオフでも、スマートフォンとWi-Fi接続してデータを自動転送中のときは、充電できません。🔌 「電源オフ時の無線接続設定をする(バックグラウンド通信)」(P.590)

■ USB機器で給電してカメラを動作させる

モバイルバッテリーなどのUSB接続した機器から給電して、カメラを動作させることができます。以下の条件の機器が使用できます。

規格：USB PD規格準拠

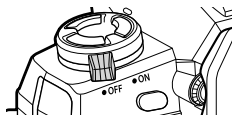
出力：9V 3A、15V 2A、15V 3A

詳しくは「6-6 USB外部電源を使う(USB PD)」(P.625)をお読みください。

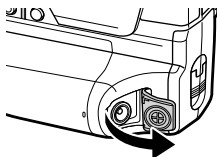
別売のACアダプターを使う

別売のACアダプター AC-5で、カメラ本体内の電池を充電することができます(本体充電)。また、ACアダプターから給電して、カメラを動作させることもできます。ACアダプター使用時は、電池が装填されてなくてもカメラは動作します。専用のACアダプター以外は使用しないでください。ACアダプター付属の電源コードは、他の製品に使用しないでください。

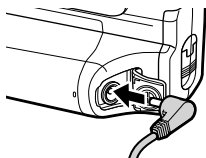
1 カメラの電源が切れていることを確認します。



2 DC端子カバーを開けます。



3 AC-5のDCプラグを、カメラのDC端子に差し込みます。



- カメラの電源がオフのときに充電されます。
- ACアダプターを接続しないときは、DC端子カバーをしっかりと閉じてください。
- 本体充電中は**CHARGE** (チャージ)ランプが点灯します。充電が完了するとランプが消灯します。
- 装填されている電池が1個のときは、ホルダー 1、ホルダー 2のどちらに入っている場合でも充電されます。
- 電池の温度が0° ~ 40° のときに、ACアダプターによる充電ができます。

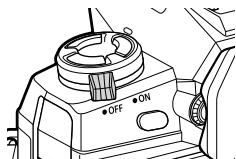


- カメラの電源がオフでも、スマートフォンとWi-Fi接続してデータを自動転送中のときは、充電できません。☞「電源オフ時の無線接続設定をする(バックグラウンド通信)」(P.590)

1-1 カードを入れる

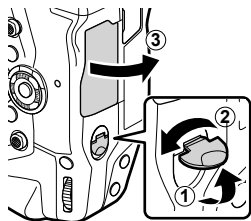
このカメラで使用できるカードは、SD規格に準拠したSD/SDHC/SDXCカード(市販)です。「カードについて」(P.37)をよく読んでからお使いください。

1 カメラの電源が切れていることを確認します。



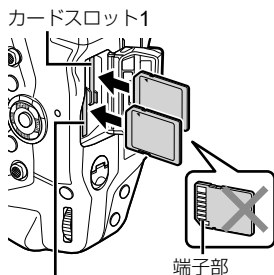
2 カードカバーロックを図のように回して(①)、
②)、カードカバーを開けます(③)。

- このカメラには2つのカードスロットが搭載されています。



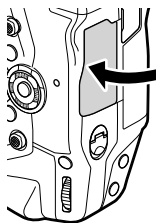
3 カードがロックされるまで差し込みます。

- カードの出し入れは電源を切ってから行ってください。
- 破損、変形したカードを無理に入れないでください。カードスロットを破損させる場合があります。



4 カードカバーを閉めます。

- カチッと音がするまでしっかりと閉めます。
- カメラをご使用の際は、必ずカードカバーを閉じてください。

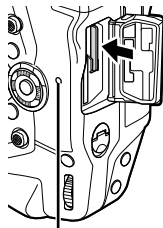


- カードの初回使用時は、必ずこのカメラで初期化してからお使いください(P.38)。

■ カードを取り出す

差し込まれているカードを押し込むと、カードが出てきます。
カードをつまんで取り出します。

- カードアクセスランプが点灯中、またはカード書き込み中のマーク (P.86, 88, 329, 330)が表示されている間は、絶対に電池やカードを抜かないでください。



カードアクセス
ランプ

カードを2枚使用するとき

2つのカードスロットにカードを入れて使用する場合は、目的に応じてそれぞれを使い分けることができます。☞ **【カードスロット設定】** (P.547)

- 指定したカードにのみ記録する
- 指定したカードに記録し、空き容量がなくなったら、もう1枚のカードに記録先を変更する
- それぞれのカードに、異なる画像サイズや圧縮率で記録する
- 2枚のカードに同じ画像を記録する

設定については、「2-3 カードについての設定」(P.71)をお読みください。

カードについて

本書では、記録メディアを「カード」と呼びます。このカメラで使用できるカードは、SD規格に準拠したSD/SDHC/SDXC（市販）です。最新情報は当社ホームページをご確認ください。



- ムービー撮影の場合は、SDスピードクラス10以上に対応したカードをご使用ください。
- 次の場合は、UHS-II またはUHS-I のUHSスピードクラス3以上をご使用ください。

☞ **【画質モード】**の画像サイズが**【4K】**または**【C4K】**のとき / **【画質モード】**のビットレートが**【A-I】** (All-Intra)のとき

☞ **【画質モード】** (P.321)

- 初期化や消去してもカード内のデータは完全には消去されません。廃棄する際は、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。
- SDカード本体は書き込み禁止スイッチを備えています。スイッチを「LOCK」側にしておくと、カードへの書き込みができなくなります。スイッチを戻すと書き込み可能になります。



新しく購入したカード、他のカメラで使用したカード、パソコンなどで他の用途で使用したカードは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。

初期化すると、プロテクトをかけた画像を含むすべてのデータは消去されます。すでに使用しているカードを初期化するときは、大切なデータが記録されていないことを確認してください。

カメラをはじめてお使いになる場合は、カメラの電源をオンにすると初期設定の画面が表示されますので、この操作は初期設定をしたあとに行ってください。☞「1-5 初期設定をする」(P.45)

1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。

- メニューの設定方法については、「メニューで設定する」(P.66)をお読みください。

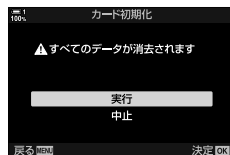
2 設定メニューで[カードセットアップ]を選択して、OKボタンを押します。

- カードスロット1と2の両方にカードが入っている場合は、[カード選択]の画面が表示されます。カードスロットを選択して、OKボタンを押します。
- カードにデータが含まれている場合は、メニュー項目が表示されます。[カード初期化]を選択して、OKボタンを押します。



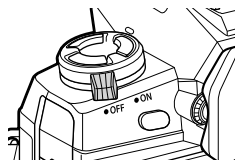
3 [実行]を選択して、OKボタンを押します。

- 初期化が実行されます。

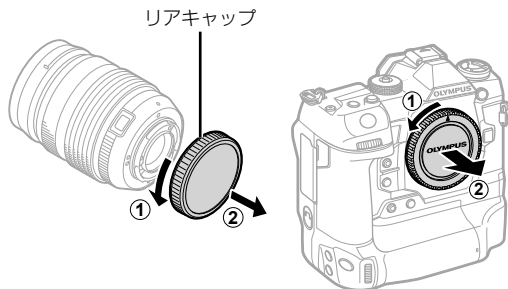


1-2 レンズを取り付ける

- 1 カメラの電源が切れていることを確認します。



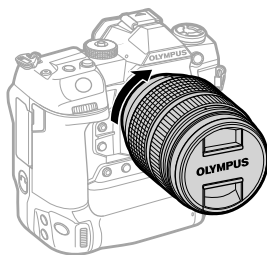
- 2 レンズのリアキャップ、カメラのボディキャップを外します。



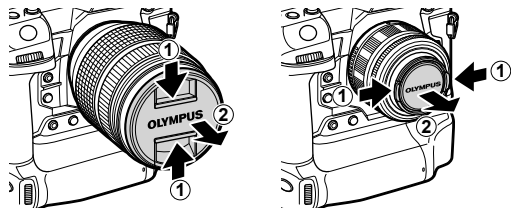
- 3 カメラのレンズ合わせマーク(赤印)にレンズの取り付け指標(赤印)を合わせ、レンズをボディに差し込みます。



- 4 レンズをカチッと音がするまで図の矢印の方向に回します。



5 レンズキャップを取り外します。

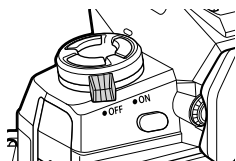


- レンズ装着時は、レンズ取り外しボタンは押さないでください。
- カメラ内部には触らないでください。

レンズを取り外す

1

1 カメラの電源が切れていることを確認します。



2 レンズ取り外しボタンを押しながら、矢印の方向に回します。

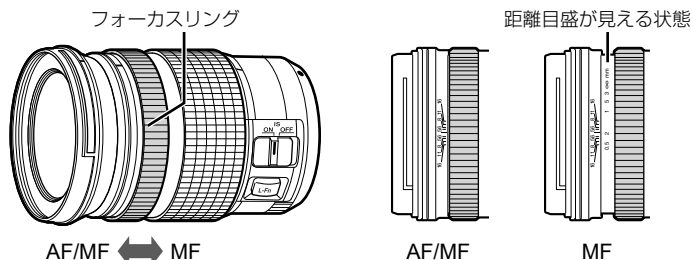
レンズ取り外しボタン



MFクラッチを搭載したレンズについて

MFクラッチ(マニュアルフォーカスクラッチ)機構を搭載したレンズでは、フォーカスリングの位置を変えることによって、オートフォーカスとマニュアルフォーカスを簡単に切り換えることができます。

- お使いになる前に、フォーカスリングの状態を確認してください。
- フォーカスリングをAF/MFの位置(レンズ先端側)にするとオートフォーカスになり、MFの位置(カメラボディ側)にするとカメラのAF方式の設定に関わらずマニュアルフォーカスになります。



- カメラのAF方式が[MF]または[PreMF]の場合は、フォーカスリングをAF/MFの位置に切り換えても、オートフォーカスでの撮影はできません。

交換レンズについて

M.ZUIKO DIGITALという商品名、または右のマークの付いている「マイクロフォーサーズシステム専用」の交換レンズが使えます。

また、フォーサーズシステムのレンズやOMシステムのレンズを使用することもできます。その場合は別売のアダプターが必要です。



- ボディキャップやレンズの着脱を行うときは、カメラ内部へのゴミや異物の侵入を防ぐため、レンズの装着部を下に向けて行ってください。
- ほこりの多い場所ではボディキャップの取り外しや、レンズの装着を行わないでください。
- カメラに取り付けられたレンズを、太陽に向けしないでください。太陽光が焦点を結んで故障や火災の原因になることがあります。
- ボディキャップ、リアキャップをなくさないようにご注意ください。
- カメラにレンズを取り付けていないときは、ほこりの侵入を防ぐためボディキャップを装着してください。

レンズとカメラの組み合わせ

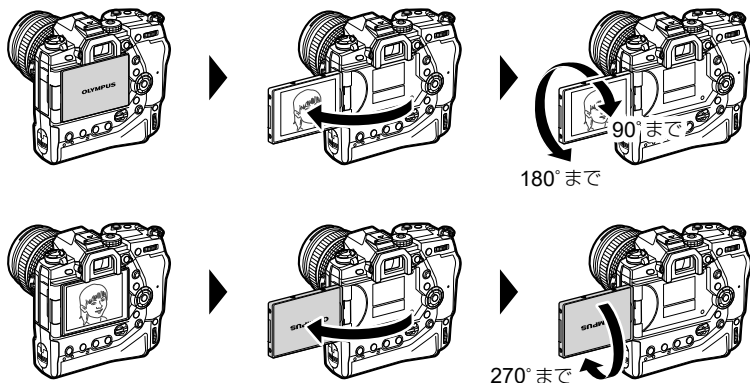
レンズ	カメラ	装着	AF	測光
マイクロフォーサーズマウント規格レンズ	マイクロフォーサーズマウント規格カメラ	可	可	可
フォーサーズマウント規格レンズ		マウントアダプター装着で可	可*1	可
OMシステムレンズ		不可	可*2	

*1 ムービー撮影中のAFは動作しません。

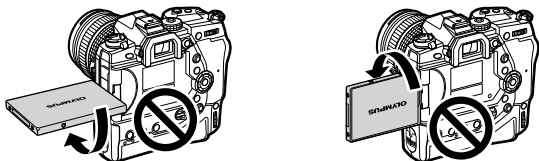
*2 正確な測光はできません。

1-3 モニターを操作する

モニターの画面を見えるように回転します。モニターは、撮影時の状況に合わせて向きと角度を変えることができます。



- モニターを回転させるときは、可動範囲内でゆっくりと回してください。次のように可動範囲を超えて、無理な力がかかると接続部の破損の原因となります。

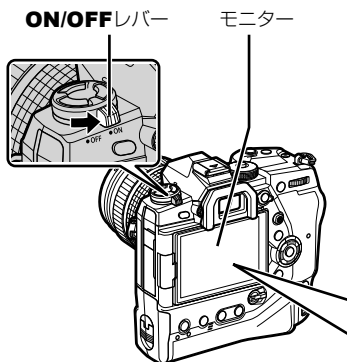


- モニターを自分撮り位置にすると、画面の左右を反転して表示したり、電動ズームレンズのズーム位置を自動的に広角側に移動します。📷 [自分撮りアシスト] (P.527)

1-4 電源を入れる

ON/OFFレバーを**ON**の位置に合わせます。

- 電源が入り、モニターが点灯します。
- 電源を切るにはレバーを**OFF**の位置に戻します。



電池残量表示

使用中のバッテリーホルダー番号と電池残量が表示されます。電池残量は10段階で表示されます。残量が約10%になると赤く点滅表示します。



- **[Wi-Fi/Bluetooth設定]**で**[バックグラウンド通信]**が**[On]**（有効）に設定されていると、電源オン動作で時間が掛かることがあります。☑️「電源オフ時の無線接続設定をする(バックグラウンド通信)」(P.590)

カメラのスリープ動作について

カメラを一定時間操作しないと、電池消費を抑えるためにカメラが自動的に待機状態になります。この状態をスリープモードといいます。

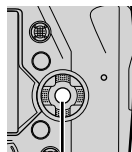
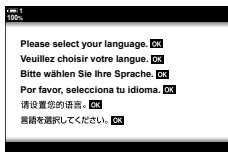
- スリープモードになるとモニターが消灯し、カメラは動作を停止します。シャッターボタンや▶ボタンなどを操作するとカメラは動作を再開します。
- スリープモードに入ってから操作を行わずにさらに一定時間経過すると、電源がオフになります。お使いになるときは、電源を入れなおしてください。
- **[Wi-Fi/Bluetooth設定]**で**[バックグラウンド通信]**が**[On]**（有効）に設定されていると、電源を入れなおしたときの動作に時間が掛かることがあります。☑️「電源オフ時の無線接続設定をする(バックグラウンド通信)」(P.590)
- スリープモードまでの時間と電源オフまでの時間は★カスタムメニューで変更できます。初期設定では、スリープモードまでの時間は1分、電源オフまでの時間は4時間です。☑️**[スリープ時間]** (P.562)、**[自動電源Off]** (P.562)

1-5 初期設定をする

はじめて電源を入れたときは、初期設定として言語と日時の設定を行います。

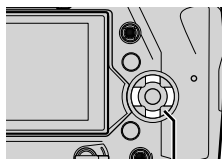
- 日時の情報は画像とともにカードに記録されます。
- ファイル名は日付の情報をもとに付けられます。お使いになる前に必ず正しい日時を設定してください。設定されていないと使用できない機能もあります。

- 1 初期設定画面(言語の設定を促す画面)が表示されたら、**OK**ボタンを押します。



OKボタン

- 2 十字ボタン(△▽◀▶)またはフロント／リアダイヤルで、設定したい言語にカーソルを移動します。



十字ボタン

- 言語を選択する画面は、2ページで構成されています。
△▽◀▶ボタンまたはフロント／リアダイヤルでカーソルを移動して、ページを切り換えられます。

カーソル



3 設定したい言語の位置にカーソルを移動させた状態で、OKボタンを押します。

- **OK**ボタンを押す前にシャッターボタンを押すと、言語が設定されないまま撮影待機状態になります。その場合、一度カメラの電源を切ってから入れなおすと初期設定画面が再度表示されますので、手順1から操作を行ってください。
- 言語の設定は、**Y**セットアップメニューであとから変更できます。🔍 **【言語】** (言語切り換え) (P.455)



4 日付／時刻／日付表示順序を設定します。

- **<>**ボタンで項目を選択します。
- **△▽**ボタンで内容を選択します。
- 日時の設定は、**Y**セットアップメニューであとから変更できます。🔍 **【日時設定】** (P.455)
- 設定をしたら**OK**ボタンを押します。



5 △▽ボタンで地域を選択し、OKボタンを押します。

- **INFO**ボタンでサマータイムの設定ができます。

6 **OK**ボタンを押して、設定を終了します。

- カメラから電池を取り出してしばらく放置すると、日時が初期状態にリセットされる場合があります。
- ムービーを撮影する場合は、必要に応じてあらかじめフレームレートを設定してください。🔍 **【画質モード】** (P.321)

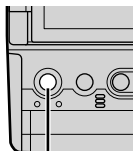


- **GPS**機能を使って、日時の自動補正をすることができます。🔍 「GPS自動日時補正について」 (P.48)

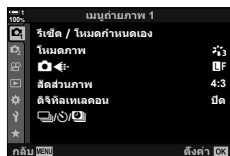
言語の表示がおかしい／設定した言語が表示されないときは

画面の表示が読めない文字になっていたり、意図しない言語が表示されたときは、言語設定時に設定したい言語とは異なる言語を選択した可能性があります。次の手順で言語の設定を変更してください。

- 1 **MENU**ボタンを押し、メニューを表示します。

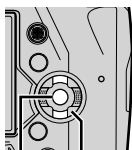


MENUボタン



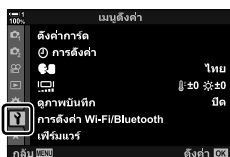
1

- 2 十字ボタンの△▽で (セッアップメニュー) タブを選択し、**OK**ボタンを押します。

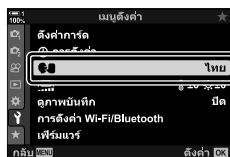


十字ボタン

OKボタン



- 3 △▽ボタンで [Thai] を選択し、**OK**ボタンを押します。



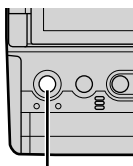
- 4 △▽◀▶ボタンで設定したい言語を選択し、**OK**ボタンを押します。



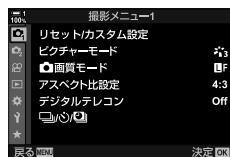
GPS自動日時補正について

GPS機能を使って日時の自動補正ができます。カメラの電源がオンになったときに、GPSから日時を取得して自動的にカメラの日時を補正します。あらかじめ【タイムゾーン】の設定がされている必要があります。📷 「日付・時刻を設定する(日時設定)」(P.455)

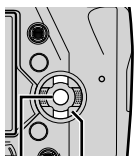
- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。



MENUボタン



- 2 十字ボタンの△▽で↓ (セットアップメニュー)タブを選択し、**OK**ボタンを押します。



十字ボタン

OKボタン



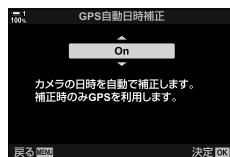
- 3 △▽ボタンで【日時設定】を選択し、**OK**ボタンを押します。



- 4 △▽ボタンで【GPS自動日時補正】を選択し、**OK**ボタンを押します。



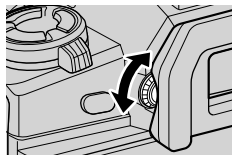
- 5 △▽ボタンで【On】を選択し、**OK**ボタンを押します。



1-6 ファインダーの視度を調整する

初期設定では、ファインダーに目を近づけると自動的にファインダーが点灯します。ファインダーをのぞいたときにファインダー内の表示がぼやけて見える場合は、ファインダーの視度を調整します。

- ファインダーをのぞきながら、ファインダー内の表示がはっきり見えるまで視度調整ダイヤルを回します。
- モニターの向きや角度を変えている場合、ファインダーは点灯しない場合があります。
- モニターとファインダーの表示が自動的に切り換わらないように設定することができます。🔊 [EVF自動切換設定] (P.553)



2

静止画の撮影と再生

静止画撮影用カメラとしての使い方を説明しています。静止画撮影時やカメラでの画像の再生時に必要な機能についても説明しています。

2-1 基本操作

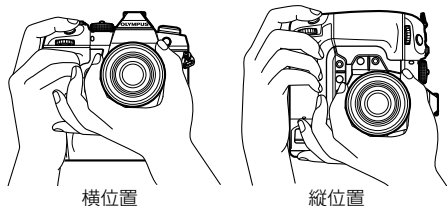
カメラをすぐに使うことができるように、撮影や再生の基本操作を説明しています。また、タッチパネルによる操作やカードの切り換えなどの基本的な情報を掲載しています。

2

撮影する

カメラを構える

レンズやAFイルミネーターに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。



- ロックレバーでボタン操作をロックして、不用意な操作を避けることができます。ボタンを選択してロックすることができます。🔒 **[C-LOCK設定]** (P.503)

シャッターボタンを使って撮影する

ファインダーで被写体を見ながら、シャッターボタンを使って撮影します。AFフレームを被写体に合わせてピントを合わせて撮影します。

1 ピントを合わせます。

- シャッターボタンを1段目まで浅く押し込みます(半押し)。合焦マーク(●)が表示され、ピントの合ったところに緑の枠(AFターゲット)が表示されます。



- 合焦マークが点滅しているときは、被写体にピントが合っていません。
- AFフレームの形状はAFターゲット選択の設定により変わります。初期設定では、AFターゲットは【・】(シングルターゲット)になっています。AFターゲット選択画面(P.120)でターゲットの範囲を変更、設定して使用してください。AFターゲットの設定が【環】(オールターゲット)のときはAFフレームは表示されません。

2 撮影します。

- 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押し込みます(全押し)。
- シャッターが切れ、撮影されます。

シャッターボタンの半押しと全押し

シャッターボタンは2段階になっています。シャッターボタンを1段目まで浅く押し、そのままの状態にすることを半押しといい、2段目まで深く押し込むことを全押しといいます。





- 撮影直後に自動的に撮影した画像を表示して、撮影した画像の簡単なチェックができます。画像を表示する時間を変更することもできます。【撮影確認】(P.90)
- 撮影後、画像の記録中に▶(再生)ボタンを押すと、画像を再生することができます。連写などの撮影で多量の画像を記録しているときでも、撮影画像の確認ができます。記録中、一部の再生機能は使用できません。




タッチパネルを使って撮影する

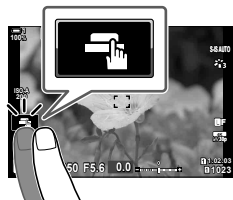
モニターで被写体を確認しながら、画面のピントを合わせたい位置にタッチして撮影します。タッチ操作でAFターゲットを移動したり、AFターゲットの部分を拡大表示することができます。

■ タッチシャッターの設定をする

モニターの  にタッチして設定を変更します。

-  にタッチするたびに操作方法が切り換わります。


	タッチした箇所にピントを合わせて自動的に撮影します。
	タッチ操作を禁止します。
	タッチした箇所にAFターゲットを表示してピントを合わせます。AFフレームの大きさや位置は指で操作できます。撮影はシャッターボタンを押します。

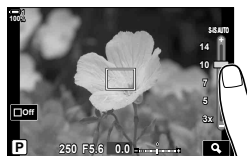


2


■ ピントを合わせる被写体を確認する()

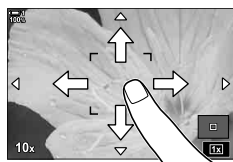
1 ピントを合わせたい被写体にタッチします。

- AFターゲットが表示されます。
- レベルバーを指で上下させると枠の大きさを変えられます。
-  にタッチするとAFターゲット表示を終了します。




2 レベルバーでAFターゲットの大きさを調節してから にタッチすると、枠の位置を拡大表示します。

- 拡大中に、タッチした状態で指を動かすとスクロールできます。
-  にタッチすると拡大表示を終了します。



- 次の場合などはタッチ操作はできません。
 - ワンタッチWB取得画面
 - ボタンまたはダイヤル操作中
- 先のとがったものや爪で操作しないでください。
- モニター保護シートや手袋を使っていると、うまく操作できない場合があります。



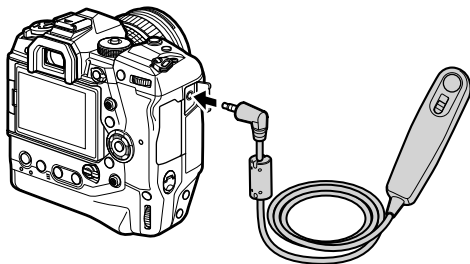
- タッチパネルの操作を禁止することができます。  **【タッチパネル設定】** (P.559)

リモート撮影をする

夜景の長秒時撮影やマクロ撮影などで、シャッターボタンを押す操作によるカメラのぶれを避けたいときは、リモート撮影をすることができます。別売のリモートケーブル(RM-CB2)を使う方法と、カメラの無線LAN機能を使ってスマートフォン用アプリOi.Shareでシャッターを切る方法があります。

■ リモートケーブルを使う場合

リモートケーブル端子カバーを開けて、リモートケーブルの端子を差し込みます。



2

■ Oi.Shareを使う場合

スマートフォンとの接続設定が必要です。あらかじめスマートフォンにOi.Shareをインストールしておいてください。☞「6-2 スマートフォンと接続する(Wi-Fi)」(P.584)

撮影した画像を再生する

カードに記録された画像を再生します。

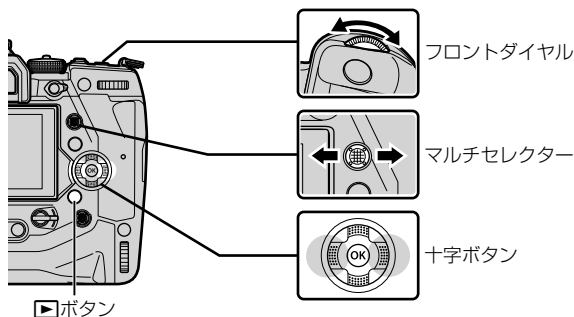
1 ▶ボタンを押します。

- 最後に撮影した画像が表示されます(1コマ再生)。
- マルチセレクター (⊙)やフロントダイヤル(☞), 十字ボタンの◀▶で画像が切り換わります。
- シャッターボタンを半押しすると撮影画面に戻ります。



1コマ再生

前の画像を表示 ◀ ▶ 次の画像を表示



2 リアダイヤル(☞)を回して再生画面を切り換えます。

- 再生画面は次のように切り換わります。



⊙ (マルチセレクター中央ボタン)または**OK**

- インデックス再生画面でマルチセレクターを押すと、1コマ再生に戻ります。
- カレンダー再生画面でマルチセレクターまたは**OK**ボタンを押すと、1コマ再生に戻ります。
- インデックス再生のコマ数は、*カスタムメニュー **D1** **[☑/Info表示設定]** (P.515)の**[☑表示]**で変更することができます。

- 3 シャッターボタンを半押しすると、再生画面を終了し、撮影画面に切り換わります。



- 撮影後、画像の記録中に▶ (再生) ボタンを押すと、画像を再生することができます。連写などの撮影で多量の画像を記録しているときでも、撮影画像の確認ができます。記録中は、一部の再生機能は使用できません。

再生するカードを切り換える

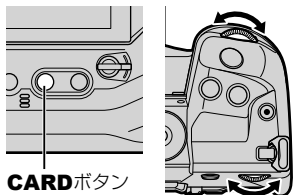
カードを2枚使っているときは、画像再生中に再生するカードを切り換えることができます。

- 1 ▶ ボタンを押して画像を再生します。



2

- 2 **CARD** (カードセレクト) ボタンを押し、フロント/リアダイヤルを回してカードスロットを切り換えます。



- 再生しているカードのスロットの番号がモニターに表示されます。



再生中のカードスロット

- 【**記録設定**】(P.72)が【**自動切換**】に設定されているときは、1枚目のカードの最後と2枚目のカードの先頭は、自動的に切り換えて再生します。



- ▶ ボタンを押したときに再生するカードを設定できます。☞ 【**カードスロット設定**】(P.547)
- ▶ ボタンを使って切り換えることもできます。画像再生中に、▶ ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回してスロットを選択します。

音量を調節する

音声記録されている画像を再生するときの音量を調節します。

静止画には、あとから音声をつけることができます。🔊【録音】(P.281)

- ▶ ボタンを押して画像を再生します。
- 十字ボタンの△または▽を押します。
 - △ボタンを押すと音量が上がり、▽ボタンを押すと下がります。



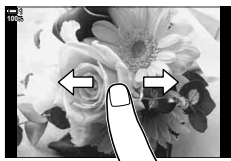
タッチパネルを使って見る

タッチ操作で、画像を拡大してスクロールしたり、コマ送りやコマ戻しをすることができます。

2

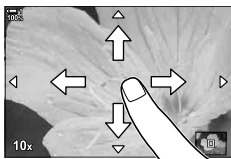
■ 1コマ再生で使う

- ▶ ボタンを押して画像を再生します。
- 指で画面にタッチして、そのまま左または右に動かします。
 - 指を左に動かすとコマ送りし、右に動かすとコマ戻します。
- 再度、指で画面にタッチします。
 - スライダーと🔍が表示されます。
- 指でスライダーを上または下へ動かします。
 - 上に動かすと画像が拡大され、下に戻すと元の大きさに戻ります。




スライダー

- 拡大中に画像にタッチした状態で指を動かすと、画像をスクロールできます。
 - 拡大したい位置で、軽く2回タップするとその位置を拡大再生します。もう一度繰り返すと元の表示に戻ります。
 - インデックス画面でもタッチ操作ができます。インデックス画面にタッチして上下に指を動かすことでページの切り換えができます。



2-2 撮影機能を設定する方法

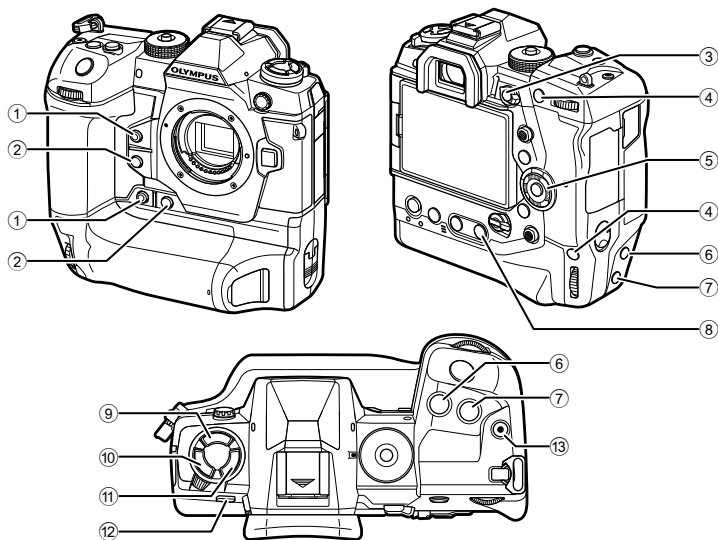
カメラにはたくさんの撮影機能が搭載されています。設定を変更する機会がどの程度多いかなどによって、ボタン操作で設定する方法、モニター上で機能を選択して設定する方法、メニューを開いて細かい設定をする方法を使い分けることができます。

設定方法	説明
ダイレクトボタン	ボタン操作で直接機能を設定します。ファインダーをのぞきながらでも操作できるように、よく使う機能が割り当てられています。 • AF ボタン、 WB ボタン、  ボタンなど
LVスーパーコンパネ/ スーパーコンパネ	設定状態を一覧で表示する機能パネルで設定します。撮影機能の設定状態を確認できます。
LVコントロール	モニターで被写体を確認しながら設定します。
メニュー	モニターにメニューを表示して設定します。






ダイレクトボタンで設定する


撮影によく使う機能はボタンに割り当てられています。これらのボタンを「ダイレクトボタン」といいます。ダイレクトボタンには以下のようなボタンがあり、撮影に関する基本的な機能の設定ができます。

このカメラでは、縦位置にして撮影するときでも横位置と同様の使い勝手を得られるように、横位置用と縦位置用のボタンが用意されています。本文で特に指示がないものは、どちらを使用しても構いません。



ダイレクトボタン	割り当てられている撮影機能	▶▶
① ボタン*	ワンタッチホワイトバランス	207, 386
② ボタン*	プレビュー	464
③ Fn ボタン	[::] (AFターゲットの選択)	123
④ AEL/AFL ボタン*	AEL/AFL	141, 188
⑤ 十字ボタン	[::] (AFターゲットの選択)	123
⑥ ボタン*	露出補正	180, 227
⑦ ISO ボタン*	ISO感度	181
⑧ WB ボタン	ホワイトバランス	202

ダイレクトボタン	割り当てられている撮影機能	
⑨  ボタン	フラッシュ/連写/セルフタイマー	151
⑩ AF  ボタン	AF/測光モード	115, 186
⑪ BKT ボタン	ブラケット撮影	236
⑫  (LV) ボタン	モニター/ファインダー切り換え	62, 83
⑬  ボタン	ムービー	294

* 同じ機能が割り当てられた縦位置用のボタンが搭載されています。 「各部の名称」(P.20)

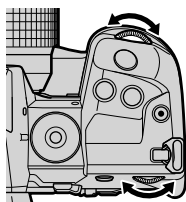
1 設定する機能のボタンを押します。

- 設定画面が表示されます。






設定値

2 フロント/リアダイヤルで設定値を選択します。



- 機能によっては詳細な設定ができます。詳細な設定を行うには**INFO**ボタンを押して設定画面を表示します。
- ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回して設定することもできます。ボタンを離すと設定画面を終了して、撮影画面に戻ります。



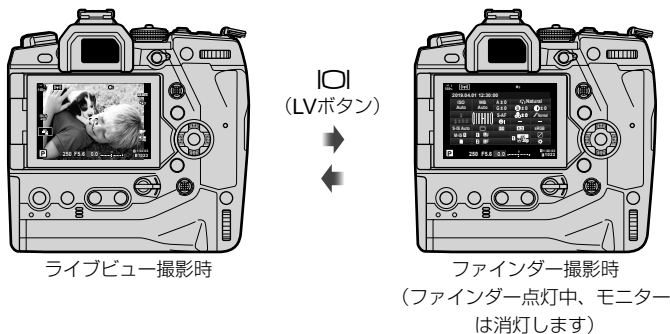
- ロックレバーでボタン操作をロックして、不用意な操作を避けることができます。ボタンを選択してロックすることができます。 **[C-LOCK設定]** (P.503)
- それぞれのボタンは、他の機能に変更することができます。 **カスタムメニュー**  **[カメラボタン機能]** (P.463)

LVスーパーコンパネ／スーパーコンパネで設定する

LVスーパーコンパネおよびスーパーコンパネは、撮影に関する機能とその設定内容をモニターに一覧表示できる機能設定パネルです。ライブビュー撮影時(モニターに被写体を表示して撮影するとき)はLVスーパーコンパネ、ファインダー撮影時はスーパーコンパネが使えます。

ここでは、LVスーパーコンパネとして説明します。

- ライブビュー撮影で **LV** ボタンを押すとファインダー撮影に切り換わり、モニターにスーパーコンパネが表示されます。



LVスーパーコンパネ(ライブビュー撮影時)

ライブビュー撮影時に **OK** ボタンを押すと、モニターにLVスーパーコンパネが表示されます。



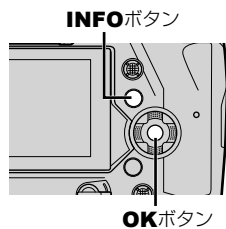
スーパーコンパネ(ファインダー撮影時)

モニターに被写体を表示していないファインダー撮影で、常時表示しておくことができます。



詳細設定をする

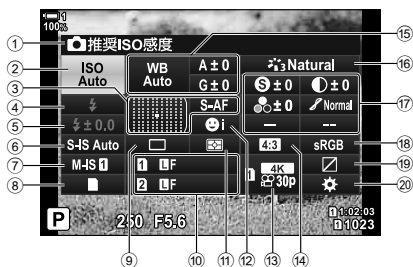
手順2で機能を選択して**OK**ボタンを押すと、選択メニューが表示されます。機能によっては、選択メニューで**INFO**ボタンを押すとさらに詳細な設定が可能です。



[**カメラ手ぶれ補正**]の場合

- **OK**ボタンの代わりにタッチ操作も使えます。選択した機能の位置を軽く2回タップすると選択メニューが表示されます。

■ LVスーパーコンパネ／スーパーコンパネで設定できる機能



- | | | | |
|--|---|---------------------------------------|--|
| ① 現在選択している機能 | ⑩ 画質モード ^⑤P.78 | ⑬ 画質モード* ^①P.321, 339 | ⑮ ピクチャーモード.....P.215 |
| ② ISO 感度.....P.181 | ⑪ 測光.....P.186 | ⑭ アスペクト比.....P.233 | ⑯ シャープネス.....P.220 |
| ③ AF 方式.....P.115 | ⑫ 顔優先.....P.133 | ⑮ WB モード.....P.202 | ⑰ コントラスト.....P.221 |
| AFターゲット.....P.120 | ⑬ AF モード* ^①P.321, 339 | ⑯ ホワイトバランス補正.....P.206 | ⑱ 彩度.....P.222 |
| ④ フラッシュ.....P.254 | ⑭ アスペクト比.....P.233 | ⑰ 色温度* ^②P.202 | ⑲ 階調.....P.223 |
| ⑤ フラッシュ補正.....P.259 | ⑮ WB モード.....P.202 | | ⑳ フィルター効果.....P.224 |
| マニュアル発光量.....P.257 | ⑯ ホワイトバランス補正.....P.206 | | ⑲ 調色.....P.225 |
| ⑥ 手 ぶれ補正.....P.176 | ⑰ 色温度* ^②P.202 | | ㉑ 効果.....P.226 |
| ⑦ 手 ぶれ補正* ^①P.376 | | | ㉒ Color* ^③P.231 |
| ⑧ 記 録設定.....P.72 | | | ㉓ Color/Vivid* ^④P.229 |
| ⑨ ドライブ(連写／セルフタイマー).....P.151 | | | Effect* ^⑤P.218 |
| ⑩ 画質モード.....P.78 | | | ⑱ カラー設定.....P.232 |
| ⑪ 測光.....P.186 | | | ㉒ ハイライト&シャドウコントロール.....P.227 |
| ⑫ 顔優先.....P.133 | | | ⑳ ボタン機能割り当て.....P.463 |
| ⑬ 画質モード* ^①P.321, 339 | | | |
| ⑭ アスペクト比.....P.233 | | | |
| ⑮ WB モード.....P.202 | | | |
| ⑯ ホワイトバランス補正.....P.206 | | | |
| ⑰ 色温度* ^②P.202 | | | |

*1 「**AF**」(ムービー)のついた機能は、ムービー撮影で使用される機能です。「3 ムービーの撮影と再生」(P.293)をご確認ください。

*2 **WB**モードが、CWB(カスタムホワイトバランス)の設定時に表示されます。

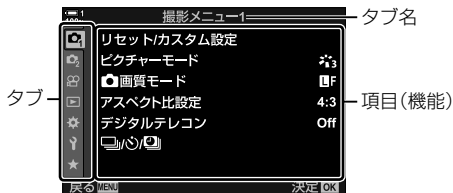
*3 パートカラー設定時に表示されます。

*4 カラークリエイター設定時に表示されます。

*5 アートフィルター設定時に表示されます。

メニューで設定する

メニューでは、LVスーパーコンパネなどに表示されない撮影／再生時の機能やカメラを使いやすくカスタマイズできる機能を設定します。

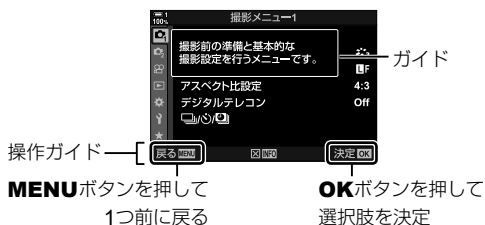


タブ	タブ名	説明
	撮影メニュー 1	静止画撮影に関するメニューです。撮影前の準備や基本的な撮影機能の設定を行います。
	撮影メニュー 2	静止画撮影に関するメニューです。一歩進んだ撮影機能の設定を行います。
	動画メニュー *1	ムービー撮影に関するメニューです。基本的な設定やカスタマイズの設定を行います。
	再生メニュー	画像の再生や編集に関するメニューです。
	カスタムメニュー	カメラのカスタマイズに関するメニューです。
	セットアップメニュー	日時や表示言語などの設定に関するメニューです。
	マイメニュー *2	自分が使う項目だけを集めることができるメニューです。 「自分用のメニューを用意する(マイメニュー)」(P.477)

*1 動画メニューは、ムービー撮影のメニューです。「3 ムービーの撮影と再生」(P.293)でご確認ください。

*2 マイメニューは、初期設定では何も登録されていません。メニュー項目の中から、よく使う機能を集めてグループ化します。メニュー機能から必要な項目を選んで登録してお使いください(P.477)。

1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。



- 機能を選択すると、約2秒後にガイドが表示されます。**INFO**ボタンを押すと、ガイドの表示/非表示を切り換えることができます。

2 十字ボタンの△▽でタブを選択し、OKボタンを押します。

- ★カスタムメニューを選択したときは、メニューグループのタブが表示されます。△▽ボタンでメニューグループを選択して**OK**ボタンを押します。



メニューグループ

3 △▽ボタンで機能を選択しOKボタンを押して、各設定画面に進みます。



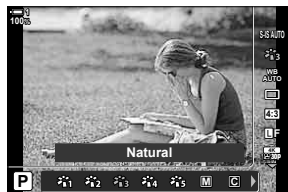
4 △▽ボタンで設定値を選択しOKボタンを押して、設定内容を確定します。

- MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

- カメラの状態や他の機能の設定内容によって、設定できない項目があります。設定できない項目は、グレーで表示されていて選択することができません。
- メニューの操作には、十字ボタンのほかにフロント/リアダイヤルやマルチセレクターが使えます。

LVコントロール(ライブコントロール)で設定する

ライブビュー画面に主な撮影の機能を表示して設定をする機能設定パネルです。ライブビューで表示している画面で効果を確認しながら設定することができます。初期設定ではLVコントロールは非表示に設定されています。メニューを使って表示設定をすると使用できます。



■ LVコントロールを表示する

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 十字ボタンの△▽で✳️(カスタムメニュー)タブを選択し、**OK**ボタンを押します。



- 3 △▽ボタンでD1(表示/音/接続)タブを選択し、**OK**ボタンを押します。



- 4 △▽ボタンで[**Control表示**]を選択し、**OK**ボタンを押します。



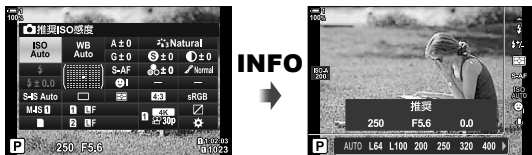
- 5 △▽ボタンで[**LVコントロール**]を選び、**OK**ボタンを押します。
 - [LVコントロール]のチェックボックスにチェック(✓)が表示されます。
 - 繰り返し**MENU**ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しして、メニュー画面を終了します。



6 ライブビュー画面で**OK**ボタンを押し、LVスーパーコンパネを表示します。



7 **INFO**ボタンを押してLVコントロール画面に切り換えます。



- もう一度**INFO**ボタンを押すと、LVスーパーコンパネに戻ります。

■ LVコントロールで設定する

1 **OK**ボタンを押してLVコントロールを表示します。

- LVコントロールを終了するには、再度**OK**ボタンを押します。



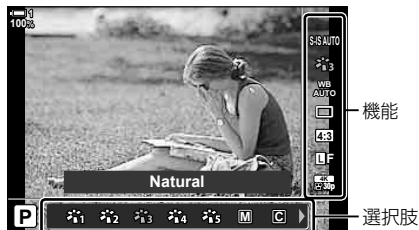
2 十字ボタンの△▽でカーソルを設定したい機能に移動し、◀▶ボタンで設定を変更して**OK**ボタンを押します。

- ダイヤルを使って設定もできます。リアダイヤルで機能を選択し、フロントダイヤルで設定を変更します。
- 何も操作せずに約8秒経過すると設定が確定します。



設定の選択肢

■ LVコントロールで設定できる機能



📷 手ぶれ補正	P.176	フラッシュモード	P.254
🖼️ ピクチャーモード	P.215	フラッシュ補正	P.259
📷 WBモード	P.202	測光	P.186
📷 ドライブ(連写/セルフタイマー)	P.151	📷 AF方式	P.115
📷 アスペクト比	P.233	📷 ISO感度	P.181
📷 画質モード	P.78	☺️ 顔優先	P.133
📷 画質モード*	P.321	ムービー録音*	P.413

* ムービー撮影で使用する機能です。📷 「3 ムービーの撮影と再生」(P.293)

2-3 カードについての設定









このカメラでは、2枚のカードを同時に使用することができます。ここではカードに関する機能について説明しています。

2枚のカードを使い分けるための機能があります。画質モードによって記録するカードを振り分けたり、2枚を自動で切り換えるなどの設定ができます。

静止画撮影で使用できるカードについては、「カードについて」(P.37)をお読みください。

2枚のカードを使用するときのデータのカードへの記録方法を設定します。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ (P.73)
 - メニュー (P.73)
- 設定を変更したり、カードを抜き差しして記録可能なカードが切り換わると、画質モードが変更されることがあります。撮影前に必ずご確認ください。

 標準	【  記録スロット】 (P.74)で指定したカードに記録します。指定したカードに記録できなくなると、撮影できなくなります。
 自動切換	【  記録スロット】 (P.74)で指定したカードに記録します。指定したカードに記録できなくなると、自動的にもう一方のカードに書き込みをします。カードが1枚のときは、自動的に【標準】になります。
 振り分け↓	2枚のカードに異なる画質モードで記録します。スロット1、2それぞれに画質モードを設定してください(P.78)。どちらかのカードに記録できなくなると、撮影できなくなります。スロット1、2とも【振り分け↓】用の画質モードに設定されるので、設定を変更したときは画質モードを再度設定してください。
 振り分け↑	2枚のカードに異なる画質モードで記録します。スロット1、2それぞれに画質モードを設定してください(P.78)。どちらかのカードに記録できなくなると、記録可能なカードにのみ記録します。スロット1、2とも【振り分け↑】用の画質モードに設定されるので、設定を変更したときは画質モードを再度設定してください。
 同一書き込み↓	2枚のカードに同じ画質モードで記録します。どちらかのカードに記録できなくなると、撮影できなくなります。カードが1枚のときは、自動的に【標準】になります。
 同一書き込み↑	2枚のカードに同じ画質モードで記録します。どちらかのカードに記録できなくなると、書き込み可能なカードにのみ記録します。カードが1枚のときは、自動的に【標準】になります。

■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで[📷記録設定]を選択します。
- 2 フロントダイヤルで設定を変更します。

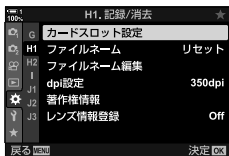


📷記録設定

- 3 シャッターボタンを半押しして、LVスーパーコンパネを終了します。
 - 設定によっては、画質モードが変更されている場合があります。撮影前に必ずご確認ください。

■ メニューで設定する

★カスタムメニュー **H1** [カードスロット設定] (P.547) の[📷記録設定]で設定します。



MENUボタン ➡ ★タブ ➡ **H1**タブ ➡ [カードスロット設定] ➡ [📷記録設定] ➡ 十字ボタンの▷を押して選択メニューを表示 ➡ △▽ボタンで項目を選択

記録するカードを指定する

(📷記録スロット)

2枚のカードを使っているときに、静止画のデータを記録するカードを指定します。
[📷記録設定]が□(標準)または◇(自動切換)のときに設定できます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - メニュー

■ LVスーパーコンパネで設定する

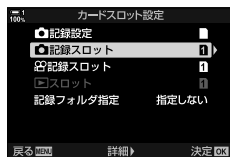
1 LVスーパーコンパネで[📷記録設定]を選択しOKボタンを押します。

- [カードスロット設定]のメニューが表示されます。



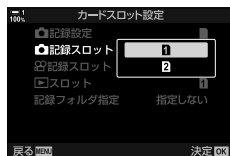
📷記録設定

2 十字ボタンの△▽で[📷記録スロット]を選択し、▷ボタンを押します。



3 △▽ボタンまたはリアダイヤルで設定を変更します。

- [①]: カードスロット1のカードに記録します。
- [②]: カードスロット2のカードに記録します。



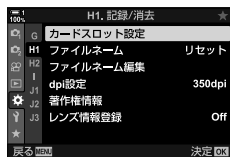
4 OKボタンを押して設定を確定します。

5 MENUボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

■ メニューで設定する

※カスタムメニュー Hi [カードスロット設定] (P.547)の[📷記録スロット]で設定します。

- [📷記録設定] (P.72)が□(標準)または◇(自動切換)のときに設定できます。



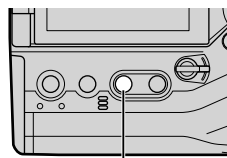
MENUボタン ⇒ ※タブ ⇒ Hiタブ ⇒ [カードスロット設定] ⇒ [📷記録スロット] ⇒ 十字ボタンの▷を押して選択メニューを表示 ⇒ △▽ボタンで項目を選択

記録するカードを切り換える

【**記録設定**】が□(標準)または◇(自動切換)のときにカードを2枚使用している場合は、**CARD** (カードセレクト)ボタンで記録するカードの切り換えができます。

1 **CARD**ボタンを押します。

- カード選択のメニューが表示されます。



CARDボタン

2 フロント/リアダイヤルを回して、カードを選択します。

- 【1】: カードスロット1のカードに記録します。
- 【2】: カードスロット2のカードに記録します。



3 **OK**ボタンを押してメニューを終了します。

- 記録設定を示すアイコンに、記録するスロットの番号が表示されます。



記録設定

撮影した画像を記録するフォルダを指定する (記録フォルダ指定)

撮影した画像を記録するフォルダを指定します。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ - メニュー (P.77)

新規作成	新たにフォルダを作成して、記録先に指定します。
既存フォルダ選択	既存のフォルダから指定します。

- カードスロット1と2のいずれかで、作成しようとするフォルダが既に作成されているときは、新規作成はできません。

■ LVスーパーコンパネで設定する

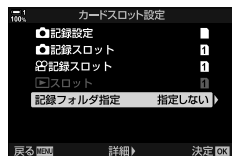
- 1 LVスーパーコンパネで【 記録設定】を選択して **OK** ボタンを押します。

- ・ [カードスロット設定] の設定画面が表示されます。

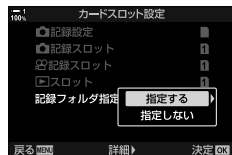


記録設定

- 2 十字ボタンの△▽で [記録フォルダ設定] を選択し、▷ ボタンを押します。



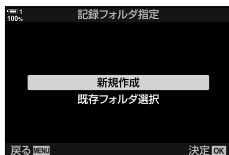
- 3 △▽ボタンで [指定する] を選択して、**OK** ボタンを押します。



4 △▽ボタンで設定を変更します。

[新規作成] : 任意のフォルダ番号を設定して**OK**ボタンを押します。

[既存フォルダ選択] : △▽ボタンで既存のフォルダを選択して**OK**ボタンを押します。フォルダ内の最初の2コマと最後の1コマが表示されます。

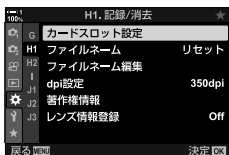


5 **OK**ボタンを押して設定を確定します。

6 **MENU**ボタンを繰り返し押し続けて、メニューを終了します。

■ メニューで設定する

★カスタムメニュー **H1** [カードスロット設定] (P.547) の[記録フォルダ指定]で設定します。



MENUボタン ➡ ★タブ ➡ **H1**タブ ➡ [カードスロット設定] ➡ [記録フォルダ指定] ➡ 十字ボタンの▷を押して選択メニューを表示 ➡ △▽ボタンで項目を選択

2 フロントダイヤルで設定値を選択します。

- 以下の設定項目から選択します。画像サイズと圧縮率の組み合わせはメニューで変更することができます。☞ *カスタムメニュー G [画質設定] (P.81)

設定項目	画像サイズ	圧縮率	ファイル形式
SF	5184×3888	SuperFine (1/2.7)	JPG
F	5184×3888	Fine (1/4)	JPG
N	5184×3888	Normal (1/8)	JPG
N	3200×2400	Normal (1/8)	JPG
RAW	5184×3888	ロスレス圧縮	ORF
RAW+JPEG	RAWと上記のJPEGの組み合わせ		

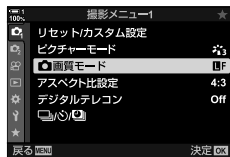
- *カスタムメニュー H [カードスロット設定] (P.547)で[📷記録設定]が[標準]、[同一書き込み↓]、[同一書き込み↑]または[自動切換]に設定されているときは、①と②は同じ設定になります。
- ハイレゾショット(P.210)が設定されているときは、60m F、25m F、60m F+RAW、25m F+RAWの選択ができます。
- ハイレゾショットに設定すると、画質モードの設定も変更されるので、撮影前に確認してください。

3 シャッターボタンを半押しして、LVスーパーコンパネを終了します。

- [📷記録設定]の設定を変更したり、カードの抜き差しをして記録可能なカードが切り換わると、画質モードが変更されることがありますので、撮影前に必ずご確認ください。特に[振り分け↓]または[振り分け↑]に設定したときは、画質モードが変更されるので再度設定してください。


■ メニューで設定する

📷撮影メニュー 1 [📷画質モード]で設定します。





MENUボタン ➡ 📷タブ ➡ [📷画質モード] ➡ 十字ボタンの▷を押して選択メニューを表示 ➡ △▽ボタンで項目を選択

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールで[画質モード]を選択して、十字ボタンの<D>で項目を選択します。



画質モード

- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.68)をご覧ください。
- [カードスロット設定]の[記録設定]が[振り分け↑]または[振り分け↑]のときは、スロット1のカードの設定ができます。



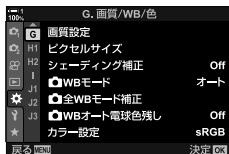
- RAW画像とは、露出補正やホワイトバランスなどの撮影の設定が反映されていない未加工の状態のデータです。撮影後にあらためて絵作りをするための元データとして使います。
 - 拡張子「.ORF」で記録されます。
 - 他のカメラでの再生はできません。
 - パソコンでの閲覧は画像編集・管理ソフトウェアOlympus Workspaceをお使いください。
 - このカメラの編集機能[RAW編集] (P.284)を使って、JPEGのデータにすることができます。

画像サイズや圧縮率の組み合わせを設定する

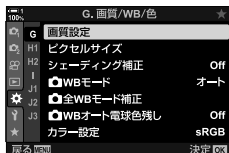
(画質設定)

【**画質モード**】(P.78)の画像サイズ(ピクセルサイズ)と圧縮率の組み合わせを変更することができます。

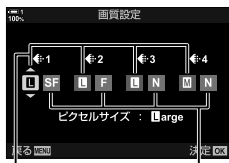
- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 **カスタムメニュー G** (画質/WB/色)のメニューを表示します。



- 3 十字ボタンの△▽で「画質設定」を選択し、▷ボタンを押します。
 - 詳細設定の画面が表示されます。



- 4 <▷>ボタンで設定を変更する画質([◀:1] ~ [◀:4])の画像サイズ(ピクセルサイズ)や圧縮率を選択し、△▽ボタンで設定を変更します。



画像サイズ 圧縮率
(ピクセルサイズ)

- ピクセルサイズと圧縮率は次の項目から選択できます。【M】および【S】のピクセルサイズはメニューで変更できます。

ピクセルサイズ		圧縮率	
L (Large)	5184×3888	SF (SuperFine)	1/2.7
M (Middle)	3200×2400	F (Fine)	1/4
S (Small)	1280×960	N (Normal)	1/8

- 5 **OK**ボタンを押して設定を確定します。
 - **カスタムメニュー G**の画面に戻ります。
- 6 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

[M]や[S]の画像サイズの設定を変更する (ピクセルサイズ)

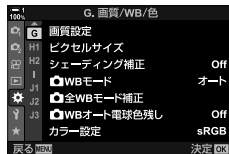
[**画質モード**] (P.78)の[M] (Middle)および[S] (Small)の、ピクセルサイズの設定を変更できます。

- [M]および[S]のピクセルサイズは、それぞれ次の項目から選択できます。

Middle (Middle)	3200×2400 / 1920×1440
Small (Small)	1280×960 / 1024×768

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 **カスタムメニュー G** (画質/WB/色)のメニューを表示します。



2 3 十字ボタンの△▽で[ピクセルサイズ]を選択し、▷ボタンを押します。



4 △▽ボタンで[Middle]または[Small]を選択し、▷ボタンを押します。

- 詳細設定の画面が表示されます。



5 ◀▶ボタンでピクセルサイズを選び**OK**ボタンを押します。

- [Middle]または[Small]の選択画面に戻ります。

6 **OK**ボタンを押して設定を確定します。

- **カスタムメニュー G**の画面に戻ります。

7 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

2-5 ファインダーとモニターの表示

表示を切り換える

このカメラは、アイセンサーの働きによってモニターとファインダーの表示を自動的に切り換えます。また、ファインダーやモニターの画面(ライブビュー表示)には、撮影機能の設定状態を示す情報が表示されます。表示の切り換えや情報表示の状態は設定により選択ができます。

モニターを使って撮影する



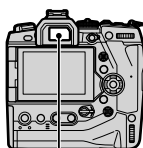
モニター



目を近づける



ファインダーを使って撮影する



ファインダー



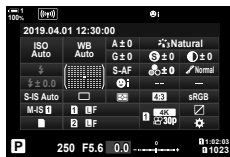
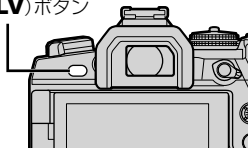
モニターの撮影画面がライブビュー表示されます。



目を近づけると自動的にファインダーが点灯します。ファインダー点灯中は、モニターは消灯します。

- モニターがライブビュー表示中に **LV** ボタンを押すと、ライブビュー表示からスーパーコンパネに切り換わります。ファインダーに目を近づけると、ファインダーが点灯してライブビュー表示されます。このときモニターは消灯します。

LV ボタン



モニターの表示
(スーパーコンパネ)

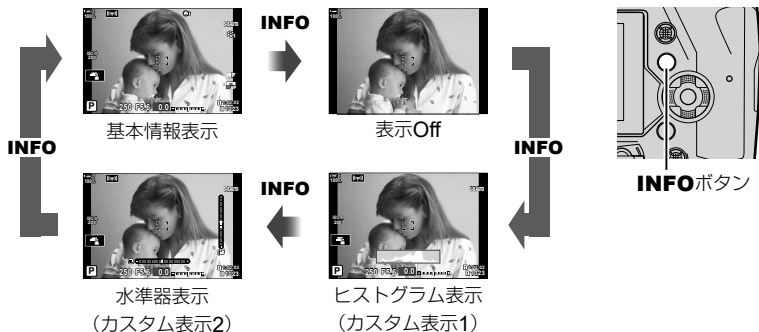


- ファインダーの自動切り換えやファインダーの表示スタイルはメニューで変更することができます。☞ **【EVF自動切換え設定】** (P.553)、**【EVF表示スタイル】** (P.554)

画面の情報表示を選ぶ

INFOボタンを押します。

- INFOボタンを押すたびに情報表示の内容が変わります。



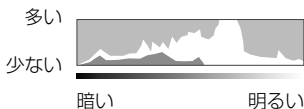
- 情報表示は、INFOボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回して切り換えることもできます。表示を逆方向に切り換えることができます。



- カスタム表示1とカスタム表示2の設定は変更できます。GPSや各センサーで取得した情報を表示することもできます。ライブビュー表示時の設定は★カスタムメニュー **D1** [LV/Info表示設定] (P.515)の[LV-Info]で、ファインダー表示時の設定は★カスタムメニュー **D1** [Info表示設定] (P.555)で行います。

■ ヒストグラム表示

画像の明るさの分布をヒストグラムで表示します。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとの画素数を表しています。上限値以上の部分を赤、下限値以下の部分を青、スポット測光のエリア内を緑で表示します。



上限値や下限値の設定は変更できます。☞ [ヒストグラム警告設定] (P.526)

■ ハイライト&シャドウ

ヒストグラム表示の上限値および下限値の設定に従って、ハイライトやシャドウ部を赤色や青色で表示します。上限値や下限値の設定は変更できます。

☞ [ヒストグラム警告設定] (P.526)

■ 水準器表示

カメラの傾きを表示します。「あおり」方向は縦のバー、「水平」方向は横のバーで表示します。

- 水準器の表示は目安としてお使いください。
- 表示にずれがあるときは、調整することができます。☞ [水準器調整] (P.559)

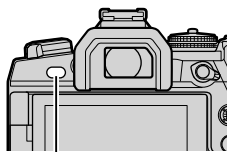
モニター／ファインダーの自動切り換えの設定を 変更する (EVF自動切換設定)

モニターとファインダーの表示の切り換えについての設定をします。

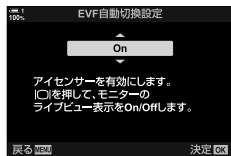
■ |O| (LV) ボタンで設定する

1 |O| ボタンを長押しします。

- [EVF自動切換設定]のメニューが表示されます。



|O| ボタン



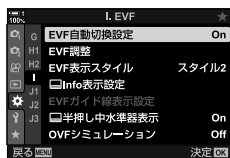
2 十字ボタンの△▽で設定を変更し、OKボタンを押します。

[On]：ファインダーに目を近づけるとファインダー表示に、目を離すとモニター表示に切り換わります。ライブビュー表示中に|O|ボタンを押すと、ライブビューの表示／非表示を切り換えられます。

[Off]：|O|ボタンを押すたびにファインダー表示とモニター表示が切り換わります。

■ メニューで設定する

★カスタムメニュー **1** [EVF自動切換設定] (P.553)で設定します。



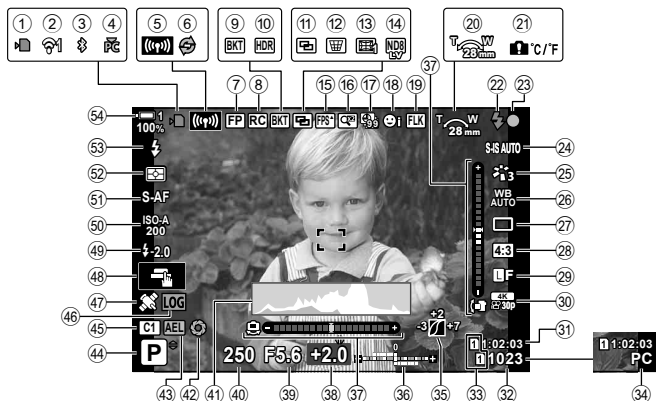
MENU ボタン ➡ ★タブ ➡ **1**タブ ➡ [EVF自動切換設定] ➡ 十字ボタンの▷を押して
選択メニューを表示 ➡ △▽ボタンで項目を選択

撮影時の情報表示

モニターやファインダーの表示内容は、メニューでカスタマイズすることができます。

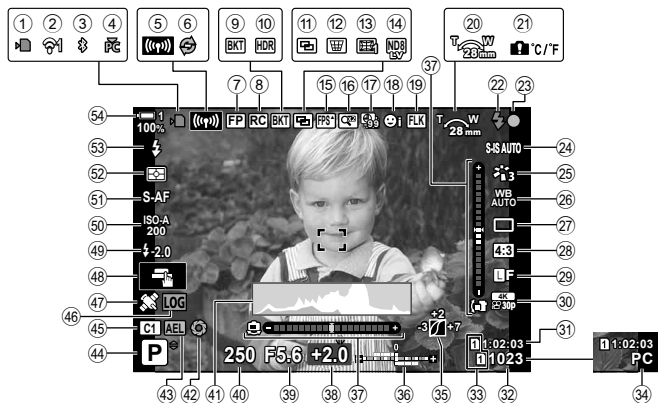
☞ **【Info表示設定】** (P.515)、**【Info表示設定】** (P.555)

静止画像撮影時のモニター表示



- | | |
|-------------------------------|---|
| ① カード書き込み中.....P.37 | ⑩ HDR撮影.....P.195 |
| ② 無線LAN接続状態.....P.584, 600 | ⑪ 多重露出撮影.....P.246 |
| ③ Bluetooth®接続中.....P.586 | ⑫ デジタルシフト撮影.....P.248 |
| ④ パソコン接続中(Wi-Fi).....P.592 | ⑬ フィッシュアイ補正撮影.....P.250 |
| ⑤ 無線LAN接続.....P.592, 596, 597 | ⑭ ライブND撮影.....P.197 |
| ⑥ プロキャプチャー画像取り込み中...P.168 | ⑮ 高速フレームレート.....P.175 |
| ⑦ スーパー FP発光.....P.252 | ⑯ 顔優先/瞳優先.....P.133 |
| ⑧ RCモード.....P.252 | ⑰ フリッカーレス撮影.....P.190 |
| ⑨ ブラケット撮影.....P.236 | ⑲ズーム操作方向/焦点距離 |
| | ⑳ 内部温度上昇警告.....P.640 |
| | ㉑ フラッシュ.....P.252
(点滅:充電中、点灯:充電完了) |
| | ㉒ 合焦マーク.....P.53 |
| | ㉓ 手ぶれ補正.....P.176 |
| | ㉔ ピクチャーモード.....P.215 |
| | ㉕ WBモード.....P.202 |
| | ㉖ ドライブ(単写/連写/セルフタイマー/
低振動撮影/静音撮影/プロキャ
プチャー撮影/ハイレゾショット)
.....P.151-170, 210 |
| | ㉗ アスペクト比.....P.233 |
| | ㉘ 画質モード.....P.78 |
| | ㉙ 画質モード*.....P.321 |

* **【P】** (ムービー)のついた機能は、ムービー撮影で使用する機能です。「3 ムービーの撮影と再生」(P.293)でご確認ください。

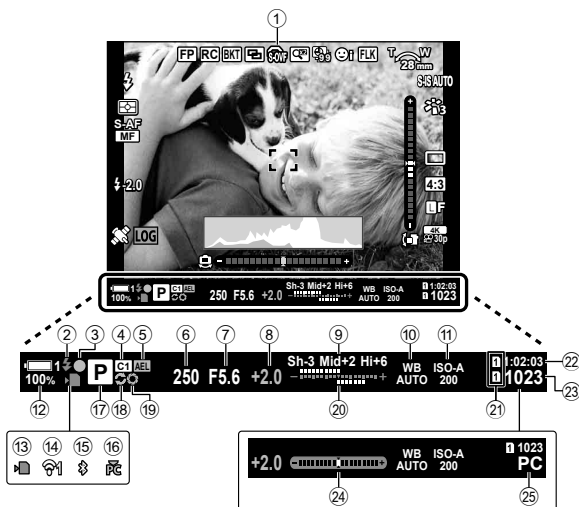


31 録画可能時間	P.656	42 プレビュー	P.464
32 撮影可能枚数	P.655	43 AEロック	P.188
33 カードスロット設定		44 撮影モード	P.93-110
上: 記録スロット	P.316	45 カスタムモード	P.111
下: 記録設定	P.72	46 LOG取得動作状態	P.571
34 パソコン接続中(USB) *	P.592	47 GPS動作状態	P.570
35 ハイライト&シャドウ		48 タッチ操作	P.54
コントロール	P.227	49 フラッシュ補正值	P.259
36 上: フラッシュ補正	P.259	50 ISO感度	P.181
下: 露出補正	P.180	51 AF方式	P.115
37 水準器	P.84	52 測光	P.186
38 露出補正值	P.180	53 フラッシュ	P.254
39 絞り値	P.94-102	54 電池残量/使用バッテリー	
40 シャッター速度	P.94-102	ホルダー番号	P.44
41 ヒストグラム	P.84		

* **[コントロール]**で画像の保存先がパソコンのみの場合に表示されます(P.622)。

- GPSや各センサーの情報を表示することができます。**[]**「5-2 フィールドセンサー機能を使う」(P.570)

静止画像撮影時のファインダー表示



• この表示スタイルは初期設定(【スタイル2】)です。表示スタイルの設定は、**カスタムメニュー** **1** 【EVF表示スタイル】(P.554)で変更できます。【EVF表示スタイル】で【スタイル3】に設定すると、モニターと同じ表示になります。

- | | |
|---------------------------------------|--|
| ① OVFシミュレーション*1.....P.89 | ⑭ 無線LAN接続状態.....P.584, 600 |
| ② フラッシュ.....P.252
(点滅：充電中、点灯：充電完了) | ⑮ Bluetooth®接続中.....P.586 |
| ③ 合焦マーク.....P.53 | ⑯ パソコン接続中(Wi-Fi).....P.600 |
| ④ カスタムモード.....P.111 | ⑰ 撮影モード.....P.93-110 |
| ⑤ AEロック.....P.188 | ⑱ プロキャプチャー画像取り込み中...P.168 |
| ⑥ シャッター速度.....P.94-102 | ⑲ プレビュー.....P.464 |
| ⑦ 絞り値.....P.94-102 | ⑳ 上：フラッシュ補正.....P.259
下：露出補正.....P.180 |
| ⑧ 露出補正值.....P.180 | ㉑ カードスロット設定
上：記録スロット.....P.316
下：記録設定.....P.72 |
| ⑨ ハイライト&シャドウ
コントロール.....P.227 | ㉒ 録画可能時間.....P.656 |
| ⑩ WBモード.....P.202 | ㉓ 撮影可能枚数.....P.655 |
| ⑪ ISO感度.....P.181 | ㉔ 水準器*2.....P.556 |
| ⑫ 電池残量/使用バッテリー
ホルダー番号.....P.44 | ㉕ パソコン接続中(USB)*3.....P.592 |
| ⑬ カード書き込み中.....P.37 | |

*1 OVFシミュレーションアイコンはファインダー内のみの表示です。【OVFシミュレーション】(P.89)

*2 シャッターボタンを半押し中に表示されます。【半押し中水準器表示】(P.556)

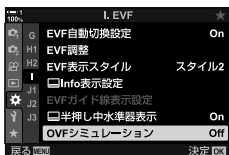
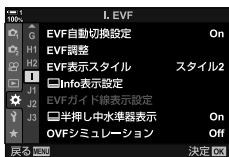
*3 【コントロール】で画像の保存先がパソコンのみの場合に表示されます(P.622)。

ファインダー表示を自然な表示にする (OVFシミュレーション)

ファインダー表示のダイナミックレンジを拡大し、黒つぶれや白とびを抑えて光学ファインダーのような見え方を再現します。逆光などの条件でも、被写体を容易に確認できます。

- この機能を有効にした場合、露出やホワイトバランス、ピクチャーモードのアートフィルターなどの撮影の設定は表示に反映されません。

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 **★**カスタムメニュー **B1** (EVF)のメニューを表示します。
- 3 十字ボタンの△▽で**[OVFシミュレーション]**を選択し、▷ボタンを押します。



2


- 4 △▽ボタンで設定を変更します。
[Off]：露出などの撮影設定を反映してファインダー表示をします。効果を確認しながら撮影できます。
[On]：ダイナミックレンジを拡大してファインダー表示します。露出やホワイトバランスなどの撮影設定は表示に反映されません。
- 5 **OK**ボタンを押して設定を確定します。
 - **★**カスタムメニュー **B1**の画面に戻ります。
- 6 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。



- **★**カスタムメニュー **B1**の**[OKボタン機能]**を使って、ボタンに機能を登録することができます。ボタンを押す操作だけで、オンオフを切り換えることができます。**★**カスタムメニュー **B1** **[OKボタン機能]** (P.463)

2-6 撮影直後に画像を表示する時間を設定する(撮影確認)

撮影直後に自動的に撮影した画像を表示します。撮影した画像の簡単なチェックができます。画像を表示する時間を変更したり、画像の表示をやめることができます。撮影画像を表示中でもシャッターボタンを半押しするとすぐに次の撮影に入れます。初期設定は、**[Off]**に設定されています。

0.3～20秒	画像を表示する時間を指定します。
Off	確認用の画像を表示しません。被写体を表示し続けます。
Auto 	撮影後、画像の再生状態に移ります。画像の消去などの再生時の操作ができます。

- MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- ↑セットアップメニューで**[撮影確認]**を選択し、十字ボタンの▷を押します。
- △▽ボタンで設定を変更します。
- OK**ボタンを押して設定を確定します。
 - ↑セットアップメニューの画面に戻ります。
- MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。



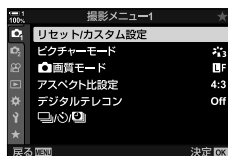
2-7 カメラの設定を初期状態に戻す (リセット)

カメラの設定を工場出荷時の設定に戻します。ほぼすべての設定に戻すか、撮影に関する機能のみに戻すかの選択ができます。

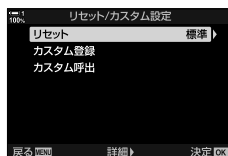
フル	日付や言語設定など一部を除いた設定値をリセットします。
標準	撮影に関する機能のみをリセットします。

- リセットされる機能については、「7-5 機能と初期設定一覧」(P.641)をご覧ください。

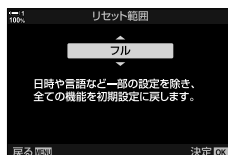
- MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 撮影メニュー 1**で**[リセット/カスタム設定]**を選択し、十字ボタンの**▷**を押します。



- △▽**ボタンで**[リセット]**を選択し、**▷**ボタンを押します。



- △▽**ボタンで設定を変更します。



- OK**ボタンを押して設定を確定します。
 - [リセット/カスタム設定]の画面に戻ります。
- [リセット/カスタム設定]の画面で**OK**ボタンを押します。
 - [リセット]の画面に移動します。
- △▽**ボタンで**[実行]**を選択し、**OK**ボタンを押します。
 - リセットが実行されます。



- Olympus Workspaceを使って、設定をパソコンに保存することができます。詳しくは当社ホームページの下記URLをご覧ください。


<https://support.olympus-imaging.com/owdownload/>

2-8 撮影モードを選択する

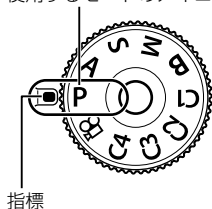
表現方法によって撮影モードを選択します。撮影モードの選択はモードダイヤルで行います。また、カスタムモードを使うと、撮影機能を任意の設定で登録して、必要なときにすぐに呼び出すことができます。

■ 撮影モードの種類

各撮影モードの詳細はそれぞれのページをご覧ください。

P	プログラムAE (P.94)
A	絞り優先AE (P.96)
S	シャッター優先AE (P.98)
M	マニュアル(P.101)
B	バルブ撮影／タイム撮影(P.104)
	ライブコンポジット撮影(P.108)
	ムービー撮影(P.294)
C1 ~ C4	カスタム(P.111)

使用するモードのアイコン

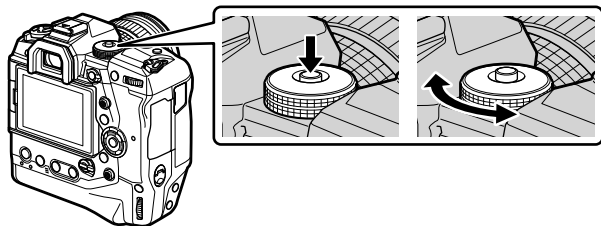


2

■ 撮影モードを設定する

1 モードダイヤルロックを押してロックを解除します。

- モードダイヤルロックが押し込まれているとき、モードダイヤルはロックされています。モードダイヤルロックを押すたびにロック／解除が切り換わります。



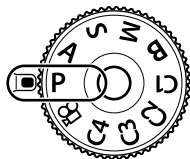
2 モードダイヤルを回して撮影モードを選択します。

3 モードダイヤルロックを押してモードダイヤルをロックします。

絞り値とシャッター速度を自動で設定して撮影する (P プログラムAE撮影)

被写体の明るさに応じて、最適な絞り値とシャッター速度をカメラが自動的に設定します。

1 モードダイヤルをPに合わせます。



2 被写体にピントを合わせて表示を確認します。
 ・カメラが設定したシャッター速度と絞り値が表示されます。

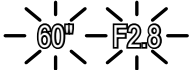
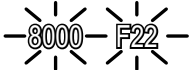
3 撮影します。



絞り値
 シャッター速度
 撮影モード

適正露出が得られないときは

シャッター速度と絞り値が以下のように点滅しているときは、適正露出が得られません。

警告表示例	状態と対処方法
絞り値が小さい値で シャッター速度が遅い場合 	被写体が暗すぎます。 ・フラッシュを使用してください。
絞り値が大きい値で シャッター速度が速い場合 	被写体が明るすぎます。 ・カメラの測光範囲を超えています。市販のNDフィルター（光量調節用）が必要です。 ・【♥】（静音撮影）に設定すると、シャッター速度を1/32000まで上げることができます。☑「2-10 ドライブの機能(☐/☺/☻)」(P.151)

- ・【☑ISO感度】の設定を固定しているときは、設定を変更してください。☑「感度を変更する(☑ISO感度)」(P.181)
- ・点滅時の絞り値は、使用するレンズおよび焦点距離によって変わります。

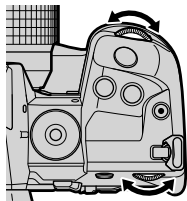
Pモード時の設定操作について

フロントおよびリアダイヤルで以下の機能を設定できます。

フロントダイヤル：露出補正(P.180)

リアダイヤル：プログラムシフト

- 露出補正は、**Q**ボタンでも設定できます。**Q**ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回します。



- フロント/リアダイヤルで設定できる機能を、変更することができます。カスタムメニュー **B1** **[カメラダイヤル機能]** (P.473)
- Fn**レバーの位置を切り換えて、フロント/リアダイヤルで設定できる機能の変更ができます。また、**Fn**レバーの機能も変更することができます。カスタムメニュー **B1** **[カメラFnレバー機能]** (P.475)

プログラムシフトについて

自動的に設定された絞り値とシャッター速度の組み合わせを、露出を変えずに変更することができます。これをプログラムシフトといいます。

- 使いたい絞り値、またはシャッター速度が表示されるまでリアダイヤルを回します。
- プログラムシフトにすると、画面の撮影モードの**P**が**Ps**と表示されます。プログラムシフトを解除するには、表示が**P**になるまで、リアダイヤルを逆に回します。



プログラムシフト



- 画面の表示に露出補正の設定を反映するか、常に見やすい明るさで表示するかを選ぶことができます。初期設定では、露出補正を反映した明るさで表示します。カスタムメニュー **[LVブースト]** (P.200)

絞り値(F値)を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正なシャッター速度を自動的に設定します。絞り値の数値を小さくする(絞りを開く)ほど、ピントの合う範囲(被写界深度)が狭くなり、背景のボケが強くなります。絞り値の数値を大きくする(絞りを絞る)ほど、ピントの合う範囲が前後に広がります。

絞り値を小さくする

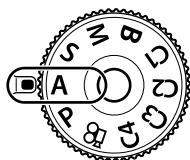
絞り値を大きくする

・・・ F2.8 ← F4.0 ← F5.6 → F8.0 → F11 ……

ピントの合う範囲が狭くなり、
ボケが強くなる

ピントの合う範囲が広がる

1 モードダイヤルをAに合わせます。



2

2 絞り値を設定します。

- 初期設定では、リアダイヤルで絞り値の設定ができます。
- シャッター速度が自動的に設定され画面に表示されます。

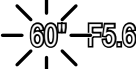
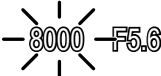

3 撮影します。




絞り値

適正露出が得られないときは

シャッター速度が以下のように点滅しているときは、適正露出が得られません。

警告表示例	状態と対処方法
シャッター速度が遅い場合 	露出アンダー（露出不足）です。 • 絞り値を小さくしてください。
シャッター速度が速い場合 	露出オーバー（露出過度）です。 • 絞り値を大きくしてください。 • 絞り値を大きくしても解消されないときは、カメラの測光範囲を超えています。市販のNDフィルター（光量調節用）が必要です。 • [♥]（静音撮影）に設定すると、シャッター速度を1/32000まで上げることができます。☞ 「2-10 ドライブの機能（  ）」（P.151）

- [ISO感度]の設定を固定しているときは、設定を変更してください。☞ 「感度を変更する（ISO感度）」（P.181）



2

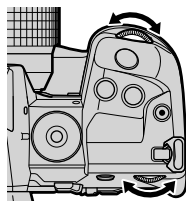
Aモード時の設定操作について






フロントおよびリアダイヤルで以下の機能を設定できます。

フロントダイヤル：露出補正（P.180）

リアダイヤル：絞り値

- 露出補正は、ボタンでも設定できます。ボタンを押しながらフロント／リアダイヤルを回します。



- フロント／リアダイヤルで設定できる機能を変更することができます。☞ カスタムメニュー **B1** [ダイヤル機能]（P.473）
- **Fn**レバーの位置を切り換えて、フロント／リアダイヤルで設定できる機能の変更ができます。また、**Fn**レバーの機能も変更することができます。☞ カスタムメニュー **B1** [Fnレバー機能]（P.475）
- 画面の表示に露出補正の設定を反映するか、常に見やすい明るさで表示するかを選ぶことができます。初期設定では、露出補正を反映した明るさで表示します。☞ [LVブースト]（P.200）
- 設定した値まで実際に絞りを動作させて効果を確認できます（プレビュー）。☞ [ボタン機能]（P.464）

シャッター速度を決めて撮影する

(S シャッター優先AE撮影)

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正な絞り値を自動的に設定します。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体でも止まっているように撮影できます。シャッター速度を遅くすると、動いているものはぶれて撮影されますが、躍動感や動きのある仕上がりになります。

シャッター速度を遅くする

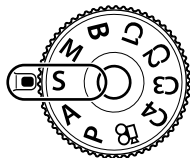
60" ← 15 ← 30 ← 60 → 125 → 250 → 8000

躍動感や動きのある
仕上がりになる

シャッター速度を速くする

動きの速い被写体を
止まったように撮影する

1 モードダイヤルを**S**に合わせます。



2 シャッター速度を設定します。

- 初期設定では、リアダイヤルでシャッター速度の設定ができます。
- シャッター速度は、1/8000～60秒に設定できます。
- 静音撮影に設定時は、1/32000秒まで設定できます。
- [静音[♥]撮影] (P.163)
- 絞り値が自動的に設定され画面に表示されます。

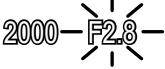
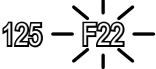




シャッター速度

3 撮影します。

適正露出が得られないときは

絞り値が以下のように点滅しているときは、適正露出が得られません。

警告表示例	状態と対処方法
絞り値が小さい場合 	露出アンダー（露出不足）です。 <ul style="list-style-type: none">シャッター速度を遅くしてください。
絞り値が大きい場合 	露出オーバー（露出過度）です。 <ul style="list-style-type: none">シャッター速度を速くしてください。シャッター速度を速くしても解消されないときは、カメラの測光範囲を超えています。市販のNDフィルター（光量調節用）が必要です。[♥]（静音撮影）に設定すると、シャッター速度の上限を1/32000まで上げることができます。[2-10] ドライブの機能（）（P.151）



- **[ISO感度]**の設定を固定しているときは、設定を変更してください。**[2-10]** 「感度を変更する（ ISO感度）」（P.181）
- 点滅時の絞り値は、使用するレンズおよび焦点距離によって変わります。

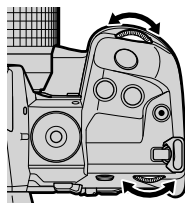
Sモード時の設定操作について










フロントおよびリアダイヤルで以下の機能を設定できます。

フロントダイヤル：露出補正 (P.180)

リアダイヤル：シャッター速度

- 露出補正は、ボタンでも設定できます。ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回します。



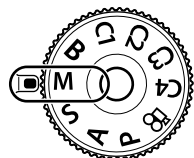
- フロント/リアダイヤルで設定できる機能を、変更することができます。  カスタムメニュー  **ダイヤル機能** (P.473)
- Fn**レバーの位置を切り換えて、フロント/リアダイヤルで設定できる機能の変更ができます。また、**Fn**レバーの機能も変更することができます。  カスタムメニュー  **Fnレバー機能** (P.475)
- 画面の表示に露出補正の設定を反映するか、常に見やすい明るさで表示するかを選ぶことができます。初期設定では、露出補正を反映した明るさで表示します。 **LVブースト** (P.200)
- 低速のシャッター速度が使えない明るい環境でも、長秒時シャッターで撮影したような効果を得ることができます。 **ライブND撮影** (P.197)
- 蛍光灯やLED光源の環境では、設定したシャッター速度によっては、光源のちらつき（フリッカー）の影響で、モニターに縞模様やちらつきが発生する場合があります。撮影時のちらつきを抑えたり、記録する画像に写るのを防ぐことができます。 **フリッカー低減** (P.190)、**フリッカースキャン** (P.193)

絞りとシャッター速度を自分で決めて撮影する

(M マニュアル撮影)

絞り値とシャッター速度を自分で設定します。被写体に合わせて速いシャッター速度にしつつ、絞り込んで被写界深度を確保するといった、狙いに合わせた撮影ができます。

1 モードダイヤルをMに合わせます。



2 絞り値とシャッター速度を設定します。


- 初期設定では、フロントダイヤルで絞り値、リアダイヤルでシャッター速度の設定ができます。
- シャッター速度は1/8000～60秒に設定できます。
- 【♥】(静音撮影)に設定すると、シャッター速度を1/32000まで上げることができます。☞「2-10 ドライブの機能(☞/☞/☞)」(P.151)
- 設定されている絞り値とシャッター速度による露出と、カメラが測った適正露出との差が画面に表示されます。差が±3以上になると表示が点滅します。
- 【📷ISO感度】が【AUTO】(オート)のときは、設定した露出で適正露出になるようにISO感度が設定されます。【📷ISO感度】は初期設定では【AUTO】です。☞「感度を変更する(📷ISO感度)」(P.181)






適正露出との差

3 撮影します。

適正露出が得られないときは

【ISO感度】が【AUTO】で、適正露出が得られないときは、ISO感度表示が以下のように点滅します。

警告表示例	状態と対処方法
	露出オーバーです。 <ul style="list-style-type: none">絞りを大きくするか、シャッター速度を速くしてください。
	露出アンダーです。 <ul style="list-style-type: none">絞りを小さくするか、シャッター速度を遅くしてください。それでも解消されないときは、【ISOオート設定】で【上限値】を上げてください。



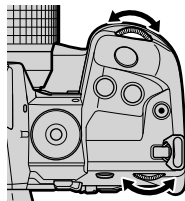
- 蛍光灯やLED光源の環境では、設定したシャッター速度によっては、光源のちらつき（フリッカー）の影響で、モニターに縞模様やちらつきが発生する場合があります。撮影時のちらつきを抑えたり、記録する画像に写るのを防ぐことができます。☞【フリッカー低減】（P.190）、【フリッカースキャン】（P.193）
- 画面の表示に露出の設定を反映するか、常に見やすい明るさで表示するかを選ぶことができます。初期設定では、露出の設定を反映して表示する設定がされています。☞【LVブースト】（P.200）







Mモード時の設定操作について

フロントおよびリアダイヤルで以下の機能を設定できます。

フロントダイヤル：絞り値



リアダイヤル：シャッター速度



- フロント／リアダイヤルで設定できる機能を、変更することができます。☞   カスタムメニュー **B1** 【ダイヤル機能】（P.473）
- **Fn**レバーの位置を切り換えて、フロント／リアダイヤルで設定できる機能の変更ができます。また、**Fn**レバーの機能も変更することができます。☞   カスタムメニュー **B1** 【Fnレバー機能】（P.475）

Mモード時の露出補正について

Mモード時に[ISO感度]が[AUTO]（オート）のときは露出補正の設定ができます。ISO感度の変更によって露出補正を行うため、絞り値やシャッター速度の設定は変更されません。☞ [ISO感度] (P.181)、[ISOオート設定] (P.183)

- 露出補正は、 ボタンを使って設定します。 ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回します。
- 露出補正を行うと、設定値と適正露出との差に、設定した補正値が加味されて画面に表示されます。



露出補正值

補正値を加味した
露出設定値との差

バルブ／タイム撮影を行う

(B 長秒時撮影)

シャッターを長時間開いて露光をします。ライブビューの画面で仕上がりを確認しながら任意のタイミングで撮影を終了することもできます。夜景や打ち上げ花火のような長時間の露光が必要なときに設定します。

バルブ撮影(BULB)、ライブバルブ撮影(LIVE BULB)

シャッターボタンを押している間、露光を続けます。シャッターボタンを離すと露光が終了します。

- 露光中の明るさは加算されます。
- ライブバルブ撮影のときは、露光中の画像をライブビューで表示する間隔を設定できます。

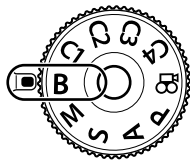
タイム撮影(TIME)、ライブタイム撮影(LIVE TIME)

シャッターボタンを全押しすると露光を始めます。露光を終了するときは、もう一度シャッターボタンを全押しします。

- 露光中の明るさは加算されます。
- ライブタイム撮影のときは、露光中の画像をライブビューで表示する間隔を設定できます。

2

1 モードダイヤルを**B**に合わせます。



2 バルブ撮影またはタイム撮影に設定します。

- 初期設定では、リアダイヤルで設定します。



バルブ撮影、タイム撮影

3 **MENU**ボタンを押します。

- 撮影中のライブビュー表示の間隔を設定するメニューが表示されます。

4 十字ボタンの△▽で表示更新間隔を設定します。

- **[Off]**に設定すると撮影中のライブビュー表示はしません。



5 OKボタンを押して設定を確定します。

- メニュー画面が表示されます。

6 シャッターボタンを半押しして、メニュー画面を終了します。

- **[Off]**以外に設定したときは、画面に**[LIVE BULB]**または**[LIVE TIME]**と表示されます。

7 絞り値を設定します。

- 初期設定では、フロントダイヤルで設定します。



絞り値

8 撮影します。

- バルブまたはライブバルブ撮影の場合はシャッターボタンを押し続けます。シャッターボタンを離すと撮影は終了します。
- タイムまたはライブタイム撮影の場合はシャッターボタンを全押しして撮影を開始し、撮影を終えるときにもう一度シャッターボタンを全押しします。
- **[BULB/TIMEリミッター]**で設定されている時間に達すると自動的に撮影を終了します。初期設定は**[8分]**です。設定は変更できます。📷 **[BULB/TIMEリミッター]** (P.533)
- 撮影後に**[長秒時ノイズ低減]**が働きます。ノイズ低減処理中は、画面に処理が終了するまでの時間が表示されます。**[長秒時ノイズ低減]**の動作は選択できます (P.533)。

- ライブタイムで撮影中にシャッターボタンを半押しすると、表示を更新できます。
- 設定できるISO感度に制限があります。
- ライブバルブ撮影では、多重露出/デジタルシフト/フィッシュアイ補正に設定するとバルブ撮影になります。
- ライブタイム撮影では、多重露出/デジタルシフト/フィッシュアイ補正に設定するとタイム撮影になります。
- 撮影中は、以下の撮影機能の設定に制限があります。
連写/セルフタイマー撮影/インターバル撮影/AEブラケット撮影/フラッシュブラケット/多重露出撮影/ライブバルブ撮影中/ライブタイム撮影中など
- **[手ぶれ補正]** (P.176)は自動的にオフになります。
- カメラの設定や温度や環境条件によっては、モニターに表示される画像にノイズや輝点が目立つ場合があります。また、これらは**[長秒時ノイズ低減]** (P.533)が設定されていても撮影画像に写る場合があります。



- バルブ/タイム撮影中の画面の明るさは変更できます。初期設定では暗く設定されています。
[BULB/TIME輝度設定] (P.534)
- バルブ/タイム撮影では、被写体が暗くても見やすい明るさで表示します。表示される画質を優先するか、表示速度を優先するかなどの設定をすることができます。**[LVブースト]** (P.200)



画像のノイズについて

長秒時の撮影では、画面にノイズが多く発生する場合があります。これは撮像素子の温度上昇や、撮像素子内部の駆動回路が熱源となり、本来撮像素子に光のあたっていない部分にも電流を発生させてしまうためです。この現象は、高温の環境でISO感度を上げたり、長秒時の露出で顕著に表れます。これらのノイズを軽減するために、このカメラは長秒時ノイズ低減が働きます。

[長秒時ノイズ低減] (P.533)

ピントを操作しながら撮影する (BULB/TIME中MF)

撮影モードが**B** (バルブ)のとき、露光中にマニュアルでピント位置を変更することができます。露光中にピントを外したり、露光終わりのタイミングでピントを合わせるなどの技法を使った撮影ができます。

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 **★**カスタムメニュー **A4** (AF/MF)のメニューを表示します。



- 3 十字ボタンの△▽で**[BULB/TIME中MF]**を選択し、▷ボタンを押します。



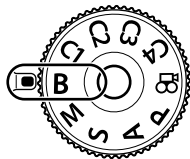
2

- 4 △▽ボタンで設定を変更します。
[Off]：露光中、手動でのピント位置の操作はできません。
[On]：露光中に手動でピント位置を操作できます。
- 5 **OK**ボタンを押して設定を確定します。
 - **★**カスタムメニュー **A4**の画面に戻ります。
- 6 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。
 - シャッターボタンを半押ししてメニューを終了することもできます。

比較明合成撮影を行う (B ライブコンポジット撮影)

シャッターを長時間開いて露光をします。背景の明るさを変えずに、花火や星などの明るい光跡の変化を観察しながら撮影できます。複数枚を合成し、1枚の画像として記録します。

1 モードダイヤルを**B**に合わせます。



2 [LIVE COMP]に設定します。

- 初期設定ではリアダイヤルを回して設定します。

3 **MENU**ボタンを押します。

- [コンポジット撮影設定]の設定画面が表示されます。



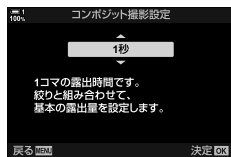
ライブコンポジット撮影

4 十字ボタンの△▽で1コマの露出時間を設定します。

- 露出時間は、1/2秒～60秒の間で設定できます。

5 **OK**ボタンを押して設定を確定します。

- メニュー画面が表示されます。



6 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

- シャッターボタンを半押ししてメニューを終了することもできます。

7 撮影準備のためにシャッターボタンを全押しします。

- モニターに[コンポジット撮影できます]の表示が出たら撮影できます。
- フロントダイヤルで絞り値を設定します。設定した露出と適正露出との差が露出バーに表示されます。



8 シャッターボタンを押して撮影を開始します。

- ライブコンポジット撮影が始まります。設定した露出時間ごとにモニターの画像が更新されます。

9 もう一度シャッターボタンを押して撮影を終了します。

- ライブコンポジット撮影では最長で3時間の撮影が可能です。撮影可能時間は、撮影環境や充電状態などによって変わります。
- 設定できるISO感度に制限があります。
- 以下の機能とは併用できません。
連写／セルフタイマー撮影／インターバル撮影／AEブラケット撮影／フラッシュブラケット撮影／フォーカスブラケット撮影／HDR撮影／ハイレゾショット／多重露出撮影／デジタルシフト／ライブND撮影／フィッシュアイ補正撮影
- **【📷手ぶれ補正】** (P.176)は自動的にオフになります。



- ライブコンポジット撮影中の画面の明るさは変更できます。初期設定では暗く設定されています。🔊 **【BULB/TIME輝度設定】** (P.534)

コンポジット撮影時のシャッター速度を設定する

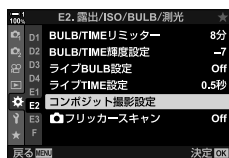
(コンポジット撮影設定)

ライブコンポジット撮影の1コマの露出時間は、あらかじめメニューで設定しておくことができます。

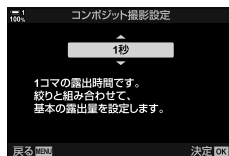
- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 **★カスタムメニュー E2** (露出/ISO/BULB/測光)のメニューを表示します。



- 3 十字ボタンの△▽で[コンポジット撮影設定]を選択し、▷ボタンを押します。



- 4 △▽ボタンで設定を変更します。
 - 露出時間は、1/2秒～60秒の間で設定できます。



- 5 **OK**ボタンを押して設定を確定します。
 - **★カスタムメニュー E2**の画面に戻ります。
- 6 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

任意の設定をモードダイヤルに登録する

(C1/C2/C3/C4 カスタムモード)

撮影でよく使う機能の設定と撮影モードをカスタムモードとして登録しておき、必要なときにモードダイヤルの操作だけで呼び出して使うことができます。また、設定を登録したメニューから、直接設定を呼び出すこともできます。

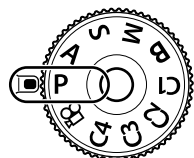
- **C1** ~ **C4**それぞれに設定を登録できます。
- 初期設定では、**P**モードの設定が登録されています。

残しておきたい設定内容を登録する

(カスタム登録)

- 1 撮影モードを**P**、**A**、**S**、**M**、**B**のいずれかにして、カメラの設定を登録したい内容にします。

- 設定を登録できる機能は、メニュー一覧(P.641)をご覧ください。

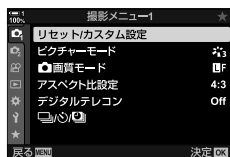


2

- 2 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

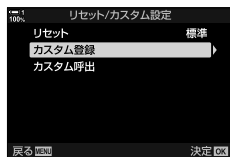
- 3 撮影メニュー1で[リセット/カスタム設定]を選択し、十字ボタンの▷を押します。

- [リセット/カスタム設定]の画面が表示されます。



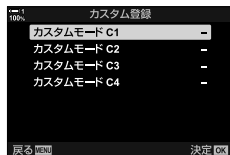
- 4 ボタンで[カスタム登録]を選択し、▷ボタンを押します。

- [カスタム登録]の画面が表示されます。

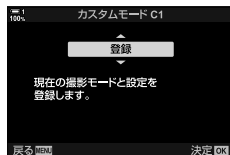


- 5 ボタンで設定したいモードを**C1**、**C2**、**C3**、**C4**から選択し、▷ボタンを押します。

- 選択したカスタムモードの画面が表示されます。



- 6 △▽ボタンで[登録]を選択し、OKボタンを押します。
- 設定が登録されて[カスタム登録]の設定画面に戻ります。
 - すでに登録されている内容があるときは、現在の設定内容が上書きされます。
 - [クリア]を選択してOKボタンを押すと、初期設定に戻ります。



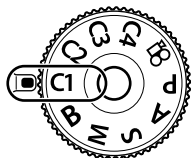
- 7 MENUボタンを繰り返し押しして、メニューを終了します。

カスタムモードを使う (C1/C2/C3/C4)

カメラの設定を撮影モードも含めて、登録した設定内容にします。

- 1 モードダイヤルを機能を登録した**C1/C2/C3/C4**のいずれかに設定します。

- 登録したカスタムモードの設定になります。



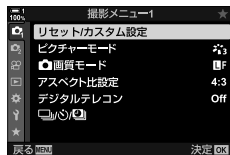
- 各種機能の設定は変更できますが、登録されている内容には反映されません。モードダイヤルを回すと登録された内容に戻ります。

■ 登録されている設定を呼び出す

撮影モードが**P**、**A**、**S**、**M**、**B**のときに、カスタムモードに登録された機能設定だけを呼び出すことができます。撮影モードはモードダイヤルで設定されているモードのまま変更されません。

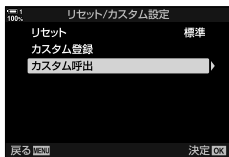
- 1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。

- 2 撮影メニュー1で[リセット/カスタム設定]を選択し、十字ボタンの▷を押します。
- [リセット/カスタム設定]の画面が表示されます。

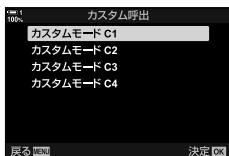


- 3 △▽ボタンで[カスタム呼出]を選択し、▷ボタンを押します。

- [カスタム呼出]の画面が表示されます。

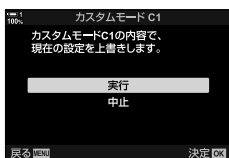


- 4 △▽ボタンで呼び出すカスタムモードを選択し、▷ボタンを押します。



- 5 △▽ボタンで[実行]を選択し、OKボタンを押します。

- 撮影メニュー 1の画面に戻ります。



- 6 MENUボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

■ Fnボタンで使う

[カスタム呼出]の機能を任意のボタンに割り当てて、実行することができます。ボタンを押すだけで登録したカスタムモードを呼び出して設定できます。撮影モードも設定されます。ボタンを押すたびに、呼び出しと解除が切り換わります。📷⚙️
カスタムメニュー B1 【📷ボタン機能】(P.463)

2-9 ピント合わせの機能

ピント合わせは、**AF**（オートフォーカス）と**MF**（マニュアルフォーカス）による方法があります。


AFでは、決めた位置でピントを合わせたり、動く被写体にピントを合わせ続けるなどの機能があります。特に、動く被写体は、被写体の種類や撮影条件に合わせてカメラをカスタマイズすることで、より多くのタイプの被写体を撮影することができます。ここでは、**AF**の撮影機能や、それらと組み合わせて使うことでより**AF**の性能を引き出せるカスタム機能を説明します。

オートフォーカスの動作方式や手動でのピント合わせについての設定を行います。

オートフォーカス : カメラが自動的に被写体にピントを合わせます。シャッターボタン半押しに対して、被写体に一度だけ合焦するシングルAF (P.115)、ピント合わせを繰り返すコンティニュアスAF (P.115) があります。また、被写体を検出して追い続ける追尾AF (P.116) があります。


マニュアルフォーカス : フォーカスリングを操作して、手動でピント合わせを行います (P.116)。また、設定してある距離にピント位置を移動するプリセットMF (P.116) もあります。

AF+MF : フォーカスリングを操作してマニュアルフォーカス動作ができます。合焦後にピント位置を調整したり、オートフォーカスを中断してマニュアルフォーカスを行うことができます (P.117)。★カスタムメニュー **A1** **[📷AF+MF]** が **[On]** のとき、**[S-AF]** **[C-AF]** **[C-AF+TR]** に **MF** が表示されます (P.481)。初期設定では **[Off]** に設定されています。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - **AF**  ボタン (P.118)
 - LVスーパーコンパネ (P.119)
 - LVコントロール (P.119)
 - メニュー (P.119)
- 合焦時の音やAFターゲットの点灯についてはカメラが初期設定の状態のときのもので。

シングルAF (S-AF , S-AF)

静物や動きの少ない被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しするとピント合わせを1回行います。


- ピントが合うとピピッと音が鳴ります。合焦マークとピント合わせを行ったAFターゲットが表示されます。
- [S-AF **] のときは、**[AF+MF]** の操作ができます。合焦後にシャッターボタンを半押しのままマニュアルフォーカスの操作ができます (P.117)。



AFターゲット

コンティニュアスAF (C-AF , C-AF)

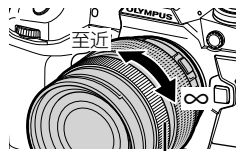
撮影距離が絶えず変化する動く被写体を追いながら撮影するのに適しています。シャッターボタンを半押ししている間、繰り返しピント合わせを行います。

- ピントが合うたびに合焦マークが表示されます。1回目の合焦時のみピピッと音がしてAFターゲットが表示されます。
- [C-AF **] のときは、**[AF+MF]** の操作ができます。オートフォーカス中、フォーカスリングを回すとオートフォーカス動作を中止して、マニュアルフォーカスに切り換えることができます (P.117)。

マニュアルフォーカス(MF)

手動でピント合わせを行います。

- レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- MFクラッチ機能を搭載しているレンズをお使いのときは、カメラのAF方式の設定に関わらずフォーカスリングで瞬時にマニュアルフォーカスに切り換えることができます。☞「レンズのMFクラッチ(マニュアルフォーカスクラッチ)」(P.127)
- MFクラッチは無効にすることもできます。☞「[MFクラッチ]」(P.128)



フォーカスリング

追尾AF (C-AF+TR MF、C-AF+TR)

フレーミングを大きく変えずに、特定の被写体にピントを合わせ続けて撮影するのに適しています。カメラが被写体を検出すると、シャッターボタンを半押ししている間は被写体が移動してもピントを合わせ続けます。

- シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせると、カメラが被写体を検出します。シャッターボタンを半押ししている間、検出した被写体を追尾してピントを合わせ続けます。
- 被写体を検出しているときは、合焦マークと追尾中を示すAFターゲットが表示されます。被写体を追尾できなくなると、AFターゲットが赤色に変わります。シャッターボタンを押しなおしてください。
- [C-AF+TR MF]のときは、[AF+MF]の操作ができます。オートフォーカス中、フォーカスリングを回すとオートフォーカス動作を中止して、マニュアルフォーカスに切り換えることができます(P.117)。
- 以下の機能では追尾AFは使用できません。
デジタルシフト/ハイレゾショット/深度合成/フォーカスブラケット撮影/インターバル撮影/HDR撮影/ライブND撮影/フィッシュアイ補正撮影

合焦マーク



検出した被写体を追尾しているときのターゲット表示

プリセットMF (PreMF)

[PreMF]に設定すると、あらかじめ設定しておいた距離にピント位置が設定されます。☞「あらかじめ決めた距離にピントを合わせる(プリセットMF)」(P.129)

AF+MF (S-AF MF、C-AF MF、C-AF+TR MF)

マニュアルフォーカス動作が有効になります。AF方式によって動作が異なります。

★カスタムメニュー **A1** [📷AF+MF]で[On]に設定すると選択できます(P.481)。

S-AF MF

：S-AFで合焦後、シャッターボタンを半押ししたままマニュアルフォーカスでピント位置の調整ができます。また、AF動作中にフォーカスリングを動かして、マニュアルフォーカスに切り換えることができます。露光中や[連写L]での連写中のマニュアルフォーカスも可能です。

C-AF MF、C-AF+TR MF：C-AFやC-AF+TRで動作中、フォーカスリングを動かして、マニュアルフォーカスに切り換えることができます。再度オートフォーカスを行うときは、シャッターボタンを半押しし直してください。露光中や[連写L]での連写中のマニュアルフォーカスも可能です。

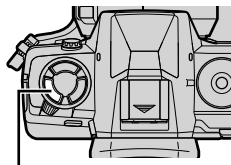
- AF動作を他のボタンに割り当てているときも、同様の動作をします。📷 [📷AEL/AFLモード] (P.141)
- フォーカスリングを動かしてAFを中断する動作は、M.ZUIKO PRO (マイクロフォーサーズPRO)レンズでのみ可能です。その他のレンズでの対応は当社ホームページをご覧ください。
- 撮影モードが**B** (バルブ)では、露光中のマニュアルフォーカスは、[BULB/TIME中MF]の設定で動作します。



- ★カスタムメニューで音を消したり、AFターゲットの点灯の仕方を変えることができます。📷 [電子音] (P.527)、[AFターゲット表示] (P.486)
- レンズのフォーカスリングを操作したときに自動的に画面のAFターゲットの位置を拡大して表示したり、ピントの合っている輪郭を強調して表示することができます。📷 [MFアシスト] (P.495)
- **Fn**レバーだけで以下のAF機能の設定を同時に変更することができます。1、2のそれぞれの位置で、別々の設定を記憶させておくことができます。撮影状況に合わせて簡単にAFの機能設定を変えることができます。
[AF方式]、[AFターゲットモード] (P.120)、[AFターゲット位置] (P.123)
- ★カスタムメニュー **B1** [📷Fnレバー機能]で**Fn**レバーの働きを設定します(P.475)。

■ AF ボタンで設定する

1 AF ボタンを押します。



AF ボタン

- [AF方式]のメニュー画面が表示されます。

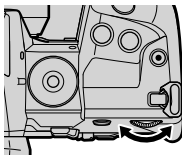


[AF方式]のメニュー

2

2 リアダイヤルを回します。

- ボタンを押しながらリアダイヤルを回して設定することもできます。
- [AF+MF] (P.481)が[Off]のときは、[S-AF] / [C-AF] / [MF] / [C-AF+TR] / [PreMF]のみ表示されます。



3 シャッターボタンを半押しすると、設定を終了して撮影画面に戻ります。

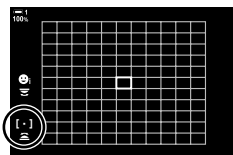
ピント合わせの範囲を選ぶ (AFターゲットモード)

ピントを合わせる位置や範囲を示す緑の枠をAFターゲットと呼びます。[AFターゲットモード]は、その範囲や数を設定する機能です。AFターゲットの数が少ないと画面の狭い範囲でオートフォーカスをし、AFターゲットの数が多いと画面の広い範囲でオートフォーカスをします。被写体をAFターゲットで追いやすときは[シングルターゲット]、難しいときは[グループターゲット]や[オールターゲット]が有効です。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - マルチセレクター (P.121)
 - LVスーパーコンパネ (P.122)

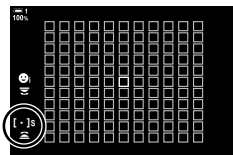
[.] シングルターゲット

1つのAFターゲットを選びます。



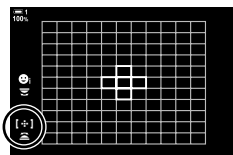
[.]s スモールターゲット

シングルターゲットよりサイズの小さいAFターゲットに変更できます。被写体が小さいときやより狭い範囲にピントを合わせたいときに使います。



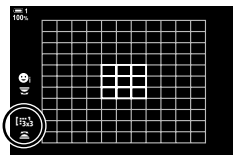
[+] グループターゲット(5点)

十字に配置された5点のAFターゲットを使います。5点の中からカメラが自動的にピントを合わせる位置を選びます。



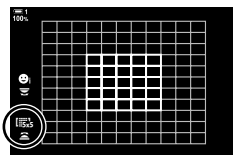
[+]s グループターゲット(3×3)

9点のAFターゲットを使います。9点の中からカメラが自動的にピントを合わせる位置を選びます。



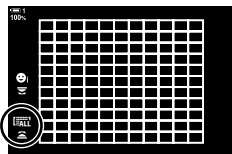
[+]s グループターゲット(5×5)

25点のAFターゲットを使います。25点の中からカメラが自動的にピントを合わせる位置を選びます。



ALL オールターゲット(11×11)

すべてのAFターゲットの中から、カメラが自動的にピントを合わせる位置を選びます。

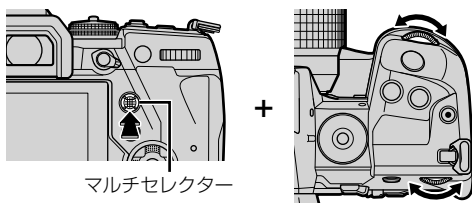


カスタムターゲット

★カスタムメニュー A2の[ターゲットモード設定] (P.125)で設定されているAFターゲットを使います。初期設定では、シングルターゲットになっています。

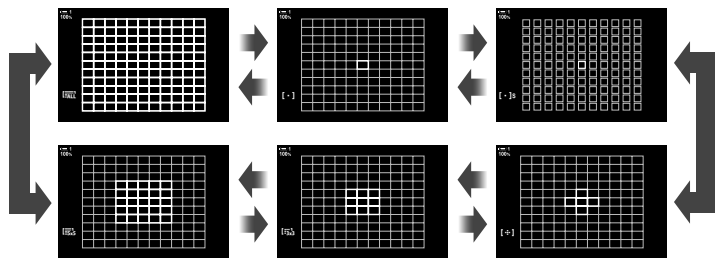
■ マルチセレクターで設定する

1 マルチセレクターを押しながらフロント/リアダイヤルを回します。



マルチセレクター

- ターゲットモードが切り換わります。



- カスタムターゲットは、初期設定では表示されません。[Mode表示設定] (P.485)で表示します。

2 設定したらマルチセレクターを離します。

- 設定画面が消えます。
- 十字ボタンまたはFnボタンに[:::] (AFターゲット選択)が設定されているときは、十字ボタンを使って設定できます。△▽◀▶ボタンを押すとターゲット選択の画面が表示されます。フロントダイヤルで選択します。初期設定では、十字ボタンは、[:::] (AFターゲット選択)に設定されています。
- 次の場合は、表示されるAFターゲットの数が少なくなります。
 - [デジタルテレコン] (P.235)が[On]のとき
 - [アスペクト比設定] (P.233)が[4:3]以外のとき



- マルチセレクターを使って、AFターゲット選択画面を表示することもできます。*カスタムメニュー **B1** の【**中央ボタン機能**】で設定します (P.499)。
- AFターゲットモードの設定は、カメラの縦位置と横位置で別々に設定できます。☞【**カメラ機能**】**縦位置/横位置切換** (P.489)
- **Fn**レバーの操作だけで、以下のAF機能の設定を同時に変更することができます。1、2のそれぞれの位置で、別々の設定を記憶させておくことができます。撮影状況に合わせて簡単にAFの機能設定を変えることができます。
 【AF方式】 / 【AFターゲットモード】 (P.120) / 【AFターゲット位置】 (P.123)
 *カスタムメニュー **B1** 【**Fnレバー機能**】 (P.475) で **Fn**レバーの働きを設定します。
- 【**C-AF**】で撮影時のAFターゲットエリアに関する設定ができます。☞【**カメラ機能**】**C-AF中央スタート** (P.147)、【**カメラ機能**】**C-AF中央優先** (P.148)
- ボタンを押してからフロントダイヤルで設定することもできます。【**カメラ機能**】で【**カメラ機能**】**選択**を割り当てたボタンを押して、AFターゲット選択画面を表示します。フロントダイヤルを回して設定を選択します。【**カメラ機能**】**選択**は初期設定では、**Fn**ボタンに割り当てられています。☞【**カメラ機能**】 (P.463)

2

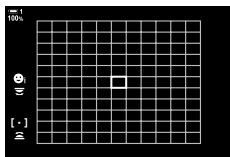
■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで【AFターゲット選択】を選択して**OK**ボタンを押します。



AFターゲット選択

- AFターゲット選択画面が表示されます。



- 2 フロントダイヤルを回して、ターゲットモードを選択します。

- AFターゲットの設定に使うダイヤルや十字ボタンの動きをカスタマイズできます。*カスタムメニュー **A2** の【**カメラ機能**】**選択画面設定**で設定します (P.488)。初期設定ではフロントダイヤルでAFターゲットモードの変更をします。

- 3 シャッターボタンを半押しして、設定画面を終了します。

- **AF** (オールターゲット) で、【**カメラ機能**】**AF方式** (P.115) が【**S-AF**】、【**S-AFMF**】、【**C-AF**】、【**C-AFMF**】のいずれかで、【**AFターゲット表示**】 (P.486) が【**On2**】のとき、AFターゲットはクラスター表示になります。ピントの合っている箇所のAFターゲットが表示されます。



ピント合わせの位置を自分で決める

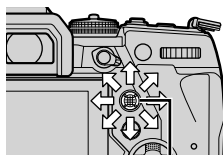
(AFターゲット位置)

ピントを合わせる位置や範囲を示す緑の枠をAFターゲットと呼びます。ピントを合わせたい位置にAFターゲットを移動することができます。カメラが初期設定のときは、マルチセレクターでAFターゲットを移動できます。

- **[AFターゲットモード]** (P.120)が、**AF** (オールターゲット)以外のときに設定できます。
- この機能は以下の方法で設定できます。
 - マルチセレクター
 - LVスーパーコンパネ(P.124)

■ マルチセレクターで設定する

1 マルチセレクターを動かしてAFターゲットを移動します。



マルチセレクター

- マルチセレクターを最初に動かしたときにAFターゲットが緑の枠で表示されます。
- マルチセレクターを押すか、**OK**ボタンを長押しすると、AFターゲットを中央に戻すことができます。



AFターゲット

2 撮影します。

- 設定画面はシャッターボタンを半押しすると消えます。
- AFターゲットを設定した位置にAFフレームが表示されます。
- 十字ボタンまたは**Fn**ボタンに $[:::]$ (AFターゲット選択)が設定されているときは、十字ボタンを使って設定できます。 $\Delta \nabla \langle \rangle$ ボタンを押すとAFターゲットが表示されます。初期設定では、十字ボタンは、 $[:::]$ (AFターゲット選択)に設定されています。
- **[OKボタン機能]** (P.463)で $[:::]$ 選択がボタンに割り当てられていると、ボタンを押してからマルチセレクターや十字ボタンでAFターゲットを移動できます。初期設定では、**Fn**ボタンに割り当てられています。
- **[C-AF]**および**[C-AF MF]**では、ピントを合わせ続けている間もAFターゲット位置を動かすことができます。



- **[AFターゲットパッド]**が**[On]**のときは、ファインダーをのぞきながらモニターにタッチしてAFターゲットを移動することができます。☞ **[AFターゲットパッド]** (P.486)

■ LVスーパーコンパネで設定する

1 LVスーパーコンパネで**[AFターゲット選択]**を選択し、**OK**ボタンを押します。

- AFターゲット選択画面が表示されます。
- AFターゲットの数は、設定されているAFターゲットモードによって異なります。



AFターゲット選択

2 十字ボタン(△▽◀▶)でAFターゲットを移動します。

- マルチセレクターを動かしてAFターゲットを移動することもできます。
- マルチセレクターを押すか**OK**ボタンを長押しすると、AFターゲットを中央に戻すことができます。
- AFターゲットの設定に使うダイヤルや十字ボタンの動きをカスタマイズできます。**★カスタムメニュー A2**の**[I:]選択画面設定]**で設定します(P.488)。初期設定では、十字ボタンでAFターゲットの移動をします。



AFターゲット

3 シャッターボタンを半押しして、設定画面を終了します。

- 次の場合は、表示されるAFターゲットの数が少なくなります。
 - **[デジタルテレコン]** (P.235)が**[On]**のとき
 - **[アスペクト比設定]** (P.233)が**[4:3]**以外のとき



- 撮影画面でのマルチセレクターの操作を無効にすることができます。☞ **[☉方向キー機能]** (P.499)
- AFターゲット位置の設定は、カメラの縦位置と横位置で別々に設定できます。☞ **[☉I:]縦位置/横位置切換]** (P.489)
- **Fn**レバーの操作だけで、以下のAF機能の設定を同時に変更することができます。1、2のそれぞれの位置で、別々の設定を記憶させておくことができます。撮影状況に合わせて簡単にAFの機能設定を変えることができます。
 - [AF方式]** / **[AFターゲットモード]** (P.120) / **[AFターゲット位置]** (P.123)
 - ★カスタムメニュー B1** **[☉Fnレバー機能]** (P.475)で**Fn**レバーの動きを設定します。

AFターゲットをカスタマイズする

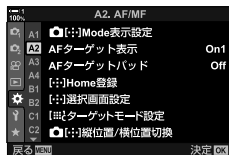
([AF]ターゲットモード設定)

AFターゲットの位置を移動させるときの動きやAFターゲットの数をカスタマイズできます。グループターゲットよりも範囲を広くしたり、動きが予想できる被写体に合わせて範囲を設定したい場合に有効です。また、AFターゲットの位置の移動量を設定できるので、位置の設定をする時の手間を少なくできます。4種類のカスタム設定を記憶させておくことができます。

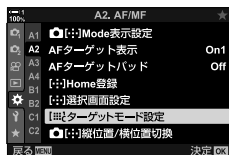
サイズ	AFターゲットの範囲を設定できます。横方向/縦方向のサイズを設定します。それぞれ1 / 3 / 5 / 7 / 9 / 11点の範囲で設定できます。
移動ステップ	AFターゲットを移動するときのステップ量を設定します。横および縦方向のステップを1～3ステップの間でそれぞれ設定できます。

1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。

2 *カスタムメニュー A2 (AF/MF)のメニューを表示します。

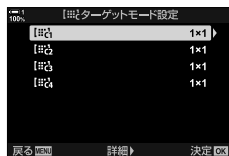


3 十字ボタンの△▽で[AF]ターゲットモード設定]を選択し、▷ボタンを押します。



4 △▽ボタンで登録するカスタムターゲットを選択し、▷ボタンを押します。

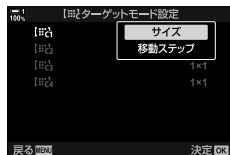
- 選択したカスタムターゲットの設定画面が表示されます。



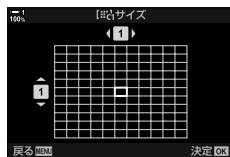
2

5 AFターゲットのサイズを設定します。

- △▽ボタンで**[サイズ]**を選択して**OK**ボタンを押すと、設定画面が表示されます。

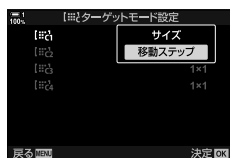


- ◀▶ボタンまたはフロントダイヤルで横方向のサイズを、△▽ボタンまたはリアダイヤルで縦方向のサイズを設定します。
- 設定を中断する場合は、**MENU**ボタンを押します。
- 設定が完了したら**OK**ボタンを押して、登録中のカスタムターゲットの設定画面に戻ります。

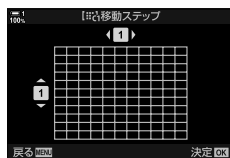


6 ステップを設定します。

- △▽ボタンで**[移動ステップ]**を選択して**OK**ボタンを押すと、設定画面が表示されます。



- ◀▶ボタンまたはフロントダイヤルで横方向のステップを、△▽ボタンまたはリアダイヤルで縦方向のステップを設定します。
- 設定を中断する場合は、**MENU**ボタンを押します。
- 設定が完了したら**OK**ボタンを押します。
- カスタムグループの登録を追加するときは、手順4~6を繰り返します。



7 MENUボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

- カスタムターゲットは、初期設定では表示されません。【Mode表示設定】(P.485)で表示します。
- カスタムターゲットを使うときは、AFターゲットモードでカスタムターゲットを選択します。☞ **[AFターゲットモード]** (P.120)

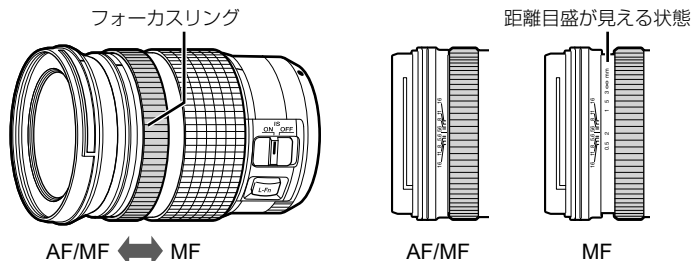


- 【**C-AF**】で撮影時のAFターゲットエリアに関する設定を、カスタムターゲット別に登録できます。☞ **[C-AF中央スタート]** (P.147)、**[C-AF中央優先]** (P.148)

レンズのMFクラッチ (マニュアルフォーカスクラッチ)

MFクラッチ(マニュアルフォーカスクラッチ)機構を搭載したレンズでは、フォーカスリングの位置を変えることによって、オートフォーカスとマニュアルフォーカスを簡単に切り換えることができます。

- お使いになる前に、フォーカスリングの状態を確認してください。
- フォーカスリングをAF/MFの位置(レンズ先端側)にするとオートフォーカスになり、MFの位置(カメラボディ側)にするとカメラのAF方式の設定に関わらずマニュアルフォーカスになります。



- カメラのAF方式が[MF]または[PreMF]の場合は、フォーカスリングをAF/MFの位置に切り換えても、オートフォーカスでの撮影はできません。

レンズのMFクラッチの機能を無効にします。不用意にMFクラッチが操作されてオートフォーカスが動作しないなどの誤操作を防ぐことができます。

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 **★**カスタムメニュー **A4** (AF/MF)のメニューを表示します。



- 3 十字ボタンの△▽で**[MFクラッチ]**を選択し、▷ボタンを押します。




2

- 4 △▽ボタンで設定を変更します。
[有効]：レンズのフォーカスリングの位置に従って動作します。
[無効]：レンズのフォーカスリングの位置に関わらず、カメラの**[AF方式]**の設定に従って動作します。
 - 5 **OK**ボタンを押して設定を確定します。
 - **★**カスタムメニュー **A4**の画面に戻ります。
 - 6 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。
- **[MFクラッチ]**が**[無効]**で、レンズのフォーカスリングが**MF**の位置のときは、フォーカスリングを動かして**MF**操作をすることはできません。




あらかじめ決めた距離にピントを合わせる (プリセットMF)

ピントをあらかじめ記憶させた位置に、すぐに移動させることができます。星や月の天体写真などのように、ピント位置をすばやく無限遠に移動させたいときなどに有効です。距離の設定は、AF/MFを利用する方法と直接距離を入力する方法があります。




フォーカスリミットを搭載したレンズでは、フォーカス範囲の制限を外してお使いください。

- 表示される数値は目安としてお使いください。
- この機能は以下の方法で設定できます。
 - AF  ボタン
 - LVスーパーコンパネ(P.131)
 - LVコントロール(P.131)
 - メニュー (P.131)



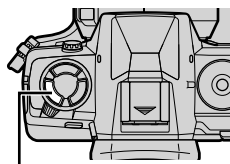
-  カスタムメニュー  の [ ボタン機能] で [PreMF] (プリセットMF) をボタンに登録すると、ボタンを押す操作だけで設定値に切り換えることができます (P.463)。
- Fnレバーの操作だけで、以下のAF機能の設定を同時に変更することができます。1、2のそれぞれの位置で、別々の設定を記憶させておくことができます。撮影状況に合わせて簡単にAFの機能設定を変更することができます。

[AF方式] / [AFターゲットモード] (P.120) / [AFターゲット位置] (P.123)


 カスタムメニュー  [ Fnレバー機能] (P.475) でFnレバーの動きを設定します。

■ AF ボタンで設定する


1 AF ボタンを押します。



AF  ボタン

- [ AF方式] のメニューが表示されます。



[ AF方式] のメニュー

2 リアダイヤルで[プリセットMF]を選択します。



3 INFOボタンを押します。

- [プリセットMF]の距離設定画面が表示されます。



4 距離を設定します。


- オートフォーカスで距離を設定する場合
シャッターボタンを半押しして、設定したい距離にある被写体にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカスで距離を設定する場合
レンズのフォーカスリングを回して、画面の数値を見ながら設定します。




5 OKボタンを押して設定を確定します。

- [プリセットMF距離]で設定した距離にピント位置を移動させるには、**[AF方式]** (P.115)を**[プリセットMF]**に設定します。
- 以下のときにもプリセットした位置にピントを移動します。
 - カメラの電源をオンにしたとき
 - メニュー画面を操作して撮影画面に戻ったとき


■ LVスーパーコンパネで設定する

LVスーパーコンパネで【AF方式】の【PreMF】を選択して**OK**ボタンを押し、**INFO**ボタンを押すと、詳細設定画面が表示されます。詳細設定画面が表示されたら、シャッターボタンを押してAFをするか、フォーカスリングを回して距離を設定します。

- 【AF方式】を【PreMF】に設定するたびに、設定した距離にピント位置を移動します。

■ メニューで設定する


★カスタムメニュー **A4** 【プリセットMF距離】で設定します。

- 【プリセットMF距離】の設定画面では、距離の単位を【m】または【ft】から選択できます。
- 【プリセットMF距離】で設定した距離にピント位置を移動させるには、【AF方式】（P.115）を【プリセットMF】に設定します。

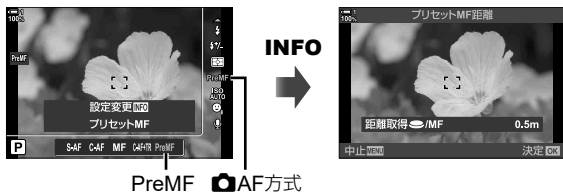


MENUボタン ➔ ★タブ ➔ **A4**タブ ➔ 【プリセットMF距離】 ➔ 十字ボタンの▷を押してメニューを表示 ➔ △▽<▷ボタンで距離と単位を設定


■ LVコントロールで設定する

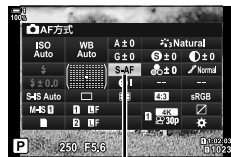
LVコントロールで【AF方式】の【PreMF】を選択して**INFO**ボタンを押すと、詳細設定画面が表示されます。詳細設定画面が表示されたら、シャッターボタンを押してAFをするかフォーカスリングを回して距離を設定します。


- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.68)をご覧ください。



■ [プリセットMF]を使う

- 1 [プリセットMF]で距離を設定します。
 - 距離の設定方法はP.129をご覧ください。
- 2 LVスーパーコンパネで[AF方式]を選択します。



AF方式






- 3 フロントダイヤルで[PreMF]（プリセットMF）を選択します。

- あらかじめ設定した距離にピント位置が移動します。
- フォーカスリングを回して、ピント位置を移動することもできます。

顔優先AF / 瞳優先AFを使う


カメラが自動的に人物の顔や瞳を検出してピントを合わせます。デジタルESP測光のときは、露出は顔を中心に設定されます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ - LVコントロール(P.134)
 - メニュー (P.134)

 (顔優先On)	被写体の顔を検出してピントを合わせます。
 (顔優先Off)	顔優先AFを使用しません。
 (顔・瞳優先On)	被写体の顔を検出して、近いほうの瞳にピントを合わせます。
 (顔・瞳(右側)優先AF)	被写体の顔を検出して、右の瞳にピントを合わせます。
 (顔・瞳(左側)優先AF)	被写体の顔を検出して、左の瞳にピントを合わせます。

- AFターゲットモード(P.120)がシングルターゲットで、測光方式(P.186)が☐ (スポット測光)のときに[[:::]連動スポット測光] (P.537)を使用していると、この機能は無効になります。
- 追尾AF (C-AF+TR, C-AF+TR MF)で★カスタムメニュー **AB**の[追尾被写体設定]が[Off]以外の設定時は、無効になります(P.116)。

■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで[顔優先]を選択して、**OK** ボタンを押します。



◎ 顔優先

- 2 十字ボタンの<D>で設定を変更します。
 - 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。
- 十字ボタンまたは**Fn**ボタンに[[:::] (AFターゲット選択)が設定されているときは、十字ボタンを使って設定できます。△▽<D>ボタンを押してリアダイヤルで選択します。初期設定では、十字ボタンは、[[:::] (AFターゲット選択)に設定されています。

■ メニューで設定する

★カスタムメニュー **A3** の【**顔優先**】で設定します。



MENUボタン ➡ ★タブ ➡ **A3**タブ ➡ 【**顔優先**】 ➡ 十字ボタンの▷を押してメニューを表示 ➡ △▽ボタンで項目を選択

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールで【**顔優先**】を選択して、十字ボタンの◀▶で項目を選択します。

- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.68)をご覧ください。
- AFターゲット選択画面を表示して、リアダイヤルを回して設定することもできます。



顔優先



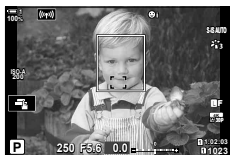
以下の方法で設定することもできます。

- LVスーパーコンパネで【**AFターゲット選択**】を選択して**OK**ボタンを押します。リアダイヤルを回して設定を選択します。
- 【**ボタン機能**】で【**[:::]選択**】を割り当てたボタンを押して、AFターゲット選択画面を表示します。リアダイヤルを回して設定を選択します。【**[:::]選択**】は初期設定では、**Fn**ボタンに割り当てられています。

顔優先AF / 瞳優先AFを使って撮影する

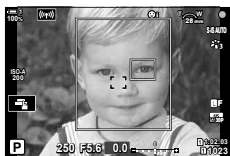
1 カメラを被写体に向けます。

- カメラが顔を検出すると、検出された部分に白い枠が表示されます。



2 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

- 検出された顔のピントが合った部分に、緑の枠が表示されます。
- 被写体の目を検出したときは目にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカス時でも顔を検出できると、白い枠が表示されます。その場合も、露出は顔を中心に設定されます。



3 シャッターボタンを全押しします。

- 被写体によっては顔を検出できないことがあります。
- 【ピクチャーモード】のアートフィルター（ART1～ART16）の設定によっては顔が検出できないことがあります。
- 拡大枠を表示しているときは、拡大枠の位置にピントを合わせます。

2

拡大枠AF / 拡大AFを使う (スーパースポットAF)

画面の一部を拡大して表示できます。ピント合わせを行う範囲を拡大表示することによって、より正確にピントを合わせることができます。拡大倍率を高くすると、通常のAFターゲット枠よりも小さい範囲でオートフォーカスをすることができます。拡大する範囲は任意で移動できます。

[Q] (拡大)の機能をボタンに割り当てる

拡大の機能は以下の方法で割り当てられます。

- LVスーパーコンパネ
- メニュー (P.137)

■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで[ボタン機能]を選択し、**OK**ボタンを押します。
 - [ボタン機能]のメニュー画面が表示されます。



ボタン機能

- 2 十字ボタンの△▽で[Q] (拡大)の機能を割り当てたいボタンを選択し、▷ボタンを押します。



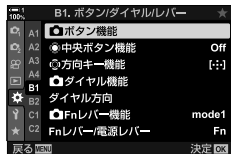
- 3 △▽ボタンで[拡大]を選択し、**OK**ボタンを押します。



- 4 **OK**ボタンを押します。
 - メニュー画面が消えます。

■ メニューでボタンに機能を割り当てる

★カスタムメニュー **B1** [**カメラボタン機能**]で設定します。



MENUボタン ➡ ★タブ ➡ **B1**タブ ➡ [**カメラボタン機能**] ➡ 機能を割り当てるボタンを選択 ➡ 十字ボタンの▷を押してメニューを表示 ➡ Δ▽ボタンで**[拡大]**を選択

[Q] (拡大)の機能を使う

1 [Q] (拡大)を割り当てたボタンを押します。

- 画面に拡大枠が表示されます。
- 拡大枠は、直前にオートフォーカスでピントを合わせた位置に表示されます。



2 マルチセレクターを動かして拡大枠を移動します。

- マルチセレクターを押すか、**OK**ボタンを長押しすると拡大枠が中央に戻ります。
- 拡大枠は十字ボタン(Δ▽◀▶)で移動することもできます。



3 拡大枠の大きさ(倍率)を変更します。

- **INFO**ボタンを押してから、Δ▽ボタンを押すか、フロント/リアダイヤルを回すと拡大枠の大きさを変更できます。
- **OK**ボタンを押すと、設定を確定して設定画面を終了します。



4 [Q]の機能を割り当てたボタンをもう一度押します。

- 拡大枠の部分が画面全体に拡大表示されます。
- マルチセレクターで拡大表示の範囲を変更できます。
- フロント/リアダイヤルを回すと拡大の倍率が変更できます。
- 十字ボタン(△▽◀▶)で拡大範囲の変更をすることもできます。
- 撮影モードが**M** (マニュアル)または**B** (バルブ)の場合、拡大表示時に**INFO**ボタンを押すと絞りやシャッター速度の設定ができます。
- **Q**ボタンを押すと、拡大枠に戻ります。
- **OK**ボタンを押すと、拡大表示を終了します。
- **Q**ボタンを長押ししても拡大AFを終了できます。



M、Bモード時の
露出設定画面

5 シャッターボタンを半押ししてオートフォーカスをします。

- 拡大表示はモニター上の表示のみです。実際に撮影される画像には反映されません。

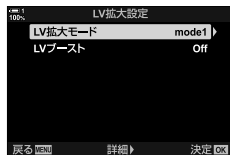
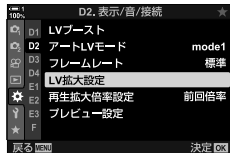
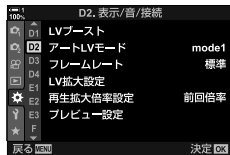


- 拡大枠**AF**は、タッチ操作でも使用できます。画面の拡大したい部分にタッチします。拡大枠が表示されたら、**Q**にタッチすると、拡大表示します。
- 拡大表示中、拡大領域を見やすい明るさで表示して正確なピントの確認をしたり、シャッターボタンを半押ししたときに、拡大表示を終了してもとの表示に戻す設定もできます。☰ [LV 拡大設定] (P.139)

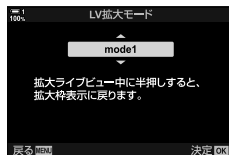
拡大表示を使って撮影するときの、表示に関する設定をします。撮影前に全体の構図を確認したい場合や、拡大時により見やすい画面でピントの確認をしたい場合に便利です。

<p>LV拡大モード</p>	<p>拡大表示中に、シャッターボタンを半押ししたときの画面の表示方法を設定します。</p> <p>[mode1]：シャッターボタンを半押しすると、拡大表示を終了します。拡大表示でピントを合わせたあと、構図を確認して撮影できます。</p> <p>[mode2]：シャッターボタンを半押しすると、拡大表示のままピント合わせを行います。事前に構図を決めて、より狭い範囲でピント合わせをして、そのまま撮影できます。</p>
<p>LVブースト</p>	<p>拡大表示中の明るさを設定します。</p> <p>[On]：拡大領域を見やすい明るさで表示します。マクロ撮影などで、ピント合わせの画面を見やすくできます。</p> <p>[Off]：拡大前の明るさのまま表示します。露出を確認しながら、拡大表示での撮影ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★カスタムメニュー D2 の [LVブースト] (P.521) が [Off] のとき、選択できます。

- MENU** ボタンを押して、メニューを表示します。
- ★カスタムメニュー **D2** (表示/音/接続) のメニューを表示します。
- 十字ボタンの **△▽** で **[LV拡大設定]** を選択し、**▷** ボタンを押します。
- △▽** ボタンで **[LV拡大モード]** または **[LVブースト]** を選択し、**▷** ボタンを押します。




- 5 △▽ボタンで設定を変更し、**OK**ボタンを押します。
- **[LV拡大設定]**の画面に戻ります。



- 6 **OK**ボタンを押して設定を確定します。
- ***カスタムメニュー D2**の画面に戻ります。
- 7 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

AEL/AFLボタンを使ってピント合わせや測光を行う (AEL/AFLモード)

シャッターボタンと**AEL/AFL**ボタンを操作したときの、オートフォーカスや測光の動作を設定します。通常は、シャッターボタンの半押しでオートフォーカスや露出の固定をしますが、被写体や撮影環境に合わせて変えることができます。

S-AF	 AF方式別に動作を設定できます。
C-AF	S-AF : [S-AF] / [S-AF MF] C-AF : [C-AF] / [C-AF MF] / [C-AF+TR] / [C-AF+TR MF]
MF	MF : [MF] / [PreMF]
半押しAF	シャッターボタン半押しでAF動作を許可するかどうかを設定します。 [有効] : AEL/AFL ボタンでAF動作を開始する設定のとき、シャッターボタンの半押しでもAF動作を開始します。[C-AF]の設定のときは、後で押したボタンに、AF動作を引き継ぎます。[MF]では無効になります。 [無効] : AEL/AFL ボタンでAF動作する設定のときは、シャッターボタンの操作ではAF動作をしません。

2

それぞれの設定と[半押しAF]を組み合わせたときの動作は以下の通りです。

- [半押しAF] 1 : 有効、2 : 無効

AEL/AFL設定		シャッターボタンの働き				AEL/AFLボタンの働き	
		半押ししたとき		全押ししたとき		押している間	
		AF動作	測光	AF動作	測光	AF動作	測光
S-AF	mode1	S-AF動作	固定	—	—	—	固定
	mode2	S-AF動作	—	—	固定	—	固定
	mode3	1 : S-AF動作 2 : —	固定	—	—	S-AF動作	—
C-AF	mode1	C-AF開始	固定	停止	—	—	固定
	mode2	C-AF開始	—	停止	固定	—	固定
	mode3	1 : C-AF開始 2 : —	固定	停止	—	C-AF開始	—
	mode4	1 : C-AF開始 2 : —	—	停止	固定	C-AF開始	—
MF	mode1	—	固定	—	—	—	固定
	mode2	—	—	—	固定	—	固定
	mode3	—	固定	—	—	S-AF動作	—

- MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 十字ボタンの△▽で* (カスタムメニュー)タブを選択し、▷ボタンを押します。



- *カスタムメニューのA1 (AF/MF)のメニューを表示します。



- △▽ボタンで[AEL/AFLモード]を選択し、▷ボタンを押します。



- △▽ボタンで設定をするAF方式を選択して、▷ボタンを押します。
 - [S-AF]、[C-AF]、[MF]から選択します。
 - [半押しAF]を設定するときは、[半押しAF]を選択します。



- △▽ボタンで設定を変更し、OKボタンを押します。
 - 各AF方式の選択画面に戻ります。



- MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。



- **AEL/AFL**ボタン以外のボタンで**AEL/AFL**ボタンの機能を使うことができます。*カスタムメニューB1の[ボタン機能] (P.463)で設定します。初期設定では、**AEL/AFL**ボタンを使います。

ピント合わせのときのレンズの動作範囲を設定する (AFリミッター)

オートフォーカス時のレンズの動作範囲を設定します。被写体との間に障害物が入ってピントが大きく外れてしまうような撮影状況で有効です。フェンスや窓越しの撮影などで、ピントがフェンスや窓に合ってしまうのを防ぐことができます。フォーカスリミットを搭載したレンズでは、フォーカス範囲の制限を外してお使いください。

距離設定	距離範囲の設定をします。3種類の設定を記憶させておき、使い分けることができます。数値は目安としてお使いください。
リリース優先	[AFリミッター]が[On]のときに、被写体が設定範囲外にあってもシャッターを切れます。

1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。

2 *カスタムメニュー A3 (AF/MF)のメニューを表示します。



2

3 十字ボタンの△▽で[AFリミッター]を選択し、▷ボタンを押します。



4 △▽ボタンで[On]を選択し、▷ボタンを押します。



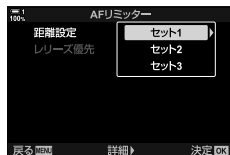
5 △▽ボタンで[距離設定]を選択し、▷ボタンを押します。

- セットを選択する画面が表示されます。



6 △▽ボタンで[セット1]～[セット3]のいずれかを選択し、▷ボタンを押します。

- 距離設定の画面が表示されます。



7 十字ボタンで距離を設定します。

- △▽ボタンで数値を設定して、▷ボタンで次の桁の数値を設定します。
- 距離の単位を[m]または[ft]から選択できます。



8 設定を終えたらOKボタンを押します。

- セットを選択する画面に戻ります。

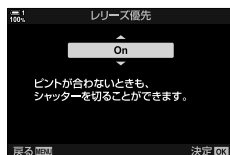
9 再度OKボタンを押してAFリミッター設定の画面に戻って、△▽ボタンで[リリース優先]を選択し、▷ボタンを押します。

- リリース優先設定の画面が表示されます。



10 △▽ボタンで設定を変更し、OKボタンを押します。

- [AFリミッター]のメニュー画面に戻ります。



11 繰り返しOKボタンを押して、カスタムメニューの画面に戻ります。

- **MENU**ボタンを押して、メニューを終了します。
- [リリース優先]が[On]のときは、**★**カスタムメニュー**☑**の[リリース優先S]や[リリース優先C]の設定は無効になります。



- **☑ボタン機能** (P.463)でいずれかのボタンに**[AFリミッター]**を登録していると、ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回して設定を選択することができます。

C-AF動作時のピント合わせの感度を設定する

(📷C-AF追従感度)

[📷AF方式]が[C-AF]、[C-AF MF]、[C-AF+TR]または[C-AF+TR MF]のときの、被写体に対するオートフォーカスの追従性を設定します。速い動きの被写体にオートフォーカスを追従させたいときや、被写体の前を障害物が出入りしてピントが移動してしまうときなどに有効です。

- 5段階の感度が設定できます。
- +側に設定するほど感度は上がります。見えない位置から急に現れる被写体、すばやく遠ざかる被写体など、前後に急加速、急停止する被写体に対応するときは+側に設定します。
- -側に設定するほど感度は下がります。被写体との間の障害物にピントが移動してしまったり、被写体がAFターゲットから外れてピントが背景に移動してしまうときは-側に設定します。

1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。

2 ✳️カスタムメニュー A1 (AF/MF)のメニューを表示します。



3 十字ボタンの△▽で[📷C-AF追従感度]を選択し、▶️ボタンを押します。



4 △▽ボタンで数値を選択し、OKボタンを押します。
• ✳️カスタムメニュー A1の画面に戻ります。



5 MENUボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

2

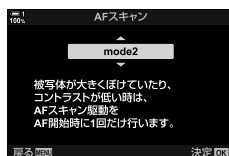
C-AF動作時のレンズのスキャン動作を設定する (AFスキャン)

カメラがスキャン動作をするかどうかの設定をします。オートフォーカスでピント合わせができないとき、カメラは至近から無限までの間でピント位置を探します(スキャン動作)。AF中のスキャン動作の仕方を制限することができます。この機能は、**[AF方式]** (P.115)が**[C-AF]**、**[C-AF+TR]**、**[C-AF MF]**、または**[C-AF+TR MF]**のときに動作します。

mode1	ピントを検出できなくてもスキャン動作をしません。小さな被写体を追うときなど、スキャン動作によりピントが大きく外れて被写体を見失うのを防ぐことができます。
mode2	ピントを検出できないとき、AF開始時に1回だけスキャン動作をします。そのままAF動作を続けてもその間はスキャン動作はしません。
mode3	ピントを検出できないときはスキャン動作をします。そのままAF動作を続けている間に、再び被写体を見失ったら再度スキャン動作をします。

2

- MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- ★カスタムメニュー **A1** (AF/MF)のメニューを表示します。
- 十字ボタンの△▽で**[AFスキャン]**を選択し、▷ボタンを押します。
- △▽ボタンで設定を変更し、**OK**ボタンを押します。
 - ★カスタムメニュー **A1**の画面に戻ります。



- MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

- ・**[AF方式]**が**[S-AF]**または**[S-AF MF]**のときにピントを検出できないときは、**[AFスキャン]**の設定に関わらず1回だけスキャン動作を行います。

C-AF動作時のピント合わせ開始位置を設定する (📷C-AF中央スタート)

シングルターゲット以外の設定で[C-AF]または[C-AF MF]でオートフォーカスするとき、最初のオートフォーカスのみ選択エリアの中央で行います。その後は、選択エリア内でオートフォーカスをします。広いエリアのAFターゲット設定と組み合わせることで、動きの激しい被写体をとらえやすくなります。

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 **★**カスタムメニュー **A1** (AF/MF)のメニューを表示します。



3 十字ボタンの△▽で[📷C-AF中央スタート]を選択し、▷ボタンを押します。



4 △▽ボタンで[📷C-AF中央スタート]を有効にするAFターゲットモードを選択し、**OK**ボタンを押します。

- チェックボックスに✓が表示されます。チェックを解除するときは再度**OK**ボタンを押します。



5 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

- [C-AF中央優先] (P.148)が設定されているときは、無効になります。

2

C-AF動作時に中央優先でピント合わせをする

(📷C-AF中央優先)

グループターゲットの設定で[C-AF]または[C-AF MF]でオートフォーカスするとき、常に選択エリアの中央を優先してオートフォーカスを繰り返します。中央でオートフォーカスできないときは、選択エリアの周辺のAFターゲットを使います。速度は速くても、比較的動きの読める被写体をとらえやすくなります。一般的な撮影では中央優先でお使いください

1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。

2 ✳️カスタムメニュー A1 (AF/MF)のメニューを表示します。



3 十字ボタンの△▽で[📷C-AF中央優先]を選択し、▷ボタンを押します。



4 △▽ボタンで[📷C-AF中央優先]を有効にするAFターゲットモードを選択し、OKボタンを押します。

- チェックボックスに✓が表示されます。チェックを解除するときは再度OKボタンを押します。



5 MENUボタンを繰り返し押しして、メニューを終了します。

特定の被写体を追尾してピント合わせをする

(追尾被写体設定)

[C-AF+TR]および[C-AF+TR MF]で被写体を追尾して撮影をするときに、特定の被写体を検出して、オートフォーカスを追従します。モータースポーツや飛行機の撮影では被写体の動きが速く、ドライバーやコックピットにピントを合わせて撮るのは難しくなります。この機能はそれらの被写体の特定の部分を検出してピントを合わせます。


モータースポーツ	車やオートバイを検出します。主にモータースポーツで 사용되는車両やドライバーなどに追従してオートフォーカスします。
飛行機	飛行機やヘリコプターを検出します。機体やコックピットなどに追従してオートフォーカスします。
鉄道	鉄道車両を検出します。車両や運転席などに追従してオートフォーカスします。
Off	被写体を指定しません。

2


- [OFF]以外にすると、顔優先/瞳優先は[OFF]になります。
- 撮影中は、以下の撮影機能は使用できません。

ライブND撮影/インターバル撮影/HDR撮影/デジタルシフト撮影/フィッシュアイ補正/ハイレゾショット撮影/フォーカスブラケット撮影/プロキャプチャー H

1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。


2  カスタムメニュー **A3** (AF/MF)のメニューを表示します。

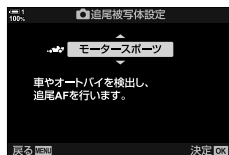


3 十字ボタンの△▽で[ 追尾被写体設定]を選択し、▷ボタンを押します。



4 △▽ボタンで追尾する被写体を選択し、**OK**ボタンを押します。

- 設定しないときは[Off]を選択します。
-  カスタムメニュー **A3** の画面に戻ります。



5 MENUボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

6 機能を使用するときは、[**AF方式**]を[C-AF+TR]または[C-AF+TR MF]に設定します。

- スーパーコンパネまたはメニューを使って設定します。

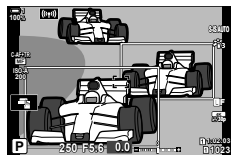


■ [**AF方式**]を使って撮影する

1 [**AF方式**]を[C-AF+TR]または[C-AF+TR MF]に設定します。

2 カメラを被写体に向けます。

- [**AF方式**]で設定した被写体を検出すると、AFフレーム近傍エリアの被写体にピントが合います。



3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

- 設定により、車両やドライバーを検出すると、追尾中のターゲットマークが表示されます。
- 被写体を検出したときは、AFフレームと重なるエリアの被写体にピントが合います。

4 シャッターボタンを全押しして撮影します。

- 被写体やアートフィルターの設定によっては、被写体を検出できない場合があります。
- 撮影状況や被写体によっては、被写体を検出できない場合があります。

2-10 ドライブの機能(📷/🔄/🕒)






ドライブは、連写やセルフタイマーなど撮影のためにシャッターを切る動作に関する機能です。






動きの速い被写体を連写で撮影したり、被写体が増える様子を長い時間をかけて自動的に撮影するなど撮影方法に合わせて設定できます。また、このカメラには、さまざまな撮影環境や被写体に対応した撮影ができるように、ドライブ機能と組み合わせると効果的な機能が搭載されています。




- この機能は以下の方法で設定できます。
 - 📷🔄🕒ボタン(P.153)
 - メニュー (P.154)
 - LVスーパーコンパネ(P.154)
 - LVコントロール(P.154)

連写する／セルフタイマーを使う

連続撮影やセルフタイマーの方法を設定します。被写体に合わせて撮影方法を選択します。

 単写	1コマ撮影です。1回のシャッターボタンの全押しで、1コマだけ撮影されます。
 連写H	シャッターボタンを全押ししている間、最大約15コマ/秒で連続撮影できます。連写中、ピント・露出・ホワイトバランスは、最初の1コマで固定されます。連写の速度や連写枚数の上限を設定できます(P.155)。【📷ISO感度】が8000以上の設定では、連写速度が低下します。
 連写L	シャッターボタンを全押ししている間、最大約10コマ/秒で連続撮影できます。連写の速度や連写枚数の上限を設定できます(P.155)。連写中のピントと露出は、【📷AF方式】(P.115)、【📷AEL/AFLモード】(P.141)に従います。【📷AF方式】が【C-AF】/【C-AF MF】/【C-AF+TR】/【C-AF+TR MF】のときは、1コマごとにピント合わせをします。【📷ISO感度】が8000以上の設定では、連写速度が低下します。
 セルフタイマー 12s	シャッターボタンを全押しすると12秒後に撮影されます。セルフタイマーランプが、約10秒点灯した後、約2秒間点滅して撮影されます。ピントはシャッターボタンを半押ししたときに合わせます。
 セルフタイマー 2s	シャッターボタンを全押しするとセルフタイマーランプが約2秒間点滅した後、撮影されます。ピントはシャッターボタンを半押ししたときに合わせます。

	カスタムセルフタイマー	セルフタイマー撮影で、撮影までの時間や撮影するコマ数などを変更することができます(P.157)。
 (表示例)	低振動[◆]撮影	シャッター動作による微小なぶれを低減した撮影ができます。電子先幕シャッターで動作します。単写/連写L/セルフタイマーと組み合わせた設定が選べます(P.160)。
 (表示例)	静音[♥]撮影	電子シャッターによる撮影をします。1/8000秒より高速のシャッター速度に設定するときや、シャッター音が出せない環境下で撮影するときを使用します。単写/連写L/連写H/セルフタイマーと組み合わせた設定が選べます。連写Hでは最大60コマ/秒の連写ができます(P.163)。♥  では、ピント/露出/ホワイトバランスは最初の1コマで固定されます。フラッシュの同調秒時は、1/50秒です。[ISO感度]が8000以上の設定では、フラッシュの同調速度は1/20秒になり、連写速度も最大30コマ/秒に制限されます。
Pro Cap H	プロキャプチャー H	シャッターボタンを半押しすると連続撮影を開始します。全押しで、半押し時の画像を含めた撮影画像をカードへ記録開始します(P.168)。Pro Cap Hでは、ピント/露出/ホワイトバランスはシャッターボタンを半押ししたときに固定されます。
Pro Cap L	プロキャプチャー L	[ISO感度]が8000以上の設定では、最大30コマ/秒に制限されます。
	ハイレゾショット	より解像度の高い静止画を撮影できます。カメラを手持ちで撮影することもできます(P.210)。

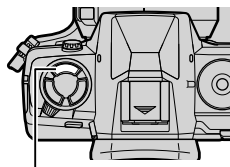
- 初期設定では、選択肢に表示されていないドライブ機能があります。✳️カスタムメニュー01の[表示設定] (P.520)で表示/非表示の設定ができます。
- セルフタイマー作動中に撮影を中止するには、十字ボタンの▽を押します。
- セルフタイマー撮影の際は、カメラを三脚にしっかりと固定してください。
- セルフタイマー撮影時に、カメラの前に立ってシャッターボタンを押すとピントがボケる原因になります。
- 、Pro Cap Lでは、撮影中はライブビューを表示します。、Pro Cap Hでは、直前に撮影した画像を撮影中に表示します。
- 使用するレンズやズームの位置により、連写速度は変わります。
- 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。
- 静音撮影およびプロキャプチャー撮影時に、動きの速い被写体を撮影したりカメラを激しく動かして撮影すると、画像が歪んで写ることがあります。
- [静音[♥]撮影]でフラッシュ撮影をするときは、[静音[♥]撮影時動作]で[フラッシュ]を[許可]にしておく必要があります(P.167)。
- LVブーストの設定を[On1] [On2]に設定した場合、連写速度が低下することがあります。連写速度を確保したい場合はLVブーストの設定を[Off]にしてください。🔋 [LVブースト] (P.200)

■ ⚡📷🕒ボタンで設定する

⚡📷🕒ボタンを使って直接設定することができます。

1 ⚡📷🕒ボタンを押します。

- [📷/🕒] (連写/セルフタイマー)のメニューが表示されます。



⚡📷🕒ボタン



[📷/🕒] (連写/セルフタイマー)のメニュー

2

2 リアダイヤルを回して項目を選択します。



- カスタムセルフタイマーやハイレゾショットでは、**INFO**ボタンを押して詳細設定ができます。

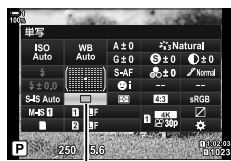




3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してメニュー画面を終了します。

- ⚡📷🕒ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回して、設定を選択することもできます。ボタンを離すと設定が確定して、撮影画面に戻ります。

■ LVスーパーコンパネで設定する






- 1 LVスーパーコンパネで[/) (連写/セルフタイマー)を選択します。

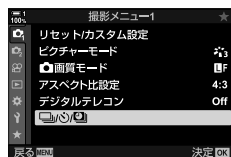


/ (連写/セルフタイマー)

- 2 フロントダイヤルを回して、設定を選択します。
- 3 シャッターボタンを半押しして、撮影画面に戻ります。

■ メニューで設定する

- 1 撮影メニュー1 [//) (ドライブ)の [/) (連写/セルフタイマー)で設定します。



2



- MENU**ボタン ➡ タブ ➡ [//) ➡ [/) ➡ 十字ボタンの▶を押し、メニューを表示 ➡ Δ▽ボタンで項目を選択

■ LVコントロールで設定する

- LVコントロールで [/) (連写/セルフタイマー)を選択して、十字ボタンの◀▶で項目を選択します。

- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.68)をご覧ください。



/ (連写/セルフタイマー)

連写時の速度や枚数の上限を設定する

(L設定 / H設定)

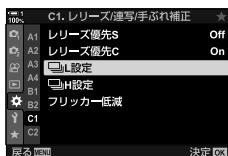
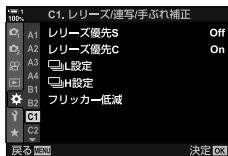
連続撮影をするときの、連写速度と撮影枚数の上限を設定します。シャッターボタンを全押ししていても、設定した枚数に達すると自動的に撮影が終了します。

(連写L)と (連写H)、それぞれのメニューで連写速度と連写枚数の設定をします。プロキャプチャーについては、「リリースタイムラグを防いで撮影する(プロキャプチャー撮影)」(P.168)をお読みください。

L設定 (連写L設定)	(連写L)、 (低振動連写L)、 (静音連写L)の連写速度と連続撮影枚数の上限が設定できます。また、 (プロキャプチャーL)の詳細設定ができます(P.168)。 <ul style="list-style-type: none">• または のとき [連写速度] : 1 ~ 10fps [枚数リミッター] : 2 ~ 99枚、Off (上限なし)• のとき [連写速度] : 1 ~ 18fps [枚数リミッター] : 2 ~ 99枚、Off (上限なし)
H設定 (連写H設定)	(連写H)、 (静音連写H)の連写速度と連続撮影枚数の上限が設定できます。また、 (プロキャプチャーH)の詳細設定ができます(P.168)。 <ul style="list-style-type: none">• のとき [連写速度] : 10 ~ 15fps [枚数リミッター] : 2 ~ 99枚、Off (上限なし)• のとき [連写速度] : 15/20/30/60 fps [枚数リミッター] : 2 ~ 99枚、Off (上限なし)

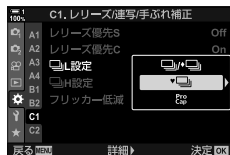
2

- 1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 *カスタムメニュー (リリース/連写/手ぶれ補正)のメニューを表示します。
- 3 十字ボタンの△▽で[L設定]または[H設定]を選択し、▷ボタンを押します。



4 △▽ボタンで[]、[]、[]のいずれかを選択し、▶ボタンを押します。

- それぞれの設定画面が表示されます。



5 [連写速度]を設定します。

- △▽ボタンで[連写速度]を選択し、▶ボタンを押します。
- △▽ボタンで設定を変更し、**OK**ボタンを押して確定します。



6 [プリ連写枚数]を設定します。

- 手順4で[]を選択したときのみ表示されます。
- △▽ボタンで[プリ連写枚数]を選択し、▶ボタンを押します。
- △▽ボタンで設定を変更し、**OK**ボタンを押して確定します。
- プリ連写を行わない場合は、[0]に設定します。



プロキャプチャーの
設定画面

7 [枚数リミッター]を設定します。

- △▽ボタンで[枚数リミッター]を選択し、▶ボタンを押します。
- 撮影枚数を制限しない場合は[Off]を選択します。
- 撮影枚数を制限するときは、数値を選択して▶ボタンを押すと、撮影枚数の設定画面が表示されます。◀▶ボタンで桁を選択し、△▽ボタンで数値を変更できます。
- プロキャプチャー撮影時は、制限する撮影枚数にプリ連写枚数も含まれます。🔒 「リリースタイムラグを防止で撮影する(プロキャプチャー撮影)」(P.168)
- 設定を変更後、**OK**ボタンを押して確定します。



8 **OK**ボタンを押します。


- ✳カスタムメニュー **C1**の画面に戻ります。

9 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

- プロキャプチャー撮影の設定については、P.168をお読みください。

セルフタイマーの待ち時間や枚数を設定する (カスタムセルフタイマー)

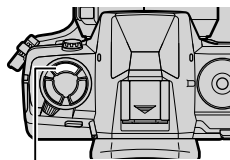
セルフタイマー撮影時の、撮影までの時間や撮影するコマ数などを変更することができます。


- この機能は以下の方法で設定できます。
 -  ボタン - メニュー (P.159)
 - LVスーパーコンパネ(P.158) - LVコントロール(P.159)


コマ数	1回の撮影で撮影するコマ数を設定します。
セルフタイマー時間	シャッターボタンを全押ししてから撮影されるまでの時間を設定します。
撮影間隔	2コマ以上撮影するときの撮影間隔を設定します。
各コマAF	2コマ以上撮影するとき、撮影直前のAFをするかどうかを選択できます。

■ ボタンで設定する


1 ボタンを押します。



 ボタン

- [] (連写/セルフタイマー)のメニューが表示されます。



[] (連写/セルフタイマー)のメニュー


2 リアダイヤルを回して、[]、[]、または[]を選択します。



3 INFOボタンを押して詳細設定をします。

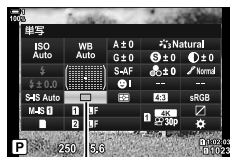
- [セルフタイマー時間]、[コマ数]、[撮影間隔]、および[各コマAF]から、項目を選択して設定します。
- 十字ボタンの<D>で項目を選んで、△▽ボタンで設定値を選択します。


4 OKボタンを押すと、設定が確定され撮影画面に戻ります。

- ボタンを押しながらリアダイヤルを回して、設定を選択することもできます。ボタンを離すと設定が確定して、撮影画面に戻ります。その場合、**INFO**ボタンによる詳細設定はできません。

■ LVスーパーコンパネで設定する

1 LVスーパーコンパネで (連写/セルフタイマー)を選択し、**OK**ボタンを押します。



 (連写/セルフタイマー)

2 十字ボタンの<D>でを選択して、**INFO**ボタンを押します。

- カスタムセルフタイマーの設定画面が表示されます。



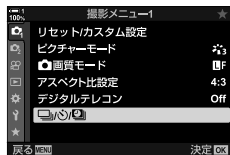
3 <D>ボタンで項目を選び、△▽ボタンで設定を変更します。

4 **INFO**ボタンを押して設定を確定します。

5 シャッターボタンを半押しして、撮影画面に戻ります。

■ メニューで設定する

📷撮影メニュー1 [📷/📷/📷] (ドライブ)の[📷/📷] (連写/セルフタイマー)で設定します。



MENUボタン ➡ 📷タブ ➡ [📷/📷/📷] ➡ [📷/📷] ➡ [📷] ➡ 十字ボタンの▶を押してメニューを表示 ➡ ▲▼ボタンで項目を選択して▶ボタンを押し、▲▼ボタンで設定

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールで[📷/📷] (連写/セルフタイマー)を選択してから、十字ボタンの◀▶で[📷]を選択し、**INFO**ボタンを押します。

- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.68)をご覧ください。



📷/📷 (連写/セルフタイマー)

2

シャッター動作時の振動を防いで撮影する (低振動[◆]撮影)

シャッター動作による微小なぶれを低減した撮影ができます。電子先幕シャッターで動作します。単写/連写やセルフタイマーと組み合わせた設定が選べます。

Off	低振動撮影を使用しません。⚡📷🔋ボタンやLVスーパーコンパネのドライブ機能のメニューに項目は表示されません。
0秒～30秒	シャッターボタンを全押ししてから撮影されるまでの時間を設定します。[0秒]に設定すると、電子先幕シャッターを使用した通常の撮影方法として使えます。

- シャッター速度が1/320秒よりも速いと、機械式シャッターで動作します。

低振動撮影機能を設定する

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 **📷**撮影メニュー2で[低振動[◆]/静音[♥]撮影]を選択し、十字ボタンの▷を押します。



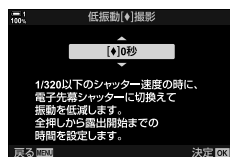
- 3 △▽ボタンで[低振動[◆]撮影]を選択し、▷ボタンを押します。



- 4 △▽ボタンで撮影時間([0秒]～[30秒])を選択し、▷ボタンを押します。
 - [低振動[◆]撮影]の設定画面が表示されます。











- 5 △▽ボタンで撮影時間を変更し、**OK**ボタンを押します。



6 設定した値を選択した状態で、**OK**ボタンを押します。

- [低振動(◆)/静音(♥)撮影]の設定画面に戻ります。
- 低振動撮影を行わない場合は、[低振動(◆)撮影]の設定画面で[Off]を選択して**OK**ボタンを押します。

7 **MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

- ドライブが低振動撮影の設定(◆が表示された項目)に変更されます。
 -  (ハイレゾショット)は◆ (低振動単写)に設定されます。
 -  (プロキャプチャー L)は◆ (低振動連写L)に設定されます。
- [Off]以外に設定されているときは、 ボタン、LVスーパーコンパネ、およびLVコントロールで、ドライブ機能の設定メニューを表示して低振動撮影を選択して使うことができます。
 - ドライブの設定画面で選択肢として表示させる項目を、メニューで変更することができます。
 *カスタムメニュー  【 表示設定】(P.520)

■ [低振動[◆]撮影]が[Off]以外に設定されている場合

📷撮影メニュー 2 [低振動[◆]/静音[♥]撮影]の[低振動[◆]撮影]が[Off]以外に設定されている場合は、以下の方法で低振動撮影の項目を選択することができます。

📷ボタンで設定する

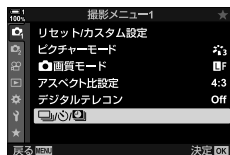
📷ボタン ➡ リアダイヤルを回して[◆]アイコンが表示されたいずれかの項目を選択

LVスーパーコンパネで設定する

[📷/📷] (連写/セルフタイマー)を選択 ➡ フロントダイヤルを回して[◆]アイコンが表示されたいずれかの項目を選択

メニューで設定する

📷撮影メニュー 1 [📷/📷/📷] (ドライブ)の[📷/📷] (連写/セルフタイマー)で設定します。



2

MENUボタン ➡ 📷タブ ➡ [📷/📷/📷] ➡ [📷/📷] ➡ 十字ボタンの▶を押し、メニューを表示 ➡ △▽ボタンで[◆]アイコンが表示されたいずれかの項目を選択

LVコントロールで設定する

LVコントロールで[📷/📷] (連写/セルフタイマー)を選択して、十字ボタンの◀▶で[◆]アイコンが表示されたいずれかの項目を選択します。

- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.68)をご覧ください。



📷/📷 (連写/セルフタイマー)

電子シャッターを使って撮影する (静音[♥]撮影)

電子シャッターによる撮影をします。1/8000秒より高速のシャッター速度に設定するときや、シャッター音が出せない環境下で撮影するとき 사용합니다。単写や最大60コマ/秒の連写、セルフタイマーと組み合わせた設定が選べます。

- フラッシュの同調秒時は、1/50秒です。
- [**ISO感度**]が8000以上の設定では、フラッシュの同調速度は1/20秒になり、連写速度も最大30コマ/秒に制限されます。

Off	静音撮影を使用しません。⚡️📷🔊ボタンやLVスーパーコンパネのドライブ機能のメニューに項目は表示されません。
0秒～30秒	シャッターボタンを全押ししてから撮影されるまでの時間を設定します。[0秒]に設定すると、電子シャッターを使用した通常の撮影方法として使えます。

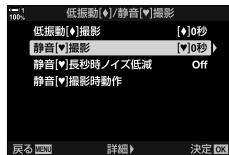
- [Off]以外に設定されているときは、⚡️📷🔊ボタン、LVスーパーコンパネ、およびLVコントロールで、ドライブ機能の設定メニューを表示して静音撮影を選択して使うことができます。
- [静音[♥]撮影]でフラッシュ撮影をするときは、[静音[♥]撮影時動作]で[フラッシュ]を[許可]にしておく必要があります(P.167)。

1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。

2 撮影メニュー2で[低振動(♦)/静音(♥)撮影]を選択し、十字ボタンの▷を押します。



3 △▽ボタンで[静音(♥)撮影]を選択し、▷ボタンを押します。

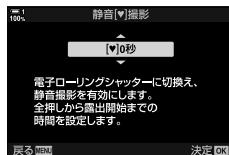


4 △▽ボタンで撮影時間([0秒]～[30秒])を選択し、▷ボタンを押します。

- [静音(♥)撮影]の設定画面が表示されます。



- 5 △▽ボタンで撮影時間を変更し、**OK**ボタンを押します。



- 6 設定した値を選択した状態で、**OK**ボタンを押します。

- [低振動[♦]/静音[♥]撮影]の設定画面に戻ります。
- 静音撮影を行わない場合は、[静音[♥]撮影]の設定画面で[Off]を選択して**OK**ボタンを押します。

- 7 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

- 選択中の項目が、静音撮影の設定([♥]アイコンが表示された項目)に変更されます。
- ドライブの設定画面で選択肢として表示させる項目を、メニューで変更することができます。
- *カスタムメニュー 01 [表示設定] (P.520)

■ [静音♥]撮影]が[Off]以外に設定されている場合

📷撮影メニュー 2 [低振動♦]/静音♥]撮影]の[静音♥]撮影]が[Off]以外に設定されている場合は、以下の方法で静音撮影の項目を選択することができます。

🔌📷ボタンで設定する

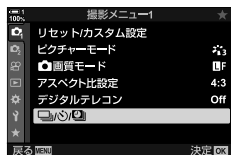
🔌📷ボタン ➡ リアダイヤルを回して[♥]アイコンが表示されたいずれかの項目を選択

LVスーパーコンパネで設定する

[📷/📷] (連写/セルフタイマー)を選択 ➡ フロントダイヤルを回して[♥]アイコンが表示されたいずれかの項目を選択

メニューで設定する

📷撮影メニュー 1 [📷/📷/📷] (ドライブ)の[📷/📷] (連写/セルフタイマー)で設定します。



2

MENUボタン ➡ 📷タブ ➡ [📷/📷/📷] ➡ [📷/📷] ➡ 十字ボタンの▶を押し、メニューを表示 ➡ △▽ボタンで[♥]アイコンが表示されたいずれかの項目を選択

LVコントロールで設定する

LVコントロールで[📷/📷] (連写/セルフタイマー)を選択して、十字ボタンの◀▶で[♥]アイコンが表示されたいずれかの項目を選択します。

- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.68)をご覧ください。



📷/📷 (連写/セルフタイマー)

静音撮影時のノイズを低減する (静音[♥]長秒時ノイズ低減)

静音撮影での長秒時撮影で発生するノイズの低減処理を設定します。

オート	静音撮影での長時間露光時に発生するノイズを低減します。ノイズ低減処理時に、シャッターの動作音がします。
Off	ノイズ低減処理は行いません。

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 **2**撮影メニュー 2で[低振動[♦]/静音[♥]撮影]を選択し、十字ボタンの▷を押します。



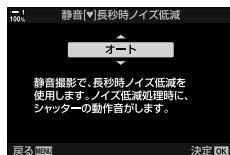
3 **2** △▽ボタンで[静音[♥]長秒時ノイズ低減]を選択し、▷ボタンを押します。

- [静音[♥]長秒時ノイズ低減]の設定画面が表示されます。



4 △▽ボタンで項目を選択し、**OK**ボタンを押します。

- [低振動[♦]/静音[♥]撮影]の設定画面に戻ります。



5 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

静音撮影時の動作を設定する

(静音[♥]撮影時動作)

このメニューでは、静音撮影時に【電子音】 / 【AFイルミネーター】 / 【フラッシュ】の動作の設定を許可するかどうかを設定します。

【許可】に設定すると各機能の設定に従って動作し、【禁止】に設定すると各機能の設定に関わらず静音撮影時に動作を禁止します。

電子音	★カスタムメニュー D4 【電子音】 (P.527)の設定に従って動作するかどうかを設定します。
AFイルミネーター	★カスタムメニュー A3 【AFイルミネーター】 (P.490)の設定に従って動作するかどうかを設定します。
フラッシュ	フラッシュの発光モードの設定に従って動作するかどうかを設定します(P.254)。

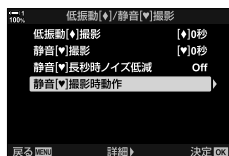
1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 **撮影メニュー 2**で【低振動(♦)/静音(♥)撮影】を選択し、十字ボタンの▷を押します。

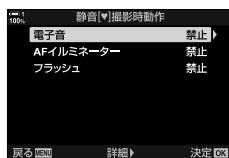


3 △▽ボタンで【静音(♥)撮影時動作】を選択し、▷ボタンを押します。

- 【静音(♥)撮影時動作】の設定画面が表示されます。

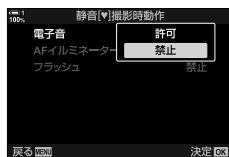


4 △▽ボタンで設定する項目を選択し、▷ボタンを押します。



5 △▽ボタンで【許可】または【禁止】を選択し、**OK**ボタンを押します。

- 必要に応じて手順4～5を繰り返します。




6 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

レリーズタイムラグを防いで撮影する


(プロキャブチャー撮影)



シャッターボタンの半押しで画像の取り込みを開始して、シャッターボタンを全押しした瞬間からあらかじめ設定した枚数までさかのぼって画像を記録します。さらにシャッターボタンを押し続けている間、設定した枚数まで撮影を続けます。人の反応やカメラの動作のタイムラグにより撮り逃していた瞬間を記録することができます。【プロキャブチャー L】と【プロキャブチャー H】があります。

プロキャブチャー L (Pro_{CapL})

最大18コマ/秒で連続撮影できます。シャッターボタンを全押しする前の画像を最大35コマ記録できます。【AF方式】(P.115)が【C-AF】 / 【C-AF MF】 / 【C-AF+TR】 / 【C-AF+TR MF】のときは、1コマごとにピント合わせをします。撮影距離が変化する被写体の撮影に適しています。


プロキャブチャー H (Pro_{CapH})

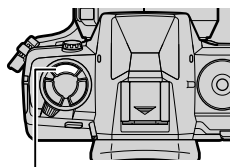
最大60コマ/秒で連続撮影できます。シャッターボタンを全押しする前の画像を最大35コマ記録できます。【AF方式】(P.115)の【C-AF】および【C-AF+TR】は【S-AF】に、【C-AF MF】および【C-AF+TR MF】は【S-AF MF】に設定されます。撮影距離の変化が少ない被写体の撮影に適しています。


- Pro_{CapL} (プロキャブチャー L)は絞り値が、開放からF8.0までに制限されます。
- スマートフォン接続時にプロキャブチャー撮影はできません。
- フォーサーズレンズおよび他社製マイクロフォーサーズレンズでは、Pro_{CapL} (プロキャブチャー L)は使用できません。
- 半押し状態での連続撮影時間は最長1分です。撮影を続ける場合は、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。
- 被写体の大きな動きや蛍光灯などのフリッカーにより、画像に乱れが出ることがあります。
- 連写中は、表示のブラックアウトやシャッター音は発生しません。
- シャッター速度の低速側には制限があります。
- 被写体の明るさや【ISO感度】、露出補正の設定によっては、カスタムメニュー D2の【フレームレート】(P.175)の設定よりも表示が遅くなる場合があります。

連写などと同様に、 ボタンを使って設定します。


1 ボタンを押します。

-  (連写/セルフタイマー)のメニューが表示されます。




 ボタン





 (連写/セルフタイマー)のメニュー

2 リアダイヤルを回して **Pro_{Cap}L** (プロキャブチャーL) または **Pro_{Cap}H** (プロキャブチャーH) を選択し、**OK** ボタンを押します。

- メニューが終了します。
-  ボタンを押しながらリアダイヤルを回しても設定できます。





3 撮影します。

- シャッターボタンを半押しすると撮影を開始します。画像取り込み中のアイコン()が表示されます。そのまま全押ししないで1分経過すると、撮影終了してが消えます。撮影するためにはもう一度半押ししてください。
- シャッターボタンを全押しするとカードへの記録を開始します。
- シャッターボタンを押し続けている間、**[枚数リミッター]**で設定した枚数まで撮影を続けます。

画像取り込み中



- LVスーパーコンパネ、LVコントロールでも同様にドライブ機能で設定できます。メニューでは、 撮影メニュー 1の  (P.154) で設定できます。

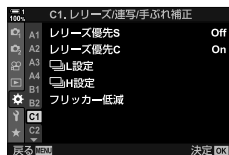
■ プロキャプチャー撮影の詳細設定をする

プロキャプチャー撮影の詳細な設定は、**★カスタムメニュー C1**で行います。プロキャプチャー Lは【**C1**L設定】（連写L設定）、プロキャプチャー Hは【**C1**H設定】（連写H設定）で設定します。

連写速度	連写速度の設定をします。数値は最大値の目安です。 <ul style="list-style-type: none">プロキャプチャー L：10/15/18 fpsプロキャプチャー H：15/20/30/60 fps
プリ連写枚数	シャッターボタンを全押しする前の記録枚数を設定します。最大 35 枚まで記録できます。
枚数リミッター	プリ連写枚数を含む全撮影枚数を設定します。シャッターボタン全押し後の連写枚数を制限できます。 [Off] にするとシャッターボタンを全押ししている間、記録し続けます。

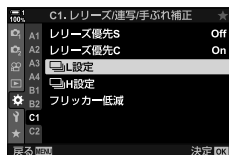
1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 **★カスタムメニュー C1**（リリース/連写/手ぶれ補正）のメニューを表示します。

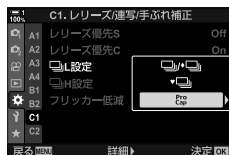


3 十字ボタンの△▽で項目を選択し、▶ボタンを押します。

- プロキャプチャー Lの設定をするときは【**C1**L設定】を、プロキャプチャー Hの設定をするときは【**C1**H設定】を選択します。

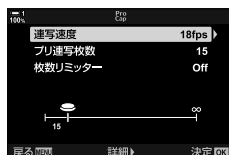


4 △▽ボタンで【**C1**H設定】を選択し、▶ボタンを押します。



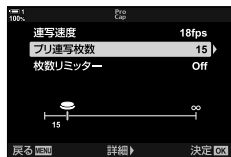
5 **[連写速度]**を設定します。

- △▽ボタンで**[連写速度]**を選択し、▶ボタンを押します。
- △▽ボタンで設定を変更し、**OK**ボタンを押して確定します。



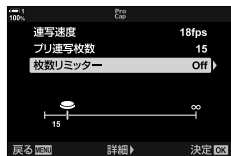
6 [プリ連写枚数]を設定します。

- △▽ボタンで**[プリ連写枚数]**を選択し、▶ボタンを押します。
- △▽ボタンで設定を変更し、**OK**ボタンを押して確認します。
- プリ連写を行わない場合は、**[0]**に設定します。



7 [枚数リミッター]を設定します。

- △▽ボタンで**[枚数リミッター]**を選択し、▶ボタンを押します。
- 撮影枚数を制限しない場合は**[Off]**を選択します。
- 撮影枚数を制限するときは、数値を選択して▶ボタンを押すと、撮影枚数の設定画面が表示されます。◀▶ボタンで桁を選択し、△▽ボタンで数値を変更できます。
- 制限する撮影枚数にプリ連写枚数も含まれます。
- 設定を変更後、**OK**ボタンを押して確認します。



8 **OK**ボタンを押します。

- *カスタムメニュー **Q1**の画面に戻ります。

9 **MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

一定時間ごとに自動的に撮影する

(インターバル撮影設定)




設定した間隔で自動的に撮影できます。また、撮影した一連のコマを1つのムービーにして記録することもできます。

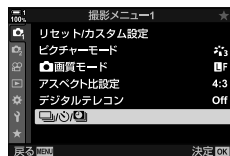
- 撮影モードが**P/A/S/M**モードで使用できます。
- **HDR**撮影(ブラケット設定)、ブラケット撮影、多重露出撮影、ライブ**ND**撮影とは、併用できません。
- スマートフォン接続のワイヤレスリリースモードは使用できます。

コマ数	撮影するコマ数を設定します。
撮影開始待ち時間	インターバル撮影を開始して、最初のコマが撮影されるまでの待ち時間を設定します。
撮影間隔	撮影開始後の各コマの撮影間隔を設定します。
タイムラプス動画	静止画のみの記録か、撮影後に一連のコマでムービーを生成するかを設定できます。 [Off] : 各コマを静止画として記録します。 [On] : 静止画とともに、一連のコマで1つのムービーを生成して記録します。
タイムラプス動画設定	[タイムラプス動画]で記録するムービーの[ムービーサイズ]と[フレームレート]を設定します。

2

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 撮影メニュー1で[//] (ドライブ)を選択し、十字ボタンの▶を押します。



3 △▽ボタンで[インターバル撮影設定]を選択し、▶ボタンを押します。

- [インターバル撮影設定]の設定画面が表示されます。



4 △▽ボタンで[On]を選択し、▷ボタンを押します。



5 △▽ボタンで項目を選択します。

- 項目を選択して▷ボタンを押すと、それぞれのメニューに入ります。
- 設定したら、**OK**ボタンを押します。



6 撮影メニュー 1に戻るまで、繰り返し**OK**ボタンを押します。

- MENU**ボタンを押して、メニューを終了します。
- 撮影画面に戻ると、画面に $\frac{99}{99}$ が表示されます(アイコンには設定したコマ数が表示されます)。

インターバル撮影



7 シャッターボタンを押して撮影します。

- $\frac{99}{99}$ が緑で表示され、残り撮影枚数を表示します。
- 途中で終了したいときは、**MENU**ボタンを押します。
- オートフォーカスした後にピントが合わなくても撮影されます。ピント位置を固定したいときはマニュアルフォーカスで撮影してください。

- 【**撮影確認**】(P.90)は0.5秒で動作します。
- 【**撮影開始待ち時間**】および【**撮影間隔**】の設定を1分31秒以上にすると、1分でモニターを消灯してカメラの電源が切れます。撮影10秒前に自動的に復帰します。また、モニター消灯中はシャッターボタンを押しても復帰します。
- 【**AF方式**】が【**C-AF**】または【**C-AF+TR**】のときは【**S-AF**】に、【**C-AF MF**】または【**C-AF+TR MF**】のときは【**S-AF MF**】に設定されます。
- インターバル撮影中は、タッチ操作を受け付けません。
- 撮影間隔より、フラッシュの充電時間が長いときは、フラッシュは発光しません。
- 撮影した静止画が正しく記録されていない場合、タイムラプスムービーは生成されません。
- カード残量が不足した場合、タイムラプスムービーは記録されません。
- 撮影開始後に次の操作をすると、インターバル撮影は終了します。
モードダイヤルを回す／**MENU**ボタンを押す／ \square ボタンを押す／レンズ取り外しボタンを押す／**USB**ケーブルを接続する
- 電源を切るとインターバル撮影を終了します。
- 電池残量が少なくなると、途中で撮影を終了します。十分に充電した電池をお使いください。

連写中の手ぶれ補正の動作を設定する


(連写中手ぶれ補正)

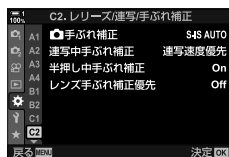
連写中の手ぶれ補正の動作について設定します。

手ぶれ補正は連写中でも有効ですが、効果を最大限に生かすためには、各コマごとに撮像素子を中央にリセットする必要があります。その場合、連写速度が低下します。

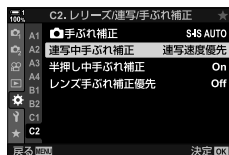
IS優先	手ぶれ補正を優先します。連写速度が若干低下します。
連写速度優先	連写速度を優先します。撮影状況によっては、手ぶれ補正の効果が若干低下する場合があります。

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 **★カスタムメニュー**  (リリース/連写/手ぶれ補正)のメニューを表示します。



3 十字ボタンの△▽で[連写中手ぶれ補正]を選択し、▷ボタンを押します。



4 △▽ボタンで設定を変更します。

5 **OK**ボタンを押して設定を確定します。

6 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

- シャッターボタンを半押ししてメニューを終了することもできます。

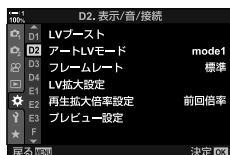
- **Pro Cap L** (プロキャブチャー L)および**Pro Cap H** (プロキャブチャー H)では、**[連写速度優先]**に固定されます。

ファインダー撮影時の表示速度を設定する (フレームレート)

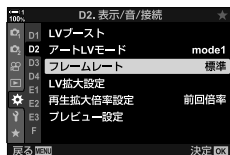
ファインダー表示のフレームレートを上げて、動く被写体をなめらかに表示します。動きの速い被写体などが追いやすくなります。

標準	通常のフレームレートで表示します。通常の撮影ではこの設定をお使いください。
高速	被写体の動きが速くてもなめらかに表示します。動きの速い被写体を追いやすくなります。撮影中にカメラ内部が高温になると、自動的に【標準】に変更されます。

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 **★カスタムメニュー D2** (表示/音/接続)のメニューを表示します。



- 3 十字ボタンの△▽で【フレームレート】を選択し、▷ボタンを押します。



- 4 △▽ボタンで設定を変更します。
- 5 **OK**ボタンを押して設定を確定します。
- 6 **MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。
 - シャッターボタンを半押ししてメニューを終了することもできます。

2-11 手ぶれ補正の機能

手ぶれ補正は、撮影時のカメラのぶれを抑える機能です。

このカメラは、ボディ内5軸手ぶれ補正機構により、角度ぶれのほか、並進ぶれや回転ぶれも全レンズで補正します。夜景や暗い室内での撮影や望遠レンズを使った撮影などの手ぶれの発生しやすいシーンのほか、マクロ撮影でもぶれを抑えた撮影ができます。マイクロフォーサーズ/フォーサーズ以外のレンズでは、手動でレンズの焦点距離を設定してください。

手ぶれを抑えて撮影する

(📷手ぶれ補正)

被写体が暗い場面や、高倍率の撮影などで起きやすい手ぶれを抑えることができます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ(P.177)
 - LVコントロール(P.177)
 - メニュー (P.177)

S-IS OFF (手ぶれ補正オフ)	手ぶれ補正をしません。三脚使用時にお使いください。
S-IS AUTO (オート)	カメラの全方向の動きに対して補正をします。流し撮りを検出すると、画像を流す方向の補正を自動的に停止します。
S-IS (全方向補正)	カメラの全方向の動きに対して補正をします。
S-IS (縦ぶれ補正)	カメラの縦方向の手ぶれに対して補正をします。横方向に流し撮りするときに適しています。
S-IS (横ぶれ補正)	カメラの横方向の手ぶれに対して補正をします。縦位置で流し撮りするときに適しています。

- 手ぶれが大きすぎる場合やシャッター速度が極端に遅い場合は、手ぶれを補正しきれないことがあります。このときは三脚を使用して撮影してください。
- 手ぶれ補正が作動していると、作動音や振動を感じる場合があります。
- 手ぶれ補正機能切り換えスイッチのあるレンズでは、レンズ側の設定が優先されます。
- [レンズ手ぶれ補正優先]が[On]のときは、[S-IS AUTO]は[S-IS]で動作します。



- シャッターボタンを半押ししたときの、手ぶれ補正の動作のオンオフを選択できます。 [半押し中手ぶれ補正] (P.178)
- レンズの手ぶれ補正機能を優先して働かせることができます。 [レンズ手ぶれ補正優先] (P.512)

■ LVスーパーコンパネで設定する

1 LVスーパーコンパネで[📷手ぶれ補正]を選択します。



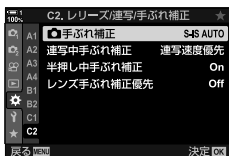
📷手ぶれ補正

2 フロントダイヤルで設定値を選択します。

3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ メニューで設定する

★カスタムメニュー C2 (リリース/連写/手ぶれ補正)の[📷手ぶれ補正]で設定します。



2

MENUボタン ➡ ★タブ ➡ C2タブ ➡ [📷手ぶれ補正] ➡ 十字ボタンの▷を押し、メニューを表示 ➡ △▽ボタンで項目を選択

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールで[📷手ぶれ補正]を選択して、十字ボタンの◀▶で項目を選択します。

- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.68)をご覧ください。



📷手ぶれ補正

📷 マイクロフォーサーズ/フォーサーズ以外のレンズを使うとき

マイクロフォーサーズ/フォーサーズ以外のレンズを使うときは、レンズの焦点距離情報を入力して設定します。設定を選択するメニューで、**INFO**ボタンを押して、十字ボタン(△▽◀▶)で数値を設定し**OK**ボタンを押します。[レンズ情報登録] (P.550)で登録した情報を使用する場合は、登録した焦点距離情報が適用されます。

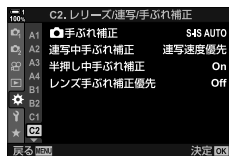
- 0.1mm ~ 1000.0mmまでの焦点距離が設定可能です。
- レンズに記載の数値を設定してください。
- 📷撮影メニュー 1 [リセット/カスタム設定] (P.91)の[リセット] (標準)でカメラの設定をリセットしても、登録したレンズの焦点距離は保持されます。

シャッターボタン半押し中の手ぶれ補正動作を設定する (半押し中手ぶれ補正)

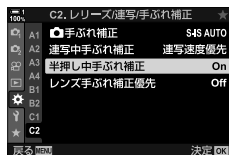
シャッターボタン半押し中に手ぶれ補正の機能を有効にするかどうかを設定できません。水準器を表示して水平を取りながら撮影しているときなどに、手ぶれ補正を無効にすることができます。

On	シャッターボタンを半押ししたときに手ぶれ補正機能が働きます。
Off	シャッターボタンを半押ししたときに手ぶれ補正機能が働きません。

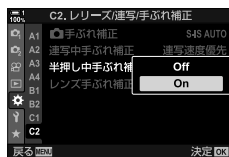
- MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- ★カスタムメニュー** **C2** (リリース/連写/手ぶれ補正)のメニューを表示します。



- 十字ボタンの△▽で[半押し中手ぶれ補正]を選択し、▷ボタンを押します。



- △▽ボタンで[On]または[Off]を選択し、**OK**ボタンを押します。



- MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

2-12 測光・露出の機能


カメラは明るさを測って、自動的に適正な露出に設定します。暗い環境でも自動的に感度を上げて撮影することができます。また、人工照明などでちらつきが発生するような場合に、その影響を軽減するための機能もあります。

カメラが自動的に設定した露出を、自分のイメージした明るさに調整します。+補正にするとより明るく、-補正にするとより暗く表現できます。±5.0EVの範囲で補正できます。

- この機能は以下の方法で設定できます。



-  ボタン

- ダイヤル



- 撮影モードがP/A/Sモードのときに設定できます。Mモードで使用するには、 [ISO感度] が[AUTO]に設定されている必要があります(P.181)。



2

- ±5.0EVの範囲で補正できます。画面に表示される露出バーで表示されるのは±3までです。±3.0EVを超えると点滅します。
- ファインダー、ライブビューの表示は±3.0EVまでしか変化しません。
- 露出補正の設定をライブビュー画面に反映するには、 カスタムメニュー  の[LVブースト] (P.200)が[Off]に設定されている必要があります。初期設定では[Off]に設定されています。

■ (露出補正)ボタンで設定する





 ボタンを押しながら、フロント/リアダイヤルを回します。 ボタンを押し、十字ボタンの<|>で設定することもできます。




露出補正值 露出バー

- OK**ボタンを長押しすると、調整値をリセットできます。



-  (露出補正)の機能は他のボタンに割り当てることもできます。 カスタムメニュー  の[ ボタン機能] (P.463)で設定します。

■ ダイヤルで設定する

P/A/Sモードのときは、フロントダイヤルで設定します。フロントダイヤルを右または左に回します。Mモードのときは、 ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回します。

被写体の明るさに応じて設定します。数値を大きくすると暗い環境での撮影が可能になりますが、画像のノイズ(ざらつき)が多くなります。**[AUTO]**の設定では、明るさに応じて自動的に設定が変わります。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - ISOボタン
 - LVコントロール(P.182)
 - LVスーパーコンパネ(P.182)

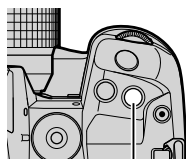
AUTO	撮影状況に応じて自動的に感度が変わります。ISO感度が変わるときの上限やシャッター速度を、 ★ カスタムメニュー ④の [📷ISOオート設定] (P.183)で設定することができます。
L64、L100、 200 ~ 25600	ISO感度を手動で設定します。ISO200はノイズと画像の階調のバランスが最もとれる設定です。 [L100] や [L64] は、絞り値を小さくしたいときや、できるだけシャッター速度を遅くしたいときに設定します。 [L64] はISO64相当、 [L100] はISO100相当です。 <ul style="list-style-type: none"> • [L64]および[L100]は、露出ステップの設定に関わらず選択ができます。 • [L64]または[L100]に設定しているときは、画像の階調が低下します。

2

- 電子シャッターを使った撮影(静音撮影、フォーカスブラケットなど)のときに**[📷ISO感度]**が8000以上の場合、フラッシュの同調秒時は1/20秒になります。
- ISOブラケット撮影を静音撮影で行うときは、ISO感度の設定に関わらず同調秒時は1/20秒になります。

■ ISOボタンで設定する

1 ISOボタンを押します。



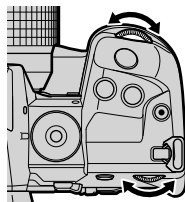
ISOボタン

- **[📷ISO感度]**のメニュー画面が表示されます。



[📷ISO感度]のメニュー

- 2 フロント/リアダイヤルを回して項目を選択します。
- ISO ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回しても設定できます。



- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してメニュー画面を終了します。



- ISO ボタン以外のボタンに登録することもできます。★カスタムメニュー B1 [カメラボタン機能] (P.463) で設定します。

■ LVスーパーコンパネで設定する

- 2 1 LVスーパーコンパネで[ISO感度]を選択します。



ISO感度

- 2 フロントダイヤルで設定値を選択します。
- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールで[ISO感度]を選択して、十字ボタンの◀▶で項目を選択します。

- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.68)をご覧ください。



ISO感度

[ISO感度]を[AUTO]にしたときの動作条件を設定する

(ISOオート設定)

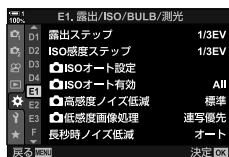
[ISO感度]を[AUTO] (オート)に設定したときは、明るさに応じてISO感度が変化しますが、その変化の仕方を設定します。

上限値/基準値設定	<p>[上限値]: 自動的に変わるISO感度の上限を設定します。</p> <p>[基準値]: 基準値となる値を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定の上限は6400です。設定した絞り値とシャッター速度で適正露出にならないときは、基準値より低い感度に設定されます。
低速限界設定	<p>[ISO感度]を[AUTO]にしたときの、感度を上げ始めるシャッター速度を設定します。撮影モードがPおよびAモードで有効です。[オート]を選択すると、カメラが自動的に設定します。</p>

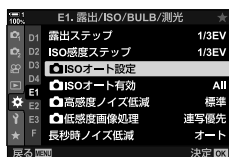
- 以下の撮影では、ISO感度の上限設定は自動的に変更されます。
 - ライブND撮影：ISO800
 - ハイレゾショット撮影([**撮影方法**]が[**三脚**]のとき)：ISO1600
 - ピクチャーモードが[**ドラマチックトーン**]または[**ウォーターカラー**]のとき：ISO1600

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 ***カスタムメニュー** (**露出/ISO/BULB/測光**)のメニューを表示します。



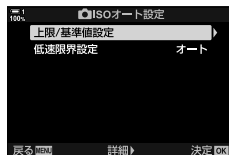
3 十字ボタンの△▽で[**ISOオート設定**]を選択し、▷ボタンを押します。



4 △▽ボタンで設定する項目を選択し、▷ボタンを押します。

[上限値/基準値設定] : <▷ボタンで項目を選択し、△▽ボタンで設定値を変更します。**OK**ボタンを押すと、[ISOオート設定]の画面に戻ります。

[低速限界設定] : [オート]または任意の設定値を設定できます。設定値を変更する場合は、△▽ボタンでシャッター速度を選択して▷ボタンを押し、△▽ボタンで設定値を変更して**OK**ボタンを押します。もう一度**OK**ボタンを押すと、[ISOオート設定]の画面に戻ります。



5 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

[ISO感度]の[AUTO]が動作する露出モードを設定する (ISOオート有効)

[ISO感度]の[AUTO] (オート)が有効になる撮影モードを設定します。

P/A/S	撮影モードがP/A/Sのときに、[ISO感度]の[AUTO]が有効になります。
ALL	P/A/S/Mモードで[ISO感度]の[AUTO]が有効になります。

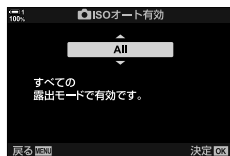
- 1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 カスタムメニュー E1 (露出/ISO/BULB/測光)のメニューを表示します。



- 3 十字ボタンの△▽で[ISOオート有効]を選択し、▷ボタンを押します。










- 4 △▽ボタンで項目を選択し、OKボタンを押します。




- 5 MENUボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

カメラが被写体の明るさを測る方法を設定します。

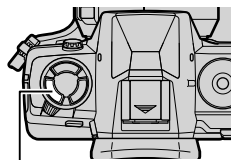
- この機能は以下の方法で設定できます。
 - **AF** ボタン
 - LVスーパーコンパネ(P.187)
 - メニュー (P.187)
 - LVコントロール(P.187)

 (デジタルESP測光)	逆光を含む一般的な撮影状況に適しています。画面を324分割で測光し、撮影シーンを考慮した最適な露出値を演算します。	
 (中央重点測光)	画面中央に主要な被写体を配置して撮影する場合に適しています。画面の中央部に重点を置いて、画面全域を平均測光します。	
 (スポット測光) *	被写体の特定の部分の明るさを基準にして撮影する場合に適しています。狭い範囲(画面の約2%)の部分で測光します。	
 (スポット測光ハイライト) *	スポット測光したポイントがより明るくなります。明るいところを明るく表現します。	
 (スポット測光シャドウ) *	スポット測光したポイントがより暗くなります。暗いところを暗く表現します。	

* AFターゲットの位置に測光位置を連動して動かすこともできます。  **[[::]]連動スポット測光** (P.537)

■ AF ボタンで設定する

1 AF ボタンを押します。



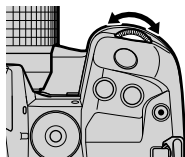
AF ボタン

- [測光]のメニュー画面が表示されます。

[測光]のメニュー



- 2 フロントダイヤルを回して項目を選択します。
- **AF** ボタンを押しながらフロントダイヤルを回しても設定できます。



- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してメニュー画面を終了します。

■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで[測光]を選択します。



測光

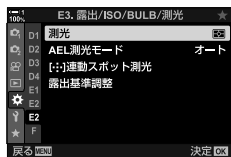
2

- 2 フロントダイヤルで設定値を選択します。
- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ メニューで設定する

★カスタムメニュー **E3** の[測光]で設定します。

MENU ボタン ➡ ★カスタムメニュー ➡ **E3** タブ ➡ [測光]
➡ Δ / ∇ ボタンで項目を選択



■ LVコントロールで設定する

LVコントロールで[測光]を選択して、十字ボタンの \triangleleft / \triangleright で項目を選択します。

- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.68)をご覧ください。



測光

測光した露出を固定します。ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使います。

AEロックは、ボタンで操作する機能です。AEロックの機能を使うためには、**[AE/AFLモード]**の設定が、**[mode1]**または**[mode2]**に設定されている必要があります(P.141)。また、**AE/AFL**ボタンに他の機能を割り当てているときは、**[ボタン機能]**でいずれかのボタンに**[AE/AFL]**の機能を割り当てておく必要があります(P.463)。

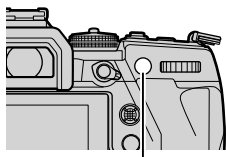
■ AE/AFLボタンの機能を設定する

- MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- ★カスタムメニュー **A1** (AF/MF)のメニューを表示します。
- 十字ボタンの△▽で**[AE/AFLモード]**を選択し、▷ボタンを押します。
- △▽ボタンで使用するAF方式を選択し、▷ボタンを押します。
- △▽ボタンで**[mode1]**または**[mode2]**を選択して**OK**ボタンを押します。
- MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。



■ AEL/AFLボタンを使う

1 露出を固定したい構図で**AEL/AFL**ボタンを押します。



AEL/AFLボタン

- 一度ボタンを押すと露出が固定され、画面に**AE**が表示されます。



AEL

2 AEロックを解除するときにはもう一度**AEL/AFL**ボタンを押します。

- 画面の**AE**が消えます。
- AEロックは、モードダイヤル、**MENU**ボタン、**OK**ボタンを操作すると解除されます。

蛍光灯による明るさのちらつきを抑えて撮影する (フリッカー低減)

蛍光灯などの商用電源照明の環境下では、ライブビューの画面表示がちらついて見えたり、高速シャッター速度で連写した場合に露出がばらつくことがあります。このような影響を低減するための機能です。

撮影時の画面表示のちらつきを抑える (フリッカーレスLV)

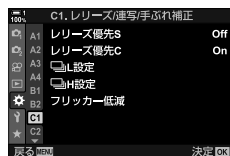
蛍光灯などの照明の環境下で発生する画面のちらつき(フリッカー)を抑えて表示します。画面がちらついて見えにくいなどのときに有効です。

オート	フリッカーを自動で検出して低減します。
50Hz	商用電源が50Hzの地域での照明のちらつきを低減します。
60Hz	商用電源が60Hzの地域での照明のちらつきを低減します。
OFF	フリッカーの低減をしません。

2

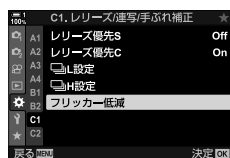
1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。

2 **★カスタムメニュー** **C1** (レリーズ/連写/手ぶれ補正)のメニューを表示します。



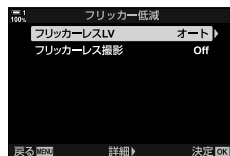
3 十字ボタンの△▽で**[フリッカー低減]**を選択し、▷ボタンを押します。

- ・ **[フリッカー低減]**の設定画面が表示されます。

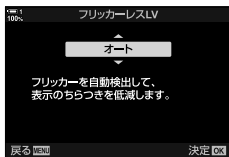


4 △▽ボタンで**[フリッカーレスLV]**を選択し、▷ボタンを押します。

- ・ **[フリッカーレスLV]**の設定画面が表示されます。



- 5 △▽ボタンで項目を選択し、**OK**ボタンを押します。
- ・ [フリッカー低減]の設定画面に戻ります。

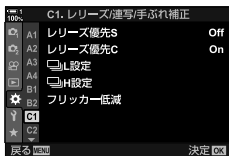


- 6 **MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

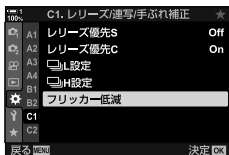
シャッターが切れるタイミングを設定する (フリッカーレス撮影)

照明のフリッカーのある環境下で撮影したときなど、明るさがばらついて写ることがあります。フリッカーによるちらつきの周期を自動的に判断して、シャッターを切るタイミングを制御します。この機能は、機械式シャッターによる撮影で有効な機能です。

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 **★**カスタムメニュー **C1** (リリース/連写/手ぶれ補正)のメニューを表示します。



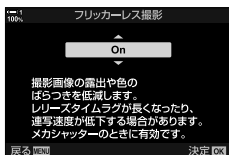
- 3 十字ボタンの△▽で [フリッカー低減] を選択し、▷ボタンを押します。
- ・ [フリッカー低減]の設定画面が表示されます。



- 4 △▽ボタンで [フリッカーレス撮影] を選択し、▷ボタンを押します。
- ・ [フリッカーレス撮影]の設定画面が表示されます。



- 5 △▽ボタンで [On] または [Off] を選択し、**OK**ボタンを押します。
- ・ [フリッカー低減]の設定画面に戻ります。



6 MENUボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

- [On]に設定すると、画面に**FLK**が表示されます。



- 静音撮影やハイレゾショット撮影、プロキャプチャー撮影などの電子シャッターによる撮影時は動作しません。
- 環境によってはフリッカーが検出できないことがあります。その場合は、通常のタイミングでシャッターが切れます。
- シャッター速度が遅いときは、通常のタイミングで撮影されます。
- シャッターが切れる際にタイムラグが生じたり、連写速度が低下する場合があります。

LED照明による明るさのちらつきを抑えて撮影する (📷フリッカースキャン)

LED照明の環境下では、撮影した画像にすじが写ることがあります。[📷フリッカー
スキャン]では、画面ですじの発生を確認しながら適切なシャッター速度を選んで
撮ることができます。

この機能は、撮影モードが**S**または**M**で、静音撮影、ハイレゾショット撮影、プロキャ
プチャー撮影のときに使用できます。

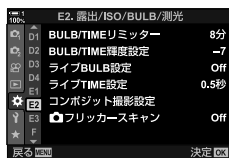
- 設定できるシャッター速度の範囲が狭くなります。

1 撮影モードとドライブ機能の設定をします。

- 撮影モードを、**S**または**M**に設定します。
- ドライブを、以下のいずれかに設定します。
 - 静音撮影(♥□、♥□、♥□、♥□_{2s}、♥□_{2s}、♥□)
 - ハイレゾショット(📷)
 - プロキャプチャー撮影(Pro CapL、Pro CapH)

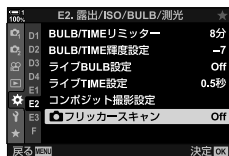
2 MENUボタンを押して、メニューを表示します。

3 *カスタムメニュー E2 (露出/ISO/BULB/測光)の メニューを表示します。



4 十字ボタンの△▽で[📷フリッカースキャン]を選 択し、▷ボタンを押します。

- [📷フリッカースキャン]の設定画面が表示されます。



5 △▽ボタンで[On]を選択し、OKボタンを押します。

- メニュー画面に戻ります。



6 MENUボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

- 撮影画面に戻ります。画面に **Flicker Scan** が表示されます。



7 画面を見ながらシャッター速度を設定します。

- フロント/リアダイヤル、または十字ボタンの Δ ∇ で設定できます。
- 画面に発生するすじが見えなくなるようにシャッター速度を調整してください。
- **INFO** ボタンを押すと画面が切り換わり、**Flicker Scan** が消えます。このとき、絞りや露出補正の設定ができます。フロント/リアダイヤルまたは、十字ボタンを使って設定してください。
- **INFO** ボタンを繰り返し押すと、フリッカーキャンの設定画面に戻ります。

8 設定を終えたら撮影します。

- フリッカーキャンの画面では、ピーキング表示や、LVスーパーコンパネ、LVコントロールの表示はできません。表示するときは**INFO** ボタンを押して画面の情報表示を切り換えてください。




- **[カメラフリッカーキャン]**の機能をボタンに割り当てておくことができます。ボタンを押す操作だけで機能をオンにすることができます。 **[カスタムメニュー B1]** **[カメラボタン機能]** (P.463)

ハイダイナミックレンジ撮影をする (HDR撮影)

露出を変えて撮影した複数枚の画像を、それぞれの画像の階調が失われている部分を補うように合成することで、階調を拡大したかのような画像にします。通常だと一方の階調が失われるような輝度差の大きい被写体でも黒つぶれや白とびを防いだ画像にすることができます。

- P/A/S/Mモードで使用できます。

HDR1	1回の撮影で自動的に露出を変えながら複数枚の撮影をしてカメラ内で合成した画像を生成します。【HDR1】にすると自然な風合いの仕上がりに、【HDR2】にすると絵画のようなアート性を強くした仕上がりになります。 <ul style="list-style-type: none">• [ISO感度]は、200に固定されます。• 設定できるシャッター速度は4秒までです。撮影は15秒まで動作します。• ピクチャーモードは【Natural】に、カラー設定は【sRGB】に固定されます。• HDR合成された画像はJPEGで記録されます。画質モードが【RAW】のときはRAW+JPEGで記録されます。
HDR2	
3f 2.0EV	1回の撮影で自動的に露出を変えながら複数枚の撮影をします。合成画像の生成は行いません。パソコンなどでHDR合成のできるソフトウェアを使って合成してください。
5f 2.0EV	
3f 3.0EV	
5f 3.0EV	
7f 2.0EV	



3f 2.0EV
↓
撮影枚数 露出の変化量

2

- 1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 撮影メニュー 2で【HDR撮影】を選択し、十字ボタンの▶を押します。
- 3 △▽ボタンで設定を変更し、OKボタンを押します。
 - 撮影メニュー 2に戻ります。



4 MENUボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

- 撮影画面に戻ります。画面に[HDR]が表示されます。
- ドライブ機能が \square (連写H)に固定されます。



5 撮影します。

- シャッターボタンを押すと、自動的に設定した枚数の撮影を行います。
- [HDR1]および[HDR2]に設定したときは、撮影後自動的にカメラ内で画像が合成されます。
- P/A/Sモードでは露出補正ができます。
- Mモードでは、設定した絞り値とシャッター速度を基準にしてHDR撮影します。

2

- 三脚などでカメラを固定して撮影してください。
- 撮影中にモニターやファインダーに表示される画像は、HDR処理された画像とは異なります。
- [HDR1]および[HDR2]で撮影したときはシャッター速度を遅くして撮影すると、合成画像にノイズが目立つ場合があります。
- 以下の機能とは併用できません。
フラッシュ撮影／ブラケット撮影／多重露出撮影／インターバル撮影／
デジタルシフト撮影／ライブND撮影／フィッシュアイ補正撮影



- [HDR撮影]の機能を任意のボタンに割り当てておくことができます。ボタンを押す操作だけで機能をオンにすることができます。☞ \star カスタムメニュー B1 【 \square ボタン機能】(P.463)

明るい環境下でスローシャッター撮影をする (ライブND撮影)

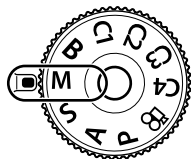
複数枚の撮影をして合成をすることで、長秒時シャッターで撮影したような効果を得ることができます。

- **S**または**M**モードのときに設定できます。

ND段数	露出を落とす段数を設定します。1EVずつシャッター速度を遅く設定できます。 [ND2(1EV)] / [ND4(2EV)] / [ND8(3EV)] / [ND16(4EV)] / [ND32(5EV)]
LVシミュレーション	シャッター速度の設定による画像の仕上がり具合をライブビューで確認することができます。 [On] : シャッター速度の設定に合わせた写り方で表示されます。 [Off] : 通常を表示をします。

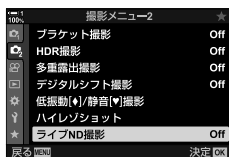
- [LVシミュレーション]による表示は、露出補正やシャッター速度の変更を行うと、表示はリセットされます。

1 モードダイヤルを**S**または**M**に合わせます。



2 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

3 撮影メニュー2で[ライブND撮影]を選択し、十字ボタンの▷を押します。



4 △▽ボタンで[On]を選択し、▷ボタンを押します。



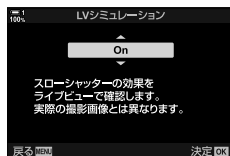
5 [ND段数]を設定します。

- △▽ボタンで[ND段数]を選択し、▶ボタンを押して[ND段数]の設定画面を表示します。
- △▽ボタンで設定を変更し、**OK**ボタンを押して設定を確定します。



6 [LVシミュレーション]を設定します。

- △▽ボタンで[LVシミュレーション]を選択し、▶ボタンを押して[LVシミュレーション]の設定画面を表示します。
- △▽ボタンで設定を変更し、**OK**ボタンを押して設定を確定します。



7 **OK**ボタンを押して[ND段数]と[LVシミュレーション]の設定を確定します。

8 設定完了後すぐにライブND撮影を行う場合は[On]を、行わない場合は[Off]を選択して、**OK**ボタンを押します。

- 撮影メニュー 2の画面に戻ります。



9 **MENU**ボタンを押してメニューを終了します。

- [ライブND撮影]が[On]の場合は、ライブND撮影が開始されます。
- ライブND撮影中は、画面にアイコンが表示されます。
- ライブND撮影を終了するときは、手順4の[ライブND撮影]の設定画面で[Off]を選択します。

ライブND撮影



10 画面で仕上がりを確認しながら、シャッター速度を設定します。

- フロント/リアダイヤルで設定します。
- シャッター速度の上限は、ND段数により次のように変わります。

[ND2 (1EV)] : 1/30秒

[ND4 (2EV)] : 1/15秒

[ND8 (3EV)] : 1/8秒

[ND16 (4EV)] : 1/4秒

[ND32 (5EV)] : 1/2秒

- **[LVシミュレーション]**が**[On]**のときは、シャッター速度の設定に応じた写り方で画面に表示されます。



シャッター速度

11 撮影します。

- **[LVシミュレーション]**で仕上がりに近い表示をするためには、設定しているシャッター速度と同じ時間がかかります。
- ライブND撮影中は、**[ISO感度]**が800までに制限されます。**[ISO Auto]**の設定でも上限は800までになります。
- ライブND撮影中は、ドライブの機能が▼□に設定されます。
- 以下の機能は併用できません。
HDR撮影/ハイレゾショット撮影/多重露出撮影/デジタルシフト撮影/
ブラケット撮影/インターバル撮影/フリッカースキャン/フリッカーレス撮影/
追尾被写体設定/フィッシュアイ補正撮影
- ライブND撮影は、撮像素子に届く光量を調節するNDフィルターとは異なるため、高輝度の被写体が露出オーバーで写ることがあります。



- **[ライブND撮影]**の機能を任意のボタンに割り当てておくことができます。ボタンを押す操作だけで機能をオンにすることができます。**[カスタムメニュー 01]** **[カメラボタン機能]** (P.463)

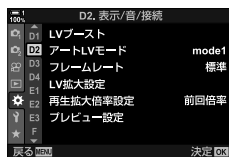
露出補正などの露出設定の結果をライブビュー画面に反映して表示することができます。また、星景撮影のように暗くて見えない環境でも見やすい明るさで表示することもできます。**M**モードやバルブ撮影、ライブコンポジット撮影など個別に設定できます。

Off	露出設定を反映してライブビュー表示します。撮影結果をあらかじめ確認しながら撮影できます。 ・バルブ/タイム撮影では設定できません。
On1	露出設定を反映せずに見やすい明るさで表示します。実際に撮影される画像とは明るさが異なります。
On2	[On1] よりさらに明るく表示します。星景撮影で星を確認しながら撮影するときなどに適しています。 ・実際に撮影される画像とは明るさが異なります。また、被写体の動きが少し荒くなります。 ・被写体に応じて表示速度を優先して表示するか、画質を優先して表示するかを選択できます。

- ・**[On1]** **[On2]**に設定した場合、連写速度が低下することがあります。連写速度を確保したい場合はLVブーストの設定を**[Off]**にしてください。

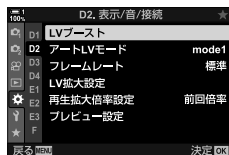
1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 **★カスタムメニュー D2** (表示/音/接続)のメニューを表示します。



3 十字ボタンの△▽で**[LVブースト]**を選択し、▷ボタンを押します。

- ・**[LVブースト]**の設定画面が表示されます。



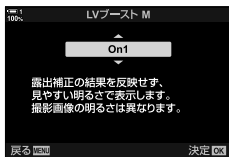
4 △▽ボタンで、**[LVブースト]**の設定を変更したい撮影モードを選択し、**OK**ボタンを押します。

- [M]** : Mモード時
[BULB/TIME] : バルブ/タイム撮影時
[COMP] : ライブコンポジット撮影時
[その他] : その他の撮影時



5 △▽ボタンで設定を変更し、**OK**ボタンを押します。

- **[BULB/TIME]**では**[Off]**の設定はできません。
- **[On2]**を選択して▶ボタンを押すと、**[On2]**にしたときに表示速度と画質のどちらを優先させるかを設定できます。**[LV表示速度優先]**または**[LV画質優先]**を選択して**OK**ボタンを押します。
- 必要に応じて手順4と5を繰り返します。



6 **MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

- **[On2]**で**[LV画質優先]**を選択したときは、暗い撮影シーンで表示のフレームレートが遅くなります。**[LV表示速度優先]**のときは、表示される色が正しくなかったり、画質が粗くなります。

2-13 色・画質の機能









画像の色や画質などの主に絵作りに関する機能についての説明です。ホワイトバランスやピクチャーモードのように色合いを調整するための機能や、ハイレゾショットのようにより高解像の画像を得るための機能があります。

画像の色合いを調整する

(WBモード)

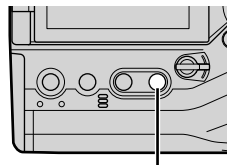
白いものを白く写す機能です。通常は**[AUTO]**（オート）で問題ありませんが、適切な白にならない場合や逆に色合いを出したい場合は、**[AUTO]**以外のホワイトバランスを手動で設定します。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - **WB**ボタン(P.203)
 - **メニュー** (P.204)
 - **LVスーパーコンパネ**(P.204)
 - **LVコントロール**(P.204)

WBモード		設定される色温度	適した撮影シーン
オートホワイトバランス	AUTO	—	一般的なほとんどの撮影シーン(画面内に白に近い色が存在する撮影シーン) <ul style="list-style-type: none">• 通常はこのモードをお使いください。• 電球色を残した色合いにする設定もできます(P.205)
プリセット ホワイトバランス		5300K	晴天の日に屋外で撮るとき、夕焼けを赤く撮るとき、花火を撮るとき
		7500K	晴天の日に屋外の日陰で撮るとき
		6000K	曇天の日に屋外で撮るとき
		3000K	電球に照らされている被写体を撮るとき
		4000K	蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
		—	水中で撮るとき
		5500K	フラッシュ撮影のとき
ワンタッチ ホワイトバランス		ワンタッチホワイトバランスで設定した色温度	白に合わせたいものが特定できるとき <ul style="list-style-type: none">• 実際の撮影環境下で白に合わせたいものの色温度を測って設定します(P.207)。
カスタムホワイト バランス	CWB	2000K ~ 14000K	色温度の特定ができるとき <ul style="list-style-type: none">• 色温度を選択して設定します。

■ WBボタンで設定する

1 WBボタンを押します。



WBボタン

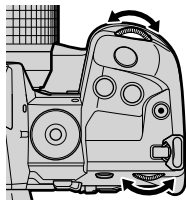
- [WBモード]のメニュー画面が表示されます。



[WBモード]のメニュー

2 フロント／リアダイヤルを回して項目を選択します。

- [AUTO]を選択したときは、**INFO**ボタンを押して、[WBオート 電球色残し]の設定ができます (P.205)。
- ワンタッチホワイトバランス (P.207) やカスタムホワイトバランスを選択したときは、**INFO**ボタンを押して調整値の取得や変更ができます。
- **WB**ボタンを押しながらフロント／リアダイヤルを回しても設定できます。



3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してメニュー画面を終了します。



- 初期設定では、**WB**ボタンで設定できます。[WBモード]の機能を他のボタンに割り当てることもできます。★カスタムメニュー **B1**の[WBボタン機能] (P.463)で設定します。

■ LVスーパーコンパネで設定する

LVスーパーコンパネでも設定できます。

OKボタン ➡ **[WBモード]** ➡ フロントダイヤルで設定

- **[WBモード]**で**[AUTO]**を選択したときは、**OK**ボタンを押した後、**[WBオート 電球色残し]**の設定ができます(P.205)。
- ワンタッチホワイトバランス(P.207)やカスタムホワイトバランスを選択したときは、**OK**ボタンを押して**[WBモード]**メニューを表示し、**INFO**ボタンを押すと調整値の取得や変更ができます。
- カスタムホワイトバランス(CWB)に設定したときは、LVスーパーコンパネで表示される色温度を選択して、フロントダイヤルを回して色温度の設定を変更できます。



色温度

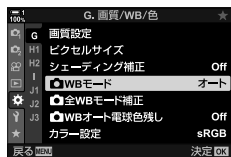
2

■ メニューで設定する

★カスタムメニュー **G**の**[WBモード]**で設定します。

MENUボタン ➡ ★タブ ➡ **G**タブ ➡ **[WBモード]** ➡

十字ボタンの△▽で項目を選択



■ LVコントロールで設定する

LVコントロールで**[WBモード]**を選択して、十字ボタンの◀▶で項目を選択します。

- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.68)をご覧ください。



WBモード

WBオート設定で電球の色合いを残して撮影する

(📷WBオート 電球色残し)

ホワイトバランスがオート設定でも、電球の色合いを残した仕上がりになります。ホワイトバランスがオートの場合は正しい色合いで撮影するように自動的に調整されますが、この機能を使うと電球の下で撮影したときの雰囲気を残せます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - **WB** ボタン
 - LVスーパーコンパネ
 - LVコントロール
 - メニュー
- **WB** ボタン、LVスーパーコンパネ、LVコントロールでは、ホワイトバランスを**[WB Auto]**に設定して、**INFO** ボタンを押して選択することができます。

■ WBボタンで設定する

[WB Auto]を選択 ➡ **INFO** ボタン ➡ **[On]**に設定

■ LVスーパーコンパネで設定する

[📷WBモード]を選択 ➡ **OK** ボタン ➡ **[📷WBモード]**メニューで**[WB Auto]**を選択 ➡ **INFO** ボタン ➡ **[On]**に設定

■ メニューで設定する

MENU ➡ **✳**カスタムメニュー **G**で**[📷WBオート 電球色残し]**を選択 ➡ **[On]**に設定

■ LVコントロールで設定する

- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.68)をご覧ください。

[📷WBモード]を選択 ➡ **[WB Auto]**を選択 ➡ **INFO** ボタン ➡ **[On]**に設定

ホワイトバランスを微調整する (📷ホワイトバランス補正)

ホワイトバランスの設定を微調整できます。個別に調整値を設定できます。以下の補正ができます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - メニュー

A A方向(アンバー - 青)	+方向で赤味がかり、-方向で青味がかった画像になります。
G G方向(緑 - 赤紫)	+方向で緑の色味が増し、-方向で赤紫がかった画像になります。

■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで[📷WBモード]を選択し、ホワイトバランスの設定をします。



📷WBモード

- 2 十字ボタンでWB補正([A±0]または[G±0])を選択し、フロントダイヤルで補正值を設定します。



ホワイトバランス補正值

- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。



- 全てのホワイトバランスの全ての項目を一括で調整することもできます。📷 [📷全WBモード補正] (P.545)

■ メニューで設定する

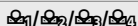
MENUボタン ➡ ***** (カスタムメニュー)タブ ➡ **G** (画質/WB/色)タブ ➡ [📷WBモード] ➡ いずれかのホワイトバランス設定を選択して十字ボタンの▷を押す ➡ ◁▷ボタンで、A±0またはG±0を選択して△▽ボタンで調整値を設定([CWB])のときは、もう一度▷ボタンを押してから△▽◁▷ボタンで設定)

- A、Gの調整画面で、🔊 (ムービー)ボタンを押すと調整した状態を撮影画面で確認できます。もう一度、🔊ボタンを押すとライブビュー表示に戻ります。

任意のホワイトバランスを設定する (ワンタッチホワイトバランス)

実際の撮影環境下で白に合わせたいものを測って、ホワイトバランスを設定します。
☀ (晴天)や☁ (曇天)などの用意された設定値や微調整では合わせるのが難しい、微妙な色合いの設定ができます。取得した調整値を記憶させておき、使い分けることができます。

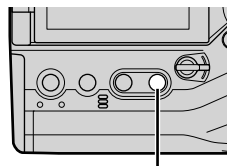
- この機能は以下の方法で設定できます。
 - **WB** ボタン
 - LVスーパーコンパネ(P.209)
 - メニュー (P.209)
 - LVコントロール(P.209)



調整値を取得して、4つまで記憶させておくことができます。

■ WBボタンで設定する

1 WBボタンを押します。



WBボタン

- [WBモード]のメニュー画面が表示されます。



[WBモード]のメニュー

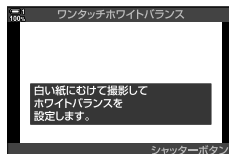
2 フロント/リアダイヤルを回して、 ~ のいずれかを選択します。

- **WB** ボタンを押しながらリアダイヤルを回して、設定を選択することもできます。ボタンを離すと設定が確定して、撮影画面に戻ります。



3 INFOボタンを押します。

- ワンタッチホワイトバランス取得画面が表示されます。



4 白かグレーのような無彩色の紙が画面中央に写るようにしてシャッターを切ります。

- 写す部分に影ができないように注意してください。
- データを記憶するかどうかを確認する表示が出ます。

5 十字ボタンの△▽で[実行]を選択し、OKボタンを押します。

- 選択しているワンタッチホワイトバランスに設定が記憶され、撮影画面に戻ります。
- 撮り直すときは、[中止]を選んでOKボタンを押します。手順3からやり直してください。



2

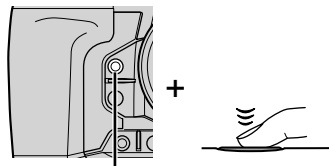
■ ワンタッチホワイトバランスボタンを使う

ボタンに[ワンタッチWB]が割り当てられているときに使えます。初期設定では、ワンタッチホワイトバランスボタン(📷👉)に割り当てられています。

1 白かグレーのような無彩色の紙が画面中央に写るようにします。

2 ワンタッチホワイトバランスボタンを押しながら、シャッターボタンを全押しします。

- データを登録するワンタッチWBの選択メニューが表示されます。



ワンタッチホワイトバランスボタン
(📷👉)

3 十字ボタンの△▽で選択してOKボタンを押します。

- データが記憶されて、撮影画面に戻ります。



■ LVスーパーコンパネで設定する

LVスーパーコンパネでも設定できます。

[WBモード] ➔ **OK**ボタン ➔ フロントダイヤルで WB1 ~ WB4 のいずれかが設定 ➔ **INFO**ボタン ➔ 調整値を取得

- 「**WB**ボタンで設定する」(P.207)と同様にシャッターボタンを押して調整値を取得します。

■ メニューで設定する

メニューでは、記憶されているワンタッチホワイトバランスを使う設定のみができます。

MENUボタン ➔ \ast (カスタムメニュー)タブ ➔ **G** (画質/WB/色)タブ ➔ **[WBモード]**
➔ 十字ボタンの Δ ∇ で WB1 ~ WB4 のいずれかを選択

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールでも設定できます。

- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.68)をご覧ください。

OKボタン ➔ **[WBモード]** ➔ 十字ボタンの \triangleleft \triangleright を押して WB1 から WB4 のいずれかを選択



WBモード

- あらたに設定を取得するときは、**INFO**ボタンをしてワンタッチホワイトバランス取得画面を表示します。

より解像度の高い静止画を撮影する(ハイレゾショット)

撮像素子の画像サイズ以上の高解像の写真を生成します。撮像素子を動かしながら撮影した複数枚の画像をもとに1枚の高解像の画像にします。通常の画像サイズでは拡大しても見分けられないような細かい部分も精細に再現した画像を得ることができます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - メニュー (P.210, 212)
 - LVスーパーコンパネ(P.212)
 - 充電/再生ボタン(P.212)
 - LVコントロール(P.212)
- 画質モードはJPEG (F または F) とRAW+JPEGです。RAW+JPEGは、ハイレゾショットのRAW以外に合成前のRAW画像(拡張子「.ORI」)を1枚保存します。ハイレゾショットを設定して、**[画質モード]**で画質を設定してください。設定「ハイレゾショット撮影の画質を設定をする(画質モード)」(P.213)
- 合成前のRAW画像(.ORI)は、最新のOlympus Workspaceで再生できます。

2

ハイレゾショット (Off, 0秒~30秒)	シャッターボタンを全押ししてから実際にシャッターが切れるまでの時間(撮影開始までの時間)を設定します。シャッターボタンを押したときのカメラのぶれの影響を避けるときに設定します。 [Off] に設定するとハイレゾショット撮影はせず通常の撮影になります。
充電待ち時間	ハイレゾショット撮影でフラッシュを使用するときの、フラッシュの充電を待つための間隔を設定します。
撮影方法	[三脚] : カメラを三脚などで固定して撮影します。RAW画像は、80M (10400×7792)で記録されます。 <ul style="list-style-type: none">フラッシュの同調秒時は、1/50秒です。[ISO感度]の上限は、1600です。 [手持ち] : カメラを手持ちで撮影します。 [三脚] の設定より1枚の撮影に少し時間がかかります。RAW画像は、50M (8200×6132)で記録されます。 <ul style="list-style-type: none">フラッシュは発光しません。[ISO感度]の上限は、6400です。

1 **MENU**ボタンを押し、メニューを表示します。

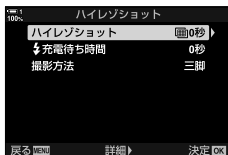
2 **撮影メニュー 2**の**[ハイレゾショット]**を選択し、十字ボタンの**▷**を押します。

- [ハイレゾショット]**の設定画面が表示されます。



3 項目を選択し、▶ボタンを押して設定します。

- 以下の設定をして**OK**ボタンを押します。
[ハイレゾショット]: ▾ボタンで[0秒]を選択して▶ボタンを押します。時間を設定します。
[充電待ち時間]: 時間を設定します。
[撮影方法]: [三脚]か[手持ち]を選択します。



4 設定が完了したら、**OK**ボタンを押します。

- 撮影メニュー2の設定画面に戻ります。

5 **MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

- 画面に[]が表示されます。カメラが安定していないときは、[]が点滅します。カメラを安定させて[]が点灯に変わったら準備完了です。
- ハイレゾショットの画質に変更されているので、画質設定を確認してください。変更するときは、LVスーパーコンパネを開いて設定します。



ハイレゾショット準備中

2

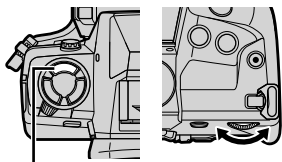
6 撮影します。

- カメラぶれにより画像がぶれる可能性が高いときは、[]が点滅します。カメラをしっかり固定してください。
- 緑色の[]が消えると撮影終了です。
- 撮影後、自動的に画像が合成されます。合成中を示す表示がされます。
- [手ぶれ補正]は、[撮影方法]が[三脚]のときは自動的に[S-IS Off]に、[手持ち]のときは[S-IS AUTO] (オート)に設定されます。
- [撮影方法]が[手持ち]のときは、撮影待ち時間の設定は最大1秒に制限されます。
- 専用外部フラッシュを使用するときは、[充電待ち時間]の設定は必要ありません。RCフラッシュ撮影のときは、撮影待ち時間の設定は最大4秒に制限され、フラッシュの発光方式はMANUALに固定されます。
- 撮影モードがBでは使用できません。
- ハイレゾショット撮影時は、以下の機能は使用できません。
インターバル撮影／多重露出撮影／デジタルシフト撮影／ブラケット撮影／フィッシュアイ補正撮影／ライブND撮影
- ピクチャーモードの[eポートレート]やアートフィルターに設定しているときは、[Natural]で撮影されます。
- 画像のぶれなどで合成ができない場合、画質モードが[JPEG]のときは1枚目の画像をJPEGで記録します。[RAW+JPEG]のときは1枚目のRAW (.ORF)とJPEGを記録します。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下では、画質が粗くなる場合があります。

⚡️📷📷ボタンやLVスーパーコンパネ、LVコントロールでも設定できます。ドライブ機能でハイレゾショットの設定が表示されないときは、メニューを使って設定してください(P.210)。

■ ⚡️📷📷ボタンで設定する

⚡️📷📷ボタンを押し、リアダイヤルを回して📷を選択します。



⚡️📷📷ボタン

- **INFO**ボタンを押すと、**[撮影方法]**の選択メニューが表示されます。



2

■ LVスーパーコンパネで設定する

LVスーパーコンパネでも設定できます。

OKボタン ➡ **[📷📷]** (連写/セルフタイマー)を選択して**OK**ボタンを押す ➡ 📷を選択



📷📷 (連写/セルフタイマー)

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールで**[📷📷]** (連写/セルフタイマー)を選択して、十字ボタンの<D>で項目を選択します。

- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ドライブコントロール)で設定する」(P.68)をご覧ください。



📷📷 (連写/セルフタイマー)

■ メニューで設定する

MENUボタン ➡ 📷 (撮影メニュー 1)タブ ➡ **[📷📷📷]** ➡ **[📷📷]** ➡ 📷を選択

ハイレゾショット撮影の画質を設定をする (📷画質モード)

ハイレゾショットに設定されると、画質モードはハイレゾショットの設定に変更されます。ハイレゾショットに設定したときは、必ず画質モードの設定を確認してください。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ - LVコントロール(P.214)
 - メニュー (P.214)

50M F	画像サイズが50M (8160×6120)、画質が [Fine] のJPEGで記録します。
25M F	画像サイズが25M (5760×4320)、画質が [Fine] のJPEGで記録します。
50M F+RAW	画像サイズが50M (8160×6120)で画質が [Fine] のJPEGと、RAWで記録します。
25M F+RAW	画像サイズが25M (5760×4320)で画質が [Fine] のJPEGと、RAWで記録します。

- RAWの画像サイズは、**[撮影方法]**が**[手持ち]**のときは8200×6132に、**[三脚]**のときは、10400×7792になります。

■ LVスーパーコンパネで設定する

1 あらかじめ、ハイレゾショットを設定しておきます。



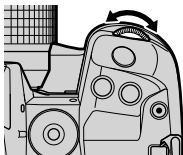
2 LVスーパーコンパネでカードスロット1 (1)または2 (2)の**[📷画質モード]**を選択します。

- カードスロットごとに画質モードを設定できます。**[📷記録設定]** (P.72)が**[振り分け↓]**または**[振り分け↑]**に設定されているときは、カードスロットごとに画質モードを設定できます。それ以外の設定では、1と2は同じ設定になります。



📷画質モード

3 フロントダイヤルで設定値を選択します。



4 シャッターボタンを半押しして、LVスーパーコンパネを終了します。

- **[📷記録設定]** (P.72)の設定を変更したり、カードの抜き差しをして記録可能なカードが切り換わると、画質モードが変更されることがありますので、撮影前に必ずご確認ください。特に**[振り分け↑]**や**[振り分け↑]**に設定したときは、画質モードが変更されるので再度設定してください。

■ メニューで設定する

メニューでも設定できます。📷撮影メニュー 1の**[📷画質モード]**で設定します。

MENUボタン ➡ 📷 (撮影メニュー 1)タブ ➡ **[📷画質モード]** ➡ 十字ボタンの▷を押して選択メニューに入り設定

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールでも設定できます。

- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.68)をご覧ください。

OKボタン ➡ **[📷画質モード]** ➡ 十字ボタンの◁▷を押して設定



📷画質モード













画像の仕上がりを設定する

(ピクチャーモード)







画像の色合いや階調を操作して仕上がりを調整します。被写体や写真表現に合わせて、用意された項目を選ぶだけで設定できます。それぞれの項目別に、コントラストやシャープネスなどの調整をすることができます。また、写真をアーティストックな表現にするアートフィルターを使うこともできます。アートフィルターでは、フレーム効果などの効果の設定をすることもできます。調整したパラメータはピクチャーモード別に記憶されます。

- この機能は、静止画撮影、ムービー撮影の両方で機能します。

通常のピクチャーモード

 i-Finish	カメラが被写体を自動的に判別して、最適な色やコントラストを再現します(P.226)。
 Vivid	鮮やかな色合いになります。
 Natural	自然な色合いになります。
 Flat	素材性を重視した仕上がりになります。
 Portrait	肌色をきれいに仕上げます。
 モノトーン	モノクロ調に仕上げます。フィルター効果を使ったり全体的に色付けする調色をすることもできます(P.224)。
 カスタム	調整を加えたピクチャーモードを登録できます。
 eポートレート	肌を明るくなめらかに補正します。
 水中	水中写真にあった色鮮やかな色彩に仕上げます。 <ul style="list-style-type: none">•  水中]を設定して撮影するときは、[+WB]連動 (P.540)を[Off]に設定することをおすすめします。
 カラークリエイター	印象に合わせて全体の色合いや彩度を調整します(P.229)。

アートフィルター

 ART ₁ ポップアート	色の美しさを強調した仕上がりになります。
 ART ₂ ファンタジック フォーカス	柔らかいトーンの中で空気感を表し、幻想的な仕上がりになります。
 ART ₃ デイドリーム	全体的に光を散らし、露出をややオーバー気味にして、やさしい光に包まれた浮遊感を表現した仕上がりになります。
 ART ₄ ライトトーン	シャドウ部もハイライト部も柔らかく描写し、上質で落ち着いた仕上がりになります。
 ART ₅ ラフモノクローム	モノクロならではの力強さ、荒々さを表現した仕上がりになります。
 ART ₆ トイフォト	画面周辺部を暗くして、古いカメラやトイカメラを使って撮ったような仕上がりになります。

ART 7 ジオラマ	彩度やコントラストを強調し、ピントを合わせた位置以外をぼかすことによって、ミニチュアのような雰囲気仕上がりになります。
ART 8 クロスプロセス	不安定で非現実的な雰囲気を表現した仕上がりになります。クロスプロセスⅡは、マゼンタを強調した色合いになります。
ART 9 ジェントルセピア	全体的に柔らかい描写で、落ち着いた雰囲気の中にもシャドウ部が引き締まった、しっとりとした上品な仕上がりになります。
ART 10 ドラマチックトーン	部分的にコントラストを強くし、明暗差を強調した仕上がりになります。
ART 11 リーニュクレール	エッジラインを強調し、イラストテイストを付加した仕上がりになります。
ART 12 ウォーターカラー	暗部を大胆に削除し、白いキャンパスに淡く明るい色彩をなじませ、さらに柔らかい輪郭線を載せて、ほんわりとした明るい雰囲気に仕上がります。
ART 13 ヴィンテージ	フィルムプリントの変色や退色などの効果を加えることによって、日常のひとコマをノスタルジックなヴィンテージ調に表現します。
ART 14 パートカラー	強調したい色だけを抽出し、それ以外はモノトーンに抑えることによって、被写体を印象的に表現します。
ART 15 プリーチバイパス	映画撮影などで用いられる「銀残し(プリーチバイパス)」の効果を加えることで、街並みなどの情景や金属の質感をより印象的に表現します。
ART 16 ネオノスタルジー	フィルム特有の人物の肌のトーンや暗部の色の変化を、現代風にアレンジして表現します。

- アートフィルターの効果はJPEG画像にのみ適用されます。画質モードが**[RAW]**のときは、自動的に**[RAW+JPEG]**に設定されます。
- 撮影シーンによっては階調が崩れたり、補正の効きが弱くなったり、また画像の粗さが強調される場合があります。



- *カスタムメニュー **D1**の**[ピクチャーモード表示]** (P.520)で表示/非表示の設定ができます。

ピクチャーモードを設定する

この機能は以下の方法で設定できます。

- LVスーパーコンパネ
- メニュー (P.218)
- LVコントロール

■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで【ピクチャーモード】を選択します。

ピクチャーモード



- 2 フロントダイヤルで設定値を選択します。

- 設定値によって、効果やシャープネスなどの関連する設定が調整できるようにLVスーパーコンパネの項目が変わります。必要に応じてそれぞれの項目を設定してください(P.220-226)。



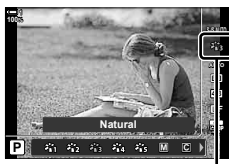
ピクチャーモードの設定によって変わります

- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールでも設定できます。

- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.68)をご覧ください。



ピクチャーモード

OKボタン ➡ 【ピクチャーモード】 ➡ 十字ボタンの▷を押して設定



























- 【カラークリエイター】(P.229)やアートフィルターの【パートカラー】(P.231)では、**INFO**ボタンを押すと色相や彩度を調整する画面が表示されダイヤルを使って調整ができます。

■ メニューで設定する

📷撮影メニュー 1の[ピクチャーモード]で設定します。

MENUボタン ➡ 📷タブ ➡ [ピクチャーモード] ➡ 十字ボタンの△▽で選択 ➡ さらに▶ボタンを押すと、効果などの詳細の設定ができます。

- 各ピクチャーモードで効果の設定ができます。効果はLVスーパーコンパネでも設定することができます。LVスーパーコンパネで設定を変更した場合は、メニューで設定した調整値も変更されます。

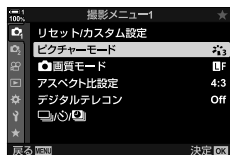
ピクチャーモード	調整できる効果
 i-Finish	[シャープネス] / [コントラスト] / [彩度] / [階調] / [効果]
 Vivid	[シャープネス] / [コントラスト] / [彩度] / [階調]
 Natural	
 Flat	
 Portrait	
 モノトーン	[シャープネス] / [コントラスト] / [フィルター効果] / [調色] / [階調]
 カスタム	—
 eポートレート	
 カラークリエイター (P.229)	
 水中	[効果の追加] 使用できる効果はアートフィルターによって異なります。 [ソフトフォーカス効果] / [ピンホール効果] / [ホワイトエッジ効果] / [フレーム効果] / [スターライト効果] / [上下ぼかし効果] / [左右ぼかし効果] / [上下シェード] / [左右シェード] / [フィルター効果] / [調色]
 ポップアート	
 ファンタジック フォーカス	
 デイドリーム	
 ライトトーン	
 ラフモノクローム	
 トイフォト	
 ジオラマ	
 クロスプロセス	
 ジェントルセピア	
 ドラマチックトーン	
 リーニュクレール	
 ウォーターカラー	
 ヴィンテージ	
 パートカラー (P.231)	
 ブリーチバイパス	
 ネオノスタルジー	

任意のピクチャーモードを登録する (Cカスタムピクチャーモード)

ピクチャーモードに調整を加えて、登録しておくことができます。登録できるピクチャーモードは、[i-Finish]、[Vivid]、[Natural]、[Flat]、[Portrait]、[モノトーン]です。

1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。

2 撮影メニュー1で[ピクチャーモード]を選択し、十字ボタンの▷を押します。



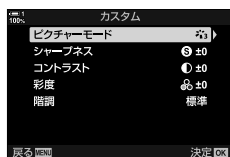
3 △▽ボタンで[カスタム]を選択し、▷ボタンを押します。

- カスタム登録のメニューが表示されます。



4 △▽ボタンで登録する内容を設定します。

- [ピクチャーモード] [シャープネス] [コントラスト] [彩度] [階調] [効果] [フィルター効果] [調色]を設定します。
- △▽ボタンで項目を選択し、▷ボタンを押して設定に進みます。設定が完了したらOKボタンを押して、[カスタム]のメニュー画面に戻ります。



5 MENUボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

6 カスタムピクチャーモードを使用するときは、LVスーパーコンパネなどで[Cカスタム]に設定します。



画像の鮮鋭さを調整します。輪郭の強調をすることでシャープなはっきりした感じの画像にすることができます。それぞれのピクチャーモードで、個別に設定しておけます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - メニュー

Hi (+方向)	シャープネスを上げます。輪郭がより強調されます。
Lo (-方向)	シャープネスを下げます。輪郭が控えめに表現されます。

■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで[シャープネス]を選択します。

シャープネス



- 2 フロントダイヤルで設定値を選択します。
- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ メニューで設定する

撮影メニュー 1の【ピクチャーモード】で設定します。

MENUボタン ➡ 撮影メニュー 1の【ピクチャーモード】 ➡ 十字ボタンの△▽で選択して▶ボタン ➡ △▽ボタンで【シャープネス】を選択して▶ボタン ➡ △▽ボタンを押して設定

画像の明暗差を調整します。明暗差を強調することではっきりした印象の強い画像にすることができます。それぞれのピクチャーモードで個別に設定しておけます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - メニュー

Hi (+方向)	明暗差を強くします。はっきりとした強い感じにします。
Lo (-方向)	明暗差を弱くします。柔らかい感じにします。

■ LVスーパーコンパネで設定する

1 LVスーパーコンパネで**[コントラスト]**を選択します。

コントラスト



2 フロントダイヤルで設定値を選択します。

3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ メニューで設定する

☑撮影メニュー 1の**[ピクチャーモード]**で設定します。

MENUボタン ➡ ☑ (撮影メニュー 1)タブ ➡ **[ピクチャーモード]** ➡ 十字ボタンの△▽で選択して▶ボタン ➡ △▽ボタンで**[コントラスト]**を選択して▶ボタン ➡ △▽ボタンを押して設定

画像の色合いや色の濃さを調整します。彩度を上げると色合いのはっきりした印象的な画像になります。それぞれのピクチャーモードで個別に設定しておけます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - メニュー

Hi (+方向)	彩度を強くします。はっきりした色合いでより印象的にします。
Lo (-方向)	彩度を弱くします。柔らかい感じにします。

■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで**[彩度]**を選択します。

彩度



2

- 2 フロントダイヤルで設定値を選択します。
- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。





■ メニューで設定する

撮影メニュー 1の**[ピクチャーモード]**で設定します。

MENUボタン ➡ 撮影メニュー 1の**[ピクチャーモード]** ➡ 十字ボタンの△▽で選択して▷ボタン ➡ △▽ボタンで**[彩度]**を選択して▷ボタン ➡ △▽ボタンを押して設定

画像の色や明るさの濃淡を調整します。被写体のイメージに合わせて全体的に明るく表現したり暗く表現します。それぞれのピクチャーモードで個別に設定しておけます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - メニュー

 Auto (階調オート)	画像を細かい領域に分けて部分的に明るさを補正します。黒つぶれ・白とびの起きやすい明暗差の大きい画像に有効です。
 Normal (階調標準)	適度な階調にします。通常は標準に設定してください。
 High (階調ハイキー)	明るい被写体に適した階調にします。
 Low (階調ローキー)	暗い被写体に適した階調にします。

■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで[階調]を選択します。



- 2 フロントダイヤルで設定値を選択します。
- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ メニューで設定する

📷撮影メニュー 1の[ピクチャーモード]で設定します。

MENUボタン ➡ 📷 (撮影メニュー 1)タブ ➡ [ピクチャーモード] ➡ 十字ボタンの△▽で選択して▷ボタン ➡ △▽ボタンで[階調]を選択して▷ボタン ➡ △▽ボタンを押して設定

モノトーンにフィルター効果をつける (フィルター効果)

ピクチャーモード(P.215)の【モノトーン】の設定に、カラーフィルターの効果をつけることができます。被写体の色によって明るく表現したりコントラストを強調することができます。黄、橙、赤の順にコントラストが強くなります。緑はポートレート撮影などにも効果的です。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - メニュー

N:無し	フィルター効果を使用しません。
Ye:黄	自然な青空にくっきりとした白い雲が表現されます。
Or:オレンジ	青空らしさや夕日の輝きが少し強調されます。
R:赤	青空らしさや紅葉の輝きがよりいっそう強調されます。
G:緑	人物写真で使用すると肌の色を落ち着かせます。また、口紅の赤い色が強調されます。

2

■ LVスーパーコンパネで設定する

【ピクチャーモード】が【モノトーン】に設定されているときに表示されます。

- 1 LVスーパーコンパネで【フィルター効果】を選択します。

フィルター効果



- 2 フロントダイヤルで設定値を選択します。
- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ メニューで設定する

撮影メニュー1の【ピクチャーモード】で設定します。

MENUボタン ➡ **撮影メニュー1**タブ ➡ 【ピクチャーモード】 ➡ 十字ボタンの△▽で【モノトーン】を選択して▷ボタン ➡ △▽ボタンで【フィルター効果】を選択して▷ボタン ➡ △▽ボタンを押して設定

ピクチャーモード(P.215)の【モノトーン】の設定に、色味の効果をつけることができます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - メニュー

N:無し	通常の白黒画像になります。
S:セピア	セピア調の画像にします。
B:青	青味がかかった画像にします。
P:紫	紫味がかかった画像にします。
G:緑	緑味がかかった画像にします。

■ LVスーパーコンパネで設定する

【ピクチャーモード】が【モノトーン】に設定されているときに表示されます。

- 1 LVスーパーコンパネで【調色】を選択します。



- 2 フロントダイヤルで設定値を選択します。
- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ メニューで設定する

☑撮影メニュー 1の【ピクチャーモード】で設定します。

MENUボタン ➡ ☑ (撮影メニュー 1)タブ ➡ 【ピクチャーモード】 ➡ 十字ボタンの△▽で【モノトーン】を選択して▷ボタン ➡ △▽ボタンで【調色】を選択して▷ボタン ➡ △▽ボタンを押して設定

i-Finishの効果を調整する

(効果)

ピクチャーモードを*[i-Finish]*に設定したときの効果の強さを設定します。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - メニュー

Low (効果 弱)	弱めの効果を画像に加えます。
Standard (効果 標準)	中間程度の効果を画像に加えます。
High (効果 強)	強めの効果を画像に加えます。

■ LVスーパーコンパネで設定する

[ピクチャーモード]が*[i-Finish]*に設定されているときに表示されます。

1 LVスーパーコンパネで**[効果]**を選択します。

効果



2 フロントダイヤルで設定値を選択します。

3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ メニューで設定する

📷撮影メニュー 1の**[ピクチャーモード]**で設定します。

MENUボタン ➡ 📷 (撮影メニュー 1)タブ ➡ **[ピクチャーモード]** ➡ 十字ボタンの△▽で**[i-Finish]**を選択して▶ボタン ➡ △▽ボタンで**[効果]**を選択して▶ボタン ➡ △▽ボタンを押して設定

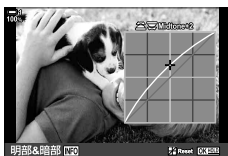
ハイライト部／シャドウ部の明るさを変えて撮影する

(ハイライト&シャドウコントロール)

明部、暗部、中間部に分けて個別に明るさの調整をします。露出補正だけではできない光のコントロールができます。明部の明るさだけを落としたり、暗部を明るくするといった調整ができます。



暗部補正



中間部補正



明部補正

(上の画面は、ボタンに機能を割り当てたり、LVスーパーコンパネを使って設定するときに表示されます)

- この機能は以下の方法で設定できます。

- ボタン

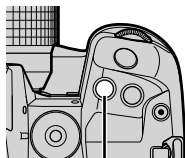
- LVスーパーコンパネ(P.228)

2

■ ボタンで設定する

1 ボタンを押します。

- 露出補正值にカーソルが表示されます。



ボタン

2 **INFO** ボタンを押します。

- 画面の明るさを示すアイコンが表示されます。
- INFO** ボタンを押すたびに、暗部補正、中間部補正、明部補正、露出補正の順で調整画面が切り替わります。



(ハイライト&シャドウ
コントロール)

3 十字ボタンの<D>で調整値を設定します。

- 7から+7の範囲で調整できます。
- OK** ボタンを長押しすると、設定をリセットできます。

4 **OK** ボタンを押して設定を確定します。

- シャッターボタンを半押しして設定を終了することもできます。



- ☑ ボタン以外のボタンでハイライト&シャドウコントロールの機能を使うには、露出補正の機能をボタンに割り当てます。★カスタムメニュー B1 の【📷 ボタン機能】(P.463)で設定します。
- ボタンに【マルチFn】を登録すると、直接【ハイライト&シャドウコントロール】の設定に入ることができます。🔍 「マルチファンクションボタンを設定する(マルチFn)」(P.470)

■ LVスーパーコンパネで設定する

1 LVスーパーコンパネで【ハイライト&シャドウコントロール】を選択し、OKボタンを押します。

- 画面の明るさを示す調整画面が表示されます。



ハイライト&シャドウ
コントロール

2 INFOボタンを押して調整する明るさの範囲を選択します。

- INFOボタンを押すたびに調整する範囲が切り換わります。



調整する明るさの範囲

3 ダイヤルを回して調整値を設定します。

- 【明部&暗部】のとき
フロントダイヤルで明部、リアダイヤルで暗部の調整をします。
- 【中間部】のとき
フロント/リアダイヤルで調整をします。
- OKボタンを長押しすると調整値をリセットできます。



4 OKボタンを押して設定を確定します。

- シャッターボタンを半押しして設定を終了することもできます。

色相と彩度を直感的な操作で調整できます。30段階の色相と8段階の彩度を設定できます。画面で確認しながら上げることができます。

[カラークリエイター]はピクチャーモードの設定の一つです。[マルチFn]を使うと直接カラークリエイターの設定をすることもできます。★カスタムメニュー **B1** の[**ボタン機能**] (P.463)で、ボタンに[マルチFn]を登録して使います。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - LVコントロール(P.230)
 - メニュー (P.230)

■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで[ピクチャーモード]を選択します。



- 2 フロントダイヤルで[カラークリエイター]を選択します。

- LVスーパーコンパネに[**Color/Vivid**]の項目が表示されます。



- 3 十字ボタンの△▽で[**Color/Vivid**]を選択し、**OK**ボタンを押します。



4 色相と彩度を調整します。

- フロントダイヤルを回して色相を調整します。
- リアダイヤルを回して彩度を調整します。
- **OK**ボタンを長押しすると調整値をリセットできます。



5 **OK**ボタンを押して設定を確定します。

- シャッターボタンを半押しして設定を終了することもできます。

■ メニューで設定する

メニューを使って設定することもできます。メニューからの設定では調整画面での色相と彩度の調整はできません。記憶している調整値に設定するのみです。

MENUボタン ➡ (撮影メニュー 1)タブ ➡ **[ピクチャーモード]** ➡ **[カラークリエイター]**

2

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールでも設定できます。

- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.68)をご覧ください。



ピクチャーモード

OKボタン ➡ **[ピクチャーモード]** ➡ 十字ボタンの<D>で**[カラークリエイター]**を選択

➡ **INFO**ボタンを押して色相彩度調整

- **[画質モード]**が**[RAW]**のときは、**[RAW+JPEG]**に変更されます。
- HDR撮影、多重露出撮影では、使用できません。**[カラークリエイター]**に設定されているときは自動的に**[Natural]**に変更されます。

特定の色域だけを残して白黒の画像にします。被写体の赤い色だけを残して、他を白黒にするなどの使い方ができます。画面で確認しながら仕上げることができます。**[パートカラー]**はピクチャーモードのアートフィルターの設定の一つです。ピクチャーモードで設定した上で調整をします。色の残し方を変えたⅠからⅢの3つのタイプが選べます。

- 1 LVスーパーコンパネで**[ピクチャーモード]**を選択します。

ピクチャーモード

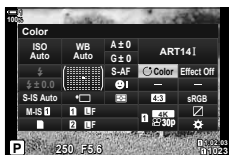


- 2 フロントダイヤルで**[ART14Ⅰ]**、**[ART14Ⅱ]**、**[ART14Ⅲ]**のいずれかを選択します。
 - LVスーパーコンパネに**[Color]**と**[Effect]**の項目が表示されます。



Color Effect

- 3 十字ボタンの△▽で**[Color]**を選択し、**OK**ボタンを押します。
 - 画面にカラーリングが表示されます。



- 4 フロント／リアダイヤルで色を選択します。
- 5 **OK**ボタンを押して設定を確定します。
 - シャッターボタンを半押しして設定を終了することもできます。

撮影した画像をディスプレイやプリンターで再現する際、色再現を正しく行うための方式を選択します。

sRGB	Windowsの環境での標準の色域として定着している規格です。標準的なディスプレイやプリンター、デジタルカメラ、各種のアプリケーションで使用されています。通常はこの設定にしてください。
AdobeRGB	アドビシステムズ社によって定義された規格です。sRGBより広い色域の再現ができます。正しく出力するためには、この規格に対応したソフトウェア、ディスプレイやプリンターなどの機器が必要です。

1 LVスーパーコンパネで**[カラー設定]**を選択します。



カラー設定

2 フロントダイヤルで設定値を選択します。

3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ メニューで設定する

メニューを使って設定することもできます。

MENUボタン ➡ **G** (画質/WB/色)タブ ➡ **[カラー設定]** ➡ 十字ボタンの△▽で項目を選択

- ピクチャーモードがアートフィルターの設定のときやHDR撮影では、**[AdobeRGB]**は使えません。**[sRGB]**に変更されます。

2-14 特殊撮影の機能

多重露出や画像を拡大する機能などの、画像の操作に関する機能についての説明です。露出を変えながら撮影するブラケット撮影や深度合成などの機能もあります。

アスペクト比を設定する (アスペクト比設定)

撮影の意図やプリントなどの出力時の狙いに合わせて、画像の縦横比を設定します。通常のアスペクト比(横×縦)である**[4:3]**の他に**[16:9]**、**[3:2]**、**[1:1]**、**[3:4]**が設定できます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ(P.234)
 - LVコントロール(P.234)
 - メニュー (P.234)

■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで[アスペクト比設定]を選択します。

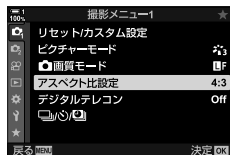


アスペクト比設定

- 2 フロントダイヤルで設定値を選択します。
- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ メニューで設定する

- 1 撮影メニュー1の[アスペクト比設定]で設定します。



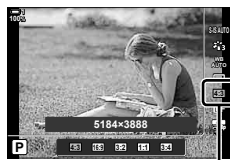
2

MENUボタン ➡ 撮影メニュー1 (撮影メニュー1) タブ ➡ [アスペクト比設定] ➡ Δ / ∇ で項目を選択

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールで[アスペクト比設定]を選択して、十字ボタンの \triangleleft / \triangleright で項目を選択します。

- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.68)をご覧ください。




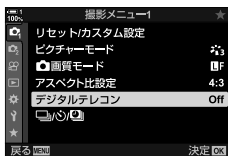
アスペクト比設定


- JPEGの画像では、設定したアスペクト比の画像で記録されます。RAW画像は、撮像素子のサイズである[4:3]のままの画像にアスペクト比の設定情報を付けて記録されます。再生時は、設定情報に合わせて枠が表示されます。

画像の中央部を切り出して、設定されている画質モードのサイズまで拡大して記録します。被写体を約2倍に拡大して記録できます。レンズの焦点距離以上の倍率で撮影できるため、レンズ交換ができないときや被写体に近づきにくいときなどに便利です。

1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。


2 撮影メニュー 1で[デジタルテレコン]を選択し、十字ボタンの▷を押します。



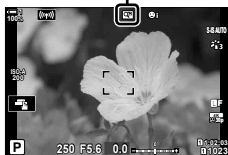
3 ボタンで[On]を選択し、**OK**ボタンを押します。



4 MENUボタンを押して、メニューを終了します。



- [On]に設定すると、モニターの表示は2倍に拡大され、が表示されます。画像は拡大された状態で記録されます。

デジタルテレコン



- 多重露出撮影、デジタルシフト撮影、フィッシュアイ補正撮影では、使用できません。
- JPEGの画像では、実際に拡大した画像で記録されます。RAW画像では、表示した部分を示す枠が表示されます。画像再生時に拡大部分に枠が表示されます。
- 拡大中は、AFターゲットのサイズが大きくなり数も少なくなります。



★カスタムメニュー の[ボタン機能]を使ってボタンに登録すると、ボタンを押す操作だけで、オンオフを切り換えることができます(P.463)。

条件を少しずつ変化させて撮影する(ブラケット撮影)

露出の設定やホワイトバランスなど、撮影の設定を自動的に変更して複数枚の撮影を行います。ブラケットの種類によっては、いくつかのブラケット撮影を併用することができます。設定に迷うときや1枚ずつ設定を変更して撮影している余裕がないときに有効です。ブラケット撮影の設定を記憶させておき、ブラケット撮影をオンオフするだけで切り換えて使うことができます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - **BKT**ボタン(P.240) - メニュー (P.241)
- ブラケット撮影は、以下の機能と併用はできません。
HDR撮影/インターバル撮影/デジタルシフト撮影/多重露出撮影/
ハイレゾショット撮影/フィッシュアイ補正撮影
- **B**モードでは、**AE**ブラケット撮影、**FL**ブラケット撮影、フォーカスブラケット撮影はできません。
- カードの撮影可能枚数が、ブラケット撮影で設定した枚数より少ないときは、ブラケット撮影はできません。

AE BKT (AEブラケット撮影)

露出を変えた画像を記録します。露出の変化量と撮影する枚数の組み合わせを設定します。シャッターボタンを全押しするごとに、露出の設定を変更して撮影されます。設定した枚数分の撮影をする必要があります。連写の設定のときは、シャッターボタンを全押しし続けると設定した枚数を撮影して撮影が止まります。

以下の設定ができます。

- 露出変更量: 0.3EV、0.7EV、1.0EV
- 撮影枚数 : 2枚、3枚、5枚、7枚

設定枚数の撮影が終了していないときは、**BKT**が緑で表示されます。適正露出、-補正、+補正の順番で記録されます。

露出の操作は露出モードによって異なります。

P (プログラムAE)	絞り値とシャッター速度の両方
A (絞り優先AE)	シャッター速度
S (シャッター速度優先AE)	絞り値
M (マニュアル)	<ul style="list-style-type: none">• シャッター速度([ISO感度]が固定のとき)• ISO感度([ISO感度]が[AUTO]のとき)

- あらかじめ露出補正を設定しているときは、その設定を中心に+補正、-補正されます。
- **★**カスタムメニュー **Fn** **【露出ステップ】** (P.530)を変更すると、露出変更量も変わります。
- FLブラケット撮影、フォーカスブラケット撮影との併用はできません。

WB BKT (WBブラケット撮影)

ホワイトバランスを変えた画像を記録します。特定の色方向に対して、補正量と記録する枚数の組み合わせを設定します。

撮影は1回で終わります。シャッターボタンを全押しすると、その画像を元に自動的に補正した画像を作成します。

以下の設定ができます。

- **色合い** : A-B (アンバー-青)、G-M (緑-赤紫)
- **補正量** : 2ステップ、4ステップ、6ステップ
- **撮影枚数**: 1つの色合いに対して3枚

補正なし、ステップ分-補正、ステップ分+補正の順番で記録されます。

- あらかじめホワイトバランスの補正を設定しているときは、その設定を中心に補正されます。
- アートフィルターブラケット撮影、フォーカスブラケット撮影との併用はできません。

FL BKT (FLブラケット撮影)

フラッシュの発光量を変えた画像を記録します。フラッシュの発光量の補正量と撮影する枚数の組み合わせを設定します。シャッターボタンを全押しするごとに、発光量を変更して撮影されます。設定した枚数分の撮影をする必要があります。連写の設定のときは、シャッターボタンを全押しし続けると設定した枚数を撮影して撮影が止まります。

以下の設定ができます。

- **補正量** : 0.3EV、0.7EV、1.0EV
- **撮影枚数**: 3枚

設定枚数の撮影が終了していないときは、**[BKT]**が緑で表示されます。補正なし、-補正、+補正の順番で記録されます。

- あらかじめ露出補正を設定しているときは、その設定を中心に+補正、-補正されます。
- **★**カスタムメニュー **[G1]** **[露出ステップ]** (P.530) を変更すると、露出変更量も変わります。
- AEブラケット撮影、フォーカスブラケット撮影との併用はできません。
- **B**モードでは使用できません。

ISO BKT (ISOブラケット撮影)

絞り値とシャッター速度の設定を変えずに、ISO感度を変更して露出を変えて画像を記録します。露出の変化量と撮影する枚数の組み合わせを設定します。撮影は1回で終わります。シャッターボタンを全押しすると、その画像をもとに自動的に補正した画像を作成します。

以下の設定ができます。

- 露出変更量: 0.3EV、0.7EV、1.0EV
- 撮影枚数 : 3枚

適正露出、-補正、+補正の順番で記録されます。

- ISO感度の設定により、絞り値とシャッター速度の設定が適正露出でないときは、その設定を中心に+補正、-補正されます。
- [ISOオート設定]で設定した上限とは関係なくブラケット撮影が行われます。
- 静音撮影時は、フラッシュの同調秒時は1/20秒になります。
- ★カスタムメニュー ④の[ISO感度ステップ] (P.530)を変更しても、補正量は変化しません。
- アートフィルターブラケット撮影、フォーカスブラケット撮影との併用はできません。

ART BKT (アートフィルターブラケット撮影)

複数の[ピクチャーモード]のアートフィルターの設定を適用した画像を同時に記録します。適用したいアートフィルターを設定します。シャッターボタンを一度全押しすると、その画像をもとに自動的にアートフィルターを適用した画像を作成します。

メニューで表示されるアートフィルターにチェック(✔)を入れて適用する設定を選びます。アートフィルターの他に、[Vivid] [Natural] [Flat]などのピクチャーモードも設定できます。

- 適用するアートフィルターが多いと撮影後に画像の記録に時間がかかる場合があります。
- AEブラケット撮影、FLブラケット撮影以外のブラケット撮影の併用はできません。

Focus BKT（フォーカスブラケット撮影）

ピント位置を変えた画像を記録します。ピント位置の間隔と撮影する枚数を設定します。撮影は1回で終わります。シャッターボタンを全押しすると、1コマずつピント位置を変化させながら、設定枚数撮影します。撮影は電子シャッターによる静音撮影で行われます。

以下の設定ができます。

- **【撮影枚数】** : ピント位置を動かしながら撮影する枚数
- **【フォーカスステップ】** : コマごとのピント位置の移動量
- **【充電待ち時間】** : 専用フラッシュ以外のフラッシュを併用するときに、フラッシュが充電完了するまでの待ち時間を設定します。

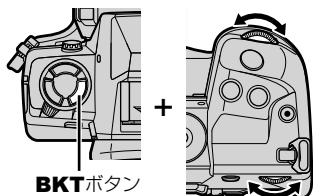
フォーカスブラケットの機能を利用してカメラ内で自動的に画像を合成する**【深度合成】** (P.243)も利用できます。深度合成対応レンズ使用時のみ、この機能が使えます。使用可能なレンズについては当社ホームページをご覧ください。

- シャッターボタンを全押しすると設定した枚数を終えるまで撮影を続けます。途中で終了するときは、もう一度シャッターボタンを全押しします。
- 設定したフォーカスステップごとにピント位置を移動しながら撮影します。途中で無限遠に達したら撮影は終了します。
- シャッターボタンを全押しして自動的に撮影している間に、ズーム操作やピント合わせを行うと撮影は終了します。
- フォーサーズマウント規格のレンズ使用時は、使用できません。
- 他のブラケット撮影との併用はできません。
- フラッシュの同調秒時は、1/50秒です。**【ISO感度】**が8000以上の場合、1/20秒になります。
- **Bモード**では使用できません。

■ BKTボタンで設定する

BKTボタンを使って、使用するブラケット撮影の種類やその設定をします。**[ART BKT]**や**[Focus BKT]**は、あらかじめメニューで詳細な設定をしておく必要があります。

- 1 **BKT**ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを少し回します。



- ブラケット撮影の選択とそれぞれのブラケット撮影の設定のメニューが表示されます。
- **BKT**ボタンを長押ししても表示できます。

ブラケット撮影の
選択メニュー



設定メニュー

- 2 フロントダイヤルを回して、ブラケット撮影の種類を選択します。

- 3 リアダイヤルを回して設定を選択します。

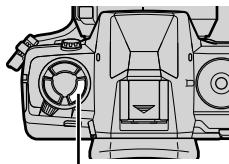
- それぞれのブラケット撮影で以下の設定ができます。

AE BKT	露出変更量と枚数の組み合わせ
A-B : WB BKT	色調整の変更量
G-M : WB BKT	
FL BKT	フラッシュ発光量の補正量
ISO BKT	露出変更量
ART BKT	使用する／しない
Focus BKT	

- 4 **OK**ボタンを押して設定を確定します。

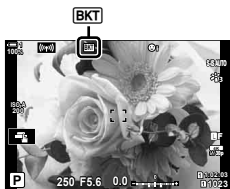
- メニューが消えます。
- シャッターボタンを半押ししても、設定を確定してメニューが消えます。

- 5 ブラケット撮影をするために、**BKT**ボタンを一度押します。



BKTボタン

- 画面に**BKT**が表示されます。
- **BKT**ボタンを押すたびに[On]と[Off]を切り換えます。





- 6 撮影します。

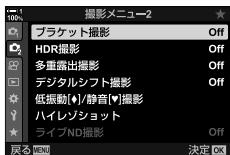
- AE BKTとFL BKTでは、設定枚数の撮影が終了するまでの間、画面に緑の**BKT**が表示されます。



2

■ メニューで設定する

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 撮影メニュー2で[ブラケット撮影]を選択し、十字ボタンの▷を押します。
- 3 ボタンで[On]を選択し、▷ボタンを押します。
 - ブラケット撮影のメニュー画面が表示されます。



4 △▽ボタンで設定するブラケット撮影を選択し、▷ボタンを押します。

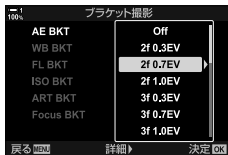
- それぞれのブラケット撮影の詳細設定のメニューが表示されます。



5 △▽◀▷ボタンで設定または[On]を選択します。

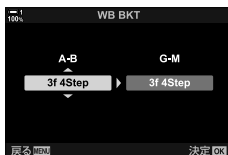
• AE BKTを選択したとき

撮影枚数で2枚(2f)を選択して▷ボタンを押すと、基準コマに対して明るい補正か暗い補正かを設定するメニューが表示されます。△▽ボタンで設定を変更して**OK**ボタンを押すと、前の画面に戻ります。



• WB BKTを選択したとき

色調整(A-B、G-M)の設定画面が表示されます。◀▷ボタンで色合いを選択し、△▽ボタンで補正量を設定します。設定を終えたら**OK**ボタンを押して前の画面に戻ります。



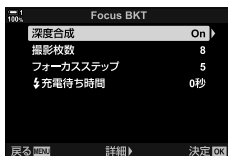
• ART BKTを選択したとき

[On]を選択して▷ボタンを押すと、使用するアートフィルターやピクチャーモードの選択画面が表示されます。△▽ボタンで使用する項目を選択して**OK**ボタンを押してチェックを入れます。設定を終えたら**MENU**ボタンを押して前の画面に戻ります。



• Focus BKTを選択したとき

[On]を選択して▷ボタンを押すと、Focus BKT設定の画面が表示されます。△▽ボタンで項目を選択して▷ボタンを押します。次の画面で△▽ボタンで設定して**OK**ボタンを押すと、Focus BKT設定に戻ります。設定を終えたら**OK**ボタンを押してブラケット撮影のメニュー画面に戻ります。[深度合成]を使うときも[Focus BKT]設定画面で設定できます(P.243)。



6 設定値または[On]を選択した状態で**OK**ボタンを押して、それぞれのブラケット撮影の設定を終了します。

7 [ブラケット撮影]が[On]の設定の状態**OK**ボタンを押します。

- このとき[Off]を選択して**OK**ボタンを押したり、**MENU**ボタンを押すと、ブラケット撮影の詳細設定を残したままで通常の撮影を行うことができます。




複数枚撮影した画像を合成して、1回の撮影では得られない深い被写界深度の画像を生成します。ピントを合わせた位置を中心に、前後にピント位置を自動的に動かしながら複数枚の画像を撮影して、ピントの合っている部分をカメラ内で自動的に合成します。



マクロ撮影で被写体全体にピントを合わせたいときや、絞り値をあまり大きくせずに被写体全体にピントを得たいときにも有効です。撮影は電子シャッターによる静音撮影で行われます。

- 合成画像は、画質モードの設定に関わらずJPEGの画像で記録されます。
- 合成画像は、上下左右に約7%分拡大された画像になります。
- シャッターボタンを全押しして撮影中に、ズーム操作やピント合わせを行うと、撮影は終了します。
- 合成に失敗した場合は、合成画像は生成されずに、設定した撮影枚数の画像のみが保存されます。
- 深度合成対応のレンズ使用時のみ、この機能が使えます。使用可能なレンズについては当社ホームページをご覧ください。
- ピクチャーモードが**[eポートレート]**または**アートフィルター**に設定されているときは、**[Natural]**に設定されます。
- 他のブラケット撮影との併用はできません。

1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。



2 撮影メニュー2で**[ブラケット撮影]**を選択し、十字ボタンの**▷**を押します。



3 ボタンで**[On]**を選択し、ボタンを押します。

- ブラケット撮影のメニュー画面が表示されます。



4 ボタンで**[Focus BKT]**を選択し、ボタンを押します。

- それぞれのブラケット撮影の詳細設定のメニューが表示されます。

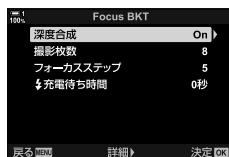


- 5 △▽ボタンで[On]を選択し、▷ボタンを押します。
 ・ [Focus BKT]のメニュー画面が表示されます。



- 6 △▽ボタンで設定する項目を選択し、▷ボタンを押します。

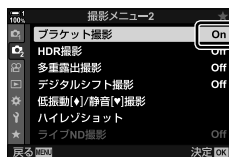
- [深度合成] : [On]を選択して**OK**ボタンを押します。
- [撮影枚数] : 撮影する枚数を設定します。3～15枚の設定ができます。
- [フォーカスステップ] : コマごとのピント位置の移動量を設定して**OK**ボタンを押します。
- [充電待ち時間] : 専用フラッシュ以外のフラッシュを併用するときに、フラッシュが充電完了するまでの待ち時間を設定します。



2

- 7 繰り返し**OK**ボタンを押して、撮影メニューに戻ります。

- ・ [ブラケット撮影]が[On]になっていることを確認して、**MENU**ボタンを押して、メニューを終了します。




- ・ 撮影画面に[BKT]が表示されます。
- ・ ピクチャーモードは[Natural]に設定されます。
- ・ 画面に、合成後の画像に写る範囲を示す枠が表示されます。枠内に被写体が収まるように調整してください。



- 8 撮影します。

- ・ シャッターボタンを全押しすると自動的に複数枚の撮影と画像の合成をします。

9 深度合成撮影を終了するときは、**BKT**ボタンを押します。

- 同じ設定で深度合成撮影をするときは、**BKT**ボタンを押します。
- フラッシュを使用するときは、撮影メニュー 2の【静音[♥]撮影動作】(P.167)の【フラッシュ】を【許可】に設定してください。
- フラッシュの同調秒時は、1/50秒です。【ISO感度】が8000以上の場合、1/20秒になります。



- 撮影時のカメラぶれを抑えるために、リモートケーブルの使用をおすすめします。低振動撮影や静音撮影を使うと、【低振動[♦]撮影】(P.160)や【静音[♥]撮影】(P.163)で、シャッターボタンを全押ししてから撮影されるまでの時間を設定できます。

複数の画像を重ね合わせて撮影する（多重露出撮影）

撮影した画像にもう一度撮影した画像を重ねて1つの画像に合成します。カードに保存されている画像を表示して重ねて撮影することもできます。

合成した画像は、撮影した画像の画質モードと同じ設定で保存されます。保存されている画像を表示して合成できるのは、RAWで記録されている画像のみです。

[画質モード]をRAWの設定で撮影すると、[再生画+多重]を繰り返し使うことで、3コマ以上の撮影画像を合成することもできます。

1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。

2 撮影メニュー 2で[多重露出撮影]を選択し、十字ボタンの▷を押します。



3 △▽ボタンで項目を選択し、▷ボタンを押します。

- 設定を選択して**OK**ボタンを押します。

コマ数	[Off] : 多重露出撮影をしません。 [2コマ] : 2コマの多重露出撮影をします。
自動ゲイン補正	[On] : 合成する各コマの明るさを1/2にして合成します。 [Off] : 各コマの明るさのまま合成します。
再生画+多重	[On] : カードに保存されているRAW画像と多重露出撮影します。 [Off] : 2コマ続けて撮影した画像を合成します。 <ul style="list-style-type: none">• [再生画+多重]を設定するには[コマ数]を[2コマ]に設定してください。

4 [再生画+多重]を[On]に設定すると、合成する画像一覧が表示されます。


- 十字ボタン(△▽◀▶)で画像を選択して**OK**ボタンを押します。
- 選択できる画像はRAW画像のみです。



5 多重露出設定画面で**OK**ボタンを押して、設定を確認します。



- 撮影メニューに戻ります。

6 MENUボタンを押して、メニューを終了します。


- モニターにが表示されます。
- **[再生画+多重]**を設定したときは、選択した画像がモニターに半透過で表示されます。




7 撮影します。

- 1コマ目を撮影または**[再生画+多重]**に設定したときは、撮影画面に合成する画像が半透過で表示されます。
- 1コマ目を撮影するとが緑で表示されます。
- 通常の多重露出撮影では、2コマ目を撮影すると画像が合成されます。
- ボタンを押すと再度1コマ目の撮影ができます。
- **[再生画+多重]**のときは、同じ再生画像を使って繰り返し多重露出撮影ができます。

8 多重露出を終了するときは、MENUボタンがボタンを押します。


- **MENU**ボタンを押したときは、メニューで**[コマ数]**を**[Off]**に設定します。
- 多重露出撮影を終了するとモニターのが消えます。

- 多重露出撮影を設定すると、スリープモードには入りません。
- 他のカメラで撮影された画像を使った合成はできません。
- ハイレゾショットのRAW画像は使用できません。
- **[再生画+多重]**を**[On]**に設定し、RAW形式の画像を選択するときに表示される画像は、撮影時の設定で現像されたものです。
- 撮影に関する設定は、多重露出撮影を解除してから行ってください。一部設定できない機能があります。
- 次の場合は1枚目以降の多重露出が自動的に解除されます。
電源を切る / ボタンを押す / **MENU**ボタンを押す / 撮影モードを変更する / 電池残量がなくなる / 各コネクタへのケーブルの挿入
- **[再生画+多重]**でRAW形式の画像を選択するとき、RAW+JPEGで記録した画像はJPEG画像が表示されます。
- Bモードの**[LIVE COMP]**（ライブコンポジット撮影）では使用できません。
- 多重露出撮影時は、以下の機能は使用できません。
HDR撮影 / ブラケット撮影 / インターバル撮影 / デジタルシフト撮影 /
ライブND撮影 / フィッシュアイ補正撮影
- **[画質モード]**をRAWの設定で撮影した画像は、再生モードで合成することもできます。


台形補正をする／遠近感を強調する

(デジタルシフト撮影)

建物などを撮影したとき、レンズの焦点距離や距離の影響で台形に歪んで写るのを正しい形に補正したり、正しい形状を歪めて遠近感を強調した画像を撮影できます。画面で効果を見ながら、補正量を設定します。補正した画像は元の画像から切り出されるので、少し拡大されます。

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 撮影メニュー 2で[デジタルシフト撮影]を選択し、十字ボタンの▷を押します。



- 2
- 3 △▽ボタンで[On]を選択し、**OK**ボタンを押します。
- 4 **MENU**ボタンを押して、メニューを終了します。
 - デジタルシフト撮影の撮影画面が表示されます。画面にスライダーとが表示されます。

デジタルシフト撮影



- 5 画面を見ながら補正をして構図を決めます。
 - フロントダイヤルで左右方向、リアダイヤルで上下方向の補正をします。
 - 画面を見ながら補正をして構図を決めます。
 - 十字ボタン(△▽◀▶)で画像の切り出す範囲を決めます。切り出しのできる方向に▲が表示されます。
 - **OK**ボタンを長押しすると、設定はキャンセルされます。

6 絞りやシャッター速度などの撮影機能を設定するときは、**INFO**ボタンを押します。

- 通常の撮影画面に戻ります。
- デジタルシフトがオンになっている間は、画面に罫が表示されています。デジタルシフトの補正が設定されているときは緑色の表示になります。
- デジタルシフトの設定に戻るときは、繰り返し**INFO**ボタンを押して手順5の画面を表示します。



7 撮影します。

- デジタルシフト撮影を終了するときには、**2**撮影メニュー2を開いて**[デジタルシフト撮影]**を**[Off]**にします。
- 補正の度合いによっては、画像が粗くなります。また、切り出し時の倍率は大きくなったり、切り出し位置の移動ができなくなります。
- 補正量によっては、切り出し範囲の移動ができない場合があります。
- 補正の度合いによっては、**AF**ターゲットが表示範囲内に収まらない場合があります。ピントの合った**AF**ターゲットが表示範囲の外にあるときは、画面に**↑**、**↓**、**←**、**→**が表示されます。
- 画質モードが**[RAW]**のときは、RAW+JPEGで記録されます。
- デジタルシフト撮影時は、以下の機能は使用できません。
コンポジット撮影／連写／ブラケット撮影／HDR撮影／多重露出撮影／ライブND撮影／
フィッシュアイ補正撮影／デジタルテレコン／ムービー撮影／AF方式の**[C-AF]**
[C-AF MF] **[C-AF+TR]** **[C-AF+TR MF]** /ピクチャーモードの**[e-ポートレート]**または
アートフィルター／カスタムセルフタイマー／ハイレゾショット撮影
- コンバータレンズをお使いの場合は、意図どおりに補正できない場合があります。
- **[📷手ぶれ補正]**で焦点距離設定または情報登録したレンズを使用時は、設定値に従って補正されます。マイクロフォーサーズ／フォーサーズ以外のレンズを使うときは、**[📷手ぶれ補正]**で焦点距離設定をしてください(P.510)。



- **[デジタルシフト撮影]**の機能をボタンに登録しておくことができます。ボタンを押す操作だけで機能をオンにすることができます。**1** **☆**カスタムメニュー **B1** **[📷ボタン機能]** (P.463)

フィッシュアイレンズ使用時の画像の歪みを補正する (フィッシュアイ補正撮影)

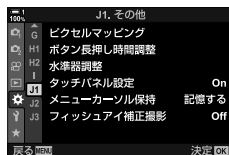
フィッシュアイレンズを使ったときの画面の歪みを補正して、超広角レンズを使ったような撮影ができます。3つの補正のレベルから選べます。また、水中撮影時に発生する歪みを同時に補正する設定もあります。

- 対応するフィッシュアイレンズを装着した場合のみ設定できます。
M.ZUIKO DIGITAL ED 8mm f1.8 Fisheye PRO (2019年1月現在)

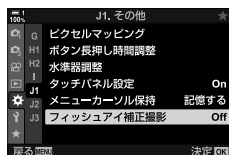
画角	レンズによる歪みを補正した上で画面にけられがたい範囲で切り出します。3つの切り出す範囲を選択できます。
水中補正	[画角]による補正に加えて、水中で撮影する際の画角に補正します。

1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。

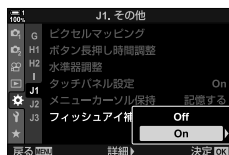
2 *カスタムメニュー **J1** (その他)のメニューを表示します。



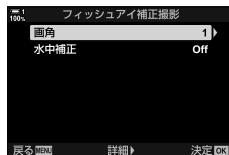
3 十字ボタンの△▽で[フィッシュアイ補正撮影]を選択し、▷ボタンを押します。




4 △▽ボタンで[On]を選択し、▷ボタンを押します。
• [画角]および[水中補正]のメニューが表示されます。



5 △▽ボタンで設定を変更し、▷ボタンを押します。
• △▽ボタンで設定を変更し、OKボタンを押します。
• 水中撮影以外では、[水中補正]は[Off]に設定してください。
• [フィッシュアイ補正撮影]のメニュー画面に戻ります。




6 繰り返しOKボタンを押して、カスタムメニューに戻ります。

- [フィッシュアイ補正撮影]が[On]になっていることを確認し、**MENU**ボタンを押して、メニューを終了します。
- フィッシュアイ補正撮影がオンになっている間は画面に  と選択した画角が表示されます。




フィッシュアイ補正撮影



7 撮影します。

- フィッシュアイ補正撮影を終了するときには、**カスタムメニュー**  の[フィッシュアイ補正撮影]を[Off]にします。
- 画質モードが[RAW]のときは、RAW+JPEGで記録されます。RAW画像は補正なしで記録されます。
- フィッシュアイ補正撮影中は、ピーキング表示はできません。
- AFターゲットは、シングルターゲット/スモルトターゲットのみになります。
- フィッシュアイ補正撮影時は、以下の機能は使用できません。
 コンポジット撮影/連写/ブラケット撮影/HDR撮影/多重露出撮影/ライブND撮影/デジタルシフト撮影/デジタルテレコン/ムービー撮影/AF方式の[C-AF] [C-AF MF] [C-AF+TR] [C-AF+TR MF] /ピクチャーモードの[e-ポートレート]またはアートフィルター/カスタムセルフタイマー/ハイレゾショット撮影



- [フィッシュアイ補正撮影]の機能をボタンに登録しておくことができます。ボタンを押す操作だけで機能をオンにすることができます。  **カスタムメニュー**  の[ ボタン機能] (P.463)

2-15 フラッシュを使う

別売の専用外部フラッシュを使うとカメラでフラッシュの発光モードを設定して撮影することができます。フラッシュの機能や操作については、それぞれのフラッシュの取扱説明書をお読みください。

2

専用外部フラッシュについて

発光量やマクロ撮影など、目的に合わせて選べます。専用外部フラッシュは、カメラとの通信機能により、TTL-AUTO、スーパー FP発光など多彩な調光モードが使えます。カメラのホットシューに取り付ける以外にも、専用のブラケットケーブル(別売)とフラッシュブラケットを使って撮影することもできます。また、このカメラは以下のワイヤレスフラッシュシステムに対応しています。

電波通信ワイヤレスフラッシュ：CMD、CMD、RCV、X-RCVモード

電波通信によるワイヤレスコントロールで複数のフラッシュをコントロールします。フラッシュの設置方法の自由度がひろがります。対応したフラッシュ同士または、電波コマンダー／レシーバーを使って非対応のフラッシュをコントロールすることもできます。

ワイヤレスRCフラッシュ：RCモード

光通信によるワイヤレスコントロールで複数のフラッシュをコントロールします。カメラでフラッシュの発光モードの設定ができます(P.254)。

■ 専用フラッシュの機能比較

型名	調光モード	GN (ガイドナンバー) (ISO100時)	対応ワイヤレスシステム
FL-700WR	TTL-AUTO、MANUAL、 FP TTL AUTO、FP MANUAL、 MULTI、RC、SL MANUAL	GN42 (150mm*1時) GN21 (24mm*1時)	CMD、 ⚡CMD、RCV、 X-RCV、RC
FL-900R	TTL-AUTO、AUTO、 MANUAL、FP TTL AUTO、 FP MANUAL、MULTI、RC、 SL AUTO、SL MANUAL	GN58 (200mm*1時) GN27 (24mm*1時)	RC
FL-600R	FP MANUAL、MULTI、RC、 SL AUTO、SL MANUAL	GN36 (85mm*1時) GN20 (24mm*1時)	RC
STF-8	TTL-AUTO、MANUAL、RC*2	GN8.5	RC*2
FL-LM3	カメラ設定による	GN9.1 (24mm*1時)	RC*2

*1 カバーできるレンズ焦点距離(35mmフィルムカメラ換算)











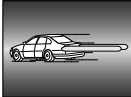

*2 コマンダー (発信側)としてのみ働きます。



発光モードを設定する

(⚡フラッシュ)



専用外部フラッシュを使うときは、カメラでフラッシュの発光モードの設定ができます。フラッシュを装着して電源を入れると、自動的にシャッター速度の上限は固定されます。

■ フラッシュ発光モード

 発光	フラッシュを発光します。 <ul style="list-style-type: none">シャッター速度は、 カスタムメニュー  で設定されている [ 低速制限] (P.261) から [ 同調速度] (P.260) の間に設定されます。
 発光禁止	フラッシュを発光しません。 <ul style="list-style-type: none">フラッシュの電源スイッチがオンになっていても発光しません。
 赤目軽減発光	人物の目が赤く写る現象を起こりにくくします。フラッシュの発光は、  (発光) と同様に働きます。
 スローシンク口 (先幕シンク口)	被写体も背景も適正露出となるように、遅いシャッター速度でフラッシュを発光します。 <ul style="list-style-type: none">[ 低速制限] の設定に関わらず、測光値に合わせて遅いシャッター速度に設定されます。
 スローシンク口+ 赤目軽減発光	 (スローシンク口) と赤目軽減発光を併用します。フラッシュは先幕シンク口で発光します。
 スローシンク口 (後幕シンク口)	 (スローシンク口) と同様にスローシンク口で発光します。 <ul style="list-style-type: none">フラッシュはシャッターを閉じる直前で発光します。被写体の移動方向の後方に光跡が残る写真になります。 
  など マニュアル発光	設定した光量で発光します。 <ul style="list-style-type: none">発光させる光量を設定します (P.257)。

- スーパー FP発光の機能については、フラッシュ側で設定をしてください。
- [] (赤目軽減発光) では、最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。撮影が終わるまでカメラを動かさないでください。
- 撮影状況によっては、[] (赤目軽減発光) の効果が得られないことがあります。

■ フラッシュ発光モードとシャッター速度

フラッシュの発光モードの設定に合わせて、使用できるシャッター速度の範囲が変わります。シャッター速度の上限と下限は、使用できる範囲の中で  カスタムメニューで変更することができます。  **[同調速度]** (P.260)、**[低速制限]** (P.261)

露出モード	LVスーパーコンパネの表示	フラッシュ発光モード	発光タイミング	シャッター速度制限条件
P/A		発光	先幕シンクロ	30秒～ 1/250秒
		赤目軽減		
		発光禁止	—	—
		スローシンクロ (赤目軽減)	先幕シンクロ	60秒～ 1/250秒
		スローシンクロ (先幕シンクロ)		
	スローシンクロ (後幕シンクロ)	後幕シンクロ	—	
S/M		発光	先幕シンクロ	60秒～ 1/250秒
		赤目軽減		
		発光禁止	—	—
		スローシンクロ (後幕シンクロ)	後幕シンクロ	60秒～ 1/250秒
B*		発光	先幕シンクロ	—
		赤目軽減		
		発光禁止	—	—
		スローシンクロ (後幕シンクロ)	後幕シンクロ	—

* **[LIVE COMP]** (P.108)では、後幕シンクロは使用できません。

- フラッシュ発光時、シャッター速度は1/250秒以下に設定されます。背景の明るい被写体では、発光すると背景が露出オーバーになることがあります。
- 静音撮影(P.163)、ハイレゾショット撮影(三脚)(P.210)およびフォーカスブラケット撮影時(P.239)は同調速度が1/50秒になります。また、電子シャッターを使った撮影(静音撮影、フォーカスブラケットなど)のときに**[ISO感度]**が8000以上の場合、フラッシュの同調秒時は1/20秒になります。ISOブラケット撮影時(P.238)もフラッシュの同調秒時は1/20秒になります。
- 被写体が近いと発光量を最小にしても強すぎる場合があります。近距離撮影での露出オーバーを防ぐには、**A**、**M**モードで絞り値を大きくしたり、**[ISO感度]**を低く設定して撮影してください。
- 外部フラッシュでスーパー FP発光(FP TTL AUTO/FP MANUAL)に設定されているときは、シャッター速度は上限で固定されません。

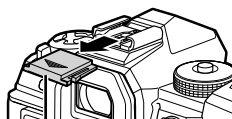
■ 専用外部フラッシュを取り付ける

フラッシュのカメラへの固定方法や操作方法はフラッシュによって異なります。詳しくはフラッシュの取扱説明書をお読みください。ここではFL-LM3を使用した場合の説明をします。

- カメラとフラッシュの電源が切れていることを確認してください。電源が入ったまま取り付け/取り外しをすると故障の原因となります。

1 ホットシューカバーを外して、フラッシュをカメラに装着します。

- フラッシュが奥にカチッと突き当たるまでしっかりと差し込みます。

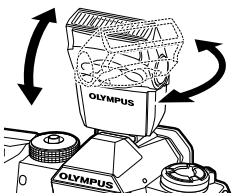


ホットシューカバー

2

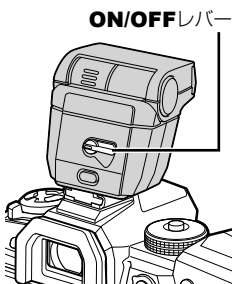
2 バウンス撮影時は、発光部の向きを調節します。

- 上方向と左右に回すことができます。
- バウンス撮影ではフラッシュの光量不足にご注意ください。



3 フラッシュのON/OFFレバーをONにして電源を入れます。

- フラッシュを使わないときは、レバーをOFFにして電源を切ります。




■ フラッシュを取り外す

- 1 フラッシュの**UNLOCK**スイッチを押しながらホットシューからフラッシュを外します。



■ (フラッシュ/連写/セルフタイマー)ボタンで設定する




- 1 ボタンを押します。
 - 発光モードのメニュー画面が表示されます。

発光モードのメニュー



- 2 フロントダイヤルを回して、設定を選択します。
- 3 マニュアル発光を選択したときは、**INFO**ボタンを押します。
 - フロントダイヤルで発光量を設定します。
- 4 **OK**ボタンを押すと、設定が確定され撮影画面に戻ります。

■ LVスーパーコンパネで設定する

LVスーパーコンパネでフラッシュ発光モードを選択して設定します。[ Manual] (マニュアル発光)を選択したときは、で[ FULL]を選択してフロントダイヤルを回すと、発光量を設定できます。

フラッシュ発光モード



マニュアル発光量

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールでも設定できます。

- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.68)をご覧ください。



フラッシュ

OKボタン ➡ **【フラッシュ】** ➡ 十字ボタンの<|>を押して設定

- マニュアル発光の発光量を設定するときは、**フル** (Full)を選択し、**INFO**ボタンを押して設定します。

フラッシュの発光量を調節する(フラッシュ発光量補正)

フラッシュの発光量の補正をします。オート発光でも光が強かったり、カメラまかせだと、被写体だけが暗くなってしまうような環境のときに調整します。

[**Manual**] (マニュアル発光)以外のフラッシュ発光モードに設定されているときに使用できます。

- 1 LVスーパーコンパネで[フラッシュ補正]を選択します。



フラッシュ補正

- 2 フロントダイヤルで補正量を選択します。
- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

- 専用外部フラッシュで発光量が補正されているときは、カメラの発光補正量に加算されて働きます。

フラッシュ使用時のシャッター速度の上限を設定する (⚡同調速度)

フラッシュ使用時に設定できるシャッター速度の上限を設定します。

フラッシュ使用時に被写体が明るいときでも、シャッター速度の上限はこの設定で固定されます。

設定範囲	1/60 ~ 1/250秒
------	---------------

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 **★**カスタムメニュー **F** (フラッシュ)のメニューを表示します。



- 3 十字ボタンの△▽で【⚡同調速度】を選択し、▷ボタンを押します。



- 4 △▽ボタンで設定を変更し、**OK**ボタンを押します。
- 5 **MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

- 静音撮影(P.163)、ハイレゾショット撮影(P.210)およびフォーカスブラケット撮影時(P.239)は同調速度が1/50秒になります。また、【ISO感度】が8000以上に設定されている場合やISOブラケット撮影時(P.238)は、同調速度が1/20秒になります。

フラッシュ使用時のシャッター速度の下限を設定する (⚡低速制限)

フラッシュ使用時に設定できるシャッター速度の下限を設定します。

シャッター速度をカメラが自動的に決める場合は、フラッシュ使用時に被写体が暗いときでも、シャッター速度の下限はこの設定で固定されます。フラッシュ発光モードが、スローシンクロ(⚡SLOW/SLOW2/⚡SLOW)のときは、この設定は働きません。

設定範囲	30秒～【同調秒時】設定未満
------	----------------

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 **★**カスタムメニュー **F** (フラッシュ)のメニューを表示します。
- 3 十字ボタンの△▽で⚡低速制限を選択し、▷ボタンを押します。
- 4 △▽ボタンで設定を変更し、**OK**ボタンを押します。
- 5 **MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。



2

ワイヤレスRCフラッシュ撮影

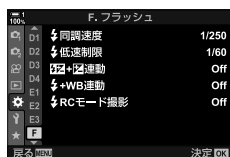
ワイヤレスRCフラッシュ対応の専用フラッシュを使うとワイヤレスフラッシュ撮影ができます。カメラに装着したフラッシュで他のフラッシュをリモート制御します。カメラに装着したフラッシュと3つのグループのフラッシュを別々に発光制御できます。

カメラとリモート操作するフラッシュの双方をRCモードに設定する必要があります。

■ RCモードの設定をする

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 **★カスタムメニュー F** (フラッシュ)のメニューを表示します。

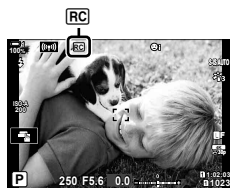


3 十字ボタンの△▽で[RCモード撮影]を選択し、▷ボタンを押します。



4 △▽ボタンで[On]を選択し、**OK**ボタンを押します。

- ・撮影画面に戻ります。
- ・画面にRCが表示されます。



5 **OK**ボタンを押します。

- ・RCモード用スーパーコンパネが表示されます。
- ・RCモードに設定されているときでも、**INFO**ボタンを押すと通常のスーパーコンパネを表示できます。表示は**INFO**ボタンを押すたびに切り換わります。



RCモード用
スーパーコンパネ

6 発光の設定をします。

- △▽<>ボタンで項目を選択して、リアダイヤルで設定を選択します。



グループ	コントロールするグループを示しています。グループ別に同時に複数のフラッシュをコントロールできます。☼はカメラに装着したフラッシュの設定です。
調光モード	調光モードを選択します。
発光量補正值	発光量の補正值を選択します。発光モードをMANUALにしたときは発光量の選択をします。
通信光量レベル	通信をするためのフラッシュ光の強さを選択します。遠距離の場合は[HI]を選択します。全てのグループに共通の設定です。
発光モード/発光量	⚡(通常の発光)かFP(スーパーFP発光)かを選択します。スーパーFP発光では、同調速度以上のシャッター速度でもフラッシュが使用できます。全てのグループに共通の設定です。
チャンネル	通信に使用するチャンネルを選択します。周囲に光るものなどがあり混信するときは、チャンネルを変更してください。

7 カメラに装着したフラッシュの設定を[TTL AUTO]にします。

- FL-LM3をお使いのときは、カメラの設定のみです。

■ フラッシュを設置する

1 ワイヤレスRCフラッシュをRCモードに設定します。

- 専用外部フラッシュの電源を入れ**MODE**ボタンを押して、RCモードに設定しておきます。
- 専用外部フラッシュで制御するグループを設定して、通信のチャンネルをカメラの設定と合わせます。

2 フラッシュを配置します。

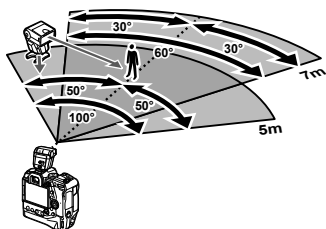
- ワイヤレスフラッシュのリモートセンサーをカメラ側に向けて設置します。

3 カメラとフラッシュの充電完了を確認してから撮影します。

■ ワイヤレスフラッシュの制御可能範囲

図は設置範囲の目安です。カメラ側に装着したフラッシュや周辺環境により異なります。

FL-LM3装着時



- ワイヤレスフラッシュの設置数は1グループ最大3台を推奨します。
- 4秒を超える後幕シンクロ撮影や低振動モードの場合は、ワイヤレスフラッシュ撮影できません。
- 低振動撮影時および静音撮影時の撮影待ち時間は4秒に制限されます。
- 被写体が近すぎる場合、通信用の発光が露出に影響を与えることがあります。カメラ側フラッシュをディフューザーなどで減光すると症状が緩和されます。

市販のフラッシュについて

ホットシューに装着するか外部フラッシュ端子に、シンクロコードを接続して使います。外部フラッシュ端子を使用しないときは必ずキャップを取り付けてください。市販のフラッシュをカメラのホットシューに接続して使用する場合は、次のことにご注意ください。

- このカメラのX端子(ホットシュー、外部フラッシュ端子)には極性はありません。ただし、約250V以上の電圧がかかる古いタイプの市販フラッシュを接続すると故障の原因となりますので、使用しないでください。
- 弊社規格外の通信端子のあるフラッシュを接続すると故障する可能性があります。
- 撮影モードを**M**にして、シャッター速度をフラッシュの同調速度以下にして、**[ISO感度]**を**[AUTO]**以外でお使いください。
- フラッシュで調光する場合は、フラッシュにカメラのISO感度と絞り値を設定する必要があります。フラッシュによる明るさを調整するには、ISO感度か絞り値の設定を操作してください。
- レンズにあった照射角のフラッシュをお使いください。通常、照射角は35mmフィルムカメラ換算の焦点距離で表されていますので、ご注意ください。

2-16 記録した画像を操作する機能

撮影した画像はカードに記録され、カメラのモニターに表示して見ることができます。画像は回転して表示したり、消去したり、撮影で使う機能と同様の設定を使って編集することもできます。また、あらかじめ予約をしておいて簡単にスマートフォンへ画像を転送する設定もあります。

画像の情報表示を選ぶ

画像再生時の情報表示の内容を変更できます。

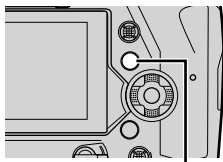
1 ボタンを押します。

- 最後に撮影した画像が表示されます。



2 **INFO** ボタンを押します。



- ボタンを押すたびに表示が切り換わります。



INFO ボタン



INFO

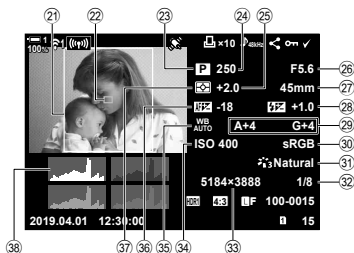
- INFO** ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回して、表示内容を切り換えることもできます。
- 再生時の情報表示に、ヒストグラム、ハイライト&シャドウ、ライトボックス、フィールドセンサー **INFO** の表示を追加することができます。*****カスタムメニュー **D1** [/**Info表示設定**] (P.515)の[Info表示]で設定します。

画像再生時の情報表示

簡易表示



総合表示



- | | | | |
|-------------------------|-----------------|--------------------|-----------|
| ① 電池残量..... | P.44 | ⑳ 日時..... | P.455 |
| ② 無線LAN接続状態..... | P.584, 600 | ㉑ アスペクト枠..... | P.233 |
| ③ Bluetooth®接続中..... | P.586 | ㉒ AFターゲット表示..... | P.53, 123 |
| ④ パソコン接続中..... | P.600 | ㉓ 撮影モード..... | P.93-113 |
| ⑤ 無線LAN接続..... | P.592, 596, 597 | ㉔ シャッター速度..... | P.94-102 |
| ⑥ GPS位置情報あり..... | P.570 | ㉕ 露出補正..... | P.180 |
| ⑦ プリント予約
プリント枚数..... | P.291 | ㉖ 絞り値..... | P.94-102 |
| ⑧ 録音..... | P.281 | ㉗ 焦点距離..... | P.39 |
| ⑨ シェア予約..... | P.277 | ㉘ フラッシュ補正..... | P.259 |
| ⑩ プロテクト(保護)..... | P.270 | ㉙ ホワイトバランス補正值..... | P.206 |
| ⑪ 画像選択..... | P.279 | ㉚ カラー設定..... | P.232 |
| ⑫ ファイル番号..... | P.548 | ㉛ ピクチャーモード..... | P.215 |
| ⑬ コマ番号..... | | ㉜ 圧縮率..... | P.81 |
| ⑭ 再生カードスロット..... | P.57 | ㉝ ピクセルサイズ..... | P.82 |
| ⑮ 画質モード..... | P.78 | ㉞ ISO感度..... | P.181 |
| ⑯ アスペクト比..... | P.233 | ㉟ WBモード..... | P.202 |
| ⑰ HDR画像..... | P.195 | ㊱ AF微調節..... | P.492 |
| ⑱ 深度合成..... | P.243 | ㊲ 測光方式..... | P.186 |
| ⑲ ライブND..... | P.197 | ㊳ ヒストグラム..... | P.84 |

- フィールドセンサー Info表示では、以下の情報が表示されます。☑️ [Info表示設定] (P.515)

緯度経度/方位/温度/標高/気圧

カードに記録された画像を拡大して表示する「クローズアップ再生」ができます。カメラのモニター上で撮影結果の確認をすることができます。拡大した画像を見たい位置に動かして確認することもできます。

1 ボタンを押します。

- 最後に撮影した画像が表示されます。







2 リアダイヤルをQに回します。

- 画像を拡大して表示します(クローズアップ再生)。
- マルチセレクターを動かして表示したい位置に移動できます。十字ボタン(△▽◀▶)で移動することもできます。







クローズアップ再生

2

- 再生するカードは次の方法で変更できます。
 - **CARD** ボタンを押してからフロント/リアダイヤルを回します。
 -  ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回します。
 このとき、 カスタムメニュー  【カードスロット設定】(P.547)の スロット】の設定は変更されません。

拡大枠を使って見る

マルチセレクターを押すと、拡大枠を表示して位置を決めて拡大することができます。 ボタン機能】で【Q】(拡大)や【マルチFn】の機能を割り当てたボタンを押して拡大枠を表示することもできます。 【 ボタン機能】(P.463)

- 拡大枠を使った拡大表示はタッチ操作でもできます。 「タッチパネルを使って撮影する」(P.54)

画像をすばやく探す

(インデックス再生／カレンダー再生)

カードに記録された画像をサムネイルで画面内に複数表示する「インデックス再生」ができます。見たい画像をすばやく探すことができます。また、画面表示をカレンダー画面にして、撮影した日付で画像を探すこともできます。

1 ボタンを押します。

- 最後に撮影した画像が表示されます。










2 リアダイヤルを に回します。

- インデックス再生します。
- マルチセレクターを動かして1コマ表示したい画像を選択してマルチセレクターを押すと1コマ表示に変わります。
- フロントダイヤルまたは、十字ボタン(△▽◀▶)で選択することもできます。



インデックス再生


3 インデックス表示のままで再度リアダイヤルを に回します。

- カレンダー再生に変わります。インデックス再生の表示コマ数は **★**カスタムメニュー  **[Info表示設定]** (P.515)の  **表示** で選択できます。複数の表示タイプを設定したときは、リアダイヤルを何度か  に回すとカレンダー再生に変わります。
 - フロントダイヤルまたは十字ボタンで日付を選択して **OK** ボタンを押すと、その日付の画像の1コマ目を表示します。
 - リアダイヤルを  または **Q** に回すことで1コマ再生、インデックス再生、カレンダー再生の間を切り換えられます。
- 再生するカードの変更は、ボタンを使ってもできます。
- CARD** ボタンを押してからフロント／リアダイヤルを回します。
 -  ボタンを押しながらフロント／リアダイヤルを回します。
- このとき、**★**カスタムメニュー  **[カードスロット設定]** (P.547)の  **スロット** の設定は変更されません。



カレンダー再生

画像を回転して表示します。カメラを縦位置で撮った画像をカメラの向きを変えずに見ることができます。

1  ボタンを押します。

- 最後に撮影した画像が表示されます。

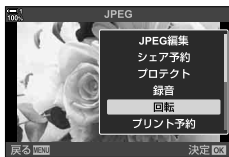


2 **OK** ボタンを押します。

- 画像を操作するメニューが表示されます。



3 十字ボタンの△▽で**[回転]**を選択し、**OK**ボタンを押します。



4 △ボタン(反時計回り)、▽ボタン(時計回り)を押すたびに画像が回転します。

- リアダイヤルを回して回転することもできます。




5 **OK** ボタンを押して設定を終了します。

- 回転表示した画像はその状態でカードに記録されます。
- プロテクトされている画像は回転できません。



- カメラを縦位置で撮影した画像を、再生時に自動的に回転して表示することができます。

 再生メニュー **[回転再生]** (P.283)

[回転再生]が**[Off]**のときは、**[回転]**は選択できません。

画像を誤って消去してしまうことがないように保護しておくことができます。選択コマ消去などで一括に消去されてもプロテクトされた画像は残りますが、カードを初期化したときは、プロテクトされていても消去されます。

• この機能は以下の方法で設定できます。

- **Fn**ボタン

- メニュー (P.271)

■ **Fn** (プロテクト)ボタンで設定する

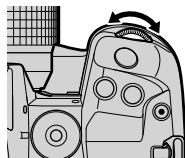
1 **Fn**ボタンを押します。

• 最後に撮影した画像が表示されます。



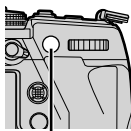
2

2 フロントダイヤルを回して、プロテクトしたい画像を表示します。



3 **Fn**ボタンを押します。

- 画像に**Fn** (プロテクトマーク)が付きます。
- 再度**Fn**ボタンを押すと解除されます。
- プロテクトされていない画像を表示して、**Fn**ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回すと、その間に表示される画像にプロテクトがかかります。その間のプロテクトされた画像は、変更されません。



Fnボタン

プロテクトマーク



- プロテクトされた画像を表示して、**Fn**ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回したときは、その間に表示される画像のプロテクトが解除されます。プロテクトされていない画像は、そのまま変更されません。
- インデックス再生やクローズアップ再生で画像を選択したときも同様の操作ができます。


■ メニューで設定する

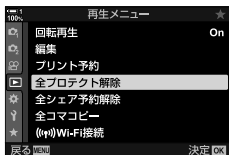
画像を再生して、**OK**ボタンを押してメニューを表示して設定します。

OKボタン ➡ **[プロテクト]** ➡ **OK**ボタン ➡ 十字ボタンの△または▽を押して設定、もう一度押すと解除 ➡ 設定終了したら**OK**ボタンを押して確定

全てのプロテクトを解除する (全プロテクト解除)

再生しているスロット内に記録されている画像の全てのプロテクトを解除します。複数の画像に設定しているプロテクトを一括で解除できます。

- 1 MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 再生メニューで**[全プロテクト解除]**を選択し、十字ボタンの▷を押します。
- △▽ボタンで**[実行]**を選択し、**OK**ボタンを押します。
- MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。



2



- 複数のコマを選んでおいて一括で行うことができます。☞ 「複数の画像を一括で処理する (プロテクト/選択コマコピー/選択コマ消去/選択コマシェア予約)」 (P.279)

カード間で画像をコピーする

(1コマコピー)

2つのカードスロットに装着されているカードの間で画像のコピーができます。

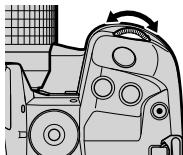
1 ▶ボタンを押します。

- 最後に撮影した画像が表示されます。



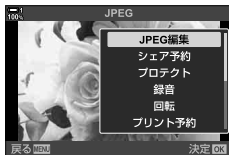
2 フロントダイヤルを回して、コピーしたい画像を表示します。

- 別のカードの画像をコピーしたいときは、表示するスロットを切り換えます。



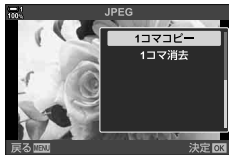
2 3 OKボタンを押します。

- 画像を操作するメニューが表示されます。



4 十字ボタンの△▽で[1コマコピー]を選択し、OKボタンを押します。

- [コピー先フォルダ指定]の画面が表示されます。



5 コピー先のフォルダを指定するかどうかを選択してOKボタンを押します。

[指定する] : 既存のフォルダまたは新規に作成したフォルダにコピーします。手順6に進みます。

[指定しない] : 既存のフォルダにコピーします。



6 手順5で[指定する]を選択した場合は、コピー先のフォルダを選択します。

- △▽ボタンで、[新規作成]または[既存フォルダ選択]を選択して**OK**ボタンを押します。

[新規作成] : △▽ボタンでフォルダ番号を設定して**OK**ボタンを押します。

[既存フォルダ選択] : △▽ボタンで保存するフォルダを選択して**OK**ボタンを押します。

- 選択したフォルダやフォルダ名が使えない場合は、元の画面に戻るので、再度選択します。

7 △▽ボタンで[実行]を選択して**OK**ボタンを押します。



- 複数のコマを選んでおいて一括で行うことができます。☑ 「複数の画像を一括で処理する (プロテクト/選択コマコピー/選択コマ消去/選択コマシェア予約)」 (P.279)


全ての画像をコピーする

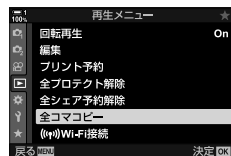
(全コマコピー)

2つのカードスロットに装着されているカードの間で全ての画像を一括でコピーできます。

①⇒②	カードスロット1に装着されているカードからカードスロット2に装着されているカードに全コマコピーします。
②⇒①	カードスロット2に装着されているカードからカードスロット1に装着されているカードに全コマコピーします。

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 再生メニューで[全コマコピー]を選択し、十字ボタンの \triangleright を押します。



2 3 Δ / ∇ ボタンで[①⇒②]または[②⇒①]を選択し、**OK**ボタンを押します。




4 Δ / ∇ ボタンで[実行]を選択し、**OK**ボタンを押します。

- コピーが開始されます。コピーが終了すると再生メニューに戻ります。
- コピーを中断するときは、**MENU**ボタンを押します。




- コピー先のカードの空き容量がなくなると、その時点でコピーを終了します。
- 画像の数やカードの仕様によってコピーに時間がかかる場合があります。

カードに記録した画像を消去します。

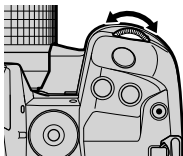
- 以下の方法で画像を消去できます。
 -  ボタン
 - メニュー


■ ボタンで画像を消去する

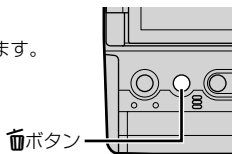
- 1  ボタンを押します。
 - 最後に撮影した画像が表示されます。



- 2 フロントダイヤルを回して、消去したい画像を表示します。
 - 別のカードの画像を消去したいときは、表示するスロットを切り換えます。



- 3  ボタンを押します。
 - 1コマ消去画面が表示されます。








- 4 十字ボタンの△▽で[実行]を選択し、**OK**ボタンを押します。

■ メニューで画像を消去する

画像を再生して、**OK**ボタンを押してメニューを表示します。

OKボタン ➡ [1コマ消去] ➡ **OK**ボタン ➡ 十字ボタンの△▽で[実行]を選択し、**OK**ボタンを押して確定



- 実行/中止の確認なしで削除することもできます。  カスタムメニュー **H2** [ワンタッチ消去] (P.551)
- RAW+JPEGの画質モードで記録されているRAW画像とJPEG画像を同時に消去するか、一方だけを消去するかを選択することができます。  カスタムメニュー **H2** [RAW+JPEG消去] (P.551)
- 複数のコマを選んでおいて一括で行うことができます。 「複数の画像を一括で処理する (プロテクト/選択コマコピー/選択コマ消去/選択コマシェア予約)」 (P.279)

撮影した画像を一度に全コマ消去する（全コマ消去）

カードに記録した画像を全て消去します。プロテクトした画像は消去されません。

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 **Y**セットアップメニューで**[カードセットアップ]**を選択し、十字ボタンの**▷**を押します。

- 2つのカードスロットの両方にカードが装着されているときは、カード選択メニューが表示されます。1か2を選んで**OK**ボタンを押してください。



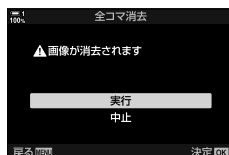
3 **△▽**ボタンで**[全コマ消去]**を選択し、**OK**ボタンを押します。

- 選んだカードに画像が記録されていないときは、**[カード初期化]**のメニューのみになります。別のカードを選択してください。



4 **△▽**ボタンで**[実行]**を選択し、**OK**ボタンを押します。

- 全コマ消去が実行されます。
- 全コマ消去が終了したら撮影画面に戻ります。



このカメラで撮影した画像を、スマートフォン用のアプリ(OI.Share)を使ってスマートフォンに転送することができます。転送する画像を予約しておくことで、カメラの電源がオフのときに、自動で転送することができます。

カメラとスマートフォンを接続する設定は、「6-2 スマートフォンと接続する(Wi-Fi)」(P.584)をお読みください。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - ◀ボタン
 - メニュー (P.278)

■ ◀ (シェア)ボタンで設定する

1 ▶ ボタンを押します。

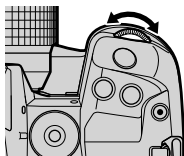
- 最後に撮影した画像が表示されます。



2

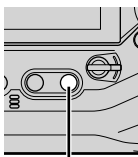
2 フロントダイヤルを回して、予約したい画像を表示します。

- 別のカードの画像をシェア予約したいときは、表示するスロットを切り換えます。



3 ◀ ボタンを押します。

- 画像に◀ (シェア予約)が付きます。
- 再度◀ボタンを押すと解除されます。
- シェア予約されていない画像を表示して、◀ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回すと、その間に表示される画像はシェア予約されます。その間のシェア予約された画像は、変更されません。
- シェア予約された画像を表示して、◀ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回したときは、その間に表示される画像のシェア予約が解除されます。シェア予約されていない画像は、そのまま変更されません。
- インデックス再生やクローズアップ再生で画像を選択したときも同様の操作ができます。



◀ボタン

シェア予約



■ メニューで設定する

画像を再生して、**OK**ボタンを押してメニューを表示して設定します。


OKボタン ➡ [シェア予約] ➡ **OK**ボタン ➡ 十字ボタンの△または▽を押して予約、もう一度押すと予約解除 ➡ 設定終了したら**OK**ボタンを押して確定

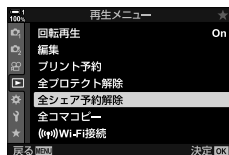
- シェア予約できるコマは各スロットにつき200コマです。

全ての転送予約を解除する (全シェア予約解除)

再生しているスロット内に記録されている画像の全てのシェア予約を解除します。

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 再生メニューで[全シェア予約解除]を選択し、十字ボタンの▷を押します。



3 △▽ボタンで[実行]を選択し、**OK**ボタンを押します。



4 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。



- 複数のコマを選んでおいて一括で行うことができます。🔍 「複数の画像を一括で処理する (プロテクト/選択コマコピー/選択コマ消去/選択コマシェア予約)」 (P.279)

複数の画像を一括で処理する

(プロテクト／選択コマコピー／選択コマ消去／ 選択コマシェア予約)

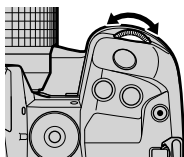
プロテクト、コピー、消去、およびシェア予約の操作を、複数のコマを選んでおいて一括で行うことができます。

1 ボタンを押します。




- 最後に撮影した画像が表示されます。

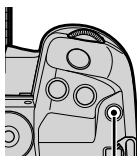


2 フロントダイヤルを回して、選択したい画像を表示します。



3 ボタンを押します。

- 画像に✔が付きます。
- 再度 ボタンを押すと解除されます。
- ✔の付いていない画像を表示して、 ボタンを押しながらフロント／リアダイヤルを回すと、その間に表示される画像に✔が付きます。その間の✔がついた画像は、変更されません。
- ✔がついた画像を表示して、 ボタンを押しながらフロント／リアダイヤルを回したときは、その間に表示される画像の✔は消えます。✔の付いていない画像は、そのまま変更されません。
- インデックス再生やクローズアップ再生で画像を選択したときも同様の操作ができます。



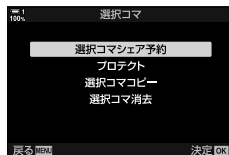
 ボタン

選択マーク



4 画像に✓を入れた状態で**OK**ボタンを押します。

- 処理せずにメニューを終了する場合は**MENU**ボタンを押します。



5 [プロテクト]、[選択コマコピー]、[選択コマ消去]、[選択コマシェア予約]から一括で行う内容を選択して、**OK**ボタンを押します。

- ✓をつけた画像が一括で処理されます。
 - [選択コマコピー]や[選択コマ消去]ではメニューが表示されるので、メニューに従って操作を進めます。
- 再生画面を終了したり、カメラの電源をオフにすると選択は解除されます。

カードに記録した画像にあとから音声を加えます。簡単なメモ代わりに使えます。

- 最長30秒の録音ができます。

1 再生ボタンを押します。

- 最後に撮影した画像が表示されます。音声を付ける画像を表示してください。

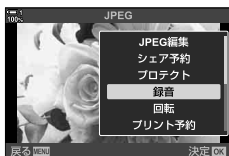


2 OKボタンを押します。

- 画像を操作するメニューが表示されます。



3 十字ボタンの△▽で「録音」を選択し、OKボタンを押します。



4 「録音スタート」を選択してOKボタンを押すと、録音を開始します。

- 録音を中止する場合は、[中止]を選択してください。
- すでに録音されている音声を消去するときは、[消去]を選択してOKボタンを押してください。



5 OKボタンを押して、録音を終了します。

■ メニューで設定する

メニューから録音することもできます。

MENUボタン ➡ 再生メニュー)タブ ➡ 【編集】 ➡ 【画像選択】 ➡ 画像を選択し、OKボタンを押してメニューを表示 ➡ 【録音】


- プロテクトされた画像には録音できません。
- 音声を録音した画像には♪と録音レートが表示されます。



- 録音レートはムービーの録音機能の設定が適用されます。⊞動画メニューの【ムービー録音】(P.413)で設定を変更できます。

■ 音声を再生する

音声のついた画像は、画像を再生すると同時に音声を再生します。再生をするときの音量の調節をします。

- 1  ボタンを押して画像を再生します。
- 2 十字ボタンの△または▽を押します。
 - △ボタン：音量が上がります。
 - ▽ボタン：音量が下がります。




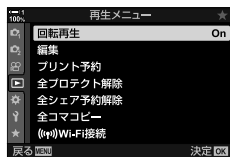
縦位置で撮影した画像を自動で回転表示する

(回転再生)

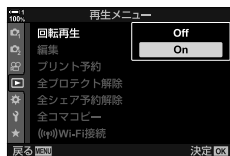
カメラを縦位置にして撮影した画像をカメラで表示したときに、縦向きに回転して表示します。

On	自動で回転して表示します。
Off	回転せずに表示します。

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 再生メニューで[回転再生]を選択し、十字ボタンの▷を押します。



- 3 △▽ボタンで[On]を選択し、**OK**ボタンを押します。



- 4 **MENU**ボタンを押して、メニューを終了します。

2

撮影した画像を編集して別の画像として保存します。RAW画像は、ホワイトバランスや、アートフィルターを含むピクチャーモードなどの撮影時に使うような処理を加えることができます。JPEG画像は、トリミングやリサイズなどの簡単な加工ができます。

RAW編集	編集をしてJPEG画像を作ります。編集は以下の方法でできます。
	<p>[現設定] : 現在のカメラの設定を反映した処理をします。</p> <p>[詳細設定1] / [詳細設定2]: 画面上で処理の結果を確認しながら、設定を選択します。設定した内容を[詳細設定1] [詳細設定2]として残しておけます。</p>
	<p>[ART BKT] : アートフィルターの処理をしたJPEG画像を作ります。複数のアートフィルターを選択して同時に複数の画像を作れます。</p>
JPEG編集	JPEG画像をもとに加工をして、新たにJPEG画像を作ります(P.287)。

RAW画像を編集する

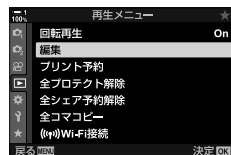
(RAW編集)

[RAW編集]では以下の内容が編集できます。**[現設定]**で有効な編集内容も同じです。

- 画質モード
 - ピクチャーモード
 - ホワイトバランス
 - 露出補正
 - 暗部トーン補正
 - 中間部トーン補正
 - 明部トーン補正
 - アスペクト比
 - 高感度ノイズ低減
 - カラー設定
 - デジタルシフト
- ピクチャーモードをアートフィルターに設定すると、**[カラー設定]**は**[sRGB]**に固定されます。
- 次の場合はRAW編集できません。
カードの空き容量が不足している場合 / 他のカメラで撮影した画像

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 **▶**再生メニューで**[編集]**を選択し、十字ボタンの**▷**を押します。



3 △▽ボタンで**[画像選択]**を選択し、**OK**ボタンを押します。

- カードに記録されている画像が表示されます。



4 <|>ボタンで編集したい画像を選択し、**OK**ボタンを押します。

- 編集メニューが表示されます。
- 選択した画像がRAW画像でないときは表示されません。別の画像を選択してください。



5 △▽ボタンで**[RAW編集]**を選択し、**OK**ボタンを押します。

- 設定方法のメニューが表示されます。

[現設定]を選んだときは**OK**ボタンを押します。画像に現在のカメラの設定が反映されます。

[詳細設定1]または**[詳細設定2]**を選んだときは▶ボタンを押します。

- 編集メニューが表示されます。△▽ボタンで項目を選択し、<|>ボタンで設定を変更します。項目を選択して繰り返します。●ボタンを押すと設定が画面に反映されます。

[ART BKT]を選んだときは、▶ボタンを押すと、画像にかけるアートフィルターを選択するメニューが表示されます。使用するアートフィルターを選択し、**OK**ボタンを押して✔を付けます。設定を終えたら**MENU**ボタンで前の画面に戻ります。

6 設定を終えたら**OK**ボタンを押します。

- 画像に処理が施されます。

7 再度**OK**ボタンを押します。

- △▽ボタンで**[実行]**を選択して**OK**ボタンを押すと、現像が施された画像が記録されます。



2



8 同じ元画像で再度編集するときは、**[再設定]**を選択して**OK**ボタンを押します。現像を終了するときは、**[中止]**を選択して**OK**ボタンを押します。

- **[再設定]**を選択したときは、画面に設定方法のメニューが表示されます。手順5から繰り返します。

• RAW編集したい画像を再生して編集をすることもできます。

 ボタン ➡ 編集したい画像を選択 ➡ **OK**ボタンを押してメニューを表示 ➡ **[RAW編集]**

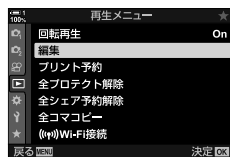
[JPEG編集]では以下の内容が編集できます。


階調オート	逆光時に暗く写った被写体を明るくします。
赤目補正	フラッシュ撮影で目が赤く写った部分を軽減させます。
トリミング	画像をトリミングします。フロント/リアダイヤルでトリミングサイズ、十字ボタンでトリミング位置を指定します。
アスペクト	アスペクト比が 4:3 (基準)の画像を、 [3:2] 、 [16:9] 、 [1:1] 、または [3:4] に変更します。アスペクト比選択後、十字ボタンでトリミング位置を指定します。
モノクロ作成	白黒に変換します。
セピア作成	セピア色に変換します。
鮮やかさ調整	画像の色をより鮮やかにします。画面で確認しながら鮮やかさを調整します。
リサイズ	画像サイズを 1280×960 、 640×480 、または 320×240 に変換します。アスペクト比が 4:3 (基準)以外の画像は、近い大きさの画像サイズに変換されます。
eポートレート	なめらかな肌に補正します。顔が検出できないなど、画像によっては補正できない場合があります。

- 画像によっては赤目補正できないことがあります。
- 次の場合は**JPEG編集**できません。
パソコンで編集した画像/カードの空き容量が不足している場合/他のカメラで撮影した画像
- **[リサイズ]**では、撮影時の画像サイズより大きなサイズには設定できません。
- **[トリミング]** / **[アスペクト]**は、アスペクト比が**4:3** (基準)の画像のみ編集できます。

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 再生メニューで**[編集]**を選択し、十字ボタンの**▷**を押します。



3 ボタンで**[画像選択]**を選択し、**OK**ボタンを押します。

- カードに記録されている画像が表示されます。



4 ◀▶ ボタンで編集したい画像を選択し、**OK**ボタンを押します。

- 編集メニューが表示されます。
- 選択した画像がJPEG画像でない場合、**[JPEG編集]**は表示されません。別の画像を選択してください。



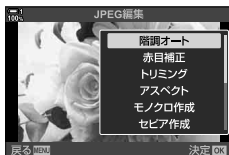
5 △▽ボタンで**[JPEG編集]**を選択し、**OK**ボタンを押します。

- 編集メニューが表示されます。



6 △▽ボタンで項目を選んで**OK**ボタンを押します。

- 設定が画像に反映されて確認できます。メニューが表示される項目では、△▽ボタンで設定を選択します。
- **[トリミング]**を選択したときは、フロント/リアダイヤルでサイズを設定、十字ボタン、またはマルチセレクターでトリミング位置を設定できます。
- **[アスペクト]**を選択したときは、十字ボタンまたはマルチセレクターで位置を設定できます。



7 △▽ボタンで**[実行]**を選択して**OK**ボタンを押します。

- 現像が施された画像が記録され、再生画面に戻ります。



- JPEG編集したい画像を再生して編集をすることもできます。

▶ボタン ➡ 編集したい画像を選択 ➡ **OK**ボタンを押してメニュー表示 ➡ **[JPEG編集]**

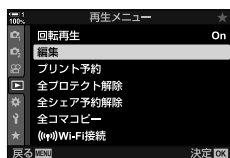
記録されているRAW画像を重ねて合成して別の画像として保存します。2コマまたは3コマの合成ができます。

合成するそれぞれの画像の明るさ(ゲイン)を調整して、見え方を変えることができます。

- 合成後の画像は、カメラで設定されている画質モードで記録されます。設定が[RAW]のときは、[◀:2]とRAWで保存されます(P.542)。
- 合成画像をRAW形式で保存すると、さらに他のRAW画像と合成することができ、4コマ以上の画像合成が可能になります。

1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。

2 ▶再生メニューで[編集]を選択し、十字ボタンの▷を押します。



3 △▽ボタンで[画像合成]を選択し、OKボタンを押します。



4 合成するコマ数を選択してOKボタンを押します。



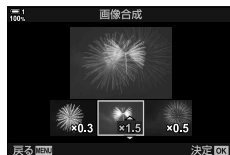
5 十字ボタン(△▽◀▶)で合成するRAW画像を選択してOKボタンを押します。

- 選択したコマに✓が表示されます。✓を外すときは再度OKボタンを押します。
- 手順4で選択したコマ数を選択すると、画像合成画面が表示されます。



6 合成する各画像のゲインを選択します。

- <▶> ボタンで画像を選択し、△▽ボタンで数値を変更します。
- ゲインは0.1～2.0まで選択できます。表示画像を見ながらゲインを調節してください。



7 OKボタンを押すと、確認画面が表示されます。

- [実行]を選択し、**OK**ボタンを押します。
- 合成したいRAW画像を再生して編集をすることもできます。
▶ ボタン ➡ **OK**ボタンを押して、メニューを表示 ➡ [画像合成]

プリントしたい画像にあらかじめ枚数や日時の印刷などの条件を指定しておくことができます。プリント予約した画像は、DPOF対応のプリントショップでプリントできます。プリント予約の情報(DPOF)はカードに記録されます。

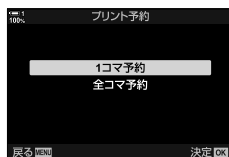
カード内の印刷指定をしたコマに対して以下の指定ができます。

無し	画像のみプリントされます。
日付	画像と撮影年月日がプリントされます。
時刻	画像と撮影時刻がプリントされます。

■ プリント予約する

1 画像を再生中に、**OK**ボタンを押して[プリント予約]を選択します。

2 [1コマ予約]または[全コマ予約]を選択し、**OK**ボタンを押します。



1コマ予約の場合

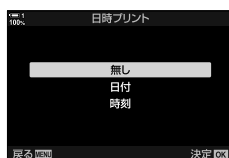
- 十字ボタンの<D>を押してプリント予約したいコマを選択し、△▽ボタンを押してプリントする枚数を設定します。
- 複数の画像をプリント予約する場合は、この手順を繰り返します。予約が終わったら**OK**ボタンを押します。

全コマ予約の場合

- [全コマ予約]を選択し、**OK**ボタンを押します。

3 日時の種類を選択し、**OK**ボタンを押します。

- 複数の画像をプリントする場合、1コマごとに設定を変えることはできません。



4 [予約する]を選択し、**OK**ボタンを押します。

- 再生中のカードに保存されている画像に、設定が反映されます。
- 他の機器で予約した内容を、このカメラで変更することはできません。また、このカメラであらたに予約を行うと、他の機器で予約した内容は消去されます。
- RAWデータはプリント予約できません。

■ プリント予約を選択して解除する／すべて解除する

すべてのプリント予約を解除する方法と、選択した画像のプリント予約だけを解除する方法があります。

- 1 画像を再生中に、**OK**ボタンを押して**[プリント予約]**を選択します。
- 2 **[1コマ予約]**を選択し、**OK**ボタンを押します。
 - すべてのプリント予約を解除する場合は、**[解除する]**を選択して、**OK**ボタンを押します。そうでない場合は**[解除しない]**を選択して**OK**ボタンを押します。
 - 全てのプリント予約を解除するときは、**[全コマ予約]**を選択して**[解除する]**を実行することもできます。
- 3 十字ボタンの**<|>**を押してプリント予約を解除したいコマを選択します。
 - **△▽**ボタンでプリント枚数を**0**に設定します。すべて解除したら**OK**ボタンを押します。
- 4 日時の種類を選択し、**OK**ボタンを押します。
 - プリント予約の設定が残っている画像に、選択した設定が適用されます。
 - 再生中のカードに保存されている画像に、設定が反映されます。
- 5 **[予約する]**を選択し、**OK**ボタンを押します。

3 **ムービーの撮影と再生**

ムービー撮影用カメラとして使うときの、使い方を説明しています。ムービー撮影時やカメラでのムービーの再生時に必要な機能についても説明しています。

3-1 基本操作

撮影モードが静止画撮影のモードになっていても、**MOV** (ムービー) ボタンを押すだけで基本的なムービーを撮影することができます。また、**MOV** (ムービー) モードを使うと、本格的なムービーを撮影することができます。どちらの場合でも、基本的な撮影や再生の操作は同じです。

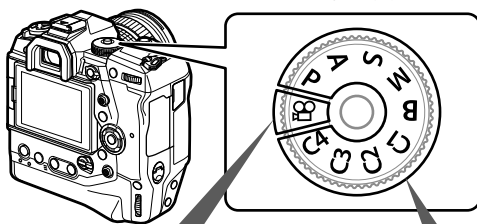
ムービー撮影について

このカメラではムービー撮影をするために、ムービー撮影専用の **MOV** (ムービー) モードに設定して撮る方法と、静止画の撮影中に簡単にムービーを撮影する方法があります。

どちらの場合でも、ファインダーを見ながら撮影、モニターを見ながら撮影が可能です。モニターを見ながら撮影すると、モニターの被写体に直接タッチしてピントを合わせたり、ピント位置を移動させることができます。撮影は、**MOV** (ムービー) ボタンによって行います。

3 ムービー撮影のために設定する機能やムービー撮影時の情報画面は、モードダイヤルを **MOV** (ムービー) モードにしているときに表示されます。

モードダイヤル



MOV (ムービーモード) の場合

ムービー専用の撮影モードです。静止画撮影時と異なる設定をしたり、ムービー独自の機能を使うことができます。

ムービーを中心に撮影する場合に適しています。

その他の撮影モードの場合

プログラム AE でムービー撮影します。

静止画撮影の合間にムービー撮影をする場合に適しています。

* 静止画撮影時と設定を共用する機能があります。

本章では、**MOV** (ムービー) モードを使用したムービー撮影を中心に説明します。


撮影する

カメラを構える

- レンズに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。

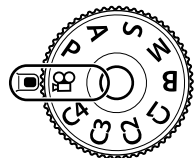


タッチパネルを使って撮影する

モードダイヤルを  (ムービー) にすると、モニターがムービー撮影の表示に変わります。モニターにタッチして操作するタッチパネル機能を使って撮影できます。

1 モードダイヤルを に合わせます。

- ムービー撮影の画面の情報が表示されます。
- **P/A/S/M**モードでもムービー撮影はできます。このとき画面では静止画撮影の情報が表示されます。



3

2 被写体にAFフレームを合わせます。

- 初期設定では、**[AF方式]** (P.345) が **[C-AF]** に設定されているので、AFフレームを合わせたものに、自動的にピントを合わせ続けます。



AFフレーム

3 構図を変えずにピント位置を動かしたいときは、モニターにタッチします。

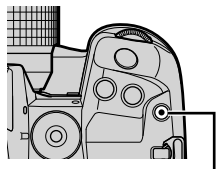
- タッチした位置に緑の枠(AFターゲット)が表示され、カメラがその位置にピントを合わせます。
- **OK** ボタンを長押しするとAFターゲットは中央に戻ります。
- 再度 **OK** ボタンを押すとAFターゲットは消えます。AFターゲットが消えるとカメラはAFフレームの位置でピント合わせをします。



AFターゲット

4 ◎ (ムービー)ボタンを押して録画を開始します。

- 録画時間がカウントされ画面に表示されます。
- 録画中にモニターのパントを合わせたい位置にタッチしてパント位置を移動することができます。



◎ (ムービー)ボタン



録画時間

5 再度◎ボタンを押して録画を終了します。

- タッチパネルは、先のとがったものや爪で操作しないでください。
- モニター保護シートや手袋を使っていると、うまく操作できない場合があります。
- AFフレームの形状はAFターゲット選択の設定により変わります。AFターゲット選択画面でターゲットの範囲を変更、設定して使用してください(P.352)。AFターゲットの設定が「**AF** (オールターゲット)」のときはAFフレームは表示されません。
- 次の場合はタッチ操作できません。
ワンタッチWB取得画面／ボタンまたはダイヤル操作中など
- 以下の設定ではムービーは撮影できません。
B (バルブ)モード／インターバル撮影／デジタルシフト撮影／フィッシュアイ補正撮影／ライブND撮影
- 撮影中のムービーのファイルサイズが4GB以上になると、ファイルは自動的に分割して記録されます(撮影条件によっては、4GB未満で分割される場合があります)。分割されたファイルは、連続して再生することもできます。☑ 「4GBを超えるサイズのムービーを再生する」(P.301)
- このカメラは撮像素子にCMOSを搭載しているため、ローリングシャッターによる「動体歪み」という現象が発生します。動体歪みは、動きの速い被写体や手ぶれのときに撮影画像に歪みが発生する物理現象です。特に長焦点で使用するとこの現象が顕著になります。
- カメラを長時間使用すると撮像素子の温度が上昇し、画像にノイズや色むらが発生します。その場合はしばらく電源を切ってください。また、ISO感度が高い設定の画像でもノイズや色むらが発生します。さらに温度が上がると、カメラの電源が切れます。
- 手ぶれが大きすぎると、補正しきれないことがあります。



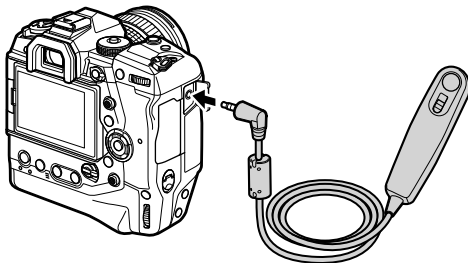
- **[AF方式]** (P.345)の設定は変更できません。
- **AFターゲット**の位置を拡大して表示することができます(P.364)。ピント合わせをマニュアル(MF)で行うときにピントの正確な確認ができます。
- モニターとファインダーの表示が自動的に切り換わらないように設定することができます。
 [EVF自動切換設定] (P.553)
- タッチパネルの操作を禁止することができます。**[タッチパネル設定]** (P.559)

リモート撮影をする

カメラを固定して撮影したり、ボタン操作によるカメラのぶれを避けたいときは、別売のリモートケーブル(RM-CB2)を使ったり、カメラの無線LAN機能を使ってスマートフォン用アプリ*OI.Share*によるリモート撮影をすることができます。

■ リモートケーブルを使う場合

リモートケーブル端子カバーを開けて、リモートケーブルの端子を挿し込みます。



3

- **[シャッターボタン機能]** (P.423)を**[REC]**に設定する必要があります。

■ *OI.Share*を使う場合



スマートフォンとの接続設定が必要です。あらかじめスマートフォンに*OI.Share*をインストールしておいてください。**[6-2 スマートフォンと接続する(Wi-Fi)]** (P.584)

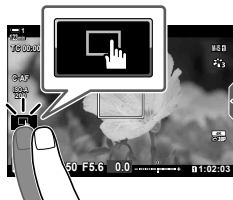
タッチパネルの設定をする

タッチ操作を有効にすると、タッチした位置でピントを合わせたり、AFターゲットを移動して、その部分を拡大して確認することができます。

1 モニターの [Touch] にタッチして設定を変更します。

- [Touch] ボタンにタッチするたびに操作方法が切り換わります。

	タッチ操作を禁止します。
	タッチした箇所にAFターゲットを表示してピントを合わせます。AFフレームの大きさや位置は指で操作できます。撮影は [Movie] ボタンを押します。



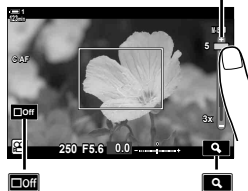
ピントを合わせる被写体を確認する



1 ピントを合わせたい被写体にタッチします。

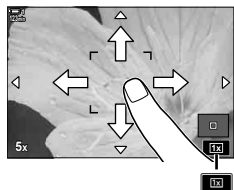
- AFターゲットが表示されます。
- レベルバーを指で上下させると枠の大きさを変えられます。
- [Off] にタッチするとAFターゲット表示を終了します。

レベルバー



2 レベルバーでAFターゲットの大きさを調節してから [Q] にタッチすると、枠の位置を拡大表示します。

- 拡大中に、タッチした状態で指を動かすとスクロールできます。
- [Off] にタッチすると拡大表示を終了します。



- 次の場合はタッチ操作できません。
ワンタッチWB取得画面／ボタンまたはダイヤル操作中など



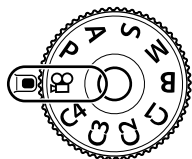
- タッチパネルの操作を禁止することができます。☞ [タッチパネル設定] (P.559)
- 拡大枠を使ったAFは、ボタンを使ってもできます。☞ 動画メニュー [ボタン/ダイヤル/レバー] の [ボタン機能] (P.417) で、[Q] (拡大) の機能をボタンに割り当てます。初期設定では、[Preview] (プレビュー) ボタンに割り当てられています。

ファインダーを使って撮影する

ファインダーに目を近づけると、自動的にモニターを消灯してファインダー内の表示に切り換わります。

1 モードダイヤルを \odot に合わせます。

- ムービー撮影の画面の情報が表示されます。
- **P/A/S/M**モードでもムービー撮影はできます。このとき、画面では静止画撮影の情報が表示されます。



2 被写体にAFフレームを合わせます。

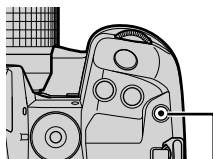
- カメラが自動的にAFフレームの位置にピントを合わせます。
初期設定では、**[AF方式]** (P.345)が**[C-AF]**に設定されているので、AFフレームを合わせたものに、自動的にピントを合わせ続けます。



AFフレーム

3 \odot (ムービー)ボタンを押して録画を開始します。

- 録画時間がカウントされ画面に表示されます。



\odot (ムービー)ボタン



録画時間

4 再度 \odot ボタンを押して録画を終了します。



- マルチセレクターや十字ボタンを使って、AFターゲットの位置を移動できます。 **[AFターゲット位置]** (P.352)
- ファインダーをのぞいたままモニターにタッチして、AFターゲットの位置を移動できます。 **[AFターゲットパッド]** (P.486)

撮影したムービーを再生する

カードに記録されたムービーを再生します。

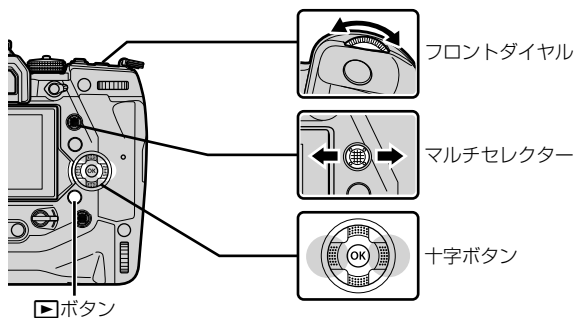
1 ▶ボタンを押します。

- 最後に撮影した画像が表示されます(1コマ再生)。
- マルチセレクター (M) やフロントダイヤル (DIAL), 十字ボタンの ◀▶ で画像が切り換わります。
- シャッターボタンを半押しすると撮影画面に戻ります。



1コマ再生(ムービーコマ)

前の画像を表示 ◀ ▶ 次の画像を表示



2 リアダイヤル(◀▶)を回して再生画面を切り換えます。

- 再生画面は次のように切り換わります。



(マルチセレクター中央ボタン) または **OK**

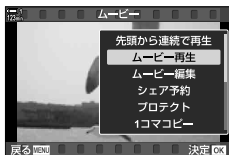
- インデックス再生画面でマルチセレクターを押すと、1コマ再生に戻ります。
- リアダイヤルをQ側に回すかマルチセレクターまたはOKボタンを押すと、1コマ再生に戻ります。
- インデックス再生のコマ数は、*カスタムメニュー 01 [Info表示設定] (P.515) の [表示] で変更することができます。

3 再生したいムービーコマを表示して**OK**ボタンを押します。

- ・ムービー再生メニューが表示されます。
- ・選択したムービーが**4GB**を超える長時間ムービーの場合は、操作のメニューが表示されます。🔍「**4GBを超えるサイズのムービーを再生する**」(P.301)

4 [ムービー再生]を選択して**OK**ボタンを押します。

- ・ムービー再生が始まります。
- ・◀▶ ボタンで早送り/巻き戻しします。**OK**ボタンを再度押すと一時停止します。一時停止中は、△ボタンで先頭のフレーム、▽ボタンで最後のフレームを表示します。◀▶ ボタンまたはフロントダイヤル(🔍)でコマ戻し/コマ送りします。**MENU**ボタンを押すと再生を終了します。



再生時の音声を調節する

ムービーを再生するときの音量を調節します。

1 ▶ ボタンを押して画像を再生します。

2 十字ボタンの△または▽を押します。

- ・△ボタン：音量が上がります。
- ・▽ボタン：音量が下がります。



3

4GBを超えるサイズのムービーを再生する

長時間撮影したムービーはファイルサイズが**4GB**を超える場合があります。ファイルサイズが**4GB**を超えると、自動的にファイルを分割して記録を続けます。自動的に複数に分割されたムービーは、一つのムービーとして連続して再生することもできます。

1 ▶ ボタンを押します。

- ・最後に撮影した画像が表示されます。

2 再生したい長時間ムービーコマを表示して**OK**ボタンを押します。

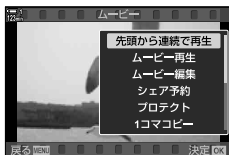
- ・以下のメニューが表示されます。

[先頭から連続で再生]：分割されたムービーを連続で再生します。

[ムービー再生]：分割されているファイル別に再生します。

[同一ムービー消去]：分割されたムービーをすべて消去します。

[1コマ消去]：分割されたファイル別に消去します。



再生するカードを切り換える

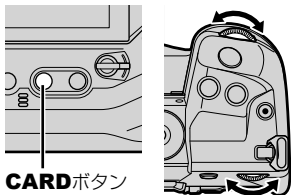
カードを2枚使っているときは、画像再生中に再生するカードを切り換えることができます。

1 ボタンを押します。

- 最後に撮影した画像が表示されます。





2 **CARD** (カードセレクト) ボタンを押し、フロント／リアダイヤルを回してカードスロットを切り換え、**CARD** ボタンを離します。



- 再生しているカードのスロットの番号がモニターに表示されます。




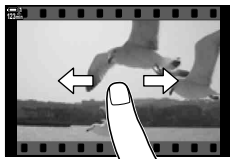
再生中のカードスロット



-  ボタンを使って切り換えることもできます。画像再生中に  ボタンを押しながらフロント／リアダイヤルでスロットを選択します。

タッチパネルを使って見る


タッチ操作で画像を見ることができます。

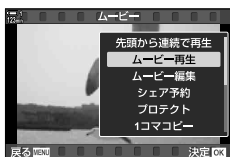
- 1  ボタンを押して画像を再生します。
- 2 画面にタッチして、そのまま左または右に動かします。
 - 指を左に動かすとコマ送りし、右に動かすとコマ戻しします。



- 3 再度画面にタッチします。
 - タッチメニューが表示されます。  にタッチするとインデックス表示に切り換わります。1コマ表示に戻るときは、  にタッチします。



- 4 **OK**ボタンを押して、ムービー再生メニューを表示します。
 - 十字ボタンの  で **[ムービー再生]** を選択して **OK** ボタンを押します。ムービーが再生されます。



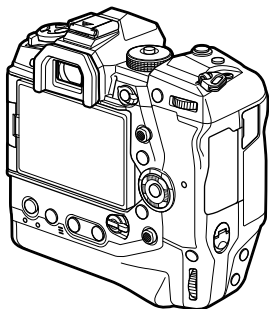
3-2 機能を設定する方法

このカメラには多くのムービー撮影向けの機能が搭載されています。機能を設定するために、使用頻度や撮影環境に合わせて、いくつかの設定方法が用意されています。

ダイレクトボタンを使う	露出補正やホワイトバランスなど撮影によく使う機能がボタンに割り当てられています。ボタンを押して直接機能呼び出して設定します。
LVスーパーコンパネを使う	撮影の機能をパネル状の一覧にしてモニター上に表示したものです。このパネル上で機能を選択して設定します。機能の設定状態をこの一覧で確認することもできます。
LVコントロールを使う	スーパーコンパネ同様に画面に機能パネルを表示して設定する機能一覧です。被写体の状態を確認しながら設定を操作できます。
メニューを使う	LVスーパーコンパネなどに表示されない撮影／再生の機能やカメラを使いやすくカスタマイズできる機能を設定します。カメラの動作やボタンに関する設定もこのメニューにあります。

ダイレクトボタンで設定する

撮影によく使う機能はボタンに割り当てられています。これらのボタンを「ダイレクトボタン」といいます。ダイレクトボタンには以下のようなボタンがあり、撮影に関する基本的な機能の設定ができます。



ダイレクトボタン	割り当てられている撮影機能
(ワンタッチホワイトバランス)ボタン	ピーキング
(プレビュー)ボタン	拡大
Fn ボタン	[::] (AFターゲットの選択)
AEL/AFL ボタン	AEL/AFL
十字ボタン	[::] (AFターゲットの選択)
ボタン	露出補正
ISO ボタン	ISO感度
WB ボタン	ホワイトバランス
AF ボタン	AF/測光モード
(LV) ボタン	モニター/ファインダー切り換え
ボタン	ムービー録画

3

1 設定する機能のボタンを押します。

- 設定画面が表示されます。



設定値

2 フロント/リアダイヤルで設定値を選択します。

- 機能によっては**INFO**ボタンで詳細な設定ができます。

よく使う機能はモニターにタッチして設定できます。録画中のボタン操作により音声に操作音が入るのを抑えることができます。🔇 (ムービー)モードにすると初期設定で画面に静音操作タブが表示されますが、表示されていないときは、メニューで設定する必要があります。以下の機能が操作できます。



静音操作タブ

⤵ (電動ズーム)	電動ズームのレンズ使用時にズーム操作をします。
🔊 (ヘッドホン音量)	ヘッドホン使用時に音量の調節をします。
🎤 (録音レベル)	録音音量の調節をします。
SS (シャッター速度)	[🔇モード] (P.332)が S (シャッター速度優先AE)または M (マニュアル)のときに、シャッター速度の設定をします。
FNo (絞り値)	[🔇モード] (P.332)が A (絞り優先AE)または M (マニュアル)のときに、絞り値の設定をします。
📷 (露出補正)	露出補正值の設定をします。[🔇モード] (P.332)が M のときは、[🔇ISO感度] (P.369)が[AUTO]のときに使えます。
ISO (🔇ISO感度)	[🔇ISO感度] (P.369)の設定をします。[🔇モード] (P.332)が M のときに表示されます。

- ハイスピードムービー撮影時(P.339)は静音操作を使用できません。

■ 静音機能で設定する

静音機能を使うとムービーを録画中にもボタン操作による音やカメラぶれを抑えて撮影ができます。

1 画面の静音操作タブをタッチします。

- 静音操作メニューが表示されます。
- 静音操作タブにタッチすると静音操作メニューが消えます。



静音操作タブ

2 設定する機能にタッチします。

- メニューが表示されます。



3 設定します。

- **▲▼▲▼**にタッチして設定値を変更します。
- 他の項目を設定するときには、**MENU**にタッチすると、静音操作メニューに戻ります。
- 何も操作せずに約8秒経過すると設定が確定します。

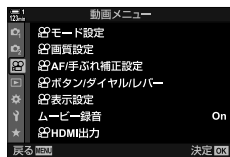
4 静音操作タブにタッチして静音操作メニューを終了します。

- 静音操作タブを閉じます。

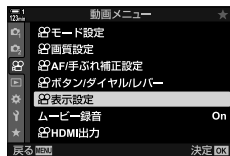
■ 静音操作タブを表示する

静音操作タブの表示、非表示はメニューで設定します。表示されていないときは、メニューで設定します。

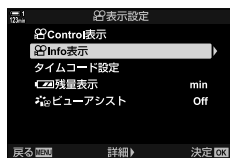
- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 十字ボタンの△▽で ☰ （動画メニュー）タブを選択し、▷ボタンを押します。



- 3 △▽ボタンで ☰ 表示設定]を選択し、▷ボタンを押します。



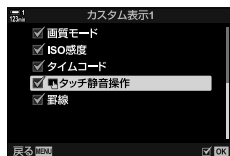
- 4 △▽ボタンで ☰ Info表示]を選択し、▷ボタンを押し、[カスタム表示1]または[カスタム表示2]を選び▷ボタンを押します。



- 撮影時の画面に表示する情報の一覧が表示されます。

- 5 △▽ボタンで ☑ タッチ静音操作]を選択し、**OK**ボタンを押します。

- 選択した機能に ☑ が付きます。解除するときは再度**OK**ボタンを押します。



- 6 繰り返し**MENU**ボタンを押して、メニュー画面を終了します。

- ☰ （ムービー）モード時の撮影画面に静音操作のタブが表示されます。
- 表示されていないときは、**INFO**ボタンを何度か押して画面表示を切り換えてください。



静音操作タブ

- 初期設定では[カスタム表示2]は非表示になっています。 ☰ メニュー [表示設定]の ☰ Info表示]で設定する必要があります。 ☑ [Info表示] (P.429)

LVスーパーコンパネで設定する

撮影の機能を一覧に表示して設定することができる機能設定パネルです。機能の設定状態をこの画面で確認することができます。LVスーパーコンパネには、静止画撮影時に使用する機能とムービー撮影時に使用する機能のどちらもが表示されています。

- (ムービー)以外の撮影モードと表示項目は異なります。☞「LVスーパーコンパネ/スーパーコンパネで設定できる機能」(P.65)



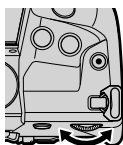
- 1 設定モードでOKボタンを押します。
 - LVスーパーコンパネが表示されます。

カーソル

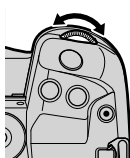


3

- 2 設定する機能をリアダイヤルを回して選ぶか、機能に直接タッチします。
 - タッチした機能にカーソルが表示されます。
 - カーソルはマルチセレクターや十字ボタン(△▽◀▶)で移動することもできます。



- 3 フロントダイヤルを回して設定を変更します。



- 4 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ 詳細設定をする

手順2で機能を選択して**OK**ボタンを押すと、選択メニューが表示されます。機能によっては、選択メニューで**INFO**ボタンを押すとさらに詳細な設定が可能です。

INFOボタン



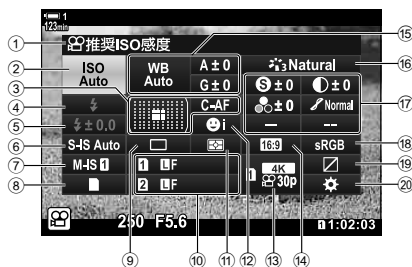
OKボタン



[手ぶれ補正]の場合

- **OK**ボタンの代わりにタッチ操作も使えます。選択した機能の位置を軽く2回タップすると選択メニューが表示されます。

■ LVスーパーコンパネで設定できる機能



- | | | |
|--------------------------|----------|-----------------------------|
| ① 現在選択している機能 | ⑬ 4K 30p | ⑮ ピクチャーモード P.388 |
| ② ISO感度 P.369 | ⑭ sRGB | ⑯ シャープネス P.396 |
| ③ AF方式 P.345 | ⑰ 1 1/F | ⑰ コントラスト P.397 |
| AFターゲット P.120, 349 | ⑱ 2 1/F | ⑱ 彩度 P.398 |
| ④ フラッシュ *1 | ⑳ 4K 30p | ⑱ 階調 P.399 |
| ⑤ マニュアル発光量*1 | ㉑ 設定アイコン | ㉑ フィルター効果 P.400 |
| ⑥ 手ぶれ補正*1 P.176 | ㉒ 設定アイコン | ㉒ 調色 P.401 |
| ⑦ 手ぶれ補正 P.376 | ㉓ 設定アイコン | ㉓ 効果 P.402 |
| ⑧ 記録設定 (記録スロット) | ㉔ 設定アイコン | ㉔ Color*3 P.407 |
| P.316, 319 | ㉕ 設定アイコン | ㉕ Color/Vivid*4 P.405 |
| ⑨ ドライブ(連写/セルフタイマー) *1 | ㉖ 設定アイコン | ㉖ Effect*5 P.407 |
| ⑩ 画質モード*1 P.78 | ㉗ 設定アイコン | |
| ⑪ 測光 P.367 | ㉘ 設定アイコン | |
| ⑫ 顔優先 P.360 | ㉙ 設定アイコン | |
| ⑬ 画質モード P.321, 339 | ㉚ 設定アイコン | |
| ⑭ アスペクト比 | ㉛ 設定アイコン | |
| ⑮ WBモード P.380 | ㉜ 設定アイコン | |
| ホワイトバランス補正 P.384 | ㉝ 設定アイコン | |
| 色温度*2 P.380 | ㉞ 設定アイコン | |

*1 静止画撮影で使用する機能です。「2 静止画の撮影と再生」(P.51)をご確認ください。

*2 WBモードが、CWB (カスタムホワイトバランス)の設定時に表示されます。

*3 パートカラー設定時に表示されます。

*4 カラークリエイター設定時に表示されます。

*5 アートフィルター設定時に表示されます。

- 以下の機能は、(ムービー)モードでは固定になります。

ドライブ/測光/フラッシュ/フラッシュ補正值/アスペクト比/カラー設定

LVコントロール(ライブコントロール)で設定する

ライブビュー画面にムービー撮影で使用する主な機能を表示して設定をする機能設定パネルです。ライブビューで表示している画面で効果を確認しながら設定することができます。初期設定では、LVスーパーコンパネが表示されますが切り換えて表示することができます。LVコントロールが表示できないときは、メニューを使って表示設定をする必要があります。

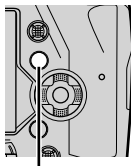
1 設定アイコンモードでOKボタンを押します。

- LVスーパーコンパネが表示されます。



2 INFOボタンを押します。

- LVコントロールが表示されます。



INFOボタン



LVコントロール画面

3 十字ボタンの△▽でカーソルを設定したい機能に移動し、◀▶ボタンで設定を変更してOKボタンを押します。

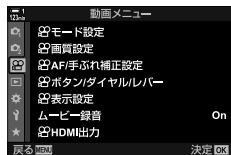
- ダイヤルを使って設定することもできます。リアダイヤルで機能を選択し、フロントダイヤルで設定を変更します。
- 何も操作せず約8秒経過すると設定が確定します。
- 次回、OKボタンを押したときは、LVコントロールが表示されます。

■ LVコントロールを表示する

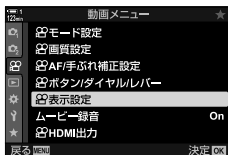
LVスーパーコンパネを表示してINFOボタンを押してもLVコントロールが表示されないときは、メニューで表示設定をします。

1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。

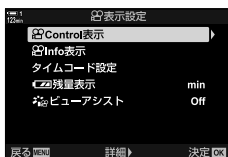
2 十字ボタンの△▽で設定アイコン(動画メニュー)タブを選択し、OKボタンを押します。



- 3 △▽ボタンで[表示設定]を選択し、▷ボタンを押します。



- 4 △▽ボタンで[Control表示]を選択し、▷ボタンを押す、[LVコントロール]を選びOKボタンを押します。



- LVコントロールのチェックボックスに✓が表示されます。
- メニューが消えるまで繰り返し**MENU**ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しして、メニュー画面を終了します。

■ LVコントロールで設定できる機能

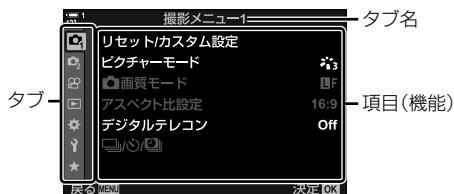


☞手ぶれ補正.....P.376	☞モード(ムービー露出モード).....P.332
☞ピクチャーモード.....P.388	☞AF方式.....P.345
☞WBモード.....P.380	☞ISO感度.....P.369
☞ドライブ(連写/セルフタイマー) *	☞顔優先.....P.360
☞画質モード.....P.321, 339	☞ムービー録音.....P.413

* 静止画撮影で使用する機能です。ムービーモードで設定はできません。

メニューで設定する

メニューでは、LVスーパーコンパネなどに表示されない撮影／再生時の機能やカメラを使いやすくカスタマイズできる機能を設定します。

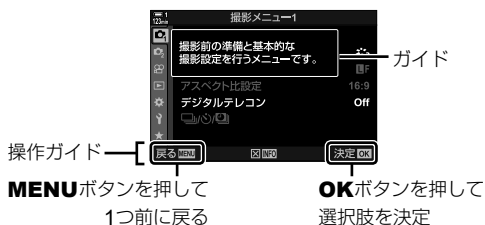


タブ	タブ名	説明
📷	撮影メニュー 1*1	静止画撮影に関するメニューです。撮影前の準備や基本的な撮影機能の設定を行います。
📷	撮影メニュー 2*1	静止画撮影に関するメニューです。一歩進んだ撮影機能の設定を行います。
🎬	動画メニュー	ムービー撮影に関するメニューです。基本的な設定やカスタマイズの設定を行います。
▶	再生メニュー	画像の再生や編集に関するメニューです。
✳	カスタムメニュー	カメラのカスタマイズに関するメニューです。
⌚	セットアップメニュー	日時や表示言語などの設定に関するメニューです。
★	マイメニュー*2	自分が使う項目だけを集めることができるメニューです。 📷 「自分用のメニューを用意する(マイメニュー)」(P.477)

*1 📷撮影メニュー 1および📷撮影メニュー 2は、静止画撮影のメニューです。「2 静止画の撮影と再生」(P.51)でご確認ください。

*2 マイメニューは、初期設定では何も登録されていません。メニュー項目の中から、よく使う機能を集めてグループ化します。メニュー機能から必要な項目を選んで登録してお使いください(P.477)。

1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。



- 機能を選択すると、約2秒後にガイドが表示されます。**INFO**ボタンを押すと、ガイドの表示/非表示を切り換えることができます。

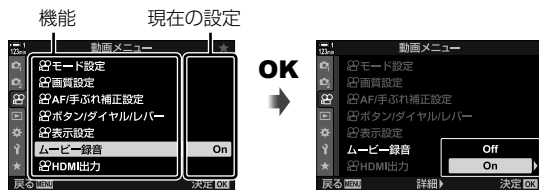
2 十字ボタンの△▽でタブを選択し、OKボタンを押します。

- ★カスタムメニューを選択したときは、メニューグループのタブが表示されます。△▽ボタンでメニューグループを選択して**OK**ボタンを押します。



メニューグループ

3 △▽ボタンで機能を選択しOKボタンを押して、各設定画面に進みます。



4 △▽ボタンで設定値を選択しOKボタンを押して、設定内容を確定します。

- MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。
- 設定時にカメラの状態や他の設定によって設定できない項目があります。設定できない項目は、グレーで表示されていて選択することができません。
- メニューの操作には、十字ボタンのほかにフロント/リアダイヤルやマルチセレクターが使えます。

3-3 カードについての設定

ここではカードに関する機能について説明しています。ムービー撮影では、記録するカードの指定をすることができます。また、ムービーを記録するフォルダを指定することもできます。

ムービー撮影で利用できるカードについては、「カードについて」(P.37)をお読みください。

3

記録先を指定する

(記録スロット)

2枚のカードを使っているときに、ムービーを記録するカードを指定します。

- この機能は以下の方法で設定できます。

- LVスーパーコンパネ

- メニュー (P.317)

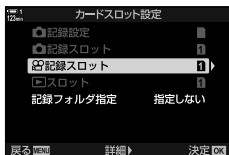
■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで[記録設定]を選択し、**OK**ボタンを押します。

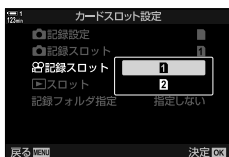


記録設定

- 2 十字ボタンの△▽で[🔗記録スロット]を選択し、▶ボタンを押します。



- 3 △▽ボタンからリアダイヤルで設定を変更します。
[1]: カードスロット1のカードに記録します。
[2]: カードスロット2のカードに記録します。



- 4 **OK**ボタンを押して設定を確定します。
5 **MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

■ メニューで設定する

★カスタムメニュー **H1** [カードスロット設定] (P.547)の[🔗記録スロット]で設定します。

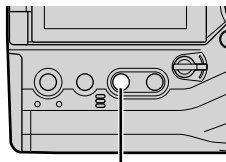
MENUボタン ➡ ★ (カスタムメニュー)タブ ➡ **H1**タブ ➡ [カードスロット設定] ➡ [🔗記録スロット] ➡ 十字ボタンの▶を押して選択メニューを表示 ➡ △▽ボタンで項目を選択

記録するカードを切り換える

カードを2枚使用している場合は、**CARD**（カードセレクト）ボタンで記録するカードの切り換えができます。

1 **CARD**（カードセレクト）ボタンを押します。

- ・ [設定モード]では[設定記録スロット]のメニューが表示されます。



CARDボタン

2 フロント/リアダイヤルを回して、カードを選択します。

- [1]: カードスロット1のカードに記録します。
- [2]: カードスロット2のカードに記録します。



3 **OK**ボタンを押してメニューを終了します。

- ・ 設定したカードスロットのアイコンが表示されます。



記録スロット

撮影した画像を記録するフォルダを指定する (記録フォルダ指定)

撮影したデータを記録するフォルダを指定します。カードを1枚のみ使用している場合でも設定できます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - メニュー (P.320)

新規作成	新たにフォルダを作成して、記録先に指定します。
既存フォルダ選択	既存のフォルダから指定します。

- カードスロット1と2のいずれかで、作成しようとするフォルダが既に作成されているときは、新規作成はできません。

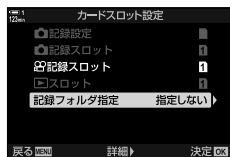
■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで **[📷 記録設定]** を選択し、**OK** ボタンを押します。
 - ・ [カードスロット設定] の設定画面が表示されます。

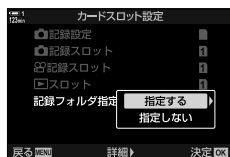


📷 記録設定

- 2 十字ボタンの Δ ∇ で [記録フォルダ指定] を選択し、 \triangleright ボタンを押します。



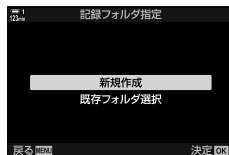
- 3 Δ ∇ ボタンで [指定する] を選択し、**OK** ボタンを押します。



4 △▽ボタンで項目を選択します。

[新規作成] : 任意のフォルダ番号を設定して**OK**ボタンを押します。

[既存フォルダ選択] : △▽ボタンで既存のフォルダを選択して**OK**ボタンを押します。フォルダ内の最初の2コマと最後の1コマが表示されます。



5 **OK**ボタンを押して設定を確定します。

6 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

■ メニューで設定する

★カスタムメニュー **H1** [カードスロット設定] (P.547)の[記録フォルダ指定]で設定します。

MENUボタン ➡ ★ (カスタムメニュー)タブ ➡ **H1**タブ ➡ [カードスロット設定] ➡ [記録フォルダ指定] ➡ 十字ボタンの▷を押して選択メニューを表示 ➡ △▽ボタンで項目を選択

3-4 ムービーの記録

撮影したムービーを記録するときの、サイズやフレームレートを設定します。複数の設定を記憶させておくことができ、LVスーパーコンパネやLVコントロールで選択するだけで、設定することができます。また、編集などをする際に必要なタイムコードの記録についての設定もできます。

ムービーの画質を設定する (画質モード)

ムービーの画質モードを設定します。パソコンでの加工やホームページでの使用など、用途に応じて設定できます。ムービーサイズやフレームレートなどの設定を変えた複数の設定値を記憶させておき、使い分けることができます。また、スローモーションやクイックモーションのムービーやハイスピードムービーの選択もできます。


☑️ 「スローモーション/クイックモーション撮影をする(スロー/クイック撮影)」(P.342)、「ハイスピードムービーを撮影する(画質モード)」(P.339)

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ(P.323)
 - LVコントロール(P.323)
 - メニュー (P.323)

設定の種類	設定できる内容
設定1/2/3/4	ムービーサイズ、圧縮方式、フレームレート
カスタム	ムービーサイズ、圧縮方式、フレームレート、スロー/クイック効果
ハイスピード	フレームレート

- MPEG-4 AVC/H.264形式で保存されます。





画質モードの表記について

設定の変更は  画質モードのアイコンに反映されます。設定によって以下のように表示が変わります。

ムービーサイズ		
FHD	Full HD*1	1920×1080
HD	HD*1	1280×720
4K	4K*1	3840×2160
C4K	4Kデジタルシネマ*1	4096×2160

圧縮方式/ビットレート		
A-I	All Intra*2	<ul style="list-style-type: none"> ・ [ムービーサイズ]が[4K]および[C4K]のときは選択できません。
SF	Super Fine	
F	Fine	
N	Normal	

フレームレート		
60p	60p : 59.94fps	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以下のときは、[60p]および[50p]は選択できません。 <ul style="list-style-type: none"> - [ムービーサイズ]を[FHD] (Full HD)、ビットレートを[A-I]に設定しているとき - [ムービーサイズ]が[C4K]または[4K]のとき ・ [ムービーサイズ]が[C4K]のときは、[フレームレート]は[24p]に固定されます。
50p	50p : 50.00fps	
30p	30p : 29.97fps	
25p	25p : 25.00fps	
24p	24p : 23.98fps 24p : 24.00fps (C4K)	

設定の種類	
	設定1/2/3/4 : 4種類の組み合わせを記憶しておけます。
	カスタム : ムービーサイズで4K / 4Kデジタルシネマが選択できます。また、スロー/クイック撮影をすることもできます(P.342)。
—	ハイスピードムービー  「ハイスピードムービーを撮影する( 画質モード)」(P.339)

*1 MPEG-4 AVC/H.264形式で記録されます。1ファイルは4GBに制限されます。1回の撮影は最長29分に制限されます。

*2 All-Intraはフレーム間の圧縮をしないで記録されるムービーです。編集に向いていますが、データの容量が大きくなります。

- ・ 使用するカードによっては、最長時間まで記録されずに途中で撮影が終了する場合があります。
- ・ 設定の組み合わせによってはビットレートの変更ができない場合があります。
- ・ アスペクト比は、16:9です。C4Kの設定では、17:9に設定されます。

■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで[画質モード]を選択し、**OK**ボタンを押します。

- ムービー画質モードのメニューが表示されます。

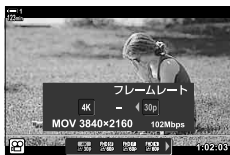


画質モード

- 2 フロントダイヤルで画質モードを選択します。



- 選択した画質モードの内容を変更できます。**INFO**ボタンを押すと、詳細設定のメニューが表示されてカーソルが移動します。十字ボタンの<D>で項目を選択し、△▽ボタンで設定を変更します。



3

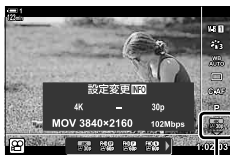
■ メニューで設定する

メニューでも設定できます。画質メニューの[画質モード]で設定します。

MENUボタン ➡ 画質 (動画) タブ ➡ [画質設定] ➡ [画質モード] ➡ 十字ボタンの<D>を押して、選択メニューを表示して設定

■ LVコントロールで設定する

OKボタン ➡ [画質モード] ➡ 十字ボタンの<D>を押して設定



画質モード

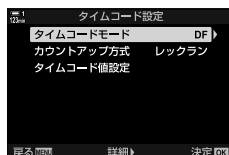
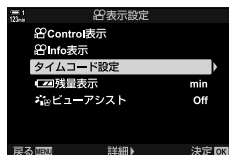
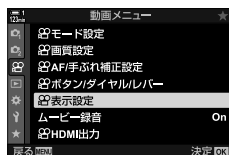
記録するタイムコードを設定する(タイムコード設定)

タイムコードの設定をします。編集などで映像や音声を同期させるために使用します。タイムコードの付け方の設定を選択できます。

タイムコードモード	タイムコードの記録方法を設定します。時間を厳密に記録する必要があるときに使用します。 [DF] : ドロップフレームタイムコードで記録します。実際の記録時間とのずれの補正をします。 [NDF] : ノンドロップフレームタイムコードで記録します。実際の記録時間とのずれを補正しません。
カウントアップ方式	タイムコードのカウント方法を設定します。 [レックラン] : ムービー記録中のみカウントします。 [フリーラン] : 電源オフも含めた録画停止中もカウントし続けます。
タイムコード値設定	カウント開始時のタイムコードの設定をします。 [リセット] : 00:00:00:00に設定します。 [現在時刻] : 現時刻に設定してフレームを00に設定します。 [手動入力] : タイムコードの値を自分で設定します。

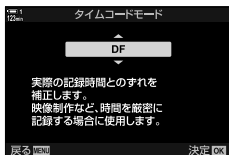
3

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 動画メニューで[表示設定]を選択し、十字ボタンの▷を押します。
- 3 △▽ボタンで[タイムコード設定]を選択し、▷ボタンを押します。
- 4 △▽ボタンで設定する項目を選択し、▷ボタンを押します。



5 △▽ボタンで設定を変更し、**OK**ボタンを押します。

- [タイムコード値設定]を選択したときは、[リセット] / [手動入力] / [現在時刻]から方法を選択して**OK**ボタンを押します。[手動入力]は、十字ボタンで値を設定します。



6 **MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

3-5 ファインダーとモニターの表示

このカメラは、アイセンサーの動きによってモニターとファインダーの表示を自動的に切り換えます。また、ファインダーやモニターの画面(ライブビュー表示)には、撮影機能の設定状態を示す情報が表示されます。表示の切り換えや情報表示の状態は設定により選択ができます。

モニターを使って撮影する



モニター



目を近づける



ファインダーを使って撮影する



ファインダー



モニターの撮影画面がライブビュー表示されます。



目を近づけると自動的にファインダーが点灯します。ファインダー点灯中は、モニターは消灯します。

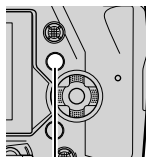
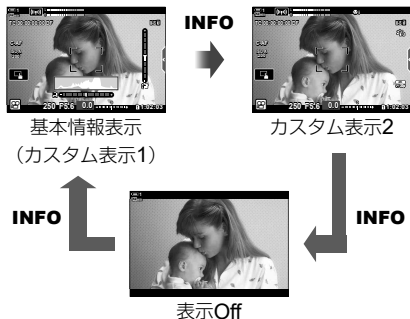
- ファインダーの自動切り換えやファインダーの表示スタイルは、メニューで変更することができます。☰ **[EVF自動切換設定]** (P.553)、**[EVF表示スタイル]** (P.554)

画面の情報表示を選ぶ

撮影画面の情報表示の内容を変更できます。

1 INFOボタンを繰り返し押します。

- **INFO**ボタンを押すたびに表示内容が切り換わります。

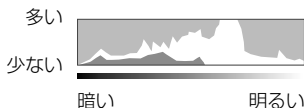


INFOボタン

- 初期設定では、基本表示はカスタム表示1の設定が表示されます。カスタム表示2は非表示になっています。それぞれメニューで表示内容を変更できます。GPSや各センサーで取得した情報を表示することもできます。[表示設定]の[Info表示]で設定します(P.429)。
- 情報表示は、**INFO**ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回して切り換えることもできます。表示を逆方向に切り換えることができます。

ヒストグラム表示

画像の明るさの分布をヒストグラムで表示します。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとの画素数を表しています。撮影時は上限値以上の部分を赤、下限値以下の部分を青で表示します。



水準器表示

カメラの傾きを表示します。「あおり」方向は縦のバー、「水平」方向は横のバーで表示します。水準器の表示は目安としてお使いください。

モニター/ファインダーの自動切り換えを設定する (EVF自動切換設定)

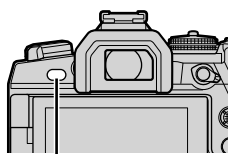
ライブビュー表示を切り換える設定を選択できます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - **IO**ボタン
 - メニュー

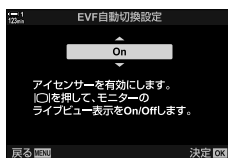
■ **IO** (LV) ボタンで設定する

1 **IO** ボタンを長押しします。

- **[EVF自動切換設定]**のメニューが表示されます。



IOボタン



3

2 十字ボタンの△▽で設定を変更し、**OK**ボタンを押します。

[On]：ファインダーに目を近づけると自動的に表示を切り換えます。


[Off]：**IO**ボタンを押して、ファインダー表示とモニター表示を切り換えます。

■ メニューで設定する









★カスタムメニュー **1** の**[EVF自動切換設定]** (P.553)で設定します。





MENUボタン ➡ ★ (カスタムメニュー)タブ ➡ **1**タブ ➡ **[EVF自動切換設定]** ➡ 十字ボタンの▷を押して選択メニューに入り△▽ボタンで選択

撮影時の情報表示

撮影モードを  (ムービー)モードにしているときは、モニターには以下のように表示されます。表示内容は、メニューを使ってカスタマイズできます。

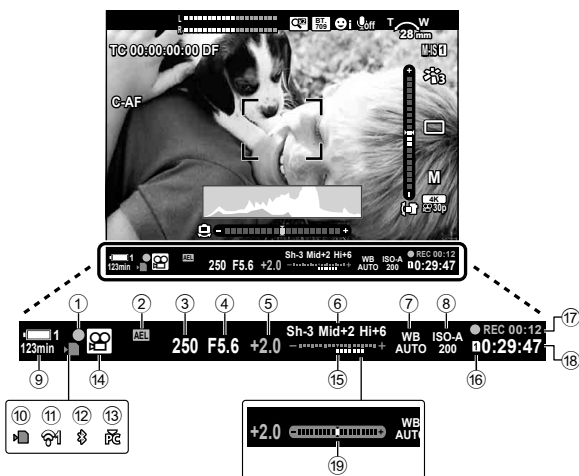


- | | |
|--|--|
| ① カード書き込み中.....P.37 | ② 録画時間(録画中).....P.295 |
| ② 無線LAN接続状態.....P.584, 600 | ②② 録画可能時間.....P.656 |
| ③ Bluetooth®接続中.....P.586 | ②③  記録スロット.....P.316 |
| ④ パソコン接続中.....P.600 | ②④ ハイライト&シャドウコントロール.....P.403 |
| ⑤ 無線LAN接続.....P.592, 596, 597 | ②⑤ 露出補正.....P.367 |
| ⑥ 録音レベル*1.....P.424 | ②⑥ 水準器.....P.327 |
| ⑦ ヘッドホン音量*1.....P.424 | ②⑦ 露出補正值.....P.367 |
| ⑧ 録音レベルメーター.....P.413 | ②⑧ 絞り値.....P.334-338 |
| ⑨ デジタルテレコン.....P.411 | ②⑨ シャッター速度.....P.334-338 |
| ⑩  ビューアシスト.....P.395 | ③⑩ ヒストグラム.....P.327 |
| ⑪ 顔優先.....P.360 | ③① 撮影モード.....P.93-110 |
| ⑫ ムービー録音.....P.413 | ③② LOG取得動作状態.....P.571 |
| ⑬ズーム操作方向/焦点距離 | ③③ GPS動作状態.....P.570 |
| ⑭ 内部温度上昇警告.....P.640 | ③④ タッチ操作.....P.298 |
| ⑮  手ぶれ補正.....P.376 | ③⑤  ISO感度.....P.369 |
| ⑯ ピクチャーモード.....P.388 | ③⑥  AF方式.....P.345 |
| ⑰  WBモード.....P.380 | ③⑦ タイムコード.....P.324 |
| ⑱ ドライブ(単写のみ) *2 | ③⑧ 電池残量.....P.44 |
| ⑲  モード(ムービー露出モード).....P.332 | ③⑨ 静音操作タブ.....P.306 |
| ⑳  画質モード.....P.321 | |

*1 [VOL] [VOL]を設定中表示されます。「タッチ操作で設定する(静音操作)」(P.306)、[ダイヤル機能](P.424)

*2 ムービーモードでは使用しない機能です。

ムービー撮影時のファインダー表示



- この表示スタイルは初期設定([スタイル2])です。表示スタイルの設定は、**カスタムメニュー** **1** [EVF表示スタイル] (P.554) で変更できます。[EVF表示スタイル]で[スタイル3]に設定すると、モニターと同じ表示になります。

① 合焦マーク	P.345	⑩ カード書き込み中	P.37
② AEロック	P.373	⑪ 無線LAN接続状態	P.584, 600
③ シャッター速度	P.334-338	⑫ Bluetooth®接続中	P.586
④ 絞り値	P.334-338	⑬ パソコン接続中	P.600
⑤ 露出補正值	P.367	⑭ 撮影モード	P.294
⑥ ハイライト&シャドウコントロール	P.403	⑮ 露出補正	P.367
⑦ WBモード	P.380	⑯ 記録スロット	P.316
⑧ ISO感度	P.369	⑰ 録画時間(録画中)	P.295
⑨ 電池残量/使用バッテリーホルダー番号	P.44	⑱ 録画可能時間	P.656
		⑲ 水準器*	P.556

* シャッターボタンを半押し中に表示されます。☑️ [半押し中水準器表示] (P.556)

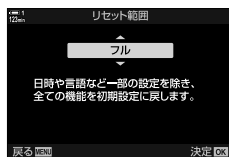
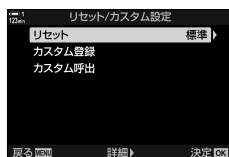
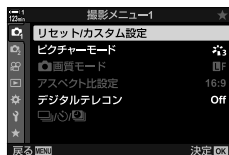
カメラの機能設定を初期状態に戻す

(リセット)

カメラの設定を工場出荷時の設定に戻します。ほぼ全ての設定に戻すか、撮影に関する機能のみに戻すかの選択ができます。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 **撮影メニュー 1**で[リセット/カスタム設定]を選択し、十字ボタンの**▷**を押します。
- 3 **△▽**ボタンで[リセット]を選択し、**▷**ボタンを押します。
- 4 **△▽**ボタンで設定を変更します。
[フル]：日付や言語設定など一部を除いた設定値をリセットします。
[標準]：撮影に関する機能のみをリセットします。
- 5 **OK**ボタンを押して設定を確定します。
 - [リセット/カスタム設定]の画面に戻ります。
- 6 [リセット/カスタム設定]の画面で**OK**ボタンを押します。
 - [リセット]の画面に移動します。
- 7 **△▽**ボタンで[実行]を選択して**OK**ボタンを押します。
 - リセットが実行されます。



3

3-6 撮影の方法を選ぶ

撮りたい映像に合わせて絞りやシャッター速度をコントロールします。静止画撮影で用いられるボケやぶれの表現を使ったムービー撮影ができます。また、簡単なスローモーションおよびクイックモーション動画の撮影や、超高速撮影による精細なスローモーション動画の撮影もできます。

3

静止画撮影の効果を使って撮影する


(☞モード(ムービー露出モード))

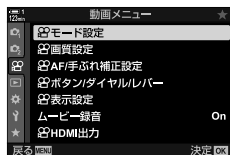
絞りやシャッター速度の効果による表現方法を使った撮影をします。モードダイヤルを☞にして撮影しているときに有効です。静止画撮影モードでムービーを撮影しているときは、プログラムAEで撮影されます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - メニュー (P.333)
 - LVコントロール(P.333)
- 各露出モードの詳細は、それぞれのページをご覧ください。

P プログラムAE (P.334)	露出の設定をカメラに任せます。
A 絞り優先AE (P.335)	絞りによる深度を活かした撮影をします。
S シャッター優先AE (P.336)	被写体の動きやムービーのフレームレートに合わせたシャッター速度を設定して撮影します。
M マニュアル(P.337)	絞りとシャッター速度を活かして自由に表現できます。

■ メニューで設定する

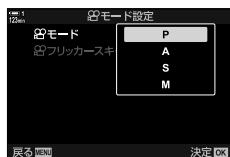
- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2  動画メニューで [**モード設定**] を選択し、十字ボタンの **▷** を押します。



- 3 **△▽**ボタンで [**モード**] (ムービー露出モード) を選択し、**▷**ボタンを押します。
 - [**モード**]のメニューが表示されます。



- 4 **△▽**ボタンで設定する露出モードを選択し、**OK**ボタンを押します。
 - 動画メニューに戻ります。



- 5 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールでも設定できます。



 モード

OKボタン ➡ [**モード**] (ムービー露出モード) ➡ 十字ボタンの **◀▷** を押して設定

3

絞り値とシャッター速度を自動で設定して撮影する

(P プログラムAE撮影)

被写体の明るさに応じて、最適な絞り値とシャッター速度をカメラが自動的に設定します。露出補正を併用することができます。

1 被写体にピントを合わせて表示を確認します。

- 絞り値とシャッター速度が自動的に設定され、画面に表示されます。

2 撮影します。

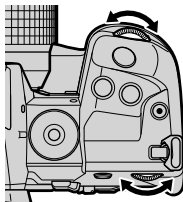


絞り値
シャッター速度

■ Pモード時の設定操作について

フロントおよびリアダイヤルで露出補正の設定ができます。☞ 「画像の明るさを変えて撮影する(露出補正)」(P.367)

- 露出補正は、☑ボタンでも設定できます。☑ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回します。☑ボタンを押して、十字ボタンの◀▶で設定することもできます。



- フロント/リアダイヤルで設定できる機能を変更することができます。☞ 動画メニュー [ダイヤル機能] (P.424)
- Fn**レバーの位置を切り換えて、フロント/リアダイヤルで設定できる機能の変更ができます。また、**Fn**レバーの機能も変更することができます。☞ 動画メニュー [Fnレバー機能] (P.426)

絞り値(F値)を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正なシャッター速度を自動的に設定します。絞り値の数値を小さくする(絞りを開く)ほど、ピントの合う範囲(被写界深度)が狭くなり、背景のボケが強くなります。絞り値の数値を大きくする(絞りを絞る)ほど、ピントの合う範囲が前後に広くなります。

絞り値を小さくする

絞り値を大きくする

F2.8 ← F4.0 ← F5.6 → F8.0 → F11

ピントの合う範囲が狭くなり、ボケが強くなる

ピントの合う範囲が広がる

1 絞り値を設定します。

- 初期設定では、リアダイヤルで絞り値の設定ができます。
- シャッター速度が自動的に設定され画面に表示されます。
- 露出補正(P.367)の調整ができます。初期設定ではフロントダイヤルで設定します。

2 撮影します。



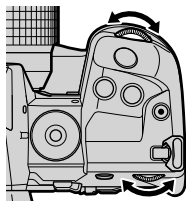
■ Aモード時の設定操作について

フロントおよびリアダイヤルで以下の機能を設定できます。

フロントダイヤル：露出補正(P.367)

リアダイヤル：絞り値

- 露出補正は、ボタンでも設定できます。ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回します。ボタンを押して、十字ボタンの<D>で設定することもできます。



- フロント/リアダイヤルで設定できる機能を変更することができます。 動画メニュー [ダイヤル機能] (P.424)
- Fn**レバーの位置を切り換えて、フロント/リアダイヤルで設定できる機能の変更ができます。また、**Fn**レバーの機能も変更することができます。 動画メニュー [Fnレバー機能] (P.426)

シャッター速度を決めて撮影する (S シャッター優先AE撮影)

シャッター速度を設定すると被写体の明るさに応じてカメラが適正な絞り値を自動的に設定します。記録するムービーのフレームレートの設定や被写体の動きに合わせてシャッター速度を設定します。被写体の動きがごちなく写る場合、シャッター速度を遅く設定するとなめらかな動きで記録することができます。

シャッター速度を遅くする

シャッター速度を速くする

24 ◀ 30 ◀ 60 ▶ 125 ▶ 250 |||▶ 32000

1 シャッター速度を設定します。

- 初期設定では、リアダイヤルでシャッター速度の設定ができます。設定可能なシャッター速度は1/24～1/32000秒です。
- 絞り値が自動的に設定され画面に表示されます。
- 露出補正(P.367)の調整ができます。初期設定ではフロントダイヤルで設定します。



絞り値
シャッター速度

☰モード

2 撮影します。

3

- シャッター速度の低速側は、ムービー画質のフレームレートの設定によって変わります。

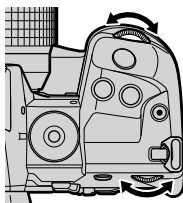
■ Sモード時の設定操作について

フロントおよびリアダイヤルで以下の機能を設定できます。

フロントダイヤル：露出補正(P.367)

リアダイヤル：シャッター速度

- 露出補正は、ボタンでも設定できます。ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回します。ボタンを押して、十字ボタンの◀▶で設定することもできます。
- フロント/リアダイヤルで設定できる機能を変更することができます。☰動画メニュー【☰ダイヤル機能】(P.424)
- Fn**レバーの位置を切り換えて、フロント/リアダイヤルで設定できる機能の変更ができます。また、**Fn**レバーの機能も変更することができます。☰動画メニュー【☰Fnレバー機能】(P.426)
- 蛍光灯やLED光源の環境では、設定したシャッター速度によっては、光源のちらつき(フリッカー)の影響で、モニターに縞模様やちらつきが発生する場合があります。撮影時のちらつきを抑えたり、記録するムービーに写るのを防ぐことができます。☰【フリッカー低減】(P.190)、☰【フリッカーキャン】(P.374)



絞りとシャッター速度を自分で決めて撮影する

(M マニュアル撮影)

絞り値とシャッター速度を自分で設定します。絞りやシャッター速度を固定して撮影すると、シーンが変わって被写体の明るさが変化したとき、その変化を表現することができます。

1 絞り値とシャッター速度を設定します。

- 初期設定では、フロントダイヤルで絞り値、リアダイヤルでシャッター速度の設定ができます。
- シャッター速度は1/24 ~ 1/32000秒に設定できます。
【ISO感度】のマニュアル設定時は、200 ~ 6400です。
- 設定されている絞り値とシャッター速度による露出と、カメラが測った適正露出との差が表示されます。差が±3以上になると表示が点滅します。



2 撮影します。

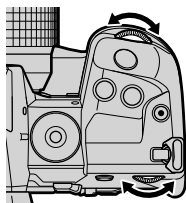
- 被写体の動きがぎこちなくうつる場合、シャッター速度を遅く設定するとなめらかな動きで記録することができます。
- シャッター速度の低速側は、ムービー画質のフレームレートの設定によって変わります。

■ Mモード時の設定操作について

フロントおよびリアダイヤルで以下の機能を設定できます。

フロントダイヤル：絞り値

リアダイヤル：シャッター速度



- フロント/リアダイヤルで設定できる機能を変更することができます。☞ 動画メニュー 【ダイヤル機能】 (P.424)
- Fn**レバーの位置を切り換えて、フロント/リアダイヤルで設定できる機能の変更ができます。また、**Fn**レバーの機能も変更することができます。☞ 動画メニュー 【Fnレバー機能】 (P.426)

■ Mモード時の露出補正について

[ISO感度]の設定が[AUTO]のときは、露出補正の設定ができます。絞り値やシャッター速度の設定は変わらずに、ISO感度の変更で補正されます。[感度を変更する(ISO感度)] (P.369)

[MISOオート有効]が[On]のときに、[ISO感度]を[AUTO]に設定できます。

[MISOオート有効] (P.372)

- 露出補正は、[+]ボタンでも設定できます。[+]ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回します。
- 露出補正を行うと、設定値と適正露出の差に、設定した補正値が加味されて画面に表示されます。



露出補正値

補正値を加味した露出
設定値との差

- 蛍光灯やLED光源の環境では、設定したシャッター速度によっては、光源のちらつき(フリッカー)の影響で、モニターに縞模様やちらつきが発生する場合があります。撮影時のちらつきを抑えたり、記録するムービーに写るのを防ぐことができます。[フリッカー低減] (P.190)、[フリッカーキャン] (P.374)

ハイスピードムービーを撮影する (画質モード)

高速度撮影をします。撮影時は、120コマ/秒で撮影して60コマ/秒で再生するムービーとして記録します。時間を約2倍に延ばして再生することで、被写体の瞬間の動きをスローモーションで見ることができます(再生フレームレートが60pのとき)。

ムービー画質モードの選択肢の一つとして設定します。再生フレームレートの設定により、再生時の速度の倍率を変えることができます。

設定の変更は画質モードのアイコンに反映されます。設定によって以下のように表示が変わります。

ムービーサイズ	
FHD	Full HD (1920×1080)

設定の種類	
HS	ハイスピードムービー (120fps)

再生フレームレート	
60p	60p : 59.94fps 再生倍率 : ×0.5
50p	50p : 50.00fps 再生倍率 : ×0.42
30p	30p : 29.97fps 再生倍率 : ×0.25
25p	25p : 25.00fps 再生倍率 : ×0.21
24p	24p : 23.98fps 再生倍率 : ×0.2

3

• この機能は以下の方法で設定できます。

- LVスーパーコンパネ
- メニュー (P.341)

- LVコントロール(P.341)

■ LVスーパーコンパネで設定する

1 LVスーパーコンパネで[画質モード]を選びOKボタンを押します。

- ムービー画質モードのメニューが表示されます。



画質モード

2 フロントダイヤルで **FHD HS 60p** (ハイスピード)を選択します。

- 設定値の内容で使用するときには**OK**ボタンを押します。設定が確定されメニューが消えます。



3 詳細設定をするときは手順2の設定メニューの表示で**INFO**ボタンを押します。

- 詳細設定のメニューが表示されカーソルが移動します。

4 フレームレートを選択して設定します。

- 十字ボタンの△▽で設定を変更します。



5 **OK**ボタンを押すと、設定を確定してメニューを終了します。

- 録画中は、ピント位置、測光、ホワイトバランスは固定されます。
- 音声は記録されません。
- 画角がやや狭く設定されます。
- 録画中は、絞り値やシャッター速度、露出補正、ISO感度の変更はできません。
- タイムコードの表示や記録はできません。
- 録画中にズーム操作を行うと、明るさが変わる場合があります。
- 録画中、ファイルサイズが4GBになると、録画を終了します。
- HDMI機器接続中は、ハイスピードムービーの撮影はできません。
- 【**手ぶれ補正**】の【**M-IS**】は設定できません。
- 【**ムービーテレコン**】は使用できません。
- ピクチャーモードの【**i-Finish**】、【**eポートレート**】、およびアートフィルターは設定できません。
- 【**階調**】は【**標準**】に固定されます。
- スマートフォンと接続してリモート撮影を行っているとき、ハイスピードムービーの撮影は設定できません。

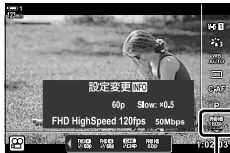
■ メニューで設定する

メニューでも設定できます。📺動画メニューの[📺画質モード]で設定します。

MENUボタン ➡ 📺 (動画)タブ ➡ [📺画質設定] ➡ [📺画質モード] ➡ 十字ボタンの▷を押して選択メニューに入り設定

■ LVコントロールで設定する

OKボタン ➡ [📺画質モード] ➡ 十字ボタンの◀▶を押して設定



📺画質モード

スローモーション/クイックモーション撮影をする (スロー/クイック撮影)

スローモーションやクイックモーションの撮影をします。記録フレームレートを再生フレームレートより高くするとスローモーションムービーに、記録フレームレートより再生フレームレートを高くするとクイックモーションムービーにすることができます。

ムービー画質のカスタム設定として設定します。

設定の変更は画質モードのアイコンに反映されます。設定によって以下のように表示が変わります。

3		ムービーサイズ	
		FHD	Full HD 1920×1080
		HD	HD 1280×720
		4K	4K 3840×2160
	C4K	4Kデジタルシネマ 4096×2160	
		圧縮方式/ビットレート	
		A-I	All Intra
		SF	Super Fine
		F	Fine
		N	Normal
フレームレート			
60p		60p : 59.94fps	
50p		50p : 50.00fps	
30p		30p : 29.97fps	
25p		25p : 25.00fps	
	24p	24p : 23.98fps 24p : 24.00fps (C4K)	
	設定の種類		
	⌘	カスタム	
	スロー/クイック効果*		
	×0.96 以下	スローモーション	
	OFF	通常	
	×1.04 以上	クイックモーション	

* スロー/クイック効果はアイコンに現れません。

• この機能は以下の方法で設定できます。

- LVスーパーコンパネ(P.343)
- メニュー (P.344)
- LVコントロール(P.344)

■ LVスーパーコンパネで設定する

1 LVスーパーコンパネで[画質モード]を選びOKボタンを押します。

- ムービー画質モードのメニューが表示されます。



画質モード

2 フロントダイヤルでC (カスタム) を選択してINFOボタンを押します。

- 詳細設定のメニューが表示され、カーソルが移動します。



3 十字ボタンの◀▶で項目を選択し、△▽ボタンで設定を変更します。

- ムービーサイズとフレームレートの組み合わせによって、選択できる[スロー/クイック効果]の設定は異なります。[C4K]または[4K]のときは、クイック効果のみ設定できます。



4 OKボタンを押すと、設定を確定してメニューを終了します。

- 音声は記録されません。
- ピクチャーモードのアートフィルターは解除されます。
- [画質モード]の設定によっては、スロー撮影、クイック撮影の片方もしくは両方が設定できない場合があります。
- シャッター速度は1/24以上に制限されます。[フレームレート]の設定により変わります。

3

■ LVコントロールで設定する

OKボタン ➡ [画質モード] ➡ (カスタム)を選択 ➡
INFOボタンを押して、[スロー/クイック効果]を選択して設定



画質モード

■ メニューで設定する

メニューでも設定できます。動画メニューの[画質モード]で設定します。

MENUボタン ➡ (動画)タブ ➡ [画質設定] ➡ [画質モード] ➡ 十字ボタンの
を押す ➡ (カスタム)を選択して▶ボタンを押す ➡ ▲▼◀▶ボタンで設定


3-7 ピント合わせの機能(AF/MF)

ピント合わせは、AF（オートフォーカス）とMF（マニュアルフォーカス）による方法があります。

AFでは、決めた位置でピントを合わせたり、動く被写体にピントを合わせ続けるなどの機能があります。被写体の種類や撮影条件に合わせてカメラをカスタマイズすることで、より多くのタイプの被写体を撮影することができます。ここでは、AFの撮影機能や、それらと組み合わせて使うことでよりAFの性能を引き出せるカスタム機能を説明します。

ピント合わせの方法を設定する (AF方式)

オートフォーカスの動作方式や手動でのピント合わせについての設定を行います。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - AF  ボタン(P.347)
 - LVコントロール(P.348)
 - LVスーパーコンパネ(P.347)
 - メニュー (P.348)


シングルAF (S-AF / S-AF)

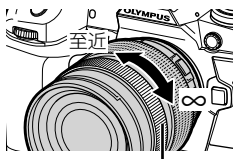
静物や動きの少ない被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しするとピント合わせを1回行います。

- ピントが合うと、合焦マークとピント合わせを行ったAFターゲットが表示されます。録画中は表示されません。



AFターゲット

- [S-AF ]のときは、オートフォーカスでピントを合わせたあとで、フォーカスリングを回すと、ピント位置の調整(マニュアルフォーカス)ができます。



フォーカスリング

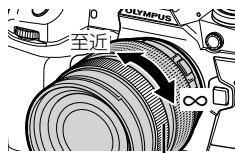
コンティニュースAF (C-AF)

撮影距離が絶えず変化する動く被写体を追いながら撮影するのに適しています。撮影前も録画中も被写体に繰り返しピントを合わせ続けます。

マニュアルフォーカス(MF)

手動でピント合わせを行います。

- レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- MFクラッチ機能を搭載しているレンズをお使いのときは、カメラのAF方式の設定に関わらずレンズのフォーカスリングで瞬時にマニュアルフォーカスに切り換えることができます。
☞ 「レンズのMFクラッチ(マニュアルフォーカスクラッチ)」(P.355)



フォーカスリング

追尾AF (C-AF+TR)

狙いの被写体にピントを合わせ続けて撮影するのに適しています。モニター上で追尾したい被写体にタッチすると、その被写体が動き回ってもピントを合わせ続けます。

- 録画を開始すると、追尾を始めます。
- 被写体を検出しているときは、追尾中を示すAFターゲットが表示されます。被写体を追尾できなくなると、AFターゲットが赤色に変わります。



検出した被写体を追尾しているときのターゲット表示

プリセットMF (PreMF)

【PreMF】に設定すると、あらかじめ設定しておいた距離にピント位置が設定されます。☞ 「あらかじめ決めた距離にピントを合わせる(プリセットMF)」(P.357)



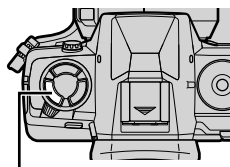
- AFターゲットの点灯についてはカメラが初期設定の状態のときのもので、カスタムメニューでAFターゲットの点灯の仕方を変えることができます。☞ 【AFターゲット表示】(P.486)
- レンズのフォーカスリングを操作したときに自動的に画面のAFターゲットの位置を拡大して表示したり、ピントの合っている輪郭を強調して表示することができます。☞ 【MFアシスト】(P.495)
- Fnレバーだけで以下のAF機能の設定を同時に変更することができます。1、2のそれぞれの位置で、別々の設定を記憶させておくことができます。撮影状況に合わせて簡単にAFの機能設定を変えることができます。

【AF方式】、【AFターゲットモード】(P.349)、【AFターゲット位置】(P.352)


☞ 動画メニュー 【Fnレバー機能】(P.426)でFnレバーの働きを設定します。

■ AF ボタンで設定する


1 AF ボタンを押します。



AF  ボタン

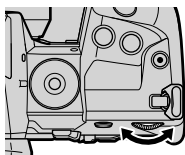
- [ AF方式]のメニュー画面が表示されます。



[ AF方式]のメニュー


2 リアダイヤルを回します。

- ボタンを押しながらリアダイヤルを回して設定することもできます。



3 シャッターボタンを半押しすると、設定を終了して撮影画面に戻ります。

■ LVスーパーコンパネで設定する

モードダイヤルが  (ムービー) のときは、LVスーパーコンパネでも設定できます。



 AF方式

OKボタン ➡ [ AF方式] ➡ フロントダイヤルで設定値を選択

■ LVコントロールで設定する

モードダイヤルが📷（ムービー）のときは、LVコントロールでも設定できます。

LVコントロールで[📷AF方式]を選択して、十字ボタンの◀▶で項目を選択します。



📷AF方式

■ メニューで設定する

📷（動画）メニューの[📷AF/手ぶれ補正設定]で設定します。

MENUボタン ➡ 📷（動画メニュー）タブ ➡ [📷AF/手ぶれ補正設定] ➡ [📷AF方式]

➡ △▽ボタンで項目を選択

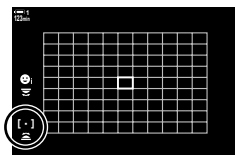
ピント合わせの範囲を選ぶ (AFターゲットモード)

ピントを合わせる位置や範囲を示す緑の枠をAFターゲットと呼びます。[AFターゲットモード]は、その範囲や数を設定する機能です。AFターゲットの数が少ないと画面の狭い範囲でオートフォーカスをし、AFターゲットの数が多くと画面の広い範囲でオートフォーカスをします。被写体をAFターゲットで追いやすときは[シングルターゲット]、難しいときは[グループターゲット]や[オールターゲット]が有効です。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - マルチセレクター (P.350)
 - LVスーパーコンパネ(P.351)

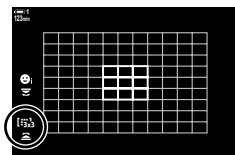
[.] シングルターゲット

1つのAFターゲットを選びます。



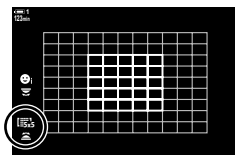
[3x3] グループターゲット(3×3)

9点のAFターゲットの範囲を使います。この範囲からカメラが自動的にピントを合わせる位置を選びます。



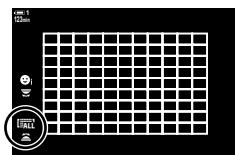
[5x5] グループターゲット(5×5)

25点のAFターゲットの範囲を使います。この範囲からカメラが自動的にピントを合わせる位置を選びます。



[ALL] オールターゲット(11×9)

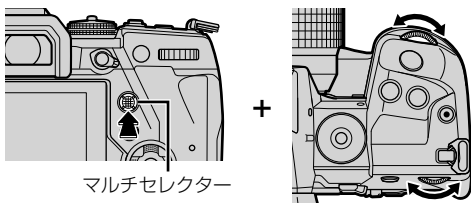
全てのAFターゲットの範囲からカメラが自動的にピントを合わせる位置を選びます。



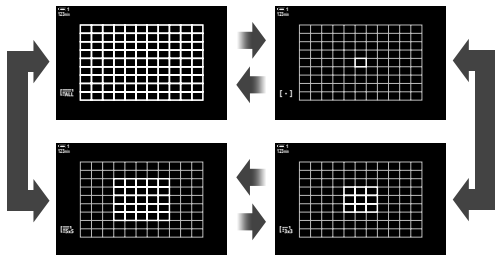
- [デジタルテレコン] (P.411)が[On]のときは、表示されるAFターゲットの数が少なくなります。

■ マルチセレクターで設定する

1 マルチセレクターを押しながらフロント／リアダイヤルを回します。



- ターゲットモードが切り換わります。



2 設定したらマルチセレクターを離します。

- 設定画面が消えます。
- 十字ボタンまたは**Fn**ボタンに $[:::]$ (AFターゲット選択)が設定されているときは、十字ボタンを使って設定できます。 $\Delta \nabla < \triangleright$ ボタンを押すとターゲット選択の画面が表示されます。フロントダイヤルで選択します。初期設定では、十字ボタンは、 $[:::]$ (AFターゲット選択)に設定されています。



- **Fn**レバーだけで以下のAF機能の設定を同時に変更することができます。1、2のそれぞれの位置で、別々の設定を記憶させておくことができます。撮影状況に合わせて簡単にAFの機能設定を変更することができます。

【AF方式】 / 【AFターゲットモード】 (P.349) / 【AFターゲット位置】 (P.352)

動画メニュー **Fn**レバー機能 (P.426)で**Fn**レバーの動きを設定します。

- ボタンを押してからフロントダイヤルで設定することもできます。 **Fn**ボタン機能で $[:::]$ 選択を割り当てたボタンを押して、AFターゲット選択画面を表示します。フロントダイヤルを回して設定を選択します。 $[:::]$ 選択は初期設定では、**Fn**ボタンに割り当てられています。 **Fn**ボタン機能 (P.417)

■ LVスーパーコンパネで設定する

モードダイヤルが📷 (ムービー)のときは、LVスーパーコンパネでも設定できます。

- 1 LVスーパーコンパネで**[AFターゲット選択]**を選択し、**OK**ボタンを押します。



AFターゲット選択

- AFターゲット選択画面が表示されます。

- 2 フロントダイヤルを回して、ターゲットモードを選択します。

- AFターゲットの設定に使うダイヤルや十字ボタンの働きをカスタマイズできます。**★カスタムメニュー A2**の**[[::]] 選択画面設定** (P.488)で設定します。初期設定ではフロントダイヤルでAFターゲットモードの変更をします。

- 3 シャッターボタンを半押しして、設定画面を終了します。



ピント合わせの位置を自分で決める

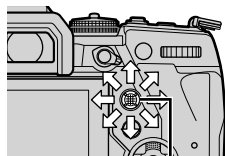
(AFターゲット位置)

[オールターゲット]以外のAFターゲットモードでは、ピントを合わせたい位置にAFターゲットを移動することができます。カメラが初期設定のときは、マルチセレクターでAFターゲットを移動できます。ムービー録画中にピント位置を移動することもできます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - マルチセレクター
 - LVスーパーコンパネ(P.353)

■ マルチセレクターで設定する

- 1 マルチセレクターを動かしてAFターゲットを移動します。



マルチセレクター

- マルチセレクターを最初に動かしたときにAFターゲットが緑の枠で表示されます。
- 録画中にAFターゲットを移動するときは、移動するAFターゲットのみ表示されます。
- マルチセレクターを押すか、**OK**ボタンを長押しすると、AFターゲットを中央に戻すことができます。



AFターゲット

- 2 撮影します。

- 設定画面はシャッターボタンを半押しすると消えます。
- AFターゲットを設定した位置にAFフレームが表示されます。
- 十字ボタンまたは**Fn**ボタンに[:::] (AFターゲット選択)が設定されているときは、十字ボタンを使って設定できます。△▽◀▶ボタンを押すとAFターゲットが表示されます。初期設定では、十字ボタンは、[:::] (AFターゲット選択)に設定されています。
- [**Fn**ボタン機能] (P.417)で[:::]選択がボタンに割り当てられていると、ボタンを押してからマルチセレクターや十字ボタンでAFターゲットを移動できます。初期設定では、**Fn**ボタンに割り当てられています。



- **[AFターゲットパッド]**が**[On]**のときは、ファインダーをのぞきながらモニターにタッチしてAFターゲットを移動することができます。☞ **[AFターゲットパッド]** (P.486)
- 撮影画面でのマルチセレクターの操作を無効にすることができます。☞ **[C方向キー機能]** (P.499)
- **Fn**レバーだけで以下のAF機能の設定を同時に変更することができます。1、2のそれぞれの位置で、別々の設定を記憶させておくことができます。撮影状況に合わせて簡単にAFの機能設定を変えることができます。
 [AF方式] / **[AFターゲットモード]** (P.349) / **[AFターゲット位置]** (P.352)
☞ 動画メニュー **[Fnレバー機能]** (P.426)で**Fn**レバーの働きを設定します。

■ LVスーパーコンパネで設定する

モードダイヤルが☞ (ムービー)のときは、LVスーパーコンパネでも設定できます。

1 LVスーパーコンパネで**[AFターゲット選択]**を選択し、**OK**ボタンを押します。



AFターゲット選択

- AFターゲット選択画面が表示されます。
- AFターゲットの数は、設定されているAFターゲットモードによって異なります。

2 十字ボタンでAFターゲットを移動します。

- マルチセレクターを押すか、**OK**ボタンを長押しするとAFターゲットを中央に戻すことができます。
- AFターゲットの設定に使うダイヤルや十字ボタンの働きをカスタマイズできます。☞ **カスタムメニュー A2**の**[[::] 選択画面設定]** (P.488)で設定します。初期設定ではフロントダイヤルでAFターゲットモードの変更をします。



AFターゲット

3 シャッターボタンを半押しして、設定画面を終了します。

- **[デジタルテレコン]** (P.411)が**[On]**のときは、表示されるAFターゲットの数が少なくなります。

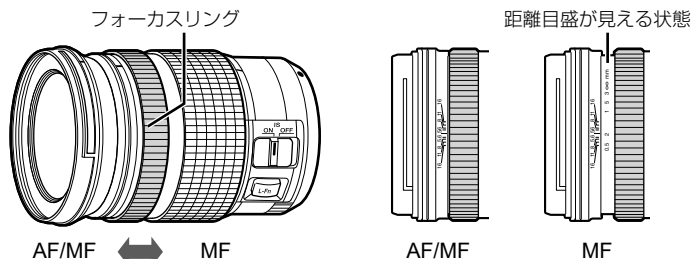


- 撮影画面でのマルチセレクターの操作を無効にすることができます。☰ [☉方向キー機能] (P.499)
- **Fn**レバーだけで以下のAF機能の設定を同時に変更することができます。1、2のそれぞれの位置で、別々の設定を記憶させておくことができます。撮影状況に合わせて簡単にAFの機能設定を変えることができます。
【AF方式】 / 【AFターゲットモード】 (P.349) / 【AFターゲット位置】 (P.352)
☰ 動画メニュー [☰Fnレバー機能] (P.426)で**Fn**レバーの働きを設定します。

レンズのMFクラッチ (マニュアルフォーカスクラッチ)

MFクラッチ(マニュアルフォーカスクラッチ)機構を搭載したレンズでは、フォーカスリングの位置を変えることによって、オートフォーカスとマニュアルフォーカスを簡単に切り換えることができます。

- お使いになる前に、フォーカスリングの状態を確認してください。
- フォーカスリングをAF/MFの位置(レンズ先端側)にするとオートフォーカスになり、MFの位置(カメラボディ側)にするとカメラのAF方式の設定に関わらずマニュアルフォーカスになります。



- カメラのAF方式が[MF]または[PreMF]の場合は、フォーカスリングをAF/MFの位置に切り換えても、オートフォーカスでの撮影はできません。

レンズのMFクラッチの機能を無効にします。不用意にMFクラッチが操作されてオートフォーカスが動作しないなどの誤操作を防ぐことができます。

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 **★**カスタムメニュー **A4** (AF/MF)のメニューを表示します。
- 3 十字ボタンの△▽で**[MFクラッチ]**を選択し、▷ボタンを押します。



- 4 △▽ボタンで設定を変更します。
[有効]：レンズのフォーカスリングの位置に従って動作します。
[無効]：レンズのフォーカスリングの位置に関わらず、カメラの**[AF方式]**の設定に従って動作します。
- 5 **OK**ボタンを押して設定を確定します。
 - **★**カスタムメニュー **A4**の画面に戻ります。
- 6 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。



- **[MFクラッチ]**が**[無効]**で、レンズのフォーカスリングが**MF**の位置のときは、フォーカスリングを動かして**MF**操作をすることはできません。

あらかじめ決めた距離にピントを合わせる (プリセットMF)

ピントをあらかじめ記憶させた位置に、すぐに移動させることができます。ピント位置をすばやく無限遠に移動させたいときなどに有効です。距離の設定は、AF/MFを利用する方法と直接距離を入力する方法があります。

フォーカスリミットを搭載したレンズでは、フォーカス範囲の制限を外してお使いください。

- 表示される数値は目安としてお使いください。
- この機能は以下の方法で設定できます。
 - **AF** ボタン - LVコントロール(P.359)
 - LVスーパーコンパネ(P.359) - メニュー (P.359)



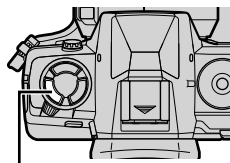
- ⌘ 動画メニューの**⌘ ボタン機能**で**PreMF** (プリセットMF)をボタンに登録すると、ボタンを押す操作だけで設定値に切り換えることができます(P.417)。
- Fn**レバーだけで以下のAF機能の設定を同時に変更することができます。1、2のそれぞれの位置で、別々の設定を記憶しておくことができます。撮影状況に合わせて簡単にAFの機能設定を変えることができます。

[AF方式] / [AFターゲットモード] (P.349) / [AFターゲット位置] (P.352)

⌘ 動画メニュー **⌘ Fnレバー機能** (P.426)で**Fn**レバーの動きを設定します。

■ AF ボタンで設定する

1 AF ボタンを押します。



AF ボタン

- [AF方式]のメニュー画面が表示されます。



[AF方式]のメニュー

2 リアダイヤルで[プリセットMF]を選択します。



3 INFOボタンを押します。

- [プリセットMF]の距離設定画面が表示されます。



4 距離を設定します。

- オートフォーカスで距離を設定する場合
シャッターボタンを半押しして、設定したい距離にある被写体にピントを合わせます。



- マニュアルフォーカスで距離を設定する場合
レンズのフォーカスリングを回して、画面の数値を見ながら設定します。



5 OKボタンを押して設定を確定します。

- [プリセットMF距離]で設定した距離にピント位置を移動させるには、[AF方式] (P.345)を[プリセットMF]に設定します。
- 以下のときにもプリセットした位置にピントを移動します。
 - カメラの電源をオンにしたとき
 - メニュー画面を操作して撮影画面に戻ったとき

■ LVスーパーコンパネで設定する

モードダイヤルが AF （ムービー）のときは、LVスーパーコンパネでも設定できます。

LVスーパーコンパネで AF 方式の[PreMF]を選択して**OK**ボタンを押し、**INFO**ボタンを押すと詳細設定画面が表示されます。詳細設定画面が表示されたら、シャッターボタンを押してAFをするか、フォーカスリングを回して距離を設定します。

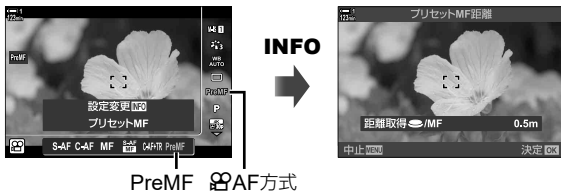


- AF 方式を[PreMF]に設定するたびに、設定した距離にピント位置を移動します。

■ LVコントロールで設定する

モードダイヤルが AF （ムービー）のときは、LVコントロールでも設定できます。

LVコントロールで AF 方式の[PreMF]を選択して**INFO**ボタンを押すと、詳細設定画面が表示されます。詳細設定画面が表示されたら、シャッターボタンを押してAFをするかフォーカスリングを回して距離を設定します。



■ メニューで設定する

★カスタムメニュー **A4** 【プリセットMF距離】で設定します。

- 【プリセットMF距離】の設定画面では、距離の単位を[m]または[ft]から選択できます。
- 【プリセットMF距離】で設定した距離にピント位置を移動させるには、 AF 方式（P.345）を【プリセットMF】に設定します。








MENUボタン → ★タブ → **A4**タブ → 【プリセットMF距離】 → 十字ボタンの▷を押してメニューを表示 → △▽◀▶ボタンで距離と単位を設定


顔優先AFを使う

カメラが自動的に人物の顔を検出します。顔を検出してピントを合わせます。露出は顔を中心に設定されます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ - メニュー (P.361)
 - LVコントロール

 (顔優先On)	被写体の顔を検出してピントを合わせます。
 (顔優先Off)	顔優先AFを使用しません。
 (顔・瞳優先On)	☞ (ムービー)モードでは、顔優先Onと同じ動作をします。
 (顔・瞳(右側)優先AF)	
 (顔・瞳(左側)優先AF)	



■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで[顔優先]を選択して、**OK** ボタンを押します。



 顔優先

- 2 十字ボタンの<D>で設定を変更します。
- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

- 十字ボタンまたは**Fn**ボタンに[] (AFターゲット選択)が設定されているときは、十字ボタンを使って設定できます。△▽<D> ボタンを押してリアダイヤルで選択します。初期設定では、十字ボタンは、[] (AFターゲット選択)に設定されています。

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールで【**顔優先**】を選択して、十字ボタンの<D>で項目を選択します。

- AFターゲット選択画面を表示して、リアダイヤルを回して設定することもできます。



◎ 顔優先

■ メニューで設定する

★カスタムメニュー **A3** の【**顔優先**】で設定します。

MENU ボタン ➡ ★タブ ➡ **A3** タブ ➡ 【**顔優先**】 ➡ 十字ボタンのDを押してメニューを表示 ➡ Δ▽ボタンで項目を選択



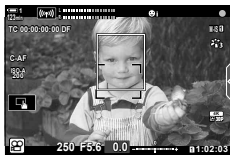
以下の方法で設定することもできます。

- LVスーパーコンパネで【**AFターゲット選択**】を選択して**OK**ボタンを押します。リアダイヤルを回して設定を選択します。
- 【**設定ボタン機能**】で【**:::選択**】を割り当てたボタンを押して、AFターゲット選択画面を表示します。リアダイヤルを回して設定を選択します。【**:::選択**】は初期設定では、**Fn** ボタンに割り当てられています。

顔優先AFを使って撮影する

1 カメラを被写体に向けます。


- カメラが顔を検出すると、検出された部分に白い枠が表示されます。
- マニュアルフォーカス時でも顔を検出できると、白い枠が表示されます。その場合も、露出は顔を中心に設定されます。



2 ◎ (録画) ボタンを押して撮影を開始します。

- 被写体によっては顔が検出できないことがあります。
- 録画中は、顔を特定した白い枠は表示されません。
- 【**ピクチャーモード**】のアートフィルター (ART1 ~ ART16) の設定によっては顔が検出できないことがあります。
- 拡大枠を表示しているときは、拡大枠の位置にピントを合わせます。

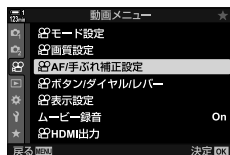
C-AF動作時のピント合わせの感度を設定する (C-AF追従感度)

AF方式]が[C-AF]や[C-AF+TR]で被写体にピントを合わせ続けているときの、オートフォーカスの追従性を設定します。速い動きの被写体にオートフォーカスを追従させたいときや、被写体の前を障害物が入り出してピントが移動してしまうときなどに有効です。

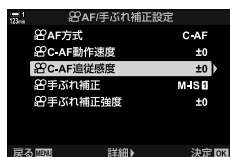
- 3段階の感度が設定できます。
- +1に設定すると感度は上がります。前後に動いたり動きの速さが不規則に変化する被写体や、見えない位置から急に現れる被写体に対応するときに設定します。
- -1に設定すると感度は下がります。被写体との間の障害物にピントが移動してしまったり、被写体の動きが速くAFターゲットが外れてピントが背景に移動してしまうときに設定します。


1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

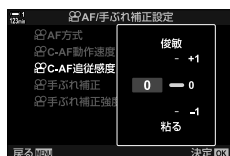
2 動画メニューでAF/手ぶれ補正設定]を選択し、十字ボタンの▷を押します。



3 Δ / ∇ ボタンでC-AF追従感度]を選択し、▷ボタンを押します。



4 Δ / ∇ ボタンで設定を変更し、**OK**ボタンを押します。
• AF/手ぶれ補正設定]の画面に戻ります。



5 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

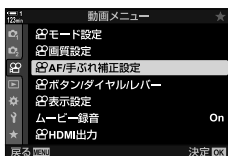
C-AF動作時のピント合わせの速さを設定する (C-AF動作速度)

[C-AF]や[C-AF+TR]で被写体にピントを合わせ続けているときの、ピント合わせの速度を設定します。録画中の場面転換などでピント位置を変えたときに、被写体にピントを合わせるまでの時間を調整したいときに有効です。

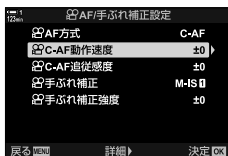
- 3段階の設定ができます。
- +1に設定すると速く、-1に設定すると遅くなります。ピントが外れた状態から緩やかにピントを合わせたいときは、-1に設定します。



1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。

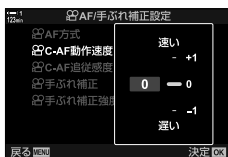
2 動画メニューで[AF/手ぶれ補正設定]を選択し、十字ボタンの▷を押します。



3 △▽ボタンで[C-AF動作速度]を選択し、▷ボタンを押します。



4 △▽ボタンで数値を選択し、OKボタンを押します。
• [AF/手ぶれ補正設定]の画面に戻ります。



5 MENUボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

拡大枠AF / 拡大AFを使う

画面に拡大枠を表示してその位置にピントを合わせることができます。拡大枠の範囲を拡大表示して、より正確にピントを確認することもできます。拡大枠は録画中にも移動することができます。

この機能を使う方法には、タッチ操作とボタン操作の2つがあります。ボタンで操作する場合は、**[メニューボタン機能]**でいずれかのボタンに**[Q]** (拡大)の機能を割り当てておく必要があります。

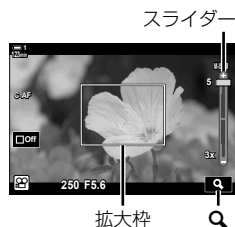
- この機能は以下の方法で設定できます。
 - タッチパネル
 - Qボタン(P.365)
- 拡大表示はモニター上の表示のみです。実際に拡大されて写るものではありません。

■ タッチ操作で機能を使う

モニター画面の拡大したい部分に直接タッチして、拡大することができます。見たい位置の移動も画面上でタッチ操作でできます。

1 モニターの拡大したい位置にタッチします。

- 画面に拡大枠とスライダーと**Q**アイコンが表示されます。
- 拡大枠の位置でピントが合います。
- しばらくしてスライダーや**Q**アイコンが消えたら、再度画面にタッチします。
- 画面上の任意の位置にタッチすると拡大枠がその位置に移動します。
- スライダーにタッチした状態で上下に動かすと拡大枠の大きさが変更できます。



2 画面の**Q**アイコンにタッチします。

- 拡大枠の部分が拡大して表示されます。
- フロント/リアダイヤルを回して拡大倍率を変更することもできます。



- 3 拡大枠の大きさ(倍率)を変更するときは、画面にタッチした状態で画面をスライドさせます。
- マルチセレクターや十字ボタン(△▽◀▶)で移動することもできます。
 - [**Q**モード]が[M] (マニュアル)のときは、**INFO**ボタンを押すと絞りやシャッター速度の設定ができます。
 - 拡大表示をやめるときは、**OK**ボタンを押すか、**Q**アイコンにタッチします。



[**Q**モード]が[M]のときの露出設定画面

- 4 録画を開始すると元の表示に戻ります。
- 拡大枠を消すときは**OK**ボタンを押します。

■ ボタン操作で機能を使う

ボタンに[**Q**] (拡大)の機能を割り当てると、ボタン操作でこの機能が使えます。
[**Q**] (拡大)は[**Q**ボタン機能]にあります。

[**Q**] (拡大)の機能をボタンに割り当てる

ボタンに[**Q**] (拡大)を割り当てます。ここではLVスーパーコンパネを使って設定します。

- 1 LVスーパーコンパネで[**Q**ボタン機能]を選択し、**OK**ボタンを押します。
- [**Q**ボタン機能]のメニュー画面が表示されます。



Qボタン機能

- 2 十字ボタンの△▽で[**Q**] (拡大)の機能を割り当てたいボタンを選択し、▶ボタンを押します。



- 3 △▽ボタンで[拡大]を選択し、**OK**ボタンを押します。

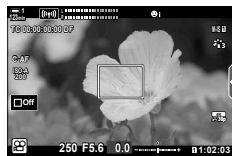


4 OKボタンを押します。

- ・メニューが消えます。

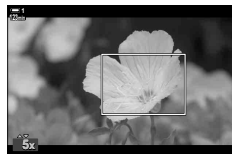
5 Qを登録したボタンを押します。

- ・画面に拡大枠が表示されます。
- ・拡大枠は、直前にオートフォーカスでピントを合わせた位置に表示されます。
- ・マルチセレクターや十字ボタンで拡大枠の移動ができます。
- ・マルチセレクターを一度押すか、OKボタンを長押しすると拡大枠は中央に戻ります。



6 拡大枠の大きさ(倍率)を変更するときは、INFOボタンを押します。

- ・△▽ボタンを押すかダイヤルを回すと、拡大枠の大きさが変更されます。
- ・OKボタンを押すと、確定して前の画面に戻ります。



7 再度、Qを登録したボタンを押します。

- ・拡大枠の部分が画面いっぱいに拡大されて表示されます。
- ・マルチセレクターを動かすと拡大されている部分の移動ができます。
- ・フロント/リアダイヤルを回すと拡大の倍率を変更できます。
- ・[露モード]が[M] (マニュアル)のときは、INFOボタンを押すと絞りやシャッター速度の設定ができます。
- ・OKボタンを押すと元の表示に戻ります。



[露モード]が[M]のときの露出設定画面

8 録画を開始すると拡大表示を終了します。

■ メニューで設定する

ボタン機能の割り当ては、メニューでも設定できます。露動画メニューの[露ボタン機能]で設定します。

MENUボタン ➡ 露タブ ➡ [露ボタンダイヤルレバー] ➡ [露ボタン機能] ➡ 機能を割り当てるボタンを選択 ➡ 十字ボタンの▶を押してメニューを表示 ➡ △▽ボタンで[拡大]を選択

3-8 測光・露出の機能

カメラは明るさを測って、自動的に適正な露出に設定します。暗い環境でも自動的に感度を上げて撮影することができます。また、人工照明などでちらつきが発生するような場合に、その影響を軽減するための機能もあります。

ムービーモードでは、測光は \square （デジタルESP測光）で固定されます。逆光を含む一般的な撮影状況に適しています。画面を324分割で測光し、撮影シーンを考慮した最適な露出値を演算します。人物の顔を検出して露出値を演算することもできます。

3



画像の明るさを変えて撮影する（露出補正）

カメラが自動的に設定した露出を、自分のイメージした明るさに調整します。+補正にするとより明るく、-補正にするとより暗く表現できます。±3.0EVの範囲で補正できます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - \square ボタン(P.368)
 - タッチ操作(P.368)
 - ダイヤル(P.368)
- 【 \square モード】（ムービー露出モード）が【P】 / 【A】 / 【S】のときに設定できます。【 \square モード】が【M】のときに使用するには、【 \square mISOオート有効】（P.372）を【On】に設定して、【 \square ISO感度】を【AUTO】に設定する必要があります。
- 録画中に露出補正するときは、フロント/リアダイヤルかタッチ操作を使います。



■ (露出補正)ボタンで設定する





 ボタンを押しながら、フロント/リアダイヤルを回します。 ボタンを押して、十字ボタンの<|>で設定することもできます。





露出補正值 露出バー

- **OK** ボタンを長押しすると、調整値をリセットできます。









-  (露出補正)の機能は他のボタンに割り当てすることもできます。 動画メニュー [ ボタン/ダイヤルレバー]の [ ボタン機能] (P.417)で設定します。

■ ダイヤルで設定する

[ モード] (ムービー露出モード)が[P] / [A] / [S]のときは、フロントダイヤルで設定します。フロントダイヤルを右または左に回します。[M]のときに、フロント/リアダイヤルで設定するには、 [ ダイヤル機能]で、[露出補正]をダイヤルに割り当てます(P.424)。

■ タッチ操作で設定する(静音機能)

タッチ操作で設定することができます。 「タッチ操作で設定する(静音操作)」(P.306)

静音操作タブにタッチして、静音操作メニューを表示 ➡  にタッチ ➡     にタッチして設定



静音操作タブ

【ISOモード】(ムービー露出モード)が【M】では、ISO感度を設定できます。数値を大きくすると暗い環境での撮影が可能になりますが、画像のノイズ(ざらつき)が多くなります。【AUTO】の設定では、明るさに応じて自動的に設定が変わります。【ISOモード】が【P】 / 【A】 / 【S】のときは、【AUTO】に固定されます。

- 録画中に設定を変えることもできます。録画中に設定を変更するときは、フロント/リアダイヤルかタッチ操作を使います。
- 【ISOモード】が【M】以外のときは、設定できません。
- この機能は以下の方法で設定できます。
 - ISOボタン(P.370) - LVスーパーコンパネ(P.371)
 - タッチ操作(P.371) - LVコントロール(P.371)

AUTO	撮影状況に応じて自動的に感度が変わります。ISO200～6400の範囲で設定されます。【ISOモード】が【M】(マニュアル)の場合は、【ISOオート有効】(P.372)が【On】のときに設定できます。
200～6400 (マニュアル)	【ISO感度】を手動で設定します。ISO200はノイズと画像の階調のバランスが最もとれる設定です。【ISOモード】が【M】のときに設定できます。

- 【AUTO】の設定では、【画質モード】のフレームレートや【ピクチャーモード】の設定により、自動的にISO感度の範囲が変わります。
- 【ISOモード】が【M】のときは、ピクチャーモードの設定によって以下の制限があります。
【ドラマチックトーン】 / 【ウォーターカラー】 :
 - 【AUTO】のときは、ISO1600が上限です。
- 【OM-Log400】 :
 - 【画質モード】のフレームレートが24p/25p/30pの場合、【AUTO】の範囲はISO400～3200です。
 - 【画質モード】のフレームレートが50p/60pの場合、【AUTO】の範囲はISO400～6400です。
 - マニュアル設定のときは、ISO200が下限です。
- その他のピクチャーモード :
 - 【画質モード】のフレームレートが24p/25p/30pの場合、【AUTO】の範囲はISO200～3200です。

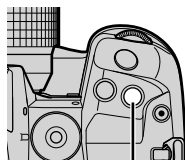


- 【ISOモード】が【M】で、【AUTO】のときのISO感度の上限や基準値を設定することができます。【ISOオート設定】(P.372)

■ ISOボタンで設定する

[**ISO**モード]が[M]のときのみ設定できます。[**AUTO**]に設定するときには、あらかじめ、**ISO**メニュー [**ISO**オート設定]の[**ISO**オート有効]を[On]にしておきます(P.372)。

1 ISOボタンを押します。



ISOボタン

- [**ISO**感度]のメニュー画面が表示されます。

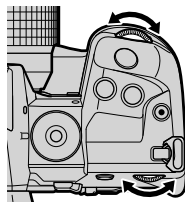


[**ISO**感度]のメニュー

3

2 フロント/リアダイヤルを回して項目を選択します。

- **ISO**ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回しても設定できます。



3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してメニュー画面を終了します。



- **ISO**ボタン以外のボタンに登録することもできます。**ISO**動画メニューの[**ISO**ボタン/ダイヤル/レバー]の[**ISO**ボタン機能] (P.417)で設定します。

■ タッチ操作で設定する(静音機能)

[**ISO**モード]が[M]のときは、タッチ操作で設定することができます。☞「タッチ操作で設定する(静音操作)」(P.306)

静音操作タブにタッチして、静音操作メニューを表示 ➡ [**ISO**]にタッチ ➡ **^****v****^****v**にタッチして設定



静音操作タブ

■ LVスーパーコンパネで設定する

1 LVスーパーコンパネで[**ISO感度**]を選択します。



ISO感度

2 フロントダイヤルで設定値を選択します。

3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールで[**ISO感度**]を選択して、十字ボタンの**◀▶**で項目を選択します。



- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.312)をご覧ください。








ISO感度



明るさに合わせて自動的に感度を変える

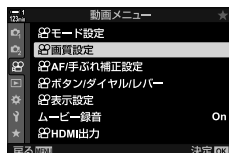
(M ISOオート設定)

[モード] (ムービー露出モード)が[M] (マニュアル)で撮影しているときに、[ISO感度]を[AUTO] (オート)に設定できます。絞り値やシャッター速度を変化させることなく、明るさの変化に対応した撮影をすることができます。露出補正の設定をすることもできます。

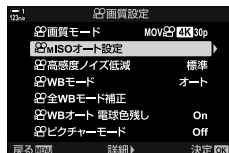
 M ISOオート有効	[ モード]が[M]のときに、[ ISO感度]の[AUTO]の設定が使えます。変化の仕方は[上限/基準値設定]で設定できます。
上限値/基準値設定	[ モード]が[M]で[ ISO感度]が[AUTO]のときの、ISO感度の上限値と基準値を設定します。

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。


2  動画メニューの[画質設定]を選択し、十字ボタンの▷を押します。




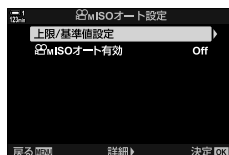
3 △▽ボタンで[ M ISOオート設定]を選択し、▷ボタンを押します。



4 △▽ボタンで設定する項目を選択し、▷ボタンを押します。

[**上限値/基準値設定**] : <▷>ボタンで項目を選択し、△▽ボタンで設定値を変更します。**OK**ボタンを押すと、[ M ISOオート設定]の画面に戻ります。ピクチャーモードによって設定できる値が制限されます(P.388)。

[ M ISOオート有効] : △▽ボタンで[On]または[Off]を選択します。

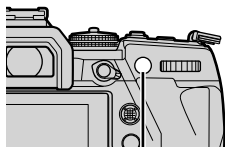


5 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

測光した露出を固定します。ピントと露出を別々に決めて録画したいときに使います。

AEロックはボタンで操作する機能です。ボタンで操作するには、**[AEボタン機能]** (P.417)でいずれかのボタンに**[AEL/AFL]**の機能を割り当てておく必要があります。初期設定では、**AEL/AFL**ボタンに割り当てられています。

- 1 露出を固定したい構図で**AEL/AFL**ボタンを押します。



AEL/AFLボタン

- 一度ボタンを押すと露出が固定され、画面に**[AE]**が表示されます。



AEL

3

- 2 AEロックを解除するときは、もう一度**AEL/AFL**ボタンを押します。

- 画面の**[AE]**が消えます。
- AEロックは、モードダイヤル、**MENU**ボタン、**OK**ボタンを操作すると解除されます。

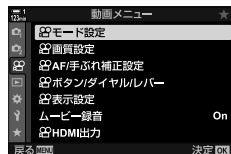
LED照明による明るさのちらつきを抑えて撮影する (フリッカースキャン)

LED照明の環境下では、撮影した画像にすじが写ることがあります。【フリッカースキャン】では、画面ですじの発生を確認しながら適切なシャッター速度を選んで撮ることができます。

この機能は、【モード】（ムービー露出モード）が【S】または【M】のときに使用できます。

- 設定できるシャッター速度の範囲が狭くなります。

- 1 【モード】（P.332）を【S】または【M】に設定します。
- 2 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 3 動画メニューで【モード設定】を選択し、十字ボタンの▷を押します。



3

- 4 △▽ボタンで【フリッカースキャン】を選択し、▷ボタンを押します。
- 5 △▽ボタンで【On】を選択し、**OK**ボタンを押します。



- 6 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。
 - フリッカースキャン中は、画面に **Flicker Scan** が表示されます。



Flicker Scan

7 画面を見ながらシャッター速度を設定します。

- フロント/リアダイヤル、または十字ボタンの△▽で設定できます。
- 画面に発生するすじが見えなくなるようにシャッター速度を調整してください。
- **INFO** ボタンを押すと画面が切り換わり、**Flicker Scan** が消えます。このとき、絞りや露出補正の設定ができます。フロント/リアダイヤルまたは、十字ボタンを使って設定してください。
- **INFO** ボタンを繰り返し押すと、フリッカーキャンの設定画面に戻ります。



シャッター速度

8 設定を終えたら撮影します。

- フリッカーキャンの画面では、ピーキング表示や、LVスーパーコンパネ、LVコントロールの表示はできません。表示するときは**INFO** ボタンを押して画面の情報表示を切り換えてください。



- **[フリッカーキャン]**の機能をボタンに割り当てておくことができます。ボタンを押すだけで機能をオンにすることができます。📷 動画メニューの**[ボタン機能]** (P.417)

3-9 手ぶれ・色・画質の機能

手ぶれや照明の色合いなどの画質への影響を軽減する機能です。色合いや絵作りの機能も備えています。

3

手ぶれを抑えて撮影する

(🔊手ぶれ補正)

被写体が暗い場面や高倍率の撮影などでおきやすい手ぶれを、抑えることができます。マイクロフォーサーズ/フォーサーズ以外のレンズを使うときは、手動でレンズの焦点距離を設定してください。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ(P.377)
 - LVコントロール(P.377)
 - メニュー (P.377)

M-IS OFF (手ぶれ補正オフ)	手ぶれ補正をしません。
M-IS I (全方向補正)	撮像素子を動かすVCM式と電子式を組み合わせで補正します。
M-IS II (全方向補正)	撮像素子を動かすVCM式のみで補正します。

- 手ぶれが大きすぎる場合は、手ぶれを補正しきれないことがあります。このときは三脚を使用して撮影してください。
- 手ぶれ補正が作動していると、作動音や振動を感じる場合があります。
- 手ぶれ補正機能切り換えスイッチのあるレンズでは、レンズ側の設定が優先されます。

■ LVスーパーコンパネで設定する

1 LVスーパーコンパネで[AF手ぶれ補正]を選択します。



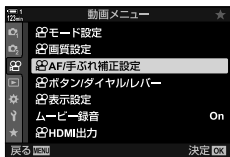
AF手ぶれ補正

2 フロントダイヤルで設定値を選択します。

3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ メニューで設定する

動画メニュー [AF/手ぶれ補正設定]の[AF手ぶれ補正]で設定します。



3

MENUボタン → タブ → [AF/手ぶれ補正設定] → [AF手ぶれ補正] → 十字ボタンの△▽で項目を選択

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールで[AF手ぶれ補正]を選択して、十字ボタンの◀▶で項目を選択します。

- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.312)をご覧ください。



AF手ぶれ補正

☞ マイクロフォーサーズ/フォーサーズ以外のレンズを使うとき

マイクロフォーサーズ/フォーサーズ以外のレンズを使うときは、レンズの焦点距離情報を入力して設定します。設定を選択するメニューで、十字ボタンの▶を押して、△▽◀▶ボタンで数値を設定しOKボタンを押します。【レンズ情報登録】(P.550)で登録した情報を使用する場合は、登録した焦点距離情報が適用されます。

- 0.1mm～1000.0mmまでの焦点距離が設定可能です。
- レンズに記載の数値を設定してください。
- 撮影メニュー1【リセット/カスタム設定】(P.91)の【リセット】(標準)でカメラの設定をリセットしても、登録したレンズの焦点距離は保持されます。

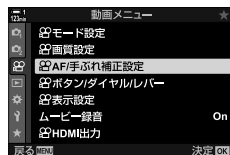
手ぶれ補正の効きを調整する (手ぶれ補正強度)

ムービー撮影時の手ぶれ補正の効きを調整します。

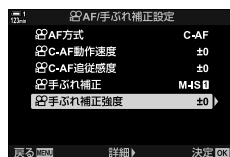
+1	手持ちで構図を変えずに撮影したいときに適しています。
±0	通常はこの設定でお使いください。
-1	手持ちでパン/チルトしたり、動く被写体を追うような撮影をしたいときに適しています。

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

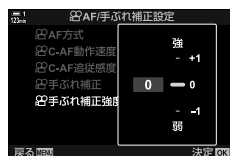
2 動画メニューで[AF/手ぶれ補正設定]を選択し、十字ボタンの▶を押します。



3 △▽ボタンで[手ぶれ補正強度]を選択し、▶ボタンを押します。



4 △▽ボタンで設定を変更し、**OK**ボタンを押します。



5 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

3

高感度撮影時の画像ノイズを抑える

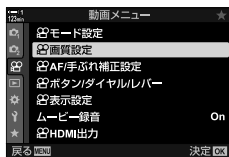
(高感度ノイズ低減)

ISO感度が高いときに画像に発生するノイズを低減します。暗い環境での撮影時に画像が粗くなるのを低減することができます。ノイズ低減のレベルは選択できます。

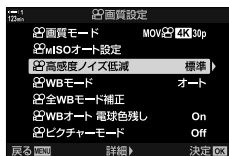
Off	ノイズ低減をしません。
弱 / 標準 / 強	ノイズ低減の強度を選択します。

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

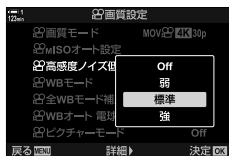
2 高感度メニューで[画質設定]を選択し、十字ボタンの▷を押します。



3 △▽ボタンで[高感度ノイズ低減]を選択し、▷ボタンを押します。



4 △▽ボタンで設定を変更し、**OK**ボタンを押します。



5 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。









3

画像の色合いを調整する

(WBモード)

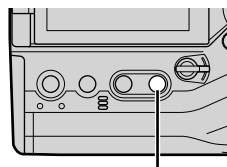
白いものを白く写す機能です。通常は[AUTO]（オート）で問題ありませんが、適切な白にならない場合や逆に色合いを出したい場合は、[AUTO]以外のホワイトバランスを手動で設定します。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - WBボタン(P.381)
 - LVスーパーコンパネ(P.382)
- メニュー (P.382)
- LVコントロール(P.382)

WBモード		設定される色温度	適した撮影シーン
オートホワイト バランス	AUTO	—	一般的なほとんどの撮影シーン(画面内に白に近い色が存在する撮影シーン) <ul style="list-style-type: none"> • 通常はこのモードをお使いください。 • 電球色を残した色合いにする設定もできます(P.383)。
プリセット ホワイトバランス		5300K	晴天の日に屋外で撮るとき、夕焼けを赤く撮るとき、花火を撮るとき
		7500K	晴天の日に屋外の日陰で撮るとき
		6000K	曇天の日に屋外で撮るとき
		3000K	電球に照らされている被写体を撮るとき
		4000K	蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
		—	水中で撮るとき
		5500K	フラッシュの色温度相当の照明で撮るとき
ワンタッチ ホワイトバランス		ワンタッチホワイトバランスで設定した色温度	白に合わせたいものが特定できているとき <ul style="list-style-type: none"> • 実際の撮影環境下で白に合わせたいものの色温度を測って設定します(P.386)。
カスタムホワイト バランス	CWB	2000K ~ 14000K	色温度での特定ができるとき <ul style="list-style-type: none"> • 色温度を選択して設定します。

■ WBボタンで設定する

1 WBボタンを押します。



WBボタン

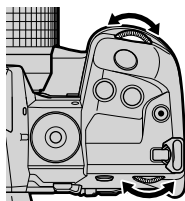
- [WBモード]のメニュー画面が表示されます。



[WBモード]のメニュー

2 フロント／リアダイヤルを回して項目を選択します。

- [AUTO]を選択したときは、**INFO**ボタンを押して、[WBモード 電球色残し]の設定ができます (P.383)。
- ワンタッチホワイトバランス (P.386) やカスタムホワイトバランスを選択したときは、**INFO**ボタンを押して調整値の取得や変更ができます。
- **WB**ボタンを押しながらフロント／リアダイヤルを回しても設定できます。



3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してメニュー画面を終了します。



- 初期設定では、**WB**ボタンで設定できます。[WBモード]の機能を他のボタンに割り当てることもできます。☞動画メニュー [ボタン/ダイヤル/レバー]の[ボタン機能] (P.417)で設定します。

■ LVスーパーコンパネで設定する

LVスーパーコンパネでも設定できます。

OKボタン ➡ [WBモード] ➡ フロントダイヤルで設定

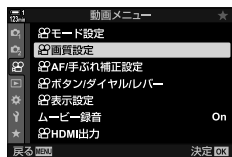
- [WBモード]で[AUTO]を選択したときは、**OK**ボタンを押した後、**INFO**ボタンを押して、[WBモード 電球色残し]の設定ができます(P.383)。
- ワンタッチホワイトバランス(P.386)やカスタムホワイトバランスを選択したときは、**OK**ボタンを押して[WBモード]メニューを表示し、**INFO**ボタンを押すと調整値の取得や変更ができます。
- カスタムホワイトバランス(CWB)に設定したときは、LVスーパーコンパネで表示される色温度を選択して、フロントダイヤルを回して色温度の設定を変更できます。



色温度

■ メニューで設定する

動画メニューの[画質設定]の[WBモード]で設定します。



MENUボタン ➡ タブ ➡ [画質設定] ➡ [WBモード] ➡ △▽ボタンで項目を選択

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールで[WBモード]を選択して、十字ボタンの◀▶で項目を選択します。

- LVコントロールの表示方法については、「LVコントロール(ライブコントロール)で設定する」(P.312)をご覧ください。



WBモード

[WBオート]設定で電球の色合いを残して撮影する (☺WBオート 電球色残し)

ホワイトバランスがオート設定でも、電球の色合いを残した仕上がりになります。ホワイトバランスがオートの場合は正しい色合いで撮影するように自動的に調整されますが、この機能を使うと電球の下で撮影したときの雰囲気を残せます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - **WB**ボタン
- WB**ボタン、LVスーパーコンパネ、LVコントロールでは、ホワイトバランスを**[WB Auto]**に設定して、**INFO**ボタンを押して選択することができます。

■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで[☺WBモード]を選択して**OK**ボタンを押します。



☺WBモード

3

- 2 **[WB Auto]**を選択して、**INFO**ボタンを押します。
 - ・ [☺WBオート 電球色残し]の選択肢が表示されます。



- 3 十字ボタンの<|>で**[On]**を選択し、**OK**ボタンを押します。

■ WBボタンで設定する

[WB Auto]に設定 ➡ **INFO**ボタン ➡ **[On]**に設定

■ メニューで設定する

MENU ➡ ☺ (動画)メニュー ➡ [☺画質設定] ➡ [☺WBオート 電球色残し]を選択 ➡ **[On]**

■ LVコントロールで設定する

[WB Auto]に設定 ➡ **INFO**ボタン ➡ **[On]**に設定

ホワイトバランスを微調整する

(☺ホワイトバランス補正)

ホワイトバランスの設定を微調整できます。個別に調整値を設定できます。以下の補正ができます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - メニュー

A A方向(アンバー - 青)	+方向で赤味がかり、-方向で青味がかった画像になります。
G G方向(緑 - 赤紫)	+方向で緑の色味が増し、-方向で赤紫がかった画像になります。

■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで[☺WBモード]を選択し、ホワイトバランスの設定をします。



☺WBモード

- 2 十字ボタン(△▽◀▶)でWB補正([A±0]または[G±0])を選択し、フロントダイヤルで補正値を設定します。

- **OK**ボタンを押すと、WB補正画面が表示されます。被写体を見ながら調整することができます。フロントダイヤルでA方向かG方向かを選択し、リアダイヤルで調整します。



ホワイトバランス補正値

- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。



- 全てのホワイトバランスの全ての項目を一括で調整することもできます。☺ [☺全WBモード補正] (P.385)

■ メニューで設定する

MENUボタン ➡ ☺ (動画)タブ ➡ [☺画質設定] ➡ [☺WBモード] ➡ いずれかのホワイトバランス設定を選択して十字ボタンの▶を押す ➡ ◀▶ボタンで、A±0またはG±0を選択して△▽ボタンで調整値を設定([CWB]のときは、もう一度▶ボタンを押してから△▽◀▶ボタンで設定)

ホワイトバランスを一律に微調整する

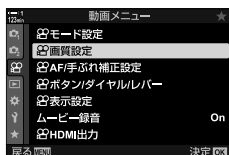
(全WBモード補正)

ホワイトバランスの設定を微調整します。全てのホワイトバランスの設定を一律に微調整することができます。

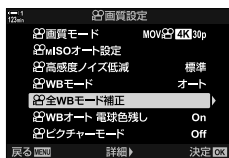
All Set	全てのホワイトバランスの設定を微調整します。A方向(アンバー - 青)とG方向(緑 - 赤紫)の補正ができます。
All Clear	設定した微調整をリセットします。

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 動画メニューで[画質設定]を選択して十字ボタンの▷を押します。



3 △▽ボタンで[全WBモード補正]を選択し、▷ボタンを押します。



4 △▽ボタンで項目を選択し、▷ボタンを押します。

- [All Set]を選択したときは、◀▷ボタンでAまたはGを選択して、△▽ボタンで設定して**OK**ボタンを押します。
- [All Clear]を選択したときは、△▽ボタンで[実行]または[中止]を選択して、**OK**ボタンを押します。





5 **MENU**ボタンを押して、メニューを終了します。

3

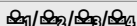
任意のホワイトバランスを設定する

(ワンタッチホワイトバランス)

実際の撮影環境下で白に合わせたいものを測って、ホワイトバランスを設定します。 (晴天)や (曇天)などの用意された設定値や微調整では合わせるのが難しい、微妙な色合いの設定ができます。取得した調整値を記憶させておき、使い分けることができます。

• この機能は以下の方法で設定できます。

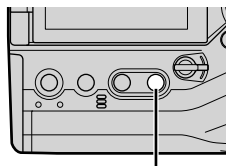
- **WB**ボタン
- LVスーパーコンパネ(P.387)
- LVコントロール(P.387)
- メニュー (P.387)




調整値を取得して、4つまで記憶させておくことができます。

■ WBボタンで設定する

1 WBボタンを押します。



WBボタン

-  [WBモード]のメニュー画面が表示されます。



[WBモード]のメニュー

2 フロント/リアダイヤルを回して、 ~ のいずれかを選択します。

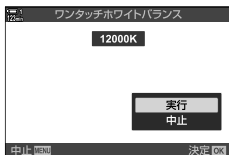


3 白かグレーのような無彩色の紙を画面中央に写るようにして、**INFO**ボタンを押します。

- 写す部分に影ができないように注意してください。
- データを記憶するかどうかを確認する表示が出ます。

4 十字ボタンの△▽で[実行]を選択し、OKボタンを押します。

- 選択しているワンタッチホワイトバランスに設定が記憶され、撮影画面に戻ります。
- 取り直すときは、[中止]を選んでOKボタンを押します。手順3からやり直してください。



- **WB** ボタンを押しながらリアダイヤルを回して、設定を選択することもできます。ボタンを離すと設定が確定して、撮影画面に戻ります。
- ワンタッチホワイトバランスの機能をボタンに割り当てることもできます。[WBボタンダイヤルレバー]の[WBボタン機能] (P.417)で設定します。

■ LVスーパーコンパネで設定する

LVスーパーコンパネでも設定できます。

[WBモード] ➡ OKボタン ➡ フロントダイヤルで \odot_1 ~ \odot_4 のいずれか設定 ➡ INFOボタン ➡ 調整値を取得

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールでも設定できます。

OKボタン ➡ [WBモード] ➡ 十字ボタンの<▷>を押して \odot_1 ~ \odot_4 のいずれかを選択



WBモード

- あらたに設定を取得するときは、**INFO**ボタンを押してワンタッチホワイトバランス取得画面を表示します。

■ メニューで設定する

メニューでは、記憶されているカスタムホワイトバランスを使う設定のみができます。

MENUボタン ➡ タブ ➡ [画質設定] ➡ [WBモード] ➡ 十字ボタンの△▽で \odot_1 ~ \odot_4 のいずれかを選択











画像の仕上がりを設定する

(ピクチャーモード)








画像の色合いや階調を操作して仕上がりを調整します。被写体や表現に合わせて、用意された項目を選ぶだけで設定できます。それぞれの項目別に、コントラストやシャープネスなどの調整をすることができます。アートフィルターでは、フレーム効果などの効果の設定をすることもできます。調整したパラメータはピクチャーモード別に記憶されます。

- この機能は、静止画撮影、ムービー撮影の両方で機能します。

通常のピクチャーモード

 i-Finish	カメラが被写体を自動的に判別して最適な色やコントラストを再現します (P.402)。
 Vivid	鮮やかな色合いになります。
 Natural	自然な色合いになります。
 Flat	素材性を重視した仕上がりになります。
 Portrait	肌色をきれいに上げます。
 モノトーン	モノクロ調に上げます。フィルター効果を使ったり全体的に色付けする調色をすることもできます (P.400)。
 カスタム	調整を加えたピクチャーモードを登録できます。
 eポートレート	肌色をきれいに上げます。
 水中	水中写真にあった色鮮やかな色彩に上げます。
 カラークリエーター	印象に合わせて全体の色合いや彩度を調整します (P.405)。

アートフィルター

 ART 1 ポップアート	色の美しさを強調した仕上がりになります。
 ART 2 ファンタジックフォーカス	柔らかいトーンの中で空気感を表し、幻想的な仕上がりになります。
 ART 3 デイドリーム	全体的に光を散らし、露出をややオーバー気味にして、やさしい光に包まれた浮遊感を表現した仕上がりになります。
 ART 4 ライトトーン	シャドウ部もハイライト部も柔らかく描写し、上質で落ち着いた仕上がりになります。
 ART 5 ラフモノクローム	モノクロならではの力強さ、荒々しさを表現した仕上がりになります。
 ART 6 トイフォト	画面周辺部を暗くして、古いカメラやトイカメラを使って撮ったような仕上がりになります。
 ART 7 ジオラマ	彩度やコントラストを強調し、ピントを合わせた位置以外をぼかすことによって、ミニチュアのような雰囲気になります。

ART 8	クロスプロセス	不安定で非現実的な雰囲気表現した仕上がりになります。クロスプロセスⅡは、マゼンタを強調した色合いになります。
ART 9	ジェントルセピア	全体的に柔らかい描写で、落ち着いた雰囲気の中にもシャドウ部が引き締まった、しっとりとした上品な仕上がりになります。
ART 10	ドラマチックトーン	部分的にコントラストを強くし、明暗差を強調した仕上がりになります。
ART 11	リーニュクレール	エッジラインを強調し、イラストテイストを付加した仕上がりになります。
ART 12	ウォーターカラー	暗部を大胆に削除し、白いキャンパスに淡く明るい色彩をなじませ、さらに柔らかい輪郭線を載せて、ほんわりとした明るい雰囲気仕上がりです。
ART 13	ヴィンテージ	フィルムプリントの変色や退色などの効果を加えることによって、日常のひとコマをノスタルジックなヴィンテージ調に表現します。
ART 14	パートカラー	強調したい色だけを抽出し、それ以外はモノトーンに抑えることによって、被写体を印象的に表現します。
ART 15	ブリーチバイパス	映画撮影などで用いられる「銀残し(ブリーチバイパス)」の効果を加えることで、街並みなどの情景や金属の質感をより印象的に表現します。
ART 16	ネオノスタルジー	フィルム特有の人物の肌のトーンや暗部の色の变化を、現代風にアレンジして表現します。

- 撮影シーンによっては階調が崩れたり、補正の効きが弱くなったり、また映像の粗さが強調される場合があります。
- エフェクトの設定によっては、ライブビューに反映しません。



- **★**カスタムメニュー **01**の【ピクチャーモード表示】(P.520)で表示/非表示の設定ができます。
- カラーグレーディングなどの色調編集のためのムービー専用のピクチャーモードに変更することができます。🔍【ピクチャーモード】(P.393)

ピクチャーモードを設定する

この機能は以下の方法で設定できます。

- LVスーパーコンパネ
- メニュー (P.391)
- LVコントロール

■ LVスーパーコンパネで設定する

1 LVスーパーコンパネで[ピクチャーモード]を選択します。

ピクチャーモード



2 フロントダイヤルで設定値を選択します。

- 設定値によって、効果やシャープネスなどの関連する設定が調整できるようにLVスーパーコンパネの項目が変わります。必要に応じてそれぞれの項目を設定してください(P.396-402)。



ピクチャーモードの設定によって変わります。

3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールでも設定できます。



ピクチャーモード

OKボタン ➡ **[ピクチャーモード]** ➡ 十字ボタンの<D>を押して設定




























- **[カラークリエイター]** (P.405)やアートフィルターの**[パートカラー]** (P.407)では、**INFO**ボタンを押すと色相や彩度を調整する画面が表示されダイヤルを使って調整ができます。

■ メニューで設定する

📷撮影メニュー 1の[ピクチャーモード]で設定します。

MENUボタン ➡ 📷タブ ➡ [ピクチャーモード] ➡ 十字ボタンの△▽で選択 ➡ さらに▷ボタンを押すと、効果などの詳細の設定ができます。

- 各ピクチャーモードで効果の設定ができます。効果はLVスーパーコンパネでも設定することができます。LVスーパーコンパネで設定を変更した場合は、メニューで設定した調整値も変更されます。

ピクチャーモード	設定できる効果	
 i-Finish	[シャープネス] / [コントラスト] / [彩度] / [階調] / [効果]	
 Vivid	[シャープネス] / [コントラスト] / [彩度] / [階調]	
 Natural		
 Flat		
 Portrait		
 モノトーン		[シャープネス] / [コントラスト] / [フィルター効果] / [調色] / [階調]
 カスタム	—	
 eポートレート		
 カラークリエイター		
 水中		
 ポップアート		[効果の追加] 使用できる効果はアートフィルターによって異なります。 [ソフトフォーカス効果] / [ピンホール効果] / [ホワイトエッジ効果] / [フレーム効果] / [スターライト効果] * / [上下ぼかし効果] / [左右ぼかし効果] / [上下シェード] / [左右シェード] / [フィルター効果] / [調色] *  (ムービー)モードでは、[スターライト効果]は動きません。
 ファンタジック フォーカス		
 デイドリーム		
 ライトトーン		
 ラフモノクローム		
 トイフォト		
 ジオラマ		
 クロスプロセス		
 ジェントルセピア		
 ドラマチックトーン		
 リーニクレール		
 ウォーターカラー		
 ヴィンテージ		
 パートカラー		
 ブリーチバイパス		
 ネオノスタルジー		

- ☑(カスタム)に設定しているときは、登録したピクチャーモードに対応した効果が使えます。

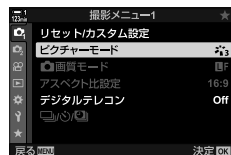
任意のピクチャーモードを登録する (Cカスタムピクチャーモード)

ピクチャーモードに調整を加えて、登録しておくことができます。

登録できるピクチャーモードは、[i-Finish]、[Vivid]、[Natural]、[Flat]、[Portrait]、[モノトーン]です。

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 **撮影メニュー 1**で[ピクチャーモード]を選択し、十字ボタンの▷を押します。



3 △▽ボタンで[カスタム]を選択し、▷ボタンを押します。

- カスタム登録のメニューが表示されます。




3 4 △▽ボタンで登録する内容を設定します。

- [ピクチャーモード]、[シャープネス]、[コントラスト]、[彩度]、[階調]、[効果]、[フィルター効果]、[調色]を設定します。
- △▽ボタンで項目を選択し、▷ボタンを押して設定に進みます。設定が完了したら繰り返し**OK**ボタンを押して、ピクチャーモードのメニュー画面に戻ります。






5 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

カラーグレーディングに適した画質に設定する (ピクチャーモード)


ムービー撮影専用のピクチャーモードを設定します。撮影したムービーを編集するときに、カラーグレーディングなどの色調編集をしやすいように、ダイナミックレンジを優先した階調で記録することができます。[ピクチャーモード]を[On]にしたときに[ピクチャーモード]で選択できます。






- この機能は以下の方法で設定できます。
 - メニュー
 - LVコントロール(P.394)
 - LVスーパーコンパネ(P.394)

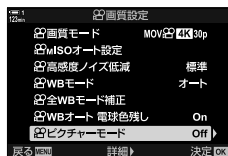
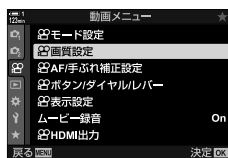
 Flat	カラーグレーディングに適したフラットな階調で記録します。
 OM-Log400	より自由度の高いカラーグレーディングに適したLOGカーブに合わせた階調で記録をします。

- [シャープネス]、[コントラスト]、[彩度]、[階調]の設定はできません。
- [ISO感度]の下限がISO400に制限されます。

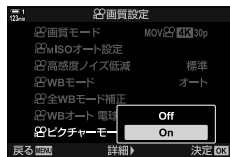
■ メニューで設定する

まず、[ピクチャーモード]の内容を[ピクチャーモード]に変更するための設定をします。

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2  動画メニューで[画質設定]を選択し、十字ボタンの▷を押します。
- 3   ボタンで[ピクチャーモード]を選択し、▷ボタンを押します。



- 4 △▽ボタンで[On]を選択し、OKボタンを押します。



- 5 MENUボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

- 6 撮影メニュー1の[ピクチャーモード]で[Flat]または[OM-Log400]を選択します。

■ LVスーパーコンパネで設定する

あらかじめ、メニューで[ピクチャーモード]を[On]にしておくと、LVスーパーコンパネで選択ができます。

- 1 LVスーパーコンパネで[ピクチャーモード]を選択します。

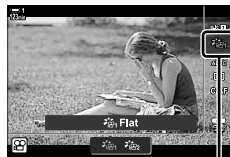
ピクチャーモード



- 2 フロントダイヤルを回して設定値を選択します。
・ [Flat]または[OM-Log400]を選択します。

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールでも設定できます。



ピクチャーモード

OKボタン ➡ [ピクチャーモード] ➡ 十字ボタンの◀▶を押して設定



- ムービー撮影専用のピクチャーモードで記録されたムービーを編集する際に使用するLUTファイルを用意しています。詳しくは当社ホームページをご覧ください。

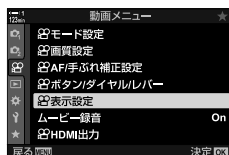
[ピクチャーモード]時のモニター表示を設定する (ビューアシスト)

ピクチャーモードがムービー専用の【Flat】や【OM-Log400】に設定されているとき、モニターに表示する映像を見やすい画質に調整します。

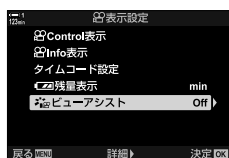
On	映像を見やすい色合いに調整して表示します。アイコンなどの色合いが通常と違って見える場合があります。
Off	調整しません。

1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。

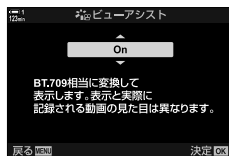
2 動画メニューで【表示設定】を選択し、十字ボタンの▷を押します。



3 △▽ボタンで【ビューアシスト】を選択し、▷ボタンを押します。



4 △▽ボタンで設定を変更し、OKボタンを押します。



5 MENUボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

- この機能は、記録するムービーには影響しません。
- 【Flat】や【OM-Log400】の設定で撮影されたムービーを、カメラで再生したときには適用されません。また、テレビで再生する場合にも適用されません。

3

画像の鮮鋭さを調整します。輪郭の強調をすることでシャープなはっきりした感じの画像にすることができます。それぞれのピクチャーモードで個別に設定しておけます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - メニュー

Hi (+方向)	シャープネスを上げます。輪郭がより強調されます。
Lo (-方向)	シャープネスを下げます。輪郭が控えめに表現されます。

■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで[シャープネス]を選択します。

シャープネス



- 2 フロントダイヤルで設定値を選択します。
- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ メニューで設定する

🔊撮影メニュー 1の【ピクチャーモード】で設定します。

MENUボタン ➡ 🗨️ (撮影メニュー 1)タブ ➡ 【ピクチャーモード】 ➡ 十字ボタンの△▽で選択して▶ボタン ➡ △▽ボタンで【シャープネス】を選択して▶ボタン ➡ △▽ボタンを押して設定

画像の明暗差を調整します。明暗差を強調することではっきりとした印象の強い画像にすることができます。それぞれのピクチャーモードで個別に設定しておけます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - メニュー

Hi (+方向)	明暗差を強くします。はっきりとした強い感じにします。
Lo (-方向)	明暗差を弱くします。柔らかい感じにします。

■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで[コントラスト]を選択します。

コントラスト



- 2 フロントダイヤルで設定値を選択します。
- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ メニューで設定する

☑撮影メニュー 1の[ピクチャーモード]で設定します。

MENUボタン ➡ ☑ (撮影メニュー 1)タブ ➡ [ピクチャーモード] ➡ 十字ボタンの△▽で選択して▶ボタン ➡ △▽ボタンで[コントラスト]を選択して▶ボタン ➡ △▽ボタンを押して設定

画像の色合いや色の濃さを調整します。彩度を上げると色合いのはっきりした印象的な画像になります。それぞれのピクチャーモードで個別に設定しておけます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - メニュー

Hi (+方向) 彩度を強くします。はっきりした色合いでより印象的にします。

Lo (-方向) 彩度を弱くします。柔らかい感じにします。

■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで【彩度】を選択します。



- 2 フロントダイヤルで設定値を選択します。
- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。



■ メニューで設定する

撮影メニュー 1の【ピクチャーモード】で設定します。

MENUボタン ➡ 撮影メニュー 1の【ピクチャーモード】 ➡ 十字ボタンの△▽で選択して▶ボタン ➡ △▽ボタンで【彩度】を選択して▶ボタン ➡ △▽ボタンを押して設定

画像の色や明るさの濃淡を調整します。被写体のイメージに合わせて全体的に明るく表現したり暗く表現します。明暗差によって暗い階調と明るい階調のどちらも表現できます。それぞれのピクチャーモードで個別に設定しておけます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - メニュー

 Auto (階調オート)	画像を細かい領域に分けて部分的に明るさを補正します。黒つぶれ・白とびの起きやすい明暗差の大きい画像に有効です。
 Normal (階調標準)	適度な階調にします。通常は標準に設定してください。


■ LVスーパーコンパネで設定する


- 1 LVスーパーコンパネで【階調】を選択します。



- 2 フロントダイヤルで設定値を選択します。
- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ メニューで設定する

 撮影メニュー 1の【ピクチャーモード】で設定します。

MENUボタン ➡  (撮影メニュー 1)タブ ➡ 【ピクチャーモード】 ➡ 十字ボタンの△▽で選択して▶ボタン ➡ △▽ボタンで【階調】を選択して▶ボタン ➡ △▽ボタンを押して設定

モノトーンにフィルター効果をつける

(フィルター効果)

ピクチャーモード(P.388)の【モノトーン】の設定に、フィルターの効果をつけることができます。被写体の元の色によって明るく表現したりコントラストを強調することができます。黄、橙、赤の順にコントラストが強くなります。緑はポートレート撮影などにも効果的です。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - メニュー

N:無し	フィルター効果を使用しません。
Ye:黄	自然な青空にくっきりとした白い雲が表現されます。
Or:オレンジ	青空らしさや夕日の輝きが少し強調されます。
R:赤	青空らしさや紅葉の輝きがよりいっそう強調されます。
G:緑	人物写真で使用すると肌の色を落ち着かせます。また、口紅の赤い色が強調されます。

3

■ LVスーパーコンパネで設定する

【ピクチャーモード】が【モノトーン】に設定されているときに表示されます。

- 1 LVスーパーコンパネで【フィルター効果】を選択します。

フィルター効果



- 2 フロントダイヤルで設定値を選択します。
- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ メニューで設定する

📷撮影メニュー 1の【ピクチャーモード】で設定します。

MENUボタン ➡ 📷(撮影メニュー 1)タブ ➡ 【ピクチャーモード】 ➡ 十字ボタンの△▽で【モノトーン】を選択して▶ボタン ➡ △▽ボタンで【フィルター効果】を選択して▶ボタン ➡ △▽ボタンを押して設定

ピクチャーモード(P.388)の【モノトーン】の設定に、色味の効果をつけることができます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - メニュー

N:無し	通常の白黒画像になります。
S:セピア	セピア調の画像にします。
B:青	青味がかった画像にします。
P:紫	紫味がかった画像にします。
G:緑	緑味がかった画像にします。

■ LVスーパーコンパネで設定する

【ピクチャーモード】が【モノトーン】に設定されているときに表示されます。

- 1 LVスーパーコンパネで【調色】を選択します。



- 2 フロントダイヤルで設定値を選択します。
- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ メニューで設定する

📷撮影メニュー 1の【ピクチャーモード】で設定します。

MENUボタン ➡ 📷 (撮影メニュー 1)タブ ➡ 【ピクチャーモード】 ➡ 十字ボタンの△▽で【モノトーン】を選択して▷ボタン ➡ △▽ボタンで【調色】を選択して▷ボタン ➡ △▽ボタンを押して設定

ピクチャーモードを[i-Finish]に設定したときの、効果の強さを設定します。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - メニュー

Low (効果 弱)	弱めの効果を画像に加えます。
Standard (効果 標準)	中間程度の効果を画像に加えます。
High (効果 強)	強めの効果を画像に加えます。

■ LVスーパーコンパネで設定する

[ピクチャーモード]が[i-Finish]に設定されているときに表示されます。

- 1 LVスーパーコンパネで[効果]を選択します。



- 2 フロントダイヤルで設定値を選択します。
- 3 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ メニューで設定する

カメラ撮影メニュー 1の[ピクチャーモード]で設定します。

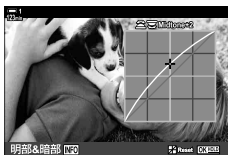
MENUボタン ➡ 撮影メニュー 1 (撮影メニュー 1) タブ ➡ [ピクチャーモード] ➡ 十字ボタンの△▽で[i-Finish]を選択して▶ボタン ➡ △▽ボタンで[効果]を選択して▶ボタン ➡ △▽ボタンを押して設定

ハイライト部／シャドウ部の明るさを変えて撮影する (ハイライト&シャドウコントロール)

明部、暗部、中間部に分けて個別に明るさの調整をします。露出補正だけではできない光のコントロールができます。明部の明るさだけを落としたり、暗部を明るくするといった調整ができます。



暗部補正



中間部補正



明部補正

(上の画面は、ボタンに機能を割り当てたり、LVスーパーコンパネを使って設定するときに表示されます)

- この機能は以下の方法で設定できます。

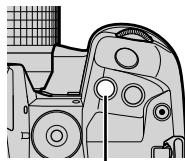
- ボタン

- LVスーパーコンパネ(P.404)

■ ボタンで設定する

1 ボタンを押します。

- 露出補正值にカーソルが表示されます。



ボタン

2 **INFO** ボタンを押します。

- 画面の明るさを示すグラフが表示されます。
- **INFO** ボタンを押すたびに、暗部補正、中間部補正、明部補正、露出補正の順で調整画面がに切り換わります。



(ハイライト&シャドウコントロール)

3 十字ボタンの で調整値を設定します。

- -7から+7の範囲で調整できます。
- **OK** ボタンを長押しすると、設定をリセットできます。

4 **OK** ボタンを押して設定を確定します。

- シャッターボタンを半押しして、設定を終了することもできます。



- ☑ ボタン以外のボタンでハイライト&シャドウコントロールの機能を使うには、露出補正の機能をボタンに割り当てます。☞ 動画メニューの[☞ ボタン/ダイヤル/レバー]の[☞ ボタン機能] (P.417) で設定します。
- ボタンに[マルチFn]を登録すると、直接[ハイライト&シャドウコントロール]の設定に入ることができます。☞ 「マルチファンクションボタンを設定する(マルチFn)」 (P.470)

■ LVスーパーコンパネで設定する

1 LVスーパーコンパネで[ハイライト&シャドウコントロール]を選択し、OKボタンを押します。

- 画面の明るさを示すグラフが表示されます。



ハイライト&シャドウ
コントロール

2 INFOボタンを押して調整する明るさの範囲を選択します。

- **INFO**ボタンを押すたびに調整する範囲が切り換わります。



調整する明るさの範囲

3 ダイヤルを回して調整値を設定します。

- [明部&暗部]のとき
フロントダイヤルで明部、リアダイヤルで暗部の調整をします。
- [中間部]のとき
フロント/リアダイヤルで調整をします。
- **OK**ボタンを長押しすると調整値をリセットできます。

4 OKボタンを押して設定を確定します。

- シャッターボタンを半押しして、設定を終了することもできます。



画面全体の色味を調整する (カラークリエイター)

色相と彩度を直感的な操作で調整できます。30段階の色相と8段階の彩度を設定できます。画面で確認しながら上げることができます。

[カラークリエイター]はピクチャーモードの設定の一つです。[マルチFn]を使うと直接カラークリエイターの設定をすることもできます。Ⓜ動画メニュー [Ⓜボタン/ダイヤル/レバー]の[Ⓜボタン機能] (P.417)で、ボタンに[マルチFn]を登録して使います。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ
 - LVコントロール(P.406)
 - メニュー (P.406)

■ LVスーパーコンパネで設定する

- 1 LVスーパーコンパネで[ピクチャーモード]を選択します。

ピクチャーモード



- 2 フロントダイヤルで[カラークリエイター]を選択します。

- LVスーパーコンパネに[ⓂColor/Vivid]の項目が表示されます。



ⓂColor/Vivid

- 3 十字ボタンの△▽で[ⓂColor/Vivid]を選択し、**OK**ボタンを押します。



- 4 色相と彩度を調整します。

- フロントダイヤルを回して色相を調整します。
- リアダイヤルを回して彩度を調整します。
- **OK**ボタンを長押しすると調整値をリセットできます。



5 OKボタンを押して設定を確定します。

- シャッターボタンを半押しして、設定を終了することもできます。

■ メニューで設定する

メニューを使って設定することもできます。メニューからの設定では調整画面での色相と彩度の調整はできません。記憶させておいた調整値に設定するのみです。

MENUボタン ➡  (撮影メニュー 1)タブ ➡ **[ピクチャーモード]** ➡ **[カラークリエイター]** ➡ 十字ボタンの△▽で設定

■ LVコントロールで設定する

LVコントロールでも設定できます。



ピクチャーモード

- 3** **OK**ボタン ➡ **[ピクチャーモード]** ➡ 十字ボタンの▷で**[カラークリエイター]**を選択
➡ **INFO**ボタンを押して色相彩度調整

特定の色域だけを残して白黒の画像にします。被写体の赤い色だけを残して、他を白黒にするなどの使い方ができます。画面で仕上がりを確認しながら上げることができます。

[パートカラー]はピクチャーモードのアートフィルターの設定の一つです。ピクチャーモードで設定した上で調整をします。色の残し方を変えたⅠからⅢの3つのタイプが選べます。

- 1 LVスーパーコンパネで[ピクチャーモード]を選択します。

ピクチャーモード

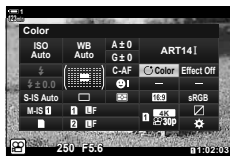


- 2 フロントダイヤルで[ART14Ⅰ]、[ART14Ⅱ]、[ART14Ⅲ]のいずれかを選択します。
 - LVスーパーコンパネに[Color]と[Effect]の項目が表示されます。



3

- 3 十字ボタンの△▽で[Color]を選択し、OKボタンを押します。
 - 画面にカラーリングが表示されます。






- 4 フロント／リアダイヤルで色を選択します。
- 5 OKボタンを押して設定を確定します。
 - シャッターボタンを半押しして、設定を終了することもできます。

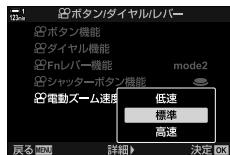
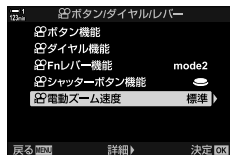
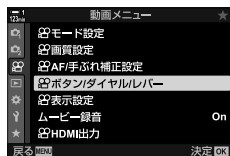
3-10 効果をつける機能

ムービーを録りながら、簡単な効果をつける機能があります。パソコンなどで編集をすることなく、カメラ上で確認しながら撮影することができます。機能によっては、表示設定やダイレクトボタンへの機能登録をして使うものもあります。

電動ズームレンズを使って撮影する (電動ズーム速度)

電動ズームを搭載したレンズでズーミングするときの、ズームの動作速度を変更します。ゆっくりと被写体をアップにするなど、ムービーの一つの効果として使用することができます。[低速]、[標準]、[高速]から選択できます。

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 動画メニューで[ボタンダイヤルレバー]を選択し、十字ボタンの▷を押します。
- 3 △▽ボタンで[電動ズーム速度]を選択し、▷ボタンを押します。
- 4 △▽ボタンで項目を選択し、**OK**ボタンを押します。



- 5 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

撮影しながら被写体を拡大して撮影する

(ムービーテレコン)

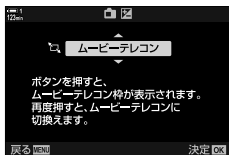
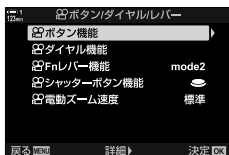
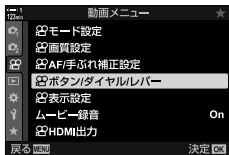
レンズのズーム操作をすることなく、画面の一部を拡大して記録します。瞬時に、被写体のアップや引いた映像に切り換えることができます。録画中でも切り換え位置の移動や切り換え操作ができ、ボタンのほかタッチ操作も使えます。

【ムービーテレコン】は【**ボタン機能**】の一つです。機能のオンオフはボタンを使うので、【**ボタン機能**】(P.417)でボタンに機能を割り当てておく必要があります。

- 【**画質モード**】の【**ムービーサイズ**】が【**4K**】または【**C4K**】のときは、使用できません。
- ハイスピードムービー撮影では使用できません。
- 【**デジタルテレコン**】(P.411)との併用はできません。

■ ボタンに機能を割り当てる

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 **動画メニュー**で【**ボタンダイヤルレバー**】を選択し、十字ボタンの▷を押します。
- 3 △▽ボタンで【**ボタン機能**】を選択し、▷ボタンを押します。
- 4 △▽ボタンで機能を割り当てたいボタンを選択し、▷ボタンを押します。
- 5 △▽ボタンで【**ムービーテレコン**】を選択し、**OK**ボタンを押します。
- 6 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。



■ [ムービーテレコン]の機能を使う

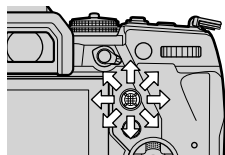
1 []を割り当てたボタンを押します。

- 画面中央に拡大枠が表示されます。



2 拡大枠を拡大したい位置に移動します。

- 拡大枠の移動には、タッチ操作、マルチセレクター、十字ボタン(△▽◀▶)が使えます。
- マルチセレクターを1回押すか、**OK**ボタンを長押しすると、拡大枠が中央に戻ります。



マルチセレクター

3 []を割り当てたボタンをもう一度押します。


- 拡大枠の部分が画面全体に拡大表示されます。
- []を割り当てたボタンをもう一度押すと拡大枠に戻ります。

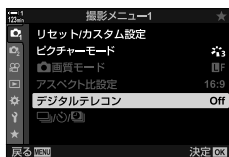
3 4 ムービーテレコンを終了するときは、**OK**ボタンを一度押すか、[]を割り当てたボタンを長押しします。


画像の中央部を切り出して、設定されている画質モードのサイズまで拡大して記録します。被写体を約2倍に拡大して記録できます。レンズの焦点距離以上の倍率で撮影できるため、レンズ交換ができないときや被写体に近づきにくいときなどに便利です。

- 【ムービーテレコン】(P.409)との併用はできません。
- 録画中のオンオフの切り換えはできません。


1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。

2  撮影メニュー 1で【デジタルテレコン】を選択し、十字ボタンの▷を押します。



3  ボタンで【On】を選択し、**OK**ボタンを押します。






- 【On】に設定すると、モニターの表示は2倍に拡大され、が表示されます。画像は拡大された状態で記録されます。

デジタルテレコン



4 MENUボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。



- 【デジタルテレコン】はメニューで設定しますが、 動画メニュー 【 ボタン/ダイヤル/レバー】の【 ボタン機能】(P.417)を使ってボタンに登録すると、ボタンを押す操作だけで、オンオフを切り換えることができます。


3-11 録音の機能


このカメラにはマイクが搭載されています。カメラだけで音声付きのムービーを撮ることができます。録画の際の音量の設定や風切り音の低減をするなどの機能を使うことができます。外部のレコーダーを使った高度な撮影をするときの設定や、マイクやヘッドホンについての設定もあります。

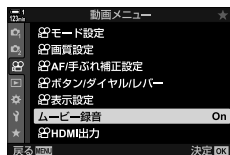
また、別売のオリンパス製ICレコーダー（LS-100）を併用してカメラと連携すると音声の録音ができる機能もあります。

録画時の音声の記録についての設定をします。カメラに外部レコーダーやマイクを接続して使うときの設定もできます。

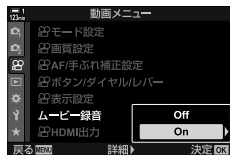
録音レベル調整	マイクの感度を設定します。内蔵マイク、外部マイクそれぞれの感度を設定できます。 [内蔵]：カメラのマイクの設定をします。 [MIC]：マイク端子に接続した外部マイクの設定をします。
入力リミッター	マイクが拾う音量に制限をかけます。一定量より大きいときは自動的に音量を抑えることができます。
風切り音低減	録音時の風による雑音を低減します。
録音レート	音声の記録フォーマットを設定します。 [96/24bit]：高音質の音声フォーマット [48/16bit]：標準の音声フォーマット
プラグインパワー	コンデンサー型マイクのように通電が必要なマイクを使用するときに設定します。 [Off]：通電しません(一般的なダイナミック型マイク)。 [On]：通電します(コンデンサー型マイク)。
PCMレコーダー 接続	外部ICレコーダーを使って音声を記録するときに設定します。オリンパス製ICレコーダーLS-100と併せて使うと録音の同期や基準音の発音ができます。 [カメラ側録音調整]：カメラでの録音調整を[有効]または[無効]にします。 [スレートトーン]：基準音の発音の設定をします。 [REC同期]：カメラの録画の開始停止とレコーダーの録音のタイミングを同期させます。
ヘッドホン音量	ヘッドホン端子に出力する音量を調整します。

- ムービー撮影中の録音では、レンズの駆動音やカメラの操作音が入ることがあります。気になるときは、[AF方式] (P.345)を[S-AF]、[MF]または[PreMF]にして撮影したり、ボタンをなるべく押さないようにするなど、音の発生を抑えてください。
- 以下の場合には録音できません。
ハイスピードムービー撮影/スロー/クイック撮影/ピクチャーモードが^{ART} (ジオラマ)のとき
- ムービー録音が[Off]のときは、が表示されます。
- 音声は設定した[録音レート]に対応した機器以外では再生されません。

- MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
-  動画メニューで[ムービー録音]を選択し、十字ボタンの▷を押します。




- △▽ボタンで[On]を選択し、▷ボタンを押します。
 - ムービー録音設定のメニューが表示されます。

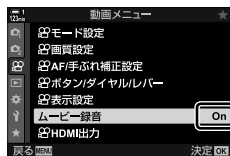


- △▽ボタンで項目を選択し、▷ボタンを押します。
 - 以下の各項目を設定します。

- [録音レベル調整] : [内蔵Q]か[MICQ]を選択して、レベルを設定します。
- [Q入力リミッター] : [Off]または[On]を選択します。
- [風切り音低減] : [Off]、[弱]、[標準]、[強]から選択します。
- [録音レート] : [96/24bit]または[48/16bit]を選択します。
- [Qプラグインパワー] : [Off]または[On]を選択します。
- [PCMレコーダー Q接続] : 各項目を設定します(P.413)。
- [ヘッドホン音量] : 16 ~ 1のレベルを設定します。






- 各項目で設定を終えたら**OK**ボタンを押します。[ムービー録音設定]のメニューに戻ります。

- 設定を終えたら**OK**ボタンを押します。
 -  動画メニューに戻るまで繰り返し**OK**ボタンを押します。[ムービー録音]が[On]になっていることを確認してください。



- MENU**ボタンを押して、メニューを終了します。



- 静音操作で録画中に録音レベル調整することができます。 「タッチ操作で設定する(静音操作)」(P.306)
- Fn**レバーを操作してダイヤルで設定できる機能を変更できるようにすると、ダイヤル操作で[録音レベル調整]や[ヘッドホン音量]を設定することができます。録画中でも設定の変更ができます。  動画メニューの[ Fnレバー機能](P.426)、[ ダイヤル機能](P.424)

オリンパス製ICレコーダー使ってムービー音声を録音する

オリンパス製ICレコーダー（LS-100）を使うと、カメラの操作でスレートトーン発音や録音開始/終了ができます。

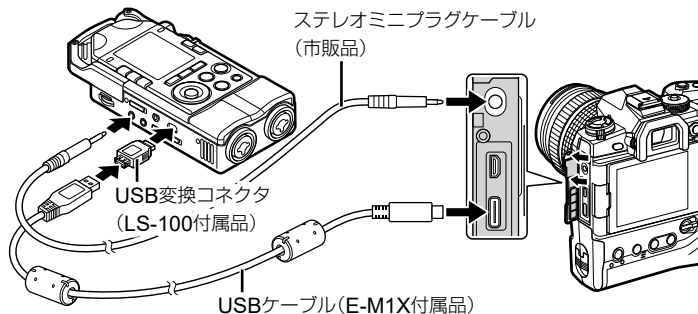
USBケーブルとステレオミニプラグケーブル(市販品)でカメラとLS-100を接続します。接続には、抵抗無しタイプのケーブルをご使用ください。

- ICレコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。また、ICレコーダーのファームウェアは必ず最新にしてお使いください。

1 ICレコーダーをカメラと接続します。

- ICレコーダーをUSB端子に接続してカメラの電源を入れると、接続方法を選ぶ設定画面が表示されます。【PCMレコーダー】に設定してください。
- 接続方法を選ぶ設定画面が表示されないときは、メニューで設定する必要があります。

MENUボタン ➡ ***** (カスタムメニュー)タブ ➡ **D4**タブ ➡ **[USB接続モード]** ➡ **[オート]**または**[PCMレコーダー]**に設定



3

2 【PCMレコーダー 接続】の設定をします。

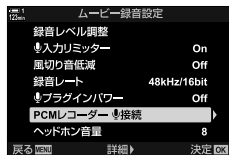
- **MENU**ボタン ➡ **動画メニュー** ➡ **[ムービー録音]** ➡ **[On]** ➡ 十字ボタンの▷

【カメラ側録音調整】：【無効】に設定

【スレートトーン】：【On】に設定

【◎REC同期】：【On】に設定

設定を終えたら【ムービー録音】が【On】になっていることを確認し、繰り返し**MENU**ボタンを押してメニューを終了します。



3 ムービー撮影を開始します。

- ICレコーダーが同時に録音を開始します。
- カメラの**OK**ボタンを長押しすると、スレートトーンの発音ができます。

4 ムービー撮影を終了します。

- ICレコーダーの録音も同時に終了します。



- スレートトーン発音では、ボタンの長押し操作の操作時間の調整ができます。🔊 **【ボタン長押し時間調整】** (P.558)
- カメラの電源をオフにしたり、ICレコーダーを使用しないときは、**USBケーブルを外してください。**



3-12 ボタンやダイヤルの機能を変える

このカメラには、ISO感度やホワイトバランスなどの特定の機能を直接設定するダイレクトボタンや、**Fn**レバーやダイヤルなどの機能を設定するための操作部が搭載されています。これらのボタンやダイヤルの動きを、使い勝手に合わせて変更することができます。ムービー撮影専用の機能をダイレクトボタンに設定して、より簡単に機能を使うことができます。

ボタン機能を変える

(ボタン機能)

あらかじめ割り当てられているボタンの機能を他の機能に変更します。メニューにある機能を割り当てると、撮影時に簡単に機能を設定することができます。

このメニューで設定するボタン機能は、 (ムービー)モードのときに有効になります。**P/A/S/M/B** (静止画撮影)モードでは、 カスタムメニューで設定するボタン機能が有効になります。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ(P.421)
 - メニュー (P.422)

カスタマイズできるボタンと初期設定

アイコン	ボタン	初期設定
	 (露出補正)ボタン	露出補正
	ISO ボタン	ISO感度
	 (ムービー)ボタン	ムービー録画
	LV ボタン	モニター/ファインダー切り換え
	Fn ボタン	AFターゲット選択












アイコン	ボタン	初期設定
	AE/AFL ボタン	AEロック
	WB ボタン	ホワイトバランス
	十字ボタン	AFターゲット選択
	十字ボタンの▷ (右) *	Off (W⇄T)
	十字ボタンの▽ (下) *	Off (WB)
	ワンタッチホワイトバランスボタン	ピーキング
	プレビューボタン	拡大
	縦位置 (露出補正) ボタン	Off
	縦位置 ISO ボタン	Off
	縦位置 AE/AFL ボタン	Off
	縦位置ワンタッチホワイトバランスボタン	Off
	縦位置プレビューボタン	Off
	L-Fn (レンズに装備されている Fn ボタン)	レンズ Fn ボタン(AF停止)

* 十字ボタンの▷および▽に機能を割り当てて使用するときは、 (十字ボタン)を【ダイレクト機能】に設定する必要があります。

ボタンに割り当てられる機能と働き

機能	ボタンに割り当てたときの働き
AF停止(AF Stop)	AFの動作を停止します。ボタンを押している間、AFは停止してピントは固定されます。 L-Fn ボタンにのみ割り当てられます。
AE/AFL ()	露出を固定します。一度押すとロックされ再度押すと解除されます。
REC (ムービー録画)	録画ボタンとして働きます。録画を開始/停止します。
ダイレクト機能 (/[::]//▽)	十字ボタン(△▽◀▶)に機能を割り当てます。それぞれ以下の機能が設定されます。 ◀ボタン: [::] (AFターゲット選択) △ボタン: (露出補正) ▶ボタン: W⇄T (電動ズーム) ▽ボタン: WB (ホワイトバランス) • ▶ボタンは▶で、▽ボタンは▽で設定を割り当てて使います。

機能	ボタンに割り当てたときの働き
[AF]選択 (AFターゲット選択)	AFターゲットの設定をします。 AFターゲットモード(P.349)、AFターゲット位置(P.352)、顔優先AFの設定(P.360)ができます。ボタンを押すと、AFターゲット選択画面が表示されます。フロント/リアダイヤルでAFターゲットモード、顔優先AFの設定、マルチセレクターや十字ボタンでAFターゲット位置の設定をします。
ロック (タッチパネルロック)	タッチ操作を無効にします。ボタンを長押しするとタッチ操作が無効になり、再度長押しすると有効になります。あらかじめ、十字ボタン(▷、▽)を[ダイレクト機能]に設定しておく必要があります。
電動ズーム(W⇄T)	電動ズームレンズを使用時にズーム動作ができます。ボタンを押したあと、十字ボタンでズーム操作します。△または▷ボタンで望遠側、▽または◁ボタンで広角側へズームします。あらかじめ、十字ボタン(▷、▽)を[ダイレクト機能]に設定しておく必要があります。
MF切換(MF切り換え)	AF方式をMFに切り換えます。一度押すとMFに切り換わり再度押すと元の設定に戻ります。ボタンを押しながらダイヤルを回してAF方式を選択することもできます。録画中にボタンを押して切り換えることもできます。[Fnレバー機能]が[mode2]のときは無効です。
露出補正(±)	露出の設定をします。ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回して設定します。ボタンを押して設定状態にしてから設定することもできます。☞(ムービー露出)モードの設定により設定できる内容が異なります。 [P] ：フロント/リアダイヤル、十字ボタンの◁▷で露出補正。 [A] ：フロント/リアダイヤル、十字ボタンの◁▷で露出補正。 △▽ボタンで絞り。 [S] ：フロント/リアダイヤル、十字ボタンの◁▷で露出補正。 △▽ボタンでシャッター速度。 [M] ：ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルで露出補正を設定。
デジタルテレコン(Q²)	デジタルテレコンの設定をします(P.411)。一度押すと拡大し、再度押すと元の表示に戻ります。
ムービーテレコン(📺)	ムービーテレコンの設定をします(P.409)。一度押すと拡大枠が表示され再度押すと枠の部分が拡大表示されます。再度押すと、元の表示に戻り、ボタンを長押しして枠を消します。拡大枠はタッチ操作やマルチセレクター、十字ボタン(△▽◁▷)で位置を移動できます。

機能	ボタンに割り当てたときの働き
拡大(Q)	拡大枠を表示した位置でAFします(P.364)。一度押すと拡大枠が表示され再度押すと枠の部分が拡大表示されます。再度押すと、元の表示に戻り、ボタンを長押しして枠を消します。拡大枠はタッチ操作やマルチセレクター、十字ボタン(△▽◀▶)で位置を移動できます。
ISO感度	[ ISO感度]の設定をします(P.369)。ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回して設定します。ボタンを押して設定状態にしてから設定することもできます。フロント/リアダイヤルや十字ボタンの◀▶で設定します。
WBモード (ホワイトバランス)	[ WBモード]の設定をします(P.380)。ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回して設定します。ボタンを押して設定状態にしてから設定することもできます。フロント/リアダイヤルや十字ボタンの◀▶で設定します。
ワンタッチWB (ワンタッチホワイトバランス)	ワンタッチホワイトバランスの設定をします(P.386)。基準とするもの(白い紙など)を撮影するようにボタンを押します。登録するワンタッチWBを選択するメニューが表示されるので、選択して設定します。
マルチFn (マルチファンクション)	マルチFnボタンに設定します(P.470)。ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回して、複数の機能から一つの機能を選択して使うことができます。ボタンを押して、選択した機能を使用します。
ピーキング(PEAK)	ピーキング表示をします(P.525)。一度押すとピーキング表示をして再度押すと元の表示に戻ります。ピーキング表示中にINFOボタンを押すと詳細設定の画面が表示され、色や強度の変更ができます。
 水準器表示()	デジタル水準器を表示します。ファインダーの露出バー表示を水準器表示に切り換えます。★カスタムメニュー  [EVF表示スタイル]が[スタイル1]、[スタイル2]のときに有効です。
□切換(EVF切り換え)	[EVF自動切換設定](P.553)が[Off]のときは、モニターとファインダーの表示を切り換えます。ボタンを長押しすると[EVF自動切換設定]のメニューを表示します。
手ぶれ補正(IS)	 動画メニュー [AF/手ぶれ補正設定]の[ 手ぶれ補正](P.376)の設定をオフにします。一度押すと[Off]に設定され再度押すと元の設定に戻ります。ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回すと、[ 手ぶれ補正]のメニューが表示され設定の変更ができます。
プリセットMF (PreMF)	[ AF方式]を[プリセットMF]に切り換えます(P.357)。一度押すとプリセットMFに切り換わり、再度押すと元の設定に戻ります。ボタンを押しながらダイヤルを回して[ AF方式]を選択することもできます。録画中にボタンを押して切り換えることもできます。[ Fnレバー機能]が[mode2]のときは無効です。

機能	ボタンに割り当てたときの働き
レンズ情報登録 (Exif Lens)	レンズの登録情報の選択ができます。レンズ交換時などに、登録されているレンズ情報を選択します。
S-AF	AF方式の[S-AF]の動作をします。ボタンを押すと被写体にピント合わせをします。ボタンを押している間はその位置でピントを固定します。
フリッカースキャン (Flicker Scan)	ボタンを押すとフリッカースキャンを[On]にします。画面でスジの発生を確認しながら適切なシャッター速度を選んで撮ることができます。もう一度ボタンを押すと情報表示が切り換わります。ボタンを長押しすると解除します。[Mモード]が[S]または[M]のときに使用できます。[Mフリッカースキャン]の詳細はP.374をお読みください。
OFF	ボタンを使用しません。

■ LVスーパーコンパネで設定する

LVスーパーコンパネで[**ボタン機能**]を設定するときは、撮影モードを[**ムービー**]モードにして行ってください。**P/A/S/M/B**にしたときは、[**カメラボタン機能**]の設定になります(P.463)。

- 1 LVスーパーコンパネで[**ボタン機能**]を選択して**OK**ボタンを押します。
 - [**ボタン機能**]のメニューが表示されます。

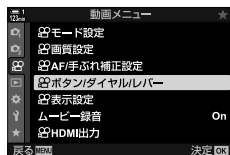


ボタン機能

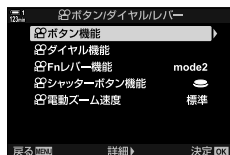
- 2 十字ボタンの△▽で設定するボタンを選択し、▷ボタンを押します。
- 3 △▽ボタンで割り当てる機能を選択し、**OK**ボタンを押します。
 - 他のボタンを設定するときは、手順2～3を繰り返します。
- 4 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

■ メニューで設定する

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 動画メニューで[**ボタン/ダイヤルレバー**]を選択し、十字ボタンの**▷**を押します。



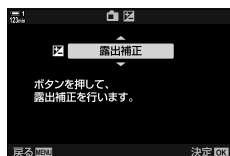
- 3 **△▽**ボタンで[**ボタン機能**]を選択し、**▷**ボタンを押します。



- 4 **△▽**ボタンで機能の割り当てを変更するボタンを選択し、**▷**ボタンを押します。





- 5 **△▽**ボタンで項目を選択し、**OK**ボタンを押します。
 - 必要に応じて手順4と5を繰り返します。










- 6 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

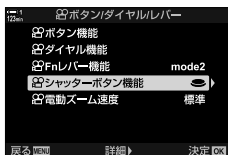
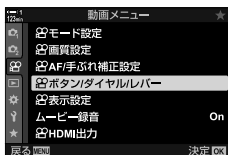
シャッターボタンの機能を変える

(シャッターボタン機能)

シャッターボタンを (録画)ボタンとして設定できます。モードダイヤルを (ムービー)にしているときは、リリースケーブルを使用して録画開始/停止をすることができます。

	シャッターボタンとして使います。AF操作をします。静止画撮影はできません。
	シャッターボタンの全押しで、ムービーの録画開始/停止を行います。 ・ [ REC] に設定しているときは、  ボタンで録画はできません。

- MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 動画メニューで [ボタン/ダイヤルレバー] を選択し、十字ボタンの▷を押します。
- △▽ボタンで [シャッターボタン機能] を選択し、▷ボタンを押します。




- △▽ボタンで設定を変更し、**OK**ボタンを押します。
- MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。







3


フロント／リアダイヤルの機能を変える



(ダイヤル機能)

 (ムービー)モードのときのフロント／リアダイヤルで設定できる機能を変更します。



フロント／リアダイヤルは**Fn**レバーの位置によって機能が変わりますが、割り当てられているそれぞれの機能を変更することができます。撮影の状況や使い勝手に合わせて、フロントとリアのダイヤルの機能を入れ換えたり、他の機能を割り当てることができます。[モード] (ムービー露出モード)別に設定することができます。

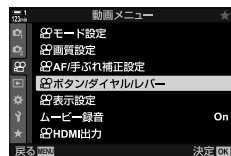
このメニューで設定するダイヤル機能は、 (ムービー)モードのときに有効になります。また、[Fnレバー機能]が[mode1]のときに有効です。**P/A/S/M/B**(静止画撮影)モードでは、カスタムメニューで設定するダイヤル機能が有効になります。

モード別に割り当てられる機能は以下の通りです。

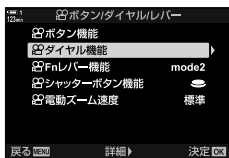
機能	働き	露出モード			
		P	A	S	M
シャッター速度	シャッター速度を設定します。	—	—	○	○
絞り	絞り値を設定します。	—	○	—	○
露出補正	露出補正を設定します。	○	○	○	○
ISO感度	ISO感度を設定します。	—	—	—	○
WBモード	ホワイトバランスを設定します。	○	○	○	○
CWB色温度	ホワイトバランスがCWB (カスタムWB)のときの色温度設定を変更します。	○	○	○	○
 VOL	録音の音量を調整します。	○	○	○	○
 VOL	ヘッドホンの音量を調整します。	○	○	○	○
Off	機能を設定しません。	○	○	○	○

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

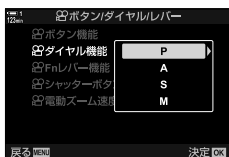
2 動画メニューで[ボタン/ダイヤル/レバー]を選択し、十字ボタンの▷を押します。



- 3 △▽ボタンで[ダイヤル機能]を選択し、▷ボタンを押します。



- 4 設定する項目を選択し、▷ボタンを押します。
- ◀▷ボタンでダイヤルを選択し、△▽ボタンで設定を変更します。
 - **INFO**ボタンを押すと、レバー 1とレバー 2の間でカーソルの位置を切り換えられます。
 - 設定が完了したら、**OK**ボタンを押します。



- 5 **MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

- フロント/リアダイヤルに[VOL]や[VOL]を割り当てたときは、ダイヤル操作をすると画面にそれぞれの設定が表示されます。

音量の設定



Fnレバーの機能を変える

(Fnレバー機能)

Fn (ムービー)モードのときのFnレバー機能の機能を変更します。

フロント/リアダイヤルの機能の変更や、AF機能の設定の変更ができます。

このメニューで設定するFnレバー機能は、Fn (ムービー)モードのときに有効になります。P/A/S/M/B (静止画撮影)モードでは、*カスタムメニューで設定するFnレバー機能が有効になります。

mode1	Fnレバーの位置に応じて、フロント/リアダイヤルの機能を切り換えます。[Fnダイヤル機能] (P.424)の設定に従います。
mode2	Fnレバー 1、2のそれぞれの位置で設定した[AF方式]、[AFターゲットモード]、[AFターゲット位置]に変更します。
Off	Fnレバーを使用しません。

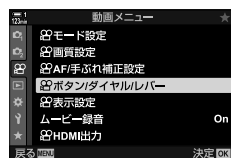
• 以下の場合、この機能は使用できません。

- *カスタムメニュー B1の[Fnレバー機能] (P.475)が、[mode3]に設定されている場合
- *カスタムメニュー B1の[Fnレバー/電源レバー] (P.501)が、[PW1]または[PW2]に設定されている場合

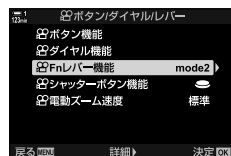
3

1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。

2 Fn動画メニューで[Fnボタン/ダイヤルレバー]を選択し、十字ボタンの▷を押します。



3 △▽ボタンで[Fnレバー機能]を選択し、▷ボタンを押します。



4 △▽ボタンで設定を変更し、OKボタンを押します。

- [mode2]では、▷ボタンを押してFnレバーで切り換える機能を選択します。

[AF方式] : S-AF、C-AFなど

[AFターゲットモード]: シングル、オールなど

[AFターゲット位置] : AFターゲットの位置



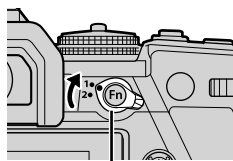
5 MENUボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

■ [Fnレバー機能]の[mode2]を使う

[Fnレバー機能]を[mode2]に設定したときは、Fnレバー 1、2のそれぞれの位置で、AF機能を個別に設定することができます。

- [Fnボタン機能]で割り当てられた[MF切換]、[プリセットMF]は無効になります。

1 Fnレバー 1の位置でAF機能を設定します。



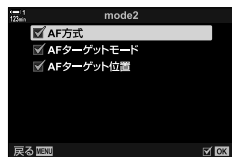
Fnレバー

- 記憶する内容は、メニューで有効にした項目になります。

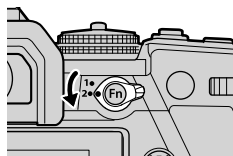
[AF方式] : S-AF、C-AFなど

[AFターゲットモード]: シングル、オールなど

[AFターゲット位置] : AFターゲットの位置



2 Fnレバー 2の位置でAF機能を設定します。



3 Fnレバーを切り換えて、それぞれの位置でAF機能の設定を使います。

3-13 画面表示の内容を変える

撮影時の画面表示に関する設定ができます。

機能の設定に使うLVコントロールやLVスーパーコンパネといった設定画面の表示の選択ができます。また、撮影時のモニター上に表示される機能の設定状態を示すための情報表示のカスタマイズができます。撮影スタイルなどによって使い分けができます。

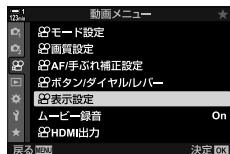
機能設定パネルの表示設定をする (☰Control表示)

撮影機能を設定するパネルの表示/非表示を設定します。

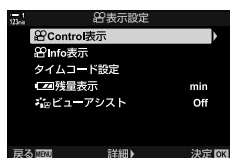
機能設定パネルにはLVコントロールとLVスーパーコンパネがあり、**INFO**ボタンで切り換えができますが、使わないパネルを非表示にできます。

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 ☰動画メニューで[☰表示設定]を選択し、十字ボタンの▷を押します。



3 ▲▼ボタンで[☰Control表示]を選択し、▷ボタンを押します。



4 機能設定パネルを選択して、表示/非表示を設定します。

- ▲▼ボタンで機能設定パネルを選択し、**OK**ボタンを押すと、チェックボックスのオンオフを切り換えられます。チェックを入れると選択した機能設定パネルが表示になり、チェックを外すと非表示になります。



5 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

- LVコントロール表示で表示された機能設定が、**INFO**ボタンを押して詳細設定できる機能の場合は、**INFO**ボタンを押してもパネルの切り換えができません。他の機能を選択してから**INFO**ボタンを押してください。

機能設定アイコンの表示内容を変える (Info表示)

撮影画面に表示される情報表示の選択をします。

機能設定を示すアイコンの表示/非表示や、GPS機能や各センサーで取得する情報を含めた表示(フィールドセンサー Info)の設定ができます。画面上に表示されるアイコンを選択して表示したい場合などに有効です。

表示項目を設定した2種類のカスタム表示とフィールドセンサー Info表示の、3種類の表示設定を使い分けできます。

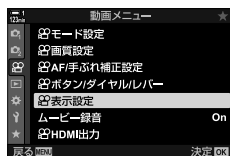
- [カスタム表示1]および[カスタム表示2]の内容は選択表示できます。[フィールドセンサー Info]の内容は選択表示できません。

表示項目	表示設定の種類	
	カスタム表示1/ カスタム表示2	フィールドセンサー Info
ヒストグラム表示	○	—
水準器	○	—
手ぶれ補正	○	○
ピクチャーモード	○	○
ホワイトバランス	○	○
AF方式	○	○
Infoモード	○	○
画質モード	○	○
ISO感度	○	○
タイムコード	○	○
Infoタッチ静音操作	○	—
罫線	○	○
標高	—	○
方位	—	○
緯度/経度	—	○
気温	—	○
気圧	—	○

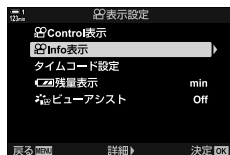
○：表示/非表示設定可能

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 動画メニューで[表示設定]を選択し、十字ボタンの▷を押します。

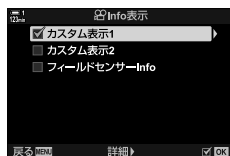


3 △▽ボタンで[Info表示]を選択し、▷ボタンを押します。



4 △▽ボタンで項目を選択し、**OK**ボタンを押します。

- チェックボックスに✓が付きます。チェックがついた項目が表示されます。チェックを外すにはもう一度**OK**ボタンを押します。
- [カスタム表示1]または[カスタム表示2]を選択して▷ボタンを押すと、それぞれで表示する内容を設定できます。△▽ボタンで項目を選択し、**OK**ボタンを押すと、チェックボックスのオンオフが切り換えられます。チェックがついた項目が表示されます。



5 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

■ 表示を切り換える




撮影画面で**INFO**ボタンを繰り返し押すと、情報表示が切り換わります。☞ 「画面の情報表示を選ぶ」(P.327)

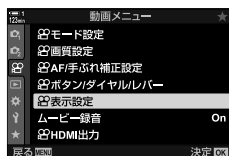
電池残量表示の形式を選択します。残量を%の割合で表示するか撮影可能な時間で表示するかを切り換えます。




- 表示される撮影可能時間は目安としてお使いください。

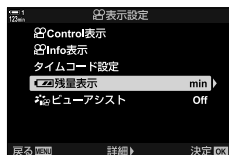
%	電池残量を%で表示します。
min	電池残量を撮影可能時間で表示します。静止画撮影モードのときは、録画中のみ表示されます。


1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2  動画メニューで [ 表示設定] を選択し、十字ボタンの  を押します。



3  ボタンで [ 残量表示] を選択し、 ボタンを押します。



4  ボタンで項目を選択し、**OK**ボタンを押します。



5 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

3-14 HDMI機器を接続して撮影する

カメラの映像信号をHDMIで接続した外部機器に出力することができます。外部モニターを接続して撮影時のモニターとして使ったり、レコーダーを接続してカメラで取り込んだ映像をレコーダーで録画します。ここでは、外部機器をHDMI接続して撮影に使用するときの設定について説明します。

カメラにHDMIケーブルを接続するときは、端子の破損を防ぐために付属のケーブルプロテクターとケーブルクリップをご使用ください。☞「ケーブルプロテクターを取り付ける」(P.29)

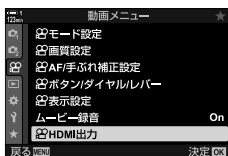
3

HDMI機器への出力設定をする (HDMI出力)

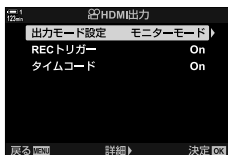
HDMI接続した機器に出力する信号の設定をします。カメラからレコーダーをコントロールする設定や編集用のタイムコードをつける設定ができます。

出力モード設定	<p>【モニターモード】：HDMI接続機器を外部モニターとして使用します。映像とカメラの情報表示を出力します。出力の設定は★カスタムメニュー 04の【HDMI】で設定します(P.434)。</p> <p>【記録モード】：HDMI接続機器を外部レコーダーとして使用します。映像のみ出力します。画像サイズや音声の設定はカメラの設定に従います。</p> <ul style="list-style-type: none">• P/A/S/M/B（静止画撮影）モード、メニュー表示、画像再生中は、【モニターモード】で動作します。
RECトリガー	<p>HDMI接続機器を外部レコーダーとして使用するとき、カメラの録画開始/停止に合わせて外部機器をコントロールします。</p> <ul style="list-style-type: none">• RECトリガーによる録画コントロールに対応した機器で使用できます。
タイムコード	<p>タイムコードを外部機器に出力します。出力方法は、【表示設定】の【タイムコード設定】に従います(P.324)。</p>

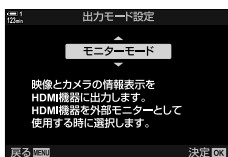
- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 動画メニューで[**HDMI出力**]を選択し、十字ボタンの▷を押します。



- 3 △▽ボタンで設定する項目を選択し、▷ボタンを押します。



- 4 △▽ボタンで項目を選択し、**OK**を押します。
 - 必要に応じて手順3と4を繰り返します。



- 5 **MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

外部モニターへの出力設定をする

(HDMI)

HDMI接続したモニターに出力する信号の設定をします。モニターの性能に合わせてムービーサイズやフレームレートを設定できます。

出力サイズ	HDMI端子に出力する映像信号の形式を設定します。 [C4K] : 4Kデジタルシネマ画質(4096×2160)で出力します。 [4K優先] : 4K画質(3840×2160)優先で出力します。 [1080p優先] : フルハイビジョン形式(1080p)優先で出力します。 [720p優先] : ハイビジョン形式(720p)優先で出力します。 [480p/576p] : 480p/576p形式で出力します。
HDMIコントロール	[On]にすると、HDMIコントロール対応のテレビのリモコン操作を許可します。
出力フレームレート	NTSC地域(60p優先)かPAL地域(50p優先)に合わせて出力する信号のフレームレートを選択します。

1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。

2 *カスタムメニュー **D4** (表示/音/接続)のメニューを表示します。



3 十字ボタンの△▽で[HDMI]を選択し、▷ボタンを押します。



4 △▽ボタンで設定する項目を選択し、▷ボタンを押します。



5 △▽ボタンで項目を選択し、**OK**を押します。

- 必要に応じて手順4と5を繰り返します。



6 **MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

3-15 記録したムービーを操作する機能

撮影したムービーはカードに記録され、カメラのモニターで見ることができます。ムービーは、消去したり、簡単な編集をすることができます。また、あらかじめ予約設定をしておいて、簡単にスマートフォンへ画像を転送する設定もあります。

画像の情報表示を選ぶ

ムービー再生時の情報表示の内容を変更できます。

1 ボタンを押します。

- 最後に撮影した画像が表示されます。
- ムービーには、上下にフィルム状の背景がついて表示されます。

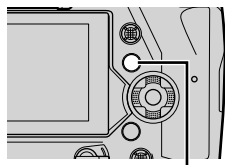


1コマ再生

3

2 **INFO** ボタンを押します。

- ボタンを押すたびに表示が切り換わります。



INFO ボタン



通常表示



表示Off

ムービー再生時の情報表示



- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| ① 電池残量.....P.44 | ⑪ 露出モード(ムービー露出モード)P.332 |
| ② 無線LAN接続状態P.584, 600 | ⑫ 露出WBモードP.380 |
| ③ Bluetooth®接続中.....P.586 | ⑬ ピクチャーモードP.388 |
| ④ パソコン接続中P.600 | ⑭ ファイル番号P.548 |
| ⑤ 無線LAN接続.....P.592, 596, 597 | ⑮ コマ番号 |
| ⑥ ムービーコマP.436 | ⑯ 再生カードスロット.....P.57 |
| ⑦ ムービー録音P.413 | ⑰ 画質モード.....P.321 |
| ⑧ シェア予約.....P.446 | ⑱ 日時P.455 |
| ⑨ プロテクト(保護)P.439 | ⑲ タイムコードP.324 |
| ⑩ 画像選択.....P.448 | |

ムービーをすばやく探す

(インデックス再生／カレンダー再生)

カードに記録されたムービーをサムネイルで画面内に複数表示する「インデックス再生」ができます。見たいムービーをすばやく探すことができます。また、画面表示をカレンダー画面にして、撮影した日付でムービーを探すこともできます。

1 ボタンを押します。

- 最後に撮影した画像が表示されます。



2 リアダイヤルを に回します。








- インデックス再生します。
- マルチセレクターを動かして1コマ表示したい画像を選択します。マルチセレクターを押すと1コマ表示に変わります。
- フロントダイヤルまたは十字ボタン(△▽◀▶)で選択することもできます。



インデックス再生





3

3 インデックス表示のまま再度リアダイヤルを に回します。

- カレンダー再生に変わります。インデックス再生の表示コマ数は  カスタムメニュー  **【/Info表示設定** (P.515)の **【表示** で選択できます。複数の表示タイプを設定したときは、リアダイヤルを何度か  に回すとカレンダー再生に変わります。
- フロントダイヤルまたは十字ボタンで日付を選択して **OK** ボタンを押すと、その日付の画像の1コマ目を表示します。
- リアダイヤルを  または  に回すことで1コマ再生、インデックス再生、カレンダー再生の間を切り換えられます。



カレンダー再生

- 再生するカードの変更は、ボタンを使ってもできます。
 - **CARD** ボタンを押してからフロント／リアダイヤルを回します。
 -  ボタンを押しながらフロント／リアダイヤルを回します。このとき、 カスタムメニュー  **【カードスロット設定** (P.547)の **【スロット**】の設定は変更されません。
- 静止画撮影をして同じカードに記録している場合は、静止画のコマも一緒に表示されます。

記録したムービーを誤って消去しないように保護しておくことができます。一括消去などではプロテクトされたコマは残りますが、カードを初期化したときは、プロテクトされていても消去されます。

- この機能は以下の方法で設定できます。
 - **Fn**ボタン
 - メニュー (P.440)

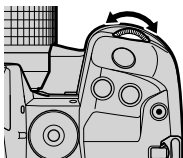
■ **Fn** (プロテクト)ボタンで設定する

1 **▶**ボタンを押します。

- 最後に撮影した画像が表示されます。



2 フロントダイヤルを回して、プロテクトしたい画像を表示します。



3

3 **Fn**ボタンを押します。

- 画像に**Fn** (プロテクトマーク)が付きます。
- 再度**Fn**ボタンを押すと解除されます。
- プロテクトされていない画像を表示して、**Fn**ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回すと、その間に表示される画像にプロテクトがかかります。プロテクトされた画像は、変更されません。
- プロテクトされた画像を表示して、**Fn**ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回したときは、その間に表示される画像のプロテクトが解除されます。プロテクトされていない画像は、そのまま変更されません。
- インデックス再生やクローズアップ再生で画像を選択したときも同様の操作ができます。



Fnボタン

プロテクトマーク



■ メニューで設定する


ムービーコマを表示して、**OK**ボタンを押してメニューを表示して設定します。

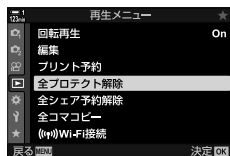
OKボタン ➡ **【プロテクト】** ➡ **OK**ボタン ➡ 十字ボタンの△または▽を押して設定、もう一度押すと解除 ➡ 設定が完了したら、**OK**ボタンを押して確定

全てのプロテクトを解除する (全プロテクト解除)

再生しているスロット内に記録されている画像の全てのプロテクトを解除します。複数の画像に設定しているプロテクトを一括で解除できます。

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 再生メニューで**【全プロテクト解除】**を選択し、十字ボタンの▷を押します。




3 △▽ボタンで**【実行】**を選択して**OK**ボタンを押します。



4 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

3

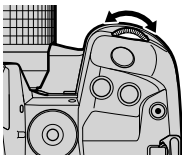
2つのカードスロットに装着されているカードの間でコマのコピーができます。

1  ボタンを押します。

- 最後に撮影した画像が表示されます。

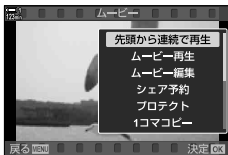


2 フロントダイヤルを回して、コピーしたい画像を表示します。



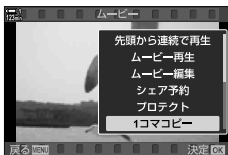
3 **OK**ボタンを押します。

- 画像を操作するメニューが表示されます。



4 十字ボタンの△▽で[1コマコピー]を選択して**OK**ボタンを押します。

- [コピー先フォルダ指定]の画面が表示されます。



5 コピー先のフォルダを指定するかどうかを選択して**OK**ボタンを押します。

[指定する] : 既存のフォルダまたは新規に作成したフォルダにコピーします。手順6に進みます。

[指定しない] : 既存のフォルダにコピーします。



6 手順5で[指定する]を選択した場合は、コピー先のフォルダを選択します。

- △▽ボタンで、[新規作成]または[既存フォルダ選択]を選択して**OK**ボタンを押します。

[新規作成] : △▽ボタンでフォルダ番号を設定して**OK**ボタンを押します。

[既存フォルダ選択] : △▽ボタンで保存するフォルダを選択して**OK**ボタンを押します。

- 選択したフォルダやフォルダ名が使えない場合は、元の画面に戻るので、再度選択します。

7 △▽ボタンで[実行]を選択して**OK**ボタンを押します。



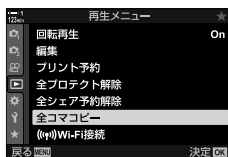
全ての画像をコピーする

(全コマコピー)

2つのカードスロットに装着されているカードの間で全ての画像を一括でコピーできます。

1 ⇒ 2	カードスロット1に装着されているカードからカードスロット2に装着されているカードに全コマコピーします。
2 ⇒ 1	カードスロット2に装着されているカードからカードスロット1に装着されているカードに全コマコピーします。

- MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- ▶**再生メニューで**[全コマコピー]**を選択し、十字ボタンの**▷**を押します。



- △▽**ボタンで**[1]⇒[2]**または**[2]⇒[1]**を選択し、**OK**ボタンを押します。



- △▽**ボタンで**[実行]**を選択して**OK**ボタンを押します。



- MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

- コピー先のカードの空き容量がなくなると、その時点でコピーを終了します。

3

カードに記録した画像を消去します。

- 以下の方法で画像を消去できます。

- 𠵼ボタン

- メニュー

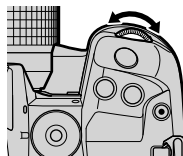
■ 𠵼ボタンで画像を消去する

1 𠵼ボタンを押します。

- 最後に撮影した画像が表示されます。



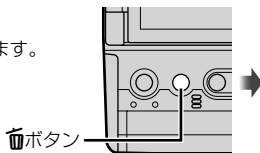
2 フロントダイヤルを回して、消去したい画像を表示します。



3

3 𠵼ボタンを押します。

- 1コマ消去画面が表示されます。



4 十字ボタンの△▽で[実行]を選択してOKボタンを押します。

■ メニューで画像を消去する

画像を再生して、**OK**ボタンを押してメニューを表示します。

OKボタン ➡ [1コマ消去] ➡ **OK**ボタン ➡ 十字ボタンの△▽で[実行]を選択し、**OK**ボタンを押して確定

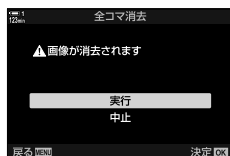
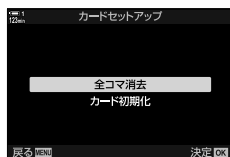


- 実行/中止の確認なしで削除することもできます。⚙️ *カスタムメニュー H2 [ワンブッシュ消去] (P.551)

撮影した画像を一度に全コマ消去する（全コマ消去）

カードに記録した画像を全て消去します。プロテクトした画像は消去されません。

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 **Y**セットアップメニューで**[カードセットアップ]**を選択し、十字ボタンの**▷**を押します。
 - 2つのカードスロットの両方にカードが装着されているときは、カード選択メニューが表示されます。1か2を選んで**OK**ボタンを押してください。
- 3 **△▽**ボタンで**[全コマ消去]**を選択し、**OK**ボタンを押します。
 - 選んだカードに画像が記録されていないときは、**[カード初期化]**のメニューのみになります。別のカードを選択してください。
- 4 **△▽**ボタンで**[実行]**を選択し、**OK**ボタンを押します。
 - 全コマ消去が実行されます。
 - 全コマ消去が終了したら撮影画面に戻ります。



このカメラで撮影したムービーコマを、スマートフォン用のアプリ(OI.Share)を使ってスマートフォンに転送することができます。転送するコマを予約しておくことで、カメラの電源がオフのときに自動で転送することができます。

カメラとスマートフォンを接続する設定は、「6-2 スマートフォンと接続する(Wi-Fi)」(P.584)をお読みください。

• この機能は以下の方法で設定できます。

- ◀ボタン

- メニュー (P.447)

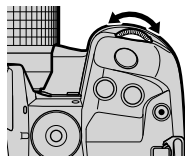
■ ◀ (シェア)ボタンで設定する

1 ▶ボタンを押します。

- 最後に撮影した画像が表示されます。

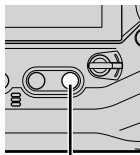


2 フロントダイヤルを回して、予約したい画像を表示します。



3 ◀ボタンを押します。

- 画像に◀ (シェア予約)が付きます。
- 再度◀ボタンを押すと解除されます。
- シェア予約されていない画像を表示して、◀ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回すと、その間に表示される画像はシェア予約されます。その間のシェア予約された画像は、変更されません。
- シェア予約された画像を表示して、◀ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回したときは、その間に表示される画像のシェア予約が解除されます。シェア予約されていない画像は、そのまま変更されません。
- インデックス再生やクローズアップ再生で画像を選択したときも同様の操作ができます。



◀ボタン

シェア予約



■ メニューで設定する


画像を再生して、**OK**ボタンを押してメニューを表示して設定します。

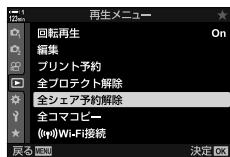
OKボタン ➡ [シェア予約] ➡ **OK**ボタン ➡ 十字ボタンの△または▽を押して予約、もう一度押すと予約解除 ➡ 設定が完了したら、**OK**ボタンを押して確定

- シェア予約できるコマは各スロットにつき200コマです。

全ての転送予約を解除する (全シェア予約解除)

再生しているスロット内に記録されている画像の全てのシェア予約を解除します。

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 再生メニューで[全シェア予約解除]を選択し、十字ボタンの▷を押します。
- 3 △▽ボタンで[実行]を選択して**OK**ボタンを押します。
- 4 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。



3

複数の画像を一括で処理する

(プロテクト／選択コマコピー／選択コマ消去／ 選択コマシェア予約)

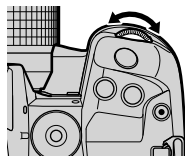
プロテクト、コピー、消去、およびシェア予約の操作を、複数のコマを選んでおいて一括で行うことができます。

1 ボタンを押します。

- 最後に撮影した画像が表示されます。







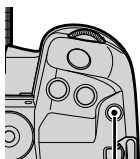
2 フロントダイヤルを回して、選択したい画像を表示します。



3

3 ボタンを押します。

- 画像に✔が付きます。
- 再度 ボタンを押すと解除されます。
- ✔の付いていない画像を表示して、 ボタンを押しながらフロント／リアダイヤルを回すと、その間に表示される画像に✔が付きます。その間の✔がついた画像は、変更されません。 ボタン
- ✔がついた画像を表示して、 ボタンを押しながらフロント／リアダイヤルを回したときは、その間に表示される画像の✔は消えます。✔の付いていない画像は、そのまま変更されません。
- インデックス再生やクローズアップ再生で画像を選択したときも同様の操作ができます。

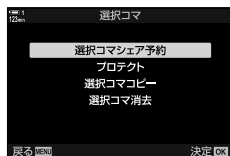


選択マーク



4 画像に✓を入れた状態で**OK**ボタンを押します。

- 処理せずにメニューを終了する場合は**MENU**ボタンを押します。



5 [プロテクト]、[選択コマコピー]、[選択コマ消去]、[選択コマシェア予約]から一括で行う内容を選択して、**OK**ボタンを押します。

- ✓をつけた画像が一括で処理されます。
 - [選択コマコピー]や[選択コマ消去]ではメニューが表示されるので、メニューに従って操作を進めます。
- 再生画面を終了したり、カメラの電源をオフにすると選択は解除されます。




記録したムービーに簡単な加工をすることができます。必要な部分だけ残すトリミングや、ムービーのフレームを静止画として切り出すことができます。

ムービーをトリミングする

(トリミング)

ムービーの削除したい範囲を指定して削除します。特定の部分を残したいときは、この操作を繰り返します。

- 1  ボタンを押して編集するムービーコマを表示し、

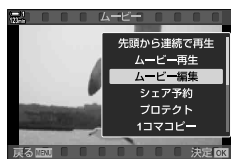
OK ボタンを押します。

- 画像を操作するメニューが表示されます。



- 2 十字ボタンの△▽で【ムービー編集】を選択し、**OK** ボタンを押します。

- ムービー編集メニューが表示されます。



- 3 △▽ボタンで【トリミング】を選択し、**OK** ボタンを押します。

- トリミング後のデータ保存についての選択肢が表示されます。

【新規作成】 : トリミングしたデータを新しいムービーコマとして保存します。

【上書き保存】 : 元のムービーコマに上書きして保存します。

【中止】 : トリミングを中止します。



- 4 項目を選択して**OK** ボタンを押します。

- 編集状態に移ります。

- 5 トリミング編集をします。

- △ボタンでムービーコマの先頭に、▽ボタンで、ムービーコマの最後に移動できます。
- フロント/リアダイヤルで削除する部分の最初のコマを選択して**OK** ボタンを押します。
- フロント/リアダイヤルで削除する部分の最後のコマを選択して**OK** ボタンを押します。



6 [実行]を選択して**OK**ボタンを押します。

- 編集が反映されてデータが保存されます。
- 選択しなおすときは**[中止]**を選択して**OK**ボタンを押します。
- **[上書き保存]**を選択しているときは、同じムービーにさらにトリミングするかの確認が表示されます。引き続き編集するときは、**[続行]**を選択して**OK**ボタンを押します。



ムービーから静止画を作る

(静止画切り出し)

ムービー内のフレームを選択して、静止画として保存します。

- 画質モードが**[4K]**で撮影されたムービーでのみ可能です。

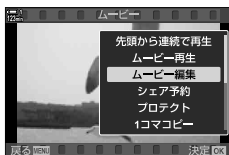
1 ボタンを押して編集するムービーコマを表示し、**OK**ボタンを押します。

- 画像を操作するメニューが表示されます。



2 十字ボタンの△▽で**[ムービー編集]**を選択し、**OK**ボタンを押します。

- ムービー編集メニューが表示されます。

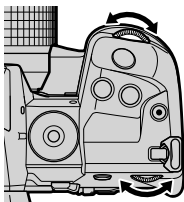


3 △▽ボタンで**[静止画切り出し]**を選択し、**OK**ボタンを押します。



4 フロント/リアダイヤルまたは△▽<|>ボタンで、静止画として保存するコマを表示し、**OK**ボタンを押します。

- 表示したコマが静止画として保存されます。
- △ボタンで2秒分コマ戻し、▽ボタンで2秒分コマ送りできます。



5 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

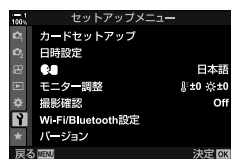
3

4 カメラをカスタマイズする

ダイヤルやボタンの働きを使い方に合わせて変更できます。
また、メニューのカスタマイズもできます。

4-1 カメラの基本的な機能を設定する (**Ⓜ**セットアップメニュー)

カメラの基本的な設定をします。表示する言語やモニター
の明るさの調整などがあります。カメラを使い始めると
きに設定する項目を集めています。



4

カードを初期化する／カードの画像・ムービーを 全て消去する (カードセットアップ)

カメラで使用するカードをセットアップします。静止画撮影、ムービー撮影の前に
実行します。

カード初期化	カードのフォーマットです。カード内の全てのデータが消去されます (P.38)。
全コマ消去	撮影によって記録されたカード内のデータを全て一括で消去します。プロ テクトされているデータは消去されません (P.276, 445)。

MENUボタン ➡ **Ⓜ** (セットアップメニュー)タブ ➡ **[カードセットアップ]** ➡ 十字ボタ
ンの△▽で操作するカードを選択して▷ボタン ➡ △▽ボタンで項目を選択して**OK**ボタン

日時を設定します。GPS機能を使った日時の自動補正もできます。この設定は静止画撮影、ムービー撮影で共通です。

日時	日付、時刻の設定をします(P.45)。
タイムゾーン	タイムゾーンの設定をします。日時設定を行うと引き続き設定する状態になりますが、設定後に変更したいときはこのメニューから設定できます。サマータイムの設定の変更もできます。
GPS自動日時補正	GPS機能により正確な日時を取得して、カメラの日時設定を自動的に合わせます。この機能が働くためには、【タイムゾーン】が正しく設定されている必要があります。カメラの電源がオフのときは機能は働きません。 【Off】：自動補正をしません。 【On】：GPS情報に合わせて日時を自動補正します。

- カメラ内に未保存のフィールドセンサーログがある場合は、変更できません。🔒 「行動をログで記録する」(P.571)

MENUボタン ➡ **i** (セットアップメニュー)タブ ➡ 【日時設定】 ➡ 十字ボタンの△▽で設定項目を選択して▷ボタン ➡ 各設定

カメラで表示する言語を設定する

(🗣️ 言語切り換え)

機能設定時に表示されるガイドやメニューの言語を選択します。

MENUボタン ➡ **i** (セットアップメニュー)タブ ➡ 【🗣️】(言語切り換え) ➡ 十字ボタンの▷ ➡ △▽◀▷ボタンで言語選択



選択の最初や最後までいくと次のページに移動します。

モニターの色合い・明るさを調整する

(モニター調整)

モニターの色温度や明るさを調整します。この設定は静止画撮影、ムービー撮影で共通です。

色温度	色温度を調整します。+7 ~ -7の間で調整できます。
明るさ	明るさを調整します。+7 ~ -7の間で調整できます。
色合い	表示される色合いを選択できます。[Vivid]と[Natural]で選択できます。

- Bモードでは、[BULB/TIME輝度設定]で設定した明るさで表示されます。☑️ ✨ カスタムメニュー ② [BULB/TIME輝度設定] (P.534)

MENUボタン ➡️ ⓘ (セットアップメニュー)タブ ➡️ [モニター調整] ➡️ 十字ボタンの▷ ➡️ <▷ ボタンで[色温度]と[明るさ]を切り換えて、△▽ボタンでそれぞれの設定値を設定 ➡️ **INFO**ボタンを押して[色合い]を切り換え

4

撮影直後に画像を表示する時間を設定する

(撮影確認)

撮影直後に自動的に撮影した画像を表示します。撮影した画像の簡単なチェックができます。画像を表示する時間を変更したり、画像の表示をやめることができます。撮影画像を表示中でもシャッターボタンを半押しするとすぐに次の撮影に入れます(P.90)。

- この機能は、静止画撮影の機能です。

0.3 ~ 20秒	画像を表示する時間を指定します。
Off	確認用の画像を表示しません。撮影後も引き続き被写体を表示します。
Auto ▶	撮影後、画像の再生状態に移ります。画像の消去などの再生時の機能の操作ができます。

MENUボタン ➡️ ⓘ (セットアップメニュー)タブ ➡️ [撮影確認] ➡️ 十字ボタンの▷ ➡️ 項目を選択して設定

無線LAN接続のための設定をする (Wi-Fi/Bluetooth設定)

無線LANと接続するための設定をします。パソコンで画像を確認しながら撮影したり、移動中などにカメラの電源を入れずにスマートフォンで画像を確認することができます。設定や使い方など詳しい説明は「6-2 スマートフォンと接続する(Wi-Fi)」(P.584)、「6-3 パソコンと接続する(Wi-Fi)」(P.600)をお読みください。

Wi-Fi/Bluetooth	Wi-Fi/Bluetooth®機能をオフにします。使用を許可されていない場所などで、設定はそのまま無線LAN、Bluetooth®の機能を停止します(P.568, 583)。
接続パスワード設定	Wi-FiやBluetooth®の接続に使うパスワードを変更します。
バックグラウンド通信	カメラの電源がオフのときに、スマートフォンと無線接続するかどうかを設定します。
Wi-Fi/Bluetooth 設定リセット	[Wi-Fi/Bluetooth設定]の設定内容を初期化します。
Wi-Fi MACアドレス	無線LANを手動で設定する際に必要なカメラのMACアドレスを表示します。

MENUボタン ➡ ⓘ (セットアップメニュー)タブ ➡ [Wi-Fi/Bluetooth設定] ➡ 十字ボタンの△▽で設定項目を選択して▶ボタン ➡ 各設定

ファームウェアのバージョンを確認する(バージョン)

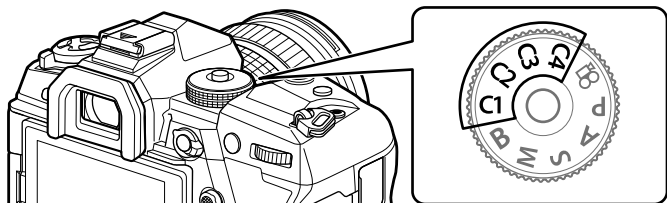
カメラや接続しているレンズ、アクセサリーのファームウェアのバージョンを表示します。お問い合わせいただくときやカメラのファームウェアのアップデートなどの場合に確認してください。

MENUボタン ➡ ⓘ (セットアップメニュー)タブ ➡ [バージョン] ➡ 十字ボタンの▶

4-2 モードダイヤルのカスタマイズ

機能やカスタマイズの設定を、撮影モードの1つとしてモードダイヤルに設定することができます。モードダイヤルをセットするだけで複数の機能の設定ができ、撮影状況の変化にすばやく対応することができます。モードダイヤルの**C1**～**C4**までの4つのカスタムモードを記憶させておくことができます。

呼び出したカスタムモードの設定は、必要に応じて変更できます。モードダイヤルをセットしなおすと、記憶されている設定にすぐに戻せます。



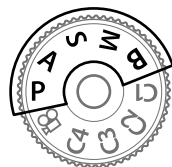
4 任意の設定をモードダイヤルに登録する

(カスタム登録)


撮影モードや各機能を登録したい設定にして、**C1**～**C4**に撮影モードとして登録します。初期状態では、モードダイヤルが**P**（プログラムAE）の初期設定と同じ設定になっています。カスタムモードとして登録できる機能は、「7-5 機能と初期設定一覧」（P.641）をご確認ください。

- 1 撮影モードを**P**、**A**、**S**、**M**、**B**のいずれかにして、カメラの設定を登録したい内容にします。

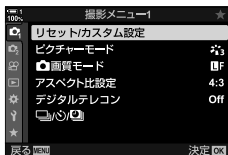
- 設定を登録できる機能は、メニュー一覧(P.641)をご覧ください。



- 2 **MENU** ボタンを押して、メニューを表示します。

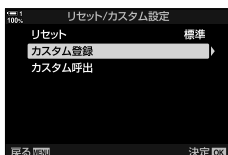
- 3  撮影メニュー1で[リセット/カスタム設定]を選択し、十字ボタンの▷を押します。

• [リセット/カスタム設定]の画面が表示されます。



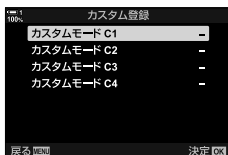
- 4 △▽ボタンで[カスタム登録]を選択し、▷ボタンを押します。

• [カスタム登録]の画面が表示されます。



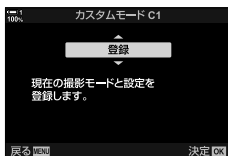
- 5 △▽ボタンで設定したいモードを**C1**、**C2**、**C3**、**C4**から選択し、▷ボタンを押します。

• 選択した[カスタムモード]の画面が表示されます。



- 6 △▽ボタンで[登録]を選択し、**OK**ボタンを押します。

- 設定が登録されて[カスタム登録]の画面に戻ります。
- すでに登録されている内容があるときは、現在の設定に上書きされます。
- すでに登録された内容を初期設定に戻すときは、[クリア]を選択して**OK**ボタンを押します。



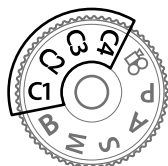
- 7 **MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

モードダイヤルを設定して使うほかに、撮影モード以外の機能の設定だけを使う方法があります。カスタムモードに設定しているときも機能の設定変更はできます。撮影モードを変更してカスタムモードに戻すと設定は登録されている設定に戻ります。


■ モードダイヤルで使う

モードダイヤルを機能を登録した**C1/C2/C3/C4**のいずれかに設定します。

- 登録したカスタムモードの設定になります。




■ メニューで使う

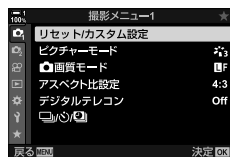
カスタムモードに登録した設定を、 (ムービー)以外の撮影モードで呼び出すことができます。撮影モードはモードダイヤルで設定されているモードになります。



1 カスタム登録した設定内容呼び出したい撮影モードに、モードダイヤルを設定します。

2 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

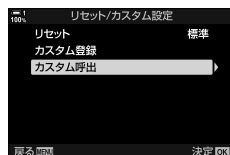
3 撮影メニュー 1で[リセット/カスタム設定]を選択し、十字ボタンの▷を押します。



- [リセット/カスタム設定]の画面が表示されます。

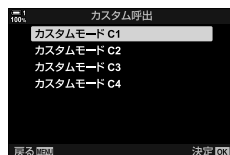


4 ボタンで[カスタム呼出]を選択し、ボタンを押します。

- [カスタム呼出]の画面が表示されます。

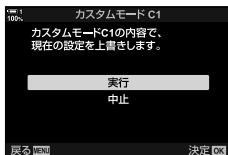


5 ボタンで呼び出すカスタムモードを選択し、ボタンを押します。



6 △▽ボタンで[実行]を選択し、OKボタンを押します。

- 撮影メニュー 1の画面に戻ります。



7 MENUボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

■ Fnボタンで使う

[カスタム呼出]の機能を任意のボタンに割り当てて、実行することができます。ボタンを押すだけで登録したカスタムモードを呼び出して設定できます。撮影モードも設定されます。ボタンを押すたびに、呼び出しと解除を切り換えられます。

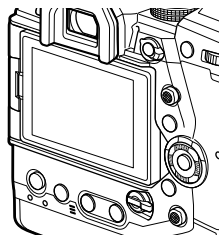
カスタムメニュー B1 [カメラボタン機能] (P.463)

4-3 ボタン／ダイヤルのカスタマイズ

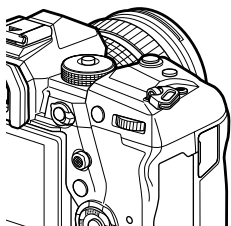
このカメラには、機能の設定に使うダイヤルや多くのボタンが搭載されています。それぞれの操作部は、初期設定で機能が割り当てられています。どれも撮影に合わせて設定を変える頻度が高い機能です。被写体や撮影方法によっては、もっと使用頻度の高い機能が他にある場合があります。そのようなときのために、多くのカスタマイズできる機能を備えています。

ISOボタンや**WB**ボタンといった機能を直接設定するためのボタンは、ダイレクトボタンといいます。これらのボタンは、他の機能に割り当てることができます。

撮影のスタイルや被写体によっては、メニューにある機能を頻繁に設定変更したい場合もあります。そのような機能を割り当てることができます。



通常は露出の設定に使うフロントダイヤルやリアダイヤルの機能を、**WB**設定や**ISO**設定などの機能に変更することができます。ボタンや**Fn**レバーとの組み合わせで、機能を切り換えることもできます。



あらかじめ割り当てられているボタンの機能を他の機能に変更します。メニューにある機能を割り当てると、撮影時に簡単に機能を設定することができます。

【📷 ボタン機能】の設定は、**P/A/S/M/B**（静止画撮影）モードのときに有効になります。🎞（ムービー）モードでは、🎞 動画メニューで設定する【🎞 ボタン機能】が有効になります(P.417)。









- この機能は以下の方法で設定できます。
 - LVスーパーコンパネ(P.468)
 - メニュー (P.469)

■ カスタマイズできるボタンと初期設定

アイコン	ボタン	初期設定
	(露出補正)ボタン	露出補正
	ISO ボタン	ISO感度
	🎞 (ムービー)ボタン	ムービー録画
	LV (LV)ボタン	モニター/ファインダー切り換え
	Fn ボタン	AFターゲット選択
	AEL/AFL ボタン	AEL/AFL
	WB ボタン	ホワイトバランス
	十字ボタン	AFターゲット選択
	十字ボタンの▶ (右) *	Off (📴)
	十字ボタンの▼ (下) *	Off (📴/📷)
	ワンタッチホワイトバランスボタン	ワンタッチホワイトバランス
	プレビューボタン	プレビュー
	縦位置 (露出補正)ボタン	露出補正
	縦位置 ISO ボタン	ISO感度
	縦位置 AEL/AFL ボタン	AEL/AFL
	縦位置ワンタッチホワイトバランスボタン	ワンタッチホワイトバランス
	縦位置プレビューボタン	プレビュー
	L-Fn (レンズに装備されている Fn ボタン)	レンズ Fn ボタン(AF停止)










* 十字ボタンの▶および▼に機能を割り当てて使用するときは、【】(十字ボタン)を【ダイレクト機能】に設定する必要があります。

■ ボタンに割り当てられる機能と働き

機能	ボタンに割り当てたときの働き
AF停止(AF Stop)	AFの動作を停止します。ボタンを押している間、AFは停止してピントは固定されます。 L-Fn ボタンにのみ割り当てられます。
AEL/AFL (AEL)	AEロック、AFロックボタンとして働きます(P.141)。AEロックのときは、一度押すと露出が固定され再度押すと解除されます。動作は★カスタムメニュー A1 の[AEL/AFモード]で変更できません。
◎REC (ムービー録画)	録画ボタンとして働きます。録画を開始/停止します。
ダイレクト機能 ( /[::]/  /▼)	十字ボタン(△▽◀▶)に機能を割り当てます。それぞれ以下の機能が設定されます。 ◀ボタン: [[:]] (AFターゲット選択) △ボタン:  (露出補正) ▶ボタン:  (フラッシュ) ▼ボタン:  (ドライブ) ・▶ボタンは  ▶で、▼ボタンは  ▼で設定を割り当てて使います。
プレビュー (📄)	絞りを実際に絞り込みます。ピントが合っている範囲を確認できます。ボタンを押している間、絞り値まで絞り込みます。動作は★カスタムメニュー D2 の[プレビュー設定]で変更できます(P.524)。
4 ワンタッチWB (ワンタッチホワイトバランス)	ワンタッチホワイトバランスの設定をします(P.207)。基準とするもの(白い紙など)を撮影するように、ボタンを押しながらシャッターボタンを押します。撮影すると登録するワンタッチWBを選択するメニューが表示されるので、選択して設定します。
[[:]]選択 (AFターゲット選択)	AFターゲットの設定をします。 AFターゲットモード(P.120)、AFターゲット位置(P.123)、顔優先AF / 瞳優先AFの設定(P.133)ができます。ボタンを押すと、AFターゲット選択画面が表示されます。フロント/リアダイヤルでAFターゲットモード、顔優先AF / 瞳優先AFの設定、マルチセレクトターや十字ボタンでAFターゲット位置の設定をします。
[[:]]Home (AFホームポジション)	[AF方式]、[AFターゲットモード]、[AFターゲット位置]をあらかじめ登録した状態(ホームポジション)にします。ボタンを押すと設定を変更して再度押すと元の設定に戻ります。ホームポジションは、★カスタムメニュー A2 の[[:]]HOME登録]で設定しておきます(P.487)。 ・カメラが正位置、縦位置のときで別々のホームポジションを登録しておくことができます。  ★カスタムメニュー A2 [[:]]縦位置/横位置切換] (P.489)

機能	ボタンに割り当てたときの働き
MF切換(MF切り換え)	AF方式をMFに切り換えます。一度押すとMFに切り換わり再度押すと元の設定に戻ります。ボタンを押しながらダイヤルを回してAF方式を選択することもできます。【Fnレバー機能】が【mode2】のときは無効です。
RAW⇐ (RAW画質)	【画質モード】をRAW+JPEGとJPEGの間で変更します。元の画質モードがRAWまたはJPEGのときは、ボタンを押すとRAW+JPEGに、RAW+JPEGのときはJPEGに切り換わります。ボタンを押しながらダイヤルを回して画質モードを選択することもできます。
試し撮り撮影 (TEST)	試し撮りができます。各機能の設定の結果を実際に撮影した結果で確認できます。ボタンを押しながらシャッターボタンを押すと、画像を記録せずにモニターに表示します。
カスタムモード撮影 1～4 (C1～C4)	カスタムモードとして登録した設定を呼び出します。ボタンを押すとカスタムモードとして登録されている設定に切り換えます(P.111, 460)。再度押すと、元の設定に戻ります。カスタムモードに切り換わったときも、このボタンの機能は変わりません。
露出補正(±)	<p>露出の設定をします。ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回して設定します。ボタンを押して設定状態にしてから設定することもできます。撮影モードにより設定できる内容が異なります。</p> <p>【P】：フロント/リアダイヤル、十字ボタンの<D>で露出補正。 △▽ボタンでプログラムシフト。</p> <p>【A】：フロント/リアダイヤル、十字ボタンの<D>で露出補正。 △▽ボタンで絞り。</p> <p>【S】：フロント/リアダイヤル、十字ボタンの<D>で露出補正。 △▽ボタンでシャッター速度。</p> <p>【M】：フロントダイヤル、十字ボタンの△▽でシャッター速度。 リアダイヤル、<D>ボタンで絞り。</p> <p>【B】：十字ボタンの△▽でバルブ/タイム撮影、ライブコンポジット撮影の切り換え。リアダイヤル、<D>ボタンで絞り。</p>
デジタルテレコン(Q)	デジタルテレコンの設定をします(P.235)。一度押すと拡大し、再度押すと元の表示に戻ります。
デジタルシフト(⇐)	ボタンを押すとデジタルシフト撮影の設定ができます(P.248)。もう一度ボタンを押すと設定画面を終了します。ボタンを長押しすると、デジタルシフト撮影が解除されます。
フィッシュアイ補正撮影 (魚)	フィッシュアイ補正撮影の設定をします(P.250)。一度押すとフィッシュアイ補正撮影で設定されている状態に切り換わります。もう一度ボタンを押すと終了します。ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回すと【画角】の設定を1、2、3で切り換えられます。

機能	ボタンに割り当てたときの働き
拡大(Q)	一度押すと拡大枠が表示され、再度押すと枠の部分が拡大表示されます(P.136)。再度押すと、元の表示に戻り、ボタンを長押しして枠を消します。拡大枠はタッチ操作やマルチセレクター、十字ボタン(△▽◀▶)で位置を移動できます。
HDR撮影(HDR)	HDR撮影の設定をします(P.195)。一度押すとHDR撮影で設定されている状態に切り換わります。もう一度ボタンを押すと終了します。ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回すとHDR BKTの設定を含む[HDR撮影]の設定を変更できます。
BKT切換(BKT)	BKT(ブラケット)撮影の設定をします(P.236)。一度押すとBKT撮影で設定されている状態に切り換わります。もう一度ボタンを押すと終了します。ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回すと[BKT撮影]の設定を変更できます。
ISO感度	[ISO感度]の設定をします(P.181)。ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回して設定します。ボタンを押して設定状態にしてから設定することもできます。フロント/リアダイヤルや十字ボタンの◀▶で設定します。
WBモード (ホワイトバランス)	[ホワイトバランス]の設定をします(P.202)。ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回して設定します。ボタンを押して設定状態にしてから設定することもできます。フロント/リアダイヤルや十字ボタンの◀▶で設定します。
マルチFn (マルチファンクション)	マルチFnボタンに設定します(P.470)。ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回して、複数の機能から一つの機能を選択して使うことができます。ボタンを押して、選択した機能を使用します。
ピーキング(PEAK)	ピーキング表示をします(P.525)。一度押すとピーキング表示をして再度押すと元の表示に戻ります。ピーキング表示中にINFOボタンを押すと詳細設定の画面が表示され、色や強度の変更ができます。
水準器表示()	デジタル水準器を表示します。ファインダーの露出バー表示を水準器表示に切り換えます。再度押すと戻ります。*カスタムメニュー [EVF表示スタイル] (P.554)が[スタイル1]、[スタイル2]のときに有効です。
切換(EVF切り換え)	ファインダー撮影とライブビュー撮影を切り換えます。[EVF自動切換設定] (P.553)が[Off]のときは、モニターとファインダーの表示を切り換えます。ボタンを長押しすると[EVF自動切換設定]のメニューを表示します。
OVFシミュレーション ()	[OVFシミュレーション]の設定をします(P.89)。一度押すと[On]に設定されます。もう一度ボタンを押すと[Off]に戻ります。

機能	ボタンに割り当てたときの働き
AFリミッター (AF Limit)	[AFリミッター] の設定をします(P.143)。一度押すと [AFリミッター] で設定されている状態に切り換わります。もう一度ボタンを押すと終了します。ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回すと記憶されている3つの設定の間で変更ができます。
プリセットMF (PreMF)	[AF方式] を [プリセットMF] に切り換えます(P.129)。一度押すとプリセットMFに切り換わり、再度押すと元の設定に戻ります。ボタンを押しながらダイヤルを回して [AF方式] を選択することもできます。 [Fnレバー機能] (P.475)が [mode2] のときは無効です。
レンズ情報登録 (Exif Lens)	レンズの登録情報の選択ができます(P.550)。レンズ交換時などに、登録されているレンズ情報を選択します。
手ぶれ補正 (IS)	[手ぶれ補正] 設定をオフにします(P.176)。一度押すと [Off] に設定され再度押すと元の設定に戻ります。ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回すと、 [手ぶれ補正] のメニューが表示され設定の変更ができます。
フリッカーキャン (Flicker Scan)	[フリッカーキャン] (P.193)を設定します。ボタンを押すと [On] になります。画面でスジの発生を確認しながら適切なシャッター速度を選んで撮ることができます。再度ボタンを押すと、情報表示が切り換わりシャッター速度以外の設定ができます。ボタンを長押しすると、 [フリッカーキャン] を [Off] にします。
 ロック (タッチパネルロック)	タッチ操作を無効にします。ボタンを長押しするとタッチ操作が無効になり、再度長押しすると有効になります。あらかじめ、十字ボタン(▷、▽)を [ダイレクト機能] に設定しておく必要があります。
電動ズーム (W⇄T)	電動ズームレンズを使用時にズーム動作ができます。ボタンを押したあと、十字ボタンでズーム操作します。△または▷ボタンで望遠側、▽または◁ボタンで広角側へズームします。あらかじめ、十字ボタン(▷、▽)を [ダイレクト機能] に設定しておく必要があります。
フラッシュ (🔦)	フラッシュの設定をします(P.252)。一度押すと設定メニューが表示され再度押すと設定が確定されメニューが消えます。フロント/リアダイヤルや十字ボタンの◁▷で設定します。あらかじめ、十字ボタン(▷、▽)を [ダイレクト機能] に設定しておく必要があります。
 (連写/セルフタイマー)	ドライブ(連写やセルフタイマー)の設定をします(P.151)。一度押すと設定メニューが表示され再度押すと設定が確定されメニューが消えます。フロント/リアダイヤルや十字ボタンの◁▷で設定します。あらかじめ、十字ボタン(▷、▽)を [ダイレクト機能] に設定しておく必要があります。

機能	ボタンに割り当てたときの働き
ライブND撮影(ND)	ライブND撮影の設定をします(P.197)。一度押すと[ライブND撮影]で設定されている状態に切り換わります。もう一度ボタンを押すと終了します。ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回すと[ライブND撮影]の設定を変更できます。
OFF	ボタンを使用しません。

■ LVスーパーコンパネで設定する

LVスーパーコンパネで[**カメラボタン機能**]を設定するときは、撮影モードを**P/A/S/M/B**にして行ってください。**M**（ムービー）モードにしたときは、[**カメラボタン機能**]の設定になります(P.417)。

- 1 LVスーパーコンパネで[**カメラボタン機能**]を選択して**OK**ボタンを押します。



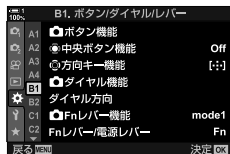
カメラボタン機能

- 2 十字ボタンの△▽で設定するボタンを選択し、▷ボタンを押します。
- 3 △▽ボタンで割り当てる機能を選択し、**OK**ボタンを押します。
 - 他のボタンを設定するときは、手順2～3を繰り返します。
- 4 シャッターボタンを半押しすると、設定を確定してLVスーパーコンパネを終了します。

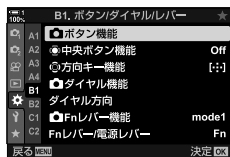


■ メニューで設定する

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 **★**カスタムメニュー **B1** (ボタン/ダイヤル/レバー)のメニューを表示します。



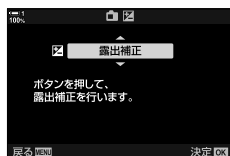
- 3 十字ボタンの△▽で[**📷**ボタン機能]を選択し、▷ボタンを押します。



- 4 △▽ボタンで機能の割り当てを変更するボタンを選択し、▷ボタンを押します。



- 5 △▽ボタンで項目を選択し、**OK**ボタンを押します。
 - 必要に応じて手順4と5を繰り返します。



- 6 **MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

マルチファンクションボタンを設定する (マルチFn)

一つのボタンで複数の機能の設定ができる機能です。

【マルチFn】(マルチファンクション)という機能をボタンに割り当てることで、マルチファンクションボタンとして使うことができます。

【マルチFn】で切り換えることができる機能は以下の通りです。

ハイライト&シャドウコントロール	明部、暗部、中間部に分けて個別に明るさの調整をします (P.227, 403)。
カラークリエイター	色相と彩度の調整をします。ピクチャーモードが【カラークリエイター】に設定されます。
ISO感度	ISO感度設定のメニューを表示します (P.181, 369)。
ホワイトバランス	ホワイトバランス設定のメニューを表示します (P.202, 380)。
拡大	拡大枠を表示します。スーパースポットAFができます (P.136, 364)。
アスペクト比設定	アスペクト比設定のメニューを表示します (P.233)。
OVFシミュレーション	ファインダーの表示のダイナミックレンジを拡大して表示します。再度ボタンを押すと元の表示に戻ります (P.89)。
ピーキング	ピーキング表示をします。再度ボタンを押すと元の表示に戻ります (P.525)。

- 表示される機能を選択することができます。☞ 「マルチFnで選べる機能を選択する」 (P.472)、【マルチFn表示設定】 (P.521)

■ 【マルチFn】(マルチファンクション)をボタンに設定する

マルチファンクションボタンを使うには、【マルチFn】の機能をボタンに割り当てる必要があります。P/A/S/M/Bモードでは、★カスタムメニュー B1)の【📷ボタン機能】 (P.463)、🎞️ (ムービー)モードでは🎞️動画メニューの【🎞️ボタン機能】 (P.417)で設定します。ここではLVスーパーコンパネを使って設定します。

- 1 LVスーパーコンパネで【📷ボタン機能】を選択し、OKボタンを押します。

- P/A/S/M/Bモードでは【📷ボタン機能】、🎞️モードでは【🎞️ボタン機能】のメニュー画面が表示されます。



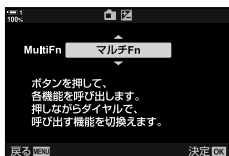
📷ボタン機能

- 2 十字ボタンの△▽で機能を設定するボタンを選択して▷ボタンを押します。



- 3 △▽ボタンで[マルチFn]の機能を選択して、OKボタンを押します。

- 選択したボタンによっては[マルチFn]がない場合があります。他のボタンを選択してください。



- 4 設定を終了したらOKボタンを押してメニューを終了します。
- 撮影画面に戻ります。

■ マルチファンクションボタンを使う

- 1 [マルチFn]を割り当てたボタンを押しながら、フロント／リアダイヤルを回します。
- ダイヤルを回して、設定したい機能にカーソルを合わせます。設定したい機能を選択したらボタンを離します。



- 2 [マルチFn]を割り当てたボタンを一度押します。
- 3 設定します。

ハイライト&シャドウコントロール	フロント／リアダイヤルで設定します。 INFO ボタンを押すと調整する範囲(明部、暗部、中間部)の変更ができます。
カラークリエイター	フロントダイヤルで色合い、リアダイヤルで彩度を設定します。
ISO感度	フロント／リアダイヤルで設定を変更します。
ホワイトバランス	フロント／リアダイヤルで設定を変更します。
拡大	拡大枠が表示されます。
アスペクト比設定	フロント／リアダイヤルで設定を変更します。
OVFシミュレーション	ボタンを押すたびにオンオフを切り換えます。
ピーキング	

■ マルチFnで選べる機能を選択する

マルチファンクションで呼び出せる機能を選択します。メニューで設定します。

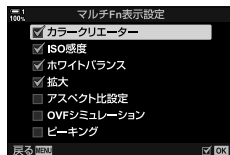
1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 **★**カスタムメニュー **D1** (表示/音/接続)を表示し、[マルチFn表示設定]を選択して十字ボタンの**▷**を押します。



3 マルチFnで使う機能を選択します。

- **OK**ボタンを押すと、チェックボックスに**✓**が表示され、機能が使用できます。
- 機能を使用しないときは、再度**OK**ボタンを押すと、**✓**が消えて使用する機能から外されます。



4 設定が完了したら、**MENU**ボタンを押します。

- **★**カスタムメニュー **D1**の画面に戻ります。




5 **MENU**ボタンを押して、メニューを終了します。


- ハイライト&シャドウコントロールは、常に表示されます。

フロント／リアダイヤルの機能を変える

(ダイヤル機能)

フロント／リアダイヤルで設定できる機能を変更できます。**Fn**レバーの位置によって切り換える機能も変更できます(P.475)。メニュー表示中や画像再生時の操作についても変更できます。

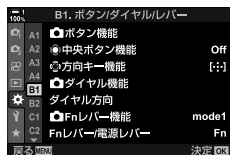
このメニューで設定するボタン機能は、**P/A/S/M/B** (静止画撮影)モードで有効です。 (ムービー)モードでは、 動画メニューで設定する[ダイヤル機能]が有効になります(P.424)。

撮影モードや (再生)モードで割り当てられる機能は以下の通りです。**Fn**レバーが1、2それぞれの位置のときの状態を設定できます。

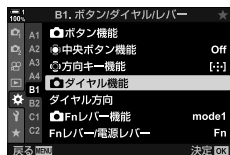
割り当てられる機能	働き	撮影モード				
		P	A	S	M	B
Ps (プログラムシフト)	プログラムシフトを設定します。	○	—	—	—	—
シャッター速度	シャッター速度を設定します。	—	—	○	○	○*
絞り	絞り値を設定します。	—	○	—	○	○
露出補正	露出補正を設定します。	○	○	○	○	○
フラッシュ補正	フラッシュ補正を設定します。	○	○	○	○	○
ISO感度	ISO感度を設定します。	○	○	○	○	○
WBモード	ホワイトバランスを設定します。	○	○	○	○	○
CWB 色温度	ホワイトバランスが CWB (カスタムWB)のときの色温度設定を変更します。	○	○	○	○	○
Off	機能を設定しません。	○	○	○	○	○
 /Value (カーソル上下移動)	メニュー表示中にカーソルを上下に移動させます。	—				
 (カーソル左右移動)	メニュー表示中にカーソルを左右に移動させます。					
 Q (インデックス/拡大)	画像再生中、画像を拡大、インデックス表示します。	—				
コマ送り/戻し	画像再生中、次の画像を表示、前の画像を表示します。					

* BULB、TIME、LIVE COMP を切り換えます。

- MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- ✳️カスタムメニュー **B1** (ボタン/ダイヤル/レバー) のメニューを表示します。



- 十字ボタンの△▽で[**ダイヤル機能**]を選択し、▷ボタンを押します。



- 設定する項目を選択し、▷ボタンを押します。



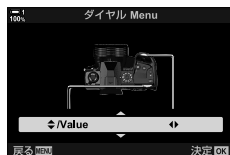
[P] / [A] / [S] / [M/B]を選択した場合

- ◀▷ボタンでダイヤルを選択し、△▽ボタンで機能を変更します。
- INFO**ボタンを押すと、レバー 1とレバー 2の間でカーソルの位置を切り換えられます。
- 設定が完了したら、**OK**ボタンを押します。



[Menu] / [▶]を選択した場合

- △▽ボタンで設定を変更し、**OK**ボタンを押します。



- MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

Fnレバーの機能を変更します。

フロント/リアダイヤルの機能の変更や、AF機能の設定の変更ができます。ムービー撮影に切り換えることもできます。

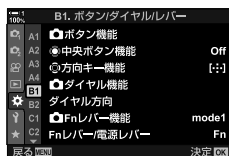
この機能は、**P/A/S/M/B**（静止画撮影）モードのときに有効になります。📹（ムービー）モードでは、📹動画メニューで設定する[📹Fnレバー機能]が有効になります（P.426）。

mode1	Fnレバーの位置に応じて、フロント/リアダイヤルの機能を切り換えます。[📷ダイヤル機能]（P.473）の設定に従います。
mode2	Fnレバー 1、2のそれぞれの位置で設定した[AF方式]、[AFターゲットモード]、[AFターゲット位置]に変更します。
mode3	Fnレバーの位置に応じて撮影モードを切り換えます。モードダイヤルを切り換えることなく、撮影モードを📹（ムービー）に切り換えます。
Off	Fnレバーを使用しません。

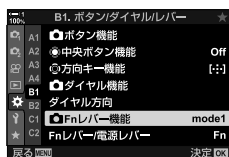
- この機能は、以下のときは使用できません。
 - ★カスタムメニュー B1 の[Fnレバー/電源レバー]（P.501）が[PW1]または[PW2]に設定されているとき

1 MENUボタンを押して、メニューを表示します。

2 ★カスタムメニュー B1（ボタン/ダイヤル/レバー）のメニューを表示します。



3 十字ボタンの△▽で[📷Fnレバー機能]を選択し、▷ボタンを押します。



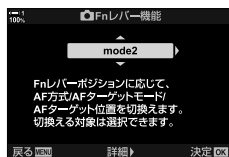
4 △▽ボタンで項目を選択し、OKボタンを押します。

- [mode2]では、▷ボタンを押してFnレバーで切り換える機能を選択します。

[AF方式] : S-AF、C-AFなど

[AFターゲットモード]: シングル、オールなど

[AFターゲット位置] : AFターゲットの位置



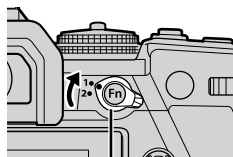
- 5 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

■ [Fnレバー機能]の[mode2]を使う

[Fnレバー機能]を[mode2]に設定したときは、Fnレバー 1、2のそれぞれの位置で、AF機能を個別に設定することができます。

- [Fnボタン機能]で割り当てられた[MF切換]、[プリセットMF]は無効になります。

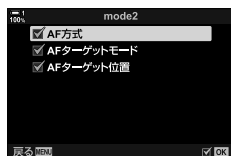
- 1 **Fn**レバー 1の位置でAF機能を設定します。



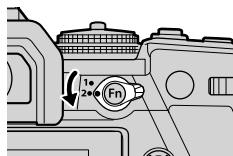
Fnレバー

- 記憶する内容は、メニューで有効にした項目になります。

[AF方式] : S-AF、C-AFなど
[AFターゲットモード]: シングル、オールなど
[AFターゲット位置] : AFターゲットの位置



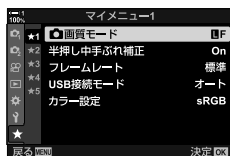
- 2 **Fn**レバー 2の位置でAF機能を設定します。



- 3 **Fn**レバーを切り換えて、それぞれの位置でAF機能の設定を使います。

4-4 メニューのカスタマイズ

このカメラには、被写体や撮影スタイルに合わせてカメラの機能をカスタマイズできるように、多くのメニューが搭載されています。設定を変更しながら撮影するときなどは、必要なメニューを簡単に開けるように、自分だけのメニューを用意しておくことができます。



自分用のメニューを用意する (マイメニュー)

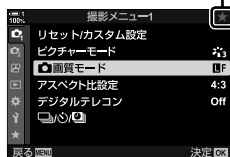
4

選んだメニュー項目を集めて、自分用のメニュータブに収録できます。マイメニューは、最大5タブ、1タブに最大7項目登録できます。登録した項目を解除したり、タブや項目の順序を入れ換えることもできます。

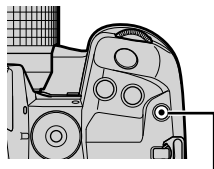
はじめてカメラを使うときには何も登録されていません。

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 マイメニューに登録したい項目を選択します。
 - 登録できる項目のときは、画面右上に★が表示されます。

登録できることを示す
アイコン

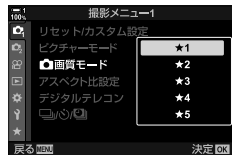


3 ◎ (ムービー)ボタンを押します。



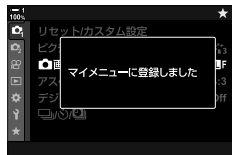
◎ (ムービー)ボタン

- 登録するマイメニューのページ選択画面が表示されます。十字ボタンの△▽で登録するページを選択します。

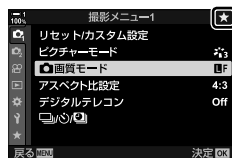


4 OKボタンを押すと指定したページに登録されます。

- 登録を知らせるメッセージが表示されます。



- マイメニューに登録された項目は、★が黄色で表示されます。
- タブに7項目登録されると、空きのあるタブに変更されます。
- ★の付いた項目を選択して◎ボタンを押すと、マイメニューの登録から削除されます。【実行】を選択してOKボタンを押します。
- 登録された項目は、メニューの★ (マイメニュー)タブに収録されます。



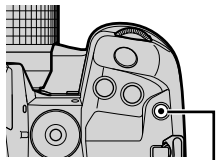
★ (マイメニュー)タブ

5 マイメニューを使うときは、メニューの★ (マイメニュー)タブを選択します。

■ マイメニューの内容を整理する

マイメニューに登録した項目の順序を入れ換えたり、削除することができます。

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 編集したいマイメニューの項目を選択し、**◎**（ムービー）ボタンを押します。



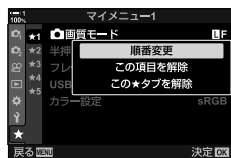
◎（ムービー）ボタン

- 管理メニューが表示されます。

[順番変更] : 項目順番やタブを移動をします。
十字ボタン(△▽◀▶)で移動先
を選択します。

[この項目を解除] : 選択している項目を登録から解除
します。**[実行]**を選択して**OK**
ボタンを押します。

[この★タブを解除] : 選択した項目が登録されているタブ
内の、全項目の登録を解除します。
[実行]を選択して**OK**ボタンを押し
ます。



4-5 各機能をカスタマイズする

このカメラには、被写体や撮影スタイルに合わせてカメラの機能をカスタマイズできるように、多くのメニュー機能が搭載されています。AFやドライブ、露出などの機能の詳細なカスタマイズをすることで、カメラの性能を十分に活かすことができます。それらの機能は✳️カスタムメニューに収録されています。



ピント合わせに関する機能

(カスタムメニュー **A1/A2/A3/A4**)

ピント合わせに関する機能が集められています。

A1 ピント合わせの方法を設定する (📷AF方式)

オートフォーカスの動作方式や手動でのピント合わせについての設定を行います。

- ・静止画撮影の機能です。詳しくはP.115をお読みください。

S-AF MF* / S-AF (シングルAF)	静物や動きの少ない被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しするとピント合わせを1回行います。
C-AF MF* / C-AF (コンティニュアスAF)	撮影距離が絶えず変化して動く被写体を追いながら撮影するのに適しています。シャッターボタンを半押ししている間、繰り返しピント合わせをします。
MF (マニュアルフォーカス)	手動でピント合わせをします。レンズのフォーカスリングを操作してピントを合わせます。
C-AF+TR MF* / C-AF+TR (追尾AF)	フレーミングを大きく変えずに、特定の被写体にピントを合わせ続けて撮影するのに適しています。被写体を検出したらシャッターボタンを半押ししている間、被写体が動き回ってもピントを合わせ続けます。
Pre MF (プリセットMF)	あらかじめ設定してあるピント位置にピントを設定します。

* **[📷AF+MF]**が**[On]**のときは、フォーカスリングを操作してマニュアルフォーカス動作ができます。🔍 **[A1 AFとMFを併用する(📷AF+MF)]** (P.481)

A1 タブ ➡️ **[📷AF方式]** ➡️ 設定を選択

A1 AFとMFを併用する


(AF+MF)


オートフォーカスでピントを合わせたまま、レンズのフォーカスリングを操作してピントを調整することができる設定です。

フォーカスリングを操作してマニュアルフォーカス動作ができます。合焦後にピント位置を調整したり、オートフォーカスを中断してマニュアルフォーカスを行うことができます。AF方式によって動作が異なります。初期設定では、[Off]になっています(P.641)。

- 静止画撮影の機能です。詳しくはP.115をお読みください。

On	AF設定時に、MF操作を有効にします。[S-AF]、[C-AF]、[C-AF+TR]にMFが表示されます。
	S-AF MF : S-AFで合焦後、シャッターボタンを半押ししたままマニュアルフォーカスでピント位置の調整ができます。また、AF動作中にフォーカスリングを動かして、マニュアルフォーカスに切り換えることができます。露光中や[連写L]での連写中のマニュアルフォーカスも可能です。 C-AF MF 、 C-AF+TR MF : C-AFやC-AF+TRで動作中、フォーカスリングを動かして、マニュアルフォーカスに切り換えることができます。再度オートフォーカスを行うときは、シャッターボタンを半押しし直してください。露光中や[連写L]での連写中のマニュアルフォーカスも可能です。
Off	AF設定時に、MF操作を無効にします。

- AF動作を他のボタンに割り当てているときも、同様の動作をします。 [AEL/AFLモード] (P.141)
- フォーカスリングを動かしてAFを中断する動作は、M.Zuiko PRO (マイクロフォーサーズPROレンズ)でのみ可能です。その他のレンズでの対応は当社ホームページをご覧ください。
- 撮影モードがBでは、露光中のマニュアルフォーカスは、[Bulb中MF]の設定で動作します。

A1タブ ➡ [AF+MF] ➡ 十字ボタンの△▽で[On]または[Off]を選択

A1 AEL/AFLボタンを使ってピント合わせや測光を行う

(AEL/AFLモード)

シャッターボタンと**AEL/AFL**ボタンを操作したときの、オートフォーカスや測光の動作を設定します。通常は、シャッターボタンの半押しでオートフォーカスや露出の固定をしますが、被写体や撮影環境に合わせて変えることができます。

- 静止画撮影の機能です。詳しくはP.141をお読みください。

mode1/mode2/ mode3/mode4	シャッターボタンの半押し/全押しや、 AEL/AFL ボタンを押したときの測光やAFの動作の組み合わせを選択します。
半押しAF	[S-AF] / [S-AFMF] / [C-AF] / [C-AFMF] で AEL/AFL ボタンでAF動作を行う設定のときに、シャッターボタンを半押しでAF動作をするかどうかの設定をします。 [有効] ：シャッターボタンを半押しするとAF動作します。 [無効] ：シャッターボタンを半押ししてもAF動作しません。

A1タブ ➡ [ AEL/AFLモード] ➡ 各項目を設定

A1 C-AF動作時のレンズのスキャン動作を設定する

(AFスキャン)

カメラがスキャン動作をするかどうかの設定します。オートフォーカスでピント合わせができないとき、カメラはレンズを走査して至近から無限までの間でピント位置を探すスキャン動作をします。AF中のスキャン動作の仕方を制限することができます。

- 静止画撮影の機能です。詳しくはP.146をお読みください。
- この機能は、**[AF方式]** (P.115)が**[C-AF]**、**[C-AF+TR]**、**[C-AFMF]**、**[C-AF+TRMF]**で動作します。

mode1	ピントを検出できなくても、スキャン動作しません。小さな被写体を追うときなど、スキャン動作によりピントが大きく外れて被写体を見失うのを防ぐことができます。
mode2	ピントを検出できないとき、AF開始時に1回だけスキャン動作をします。そのままAF動作を続けてもその間はスキャン動作はしません。
mode3	ピントを検出できないときは、スキャン動作をします。そのままAF動作を続けている間に、再び被写体を見失ったら再度スキャン動作をします。

A1タブ ➡ [**AFスキャン**] ➡ 設定を選択

A1 C-AF動作時のピント合わせの感度を設定する

(📷C-AF追従感度)

被写体にピントを合わせ続けているときの、オートフォーカスの追従性を設定します。被写体の動きが速くてオートフォーカスが間に合わないときや被写体の前を障害物が入り出して、そのたびに障害物にピントが移動するなどのときに有効です。

- 静止画撮影の機能です。詳しくはP.145をお読みください。
- この機能は、**[📷AF方式]** (P.115)が**[C-AF]**、**[C-AF+TR]**、**[C-AF MF]**、**[C-AF+TR MF]**で動作します。
- +側に設定するほど感度は上がります。見えない位置から急に現れる被写体、すばやく遠ざかる被写体など、前後に急加速、急停止する被写体に対応するときは+側に設定します。
- -側に設定するほど感度は下がります。被写体との間の障害物にピントが移動してしまったり、被写体がAFターゲットから外れてピントが背景に移動してしまうときは-側に設定します。

A1タブ ➡ **[📷C-AF追従感度]** ➡ 設定を選択

A1 C-AF動作時のピント合わせ開始位置を設定する

(📷C-AF中央スタート)

4

シングルターゲット以外の設定で**[C-AF]**、**[C-AF MF]**、**[C-AF+TR]**、**[C-AF+TR MF]**でオートフォーカスするとき、最初のオートフォーカスのみ選択エリアの中央で行います。その後は、選択エリア内でオートフォーカスをします。広いエリアのAFターゲット設定と組み合わせることで、動きの激しい被写体をとらえやすくなります。

- 静止画撮影の機能です。詳しくはP.147をお読みください。

A1タブ ➡ **[📷C-AF中央スタート]** ➡ 設定を選択して**OK**ボタンを押す

- チェックボックスに✔を付けたAFターゲットモードで動作します。
- **[📷C-AF中央優先]** (P.148)が設定されているときは機能しません。

A1 C-AF動作時に中央優先でピント合わせをする

( C-AF中央優先)

グループターゲット／カスタムターゲットの設定で[C-AF]または[C-AF MF]でオートフォーカスするとき、常に選択エリアの中央を優先でオートフォーカスを繰り返します。中央でオートフォーカスできないときは、選択エリアの周辺のAFターゲットを使います。速度は速くても比較的動きの読める被写体をとらえやすくなります。一般的な撮影では中央優先でお使いください。

- 静止画撮影の機能です。詳しくはP.148をお読みください。

A1 タブ ➡ [ C-AF中央優先] ➡ 設定を選択して**OK**ボタンを押す


- チェックボックスに✓を付けたAFターゲットモードで動作します。

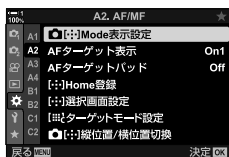
A2 表示するAFターゲットモードを選択する

([::]Mode表示設定)

AFターゲットモード(P.120)を設定するときの選択肢をカスタマイズします。使用しないターゲットモードを非表示にすることで、すばやく設定ができます。

- 静止画撮影の機能です。

- 1 **A2** (AF/MF)のメニューで [::]Mode表示設定)を選択して、十字ボタンの▶を押します。



- 2 表示するAFターゲットモードを選択します。



- 3 **OK**ボタンを押します。

- チェックボックスに✔が付きます。

- 4 **MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

- ✔を付けたAFターゲットモードだけが、選択肢に表示されます。





- カスタムAFターゲットは、初期状態では非表示になっています。カスタムAFターゲットを使うときは表示設定をしてください。🔍 **[::]ターゲットモード設定** (P.125)

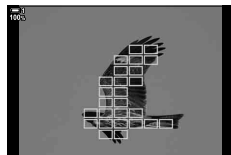
A2 AFターゲットの表示方法を選択する (AFターゲット表示)

オートフォーカスでピントがあったとき、ピントが合った位置に緑色のAFターゲットを表示します。このAFターゲットの表示についての設定します。

Off	ピントが合ったときもAFターゲットを表示しません。
On1	ピントが合ったとき、AFターゲットを表示してすぐに消えます。
On2	ピントが合ったとき、シャッターボタンを半押ししている間は、AFターゲットを表示し続けます。

A2タブ ➡ [AFターゲット表示] ➡ 設定を選択


- ムービーモードでは、【On2】は選択できません。
- 【 (オールターゲット)】で、【 AF方式】(P.115)が【S-AF】、【S-AF MF】、【C-AF】、【C-AF MF】のいずれかで、【AFターゲット表示】(P.486)が【On2】のとき、AFターゲットはクラスター表示になります。ピントの合っている箇所のAFターゲットが表示されます。



A2 ファインダー撮影時にタッチ操作でAFターゲットを操作する (AFターゲットパッド)

ファインダー撮影でAFターゲットを移動するとき、モニターをタッチパッドとして使います。ファインダーをのぞきながら、モニターをなぞってAFターゲットの位置を動かします。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

Off	モニターをタッチパッドとして使用しません。
On	ファインダー撮影時にモニターをタッチパッドとして使用します。モニターを2度タップすると、AFターゲットパッドのオンオフを切り換えます。AFターゲットが端に当たった後、一旦指を離して、再度スライドすると【  (オールターゲット)】になります。

- 【On】のときは、拡大枠を移動することもできます(P.136)。

A2タブ ➡ [AFターゲットパッド] ➡ 設定を選択

A2 AF機能のホームポジションを設定する ([::]Home登録)

[::]Homeで使うホームポジションを設定します。

[::]Homeは、ボタン操作一つでAF機能をあらかじめ登録したホームポジションに設定する機能です。このときのホームポジションを設定します。[::]Homeは、**[カメラボタン機能]**でボタンに割り当てて使います(P.463)。また、**[中央ボタン機能]**で、マルチセレクターを割り当てることもできます(P.499)。**[縦位置/横位置切換]**(P.489)が設定されているときは、縦位置/横位置それぞれのホームポジションを記憶させておくことができます。

- ・ 静止画撮影の機能です。

AF方式	ホームポジションのAF方式を設定します。
AFターゲットモード	ホームポジションのAFターゲットモードを設定します。 [::]Mode表示設定 で表示設定されている項目から選択できます。
AFターゲット位置	ホームポジションのAFターゲットの位置を設定します。

- 1 **A2** (AF/MF)のメニューで**[::]Home登録**を選択して、十字ボタンの▷を押します。



- 2 ホームポジションとして使用する項目を選択し**OK**ボタンを押します。

- ・ チェックボックスに✓が付きます。チェックがついた項目はホームポジションとして使用されます。



- 3 ▷ボタンを押して、選択した項目の詳細設定をします。

- ・ ホームポジションに登録する設定を選択します。
- ・ **[縦位置/横位置切換]**が設定されているときは、各項目を選択した上で、横位置、縦位置(左/右)の選択して▷ボタンを押して、それぞれの設定をします。



- 4 各項目の設定をしたら**OK**ボタンを押して設定を確定します。

- ・ [::]Home登録画面に戻ります。

- 5 各項目の設定が完了したら、**MENU**ボタンを繰り返し押し続けてメニューを終了します。

A2 AFターゲット選択設定時の操作方法を設定する

([:::]選択画面設定)

AFターゲット選択の設定で使用するフロント／リアダイヤルや十字ボタンの役割を設定します。使い方や好みに合わせて、機能の設定に使う操作部を割り当てることができます。2つの組み合わせを用意することができます。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

設定できる操作部

フロントダイヤル、リアダイヤル、十字ボタンの△▽、十字ボタンの<|>

割り当てられる機能

- [☑️Pos変更] : AFターゲットの位置を設定します。
- [:::]Mode変更] : オール／スモール／グループなどのターゲットモードを変更します。
- [☉変更] : 顔優先／瞳優先AFの設定をします。

A2タブ ➡ [:::]選択画面設定] ➡ 設定するセットを選択* ➡ フロント／リアダイヤル、十字ボタンから役割を設定する操作部を選択 ➡ 設定する機能を選択

- * [セット2]を使うときは、[:::]選択画面設定]のメニューでチェックボックスに☑️を付けます。AFターゲット選択画面で**INFO**ボタンを押すと、[セット2]に切り換わります。

4 A2 AFターゲットをカスタマイズする

([:::]ターゲットモード設定)

AFターゲットの位置を移動させるときの動きやAFターゲットの数をカスタマイズできます。グループターゲットよりも範囲を広くしたり、動きが予想できる被写体に合わせて範囲を設定したい場合に有効です。また、AFターゲットの位置の移動量を設定できるので、位置の設定をするときの手間を少なくできます。4種類のカスタム設定を記憶させておくことができます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。詳しくはP.125をお読みください。

サイズ	AFターゲットの範囲を設定できます。横方向／縦方向のサイズを設定します。それぞれ1 / 3 / 5 / 7 / 9 / 11点の範囲で設定できます。
移動ステップ	AFターゲットを移動するときのステップ量を設定します。横および縦方向のステップを1～3ステップの間でそれぞれ設定できます。

A2タブ ➡ [:::]ターゲットモード設定] ➡ 項目を選択

- 使用するときには、[☑️[:::]Mode表示設定] (P.485)で使用するカスタムターゲットに☑️を付けます。

A2 AFターゲットの設定を横位置/縦位置で変える

([::])縦位置/横位置切換)

カメラの姿勢を検知して、AFターゲット位置やAFターゲットモードの設定を自動的に切り換えます。カメラの向きを変えると構図も変わるのでピントを合わせる位置も変わります。AFターゲットモードやAFターゲットの位置を向きに合わせて記憶させておくことができます。この機能が有効になっていると、[::]Home登録] (P.487)のホームポジションも横位置、縦位置それぞれで設定することができます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。

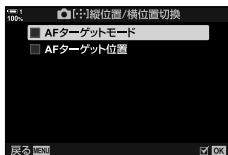
AFターゲットモード	オール/スモール/グループなどのターゲットモードを、横位置/縦位置それぞれで記憶します。
AFターゲット位置	AFターゲットの位置を横および縦それぞれで設定します。

- 1 A2 (AF/MF)のメニューで [::]縦位置/横位置切換]を選択して、十字ボタンの▶を押します。



- 2 姿勢で切り換える機能を選択しを選択しOKボタンを押します。

- 選択した機能に✔が付きます。



- 3 各項目の設定をしたら繰り返しMENUボタンを押します。
 - MENUボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。
- 4 カメラを横位置、縦位置それぞれの状態にしてAFターゲットモードやAFターゲットの位置を設定します。
 - 横位置、縦位置(右回転、左回転)それぞれの状態での設定を記憶しておけます。

4

A3 オートフォーカス時のレンズの動作範囲を設定する

(AFリミッター)

オートフォーカス動作するときの動作範囲を設定します。オートフォーカス中に、被写体との間に障害物が入ってピントが大きく外れてしまうような撮影状況で有効です。フェンスや窓越しの撮影などで、ピントがフェンスや窓に合ってしまうのを防ぐことができます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。詳しくはP.143をお読みください。

距離設定	距離範囲の設定をします。3種類の設定を記憶させ、使い分けることができます。数値は目安としてお使いください。
レリーズ優先	[AFリミッター]が[On]に設定されていてピントを合わせることができなくても、シャッターを切ることができます。

A3 タブ ➡ [AFリミッター] ➡ 項目を選択



- [AFリミッター]の機能をボタンに登録しておくことができます。ボタンを押す操作だけで機能をオンにすることができます。ボタンを押しながらダイヤルを回して3種類の設定を切り換えることができます。🔍 [📷 ボタン機能] (P.463)

A3 オートフォーカス動作時に補助光を使う

(AFイルミネーター)

暗くてオートフォーカスでピント合わせができないときに、自動的に補助光を発光します。

On	オートフォーカスするとき、被写体が暗いと自動的に補助光を発光します。
Off	被写体が暗くても補助光は発光しません。

A3 タブ ➡ [AFイルミネーター] ➡ 設定を選択

- 静音撮影で使用するときは、[静音[♥]撮影時動作]の設定が必要です(P.167)。

A3 顔優先AF / 瞳優先AFを使う

(☺顔優先)

カメラが自動的に人物の顔を検出します。設定により顔や瞳を検出してピントを合わせます。どの場合も露出は、顔に重点をおいて設定されます。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。詳しくはP.133、360をお読みください。

☺ (顔優先On)	被写体の顔を検出してピントを合わせます。
OFF (顔優先Off)	顔優先AFを使用しません。
☺ ₁ (顔・瞳優先On)	被写体の顔を検出して、近いほうの瞳にピントを合わせます。
☺ _{TR} (顔・瞳(右側)優先AF)	被写体の顔を検出して、右の瞳にピントを合わせます。
☺ _{LR} (顔・瞳(左側)優先AF)	被写体の顔を検出して、左の瞳にピントを合わせます。

A3 タブ ➡ [☺顔優先] ➡ 設定を選択

A3 特定の被写体を追尾してピント合わせをする

(📷追尾被写体設定)

[C-AF+TR]または[C-AF+TR MF]で被写体を追尾して撮影をするときに、特定の被写体を検出して、オートフォーカスを追従します。モータースポーツや飛行機の撮影では被写体の動きが速く、ドライバーやコックピットにピントを合わせて撮るのは難しくなります。この機能はそれらの被写体の特定の部分を検出してピントを合わせます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。詳しくはP.149をお読みください。

モータースポーツ	車やオートバイを検出します。主にモータースポーツで使用される車両やドライバーなどに追従してオートフォーカスします。
飛行機	飛行機やヘリコプターを検出します。機体やコックピットなどに追従してオートフォーカスします。
鉄道	鉄道車両を検出します。車両や運転席などに追従してオートフォーカスします。
Off	被写体を指定しません。

A3 タブ ➡ [📷追尾被写体設定] ➡ 設定を選択

- [OFF]以外にすると、顔優先/瞳優先は[OFF]になります。
- 撮影中は、以下の撮影機能は使用できません。

ライブND撮影/インターバル撮影/HDR撮影/デジタルシフト撮影/フィッシュアイ補正/ハイレゾショット撮影/フォーカスブラケット撮影/プロキャプチャーH

A3 AFによるピント位置を微調整する

(AF微調節)

位相差AFでピントを合わせるときの、ピント位置を微調整できます。±20ステップの範囲で調整できます。

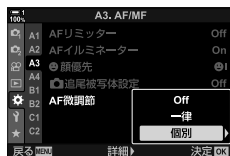
- この機能は、静止画撮影の機能です。
- 通常はこの機能でピント位置を調整する必要はありません。また、調整により適切なピントで撮影できなくなる場合がありますのでご注意ください。
- [S-AF]、[S-AFMF]では機能しません。

Off	登録されている調整値を使用しません。
一律	全てのレンズで一律に調整します。
個別	レンズごとに調整を行い、調整値をカメラに登録します。登録できるレンズは最大20本です。一つのレンズで画面上のエリア別に調整することもできます。ズームレンズの場合は、望遠側、広角側それぞれの調整値を登録できます。

- 1 **A3** (AF/MF)のメニューで**[AF微調節]**を選択して、十字ボタンの**▷**を押します。



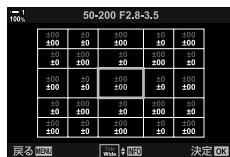
- 2 [一律]または[個別]を選択し、**▷**ボタンを押します。
- [一律]を選択したときは手順5へ進みます。
 - 使用しないときは[Off]を選択して、**OK**ボタンを押します。



- 3 [レンズデータ新規登録]を選択し、**OK**ボタンを押します。
- 調整するエリアを選択する画面が表示されます。



- 4 **△▽◀▶**ボタンで調整するエリアを選択し、**OK**ボタンを押します。
- ズームレンズの場合は、**INFO**ボタンを押して望遠側/広角側を切り換えます。



5 △▽ボタンで調整値を設定して**OK**ボタンを押します。

- 調整値が登録されます。【一律】を選んだときは、手順2の画面に戻ります。
- 【個別】を選んだときは、手順3の画面に戻ります。調整値が登録されてレンズの名称が画面に追加されます。
- リアダイヤルで画面を拡大して確認することができます。
- OK**ボタンを押す前にシャッターボタンを押して試し撮りをして確かめることができます。
- 同じレンズで別の調整値を登録するときは、▷ボタンを押して手順4を繰り返します。

6 同じレンズでエリア別に調整値を登録するときは、△▽ボタンでレンズの名称を選択して▷ボタンを押します。

- 手順4の画面に戻るなのでこの操作を繰り返します。



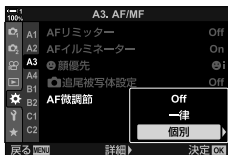
7 登録を終了するときは、**MENU**ボタンを繰り返し押してメニューを終了します。

■ 登録情報を削除する

1 **A3** (AF/MF)のメニューで**[AF微調節]**を選択して、十字ボタンの▷を押します。



2 △▽ボタンで【個別】を選択し、▷ボタンを押します。



3 △▽ボタンで削除するレンズ名を選択し、▷ボタンを押します。



4 △▽ボタンで[削除]を選択し、▷ボタンを押します。

- 確認の画面が表示されます。



5 △▽ボタンで[実行]を選択し、OKボタンを押します。

- 手順3の画面に戻ります。登録名が消えていることを確認してください。



- 登録情報を残したまま調整を使用しないときは、[AF微調節]を[Off]に設定してください。



- 同じレンズで複数の登録をすることができます。

■ 登録された調整値を使う

個別登録リストのメニューを表示して、使用する登録情報に✔をつけます。

A3 タブ ➡ [AF微調節] ➡ [個別] ➡ △▽ボタンで登録情報を選択してOKボタンを押す

4

A4 プリセットMFの距離を設定する (プリセットMF距離)

ピントをあらかじめ記憶させた位置に、すぐに移動させることができます。星や月の天体写真などのようにピント位置をすばやく無限遠に移動させたいときなどに有効です。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。詳しくはP.129、357をお読みください。

A4 タブ ➡ [プリセットMF距離] ➡ 数値を設定

- フォーカスリミットを搭載したレンズでは、フォーカス範囲の制限を外してお使いください。
- 表示される数値は目安としてお使いください。

A4 マニュアルフォーカス時にピント合わせを補助する (MFアシスト)

MF(マニュアルフォーカス)でピント合わせをするときの操作を補助する機能です。レンズのフォーカスリングを回したとき、自動的に画面を拡大したり、ピントの山の部分に色をつけて見分けやすく表示します。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

拡大	レンズのフォーカスリングを回したときに自動的に画面の一部を拡大して表示します。
ピーキング	レンズのフォーカスリングを回したときに画面内の輪郭のはっきりした箇所を強調表示します。

- ピーキングの表示の色などの設定は、**カスタムメニュー D3**の【ピーキング表示】(P.525)の設定に従います。
- ムービー録画中や、AF方式が【C-AF MF】、【C-AF+TR MF】に設定されているときは、拡大表示しません。

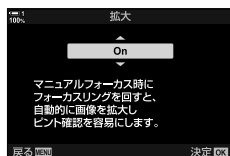
- 1 **A4** (AF/MF)のメニューで【MFアシスト】を選択して、十字ボタンの▷を押します。



- 2 【拡大】または【ピーキング】を選択し、▷ボタンを押します。



- 3 △▽ボタンで設定を変更し、**OK**ボタンを押します。





- 4 設定が完了したら、**MENU**ボタンを繰り返し押し続けてメニューを終了します。

- MF中に以下の操作ができます。
 - 拡大表示中に、フロント/リアダイヤルを回すと、拡大倍率が変更できます。
 - ピーキング表示中に、**INFO**ボタンを押すとピーキング表示の設定メニューが表示されます。フロントダイヤルまたは<▷>ボタンで項目を選択して、リアダイヤルまたは△▽ボタンで設定を変更します。【ピーキング色】、【ピーキングレベル】、【ピーキング背景の輝度調整】の設定ができます。

A4 MFクラッチを無効にする (MFクラッチ)

レンズのMFクラッチの機能を無効にします。不用意にMFクラッチが操作されてオートフォーカスが動作しないなどの誤操作を防ぐことができます。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。詳しくはP.128、356をお読みください。

有効	レンズのフォーカスリングの位置に従って動作します。
無効	レンズのフォーカスリングの位置に関わらず、カメラのAF方式(【  AF方式】、【  MF方式】)の設定に従って動作します。レンズのフォーカスリングをMF側にしても、MFはできません。



A4タブ ➡ 【MFクラッチ】 ➡ 設定を選択

4

A4 レンズのフォーカスリングの回転方向を設定する (フォーカスリング)

レンズのフォーカスリングの回転方向とピントの移動方向を切り換えます。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

	逆時計回りの方向でピント位置が遠くなります。
	時計回りの方向でピント位置が遠くなります。

A4タブ ➡ 【フォーカスリング】 ➡ 設定を選択

A4 バルブ撮影中にピント位置を動かす (BULB/TIME中MF)

バルブ撮影で、露光中にマニュアルフォーカスでピント位置を変更します。露光中にピントを外したり、露光終わりのタイミングでピントを合わせるなどの技法を使った撮影ができます。撮影モードが**B**のときに使用できます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。詳しくはP.107をお読みください。

Off	露光中、ピント位置のマニュアル操作はできません。
On	露光中、ピント位置をマニュアル操作できます。

A4 タブ ➡ [BULB/TIME中MF] ➡ 設定を選択

A4 電源オフ時のレンズの動作を設定する (レンズリセット)

カメラの電源をオフにしたときに、レンズのフォーカス位置をリセット位置に戻さない設定ができます。電源が切れてもピント位置をそのままにしておくことができます。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

Off	電源オフ時にレンズのフォーカス位置をリセットしません。電動ズームレンズのズーム位置も、電源をオフにする前の位置に設定されます。
On	電源オフ時にレンズのフォーカス位置をリセットします。

A4 タブ ➡ [レンズリセット] ➡ 設定を選択

操作部のカスタマイズの機能

(カスタムメニュー **B1**/**B2**)

ボタン、ダイヤル、マルチセレクター、およびレバーのカスタマイズに関する機能が集められています。

B1 ボタンに機能を割り当てる (📷ボタン機能)

あらかじめ割り当てられているボタンの機能を他の機能に変更します。メニューにある機能を割り当てると、撮影時に簡単に機能を設定することができます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。このメニューで設定するボタン機能は、**P/A/S/M/B**(静止画撮影)モードのときに有効になります。
- 詳しくは「4-3 ボタン/ダイヤルのカスタマイズ」の「ボタンの機能を変更する(📷ボタン機能)」(P.463)をお読みください。
- 📷 (ムービー)モードでは、📷動画メニューで設定する【📷ボタン機能】が有効になります(P.417)。

カスタマイズできるボタン

アイコン	ボタン
	☒ (露出補正)ボタン
	ISOボタン
	📷 (ムービー)ボタン
	LV (LV)ボタン
	Fnボタン
	AEL/AFLボタン
	WBボタン
	十字ボタン
	十字ボタンの▶ (右)
	十字ボタンの▼ (下)

アイコン	ボタン
	ワンタッチホワイトバランスボタン
	プレビューボタン
	縦位置☒ (露出補正)ボタン
	縦位置ISOボタン
	縦位置AEL/AFLボタン
	縦位置ワンタッチホワイトバランスボタン
	縦位置プレビューボタン
	L-Fn (レンズに装備されているFnボタン)






B1 タブ ➡ [📷ボタン機能] ➡ 十字ボタンの△▼で割り当てを変更するボタンを選択 ➡ △▼ボタンで割り当てる機能を選択


B1 マルチセレクターを押したときの動作を設定する

( 中央ボタン機能)

マルチセレクターを押したときの動作を設定します。マルチセレクターをボタンとして押したときに、機能が動作するように割り当てることができます。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

Off	機能を割り当てません。マルチセレクターを押しても何も機能しません。
[]選択(AFターゲット選択)	マルチセレクターを押すと、AFターゲット位置やAFターゲットモード、顔優先AFの設定ができます。*カスタムメニュー A2の[]選択画面設定 (P.488)の設定に従って十字ボタンやフロント/リアダイヤルが使えます。
[]HP (AFホームポジション)	[]Home ボタンと同じ動きをします。この機能は静止画撮影でのみ機能します。🔍 [ ボタン機能] (P.463)


B1 タブ ➡ [ 中央ボタン機能] ➡ 設定を選択


B1 マルチセレクターを動かしたときの動作を設定する

( 方向キー機能)

マルチセレクターを動かしたときの動作を設定します。通常は、操作すると直接AFターゲットの位置を移動することができますが、誤操作を防ぐために機能をオフにしておくこともできます。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

Off	マルチセレクターを操作しても何も機能しません。
[] (AFターゲット選択)	マルチセレクターを操作すると、AFターゲット位置の設定ができます (P.123, 352)。

B1 タブ ➡ [ 方向キー機能] ➡ 設定を選択

B1 フロント／リアダイヤルの機能を変える (📷ダイヤル機能)

フロント／リアダイヤルで設定できる機能を変更します。**Fn**レバーの位置によって切り換える機能も変更できます。メニュー表示中や画像再生時の操作についても変更できます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。**P/A/S/M/B** (静止画撮影)モードのときに有効になります。詳しくはP.473をお読みください。📹 (ムービー)モードでは、📺 動画メニューで設定するダイヤル機能が有効になります (P.424)。

割り当てることができる機能

- Ps (プログラムシフト)
- シャッター速度
- 絞り
- 露出補正
- フラッシュ補正
- ISO感度
- WBモード
- CWB色温度
- Off
- ⬆️/Value (カーソル上下移動)
- ⬅️ (カーソル左右移動)
- 📐Q (インデックス/拡大)
- コマ送り/戻し

B1 タブ ➡️ [📷ダイヤル機能] ➡️ 撮影モードを選択 ➡️ 割り当てる機能を選択

B1 フロント／リアダイヤルの操作方向を変える (ダイヤル方向)

フロント／リアダイヤルを使って露出の設定をするときに、ダイヤルの操作方向に対する設定値の変化方向を設定します。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

露出設定	A/S/M/Bモードで絞り値やシャッター速度を設定するときのダイヤル方向を設定します。
Ps設定	Pモードでプログラムシフトを設定するときのダイヤル方向を設定します。

B1 タブ ➡️ [ダイヤル方向] ➡️ 項目を選択 ➡️ 設定を選択

B1 Fnレバーの機能を変える

(📷Fnレバー機能)

Fnレバーの機能を変更します。

- この機能は、静止画撮影の機能です。P/A/S/M/B（静止画撮影）モードのときに有効になります。詳しくはP.475をお読みください。📷（ムービー）モードでは、📺動画メニューで設定するFnレバー機能が有効になります（P.426）。

mode1	Fnレバーの位置に応じて、フロント/リアダイヤルの機能を切り換えます。[📷ダイヤル機能]（P.473）の設定に従います。
mode2	Fnレバー 1、2のそれぞれの位置で設定した[AF方式]、[AFターゲットモード]、[AFターゲット位置]に変更します。
mode3	Fnレバーの位置に応じて撮影モードを切り換えます。モードダイヤルを切り換えることなく、撮影モードを📷（ムービー）に切り換えます。
Off	Fnレバーを使用しません。

B1タブ ➡ [📷Fnレバー機能] ➡ 設定を選択してOKボタンを押す

- [mode2]を選択したときは、十字ボタンの▶で切り換える対象を選択します。
- チェックボックスに✔を付けたAFターゲットモードが切り換わります。
- [mode3]に設定したときは、[📺Fnレバー機能]は使用できません（P.426）。

B1 Fnレバーで電源のオンオフを操作する

(Fnレバー/電源レバー)

4

Fnレバーを、カメラの電源のオンオフスイッチとして使います。撮影時の状況によって、右手で電源の操作をしたいときに使えます。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

Fn	[📷Fnレバー機能]および[📺Fnレバー機能]（P.426）の設定に従って動作します。
PW1	ON/OFFレバーとして動作します。1の位置で電源オン、2の位置で電源オフになります。
PW2	ON/OFFレバーとして動作します。1の位置で電源オフ、2の位置で電源オンになります。

B1タブ ➡ [Fnレバー/電源レバー] ➡ 設定を選択

- [PW1]または[PW2]に設定したときは、ON/OFFレバーによる電源のオンオフができなくなります。また、[📷Fnレバー機能]および[📺Fnレバー機能]も使用できません。

B2 電動ズームレンズを使って撮影する (📷 電動ズーム速度)

電動ズームを搭載したレンズで、ズームリングを操作したときの、ズームの動作速度を変更します。ズーム動作が速くて狙った構図にしにくいなどのときに調節します。【低速】、【標準】、【高速】から選択できます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。📷 (ムービー)モードでは、📷 動画メニューで設定する【📷 電動ズーム速度】が有効になります (P.408)。

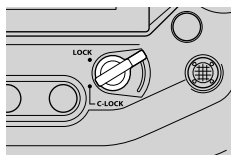
低速	遅い速度でズームします。ズーム位置を正確に決めて撮りたいときに有効です。
標準	標準的な速度でズームします。
高速	速い速度でズームします。

B2 タブ ➡ [📷 電動ズーム速度] ➡ 設定を選択

B2 ロックレバーの設定をする

(C-LOCK設定)

カメラ背面のロックレバーを**C-LOCK**に設定したときに、ロックされる操作部の選択をします。カメラに搭載されているボタンやダイヤルなどは、操作を受け付けないようにロックレバーでロックすることができます。



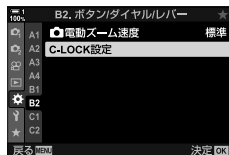
C-LOCKの位置では、ロックする操作部の選択をすることができます。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。
- ロックレバーによってロックできるボタンは以下の通りです。**LOCK**の内容は変更できません。**C-LOCK**でロックできる操作部は、この機能で選択します。

操作部	LOCK	C-LOCK
フロントダイヤル	—	○
リアダイヤル	—	○
📷 ボタン(BKTボタン、AF📷ボタン、フラッシュ/連写/セルフボタン)	—	○
マルチセレクター	—	○
Fn レバー	—	○
十字ボタン	—	○
OK ボタン	—	○
タッチパネル	—	○
縦位置シャッターボタン	○	○
縦位置フロントダイヤル	○	○
縦位置リアダイヤル	○	○
縦位置露出補正ボタン	○	○
縦位置 ISO ボタン	○	○
縦位置 AEL/AFL ボタン	○	○
縦位置マルチセレクター	○	○

- 撮影状態だけでなく、LVスーパーコンパネやメニューなど機能設定中も設定された操作部はロックされます。
- **Fn**レバーを操作してロックすると、**Fn**レバーを操作した状態でロックされます。
- [**Fn**レバー/電源レバー] (P.501)で**Fn**レバーに電源オンオフの機能が割り当てられているときは、**Fn**レバーはロックされません

- 1 **B2** (ボタン/ダイヤル/レバー)のメニューで
[C-LOCK設定]を選択して、十字ボタンの▷を押します。



- 2 **C-LOCK**でロックする操作部を選択し**OK**ボタンを押します。

- チェックボックスに✓が付きます。チェックがついた項目はロックされます。



- 3 各項目の設定をしたら繰り返し**MENU**ボタンを押します。

レリーズ・連写設定のカスタマイズ機能

(カスタムメニュー **C1/C2**)

レリーズや連写の設定に関する機能が集められています。

C1 **【AF方式】が[S-AF]時の非合焦時の動作を設定する** (レリーズ優先S)

【AF方式】が[S-AF]または[S-AF MF]のとき、オートフォーカスで被写体にピント合わせができない場合に撮影をするかしないかを設定します。

- この機能は、静止画撮影の機能です。

On	オートフォーカスで被写体にピント合わせができない場合でもシャッターボタン全押しで撮影します。
Off	オートフォーカスで被写体にピント合わせができない場合はシャッターボタン全押ししてもシャッターは切れません。フラッシュが発光する設定の場合は、フラッシュの充電が完了するまで、シャッターは切れません。

C1 タブ ➡ **【レリーズ優先S】** ➡ 設定を選択

C1 **【AF方式】が[C-AF]時の非合焦時の動作を設定する** (レリーズ優先C)

【AF方式】が[C-AF]、[C-AF MF]、[C-AF+TR]、[C-AF+TR MF]のとき、オートフォーカスで被写体にピント合わせができない場合に撮影をするかしないかを設定します。

- この機能は、静止画撮影の機能です。




On	オートフォーカスで被写体にピント合わせができない場合でもシャッターボタン全押しで撮影します。
Off	オートフォーカスで被写体にピント合わせができない場合はシャッターボタン全押ししてもシャッターは切れません。フラッシュが発光する設定の場合は、フラッシュの充電が完了するまで、シャッターは切れません。

C1 タブ ➡ **【レリーズ優先C】** ➡ 設定を選択

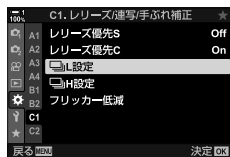
C1 [連写L]時の速度や枚数制限を設定する (C1L設定)

連写機能を[C1L]、[C1L低振動(♦)]、[C1L静音(♥)]、または[プロキャプチャーL]にして撮影するときの詳細設定をします。

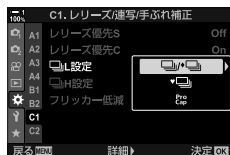
- この機能は、静止画撮影の機能です。詳しくはそれぞれの機能のページをお読みください。

 (連写L/低振動連写L)	連写速度と連続撮影枚数の上限を設定します(P.155)。 [連写速度] : 1 ~ 10fps [枚数リミッター] : 2 ~ 99枚、Off (制限なし)
 (静音連写L)	連写速度と連続撮影枚数の上限を設定します(P.155)。 [連写速度] : 1 ~ 10、15、18fps [枚数リミッター] : 2 ~ 99枚、Off (制限なし)
 (プロキャプチャーL)	連写速度とシャッターボタン全押し前の記録枚数、全押し前を含めた全記録枚数を設定します(P.168)。 [連写速度] : 10/15/18fps [プリ連写枚数] : 0 ~ 35枚 [枚数リミッター] : 0 ~ 99枚、Off (制限なし) プリ連写枚数を含みます。

- C1 (レリーズ/連写/手ぶれ補正)のメニューで[C1L設定]を選択して、十字ボタンの▷を押します。**



- △▽ボタンで項目を選択し、▷ボタンを押します。**



- △▽ボタンで設定する項目を選択し、▷ボタンを押します。**



4 △▽ボタンで設定を変更し、OKボタンを押します。

- [Pro]を選択して、[枚数リミッター]を設定するときは、数値を選んで▷ボタンを押します。枚数設定のメニューが表示されたら△▽◀▷ボタンで数値を設定して、OKボタンを押します。



5 MENUボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

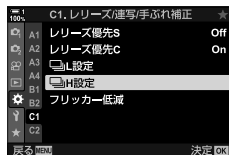
Q1 [連写H]時の速度や枚数制限を設定する (📷H設定)

連写機能を[連写H]、[📷H静音♥]、または[プロキャブチャー H]にして撮影するときの詳細設定をします。

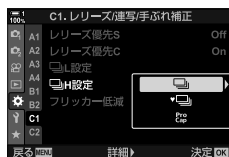
- この機能は、静止画撮影の機能です。詳しくはそれぞれの機能のページをお読みください。

📷 (連写H)	連写速度と連続撮影枚数の上限を設定します (P.155)。 [連写速度] : 10 ~ 15fps [枚数リミッター] : 2 ~ 99枚、Off (制限なし)
♥📷 (静音連写H)	連写速度と連続撮影枚数の上限を設定します (P.155)。 [連写速度] : 15/20/30/60 fps [枚数リミッター] : 2 ~ 99枚、Off (制限なし)
Pro Cap (プロキャブチャー H)	連写速度とシャッターボタン全押し前の記録枚数、全押し前を含めた全記録枚数を設定します (P.168)。 [連写速度] : 15/20/30/60 fps [プリ連写枚数] : 0 ~ 35枚 [枚数リミッター] : 0 ~ 99枚、Off (制限なし) プリ連写枚数を含みます。

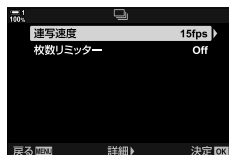
- 1 **C1** (リリース/連写/手ぶれ補正)のメニューで[H設定]を選択して、十字ボタンの▷を押します。



- 2 Δ / ∇ ボタンで項目を選択して▷ボタンを押します。



- 3 Δ / ∇ ボタンで設定する項目を選択し、▷ボタンを押します。



- 4 Δ / ∇ ボタンで設定を変更し、**OK**ボタンを押します。
• [Pre]を選択して、[枚数リミッター]を設定するときは、数値を選んで▷ボタンを押します。枚数設定のメニューが表示されたら Δ / ∇ ボタンで数値を設定して、**OK**ボタンを押します。



- 4
5 **MENU**ボタンを繰り返し押しして、メニューを終了します。

Q1 フリッカーの影響を低減する (フリッカー低減)

蛍光灯などの商用電源照明の環境下では、ライブビューの画面表示がちらついて見えたり、高速シャッター速度で連写した場合に露出がばらつくことがあります。このような影響を低減するための機能です。

- フリッカー低減の詳細内容については、P.190の説明をお読みください。

フリッカーレスLV	蛍光灯などの照明の環境下で発生する画面のちらつき(フリッカー)を抑えて表示します。画面がちらついて見えにくいなどのときに有効です。 [オート]: フリッカーを自動で検出して低減します。 [50Hz]: 商用電源が50Hzの地域での表示のちらつきを低減します。 [60Hz]: 商用電源が60Hzの地域での表示のちらつきを低減します。 [Off] : フリッカーの低減をしません。
フリッカーレス撮影	フリッカーによるちらつきの周期を自動的に判断して、シャッターを切るタイミングを制御します。この機能は、静止画撮影の機能です。この機能は、機械式シャッターによる撮影で有効な機能です。

Q1 タブ ➡ [フリッカー低減] ➡ 項目を選択 ➡ 設定を選択

- [フリッカーレス撮影]は、静音撮影やハイレゾショット撮影、プロキャプチャー撮影など電子シャッターによる撮影時は動作しません。
- 環境によってはフリッカーが検出できない場合があります。そのときは、通常のタイミングでシャッターが切れます。
- シャッター速度が遅いときは、通常のタイミングで撮影されます。
- [フリッカーレス撮影]では、シャッターが切れる際にタイムラグが生じたり、連写速度が低下する場合があります。

被写体が暗い場面や、高倍率の撮影などで起きやすい手ぶれを抑えることができます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。詳しくはP.176をお読みください。📷 (ムービー)モードでは、📷 動画メニュー [📷 AF/手ぶれ補正設定]の[📷 手ぶれ補正] (P.376)が有効になります。

S-IS Off	手ぶれ補正をしません。三脚使用時にお使いください。
S-IS AUTO (オート)	カメラの全方向の動きに対して補正をします。流し撮りを検出すると、画像を流す方向の補正を自動的に停止します。
S-IS 1 (全方向補正)	カメラの全方向の動きに対して補正をします。
S-IS 2 (縦ぶれ補正)	カメラの縦方向の手ぶれに対して補正をします。横方向に流し撮りするときに適しています。
S-IS 3 (横ぶれ補正)	カメラの横方向の手ぶれに対して補正をします。縦位置で流し撮りするときに適しています。

- マイクロフォーサーズ/フォーサーズ以外のレンズを使うときは、レンズの焦点距離情報を入力して設定します。設定を選択するメニューで、十字ボタンの▶を押して、△▽◀▶ボタンで数値を設定しOKボタンを押します。[レンズ情報登録] (P.550)で登録した情報を使用する場合は、登録した焦点距離情報が適用されます。
- 手ぶれ補正機能切り換えスイッチのあるレンズでは、レンズ側の設定が優先されます。



- シャッターボタンを半押ししたときの、手ぶれ補正の動作のオンオフを選択できます。
📷 *カスタムメニュー ☑ の[半押し中手ぶれ補正] (P.178)

☑ タブ ➡ [📷手ぶれ補正] ➡ 設定を選択


連写中の手ぶれ補正の動作を設定する (連写中手ぶれ補正)

連写中の手ぶれ補正の動作について設定します。

手ぶれ補正は連写中でも有効ですが、効果を最大限に生かすためには、各コマごとに撮像素子を中央にリセットする必要があります。その場合、連写速度が低下します。

- この機能は、静止画撮影の機能です。詳しくはP.174をお読みください。

IS優先	手ぶれ補正効果を優先します。連写速度が若干低下します。
連写速度優先	連写速度を優先します。撮影状況によっては、手ぶれ補正の効果が若干低下する場合があります。

 タブ ➡ **[連写中手ぶれ補正]** ➡ 設定を選択


シャッターボタン半押し中の手ぶれ補正動作を設定する (半押し中手ぶれ補正)

4

シャッターボタン半押し中に手ぶれ補正の機能を有効にするかどうかを設定できます。水準器を表示して水平を取りながら撮影しているときなどは、手ぶれ補正を止めておくことができます。

- この機能は、静止画撮影で機能します。詳しくはP.178をお読みください。

On	シャッターボタンを半押ししたときに手ぶれ補正機能が働きます。
Off	シャッターボタンを半押ししたときに手ぶれ補正機能が働きません。

 タブ ➡ **[半押し中手ぶれ補正]** ➡ 設定を選択

C2 手ぶれ補正機能搭載レンズ使用時の手ぶれ補正設定 (レンズ手ぶれ補正優先)

他社製の手ぶれ補正機能を搭載したレンズを使用時に、カメラの手ぶれ補正機能とレンズの手ぶれ補正機能のどちらを優先して機能させるかを設定します。手ぶれ補正機能のオンオフを操作できるISスイッチを搭載したレンズでは、この機能は無効になります。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

On	レンズの手ぶれ補正機能を優先して働かせます。
Off	カメラの手ぶれ補正機能を優先して働かせます。

C2 タブ ➡ **【レンズ手ぶれ補正優先】** ➡ 設定を選択

表示・音・接続に関する機能

(カスタムメニュー **D1/D2/D3/D4**)

撮影を補助するためのモニターやファインダーの情報表示の仕方、機能設定のためのパネルの選択、カメラを外部機器に接続するときの接続の仕方の設定などが集められています。

D1 機能設定パネルの表示設定をする (📷Control表示)

撮影機能を設定するパネルの表示/非表示を設定します。

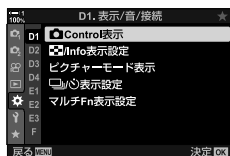
機能設定パネルにはLVコントロールとLVスーパーコンパネがあり、**INFO**ボタンで切り換えができますが、使わないパネルを非表示にできます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。ムービーモードでは、📹動画メニュー [📹表示設定] の [📹Control表示] が有効になります。詳しくはP.428をお読みください。
- 機能設定パネルの詳細については、それぞれのページをお読みください。

LVコントロール	ライブビュー画面に主な撮影の機能を表示して設定をする機能設定パネルです。ライブビューで表示している画面で効果を確認しながら設定することができます。詳しくはP.68をお読みください。
LVスーパーコンパネ	撮影の機能を一覧に表示して設定することができる機能設定パネルです。機能の設定状態をこの画面で確認することができます。詳しくはP.62をお読みください。

4

- 1 **D1** (表示/音/接続)のメニューで[📷Control表示]を選択して、十字ボタンの▶を押します。



- 2 ▲▼ボタンで項目を選択して**OK**ボタンを押します。
 - チェックボックスに✔が付きます。チェックがついた項目は表示されます。



- 3 設定が完了したら、**MENU**ボタンを繰り返し押し続けてメニューを終了します。

■ 機能設定パネルを切り換えて使う

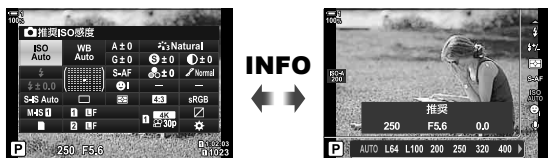
1 P/A/S/M/Bモードで、モニターがライブビュー表示のときに**OK**ボタンを押します。

- LVスーパーコンパネが表示されます。



2 **INFO**ボタンを押すと、LVコントロールを表示します。

- **INFO**ボタンを押すたびに表示される機能設定パネルが切り換わります。






3 設定を終えたら、**OK**ボタンを押すと機能設定パネルが消えます。









- 次回、**OK**ボタンを押したときは、最後に表示した機能設定パネルが表示されます。
- LVコントロール表示のとき、表示された機能設定が**INFO**ボタンを押して詳細設定できる機能のときは、**INFO**ボタンを押して機能パネルを切り換えることができません。他の機能を選択してから**INFO**ボタンを押してください。


D1 INFOボタンによる情報表示の設定をする

(/Info表示設定)

撮影時や再生時に**INFO**ボタンを押して、画面の情報表示の内容や種類を切り換えることができます。そのときの内容の設定をします。

- この機能は、静止画撮影や再生の機能です。 (ムービー)モードでは、 動画メニューで設定する  **Info表示** が有効になります (P.429)。

 Info	<p>画像再生時の情報画面の設定をします。静止画再生画面でINFOボタンを押すたびに設定した画面を順に切り換えて表示します。</p> <p>[表示Off] : 画像のみ表示します。</p> <p>[総合表示] : 撮影時の設定やヒストグラム表示をします。</p> <p>[ヒストグラム表示] : 再生画像にヒストグラム表示を重ねます。</p> <p>[ハイライト&シャドウ] : ハイライトやシャドウ部を着色します。</p> <p>[フィールドセンサー Info] : GPSや各センサー情報を表示します。</p> <p>[ライトボックス] : 2枚の画像を並べて比較します。</p>
 Q Info	<p>[Q] (拡大)の機能を使った拡大再生時の表示を設定します。</p> <p>[拡大枠表示] : 拡大枠を表示します。</p> <p>[拡大位置スクロール] : 拡大再生時に画面のスクロールをします。</p> <p>[拡大コマ送り] : 拡大再生状態でコマ送りをします。</p>
LV-Info	<p>撮影時のライブビュー画面に表示される情報表示の選択をします。ヒストグラムや水準器などの表示を加えたり、GPS機能や各センサーで取得する情報の表示を設定できます。カスタム表示として自分用の組み合わせを設定しておくことができます。 「画面の情報表示を選ぶ」 (P.84)</p> <p>[表示Off] : 情報を表示しません。</p> <p>[カスタム表示1] / [カスタム表示2] : [ヒストグラム表示] / [ハイライト&シャドウ] / [水準器]を選択して表示できます。表示内容の組み合わせを設定しておくことができます。</p> <p>[フィールドセンサー Info] : GPSや各センサーの表示を加えます。</p>
LV OFF-Info	<p>モニターに、スーパーコンパネの代わりにセンサー情報画面を表示します。</p> <p>[フィールドセンサー Info] : GPSや各センサーの情報画面を表示します。</p>
 表示	<p>画像再生時のインデックス表示のときの1ページに表示するサムネイル画像の数やカレンダー表示の選択をします。</p> <p>[4]/[9]/[25]/[100] : インデックスのコマ数を変えて表示します。</p> <p>[カレンダー表示] : カレンダーで表示します。</p>

- 1 **D1** (表示/音/接続)のメニューで[/Info表示設定]を選択して、十字ボタンの▷を押します。



- 2 設定する項目を選択し、▷ボタンを押します。



- 3 表示させる項目を選択し**OK**ボタンを押します。

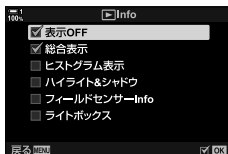
- チェックボックスに✓が付きます。チェックがついた項目は表示されます。
- [LV-Info]で[表示Off]を選択したときは、▷ボタンを押すと、シャッターボタン半押し中の情報表示の設定が選べます。

[On] : シャッターボタン半押し中は情報表示をします。

[Off] : シャッターボタン半押し中も情報表示をしません。

選択したら**OK**ボタンを押して[LV-Info]メニューに戻ります。

- [カスタム表示1]または[カスタム表示2]を選択したときは、▷ボタンを押して表示させる項目を選択し、**OK**ボタンを押します。



- 4 設定が完了したら、**MENU**ボタンを繰り返し押し続けてメニューを終了します。

■ Info : 各設定の表示

各設定をしたとき、静止画再生画面で以下のように表示します。画像を再生して**INFO**ボタンを押すたびに画面が切り換わります。

簡易情報

最小限の情報を表示します。

- 設定に関わらず表示されます (P.266)。



表示Off

画像のみ表示します。



総合表示

撮影時の設定やヒストグラムなど全ての表示をします (P.266)。



ヒストグラム表示

再生画像にヒストグラムを重ねて表示します (P.84)。



ハイライト&シャドウ

再生画像にハイライト部とシャドウ部に着色して表示します (P.84)。



フィールドセンサー Info

GPSや各センサーの情報画面を表示します (P.574)。



ライトボックス

画面に2枚の画像を表示して比較します。☞ 「Info : ライトボックス表示を使う」 (P.518)



■ Info : ライトボックス表示を使う

画面に2枚の画像を表示して拡大して比較することができます。

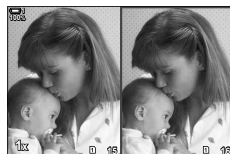
1 Infoボタンを押します。

- 画像が再生されます。



2 INFOボタンを繰り返し押ししてライトボックス表示に切り換えます。

- 2つのコマが並んで表示されます。
- 左に基準画像、右に選択画像が表示されます。



3 右の画面で基準にする画像を選びます。

- フロントダイヤルで画像を選択して**OK**ボタンを押します。選んだ画像が左に移動します。

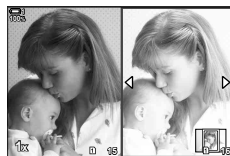
4 右の画面で比較する画像を選びます。

- フロントダイヤルで画像を選択します。
- 基準とする画面を変えるときは、右の画面で選んで**OK**ボタンを押します。




4 5 Fnボタンを押して選択画像(右)のスクロールを有効にします。

- 十字ボタン、マルチセレクターで画像をスクロールできます。
- 再度**Fn**ボタンを押すと、両方の画像を同時にスクロールできます。
- リアダイヤルで、両方の画面の拡大ができます。

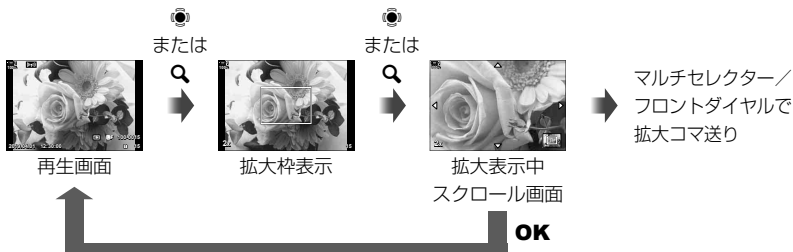


- 選択画像(右)では、1コマ再生時の同様に**✓** (選択) / プロテクト / シェア予約ができます。

■ Q Info : 拡大再生を使う



再生時の表示を設定します。マルチセレクターを押して拡大表示をするときの表示を設定します。【 ボタン機能】(P.463)で【Q】(拡大)を割り当てたボタンを操作したときも機能します。

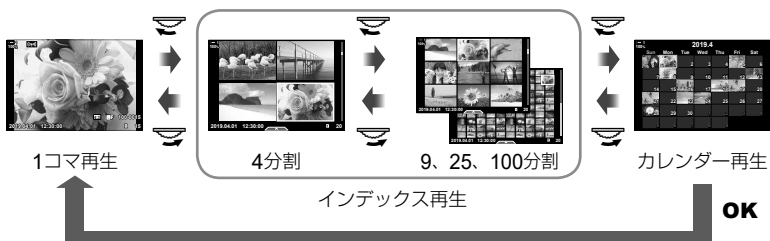
拡大枠表示	マルチセレクターか【Q】(拡大)を割り当てたボタンを押すと、拡大枠を表示します。再度押すと拡大表示します。【拡大枠表示】に✓が付いていないときは、Q ボタンを押すと、直接拡大して表示します。
拡大位置スクロール	拡大表示画面で画面をスクロールできます。
拡大コマ送り	拡大表示の状態でコマ送りができます。



- 全てのチェックを外すと、リアダイヤル、Q ボタンによる拡大表示ができません。

■ 表示 : インデックス表示を使う

画像再生時にリアダイヤルをに回したときに表示するインデックス表示の種類を設定します。サムネイル画像の数やカレンダー表示の選択ができます(P.268)。リアダイヤルをに回すたびに表示が切り換わります。



- 全てのチェックを外すと、リアダイヤルによる、インデックス/カレンダー表示ができません。

D1 ピクチャーモード選択の表示設定をする

(ピクチャーモード表示)

ピクチャーモードの選択時に自分に必要なものだけを表示します。この設定は、LVコントロールやLVスーパーコンパネなどでの表示に反映されます。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。
- ピクチャーモードの詳細内容については静止画撮影(P.215)、ムービー撮影(P.388)それぞれの説明をお読みください。

D1タブ ➡ [ピクチャーモード表示] ➡ 設定を選択して**OK**ボタンを押す。

- チェックボックスに✔を付けた設定がピクチャーモードの設定メニューで表示されます。
- **[Natural]**は常に表示されます。

4

D1 ドライブ機能の選択の表示設定をする (□/♡表示設定)

ドライブ(連写/セルフタイマー)の選択時に自分に必要なものだけを表示します。この設定は、LVコントロールやLVスーパーコンパネなどでの表示に反映されます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。
- ドライブ機能の詳細内容については、P.151の説明をお読みください。

D1タブ ➡ [□/♡表示設定] ➡ 設定を選択して**OK**ボタンを押す。

- チェックボックスに✔を付けた設定がドライブの設定メニューで表示されます。
- [□] (単写)は常に表示されます。
- **[低振動[♦]撮影]** (P.160)や**[静音[♥]撮影]** (P.163)をつかうときは、**[低振動[♦]/静音[♥]撮影]**の設定が必要です。

D1 マルチFnで使う機能を選択する (マルチFn表示設定)

マルチファンクションで呼び出せる機能を選択します。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。
- マルチFnの詳しい内容については、P.470の説明をお読みください。

D1タブ ➡ [マルチFn表示設定] ➡ 設定を選択して**OK**ボタンを押す。

- チェックボックスに✔を付けた設定がマルチFnで切り換えできる機能に表示されます。
- [ハイライト&シャドウコントロール]は常に表示されます。

D2 露出設定を表示画面に反映する (LVブースト)

露出補正などの露出設定の結果をライブビュー画面に反映して表示することができません。また、星景撮影のように暗くて見えない環境でも見やすい明るさで表示することもできます。**M**モードやバルブ撮影、ライブコンポジット撮影など個別に設定できます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。
- LVブーストの詳しい内容については、P.200の説明をお読みください。

Off	露出設定を反映してライブビュー表示します。撮影結果をあらかじめ確認しながら撮影できます。 <ul style="list-style-type: none">• バルブ/タイム撮影では設定できません。
On1	露出設定を反映せずに見やすい明るさで表示します。実際に撮影される画像とは明るさが異なります。
On2	[On1]よりさらに明るく表示します。星景撮影で星を確認しながら撮影するときなどに適しています。 <ul style="list-style-type: none">• 実際に撮影される画像とは明るさが異なります。また、被写体の動きが少し荒くなります。• 被写体に応じて表示速度を優先して表示するか、画質を優先して表示するかを選択できます。

D2タブ ➡ [LVブースト] ➡ 設定する撮影モードを選択 ➡ 設定を選択

- [On2]を選択したときは、十字ボタンの▶を押して設定を選択します。
- [On2]で[LV画質優先]のときは、暗いシーンでは表示のフレームレートが遅くなります。[LV表示速度優先]のときは、表示される色が正しくなかったり、画質が粗くなります。

D2 アートフィルター撮影時のライブビュー表示の設定をする (アートLVモード)

アートフィルターは、その効果をモニターやファインダーで確認しながら撮影できます。効果によっては、被写体の動きがスムーズでなくなる場合もあるので、撮影に影響しない設定にすることができます。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

mode1	アートフィルターの効果を反映して表示します。
mode2	シャッターボタンを半押し中は、アートフィルターの効果の反映を落として、表示速度を優先します。動く被写体などでもスムーズに表示します。

D2タブ ➡ [アートLVモード] ➡ 設定を選択

4

D2 ファインダー撮影時の表示速度を設定する (フレームレート)

ファインダー表示の表示の速さを設定します。

- この機能は、静止画撮影の機能です。
- フレームレートの詳しい内容については、P.175の説明をお読みください。

標準	通常のフレームレートで表示します。通常の撮影ではこの設定をお使いください。
高速	被写体の動きが速くてもなめらかに表示します。動きの速い被写体を追いやすくなります。撮影中にカメラ内部が高温になると、自動的に【標準】に変更されます。

D2タブ ➡ [フレームレート] ➡ 設定する撮影モードを選択 ➡ 設定を選択

D2 拡大AF中の画面表示の設定をする (LV拡大設定)

拡大表示を使って撮影するときの、表示に関する設定をします。

- この機能は静止画撮影、ムービー撮影の両方で機能します。
- LV拡大設定の詳細な内容については、P.139の説明をお読みください。

LV拡大モード	拡大表示中に、シャッターボタンを半押ししたときの画面の表示方法を設定します。 [mode1] ：シャッターボタンを半押しすると、拡大表示を終了します。拡大表示でピントを合わせたあと、構図を確認して撮影できます。 [mode2] ：シャッターボタンを半押しすると、拡大表示のままピント合わせを行います。事前に構図を決めて、より狭い範囲でピント合わせをして、そのまま撮影できます。
LVブースト	拡大表示中の明るさを設定します。 [On] ：拡大領域を見やすい明るさで表示します。マクロ撮影などで、ピント合わせの画面を見やすくできます。 [Off] ：拡大前の明るさのまま表示します。露出を確認しながら、拡大表示での撮影ができます。 • *カスタムメニュー D2 の[LVブースト] (P.521)が[Off]のとき、選択できます。

D2タブ ➡ [LV拡大設定] ➡ 項目を選択 ➡ 設定を選択

D2 画像再生時の拡大倍率を設定する (再生拡大倍率設定)

画像を再生して拡大表示(クローズアップ再生)したとき、最初に表示される倍率の設定ができます。

- この機能は、静止画再生の機能です。


前回倍率	前回、拡大再生したときに最後に表示した倍率で表示します。
等倍	拡大再生したとき、等倍で表示します。等倍表示にすると、モニターに 1:1 が表示されます。
×2 / ×3 / ×5 / ×7 / ×10 / ×14	拡大再生したとき、選択した倍率で表示します。

D2タブ ➡ [再生拡大倍率設定] ➡ 設定を選択

D2 絞り込み動作の設定をする (プレビュー設定)

プレビュー操作で絞り込み動作をしたときのボタンの操作や表示について設定します。

- この機能は、静止画撮影の機能です。

 ロック	プレビューボタンの操作と動作の設定をします。 [Off] : プレビューボタンを押している間、絞り込み動作をします。 [On] : プレビューボタンを押すと絞り込み状態になります。もう一度ボタンを押すと絞り込みをやめます。
LVブースト	プレビュー中の画面表示を設定します。 [Off] : プレビュー前の測光を反映したままでライブビュー表示します。プレビュー中に絞り値を変更した場合は、露出の変化も確認できます。 [On] : プレビュー中は、見やすい明るさにして表示します。プレビュー中に絞り値を変更しても、明るく表示して変化を確認しやすくします。 <ul style="list-style-type: none">• ★カスタムメニュー D2の[LVブースト] (P.521)が[Off]のとき、選択できます。

D2タブ ➡ [プレビュー設定] ➡ 設定する項目を選択 ➡ 設定を選択

D3 撮影時に表示するガイド線を設定する (ガイド線表示設定)

フレーミングのときに補助となるガイド線を表示します。ガイド線の色や不透明度の設定やファインダーへの表示の選択もできます。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

表示色	表示する罫線の色や不透明度を設定します。2つの設定を記憶させておくことができます。
表示罫線選択	表示する罫線の種類を選択します。以下の選択ができます。 <ul style="list-style-type: none">• [方眼] / [黄金分割] / [三分割] / [目盛] / [対角線] / [動画罫線]• [動画罫線]は、撮影モードが静止画撮影のままでもムービー撮影する際に撮影される範囲がわかるように16:9の画面サイズで罫線を表示します。[画質モード]の設定によっては、17:9で表示されます。
EVF反映	[表示罫線選択]で設定されたガイド線表示を、ファインダー表示に反映するかどうかを設定します。 ★ カスタムメニュー D1 の[EVFガイド線表示設定] (P.556)は無効になります。

D3タブ ➡ [ガイド線表示設定] ➡ 設定する項目を選択 ➡ 設定を選択

- [表示色]を設定するときは、十字ボタンの△▽で数値を選択します。
- 深度合成撮影時(P.243)は、ここで設定した罫線は表示されません。

D3 輪郭の強調表示についての設定をする (ピーキング表示)

輪郭のはっきりしている部分に色を付けて強調して表示します。マニュアルフォーカスでピント合わせをするなどのときに、ピントが合っているかどうかを確認しやすくなります。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

ピーキング色	ピーキング表示の色を設定します。
ピーキングレベル	ピーキング表示の強度を設定します。
ピーキング背景の輝度調整	ピーキング表示が見分けやすいように背景の明るさを調整します。

- [ピーキング背景の輝度調整]が[On]のときは、撮影される画像とは異なった明るさでライブビュー表示されます。

D3 タブ ➡ [ピーキング表示] ➡ 設定する項目を選択 ➡ 設定を選択

■ ピーキング表示を使う

ピーキング表示を使うには以下の方法があります。

- [ピーキング表示]を[ボタン機能]や[ボタン機能]に設定する：
[ボタン機能] (P.463)、[ボタン機能] (P.417)を使って、いずれかのボタンに[ピーキング]を設定します。ボタンを押すと、ピーキング表示に切り換わります。[マルチFn] (P.470)でも[ピーキング]の設定ができます。撮影モードが (ムービー)のときは、初期設定で、 (ワンタッチホワイトバランスボタン)が[ピーキング]に設定されています。
- [MFアシスト]で[ピーキング]を設定する：
[MFアシスト]で[ピーキング]を設定すると、レンズのフォーカスリングを回したときだけピーキング表示をすることができます。ピーキング表示中にINFOボタンを押すと、ピーキング表示の設定ができます。 [MFアシスト] (P.495)

D3 ヒストグラム表示の警告レベルを設定する

(ヒストグラム警告設定)

ヒストグラムで警告する白とび(ハイライト)、黒つぶれ(シャドウ)の設定をします。ヒストグラム表示の警告と静止画再生時の画像での警告で使われます。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。
- モニターやファインダーの情報表示の[ハイライト&シャドウ]の赤や青で表示される領域も、この設定に従って表示されます。

ハイライト表示	ハイライト側の警告の下限値を設定します。
シャドウ表示	シャドウ側の警告の上限値を設定します。

D3タブ ➡ [ヒストグラム警告設定] ➡ 十字ボタンの△▽で設定値を選択

D3 撮影モード切り換え時にガイドを表示する

(モードガイド表示)

モードダイヤルを回して撮影モードを変更したとき、設定した撮影モードのガイドを表示します。

On	ガイドを表示します。
Off	ガイドを表示しません。

D3タブ ➡ [モードガイド表示] ➡ 設定を選択

D3 自分撮りに合わせた表示をする (自分撮りアシスト)

モニターを反転して自分撮りをするとき、撮影しやすいようにライブビュー表示を変更します。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

On	モニターを反転して自分撮り位置にしたとき、左右反転して表示します。
Off	モニターを自分撮り位置にしても、表示は切り換わりません。

D3タブ ➡ **[自分撮りアシスト]** ➡ 十字ボタンの△▽で**[On]**または**[Off]**を選択

D4 合焦音を消す (電子音)

AFでピントが合ったときに鳴るピピッと音のオンオフが設定できます。

On	AFで被写体に合焦したとき、ピピッと音が鳴ります。 [C-AF] では、最初の合焦時のみ発音します。
Off	AFで被写体に合焦したとき、ピピッと音は鳴りません。

D4タブ ➡ **[電子音]** ➡ 設定を選択

- 合焦音を発音するには、**[静音♥️]撮影時動作]**の設定が必要です(P.167)。

D4 外部モニターへの出力設定をする

(HDMI)

HDMI接続したモニターに出力する信号の設定をします。モニターの性能に合わせてムービーサイズやフレームレートを設定できます。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。詳しくはそれぞれのページをお読みください。🔍 「外部モニターへの出力設定をする(HDMI)」(P.434)、「6-7 外部モニター (テレビ)と接続する(HDMI)」(P.626)

出力サイズ	HDMI端子に出力する映像信号の形式を設定します。 [C4K] : 4Kデジタルシネマ画質(4096×2160)で出力します。 [4K優先] : 4K画質(3840×2160)優先で出力します。 [1080p優先] : フルハイビジョン形式(1080p)優先で出力します。 [720p優先] : ハイビジョン形式(720p)優先で出力します。 [480p/576p] : 480p/576p形式で出力します。
HDMIコントロール	[On]にすると、HDMIコントロール対応のテレビのリモコン操作を許可します。
出力フレームレート	NTSC地域かPAL地域かに合わせて出力する信号のフレームレートを選択します。

D4タブ ➡ [HDMI] ➡ 設定する項目を選択 ➡ 設定を選択

D4 USBケーブル接続時の動作を設定する (USB接続モード)

カメラをUSBケーブルでパソコンや周辺機器と接続するときの動作を設定します。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

オート	USBケーブルを接続するたびに接続方法を設定するメニューが表示されます。
ストレージ	カメラをパソコン用の外部メモリーのように使います。カード内のデータをパソコンに移すことができます。
MTP	Windows Vista以上でWindowsの標準のソフトウェアを使った画像の取り込みや閲覧をすることができます。
🖥️📷コントロール	OLYMPUS Captureを使って撮影しながら画像をパソコンに転送したり、パソコンからカメラをコントロールすることができます。詳しくは「6-5 パソコンと接続する(USB)」(P.620)をお読みください。
PCMレコーダー	PCMレコーダーと接続して、カメラからPCMレコーダーのコントロールができます。詳しくは「3-11 録音の機能」の「オリンパス製ICレコーダー使ってムービー音声を録音する」(P.415)をお読みください。
USB PD	USB接続した外部機器から給電してカメラを動作できます。詳しくは「6-6 USB外部電源を使う(USB PD)」(P.625)をお読みください。

D4 タブ ➡️ 【USB接続モード】 ➡️ 設定を選択

露出動作に関する機能 (カスタムメニュー **E1**/**E2**/**E3**)

露出動作に関する機能が集められています。ISO感度設定やバルブ撮影などの詳細な設定が集められています。

E1 露出設定時の変更ステップを設定する (露出ステップ)

シャッター速度、絞り値、露出補正值などの露出設定時の設定値の変更ステップを選択します。1/3EV、1/2EV、1EVから選択できます。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

E1 タブ ➡ **[露出ステップ]** ➡ 設定を選択

4

E1 ISO感度設定時の変更ステップを設定する (ISO感度ステップ)

ISO感度設定時の設定値の変更ステップを選択します。1/3EV、1EVから選択できます。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

E1 タブ ➡ **[ISO感度ステップ]** ➡ 設定を選択

E1 【📷ISO感度】の【AUTO】の範囲を設定する

(📷ISOオート設定)

【📷ISO感度】を【AUTO】(オート)に設定したときの、カメラが自動的に設定するISO感度の範囲やISO感度の変更を始めるシャッター速度を設定します。

- この機能は、静止画撮影の機能です。設定方法についてP.183をお読みください。
- 📷 (ムービー)モードでは、📷 (動画)メニューで設定する【📷MISOオート設定】が有効になります(P.372)。

上限/基準値設定	【上限値】：自動的に変わるISO感度の上限を設定します。 【基準値】：基準値となる値を設定します。 <ul style="list-style-type: none">• 設定の上限は6400です。設定した絞り値とシャッター速度で適正露出にならないときは、基準値より低い感度に設定されます。
低速限界設定	【📷ISO感度】を【AUTO】にしたときの、感度を上げ始めるシャッター速度を設定します。撮影モードが P および A モードで有効です。【オート】を選択すると、カメラが自動的に設定します。

E1 タブ ➡ 【📷ISOオート設定】 ➡ 設定する項目を選択 ➡ 設定を選択

E1 【📷ISO感度】の【AUTO】を使う撮影モードを設定する

(📷ISOオート有効)

【📷ISO感度】を【AUTO】(オート)で設定を有効にする撮影モードを設定します。**P/A/S/M**モードで有効とするか、**P/A/S**モードでのみ有効にするかを選択します。

- この機能は、静止画撮影の機能です。設定方法についてP.185をお読みください。

P/A/S	P/A/Sモードでのみ【📷ISO感度】の【AUTO】を有効にします。【AUTO】に設定した状態でBモードに切り換えたときは、【📷ISO感度】は200に設定されます。
All	P/A/S/Mモードで【📷ISO感度】の【AUTO】を有効にします。

E1 タブ ➡ 【📷ISOオート有効】 ➡ 設定を選択

E1 [📷ISO感度]が高感度時のノイズ低減を設定する

(📷高感度ノイズ低減)

ISO感度が高いときに画像に発生するノイズを低減します。暗い環境での撮影時に画像が粗くなるのを低減することができます。ノイズ低減のレベルは選択できます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。
- 📷 (ムービー)モードでは、📹 (動画)メニューで設定する[📷高感度ノイズ低減]が有効になります(P.379)。

Off	ノイズ低減をしません。
弱/標準/強	ノイズ低減の強度を選択します。

E1 タブ ➡ [📷高感度ノイズ低減] ➡ 設定を選択

4

E1 撮影時の画像処理の方法を設定する (📷低感度画像処理)

ISO感度が低い設定で撮影した画像にかける、画像処理の方法を設定します。

- この機能は、静止画撮影の機能です。

連写優先	連写継続枚数に影響を与えないように画像処理をします。
解像優先	解像を優先した画像処理をします。

E1 タブ ➡ [📷低感度画像処理] ➡ 設定を選択

E1 長秒時撮影時のノイズ低減の設定をする（長秒時ノイズ低減）

遅いシャッター速度で撮影したときに発生する画像のノイズを低減するための設定をします。遅いシャッター速度で撮影すると、カメラ自身の発生する熱により画像にノイズが発生します。撮影後に処理用の画像を取得するので、シャッター速度と同じ時間、次の撮影ができません。

- この機能は、静止画撮影の機能です。

Off	ノイズ低減処理をしません。
On	シャッター速度の設定に関わらず、常にノイズ低減処理をします。
オート	長秒時撮影時にカメラ内部の温度が上昇したとき、自動的にノイズ低減処理をします。

- ノイズ低減の処理中、画面には処理が終了するまでの時間が表示されます。
- 連写設定時は、自動的に**[Off]**になりノイズ低減処理は行われません。
- 撮影条件や被写体により効果が出にくい場合があります。

E1 タブ ➡ **[長秒時ノイズ低減]** ➡ 設定を選択

E2 バルブ/タイム撮影時の露光時間の上限を設定する (BULB/TIMEリミッター)

4

B（バルブ）モードで撮影時の最長の露光時間を設定します。設定した時間を経過すると、自動的にシャッターを閉じて撮影を終了します。

- この機能は、静止画撮影の**B**モードの**[BULB]**および**[TIME]**で使用する機能です。
- 以下の時間から設定できます。
1分 / 2分 / 4分 / 8分 / 15分 / 20分 / 25分 / 30分

E2 タブ ➡ **[BULB/TIMEリミッター]** ➡ 設定を選択

E2 バルブ/タイム撮影時の画面の明るさを設定する (BULB/TIME輝度設定)

B (バルブ)モードで撮影時のモニターの明るさを設定します。**B**モードで撮影するような暗い場所でも、モニターがまぶしくないようにできます。

- この機能は、静止画撮影の**B**モードで使用する機能です。
- 明るさを、-7 ~ +7の間で設定できます。

E2タブ ➡ [BULB/TIME輝度設定] ➡ 設定を選択

4

E2 ライブバルブ撮影時の表示の更新時間を設定する (ライブBULB設定)

B (バルブ)モードでライブバルブ撮影をしているとき、露光中の画像を表示する時間間隔を設定します。ライブバルブで撮影中、設定した時間間隔で表示を更新するので撮影結果を確認しながら撮影できます。

- この機能は、静止画撮影の**B**モードで使用する機能です。ライブバルブ撮影については、P.104をあわせてお読みください。

E2タブ ➡ [ライブBULB設定] ➡ 設定を選択

- [BULB]および[LIVE BULB]では、**MENU**ボタンを押すと直接、[ライブBULB設定]の設定画面を表示します。

E2 ライブタイム撮影時の表示の更新時間を設定する

(ライブTIME設定)

B (バルブ)モードでライブタイム撮影をするときの、露光中の画像を表示する時間間隔を設定します。ライブタイムで撮影中に設定した時間間隔で表示を更新するため、撮影結果を確認しながら撮影できます。

- この機能は、静止画撮影の**B**モードで使用する機能です。ライブタイム撮影については、P.104をあわせてお読みください。

E2 タブ ➡ [ライブTIME設定] ➡ 設定を選択

- [TIME]および[LIVE TIME]では、**MENU**ボタンを押すと直接、[ライブTIME設定]の設定画面を表示します。

E2 コンポジット撮影時のシャッター速度を設定する

(コンポジット撮影設定)

4

B (バルブ)モードでコンポジット撮影をするときのシャッター速度を設定します。コンポジット撮影は、複数枚の画像を合成する撮影手法です。このシャッター速度を設定します。

- 最長の撮影時間は3時間です。
- この機能は、静止画撮影の**B**モードで使用する機能です。コンポジット撮影については、P.110をあわせてお読みください。

E2 タブ ➡ [コンポジット撮影設定] ➡ 設定を選択

- [LIVE COMP]では、**MENU**ボタンを押すと直接、[コンポジット撮影設定]の設定画面を表示します。

E2 LED照明による明るさのちらつきを抑えて撮影する (📷フリッカースキャン)

LED照明の影響で写るすじを画面で確認しながら、写らないシャッター速度を設定することができます。

LED照明的环境下では、撮影した画像にすじが写ることがあります。[📷フリッカースキャン]では、画面ですじの発生を確認しながらすじが写らないシャッター速度を選んで撮ることができます。

この機能は、撮影モードが**S**または**M**で、静音撮影、ハイレゾショット撮影、プロキャプチャー撮影のときに使用できます。

- 設定できるシャッター速度の範囲が狭くなります。
- この機能は、静止画撮影の機能です。詳しくはP.193をお読みください。📷 (ムービー)モードでは、📹動画メニューで設定する[📹フリッカースキャン]が有効になります(P.374)。

E2タブ ➡ [📷フリッカースキャン] ➡ 設定を選択

E3 明るさを測る方法を選ぶ (測光)

測光方式を設定します。

- この機能は、静止画撮影の機能です。詳しくはP.186をお読みください。
- 📷 (ムービー)モードでは、測光方式は[📷] (デジタルESP測光)固定です。

📷 (デジタルESP測光)	画面を324分割で測光し、最適な露出値を演算します。
📷 (中央重点平均測光)	画面の中央部に重点を置いて、画面全域を平均測光します。
📷 (スポット測光)	狭い範囲(画面の約2%)の領域のみを測光します。
📷 (スポット測光ハイライト)	スポット測光したポイントがより明るくなります。明るいところを明るく表現します。
📷 (スポット測光シャドウ)	スポット測光したポイントがより暗くなります。暗いところを暗く表現します。

E3タブ ➡ [測光] ➡ 設定を選択

- 測光は、ダイレクトボタン(**AF**📷ボタン)、LVスーパーコンパネやLVコントロールでも設定できます。

☑️ AEロック動作時の測光方式を設定する (AEL測光モード)

AEL/AFL ボタンを使って、AEロックをするときの測光方式を設定します。シャッターボタンの半押し時のAFロックと、**AEL/AFL** ボタンによるAEロックを使い分けることができます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。AEロックについては、詳しくはP.188をお読みください。

オート	[測光] (P.536)の設定で測光します。
☉ (中央重点平均測光)	画面の中央部に重点を置いて、画面全域を平均測光します。
□ (スポット測光)	狭い範囲(画面の約2%)の領域のみを測光します。
☐ _H (スポット測光ハイライト)	スポット測光したポイントがより明るくなります。明るいところを明るく表現します。
☐ _{Sh} (スポット測光シャドウ)	スポット測光したポイントがより暗くなります。暗いところを暗く表現します。

☑️ タブ ➡ [AEL測光モード] ➡ 設定を選択

☑️ スポット測光時の測光位置をAFターゲットに合わせる ([::]連動スポット測光)

[測光] を [□] (スポット測光) にしたとき、AFターゲットの位置に測光位置を連動させることができます。スポット測光、スポット測光ハイライト、スポット測光シャドウのそれぞれの測光方式で個別に設定できます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。
- [☉顔優先] は [Off] になります。
- AFターゲットモードが、[・] (シングルターゲット)、[・]s (スモールターゲット) のときに機能します (P.120)。
- 拡大AF時は、拡大枠を表示した位置に連動します (P.136)。

☑️ タブ ➡ [[::]連動スポット測光] ➡ 設定を選択

- 連動させる測光方式を選択して **OK** ボタンを押します。チェックボックスに のついた測光方式で連動します。

E3 露出の基準を微調整する

(露出基準調整)

露出の基準を微調整することができます。カメラの自動露出の結果を常にプラス方向、マイナス方向にずらして撮りたいときに設定します。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。
- 通常はこの機能で調整する必要はありません。必要な場合のみ設定してください。通常の撮影で露出の補正を目的とするときは、露出補正を行ってください(P.180, 367)。
- 調整した方向(プラス/マイナス)の露出補正の範囲が狭くなります。
- 以下の測光方式で個別に設定できます。

測光方式	調整値
<input type="checkbox"/> (デジタルESP測光)	-1EV ~ +1EV、1/6EVステップ
<input checked="" type="checkbox"/> (中央重点平均測光)	
<input type="checkbox"/> (スポット測光)	

E3 タブ ➡ **【露出基準調整】** ➡ 項目を選択 ➡ 調整値を設定

フラッシュに関する機能 (カスタムメニュー **F**)


フラッシュの動作に関する機能が集められています。フラッシュの同調速度の設定やRCモードによるリモートフラッシュ撮影の設定などが集められています。

F フラッシュ使用時のシャッター速度の上限を設定する (同調速度)

フラッシュ使用時に設定できるシャッター速度の上限を設定します。




フラッシュ使用時に被写体が明るいときでも、シャッター速度の上限はこの設定で固定されます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。詳しくはP.260をお読みください。

F タブ → [ 同調速度] → 設定を選択

F フラッシュ使用時のシャッター速度の下限を設定する (低速制限)

フラッシュ使用時に設定できるシャッター速度の下限を設定します。

シャッター速度をカメラが自動的に決める場合は、フラッシュ使用時に被写体が暗いときでも、シャッター速度の下限はこの設定で固定されます。フラッシュ発光モードがスローシンクロ( Slow/ Slow2/ Slow)のときは、この設定は働きません。

- 設定範囲：30秒～ [同調秒時]
- この機能は、静止画撮影の機能です。詳しくはP.261をお読みください。

F タブ → [ 低速制限] → 設定を選択

F フラッシュ発光量補正に露出補正値を加算する ([F] + [WB] 連動)

フラッシュの発光量補正を設定したとき、露出補正の設定を加算するかどうかを設定します。フラッシュ発光量補正については、P.259をお読みください。

- この機能は、静止画撮影の機能です。

Off	フラッシュ発光量補正の設定値と露出補正は別々に設定されます。
On	フラッシュの発光量補正に、露出補正値が加算されます。

F タブ ⇒ [[F] + [WB] 連動] ⇒ 設定を選択

4

F フラッシュ発光時のホワイトバランスを設定する ([WB] + WB 連動)

フラッシュの発光時のホワイトバランスの動作を選択します。フラッシュに合わせたホワイトバランスの設定にするか、通常の撮影でのホワイトバランスの設定を優先するかを選択できます。フラッシュの発光/発光禁止を頻繁に切り換える撮影などで、自動的にホワイトバランスの設定をすることができます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。

Off	ホワイトバランスの設定に従って動作します。
WB AUTO	ホワイトバランスは [オート] に変更されます。
WB [WB]	ホワイトバランスは [WB] (フラッシュ撮影用WB) に変更されます。

F タブ ⇒ [[WB] + WB 連動] ⇒ 設定を選択

F ワイヤレスRCフラッシュ撮影をする (⚡RCモード撮影)

ワイヤレスRCフラッシュを使って撮影をする設定をします。別売のワイヤレスRCフラッシュ対応の専用フラッシュを使ってフラッシュをリモート制御します。ワイヤレスRCフラッシュ撮影については、P.262をお読みください。

- この機能は、静止画撮影の機能です。

Off	ワイヤレスRCフラッシュ撮影をしません。
On	ワイヤレスRCフラッシュ撮影をします。カメラでフラッシュのリモート撮影をするためのパネルが画面に表示されます。

F タブ ➡ [⚡RCモード撮影] ➡ 設定を選択

- **[On]**にするとモニターにRCモード用のLVスーパーコンパネが表示されます。通常のLVスーパーコンパネに切り換えるには**INFO**ボタンを押します。

画質・WB・色に関する機能（カスタムメニュー **G**）

画質モードの組み合わせの設定やホワイトバランスの微調整など絵作りに関する機能が集められています。

G 画像サイズや圧縮率の組み合わせを設定する（画質設定）

【**画質モード**】（P.78）の画像サイズや圧縮率の組み合わせを変更することができます。【**←1**】～【**←4**】の4つの設定を記憶させておくことができます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。詳しくはP.81をお読みください。



選択できる設定の詳細は以下の通りです。

ピクセルサイズ

L (Large)	5184×3888
M (Middle) *	3200×2400
S (Small) *	1280×960

圧縮率

SF (SuperFine)	1/2.7
F (Fine)	1/4
N (Normal)	1/8

- * 【**M**】、【**S**】のピクセルサイズは初期設定で、*カスタムメニュー **G** 【ピクセルサイズ】（P.82）で変更できます。

G タブ ⇒ 【画質設定】 ⇒ 項目を選択して設定

G **[M]**や**[S]**の画像サイズの設定を変更する（ピクセルサイズ）

[📷画質モード]（P.78）の**[M]**（**M**iddle）および**[S]**（**S**mall）の、ピクセルサイズの設定を変更できます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。詳しくはP.82をお読みください。

[M]および**[S]**で選択できる、ピクセルサイズはそれぞれ以下の通りです。

M iddle (Middle)	3200×2400、1920×1440
S mall (Small)	1280×960、1024×768

Gタブ ➡ **[ピクセルサイズ]** ➡ **[M**iddle]または**[S**mall]を選択 ➡ 設定を選択

G レンズの周辺減光を補正する（シェーディング補正）

レンズの特性により発生する画面周辺の減光を補正します。レンズによっては画面周辺が減光で暗くなる場合があります。カメラが自動的に補正して明るくします。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

Off	シェーディング補正をしません。
On	カメラが自動的に判断してシェーディング補正をします。



- テレコンバーターやエクステンションチューブを装着しているときは、**[On]**に設定されていても補正されません。
- ISO感度が高い設定のときは、補正により画面修正のノイズが目立つ場合があります。

Gタブ ➡ **[シェーディング補正]** ➡ 設定を選択

G 画像の色合いを調整する

(WBモード)




被写体を照らす光源の影響により色合いが変わってしまうのを補正します。ホワイトバランスは白いものを白く写す機能です。通常は【オート】で問題ありませんが、適切な白にならない場合や、逆に色合いを出したい場合は光源に合わせて、【AUTO】以外のホワイトバランスを手動で設定します。

- この機能は、静止画撮影の機能です。詳しくはP.202をお読みください。 (ムービー)モードでは、WBモードが有効になります(P.380)。

WBモード	設定される色温度	適した撮影シーン
オートホワイトバランス	—	一般的なほとんどの撮影シーン(画面内に白に近い色が存在する撮影シーン) • 通常はこのモードをお使いください。
プリセット ホワイトバランス		5300K 晴天の日に屋外で撮るとき、夕焼けを赤く撮るとき、花火を撮るとき
		7500K 晴天の日に屋外の日陰で撮るとき
		6000K 曇天の日に屋外で撮るとき
		3000K 電球に照らされている被写体を撮るとき
		4000K 蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
		— 水中で撮るとき
	5500K フラッシュ撮影のとき	
ワンタッチ ホワイトバランス	 /   / 	ワンタッチホワイトバランスで設定した色温度 白かグレーの測定できる被写体があり、特性のわからないフラッシュや光源のときや、光源が複数あって特定できないとき
カスタム ホワイトバランス	CWB	2000K ~ 14000K 色温度での特定ができるとき

- 個別にホワイトバランスの補正ができます。A方向(アンバー - 青)とG方向(緑 - 赤紫)の補正ができます。
- ワンタッチホワイトバランスは、あらかじめ記憶されている設定から選択します。ワンタッチホワイトバランスについては、P.207をお読みください。
- カスタムホワイトバランスは、2000K ~ 14000Kの間で設定値が選べます。

G タブ ➡ [WBモード] ➡ 設定を選択

- カスタムホワイトバランス(CWB)を選択したときは、十字ボタンの▶を押して△▽ボタンで色温度を選択します。
- ホワイトバランスの補正を行うときは、設定を選択して▶ボタンを押して、次の画面で設定値を選択します。
- A、Gの調整画面で、 (ムービー)ボタンを押すと調整した状態を画像で確認できます。もう一度、ボタンを押すとA、Gの調整画面に戻ります。
- ホワイトバランスは、ダイレクトボタン(WBボタン)、LVスーパーコンパネやLVコントロールでも設定できます。 (ムービー)モードでも同様にムービー用の設定ができます。

G 【📷WBモード】の設定の微調整をする

(📷全WBモード補正)

ホワイトバランスの設定を一括で微調整します。ホワイトバランスは、光源に合わせた設定を選択して設定しますが、全てのホワイトバランスの設定を一律に微調整することができます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。📷 (ムービー)モードでは、【📷全WBモード補正】が有効になります(P.385)。

All Set	全てのホワイトバランスの設定を微調整します。A方向(アンバー – 青)とG方向(緑 – 赤紫)の補正ができます。
All Clear	設定した微調整をリセットします。

G タブ ➡ 【📷全WBモード補正】 ➡ 設定を選択

- 【**All Set**】を選択したときは、A方向、G方向の調整値を設定します。【**All Clear**】を選択したときは、【**実行**】を選択して**OK**ボタンを押します。

G 【📷WBモード】が【オート】のときに電球の色合いを残して撮影する (📷WBオート 電球色残し)

4

光源が電球で、【📷WBモード】の設定が【オート】のときに、電球の色合いを残した画像を撮影できます。ホワイトバランスが【オート】だと正しい色合いで撮影するように自動的に補正されますが、電球下での撮影の雰囲気を残すことができます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。📷 (ムービー)モードでは、【📷WBオート 電球色残し】が有効になります(P.383)。

On	電球色を残しながら補正されます。
Off	電球色を残さず補正されます。

G タブ ➡ 【📷WBオート 電球色残し】 ➡ 設定を選択

撮影した画像をディスプレイやプリンターで再現する際、色再現を正しく行うための方式を選択します。

- この機能は、静止画撮影の機能です。詳しくはP.232をお読みください。

sRGB	Windowsの環境での標準の色域として定着している規格です。標準的なディスプレイやプリンター、デジタルカメラ、各種のアプリケーションで使用されています。通常はこの設定にしてください。
AdobeRGB	アドビシステムズ社によって定義された規格です。sRGBより広い色域の再現ができます。正しく出力するためには、この規格に対応したソフトウェア、ディスプレイやプリンターなどの機器が必要です。ファイル名の初めの文字が、「_」(アンダーバー)で示されます(例: <code>_xxx0000.jpg</code>)。

- ピクチャーモードがアートフィルターの設定のときやHDR撮影では、**[AdobeRGB]**は使えません。**[sRGB]**に変更されます。








G タブ ➡ **[カラー設定]** ➡ 設定を選択

記録・消去に関する機能（カスタムメニュー H1/H2）








撮影したデータの記録の仕方やカメラで再生時に消去する際の方法などの設定がまとめられています。

H1 カードの使い方を設定する（カードスロット設定）





このカメラは、2枚のカードを同時に使用できます。カードの使い分けの設定をします。詳細な説明は、「2-3 カードについての設定」(P.71)、「3-3 カードについての設定」(P.316)のそれぞれのページをお読みください。

 記録設定	2枚のカードを使用するときの静止画のカードへの記録方法を設定します。標準/自動切換/振り分け/同一書き込みの設定ができます。2枚のカードに異なる画質モードで記録したり、優先して記録するカードを指定するなどの設定ができます(P.72)。
 記録スロット	2枚のカードを使っているときに、静止画のデータを記録するカードを指定します(P.74)。  [記録設定]が、 <input type="checkbox"/> (標準)または <input type="checkbox"/> (自動切換)のときに設定できます。
 記録スロット	2枚のカードを使っているときに、ムービーのデータを記録するカードを指定します(P.316)。
 スロット	カードを2枚使っているとき、再生で使用するカードを設定します。  ボタンを押すと、あらかじめ設定されたカードの画像を再生します(P.57, 302)。  [記録設定]が <input type="checkbox"/> (標準)または <input type="checkbox"/> (自動切換)では選択できません。
記録フォルダ指定	撮影したデータを記録するフォルダを指定します。 <ul style="list-style-type: none">カードを1枚のみ使用している場合でも設定できます。静止画撮影、ムービー撮影で共通の設定です(P.76, 319)。

4

- 撮影した画像やムービーを記録するカード、および再生するカードの変更は、ボタンを使ってもできます。
 - **CARD** ボタンを押してからフロント/リアダイヤルを回します。
 -  ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回します。このとき、 [スロット]の設定は変更されません。
-  [記録設定]を [振り分け]または [振り分け]に設定して画質モードを使い分けしているときに、設定を変更したり、カードを抜き差しして記録可能なカードが切り換わると、画質モードが変更されることがあります。撮影前に必ずご確認ください。
-  [記録スロット]、 [記録フォルダ指定]以外の項目の設定をするときは、静止画撮影モードにして行ってください。

H1 タブ ➡ [カードスロット設定] ➡ 項目を選択 ➡ 設定を選択

-  [記録設定]が (自動切換)に設定されているときは、1枚目のカードの最後と2枚目のカードの先頭は、自動的に切り換えて再生します。
-  (ムービー)モードでは、 [スロット]は [記録スロット]に固定されます。

H1 ファイル名の付け方を設定する (ファイルネーム)

撮影した静止画やムービーをカードに記録するときのファイル名の付け方を設定します。ファイル名は、4文字の英数字と4桁の画像番号で構成されています。画像番号の付け方を変更することができます。

- 2枚のカードに同時記録する場合は、それぞれのカードのファイル番号とフォルダ番号によって、新規フォルダが生成されたり、カード内のファイル番号が不連続になる場合があります。

オート	カードを入れ換えても、ファイル番号は通し番号で付けられます。カード内に重複するファイル番号がある場合は、最も大きなファイル番号に続いた番号が付けられます。
リセット	新しいカードを入れると、フォルダ番号は100、ファイル名は0001から始まります。すでに画像が記録されたカードを入れると、最も大きなファイル番号に続いた番号が付けられます。

☑️ タブ ➡️ 【ファイルネーム】 ➡️ 設定を選択

4

H1 ファイル名を変える (ファイルネーム編集)

撮影した静止画やムービーをカードに記録するときのファイル名を変更します。ファイル名は、4文字の英数字と4桁の画像番号で構成されています。先頭の英数字を任意に変更することができます。編集できる内容は【カラー設定】(P.232)により変わります。

【カラー設定】が[sRGB]のとき：

Pmdd0000.jpg — Pmddの4文字を任意に設定できます。

【カラー設定】が[AdobeRGB]のとき(静止画のみ)：

_mdd0000.jpg — mddの3文字を任意に設定できます。

☑️ タブ ➡️ 【ファイルネーム編集】 ➡️ 項目を選択 ➡️ 設定を選択

- 【Off】を選択すると、初期設定の文字が使われます。

H1 プリント出力時の解像度を設定する (dpi設定)

撮影時に画像ファイルに記録するdpi情報を設定します。プリント出力時の解像度に合わせて設定します。

- この機能は静止画撮影の機能です。

H1 タブ ➡ [dpi設定] ➡ 任意の数値を設定

H1 著作権情報を設定する (著作権情報)

撮影時に画像ファイルに著作権の情報を設定します。設定した著作権情報は、画像のExif情報として記録されます。

- この機能は静止画撮影の機能です。

【著作権情報】の使用により生じたトラブルや損害などについては、当社は一切の責任を負えません。お客様の責任でご使用ください。



著作権情報記録	撮影者/著作権者の名称をExif情報に付加します。
撮影者入力	撮影者の名称を設定します。
著作権者入力	著作権者の名称を設定します。

H1 タブ ➡ [著作権情報] ➡ 項目を選択して十字ボタンの▷を押す。

- 【著作権情報記録】：[Off] / [On]を選択してOKボタンを押します。
- 【撮影者入力】 / 【著作権者入力】：選択して▷ボタンを押すと、文字入力画面が表示されます。

4

撮影者名や著作権者名を入力する

- 1) 入力する文字を選択してOKボタンを押します。
 - 文字入力エリアに選択した文字が表示されます。
 - 入力した文字を消すときは、ボタンを押します。
- 2) 文字入力エリアの文字を消去するときは、INFOボタンを押してカーソルを文字入力エリアに移動します。
 - 文字を選択してボタンを押すと文字が消えます。
- 3) 入力を終了したら[END]を選択してOKボタンを押します。

文字入力エリア



文字選択エリア

カーソルの移動にはフロント/リアダイヤル、十字ボタン、マルチセレクターが使えます。

H1 レンズ情報を登録する

(レンズ情報登録)

任意に設定したレンズの情報をExif情報に付加します。レンズ情報を取得できないレンズを使う場合に、レンズ情報を付加することができます。レンズ情報はあらかじめ10本まで記憶させておくことができます。この設定は、手ぶれ補正やデジタルシフト撮影の焦点距離情報としても使用します。

- この機能は静止画撮影の機能です。

レンズ情報新規登録	任意のレンズ情報を設定します。レンズ名、焦点距離、絞り値を設定します。
1～10	登録されたレンズ情報が表示されます。

■ レンズ情報を登録する

H1タブ ➡ **[レンズ情報登録]** ➡ **[レンズ情報新規登録]** を選択して十字ボタンの▷を押す。

- **[レンズ名]**：選択して▷ボタンを押すと、文字入力画面が表示されます。
- **[焦点距離] / [絞り値]**：選択して▷ボタンを押すと、設定画面が表示されます。十字ボタンで値を設定して**OK**ボタンを押します。

レンズ名を入力する

- 1) 入力する文字を選択して**OK**ボタンを押します。
 - 文字入力エリアに選択した文字が表示されます。
 - 入力した文字を消すときは、**削除**ボタンを押します。
- 2) 文字入力エリアの文字を消去するときは、**INFO**ボタンを押してカーソルを文字入力エリアに移動します。
 - 文字を選択して**削除**ボタンを押すと文字が消えます。
- 3) 入力を終了したら**[END]**を選択して**OK**ボタンを押します。

文字入力エリア



文字選択エリア

- カーソルの移動にはフロント/リアダイヤル、十字ボタン、マルチセクターが使えます。

■ レンズ情報を付加する

通信できないレンズを装着したら、付加するレンズ情報を選択します。

H1タブ ➡ **[レンズ情報登録]** ➡ 付加するレンズ名を選択して**OK**ボタンを押す。

- ✓が付いたレンズ情報が付加されます。



- **[カメラボタン機能]** (P.463)または**[メニューボタン機能]** (P.417)を使ってボタンに**[レンズ情報登録]**の機能を登録できます。レンズ交換時などに、登録されているレンズ情報の選択ができます。

H2 画像消去のときに確認をしない (ワンプッシュ消去)

画像やムービーを再生時に🗑️ボタンを押したときに、実行/中止の確認画面を表示せずに消去します。

Off	🗑️ボタンを押したとき、実行/中止の確認画面を表示します。
On	🗑️ボタンを押したとき、実行/中止の確認画面を表示せずに消去します。

H2タブ ➡ [ワンプッシュ消去] ➡ 設定を選択

H2 RAW+JPEGで記録した画像の消去方法を設定する (RAW+JPEG消去)

4

画質モードを[RAW+JPEG]で記録した画像を1コマ消去するときの方法を設定します。

JPEG	JPEG画像のみ消去します。
RAW	RAW画像のみ消去します。
RAW+JPEG	RAW画像とJPEG画像の両方を消去します。

- [全コマ消去] (P.276)や[選択コマ消去] (P.279)の場合は、常にRAWとJPEGの両方が消去されます。

H2タブ ➡ [RAW+JPEG消去] ➡ 設定を選択

H2 【実行/中止】画面のカーソルの初期位置を設定する

(実行優先設定)

機能設定などで表示される、**【実行】**または**【中止】**を選択する画面が表示されたとき、カーソルをどちらに合わせた状態にするかを設定します。

中止優先	カーソルを 【中止】 に合わせて表示します。
実行優先	カーソルを 【実行】 に合わせて表示します。

H2タブ ➡ **【実行優先設定】** ➡ 設定を選択

ファインダーに関する機能 (カスタムメニュー ①)

EVF (ファインダー)の表示についての詳細設定や表示スタイルなどに関する機能が集められています。

- EVF : Electronic Viewfinderの略

① モニター /ファインダーの自動切り換えを設定する (EVF自動切換設定)

モニターのライブビュー表示とファインダー表示を自動で切り換える設定をします。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。詳しくは「2 静止画の撮影と再生」(P.51)および「3 ムービーの撮影と再生」(P.293)をお読みください。

On	ファインダーに目を近づけると自動的に表示を切り換えます。
Off	<input type="checkbox"/> ボタンを押して、ファインダー表示とモニター表示を切り換えます。

① タブ ➡ [EVF自動切換設定] ➡ 設定を選択

① ファインダーの明るさや色合いを調整する (EVF調整)

ファインダー表示の明るさや色合いを調整します。EVF調整中は、表示がファインダーに切り換わります。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

EVF自動調光	[On] : 撮影している環境に合わせて、自動的にファインダー表示の明るさや情報表示の濃さを調整します。[EVF調整]の☼ (明るさ)は調整できません。 [Off] : EVF調整の設定に従って表示します。
EVF調整	EVFの表示を調整します。色温度と明るさを+7~-7の範囲で設定できます。



① タブ ➡ [EVF調整] ➡ 項目を選択 ➡ 設定を選択

- [EVF自動調光]を選択したときは、[On]か[Off]を選択してOKボタンを押します。
- [EVF調整]を選択すると自動的にファインダーが点灯します。十字ボタンの<D>で☼ (明るさ)か🌡 (色温度)を選択して、△▽ボタンで値を設定します。

1 ファインダーの表示スタイルを設定する (EVF表示スタイル)

ファインダーの表示スタイルを選択します。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。
- 表示については、静止画撮影モードのときはP.83、ムービー撮影モードのときはP.326をお読みください。
- 表示内容の詳細については、「静止画像撮影時のファインダー表示」(P.88)、「ムービー撮影時のファインダー表示」(P.330)をお読みください。

スタイル1	フィルムカメラのファインダーのような表示スタイルにします。	
スタイル2		
スタイル3	モニターと同じ表示をします。	

1 タブ ➡ [EVF表示スタイル] ➡ 設定を選択

1 ファインダーの情報表示を設定する (Info表示設定)

ファインダー表示でもモニターの表示と同様に**INFO**ボタンで、ヒストグラムや水準器表示の画面の切り換えができます。ファインダー表示中、**INFO**ボタンを押して表示する情報表示の内容を設定します。この機能は、そのときに表示する内容を設定します。**[EVF表示スタイル]**が**[スタイル1]**、**[スタイル2]**のときに有効です。

- この機能は、静止画撮影の機能です。📷 (ムービー)モードでは、**[Info表示]**が有効になります(P.429)。
- 表示項目を設定した2種類のカスタム表示とフィールドセンサー Info表示の、3種類の表示設定を使い分けできます。

基本情報表示	撮影の機能設定状態を示すアイコンなどを表示します。
カスタム表示1 / カスタム表示2	基本情報表示に加えて以下の内容の表示/非表示を選択します。 [ヒストグラム表示] : ヒストグラムを重ねて表示します。 [ハイライト&シャドウ] : ハイライトやシャドウ部を着色して表示します。 [水準器] : 水準器を表示します。
フィールドセンサー Info	GPSや各センサー情報を表示します。

1 タブ ➡ **[Info表示設定]** ➡ 設定を選択して**OK**ボタンを押す。

- チェックボックスに✔を付けた項目が表示されます。
- **[カスタム表示1]**または**[カスタム表示2]**を選択したときは、十字ボタンの▶を押して情報表示の設定が選べます。

1 ファインダーにガイド線を表示する (EVFガイド線表示設定)

フレーミングのときに補助となるガイド線をファインダーに表示します。ガイド線の色や不透明度の設定の選択もできます。【EVF表示スタイル】が【スタイル1】、【スタイル2】のときに有効です。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。
- ★カスタムメニュー 03 【ガイド線表示設定】の【EVF反映】が【On】のときは、この設定は無効になります。

表示色	表示する罫線の色や不透明度を設定します。2つの設定を記憶させておくことができます。
表示罫線選択	表示する罫線の種類を選択します。以下の選択ができます。 <ul style="list-style-type: none">• 【方眼】 / 【黄金分割】 / 【三分割】 / 【目盛】 / 【対角線】 / 【動画罫線】• 【動画罫線】は、撮影モードが静止画撮影のままでもムービー撮影する際に撮影される範囲がわかるように16:9の画面サイズで罫線を表示します。【画質モード】の設定によっては、17:9で表示されます。

1 タブ ➡ 【EVFガイド線表示設定】 ➡ 設定する項目を選択 ➡ 設定を選択

- 【表示色】を設定するときは、十字ボタンの△▽で数値を選択します。
- 深度合成撮影時(P.243)は、ここで設定した罫線は表示されません。

1 シャッターボタン半押し中に水準器を表示する

( 半押し中水準器表示)

【EVF表示スタイル】が【スタイル1】または【スタイル2】の設定のときに、シャッターボタンを半押ししているときだけファインダーに水準器を表示します。



半押し中の
ファインダー表示

On	シャッターボタンを半押し中、ファインダーに水準器を表示します。露出バーの位置に、水平方向の傾きを表示します。
Off	水準器を表示しません。

1 タブ ➡ [ 半押し中水準器表示] ➡ 設定を選択

1 ファインダー表示を自然な表示にする

(OVFシミュレーション)


ファインダー表示のダイナミックレンジを拡大し、黒つぶれや白とびを抑えて光学ファインダーのような見えを再現します。逆光などの条件でも、被写体を容易に確認できます。

- この機能を有効にした場合、露出やホワイトバランス、ピクチャーモードのアートフィルターなどの撮影の設定は表示に反映されません。
- この機能は、静止画撮影の機能です。詳しくはP.89をお読みください。

Off	露出などの撮影設定を反映してファインダー表示をします。効果を確認しながら撮影できます。
On	ダイナミックレンジを拡大してファインダー表示します。露出やホワイトバランスなどの撮影設定は表示に反映されません。

1 タブ ➡ [OVFシミュレーション] ➡ 設定を選択



【ボタン機能】(P.463)を使って、ボタンに【OVFシミュレーション】の機能を登録できます。ボタンを押す操作だけでオンオフを切り換えることができます。

その他のカスタマイズ機能

(カスタムメニュー **J1**/**J2**/**J3**)

カメラのタッチパネルの設定や電池の使い方に関する設定などがあります。フィッシュアイ補正撮影の設定やGPS機能に関する設定もこの中にあります。

J1 画像処理機能をチェックする (ピクセルマッピング)

撮像素子と画像処理機能のチェックを同時に行います。最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分以上時間を空けたあとに実行します。

- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。







J1 タブ ➡ **[ピクセルマッピング]** ➡ **[スタート]** を選択して **OK** ボタンを押す。

J1 ボタン長押し操作のときの操作時間を設定する (ボタン長押し時間調整)

各機能で設定値のリセットなどで実行する、ボタンの長押し操作の操作時間の設定をします。使い勝手に合わせて機能別に設定できます。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。各機能の詳細については、各機能の説明をお読みください。

時間調整できる機能

- LV拡大枠/拡大表示
- LV拡大枠位置
-  (ムービーテレコン拡大枠表示)
-  拡大枠 (ムービーテレコン拡大枠位置)
- 露出補正値
-  設定値 (フラッシュ補正)
-  設定値 (ハイライト&シャドウコントロール)
-  設定値 (カラークリエイター)
- AFターゲット位置
- EVF自動切換設定
- 再生拡大枠/拡大表示
- スレートトーン
- デジタルシフト
- デジタルシフト設定値
-  ロック (タッチパネル)
- BKT撮影
- フリッカースキャン

J1 タブ ➡ **[ボタン長押し時間調整]** ➡ 項目を選択 ➡ 設定を選択

J1 水準器の調整をする

(水準器調整)

水準器の角度のずれを調整します。実際の水平、垂直と水準器の表示にずれがある場合などに調整してください。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

リセット	工場出荷時の調整値に戻します。
キャリブレーション	基準の位置(ゼロ点)を設定します。基準点(ゼロ点)に設定する状態にカメラを設置して調整します。

J1 タブ ➡ [水準器調整] ➡ 項目を選択 ➡ **OK**を押す。

J1 タッチパネル機能を無効にする

(タッチパネル設定)

タッチパネル機能を有効にするか無効にするかを設定します。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

Off	タッチパネルの機能を無効にします。
On	タッチパネルの機能を有効にします。

J1 タブ ➡ [タッチパネル設定] ➡ 設定を選択

J1 メニュー表示の位置を記憶する (メニューカーソル保持)

メニューを消す直前のカーソル位置を記憶して、次回メニューを開いたときは、その位置で表示します。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

記憶する	カーソルの位置を記憶します。前回表示したときと同じ位置で表示します。カメラの電源を切っても保持されます。
記憶しない	カーソルの位置を記憶しません。📷撮影メニュー 1を表示します。

J1タブ ➡ [メニューカーソル保持] ➡ 設定を選択

J1 フィッシュアイレンズ使用時の画像の歪みを補正する (フィッシュアイ補正撮影)

フィッシュアイレンズを使ったときの画面の歪みを補正して、超広角レンズを使ったような撮影ができます。3つの補正のレベルから選べます。また、水中撮影時に発生する歪みを同時に補正する設定もあります。

- この機能は、静止画撮影の機能です。詳しくはP.250をお読みください。
- 対応するフィッシュアイレンズを装着した場合のみ設定できます。

M.ZUIKO DIGITAL ED 8mm f1.8 Fisheye PRO (2019年1月現在)

画角	レンズによる歪みを補正した上で画面にけられない範囲で切り出します。切り出した後の画角は使用しているレンズによって変わります。3つの切り出す範囲を選択できます。
水中補正	【画角】による補正に加えて、水中撮影で発生する画面の歪みを同時に補正します。

J1タブ ➡ [フィッシュアイ補正撮影] ➡ 項目を選択 ➡ 設定を選択して**OK**ボタンを押す。

- フィッシュアイ補正撮影がオンになっている間は画面に📷と選択した画角が表示されます。フィッシュアイ補正撮影を終了するときは、メニューで**[Off]**に設定します。
- [フィッシュアイ補正撮影]**の機能をボタンに登録しておくことができます。ボタンを押す操作だけで機能をオンにすることができます。🌟カスタムメニュー B1の**[📷ボタン機能]**(P.463)で登録します。

J2 電池の使い方を設定する

(電池設定)

2つの電池の使用順の設定や電池の状態を確認できます。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。

使用順序設定	優先的に使用する電池を設定します。[1側優先]と[2側優先]のどちらかを選択します。
ステータス表示	カメラに入っている電池の状態を表示します。

J2 タブ ➡ [電池設定] ➡ 項目を選択 ➡ 設定を選択

- [ステータス表示]を選択したときは、十字ボタンの▶を押すと電池の状態が表示されます。

J2 モニターのバックライトを減光する (バックライト時間)

一定時間カメラを操作しないとき、モニターのバックライトの明るさを落とす設定をします。バックライトを減光することで電池の消費を抑えることができます。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。
- [Hold] / [8秒] / [30秒] / [1分]から選択できます。[Hold]に設定したときは、モニターは減光しません。

J2 タブ ➡ [バックライト時間] ➡ 設定を選択

4

J2 スリープ(省電力)モードを設定する (スリープ時間)

一定時間カメラを操作しないとき、スリープ状態に移行する設定をします。スリープ状態では、カメラの動作を停止してモニターも消灯します。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。
- **[Off]** / **[1分]** / **[3分]** / **[5分]**から選択できます。
- **[Off]**に設定したときは、スリープ状態には移行しません。
- シャッターボタン半押し、ボタン、マルチセレクターを動かすと再び動作し始めます。
- 以下の動作中は、スリープ状態に移行しません。
多重露出撮影中 / HDMI機器接続中 / スマートフォン接続中 /
パソコン接続中(Wi-Fi、USB)
- ロックレバーでロックされている操作部ではスリープを解除しません(P.503)。
- **[Wi-Fi/Bluetooth設定]**で**[バックグラウンド通信]**が**[On]**(有効)に設定されていると、電源を入れなおしたときの動作に時間が掛かることがあります。🔌「電源オフ時の無線接続設定をする(バックグラウンド通信)」(P.590)

J2タブ ➡ **[スリープ時間]** ➡ 設定を選択

4

J2 自動的に電源を切る設定をする (自動電源Off)

カメラがスリープ状態に移行した後、さらに一定時間経過すると自動的に電源が切れます。ここでは、自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。

- この機能は、静止画撮影とムービー撮影の両方で機能します。
- **[Off]** / **[5分]** / **[30分]** / **[1時間]** / **[4時間]**から選択できます。
- **[Off]**に設定したときは自動的に電源を切りません。
- 自動的に電源オフになった後、カメラを動作させるときは、**ON/OFF**レバーで電源を入れなおしてください。

J2タブ ➡ **[自動電源Off]** ➡ 設定を選択

J2 カメラの電力を抑えて使う設定をする (低消費電力撮影)

ファインダー撮影では、さらに消費電力を抑えることができます。バックライトの消灯までの時間やスリープまでの時間を通常よりも短く設定できます。

- この機能は、静止画撮影の機能です。
- 以下の動作中は、低消費電力撮影は動きません。
ライブビュー撮影中／ファインダー点灯中／多重露出撮影中／インターバル撮影中／
HDMI機器接続中／スマートフォン接続中／パソコン接続中(Wi-Fi、USB)

On	短時間で、省電力状態に移行します。通常より短い【バックライト時間】と【スリープ時間】の設定ができます。低消費電力で動作しているときは、モニターに ECO が表示されます。
Off	低消費電力状態には移行しません。

J2 タブ ➡ 【低消費電力撮影】 ➡ 【On】を選択して十字ボタンの▷ ➡ △▽ボタンで設定を選択して▷ボタン ➡ △▽ボタンで設定を選択

- 設定を終了したら、✳カスタムメニュー **J2**に戻るまで、**OK**ボタンを繰り返し押します。

■ 低消費電力撮影を使う

- 1 【低消費電力撮影】を【On】に設定します。
- 2 【EVF自動切換設定】(P.553)を【On】に設定します。
- 3 ファインダー撮影にします。

- 初期設定では、ライブビュー撮影の状態で、**|O| (LV)** ボタンを押してファインダー撮影にします。
- 画面に**ECO**が表示されます。



J3 GPS機能を動作させる (GPS位置情報記録)

GPS機能を動作させます。撮影した画像に各センサー情報と共に位置情報を記録します。詳しくは「5 フィールドセンサー機能を使う」(P.567)をお読みください。

- この機能は静止画撮影の機能です。

On	GPS機能が動作し、画像に位置情報が記録されます。
Off	位置情報を画像に記録しません。

J3 タブ ➡ [GPS位置情報記録] ➡ 設定を選択

- GPS機能を完全に停止するときは、[GPS位置情報記録]、[フィールドセンサーログ](P.571)、[GPS自動日時補正](P.455)を全てオフにしてください。

J3 GPSの動作の仕方を設定する (GPS動作モード)

GPSの動作の仕方を設定します。情報の精度を優先するかカメラの電力消費を抑えるのを優先するかを選択ができます。詳しくは「5 フィールドセンサー機能を使う」(P.567)をお読みください。

精度優先	精度を優先して動作します。電池の消費は早くなります。
省電力優先	電力消費を抑えて動作します。測位の誤差はやや大きくなります。

J3 タブ ➡ [GPS動作モード] ➡ 設定を選択

J3 センサー情報の表示を設定する (標高/温度設定)

情報表示の単位系を設定します。また、標高の情報表示の調整もできます。詳しくは「5 フィールドセンサー機能を使う」(P.567)をお読みください。

標高調整	標高の表示の調整をします。標高の表示に差異があるときに調整できます。
m/ft	標高の単位系を設定します。
°C/°F	温度の単位系を設定します。

J3 タブ ➡ [標高/温度設定] ➡ 項目を選択 ➡ 設定を選択

J3 ログを取得する (フィールドセンサーログ)

ログを取得してカードに記録します。詳しくは「5 フィールドセンサー機能を使う」(P.567)をお読みください。

- 以下のときは、ログ取得中でも停止します。
 - 電池残量が15%以下のとき
 - カメラ本体内でログを記憶できなくなったとき

ログ取得開始	ログの取得を開始します。
ログ取得終了	ログの取得を終了します。カメラ本体内に記憶したログをカードに保存します。カードが2枚挿入されているときは、どちらに保存するかを選択できます。
ログ保存	カメラ本体内に記憶したログが残っているとき、強制的にカードに保存します。カードが2枚挿入されているときは、どちらに保存するかを選択できます。ログ取得が停止した場合などに表示されます。

J3 タブ ➡ [フィールドセンサーログ] ➡ 項目を選択して**OK**ボタンを押す。

J3 各種認証マークを表示する (認証マーク表示)

カメラが対応している認証マークの一部を表示します。カメラ本体、カメラの外箱、取扱説明書とあわせてご確認ください。

J3 タブ ➡ **[認証マーク表示]** ➡ **OK** ボタンを押す。

5 フィールドセンサー 機能を使う

温度、圧力などのフィールドセンサーやGPS機能をお使いになるときにお読みください。

5-1 フィールドセンサー機能を使って できることとご注意

このカメラでは、位置や標高などのGPSや各種センサー情報を取得し、ログとして記録できます。また、その情報を撮影した静止画にも付与することができます。記録したログは、スマートフォン用の専用アプリOLYMPUS Image Track (OI.Track)で読み込んで利用することができます。

OI.Trackについては、以下のホームページをご参照ください。

<http://app.olympus-imaging.com/oitrack/>

- このカメラは、準天頂衛星システムやGLONASSにも対応しています。
- 位置情報が付与された画像には、緯度と経度が表示されます。
- このカメラにはナビゲーション機能は搭載されていません。
- アプリは最新のバージョンをお使いください。

GPS機能およびその他の情報表示について

厳密な精度を求める使用を想定した機能ではないため、いかなる場合においても測定した値(緯度経度、方角、標高、温度など)に対しての保証はいたしません。また、自然災害などの影響により、情報内容が実際と異なる場合があります。

GPS機能をお使いのときのご注意

5

使用が禁止されている国や地域、場所では、無線LAN、Bluetooth®およびGPS機能を停止させてください。

このカメラは無線LAN、Bluetooth®、およびGPS機能を搭載しています。カメラを購入された地域以外での使用については、その国の電波管理規定に違反する恐れがあります。

また、国や地域により、位置情報を政府への申請なしに取得をすることは違法になる場合があります。そのため、あらかじめ、当社販売エリアにより位置情報を表示できないよう設定している場合があります。

国外に持ち出す際には、持ち出す国や地域によって定められた法律があります。あらかじめご確認の上、必ずそれに従ってください。当社では一切の責任は負えません。

飛行機内などWi-FiやGPS機能の使用を禁止されている場所では、機能を停止してください。☎「5-3 GPS機能を停止する」(P.580)、「Wi-Fi/Bluetooth®機能を停止する」(P.598)

カメラや通信の状態によっては位置情報の取得(測位)に時間がかかることがあります。GPSアシストデータを使うと、測位時間を数秒~数十秒に短縮できます。GPSアシストデータは、スマートフォン用の専用アプリOLYMPUS Image Track (OI.Track)やパソコン用の専用ソフトウェアOLYMPUS A-GPS Utilityを使用して更新することができます。

あらかじめカメラの日時設定を正しく設定しておいてください。

- GPSアシストデータは4週間ごとに更新が必要になります。データ更新から時間が経つと、測位情報がずれることがありますので、できるだけ新しいGPSアシストデータを使用してください。
- GPSアシストデータの提供は予告なく終了することがあります。

スマートフォンを使ってGPSアシストデータを更新する

あらかじめスマートフォン用の専用アプリOLYMPUS Image Track (OI.Track)をインストールしてください。GPSアシストデータの更新方法は、下記アドレスをご覧ください。

<http://app.olympus-imaging.com/oitrack/>

あらかじめカメラのWi-Fi接続設定をしてスマートフォンと接続してください(P.584)。OI.Trackの設定画面から**[A-GPSデータを更新]**を実行してください。

- カメラとの接続でエラーが表示されたときは、カメラとスマートフォンの接続をなおしてください。

パソコンを使ってGPSアシストデータを更新する

下記アドレスからパソコン用の専用ソフトウェアOLYMPUS A-GPS Utilityをダウンロードして、パソコンにインストールしてください。

<http://sdl.olympus-imaging.com/agps/>


上記アドレスのウェブサイトに掲載されている利用説明書「OLYMPUS A-GPS Utility 利用説明書」に従って、データの更新を行ってください。

- GPSアシストデータを更新していないと、GPS機能をはじめてお使いになる場合や、しばらく使用していなかった場合は測位が完了するまでに数分かかることがあります。

5-2 フィールドセンサー機能を使う

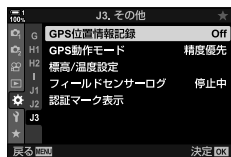
撮影時に画像に位置情報を付ける (GPS位置情報記録)

各センサーにより取得した位置情報以外の情報は、常に撮影した画像に記録されます。位置情報を記録するためには、GPS機能をオンにします。



- 画像に位置情報が付けられている場合は、再生時にが表示されます。

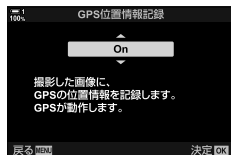


- 1 **MENU** ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 **★**カスタムメニュー **J3** (その他)の**[GPS位置情報記録]**を選択して、十字ボタンの**▷**を押します。
- 3 **△▽**ボタンで項目を選択し、**OK**ボタンを押します。



5

- 4 **MENU** ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。
 - **[GPS位置情報記録]**を**[On]**に設定すると、画面にが表示されます。
 - GPS測位中はが点滅し、測位が完了すると点灯に変わります。



- 測位が完了する前に撮影した画像には位置情報は記録されません。

行動をログで記録する

GPS機能や各センサーの情報を定期的に取得してログとして記録します。記録したログは、スマートフォン用の専用アプリOLYMPUS ImageTrack (OI.Track) で読み込んで利用することができます。撮影のために移動したルートや撮影場所をあとで確認することができます。

フィールドセンサーログの取得を開始するために、**★カスタムメニュー** **[3]**で**【フィールドセンサーログ】**を設定します。GPS機能により測位ができていない間は、位置情報も記録されません。

ログを取得する／記録する (フィールドセンサーログ)

ログ取得を開始すると、ログはカメラ本体に記憶されます。ログ取得を終了したときにカードに保存されます。途中でカメラの電源をオフにしても、ログ取得は継続します。日時設定やタイムゾーンが設定されていないとログ取得はできません。

🔊【日時設定】(P.455)

- 以下のときは、ログ取得中でも停止します。
電池残量が15%以下のとき／カメラ本体内でログを記憶できなくなったとき

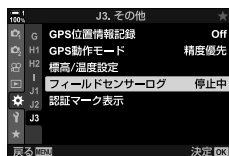
この機能では以下の設定があります。

ログ取得開始	ログの取得を開始します。
ログ取得終了	ログの取得を終了します。カメラ本体内に記憶したログをカードに保存します。カードが2枚挿入されているときは、保存するカードを選択できます。
ログ保存	カメラ本体内に記憶したログが残っているとき、強制的にカードに保存します。カードが2枚挿入されているときは、保存するカードを選択できます。保存に数分かかる場合があります。

5

- スマートフォン接続中はログの取得開始／終了はできません。
- ログの保存中は、モニターに保存動作中の画面が表示されます。表示が消えるまでカードを取り出さないでください。保存中にカードを取り出すと、ログファイルが消失したり、カメラやカードに不具合が生じるおそれがあります。
- 保存できるカードが挿入されていないときは、ログの保存ができません。その場合は、カード内の不要なデータを削除するなど、ログの保存が可能な状態にしてください。
- カードに保存できるログファイル数の上限は199個までです。保存できるファイル数が残り少なくなると、モニターにエラーメッセージが表示されます(P.638)。その場合はカードを交換するか、ログファイルをパソコンに保存して不要なログファイルを消去してください。
- 🔊撮影メニュー 1の**【リセット/カスタム設定】**(P.91)で**【リセット】**を**【フル】**で実行してもこの設定はリセットされません。また、カメラの本体内部ログも廃棄されず、ログ取得は継続されます。
- カメラのファームアップのとき、カードに保存されていないログデータは消去される場合があります。必ずカードに保存してからファームアップを行ってください。
- 電源オフでログ取得中は、電池の使用順序設定に関係なく、残量の大きい電池側から消費していきま

- MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- ★カスタムメニュー **J3** (その他の)[フィールドセンサーログ]を選択して、十字ボタンの▷を押します。



- [ログ取得開始]が表示されるので、**OK**ボタンを押します。
 - ログ取得の状態によって表示される内容は変わります。詳しくは以下の「メニューの表示」をご覧ください。



- MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。
 - フィールドセンサー Infoの情報表示設定がされているときは、画面にLOGが表示されます(P.429, 515)。



メニューの表示



動作状態によって、[フィールドセンサーログ]を選択時に表示される内容が変わります。

5

カメラの状態	選択できる項目
ログ取得停止中	[ログ取得開始]：ログの取得を開始します。
ログ取得中	[ログ取得終了]：ログの取得を終了し、ログをカードに保存します。
△停止中	[ログ保存]：保存されていないログをカードに保存します。

警告表示について

警告表示があったときは、以下の対処をしてください。

警告表示	原因	対処方法
 (赤点減)	カードに保存できるログファイル数が少なくなっています。	ログファイルをパソコンに保存して、不要なログファイルを消去してください。
	カードに書き込みできません。	書き込みできるカードが挿入されているか確認してください。
	電池残量が少なくなったり、ログファイルを一時的に記録しているカメラの記憶領域がいっぱいになったため、ログ取得が停止されました。	ログの保存を行ってください。

GPS機能や各センサーにより取得した情報を電子コンパス画面としてモニターに表示します。

ライブビュー撮影時の画面ではセンサー情報として追加して表示します。ファインダー撮影などで、ライブビューをしないときには電子コンパス画面として表示できます。

ライブビュー撮影時のモニター表示



電子コンパス：ファインダー撮影時のモニター表示





① GPS受信中


点灯：測位完了

点滅：測位中

② フィールドセンサーログ

 (緑)：ログ取得中

 (赤)：ログ取得中(保存できるカードが挿入されていない/記録できるログファイル数が少なくなった)

 (グレー)：ログ取得が自動的に停止した/未保存のログが残っている

③ 方位

④ 気温

⑤ 標高

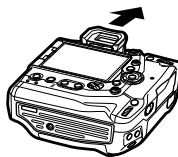
⑥ 気圧

⑦ 位置情報(緯度/経度)

- カメラの向きと方位計の示す向きは以下の通りです。



レンズの向いている方向



カメラの頭頂部が向いている方向

- センサー情報画面に位置情報を表示するためには、GPS機能が動作している必要があります。以下のいずれかの機能が設定されている必要があります。
 - ✳カスタムメニュー **D3** 【GPS位置情報記録】 (P.570)
 - ✳カスタムメニュー **D3** 【フィールドセンサーログ】 (P.571)
 - **Y**セットアップメニュー 【GPS自動日時補正】 (P.455)

センサー情報表示の設定をする

■ 静止画撮影モードでセンサー情報を表示する (Info表示設定)

- 1 MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- ✳カスタムメニュー **D1** (表示/音/接続)の【Info表示設定】を選択して、十字ボタンの▷を押します。
- △▽ボタンで項目を選択し、▷ボタンを押します。
 - ライブビュー画面にセンサー **Info**を表示するとき
【LV-Info】で【フィールドセンサー Info】を選択して、**OK**ボタンを押します。チェックボックスに✔が表示されます。
 - 電子コンパスを表示するとき
【LV OFF-Info】で【フィールドセンサー Info】を選択して、**OK**ボタンを押します。チェックボックスに✔が表示されます。
- 設定を終えたら**MENU**ボタンを押します。
 - ✳カスタムメニュー **D1** の画面に戻ります。
- MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。
 - シャッターボタンを半押ししてメニューを終了することもできます。

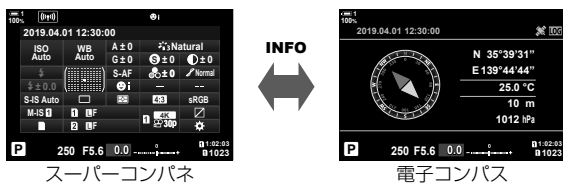


6 センサー Info表示、または電子コンパスを表示します。

- センサーInfo表示は、ライブビュー画面で表示します。**INFO**ボタンを繰り返し押すと、画面が切り換わります。






- 情報表示は、**INFO**ボタンを押しながらフロント/リアダイヤルを回して切り換えることもできます。表示を逆方向に切り換えることができます。
- 電子コンパスは、モニターがライブビュー表示でないときに表示します。**INFO**ボタンを繰り返し押すと画面が切り換わります。

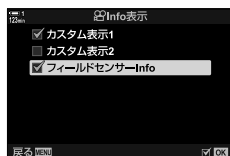
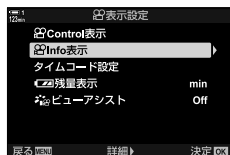
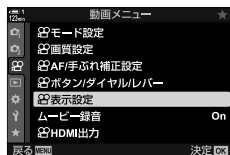


5

- **[EVF表示スタイル]**が**[スタイル1]**または**[スタイル2]**でファインダー内でセンサー Info表示をするときは、**★カスタムメニュー 1**の**[Info表示設定]**で**[フィールドセンサー Info]**のチェックを付けます (P.555)。

■ ムービー撮影モードでセンサー情報を表示する(Info表示設定)

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2  (動画)メニューで[Info表示設定]を選択し、十字ボタンの▷を押します。
- 3  ボタンで[Info表示設定]を選択し、▷ボタンを押します。
- 4  ボタンで[フィールドセンサー Info]を選択し、**OK**ボタンを押します。
 - チェックボックスに✔が付きます。
- 5 **MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。
- 6 撮影画面で**INFO**ボタンを繰り返し押し、情報表示が切り換わります。

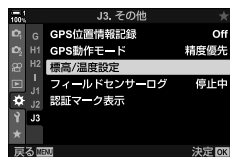


センサー情報の表示を設定する (標高/温度設定)

センサー情報を表示するときの温度や標高の単位の選択をします。また表示の調整もできます。

標高調整	現在の標高とカメラの標高表示に差異があるときに調整できます。
m/ft	標高の表示を、m (メートル)とft (フィート)から選択できます。
°C/°F	温度の表示を、°C (摂氏)と°F (華氏)から選択できます。

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 **★カスタムメニュー J3** (その他)の[標高/温度設定]を選択して、十字ボタンの▷を押します。



- 3 △▽ボタンで項目を選択し、▷ボタンを押します。
 - 各項目の設定画面が表示されます。



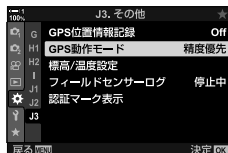
- 4 △▽ボタンで設定して、**OK**ボタンを押します。
 - **★カスタムメニュー J3**の画面に戻ります。
- 5 **MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

GPSの動作の仕方を設定する (GPS動作モード)

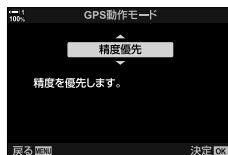
GPS機能の動作の仕方を設定します。

精度優先	精度を優先して動作します。電池の消費は早くなります。
省電力優先	省電力を優先して動作します。測位の誤差はやや大きくなります。

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 **★**カスタムメニュー **J3** (その他)の**[GPS動作モード]**を選択して、十字ボタンの**▷**を押します。



- 3 **△▽**ボタンで項目を選択し、**OK**ボタンを押します。
 - **★**カスタムメニュー **J3**の画面に戻ります。



- 4 **MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

5-3 GPS機能を停止する

GPSやWi-Fi機能は、国や地域、場所によって使用を禁止されている場合があります。GPS機能を停止するには、以下の3つの機能を全て停止してください。

✳ カスタムメニュー **J3** の **[GPS位置情報記録]** (P.570)

➡ **[Off]** に設定する

✳ カスタムメニュー **J3** の **[フィールドセンサーログ]** (P.571)

➡ **[ログ停止中]** であることを確認する

⚡ セットアップメニュー **[日時設定]** (P.455) の **[GPS自動日時補正]**

➡ **[Off]** に設定する

■ メニューで設定する

1 **J3** (J3. その他) タブ ➡ **[GPS位置情報記録]** (P.570) ➡ **[Off]**

2 **J3** (J3. その他) タブ ➡ **[フィールドセンサーログ]** (P.571) ➡ **[ログ停止中]** であることを確認

3 ⚡ (セットアップメニュー) タブ ➡ **[日時設定]** (P.455) ➡ **[GPS自動日時補正]** ➡ **[Off]**

6 カメラを外部機器と 接続する

無線LANやケーブルでモニターやパソコンなどと接続します。

6-1 接続によってできることとソフトウェアについて

このカメラは、パソコンやスマートフォンなどの外部機器と接続することによって、いろいろな使い方ができます。使い方に合わせた接続方法やソフトウェアが用意されています。

スマートフォンとWi-Fi接続して使う

このカメラとスマートフォンを直接Wi-Fi接続して、カメラがとらえている映像をスマートフォンで見ながらリモート撮影ができます。また、カメラのBluetooth®とWi-Fi機能により、カメラの電源を入れずにスマートフォンの操作だけで画像の閲覧や転送ができます。

接続には、スマートフォン用アプリ「OLYMPUS Image Share」(OI.Share)を使います。

パソコンとWi-Fi接続して使う

このカメラとパソコンをルーターやアクセスポイント経由で接続して、撮影データを自動的にパソコンに転送できます。カメラで撮影をしながらパソコンで画像の確認ができます。

接続には、パソコン用ソフトウェア「OLYMPUS Capture」を使います。

パソコンとUSB接続して使う

このカメラとパソコンをUSBケーブルで直接接続して、パソコンからカメラをコントロールしながら撮影できます。撮影データを自動的にパソコンに転送することもできます。パソコンで撮影と画像の確認が同時にできます。

接続には、パソコン用ソフトウェア「OLYMPUS Capture」を使います。

6 パソコンに取り込んだ画像やムービーは、「Olympus Workspace」を使って編集や管理をすることができます。

外部モニターと接続して使う

このカメラとテレビをHDMIケーブルで直接接続して、画像を表示できます。再生画像をテレビに表示して、大勢で楽しむことができます。テレビに接続しているときは、リモコンで表示の操作をすることもできます。特別なアプリは必要ありません。ムービー撮影のためにHDMIケーブルで外部モニターやレコーダーと接続して使うこともできます。ムービー撮影時の使い方はP.434をお読みください。

Wi-Fi、Bluetooth®機能をお使いのときのご注意

使用が禁止されている国や地域、場所では、無線LAN、Bluetooth®およびGPS機能を停止させてください。

このカメラは無線LAN、Bluetooth®、およびGPS機能を搭載しています。カメラを購入された地域以外での使用については、その国の電波管理規定に違反する恐れがあります。

国や地域により、位置情報を政府への申請なしに取得をすることは違法になる場合があります。そのため、あらかじめ、当社販売エリアにより位置情報を表示できないよう設定している場合があります。

国外へ持ち出す際には、持ち出す国や地域によって、定められた法律があります。あらかじめご確認の上、必ずそれに従ってください。当社では一切の責任は負えません。

飛行機内などWi-FiやGPS機能の使用を禁止されている場所では、機能を停止してください。☞ 「5-3 GPS機能を停止する」(P.580)、「Wi-Fi/Bluetooth®機能を停止する」(P.598)

- 電波による通信は、傍受される可能性があります。あらかじめご了承ください。
- 送受信アンテナは、グリップ内にあります。金属類をなるべく近づけないでください。
- バッグなどにカメラを入れて運ぶ場合、バッグの素材やその他の内容物によってカメラの電波が遮蔽され、スマートフォンと通信できない場合があります。
- Wi-Fi接続中は、バッテリーの消耗が早くなります。バッテリーの残量が少ないと通信中でも通信が途切れる場合があります。
- 電子レンジやコードレス電話機など、磁場、静電気、電波の発生するところでは通信しにくくなったり、速度が遅くなったりします。
- カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」側にしていると、一部の無線LAN機能が使用できません。

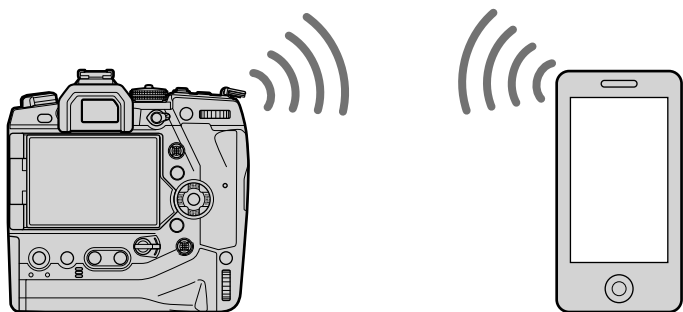
6-2 スマートフォンと接続する(Wi-Fi)

このカメラとスマートフォンを直接Wi-Fi接続します。

スマートフォンとの接続には、スマートフォン用アプリOLYMPUS Image Share (OI.Share)を使います。

OI.Shareを使って、スマートフォンでカメラのライブビュー映像を見ながらリモート撮影することができます。

また、OI.Shareを使って、カメラのカードに記録されている画像やムービーを、スマートフォンで閲覧・転送することができます。このカメラのBluetooth®およびWi-Fi機能により、スマートフォンの操作だけで行えます。あらかじめ画像にシェア予約を設定しておき、カメラの電源を切っている間に予約した画像を自動的にスマートフォンへ転送しておくこともできます。



アプリのインストール

カメラとスマートフォンをWi-Fi接続するためには、OLYMPUS Image Share (OI.Share)を使います。

OLYMPUS Image Share

スマートフォンでカメラをリモート操作したり、画像の転送ができます。詳細は、下記アドレスをご参照ください。

<http://app.olympus-imaging.com/oishare/>

OI.Shareの他に、ログの閲覧や画像の加工のためのアプリがあります。

- **OLYMPUS Image Track**

カメラで記録したフィールドセンサーログは、OLYMPUS Image Track (OI.Track)を使って確認したり管理することができます。

詳細は、下記アドレスをご参照ください。

<http://app.olympus-imaging.com/oitrack/>

- **OLYMPUS Image Palette**

スマートフォンに転送した画像は、OLYMPUS Image Palette (OI.Palette)を使って編集や加工ができます。アートフィルターやカラークリエーターによる編集やトリミングなどの加工ができます。

詳細は、下記アドレスをご参照ください。

<http://app.olympus-imaging.com/oipalette/>

スマートフォンとの接続設定をする (Wi-Fi/Bluetooth設定)

カメラとスマートフォンをWi-Fi接続するための設定をします。接続の設定には、Ol.Shareが必要です。Wi-FiとBluetooth®の接続設定を同時に行います。あらかじめ、使用するスマートフォンにインストールしておいてください。

接続の準備をする (Wi-Fi/Bluetooth)

カメラのWi-FiとBluetooth®の機能を起動します。初期設定ではオンになっているので、そのときは必要ありません。接続の準備ができていると、画面に📶が表示されます。

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 **↓**セットアップメニューで**[Wi-Fi/Bluetooth設定]**を選択し、十字ボタンの**▷**を押します。



3 **△▽**ボタンで**[Wi-Fi/Bluetooth]**を選択し、**▷**ボタンを押します。



4 **△▽**ボタンで**[On]**を選択し、**OK**ボタンを押します。
• **[Wi-Fi/Bluetooth設定]**の設定画面に戻ります。



5 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

- 画面に📶が表示されます。



カメラとスマートフォンで接続設定をする

はじめてスマートフォンとカメラを接続する場合は、初期設定が必要です。

- 接続設定は、スマートフォンのOSの設定画面で行わず、アプリ(OI.Share)の画面に従って行ってください。

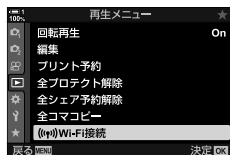
- 1 あらかじめスマートフォンにインストールした専用アプリOI.Shareを起動しておきます。



- 2 カメラの**MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

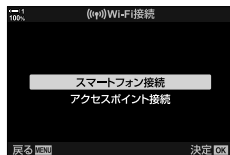
- 3 再生メニューで[(Wi-Fi)]Wi-Fi接続]を選択し、十字ボタンの▷を押します。

- [(Wi-Fi)]Wi-Fi接続]の画面が表示されます。
- セットアップメニューの[W-Fi/Bluetooth設定]で[W-Fi/Bluetooth]が[On]に設定されていないと、この項目は選択できません。



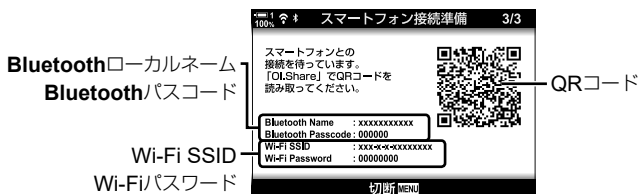
- 4 ボタンで[スマートフォン接続]を選択し、**OK**ボタンを押します。

- モニターに接続のガイドが表示されます。



- 5 ガイドを見ながら**OK**ボタンを押します。

- 下の画面が出るまで進みます。



- モニターにBluetoothローカルネームとそのパスコード、Wi-Fi SSIDとそのパスワード、QRコードが表示されます。

6 スマートフォンのOI.Shareの画面下部のカメラのアイコンをタップします。

- [かんたん接続設定]のタブが表示されます。



7 OI.Shareに表示されるガイドに従ってQRコードを読み取り、接続設定を進めます。

- OI.Shareに完了メッセージが表示されると、接続設定は完了です。
- QRコードが読み取れない一部のスマートフォンは手動で設定する必要があります。OI.ShareのQRコード読み取り画面にある、「QRコードを読み取れない場合はこちら」をタップして、表示されるガイドに従って設定してください。
- スマートフォンが他のWi-FiネットワークやWi-Fi機器へ接続している場合、スマートフォンのWi-Fi設定でカメラのSSIDへ接続先を変更する必要があります。
- 接続すると、画面に📶1が表示されます。



8 スマートフォンと接続できたら、スマートフォンのOI.Shareの画面で、[写真転送]をタップするとカメラのカードの画像が表示されます。

- 接続を終了するときは、カメラの**MENU**ボタンを押すか、モニター画面の[切断]にタッチします。
- OI.Shareでカメラの電源をオフにして、接続を終了することもできます。



- カメラが発行する接続のためのパスワードは、変更することができます(P.618)。
- QRコードを読み取れない場合は、**OI.Share**に表示されるガイドに従って手動で設定する必要があります。

Bluetooth® : **OI.Share**に表示される**Bluetooth®**設定画面でカメラのモニターに表示されているローカルネームを選択し、パスコードを入力します。

Wi-Fi : スマートフォンの**Wi-Fi**設定でカメラのモニターに表示されている**SSID**とパスワードを入力して接続します。スマートフォンの**Wi-Fi**設定については、スマートフォンの取扱説明書をお読みください。

電源オフ時の無線接続設定をする (バックグラウンド通信)

カメラの電源をオフにしているときの、スマートフォンとの接続についての設定をします。この機能が働いていると、カメラの電源を入れなくても、スマートフォンからカメラにアクセスできたり、カメラ内の画像を自動的にスマートフォンに転送することができます。

- カメラが以下の準備ができているときに動作します。
 - [Wi-Fi/Bluetooth設定]の[Wi-Fi/Bluetooth]の設定が[On]になっている(P.586)
 - スマートフォンとの接続設定が完了している(P.587)
 - カードが正しく差し込まれている
- [バックグラウンド通信]が[On] (有効)に設定されていると、カメラの電源をオフにする際にカメラ内部で通信のための処理を行います。そのため、直後の電源オン動作では通常以上に時間が掛かることがあります。

毎回確認	ON/OFF レバーでカメラの電源を切るときに、電源が切れている間もスマートフォンとの無線接続を有効にするかどうかを確認する画面が表示されます。
Off	カメラの電源をオフにしているとき、スマートフォンとの無線接続を無効にします。
On	カメラの電源をオフにしているときもスマートフォンとの無線接続を有効にします。カメラ内の画像をスマートフォンに転送したり、スマートフォンでカメラ内の画像を閲覧できます。

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

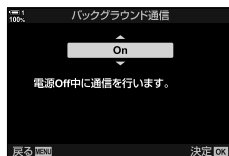
2 **Y**セットアップメニューで[Wi-Fi/Bluetooth設定]を選択し、十字ボタンの**▷**を押します。



3 **△▽**ボタンで[バックグラウンド通信]を選択し、**▷**ボタンを押します。



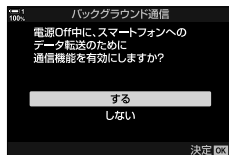
4 △▽ボタンで項目を選択し、OKボタンを押します。



5 MENUボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

[毎回確認]を設定したとき

[バックグラウンド通信]を[毎回確認]に設定すると、カメラの電源オフ時に次の確認画面が表示されます。十字ボタンの△▽で、項目を選択しOKボタンを押します。



する	スマートフォンとの無線接続を有効にして、カメラの電源がオフになります。
しない	スマートフォンとの無線接続を無効にして、カメラの電源がオフになります。

- 確認画面の表示中に約1分経過すると、スマートフォンとの無線接続が無効になり、カメラの電源がオフになります。
- バックグラウンド通信中でも、以下の場合は無線接続が自動で無効になります。一度カメラの電源をオンにすると、再度有効になります。
 - スマートフォンとの通信がないまま24時間経過したとき
 - カードを抜き差ししたとき
 - 電池交換をしたとき

スマートフォンに画像を転送する

カメラ内の画像やムービーをスマートフォンに転送するには、以下の方法があります。

- スマートフォンで画像を選択して転送する。
- あらかじめ画像にシェア予約を設定しておいて、カメラの電源がオフのときに自動的に転送する。

ここではそれぞれの方法を説明します。

Ol.Shareを使って転送する

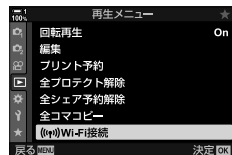
カメラ内の画像をスマートフォンで確認しながら選択して転送します。

1 スマートフォンで専用アプリOl.Shareを起動します。

2 カメラでメニュー操作またはタッチ操作をして接続を開始します。

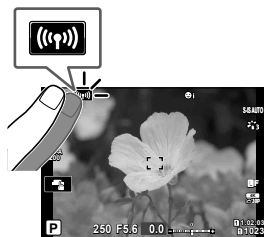
• メニュー操作で開始するとき

再生メニューの【Wi-Fi接続】を選択して十字ボタンの▶を押します。【スマートフォン接続】を選択してOKボタンを押します。接続すると、画面に📶1が表示されます。



• タッチ操作で開始するとき

モニター画面のWi-Fiアイコンにタッチして、表示される画面で【スマートフォン接続】にタッチします。接続すると📶1が表示されます。



• 一度接続設定がされていれば自動的に接続を開始します。

3 Ol.Shareで【写真転送】をタップします。

- カメラ内の画像が一覧で表示されます。
- 表示するスロットは、Ol.Shareから選択できます。



4 転送したい写真を選択して保存ボタンをタップします。

- 保存が完了したらスマートフォンからカメラの電源をオフできます。





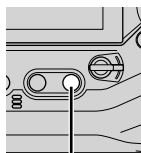
- **γ** (セットアップメニュー)の**[Wi-Fi/Bluetooth設定]**で次の設定をしておく、カメラの電源がオフのときもスマートフォンの操作(手順3、4)だけで画像を転送できます。
 - **[Wi-Fi/Bluetooth]** : **[On]**
 - **[バックグラウンド通信]** : **[On]**

シェア予約を使って自動転送する

カメラでシェア予約を設定した画像を、カメラの電源をオフにしたときに自動的にスマートフォンへ転送します。

1 画像にシェア予約を設定する

- 画像を再生してシェア予約をします。「画像の転送予約をする(シェア予約)」(P.277)、「ムービーの転送予約をする(シェア予約)」(P.446)にもそれぞれ説明があります。
- シェア予約する画像を再生して、 (シェア予約)ボタンを押します。画像にが表示されます。再度押すと、シェア予約が解除されます。
- **OK**ボタンを押してメニューから設定もできます。




ボタン



シェア予約

2 カメラの電源オフ時の設定をする。

- **[バックグラウンド通信]**の設定をします。詳しくはP.590を読みください。
MENUボタン ➡  (セットアップ)メニュー ➡ **[Wi-Fi/Bluetooth設定]** ➡ **[バックグラウンド通信]** ➡ **[On]**または**[毎回確認]**を選択して**OK**ボタンを押します。

3 カメラの電源をオフにする

- シェア予約した画像、ムービーが自動的にスマートフォンに転送されます。スマートフォンがiOSの場合、あらかじめスマートフォンで*OI.Share*を起動しておきます。
- **[バックグラウンド通信]**を**[毎回確認]**に設定したときは、確認画面が表示されます(P.591)。**[する]**を選択して**OK**ボタンを押します。
- シェア予約できるコマは、各スロットそれぞれ200コマです。
- スマートフォンがiOSの場合、ご家庭のルーターなど他のアクセスポイントに接続されていると自動で接続されません。その場合は、*OI.Share*の写真転送機能をご利用ください。
- スマートフォンによっては、スマートフォンがスリープ状態では画像の転送が停止する場合があります。その場合は、スマートフォンがスリープ状態にならないようにしてお使いください。

シェア予約を解除する


再生しているスロット内の、全てのシェア予約が解除されます。複数の画像に設定しているシェア予約を一括で解除できます。「画像の転送予約をする(シェア予約)」(P.277)、「ムービーの転送予約をする(シェア予約)」(P.446)にもそれぞれ説明があります。



- **MENU**ボタン ➡  (再生メニュー)タブ ➡ **[全シェア予約解除]** ➡ **[実行]**を選択して **OK**ボタンを押します。

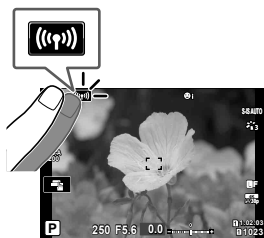
スマートフォンからリモート撮影する

OI.Shareを使って、スマートフォンからカメラを操作してリモート撮影ができます。

1 スマートフォンで専用アプリOI.Shareを起動します。

2 カメラでモニター画面のにタッチして、表示される画面で[スマートフォン接続]にタッチします。

- 接続選択のメニューが表示されたら、[スマートフォン接続]を選択して**OK**ボタンを押します。
- 一度接続設定がされていれば自動的に接続を開始します。
- メニュー操作で開始するときは、再生メニューのWi-Fi接続を選択して十字ボタンの▶を押します。[スマートフォン接続]を選択して**OK**ボタンを押します。
- 接続すると、画面にが表示されます。



3 OI.Shareで[リモコン]をタップします。

- リモコン画面が表示されます。



4 シャッターボタンをタップして撮影します。

- 撮影した画像はカメラ内のカードに記録されます。








カメラに記録されたフィールドセンサーログ情報を使う

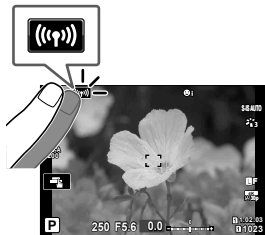
OI.Shareを使って、カメラで記録したフィールドセンサーログの確認ができます。

📶 [フィールドセンサーログ] (P.565)

1 スマートフォンで専用アプリOI.Shareを起動します。

2 カメラでモニター画面のにタッチして、表示される画面で[スマートフォン接続]にタッチします。

- 接続選択のメニューが表示されたら、[スマートフォン接続]を選択して**OK**ボタンを押します。
- 一度接続設定がされていれば自動的に接続を開始します。
- メニュー操作で開始するときは、再生メニューのWi-Fi接続を選択して十字ボタンのを押します。[スマートフォン接続]を選択して**OK**ボタンを押します。
- 接続すると、画面に1が表示されます。



3 OI.Shareで[位置情報付与]をタップします。

- OI.Trackが起動します。
- OI.Trackがインストールされていないときは、ガイドに従ってインストールしてください。



4 OI.Trackの画面で[カメラからログを追加]をタップします。

- カメラに記録されているログの一覧が表示されます。見たいログをタップすると、表示されます。



6

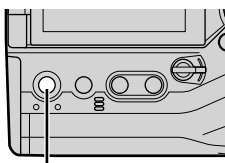
スマートフォン接続の終了と停止

スマートフォンとの通信を切断します。このカメラでは、スマートフォンとの接続にWi-Fi機能およびBluetooth®機能を使っています。国や地域によっては使用できない場合があります。その場合は通信機能を停止してください。

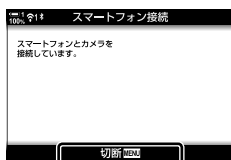
接続中の通信を停止する

- 1 OI.Shareまたは、OI.Trackの設定画面の【電源オフ】をスライドします。

- またはカメラの**MENU**ボタンを押すか、モニター画面の【切断】にタッチします。



MENUボタン



切断



- 2 電源オフ中の自動転送が設定されているときは、【バックグラウンド通信】をオフにします。

- **MENU**ボタン ➡ **⌵** (セットアップ)メニュー ➡ 【Wi-Fi/Bluetooth設定】 ➡ 【バックグラウンド通信】 ➡ 【Off】

Wi-Fi/Bluetooth®機能を停止する

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

- 2 **⌵**セットアップメニューで【Wi-Fi/Bluetooth設定】を選択し、十字ボタンの**▷**を押します。



- 3 **△▽**ボタンで【Wi-Fi/Bluetooth】を選択し、**▷**ボタンを押します。



- 4 △▽ボタンで[Off]を選択して、**OK**ボタンを押します。

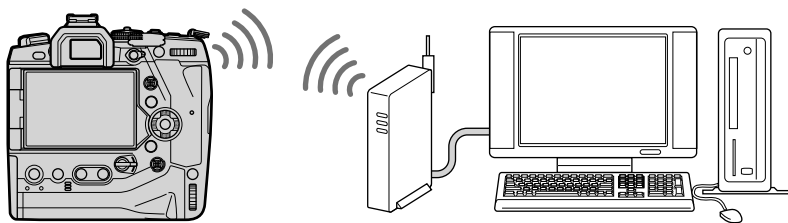


6-3 パソコンと接続する(Wi-Fi)

カメラとパソコンをWi-Fi接続します。パソコンが接続している家庭内LANなどのネットワークにルーターを経由してWi-Fi接続することができます。

パソコンとの接続には、パソコン用ソフトウェアOLYMPUS Captureを使います。カメラで撮影をしながら、画像を自動的にパソコンに転送して、結果を確認しながら撮影することができます。

この機能を使うためには、パソコンへのソフトウェアのインストールと接続するパソコンのカメラへの登録、カメラとルーターまたはアクセスポイントでの接続の設定が必要です。



ソフトウェアのインストール

カメラとパソコンをWi-Fi接続するためには、OLYMPUS Captureを使います。

OLYMPUS Capture

パソコンが接続しているネットワークにWi-Fi接続しているカメラから、パソコンに撮影データを自動的に転送して画像の確認ができます。ソフトウェアの詳細やダウンロードについては、以下をご覧ください。ソフトウェアのダウンロードにはご利用の製品のシリアルNoを入力する必要があります。


<http://app.olympus-imaging.com/olympuscapture/>

画面の指示に従ってインストールしてください。ソフトウェアの動作環境、インストール方法は上記URLのホームページでご確認ください。

WindowsOSのパソコンで、Wi-Fiでパソコンと接続するための準備

WindowsOSのパソコンで、アクセスポイント接続したカメラを認識できない場合は、以下の手順でカメラを手動で認識させてください。

■ Windows 8およびWindows 10をお使いの場合

- 1 本機をUSBケーブルでパソコンに接続します。
- 2 パソコンのデスクトップの  をクリックして、**[Windowsの設定]**の画面を表示します。
- 3 **[デバイス]**をクリックして、**[Bluetoothとその他のデバイス]**の画面を表示します。



- 4 **[Bluetooth またはその他のデバイスを追加する]** をクリックします。
- 5 **[+その他すべて]** をクリックします。
 - **[デバイスを追加する]**の画面が表示され、しばらく待っていると**[E-M1X]**が表示されます。
- 6 **[E-M1X]** をクリックします。
 - 準備が完了したメッセージが表示されたら、**[完了]** をクリックして終了します。



■ Windows 7をお使いの場合

- 1 本機をUSBケーブルでパソコンに接続します。
 - エクスプローラーに**[E-M1X]**が表示されます。
- 2 **[E-M1X]**を右クリックして、**[インストール]**を選択します。
 - 正しく登録されたら、画面にメッセージが表示されます。
 - デバイスマネージャーで、デバイスが登録されていることを確認してください。

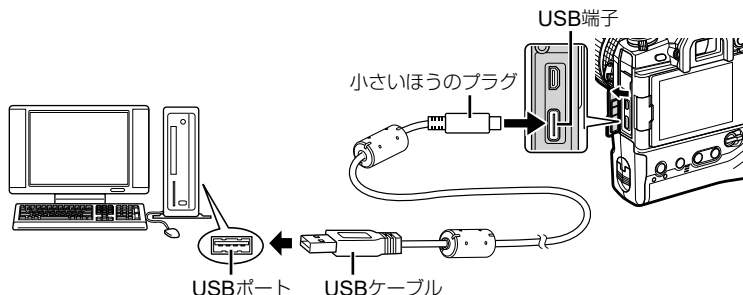
接続するパソコンをカメラに登録する

(新規ペアリング)

接続を許可するカメラとパソコンをお互いに登録します。カメラ側は、接続するパソコンの情報を4台まで登録できます。パソコンの登録は、カメラとパソコンをUSBケーブルで接続して行います。この設定は、カメラが接続するパソコンごとに1回だけが必要です。

1 カメラの電源が切れていることを確認し、カメラとパソコンをUSBケーブルで接続します。

- カメラとUSBケーブルを接続するときは、端子の破損を防ぐために付属のケーブルプロテクターとケーブルクリップをご使用ください。☞「ケーブルプロテクターを取り付ける」(P.29)



- USBポートの位置はパソコンによって異なります。パソコンの取扱説明書をご覧ください。

2 カメラの電源を入れます。

- カメラのモニターにUSBケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。
- 画面が表示されないときは、*カスタムメニュー **D4**の[USB接続モード] (P.529)を[オート]に設定してください。
- 電池残量が著しく不足しているときは、カメラをパソコンに接続しても、カメラの画面に何も表示されない場合があります。充電した電池を使用してください。

3 十字ボタンの△▽で[カメラコントロール]を選択し、OKボタンを押します。



4 パソコンにインストールしたOLYMPUS Captureを起動します。

- ソフトウェアが起動すると、使用する接続方法を確認する画面がパソコンに表示されます。



5 [新規ペアリング]をクリックします。

- 接続画面のまま変化がない場合は、カメラを接続しなおしてください。



新規ペアリング

- カメラに登録するパソコンの名前を入力します。初期状態では、パソコンの「コンピューター名」が表示されます。
- カメラに登録できる名前は、半角英数字で最大15文字までです。



6 OLYMPUS Captureの画面の[設定]をクリックします。

- 完了のメッセージが表示されたら、メッセージに従ってカメラを取り外してください。



設定

- 複数のパソコンと接続する場合は、それぞれのパソコンでこの操作を行ってください。
- カメラが記憶しているパソコンの登録情報は、OLYMPUS Captureから確認したり削除することができます。

カメラに登録したパソコンが接続しているネットワークにWi-Fi接続するための設定をします。

カメラとパソコンをWi-Fi接続するために、カメラとルーターまたはアクセスポイントに接続するための設定をします。カメラに複数のアクセスポイントの設定を記憶させておき、選択して使うことができます。【((☎))Wi-Fi接続】の設定には以下の方法があります。

WPSで接続	<p>自動設定機能を使って接続します (P.607)。 WPSに対応したルーターやWi-Fiアクセスポイントをお使いのときは、機器のWPS用ボタンを押すだけで接続設定ができます。</p> <p>[PBC方式]：WPS用ボタンの操作のみで設定します。アクセスポイントのWPS用ボタンを押して自動的に接続させます。</p> <p>[PIN方式]：個人暗証番号認証モードで設定します。カメラに表示されるPINコードをアクセスポイントに登録します。</p>
アクセスポイント一覧から接続	<p>アクセスポイントを検索して接続先を選択します (P.612)。 接続可能なアクセスポイントを検索して、パスワードを入力して接続します。</p>
手動設定で接続	<p>手動設定で接続します (P.609)。 SSIDなどアクセスポイントの情報を手動で設定し、接続します。</p>

- WPSを使うには、お使いのルーターやアクセスポイントがWPSに対応している必要があります。
- WPSでPINコード方式で設定するときは、アクセスポイントと接続できる管理用パソコンが必要です。
- 手動設定には、接続するWi-Fiネットワークの情報がが必要です。
- 以下のルーター、アクセスポイントに接続できます。
 - 規格：IEEE802.11a/b/g/n/ac
 - 周波数帯域：2.4GHz、5GHz
 - セキュリティ：WPA2
- 一度接続したアクセスポイントの情報は、カメラ内に8件まで記憶されます。2回目以降の接続では、一度接続したことのあるアクセスポイントに自動的に接続できます。
- カメラ内に記憶しているアクセスポイントが8件を超えると、最も長い間使われていない情報が上書きされます。
- MACアドレスが同じアクセスポイントの情報は、カメラでは上書きされて記憶されません。
- ご使用のルーター、アクセスポイントの操作については各機器の取扱説明書をお読みください。
- 撮影メニュー1の**[リセット/カスタム設定]** (P.91)で**[リセット]**を**[フル]**で実行しても、アクセスポイントの情報はリセットされません。▼セットアップメニューの**[Wi-Fi/Bluetooth設定]** (P.457)の**[Wi-Fi/Bluetooth設定リセット]**で行います。

カメラのWi-Fi機能をオンにする (Wi-Fi/Bluetooth設定)

ネットワークの設定の前にカメラのWi-Fi機能を有効にしておく必要があります。初期設定ではオンになっているので、そのときは必要ありません。P.607からお読みください。

- 1 **MENU** ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 **↓** セットアップメニューで **[Wi-Fi/Bluetooth設定]** を選択し、十字ボタンの **▷** を押します。



- 3 **△▽** ボタンで **[Wi-Fi/Bluetooth]** を選択し、**▷** ボタンを押します。




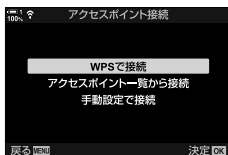
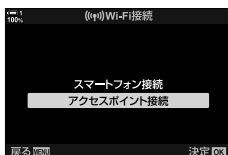
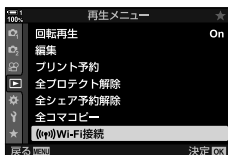
- 4 **△▽** ボタンで **[On]** を選択し、**OK** ボタンを押します。
 - **[Wi-Fi/Bluetooth設定]** の画面に戻ります。



- 5 **MENU** ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

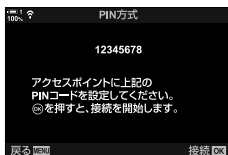
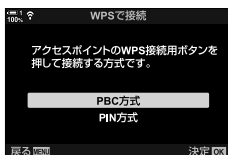
カメラとルーターまたはアクセスポイントのWPS機能を使って接続設定をします。

- 1 カメラの**MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 再生メニューで[(WPS)Wi-Fi接続]を選択し、十字ボタンの▷を押します。
 - [(WPS)Wi-Fi接続]の画面が表示されます。
 - \uparrow セットアップメニューの[Wi-Fi/Bluetooth設定]で[Wi-Fi/Bluetooth]が[On]に設定されていないと、この画面は表示されません。
- 3 Δ ∇ ボタンで[アクセスポイント接続]を選択し、**OK**ボタンを押します。
 - [アクセスポイント接続]のメニューが表示されます。
- 4 Δ ∇ ボタンで[WPSで接続]を選択し、**OK**ボタンを押します。



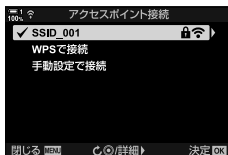
- 5 Δ ∇ ボタンで設定に使う方式を選択し、**OK**ボタンを押します。

- [PBC方式]を選択したときは、アクセスポイントのWPS用ボタンを押してください。
- カメラの**OK**ボタンを押すと接続を開始します。
- 接続開始してから完了までに時間がかかる場合があります。
- [PIN方式]を選択したときは、カメラのモニターに表示されるPINコードをアクセスポイントに設定してください。アクセスポイント側で準備ができたなら、**OK**ボタンを押します。



6 アクセスポイントに接続ができれば、アクセスポイントの登録画面が表示され、接続しているアクセスポイントの名前に✔が表示されます。

- 事前に登録したパソコンが複数あるときは、アクセスポイントの一覧画面が表示される前に、接続するパソコンの選択画面が表示されます。△▽ボタンで接続するパソコンを選択して**OK**ボタンを押してください。
- 選択したパソコンからのみ、カメラと接続できます。別のパソコンを選択する場合は、一度Wi-Fi接続を切断してください。
- 接続に失敗するとモニターにメッセージが表示されたあと、手順5の画面が表示されます。もう一度操作を行ってください。




7 **OK**ボタンを押すと、撮影画面に戻ります。

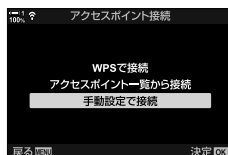
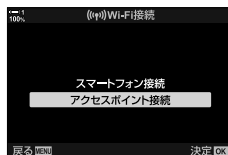
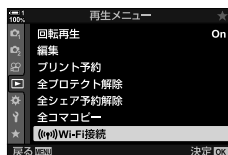
- 通常の撮影画面に戻ります。モニターに📶が表示されます。



ネットワークの情報を手動で設定します。以下の内容を設定します。

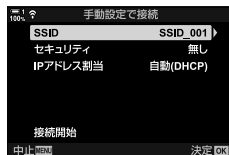
SSID	アクセスポイントのSSIDを入力します。
セキュリティ	ワイヤレスネットワークの暗号化の方式を選択します。
パスワード	暗号化されたワイヤレスネットワークに接続するためのパスワードを設定します。
IPアドレス割当	ネットワーク内のDHCPサーバーからのIPアドレスの自動取得を行うかどうかを設定します。
IPアドレス	カメラのIPアドレスを固定して使用するときに設定します。接続するネットワークの設定に合わせます。
サブネットマスク	
デフォルトゲートウェイ	
DNS	

- 1 カメラの**MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 再生メニューで[(Wi-Fi)]**Wi-Fi接続**を選択し、十字ボタンの▷を押します。
 - [(Wi-Fi)]**Wi-Fi接続**の画面が表示されます。
 - ↑セットアップメニューの**[Wi-Fi/Bluetooth設定]**で**[Wi-Fi/Bluetooth]**が**[On]**に設定されていないと、この項目は選択できません。
- 3 △▽ボタンで**[アクセスポイント接続]**を選択し、**OK**ボタンを押します。
 - **[アクセスポイント接続]**のメニューが表示されます。
- 4 △▽ボタンで**[手動設定で接続]**を選択し、**OK**ボタンを押します。



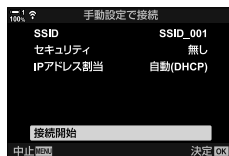
5 △▽ボタンで各項目を選択し、**OK**ボタンを押します。

- それぞれの項目の設定をします。



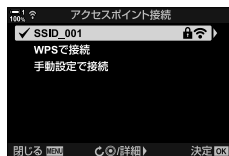
SSID	接続先のSSIDを入力します。
セキュリティ	暗号化の方式を選択します。【無し】か【WAP2】を選択します。
パスワード	【セキュリティ】で【WAP2】を選択した場合は、ネットワークパスワードを入力します。
IPアドレス割当	【自動(DHCP)】か【手動】かを選択します。IPアドレスを自動設定するには、DHCPサーバー機能を持つアクセスポイントを使用している環境で、IPアドレスが自動的に割り当てられる設定になっている必要があります。
IPアドレス	
サブネットマスク	【IPアドレス割当】で【手動】を選択した場合は、値を入力します。
デフォルトゲートウェイ	
DNS	

6 △▽ボタンで[接続開始]を選択し、**OK**ボタンを押します。




7 アクセスポイントに接続ができれば、アクセスポイントの登録画面が表示され、接続しているアクセスポイントの名前に✔が表示されます。

- 事前に登録したパソコンが複数あるときは、アクセスポイントの一覧画面が表示される前に、接続するパソコンの選択画面が表示されます。△▽ボタンで接続するパソコンを選択して**OK**ボタンを押してください。
- 選択したパソコンのみ、カメラと接続できます。別のパソコンを選択する場合は、一度Wi-Fi接続を切断してください。
- 接続に失敗するとモニターにメッセージが表示されたあと、手順6の画面が表示されます。もう一度操作を行ってください。



8 OKボタンを押すと、撮影画面に戻ります。







- 通常の撮影画面に戻ります。モニターにが表示されます。

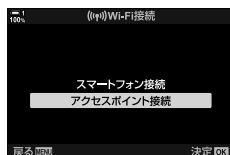
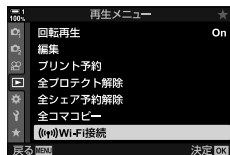


アクセスポイントを検索して接続する

(アクセスポイント一覧から接続)

接続できるアクセスポイントをカメラが検索して、その中から選択して接続します。

- 1 カメラの**MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 再生メニューで**[(Wi-Fi)]Wi-Fi接続**を選択し、十字ボタンの**▷**を押します。
 - **[(Wi-Fi)]Wi-Fi接続**の画面が表示されます。
 - セットアップメニューの**[Wi-Fi/Bluetooth設定]**で**[Wi-Fi/Bluetooth]**が**[On]**に設定されていないと、この項目は選択できません。
- 3 ボタンで**[アクセスポイント接続]**を選択し、**OK**ボタンを押します。
 - **[アクセスポイント接続]**のメニューが表示されます。
- 4 ボタンで**[アクセスポイント一覧から接続]**を選択し、**OK**ボタンを押します。
 - 接続できるアクセスポイントが表示されます。
- 5 ボタンで接続するアクセスポイントを選択し、**OK**ボタンを押します。
 - セキュリティパスワードが必要なアクセスポイントのときは、パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力して**OK**ボタンを押します。
 - アクセスポイントを選択して**▷**ボタンを押すと、**[詳細設定]**が選択できます。IPアドレスなどを手動で設定する場合に使います。
 - ボタンを押すと、アクセスポイントを再検索して一覧を更新します。



6 アクセスポイントに接続ができれば、アクセスポイントの登録画面が表示され、接続しているアクセスポイントの名前に✔が表示されます。

- アクセスポイントが暗号化されているときは🔒が表示されます。
- 事前に登録したパソコンが複数あるときは、アクセスポイントの一覧画面が表示される前に、接続するパソコンの選択画面が表示されます。△▽ボタンで接続するパソコンを選択して、**OK**ボタンを押してください。
- 選択したパソコンのみ、カメラと接続できます。別のパソコンを選択する場合は、一度Wi-Fi接続を切断してください。
- 接続に失敗するとモニターにメッセージが表示されたあと、手順5の画面が表示されます。もう一度操作を行ってください。



7 **OK**ボタンを押すと、撮影画面に戻ります。

- 通常の撮影画面に戻ります。モニターに📶が表示されます。



🔑 2回目以降に接続するときは

- [🔑]から[アクセスポイント接続]を選択すると、一度接続したアクセスポイントに自動的に接続されます。ネットワークパスワードの入力は不要です。
- アクセスポイントが複数表示されたときは、最近使用したアクセスポイントから優先して接続します。
- アクセスポイントに接続したら、アクセスポイントの一覧画面が表示されます。接続しているアクセスポイント名に✔が付きます。
- 他のアクセスポイントに接続する場合は、表示されているほかのアクセスポイントを選択して**OK**ボタンを押します。
- 接続するパソコンが複数登録されているときは、アクセスポイントの一覧画面が表示される前に選択画面が表示されます。△▽ボタンで接続するパソコンを選択して、**OK**ボタンを押します。

撮影しながらパソコンに画像を転送する

カメラと接続したネットワークのパソコンに撮影をしながら画像を転送します。「接続するパソコンをカメラに登録する(新規ペアリング)」(P.603)に従って、カメラとパソコンを接続しておきます。

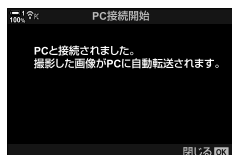
1 カメラを接続したいパソコンでOLYMPUS Captureを起動します。

- 接続方法を入力する画面が表示されたら、**[Wi-Fi接続]**をクリックします。
- カメラを認識すると画面に**[カメラが接続されました。]**と表示されます。



Wi-Fi接続

- カメラが正しくパソコンと接続できたら、カメラで右の画面が表示されます。



2 OLYMPUS Captureで、撮影画像の自動転送の設定をします。

- カメラの**スロット1、2**それぞれに記録される画像、または**ムービー**からどの種類のデータを自動転送するかを設定します。
- 転送されるデータの**パソコン内での保存先**を設定します。




OLYMPUS Captureの
コントロールウィンドウ

3 カメラで撮影をします。

- 撮影された画像はカードに記録されると共に**パソコンへ転送**されます。
- 画像転送中は、画面に**アイコン(PC)**が表示されます。
- パソコンと接続後に、撮影された画像やムービーのみ転送されます。カメラの**Wi-Fi起動前**に撮影したデータは転送されません。

画像転送中




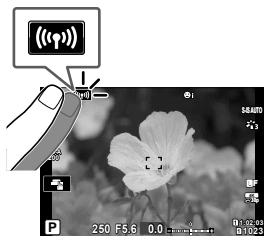
- アクセスポイント接続中は、以下の制限があります。
 - カメラはスリープ状態にはなりません。
 - インターバル撮影はできません。
 - 画像再生のときに使える操作に一部制限があります。
- パソコンやアクセスポイントから切断されたときは、**[PC接続終了]**の画面が表示されます。接続しなおすと、未転送のデータを転送できます。未転送のデータがあるときに以下の操作を行うと、残りのデータは転送されません。
 - カメラで**Wi-Fi切断**の操作を行ったとき
 - カメラの電源をオフにしたとき
 - 転送中のカードスロットからカードを抜いたとき
- 転送対象のデータは1スロットにつき**3000**件までです。
- OLYMPUS Captureで**[カメラコントロールモードのカメラを検出できませんでした。]**と表示される場合は、以下の点をご確認ください。
 - カメラに接続するパソコンの登録ができていない
 - アクセスポイントに接続したときに、選択したパソコンが間違っている
 - WindowsOSのパソコンで、デバイスが登録されていない  「WindowsOSのパソコンで、Wi-Fiでパソコンと接続するための準備」(P.602)

アクセスポイントとの接続を終了する

Wi-Fi通信を切断します。国や地域によっては使用できない場合もあるので、そのときは通信機能を停止してください。

接続中の通信を停止する

1 カメラのモニター画面のにタッチします。






- 切断の確認画面が表示されます。
- 画面には、接続中のアクセスポイントのSSIDが表示されます。



2 十字ボタンの△▽で[切断する]を選択し、**OK**ボタンを押します。

- 接続が切断され撮影画面に戻ります。
- 転送が終わっていないデータがあるときは、確認画面が表示されます。切断するときは、[実行]を選択して**OK**ボタンを押します。

3 再度、接続するときは、画面のにタッチするか、再生メニューの**Wi-Fi接続**で**アクセスポイント接続**を選択して**OK**ボタンを押します。

- 登録済みのアクセスポイントと接続するときは自動的に検索して接続します。
- 他のアクセスポイントへ接続先を切り換えるときは、手順2で[切断しない]を選択して**OK**ボタンを押します。「アクセスポイントを検索して接続する(アクセスポイント一覧から接続)」(P.612)の設定と同様に接続可能なアクセスポイントに表示される中から接続先を選択して各項目の設定をしてください。
- データ転送中にカメラの電源をオフにすると、Wi-Fi通信をすぐに切断して電源をオフにするか、データの転送後に電源をオフにするかを選べます。

Wi-Fi/Bluetooth®機能を停止する

- 1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- 2 **Y**セットアップメニューで**[Wi-Fi/Bluetooth設定]**を選択し、十字ボタンの**▷**を押します。
 - **[Wi-Fi/Bluetooth設定]**の画面が表示されます。
- 3 **△▽**ボタンで**[Wi-Fi/Bluetooth]**を選択し、**▷**ボタンを押します。
- 4 **△▽**ボタンで**[Off]**を選択して、**OK**ボタンを押します。



6-4 設定を変更する

カメラとスマートフォンのWi-Fi接続に使うパスワードの変更や、パソコンとのWi-Fi接続の設定のリセットをします。これらの設定は、カメラのリセット操作では、リセットできないので、この設定でリセットする必要があります。

パスワードを変更する (接続パスワード設定)

カメラとスマートフォンとのWi-FiやBluetooth®の接続のためのパスワードを再発行します。

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 **Y**セットアップメニューで**[Wi-Fi/Bluetooth設定]**を選択し、十字ボタンの**▷**を押します。

- **[Wi-Fi/Bluetooth設定]**の画面が表示されます。



3 **△▽**ボタンで**[接続パスワード設定]**を選択し、**▷**ボタンを押します。

- 画面にパスワードが表示されます。



4 **◎ (ムービー)**ボタンを押します。

- ボタンを押すたびにパスワードが変更されます。
- Wi-Fi接続のパスワードとBluetooth®接続のパスワードの両方が変更されます。
- **OK**ボタンを押すと、**[接続パスワード設定]**の画面を終了します。

5 再度**OK**ボタンを押して**[Wi-Fi/Bluetooth設定]**の画面を終了します。

- **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。
- パスワード変更後は、再度スマートフォンとの接続設定を行ってください(P.586)。

Wi-Fi/Bluetooth®設定を初期化する (Wi-Fi/Bluetooth設定リセット)

Wi-FiやBluetooth®接続の設定をリセットします。アクセスポイントに関する設定やカメラと接続するパソコンの登録情報まで全てリセットされます。

- MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。
- ↑セットアップメニューで**[Wi-Fi/Bluetooth設定]**を選択し、十字ボタンの▷を押します。
 - [Wi-Fi/Bluetooth設定]**の画面が表示されます。
- △▽ボタンで**[Wi-Fi/Bluetooth設定リセット]**を選択し、▷ボタンを押します。
 - [Wi-Fi/Bluetooth設定リセット]**の画面が表示されます。
- △▽ボタンで**[実行]**を選択し、**OK**ボタンを押します。
 - 設定がリセットされて**[Wi-Fi/Bluetooth設定リセット]**の画面に戻ります。
 - Wi-Fi接続のパスワードとBluetooth®接続のパスワードもリセットされます。
- MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。



6-5 パソコンと接続する(USB)

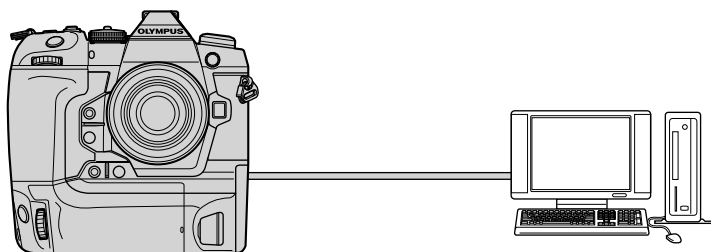
カメラとパソコンをUSBケーブルで直接接続します。

カメラで撮影した画像を同時にパソコンへ転送して、撮影しながらパソコンでも画像の確認をすることができます。また、パソコン側で各種設定を確認しながら、シャッターを切るなどのカメラのコントロールができます。USB接続でカメラをコントロールしながら撮影に使うためには、専用ソフトOLYMPUS Captureを使います。

カードに記録された画像は、USB接続で直接パソコンへ転送し、ソフトウェアで管理することができます。画像の管理には専用ソフトOlympus Workspaceを使います。

パソコンを経由してカメラのファームをダウンロードしてアップデートすることができます。製品のファームウェアのアップデートは、Olympus Workspaceを使ってできます。

また、カメラをストレージとしてパソコンと接続して、カードのデータを転送できます。



接続できるパソコンについて

付属のUSBケーブルを使ってパソコンと接続します。

- USB端子を装備していても、以下の環境では正常な動作は保証いたしません。
拡張カードなどでUSB端子を増設したパソコン／工場出荷時にOSがインストールされていないパソコン／自作パソコン
- 接続できるパソコンの環境は以下の通りです。

Windows : Windows 7 / Windows 8 / Windows 8.1 / Windows 10

Mac : OS X v10.9 - v10.11, macOS v10.12 - v10.14

ソフトウェアのインストール

カメラとパソコンを直接USB接続して使うときには、以下のソフトウェアをインストールしてください。

OLYMPUS Capture

カメラで撮影しながら、撮影データをパソコンに自動的に転送して確認したり、パソコンからカメラのコントロールができます。ソフトウェアの詳細やダウンロードについては、以下をご覧ください。ソフトウェアのダウンロードにはご利用の製品のシリアルNoを入力する必要があります。

<http://app.olympus-imaging.com/olympuscapture/>

画面の指示に従ってインストールしてください。ソフトウェアの動作環境、インストール方法は上記URLのホームページでご確認ください。

Olympus Workspace

カメラで撮影した静止画やムービーをパソコンに取り込んで、閲覧や編集、管理を行うためのアプリケーションソフトウェアです。カメラのファームウェアのアップデートもできます。ソフトウェアのダウンロードについては以下をご覧ください。ソフトウェアのダウンロードにはご利用の製品のシリアルNoを入力する必要があります。

<https://support.olympus-imaging.com/owdownload/>

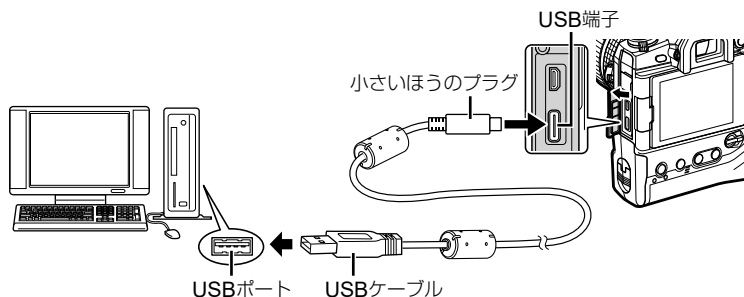
撮影しながらパソコンに画像を転送する

(カメラコントロール)

カメラと直接USB接続したパソコンに、撮影をしながら画像を転送します。カメラで撮影するほかに、パソコンからカメラをコントロールしながら撮影することができます。

1 カメラの電源が切れていることを確認し、カメラとパソコンをUSBケーブルで接続します。

- カメラとUSBケーブルを接続するときは、端子の破損を防ぐために付属のケーブルプロテクターとケーブルクリップをご使用ください。☞「ケーブルプロテクターを取り付ける」(P.29)



- USBポートの位置はパソコンによって異なります。パソコンの取扱説明書をご覧ください。

2 カメラの電源を入れます。

- カメラのモニターにUSBケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。
- 画面が表示されないときは、*カスタムメニュー **D4**の【USB接続モード】(P.529)を【オート】に設定してください。
- 電池残量が著しく不足しているときは、カメラをパソコンに接続しても、カメラの画面に何も表示されない場合があります。充電した電池を使用してください。

3 十字ボタンの△▽で【カメラコントロール】を選択し、OKボタンを押します。



4 あらかじめパソコンにインストールした OLYMPUS Captureを起動します。

- 接続方法を入力する画面が表示されたら[USB接続]をクリックします。



USB接続

5 OLYMPUS Captureで画像の取り込み設定をします。

- 転送されるデータのパソコン内での保存先を設定します。



OLYMPUS Captureの
コントロールウィンドウ

6 カメラまたはパソコンを使って撮影をします。

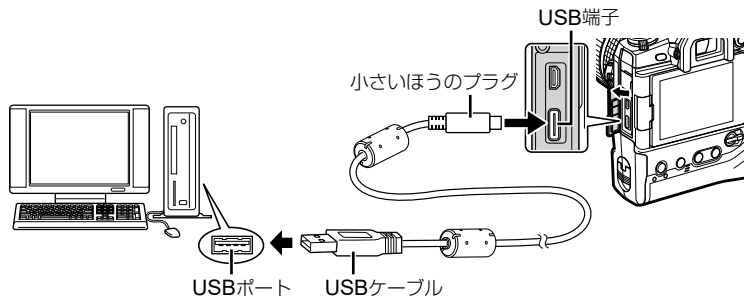
- 撮影された画像は、設定に従ってパソコンに転送されます。
- パソコンからカメラの撮影モードの変更はできません。
- パソコンからカード内の画像の削除はできません。
- カメラとパソコンの両方でライブビュー表示をしているときは、カメラ側の表示のフレームレートが低くなる場合があります。
- ソフトウェアの詳しい使い方は、ソフトウェアのオンラインヘルプをご覧ください。
- 以下の操作が行われたときは、パソコンとの接続状態は終了します。
 - OLYMPUS Captureを終了したとき
 - カードの抜き差しをしたとき
 - カメラの電源をオフにしたとき

パソコンに画像を取り込んで保存する（ストレージ）

カメラを外付けハードディスクなどと同じようにストレージとしてパソコンに接続します。カードのデータを転送できます。

1 カメラの電源が切れていることを確認し、カメラとパソコンをUSBケーブルで接続します。

- カメラとUSBケーブルを接続するときは、端子の破損を防ぐために付属のケーブルプロテクターとケーブルクリップをご使用ください。☞「ケーブルプロテクターを取り付ける」(P.29)



- USBポートの位置はパソコンによって異なります。パソコンの取扱説明書をご覧ください。

2 カメラの電源を入れます。

- カメラのモニターにUSBケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。
- 画面が表示されないときは、*カスタムメニュー **D4**の【USB接続モード】(P.529)を【オート】に設定してください。
- 電池残量が著しく不足しているときは、カメラをパソコンに接続しても、カメラの画面に何も表示されない場合があります。充電した電池を使用してください。

6 3 十字ボタンの△▽で【ストレージ】を選択し、OKボタンを押します。



4 カメラが新しい機器としてパソコンに認識されます。

- 手順3で【MTP】を選択することでWindowsフォトギャラリーが使用できます。
- パソコンに接続中は、カメラとしての機能は一切動作しません。
- パソコンに接続中もカメラとしての機能を使う場合は、【カメラコントロール】を選択します(P.622)。

6-6 USB外部電源を使う(USB PD)

USB PD規格に準拠したモバイルバッテリーやUSB-ACアダプターなどのUSB機器から給電して、カメラを動作させることができます。以下の条件の機器が使用できます。

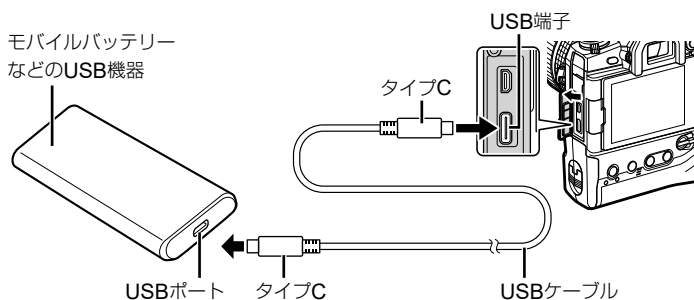
規格：USB PD規格準拠

出力：9V 3A、15V 2A、15V 3A

- 電池残量が10%以下のときは使用できません。

1 カメラの電源が切れていることを確認し、カメラとUSB機器をUSBケーブルで接続します。

- カメラとUSBケーブルを接続するときは、端子の破損を防ぐために付属のケーブルプロテクターとケーブルクリップをご使用ください。☞「ケーブルプロテクターを取り付ける」(P.29)



- 付属品のUSBケーブル(CB-USB11)ではUSB給電(USB-PD)を利用できません。
- USB機器との接続方法は機器によって異なります。使用する機器の取扱説明書をご覧ください。
- USB機器によってはUSB給電(USB-PD)を使用できない場合があります。使用するUSB機器の取扱説明書をご覧ください。

2 カメラの電源を入れます。

- カメラのモニターにUSBケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。
- 画面が表示されないときは、☼カスタムメニュー **D4**の【USB接続モード】(P.529)を【オート】に設定してください。
- 電池残量が著しく不足しているときは、カメラをUSB機器に接続しても、カメラの画面に何も表示されない場合があります。充電した電池を使用してください。

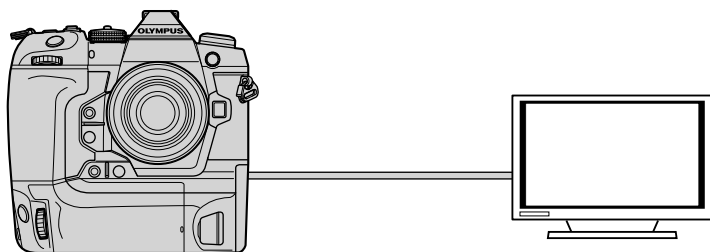
3 十字ボタンの△▽で【USB PD】を選択し、OKボタンを押します。

- 接続したUSB機器からの給電でカメラが動作します。



6-7 外部モニター（テレビ）と接続する（HDMI）

カメラとテレビをHDMIケーブルで直接接続して、画像を表示できます。再生画像をテレビに表示して、大勢で楽しむことができます。テレビに接続しているときは、テレビのリモコンで表示の操作をすることもできます。特別なアプリは必要ありません。



ムービー撮影のためにHDMIケーブルで外部モニターやレコーダーと接続して使うこともできます。ムービー撮影時の使い方はP.434をお読みください。

- HDMIケーブルは、市販品を別途ご用意ください。また、HDMI正規認証のHDMIケーブルをお使いください。

カメラの画像やムービーをテレビで見る (HDMI)

カメラをハイビジョン対応のテレビにHDMIケーブルで直接接続して、画像をテレビに表示します。テレビに接続しているときは、リモコンで表示の操作をすることもできます。

HDMIの出力信号を設定する

テレビに出力する信号の設定をします。テレビの性能やお使いの地域に合わせてムービーサイズやフレームレートを設定できます。テレビの入力設定に合わせて選択してください。

出力サイズ	HDMI端子に出力する映像信号の形式を設定します。 [C4K] : 4Kデジタルシネマ画質(4096×2160)で出力します。 [4K優先] : 4K画質(3840×2160)優先で出力します。 [1080p優先] : フルハイビジョン形式(1080p)優先で出力します。 [720p優先] : ハイビジョン形式(720p)優先で出力します。 [480p/576p] : 480p/576p形式で出力します。
HDMIコントロール	再生モードのとき、テレビのリモコンを使ってカメラの操作ができます(P.630)。 [Off] または [On] を選択します。 [On] に設定中は、再生以外のカメラ操作はできません。
出力フレームレート	NTSC地域(60p優先)かPAL地域(50p優先)に合わせて出力する信号のフレームレートを選択します。

- HDMI接続中に、**[HDMIコントロール]**および**[出力フレームレート]**の設定は変更できません。
- 記録されている音声フォーマットに対応している機器以外では、音声は再生されません。
- **[HDMIコントロール]**で対応可能な機能は、接続するテレビによって異なります。テレビの取扱説明書をご確認ください。

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 **★**カスタムメニュー **D4** (表示/音/接続)のメニューを表示します。



3 十字ボタンの△▽で**[HDMI]**を選択し、▶ボタンを押します。



- 4 △▽ボタンで設定する項目を選択し、▷ボタンを押します。



- 5 △▽ボタンで項目を選択し、**OK**ボタンを押します。
• 必要に応じて手順4と5を繰り返します。



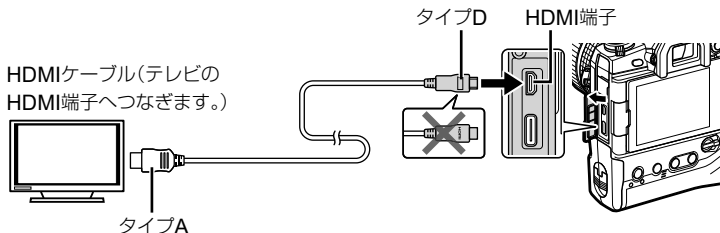
- 6 **MENU**ボタンを繰り返し押し、メニューを終了します。

カメラをテレビに接続する

HDMIケーブルでカメラとテレビを接続します。

1 カメラの電源が切れていることを確認し、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続します。

- カメラとHDMIケーブルを接続するときは、使用中の抜けや端子の破損を防ぐために付属のケーブルプロテクターとケーブルクリップをご使用ください。☞「ケーブルプロテクターを取り付ける」(P.29)



2 テレビの入力を切り換えてカメラの電源を入れます。

- テレビにカメラのモニターの映像が表示されます。撮影した画像を見るときは、▶ボタンを押します。
- [HDMIコントロール] (P.630)が[On]のときは、HDMIケーブルを接続するとカメラのモニターは消灯します。
- テレビの入力切り換えについては、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビの設定によっては、画像や情報表示の一部が欠けて見えることがあります。
- パソコンとのUSB接続中は、HDMI出力は行われません。
- ☞動画メニューで[☞HDMI出力] (P.432)の[出力モード設定]が[記録モード]のときは、設定されているムービー画質モードで出力します。設定されている画質モードにテレビが対応していない場合は、画像は表示されません。
- 静止画撮影状態のときは信号形式を[4K優先]または[C4K]にしても、1080p優先で出力されます。

テレビのリモコンで操作する（HDMIコントロール）

カメラをテレビにHDMIケーブルで直接接続しているときは、リモコンで表示の操作をすることもできます。

- テレビがHDMIコントロールに対応している必要があります。テレビの取扱説明書をご確認ください。

On	再生モードのとき、テレビのリモコンを使ってカメラの操作ができます。[On]に設定されていると、再生以外のカメラ操作はできません。
Off	テレビのリモコンでカメラの操作はできません。情報表示は、テレビの画面にのみ表示されます。

1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 **★カスタムメニュー D4**（表示/音/接続）で**[HDMI]**を選択し、十字ボタンの**▷**を押します。



3 **△▽**ボタンで**[HDMIコントロール]**を選択し、**▷**ボタンを押します。



4 **△▽**ボタンで**[On]**を選択し、**OK**ボタンを押します。



5 **MENU**ボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

6 カメラとテレビをHDMIケーブルで接続します。

- テレビのリモコンを操作します。テレビに表示された操作ガイドに従って操作できます。
- 1コマ再生で、リモコンの「赤」ボタンで情報表示の切り換え、「緑」ボタンでインデックス表示への切り換えができます。

- テレビによっては使用できない機能があります。
- テレビに表示中は、カメラのモニター表示は消灯します。

7 資料

この章では、カメラのお手入れについてや、カメラをお使いの上で参考になる初期設定やメニュー一覧などをまとめています。

7-1 カメラのお手入れと保管

カメラのお手入れ

カメラのお手入れの際は、カメラの電源を切り、電池を取り出します。

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。

カメラの外側：

- 柔らかい布でやさしく拭きます。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、固く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を固く絞って拭き取ります。

モニター：

- 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ：

- 市販のレンズブローアードでほこりを吹き払います。レンズはレンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

カメラの保管

- 長期間、カメラを使用しないときは、電池とカードを外してください。風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 電池は定期的に取り換えて、カメラの機能をテストしてください。
- ボディキャップ、リアキャップはゴミやほこりを落としてから装着してください。
- カメラにレンズを取り付けていないときは、ほこりの侵入を防ぐためボディキャップを装着してください。また、必ず前後のレンズキャップを取り付けて保管してください。
- 使用後は清掃して保管してください。
- 防虫剤のあるところに保管しないでください。
- 薬品を扱うような場所での保管は、腐食などの原因になるため避けてください。
- レンズを汚れたままにしておくと、カビがはえることがあります。
- 長期間使用しなかったカメラは、使用前に各部の点検をしてください。海外旅行などの大切な撮影の前には、必ず撮影をしてカメラが正常に動作することを確認してください。

撮像素子のクリーニングとチェック

このカメラは撮像素子にゴミが付着しない構造にするとともに、撮像素子前面に付着したゴミやほこりを超音波振動により、払い落とす機能を備えています(ダストリダクション機能)。ダストリダクション機能は、カメラの電源を入れたときに働きます。

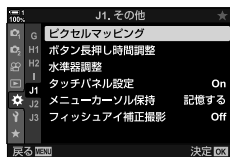
また撮像素子と画像処理回路のチェックを行うピクセルマッピングを働かせる際にも同時に作動します。カメラの電源を入れるときはダストリダクションが働きますので、カメラをできるだけ正位置にしてください。

画像処理機能をチェックする (ピクセルマッピング)

撮像素子と画像処理機能のチェックを同時に行います。最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分以上時間を空けたあとに実行します。

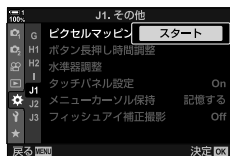
1 **MENU**ボタンを押して、メニューを表示します。

2 **★**カスタムメニュー **11** (その他)を表示し、[ピクセルマッピング]を選択して十字ボタンの**▷**を押します。



3 **OK**ボタンを押します。

- ピクセルマッピング実行中の**[処理中]**バーが表示されます。終了するとメニューに戻ります。



- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

7-2 アフターサービス

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、直ちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書に従ったお取り扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。
- 本製品の製造打ち切り後、7年間は本製品のアフターサービスについて対応いたします。但し、当該アフターサービス対応については、故障の状況、本製品に対応する補修用性能部品の有無、及び保有している場合はその期間（製造打ち切り後7年間を目安に保有いたします）等に応じ、当社の判断で、本製品の修理または同等品への交換（製品交換）のいずれかにて対応させていただきます。
- 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。
- 修理品をご送付の場合は、修理箇所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

7-3 こんなときは？

電池を入れてもカメラが動かない

電池が充電されていない

- 充電器で電池を充電してください。

低温下にあり、一時的に電池の性能が低下した

- 電池は低温では性能が低下します。カメラから電池を取り出してポケットに入れるなどして少し温めてから使用してください。

シャッターボタンを押しても撮影ができない

カメラが自動的に電源オフになっていた

- カメラは何も操作しないと一定時間後にスリープモードと呼ばれる省電力状態に入ります。シャッターボタンを半押しすると復帰します。☞【スリープ時間】(P.562)
さらに、スリープモード中に設定した時間が経過するとカメラの電源が切れます。☞【自動電源Off】(P.562)

フラッシュが充電中である

- モニターの⚡マークが点滅していたらフラッシュが充電中です。点滅が終わるまで待ってからシャッターボタンを押してください。

ボタンやダイヤルの操作ができない

- ロックレバーがロック位置にあると、縦位置撮影用のボタンなど、操作がロックされます(P.503)。

ピント合わせができなかった

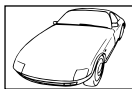
- 被写体に近すぎる場合やオートフォーカスの苦手な被写体の場合は、ピント合わせができません(モニターの合焦マークが点滅します)。被写体との距離を十分にとったり、被写体と同じ距離にあるコントラストのはっきりしたものでピントを合わせてから、構図を決めて撮影してください。

オートフォーカスの苦手な被写体

次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。

合焦マーク点滅

このようなものにはピントが合いません。



コントラストがはっきりしない被写体

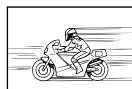


画面中央に極端に明るいものがある場合

合焦マークは点灯するが、写したいものにピントが合わない。



遠いものと近いものが混在する場合




動きの速いもの



被写体がAFターゲット内がない

長秒時ノイズ低減が作動している

- 夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。このカメラは長秒時の撮影後にノイズを取り除く動作をしますが、この間、次の撮影はできません。【長秒時ノイズ低減】は【Off】に設定することもできます。


 【長秒時ノイズ低減】(P.533)

AFターゲットの数が少なくなった

【デジタルテレコン】(P.235, 411)、【アスペクト比設定】(P.233)、グループターゲット(P.120)の設定により、AFターゲットの数や大きさが変わります。

日時設定がされていない

購入時のままで使用している

- お買い上げ時のカメラの状態では日時設定はされていません。日時設定をしてからご使用ください。 「日付・時刻を設定する(日時設定)」(P.455)

カメラから電池を抜いていた

- 電池を抜いた状態で約1日放置すると、日時の設定は初期設定に戻ります(当社試験条件による)。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日時の設定が解除されます。大切なものを撮る前には日時の設定が正しいことを確認してください。

設定した機能が元に戻ってしまう

カスタムモード(C1～C4)を使用しているときに設定を変更しても、撮影モードを変更したりカメラの電源を切ると、登録されている設定内容に戻ります。

撮影した画像が全体的に白っぽい


逆光や半逆光で撮影すると起こる場合があります。フレアやゴーストといわれる現象によるものです。できるだけ画面内に強い光源が写らないように構図を考えましょう。画面内に光源がなくてもフレアは発生する場合があります。レンズフードを使って光源から直接レンズに光があたらないようにします。レンズフードでも効果がない場合は手などをかざして光をさえぎってください。☞「交換レンズについて」(P.42)

被写体がない明るい点が写り込む

撮像素子のドット抜けの可能性があります。【ピクセルマッピング】を行ってください。また、消えないときは何度かピクセルマッピングを行ってみてください。☞「画像処理機能をチェックする(ピクセルマッピング)」(P.633)

メニューで選べない機能がある

メニューを表示したとき、十字ボタンを使っても選べない項目がある場合があります。

- 現在の撮影モードで設定できない項目の場合
- 設定済みの項目との組み合わせにより設定できない場合
【】(P.151)と【長秒時ノイズ低減】(P.533)の組み合わせなど

被写体が歪んで写る

以下の機能では電子シャッターを使用します。



ムービー撮影(P.294) / 静音撮影(P.163) / プロキャプチャー撮影(P.168) /
ハイレゾショット撮影(P.210) / フォーカスブラケット撮影(P.239) /
深度合成(P.243) / ライブND撮影(P.197)

動きの速い被写体の撮影やカメラを激しく動かした撮影をすると画像に歪みが出ます。カメラを激しく動かした撮影は避けるか、通常の連写で撮影してください。

画像にすじが写る









電子シャッターを使った以下の機能では、蛍光灯やLED照明の光源下では、フリッカーなどにより画像にすじが写ることがあります。





ムービー撮影(P.294) / 静音撮影(P.163) / プロキャプチャー撮影(P.168) /
ハイレゾショット撮影(P.210) / フォーカスブラケット撮影(P.239) /
深度合成(P.243) / ライブND撮影(P.197)

シャッター速度を遅くして撮影すると軽減できる場合があります。また、フリッカーキャンを使って撮影すると軽減される場合があります。☞【フリッカーキャン】(P.193)、【フリッカーキャン】(P.374)

7-4 エラーコード

モニター表示	原因	対処方法
 カードを認識できません	カードが入っていません。または認識できません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。
 ①このカードは使用できません	カードスロット1のカードに問題があります。	もう一度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときはカードを初期化してください。初期化できない場合、このカードはご使用になれません。
 ②このカードは使用できません	カードスロット2のカードに問題があります。	
 ①書き込み禁止になっています	カードスロット1のカードが書き込み禁止になっています。	カードの書き込み禁止スイッチが「LOCK」側になっています。スイッチを戻して解除してください(P.37)。
 ②書き込み禁止になっています	カードスロット2のカードが書き込み禁止になっています。	
 ①撮影可能枚数が0です	カードスロット1のカードの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。 大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。 【カードスロット設定】が【振り分け】、【同一書き込み】の場合は、設定を変更してください。
 ②撮影可能枚数が0です	カードスロット2のカードの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	
 ①カード残量がありません	カードスロット1のカードに十分な空き容量がありません。	
 ②カード残量がありません	カードスロット2のカードに十分な空き容量がありません。	

モニター表示	原因	対処方法
 ①画像が記録されていません	カードスロット1のカードに記録画像がないため画像が再生できません。	カードに画像が記録されていません。 撮影してから再生してください。
 ②画像が記録されていません	カードスロット2のカードに記録画像がないため画像が再生できません。	
 ①この画像は再生できません	選択した画像に問題があり、再生できません。または、このカメラでは再生できない画像です。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。 それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。
 ②この画像は再生できません		
 ①この画像は編集できません	他のカメラで撮影した画像などを選択している場合は編集できません。	パソコンの画像ソフトなどで編集してください。
 ②この画像は編集できません		
 現在ログ機能は 使用できません	電池残量が少なくなっています。	電池を交換してください。
 ①ログファイル数が上限です	カードスロット1のカードにログを保存できません。	ログファイルをパソコンに保存して、不要なログファイルを消去してください。
 ②ログファイル数が上限です	カードスロット2のカードにログを保存できません。	
 (点灯)	GPS機能の問題。GPSが故障です。	電源を入れ直してもエラーメッセージが消えない場合は、当社サービスセンターにお問い合わせください。

モニター表示	原因	対処方法
		カメラの電源を切り、内部温度が下がるまでしばらくお待ちください。
 しばらく使用できません カメラの内部温度が下がるま までお待ちください	連写などによりカメラの内部温度が上昇しています。	しばらくすると、自動的に電源が切れます。 カメラの内部温度が下がって撮影可能になるまでしばらくお待ちください。
 電池残量がありません	電池残量がありません。	充電してください。
 接続されていません	カメラがパソコンやHDMI機器に正しく接続されていません。	正しく接続しなおしてください。
ズームリングを回し 繰り出してください	沈胴式レンズの、レンズが沈胴したままになっています。	レンズを繰り出してください。
レンズの状態を確認してください	レンズとの間でエラーが発生しています。	カメラの電源を切り、レンズとの接続状態を確認してから電源を入れなおしてください。

7-5 機能と初期設定一覧

*1: [カスタム登録]が登録可能な機能

*3: [リセット] (標準)で初期設定に戻る機能

*2: [リセット] (フル)で初期設定に戻る機能

LVコントロール / LVスーパーコンパネ

撮影モード	機能	初期設定	*1	*2	*3	🔍	
P/A/S/M/B	📷ISO感度	Auto	✓	✓	✓	181	
	フラッシュ	🔧	✓	✓	✓	254	
	フラッシュ補正	±0	✓	✓	✓	259	
	マニュアル発光量	🔧FULL (フラッシュを [🔧MANUAL]に設定時)	✓	✓	✓	254	
	📷手ぶれ補正	S-IS Auto	✓	✓	✓	176	
	📷ホワイトバランス	Auto ([📷WBオート電球色残し] は[On])	✓	✓	✓	202	
	📷WB補正A	±0	✓	✓	—	206	
	📷WB補正G	±0	✓	✓	—		
	📷色温度	5400K ([📷WBモード]を [CWB]に設定時)	✓	✓	—	202	
	AFターゲット選択	中央/シングル(1点)	✓	✓	✓	123	
	📷AF方式	S-AF	✓	✓	✓	115	
	顔優先	顔・瞳優先On	✓	✓	—	133	
	📷/📷/📷	単写	✓	✓	✓	151	
	測光	📷	✓	✓	✓	186	
	📷記録設定	標準	✓	✓	—	72	
	📷画質モード	①	📷 (ハイレゾショット設定時: 📷F+RAW)	✓	✓	✓	78
			📷 (ハイレゾショット設定時: 📷F+RAW)	✓	✓	✓	
	ピクチャーモード	Natural	✓	✓	✓	215	
	シャープネス	±0	✓	✓	—	220	
	コントラスト	±0	✓	✓	—	221	
	彩度	±0	✓	✓	—	222	
	階調	標準	✓	✓	—	223	
	効果	— ([ピクチャーモード]を[i-Finish] に設定時: 📷Standard)	✓	✓	—	226	
	フィルター効果	— ([ピクチャーモード]を[モノト ーン]に設定時: N:無し)	✓	✓	✓	224	
	調色	— ([ピクチャーモード]を[モノト ーン]に設定時: N:無し)	✓	✓	✓	225	
	アスペクト	4:3	✓	✓	✓	233	
	カラー設定	sRGB	✓	✓	✓	232	

撮影モード	機能	初期設定	*1	*2	*3	🔍
P/A/S/M/B	ハイライト&シャドウ コントロール	☑ (±0)	✓	✓	✓	227
	ムービー録音🎥	On	✓	✓	✓	413
🔍 (ムービー)	🔍ISO感度	[🔍モード]を[P] / [A] / [S] に設定時: Auto (固定) [🔍モード]を[M]に設定時: 200	—	✓	✓	369
	フラッシュ	発光禁止(固定)	—	—	—	—
	フラッシュ補正	±0 (固定)	—	—	—	—
	🔍手ぶれ補正	M-IS📷	✓	✓	✓	376
	🔍ホワイトバランス	Auto ([🔍WBオート電球色残し] は[On])	—	✓	✓	380
	🔍WB補正A	±0	—	✓	—	384
	🔍WB補正G	±0	—	✓	—	384
	🔍色温度	5400K ([🔍WBモード]を [CWB]に設定時)	—	✓	—	380
	AFターゲット選択	中央/グループ(3x3)	✓	✓	✓	352
	🔍AF方式	C-AF	✓	✓	✓	345
	顔優先	顔・瞳優先On	✓	✓	—	360
	測光	☑ (固定)	—	—	—	—
	🔍画質モード	📷	✓	✓	✓	321
	ピクチャーモード	Natural	✓	✓	✓	388
	シャープネス	±0	✓	✓	—	396
	コントラスト	±0	✓	✓	—	397
	彩度	±0	✓	✓	—	398
	階調	標準	✓	✓	—	399
	アスペクト	16:9 (固定) [🔍画質モード]をC4Kに 設定時: 17:9	—	—	—	—
	カラー設定	sRGB (固定)	—	—	—	—
RCモード	ハイライト&シャドウ コントロール	☑ (±0)	✓	✓	✓	403
	🔍モード	P	—	✓	—	332
	ムービー録音🎥	On	✓	✓	✓	413
	🔍A グループA	TTL	✓	✓	✓	262
	🔍B グループB	Off	✓	✓	✓	
	🔍C グループC	Off	✓	✓	✓	
	📷カメラ側フラッシュ	Off	✓	✓	✓	
	発光量補正值	±0 (TTL、Auto時)	✓	✓	✓	
	発光量	1/1 (Manual時)	✓	✓	✓	
	🔍/FP	📷 (通常発光)	✓	✓	✓	
🔍レベル	Low	✓	✓	✓		
チャンネル	1	✓	✓	✓		

撮影メニュー

タブ	機能		初期設定	*1	*2	*3	🔍
📷	リセット/ カスタム設定	リセット	—	—	✓	—	91, 111, 331, 458, 460
		カスタム登録	撮影モード：P 画質モード：RAW+📷F				
		カスタム呼出	—				
	ピクチャーモード		📷 Natural	✓	✓	✓	215, 388
	📷 画質モード		📷 F (📷時：RAW+📷F)	✓	✓	✓	78, 82, 213, 543
	アスペクト比設定		4:3	✓	✓	✓	233
	デジタルテレコン		Off	✓	✓	✓	235, 411
	📷/📷/📷		—	✓	✓	✓	151
	📷/📷		☐	✓	✓	✓	172
	インターバル撮影設定		Off	—	✓	✓	
コマ数		99					
撮影開始待ち時間		00:00:01					
撮影間隔		00:00:01					
タイムラプス動画		Off					
タイムラプス 動画設定		ムービー サイズ フルHD フレーム レート 10fps					
📷	ブラケット撮影		Off	✓	✓	✓	236
	AE BKT		3f 1.0EV				236
	WB BKT	A-B	Off				237
		G-M					
	FL BKT		Off				237
	ISO BKT		Off				238
	ART BKT		Off				238
	Focus BKT		Off	✓	✓	✓	239
	深度合成		Off				243
	撮影枚数		[深度合成]を[Off]に設 定時：99 [深度合成]を[On]に設 定時：8				—
	フォーカスステップ		5				
📶 充電待ち時間		0秒	✓	✓	✓		
HDR撮影		Off	✓	✓	✓	195	

タブ	機能	初期設定	*1	*2	*3	🔍	
📷	多重露出撮影	コマ数	Off	—	✓	✓	246
		自動ゲイン補正	Off	—	✓	✓	
		再生画+多重	Off	—	✓	✓	
	デジタルシフト撮影	Off	✓	✓	✓	248	
低振動[◆]/ 静音[♥]撮影	低振動[◆]撮影	[◆]0秒	✓	✓	—	160, 163	
	静音[♥]撮影	[♥]0秒					
	静音[♥]長秒時ノイズ低減	Off					
	静音[♥]撮影時動作	—					
	電子音	禁止					
	AFイルミネーター	禁止					
フラッシュ	禁止						
ハイレゾ ショット	ハイレゾショット	📺0秒	✓	✓	—	210	
	🔌充電待ち時間	0秒					
	撮影方法	三脚	✓	✓	—		
ライブND		Off	✓	✓	✓	197	
	ND段数	ND8 (3EV)	✓	✓	—		
	LVシミュレーション	On	✓	✓	—		

📷 動画メニュー

タブ	機能	初期設定	*1	*2	*3	🔍		
📷	📷モード設定	📷モード	P	—	✓	—	332	
		📷フリッカーキャン	Off	—	✓	✓	374	
	📷画質設定	📷画質モード	MOV📷4K 30p	✓	✓	✓	321, 339	
		📷MISOオート設定						372
		上限/基準 設定	上限値	6400	✓	✓	✓	
			基準値	200				
		📷MISOオート有効	Off	—	✓	—		
		📷高感度ノイズ低減	標準		✓	✓	✓	379
		📷WBモード	オート		—	✓	✓	380
		📷全WBモード補正	A±0、G±0		—	✓	—	385
	📷WBオート電球色残し	On		—	✓	✓	383	
	📷ピクチャーモード	Off		✓	✓	—	393	
	📷AF/手ぶれ 補正設定	📷AF方式	C-AF	✓	✓	✓	345	
		📷C-AF動作速度	±0	✓	✓	✓	363	
		📷C-AF追従感度	±0	✓	✓	✓	362	
📷手ぶれ補正		M-IS📷	✓	✓	✓	376		
📷手ぶれ補正強度		±0	✓	✓	✓	378		

タブ	機能		初期設定	*1	*2	*3				
	ボタンダイヤル/レバー									
	ボタン機能		ISO	—	✓	—	417			
			REC							
			I/O							
			[Fn]							
			AF-L							
			WB							
			[Fn]							
			Off (W↔T)							
			Off (WB)							
			ピーキング							
			Q							
			Off							
			Off							
			Off							
			Off							
	Off									
	ダイヤル機能	P	レバー 1	: 露出補正	—	✓	—	424		
			レバー 2	: VOL						
		A	レバー 1	: 露出補正	—	✓	—			
			レバー 2	: 絞り : VOL						
		S	レバー 1	: 露出補正	—	✓	—			
			レバー 2	: シャッター速度 : VOL						
		M	レバー 1	: 絞り	—	✓	—			
			レバー 2	: シャッター速度 : ISO感度						
			Fnレバー機能	mode2		—	✓		—	426
				mode2		AF方式 / AFターゲットモード / AFターゲット位置				
	シャッターボタン機能			—	✓	—	423			
	電動ズーム速度		標準	—	✓	—	408			

タブ	機能	初期設定	*1	*2	*3	🔍	
🔍	🔍表示設定						
	🔍Control表示	LVコントロール、 LVスーパーコンパネ	—	✓	—	428	
	🔍Info表示	カスタム表示1	—	✓	—	429	
	タイムコード 設定	タイムコードモード	DF	—	✓	—	324
		カウントアップ方式	レックラン	—	✓	—	
		タイムコード値設定	0:00:00	—	✓	—	
	🔍残量表示	min	—	✓	—	431	
	🔍ビューアシスト	Off	—	✓	—	395	
	ムービー録音	On	✓	✓	✓	413	
	録音レベル 調整	内蔵🔍	±0	—	✓		—
		MIC🔍	±0	—	✓		—
	🔍入力リミッター	On	—	✓	—		—
	風切り音低減	Off	—	✓	—		—
	録音レート	48kHz/16bit	✓	✓	—		—
	🔍プラグインパワー	Off	—	✓	—		—
	PCMレコー ダー 🔍接続	カメラ側録音調整	有効	—	✓		—
		スレートトーン	Off	✓	✓		—
		🔍REC同期	Off	✓	✓		—
	ヘッドホン音量	8	✓	✓	—	—	
	🔍HDMI出力	出力モード設定	モニターモード	—	✓	—	432
RECトリガー		Off	✓	✓	—		
タイムコード		On	✓	✓	—		

▶再生メニュー

タブ	機能	初期設定	*1	*2	*3	🔍
▶	回転再生	On	✓	✓	✓	283
	編集	—	—	—	—	284
	プリント予約	—	—	—	—	291
	全プロテクト解除	—	—	—	—	271, 440
	全シェア予約解除	—	—	—	—	278, 447
	全コマコピー	—	—	—	—	274, 443
	🔍Wi-Fi接続	スマートフォン接続	—	✓	—	586

イセットアップメニュー

タブ	機能	初期設定	*1	*2	*3	ページ
イ	カードセットアップ	—	—	—	—	38, 276, 445, 454
	日時設定	日時	—	—	—	455
		タイムゾーン	—	—	—	—
	GPS自動日時補正	Off	—	—	—	
	 言語	English	—	—	—	455
	モニター調整	♯ ±0、※ ±0、Natural	✓	✓	—	456
	撮影確認	Off	✓	✓	—	90, 456
Wi-Fi/Bluetooth設定	Wi-Fi/Bluetooth	On	—	✓	—	457, 586, 607
	接続パスワード設定	—	—	—	—	
	バックグラウンド通信	Off	—	✓	—	
	Wi-Fi/Bluetooth設定リセット	—	—	—	—	
	Wi-Fi MACアドレス	—	—	—	—	
	バージョン	—	—	—	—	457

✳カスタムメニュー

タブ	機能	初期設定	*1	*2	*3	
✳	AF/MF					
A1	AF方式	S-AF	✓	✓	✓	115
	AF+MF	Off	✓	✓	✓	481
	AEL/AFL モード	S-AF C-AF MF 半押しAF	mode3 mode4 mode3 有効	✓ ✓ ✓ ✓	✓ ✓ ✓ ✓	141
	AFスキャン	mode2	✓	✓	✓	146, 482
	C-AF追従感度	±0	✓	✓	✓	145, 483
	C-AF中央スタート	(オールターゲット)	✓	✓	✓	147, 483
	C-AF中央優先	5点 / 9点 / 25点	✓	✓	✓	148, 484
A2	[:::]Mode表示設定	オール、スモール、シングル、グループ5点 / 9点 / 25点	✓	✓	✓	485
	AFターゲット表示	On1	✓	✓	✓	486
	AFターゲットパッド	Off	✓	✓	✓	486
	[:::]Home登録	AFターゲットモード、AFターゲット位置	—	✓	✓	487
	[:::]選択画面設定	セット1	✓	✓	✓	488
		[:::]Mode変更				
		⊖変更				
		⊕Pos変更				
		⊖Pos変更				
	[:::]ターゲットモード設定	1×1 / 縦横1Step	✓	✓	—	125, 488
	[:::]縦位置/横位置切換	Off	✓	✓	—	489
A3	AFリミッター	Off	✓	✓	✓	143, 490
	距離設定	セット1	✓	✓	✓	
	リリース優先	On	✓	✓	✓	
	AFイルミネーター	On	✓	✓	✓	490
	⊙顔優先		✓	✓	—	133, 360, 491
	追尾被写体設定	Off	✓	✓	—	149, 491
	AF微調節*	Off	✓	✓	✓	492
A4	プリセットMF距離	999.9 m	✓	✓	✓	129, 357, 494
	MFアシスト	拡大 ピーキング	Off Off	✓ ✓	— —	495
	MFクラッチ	有効	✓	✓	✓	128, 356, 496
	フォーカスリング	C	✓	✓	✓	496
	BULB/TIME中MF	On	✓	✓	✓	107, 497
	レンズリセット	On	✓	✓	✓	497

* 記憶されている情報は、【リセット】(フル/標準)でも消去されません。

タブ	機能	初期設定	*1	*2	*3	🔍	
🔧	📷 電動ズーム速度	標準	✓	✓	—	502	
	C-LOCK設定	—	✓	✓	—	503	
レリーズ/連写/手ぶれ補正							
🔧	レリーズ優先S	Off	✓	✓	✓	505	
	レリーズ優先C	On	✓	✓	✓	505	
	📷 L設定					155, 506	
	📷 / 🔍	連写速度	10fps	✓	✓	✓	
		枚数リミッター	Off	✓	✓	✓	
	♥📷	連写速度	18fps	✓	✓	✓	
		枚数リミッター	Off	✓	✓	✓	
	Pro Cap	連写速度	18fps	✓	✓	✓	
		プリ連写枚数	8枚	✓	✓	✓	
		枚数リミッター	25枚	✓	✓	✓	
	📷 H設定					155, 507	
	📷	連写速度	15fps	✓	✓	✓	
		枚数リミッター	Off	✓	✓	✓	
	♥📷	連写速度	60fps	✓	✓	✓	
		枚数リミッター	Off	✓	✓	✓	
	Pro Cap	連写速度	60fps	✓	✓	✓	
		プリ連写枚数	14枚	✓	✓	✓	
枚数リミッター		25枚	✓	✓	✓		
フリッカー 低減	フリッカーレスLV	オート	✓	✓	—	190, 509	
	フリッカーレス 撮影	Off	✓	✓	—		
🔧	📷 手ぶれ補正	S-IS AUTO	✓	✓	✓	176, 510	
	連写中手ぶれ補正	連写速度優先	✓	✓	—	174, 511	
	半押し中手ぶれ補正	On	—	✓	—	178, 511	
	レンズ手ぶれ補正優先	Off	✓	✓	✓	512	
表示/音/接続							
01	📷 Control表示	LVスーパーコンパネ	✓	✓	—	513	
	📷 / Info表示 設定	▶ Info	表示Off、総合表示	✓	✓	✓	515
		▶ Q Info	拡大枠表示、拡大位置ス クロール、拡大コマ送り	—	✓	—	
		LV-Info	表示Off、カスタム表示1、 カスタム表示2	✓	✓	—	
		半押し中の 撮影情報表示	On	✓	✓	—	
		LV OFF-Info	Off	✓	✓	—	
	📷 表示	25、カレンダー表示	✓	✓	—		
ピクチャーモード表示	すべてOn	✓	✓	—	520		
📷 / 📷 表示設定	♥📷、📷H、♥📷H、Pro CapH、 📷L、♥📷L、Pro Cap L、📷s、📷c、 📷	✓	✓	—	520		
マルチFn表示設定	WB、ISO以外すべてOn	✓	✓	—	521		

タブ	機能		初期設定	*1	*2	*3	🔍	
★	D2	LVブースト	M	Off	✓	✓	✓	200, 521
			BULB/TIME	On2、LV表示速度優先				
			COMP	Off				
			その他	Off				
		アートLVモード	mode1	✓	✓	—	522	
		フレームレート	標準	✓	✓	✓	175, 522	
		LV拡大設定	LV拡大モード	mode2	✓	✓	—	139, 523
	LVブースト		Off	✓	✓	—		
	再生拡大倍率設定		前回倍率	—	✓	—	523	
	プレビュー設定	🔒ロック	Off	✓	✓	—	524	
		LVブースト	Off	✓	✓	—		
	D3	ガイド線表示設定	表示色	プリセット1	✓	✓	—	524
			表示罫線選択	Off	✓	✓	—	
			EVF反映	On	✓	✓	—	
		ピーキング表示	ピーキング色	赤	✓	✓	—	525
			ピーキングレベル	標準				
			ピーキング背景の輝度調整	Off				
ヒストグラム		ハイライト表示	255	✓	✓	—	526	
警告設定	シャドウ表示	0						
モードガイド表示		Off	✓	✓	—	526		
自分撮りアシスト		On	✓	✓	—	527		
D4	電子音		On	✓	✓	✓	527	
	HDMI	出力サイズ	1080p優先	—	✓	—	434, 528, 627	
		HDMIコントロール	Off	—	✓	—		
		出力フレームレート	60p優先	—	—	—		
	USB接続モード*		オート	—	✓	✓	529	
露出/ISO/BULB/測光								
E1	露出ステップ		1/3EV	✓	✓	✓	530	
	ISO感度ステップ		1/3EV	✓	✓	✓	530	
	📷ISOオート設定	上限/基準値設定	上限値：6400	✓	✓	✓	183, 531	
			基準値：200					
		低速限界設定	オート	✓	✓	✓		
	📷ISOオート有効		All	✓	✓	—	185, 531	
	📷高感度ノイズ低減		標準	✓	✓	✓	532	
	📷低感度画像処理		連写優先	✓	✓	✓	532	
長秒時ノイズ低減		オート	✓	✓	✓	533		

タブ	機能		初期設定	*1	*2	*3	🔍	
🔧	🔲	BULB/TIMEリミッター		8分	✓	✓	✓	533
		BULB/TIME輝度設定		-7	✓	✓	—	534
		ライブBULB設定		Off	✓	✓	—	534
		ライブTIME設定		0.5秒	✓	✓	—	535
		コンボジット撮影設定		1秒	✓	✓	—	110, 535
		📷フリッカーキャン		Off	✓	✓	✓	536
	🔲	測光		📷	✓	✓	✓	186, 536
		AEL測光モード		オート	✓	✓	✓	537
		[::]連動スポット測光	スポット	On	✓	✓	✓	537
			スポットハイライト	On	✓	✓	✓	
スポットシャドウ			On	✓	✓	✓		
露出基準調整		📷	±0	✓	✓	—	538	
		📷	±0					
	📷	±0						
フラッシュ								
🔲	⚡同調速度		1/250	✓	✓	✓	260, 539	
	⚡低速制限		1/60	✓	✓	✓	261, 539	
	📷+📷連動		Off	✓	✓	✓	540	
	⚡+WB連動		Off	✓	✓	—	540	
	📷RCモード撮影		Off	✓	✓	✓	541	
画質/WB/色								
🔲	画質設定		◀-1 : 📷SF ◀-2 : 📷F ◀-3 : 📷N ◀-4 : 📷N	✓	✓	✓	81, 542	
	ピクセルサイズ	Middle	3200×2400	✓	✓	✓	82, 543	
		Small	1280×960					
	シェーディング補正		Off	✓	✓	✓	543	
	📷WBモード		オート	✓	✓	✓	544	
	📷全WBモード補正		A±0、G±0	✓	✓	—	545	
	📷WBオート 電球色残し		On	✓	✓	✓	205	
カラー設定		sRGB	✓	✓	✓	232		

タブ	機能	初期設定	*1	*2	*3	🔍		
🔧	記録/消去							
	H1 カードスロット設定	📷記録設定	標準	✓	✓	—	547	
		📷記録スロット	①	✓	✓	—		
		📷記録スロット	①	✓	✓	—		
		▶️スロット	①	✓	✓	—		
		記録フォルダ指定	指定しない	✓	✓	—		
	ファイルネーム	リセット	✓	✓	—	548		
	ファイルネーム編集	—	✓	✓	—	548		
	dpi設定	350dpi	✓	✓	—	549		
	著作権情報*	著作権情報記録	Off	✓	✓	—	549	
		撮影者入力	—	—	—	—		
		著作権者入力	—	—	—	—		
	レンズ情報登録*	Off	—	✓	—	550		
	H2	ワンプッシュ消去	Off	✓	✓	✓	551	
		RAW+JPEG消去	RAW+JPEG	✓	✓	✓	551	
		実行優先設定	中止優先	✓	✓	✓	552	
	EVF							
	I	EVF自動切換設定		On	—	✓	—	85, 328, 553
		EVF調整	EVF自動調光	On	✓	✓	—	
			EVF調整	♯±0、※±0				553
EVF表示スタイル		スタイル2	—	✓	—	554		
📄Info表示設定		基本情報表示、カスタム表示1、カスタム表示2	✓	✓	—	555		
EVFガイド線表示設定		表示色	プリセット1	✓	✓	—	556	
		表示罫線選択	Off	✓	✓	—		
📄半押し中水準器表示		On	✓	✓	—	556		
OVFシミュレーション		Off	✓	✓	✓	89, 557		

* 記憶されている情報は、【リセット】（フル/標準）でも消去されません。

タブ	機能	初期設定	*1	*2	*3	🔍		
✳️	その他							
	11	ピクセルマッピング	—	—	—	558, 633		
	ボタン長押し 時間調整	LV拡大枠/拡大表示	0.7秒	✓	✓	—	558	
		LV拡大枠位置	0.7秒	✓	✓	—		
		拡大枠	0.7秒	✓	✓	—		
		露出補正值	0.7秒	✓	✓	—		
		設定値	0.7秒	✓	✓	—		
		設定値	0.7秒	✓	✓	—		
		AFターゲット位置	0.7秒	✓	✓	—		
		EVF自動切換設定	0.7秒	✓	✓	—		
		再生拡大枠/ 拡大表示	0.7秒	✓	✓	—		
		スレートトーン	0.7秒	✓	✓	—		
		デジタルシフト	0.7秒	✓	✓	—		
		デジタルシフト 設定値	0.7秒	✓	✓	—		
		ロック	0.7秒	✓	✓	—		
		BKT撮影	0.7秒	✓	✓	—		
		フリッカーキャン	0.7秒	✓	✓	—		
	水準器調整	—	—	✓	—	559		
	タッチパネル設定	On	—	✓	—	559		
	メニューカーソル保持	記憶する	—	✓	✓	—	560	
	フィッシュアイ補正撮影	Off	—	✓	✓	—	250, 560	
	12	電池設定	使用順序設定	1側優先	✓	✓	—	561
			ステータス表示	—	—	—	—	
		バックライト時間	Hold	✓	✓	✓	561	
		スリープ時間	1分	✓	✓	✓	562	
		自動電源Off	4時間	✓	✓	✓	562	
		低消費電力撮影	Off	✓	✓	—	563	
		バックライト時間	8秒	✓	✓	—		
		スリープ時間	10秒	—	—	—		
	13	GPS位置情報記録	Off	—	✓	—	570	
		GPS動作モード	精度優先	—	✓	—	564, 579	
		標高/温度設定	標高調整	—	—	✓	565, 578	
			m/ft	m	—	—		
			°C/°F	°C	—	—		
		フィールドセンサーログ	—	—	—	—	565, 571	
		認証マーク表示	—	—	—	—	566	

7-6 画質設定と記録枚数／記録時間

静止画撮影枚数

SDカード16GB、アスペクト比設定4:3の場合

画質モード	画像サイズ (ピクセルサイズ)	圧縮率	ファイル 形式	ファイルサイズ (MB)	撮影可能枚数
50p F+RAW	(三脚) 10400×7792	ロスレス圧縮	ORF	(三脚) 約168.3	(三脚) 87
	(手持ち) 8200×6132			(手持ち) 約121.4	(手持ち) 120
	8160×6120	1/4	JPEG		
	5184×3888	ロスレス圧縮	ORI		
25p F+RAW	(三脚) 10400×7792	ロスレス圧縮	ORF	(三脚) 約157.6	(三脚) 94
	(手持ち) 8200×6132			(手持ち) 約110.6	(手持ち) 133
	5760×4320	1/4	JPEG		
	5184×3888	ロスレス圧縮	ORI		
50p F	8160×6120	1/4	JPEG	約21.7	634
25p F	5760×4320	1/4	JPEG	約10.9	1261
RAW	5184×3888	ロスレス圧縮	ORF	約21.7	690
11SF		1/2.7		約13.1	1054
11F		1/4		約8.9	1550
11N		1/8		約4.6	3013
11SF	3200×2400	1/2.7		約5.1	2697
11F		1/4		約3.6	3906
11N		1/8		約1.9	7397
11SF	1920×1440	1/2.7	JPEG	約2.0	6975
11F		1/4		約1.4	9765
11N		1/8		約0.9	16836
8SF	1280×960	1/2.7		約1.0	13562
8F		1/4		約0.8	18083
8N		1/8		約0.5	28721
8SF	1024×768	1/2.7		約0.8	18779
8F		1/4		約0.6	24413
8N		1/8		約0.3	61032

- 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行ってもモニターに表示される枚数が変わらないことがあります。
- 実際のファイルサイズは被写体によって変わります。
- モニターに表示される撮影枚数は9999までです。

ムービー総記録時間

SDHCカード32GBの場合

ムービーサイズ	圧縮方式	フレームレート	最大録画可能時間
C4K	—	24p	約17分
4K	—	30p/25p/24p	約39分
FHD	A-I	30p/25p/24p	約20分
	SF	60p/50p/30p/25p/24p	約1時間15分
	F		約2時間4分
	N		約3時間15分
HD	A-I	60p/50p/30p/25p/24p	約39分
	SF		約2時間22分
	F		約4時間
	N		約5時間13分

- 設定可能な最大フレームレート時。フレームレートの組み合わせや撮影シーンによって、実際に記録されるビットレートは異なります。
- 動画1ファイルは4GBに制限されます。4GBを超えた場合、新しいファイルが作成され記録を続行します。
- 1回の撮影は最長29分に制限されます。

7-7 仕様

■ カメラ

型式	
型式	マイクロフォーサーズ規格準拠レンズ交換式カメラ
使用レンズ	M.ZUIKO DIGITAL・マイクロフォーサーズシステムレンズ
レンズマウント	マイクロフォーサーズマウント
35 mmフィルム カメラ換算焦点距離	レンズ焦点距離の約2倍
撮像素子	
型式	4/3型Live MOSセンサー
総画素数	約2177万画素
カメラ部有効画素数	約2037万画素
画面サイズ	17.4 mm (H) × 13.0 mm (V)
アスペクト比	1.33 (4:3)
ファインダー	
形式	電子ビューファインダー、アイセンサーあり
画素数	約236万ドット
視野率	100%
アイポイント	約21 mm (-1m ⁻¹ 時)
ライブビュー	
センサー	Live MOSセンサー使用
視野率	100%
モニター	
型式	3.0 型TFTカラー液晶、可動式、タッチパネル
総画素数	約104万ドット(アスペクト比 3 : 2)
シャッター	
型式	電子制御式フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度	1/8000 ~ 60秒、バルブ撮影、タイム撮影
フラッシュ同調速度	1/250秒以下
オートフォーカス	
型式	ハイスピードイメージャ AF
測距点	121点
検出輝度範囲	EV -3.5 ~ 20 (F2.8レンズ、ISO100相当)
測距点選択	自動選択・任意選択
露出制御	
測光方式	TTL測光方式(イメージャ測光) デジタルESP測光/中央重点平均測光/スポット測光
測光範囲	EV -2 ~ 20 (f2.8レンズ、ISO100相当)
撮影モード	P : プログラムAE (プログラムシフト可能) / A : 絞り優先AE / S : シャッター優先AE / M : マニュアル / B : バルブ(バルブ、タイム、 コンポジット) / C1 ~ C4 : カスタムモード / MOVIE : ムービー
ISO感度	L64、L100、200 ~ 25600 (1/3、1ステップ)
露出補正	±5.0EV (1/3、1/2、1EVステップ)

ホワイトバランス	
WBモード	オート/プリセット(7種) / カスタムWB / ワンタッチWB (4件登録可)
記録	
記録媒体	SD / SDHC / SDXC UHS-II対応
記録方式	静止画: JPEG (DCF2.0)、RAWデータ ムービー: MOV (MPEG-4 AVC/H.264)
音声	ステレオニアPCM/16bit、サンプリング周波数48kHz ステレオニアPCM/24bit、サンプリング周波数96kHz
対応規格	Exif 2.3、DPOF (静止画)
ドライブ関係	
ドライブモード	1コマ撮影/連写/低振動撮影/静音撮影/プロキャプチャー/ セルフタイマー/ハイレゾショット
連写性能	連写H: 最高15コマ/秒 静音連写H/プロキャプチャー H: 最高60コマ/秒
セルフタイマー	12秒後撮影 / 2秒後撮影 / カスタム
省電力機能	スリープモード移行: 1分、電源OFF: 4時間 (カスタマイズ可)
再生	
表示形式	1コマ表示/拡大表示/インデックス表示/カレンダー表示
無線LAN	
対応規格	IEEE 802.11a/b/g/n/ac
使用周波数範囲 (中心周波数)	2412-2472MHz (1~13ch) 5180-5320MHz (36/40/44/48/52/56/60/64ch) 5500-5700MHz (100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch)
Bluetooth®	
対応規格	Bluetooth Version 4.2 BLE
GPS	
受信周波数	1575.42MHz (GPS / 準天頂衛星システム) 1598.0625MHz ~ 1605.3750MHz (GLONASS)
測地系	WGS84
外部コネクタ	
	USB端子(タイプC) / HDMI端子(タイプD) / 外部フラッシュ端子/ リモートケーブル端子(φ2.5ミニジャック) / マイク端子(φ3.5ステレオミニ ジャック) / ヘッドホン端子(φ3.5ステレオミニジャック) / DC端子
電源	
電池	リチウムイオン電池 2個
外部電源	外部電源ACアダプター (AC-5)対応 USB PD規格準拠
大きさ・質量	
大きさ	144.4 mm (幅) × 146.8 mm (高さ) × 75.4 mm (奥行き) (突起部を除く)
質量	約997 g (付属充電電池2個/メモリーカード2枚含む)
動作環境	
温度	-10°C ~ 40°C (動作時) / -20°C ~ 60°C (保存時)
湿度	30% ~ 90% (動作時) / 10% ~ 90% (保存時)
防滴性能	保護等級1級(IPX1): 弊社の防滴レンズと組み合わせたときに防滴性能を発揮します。

■ リチウムイオン電池

MODEL NO.	BLH-1
形式	充電式リチウムイオン電池
公称電圧	DC7.4 V
公称容量	1720 mAh
充放電回数	約500回(使用する条件により異なります。)
使用周囲温度	0°C ~ 40°C (充電)
大きさ	約45 mm (幅) × 20 mm (高さ) × 53 mm (奥行き)
質量	約74 g

■ リチウムイオン充電器

MODEL NO.	BCH-1
定格入力	AC100 V ~ 240 V (50/60 Hz)
定格出力	DC8.4 V、1100 mA
充電時間	約2時間(常温)
使用周囲温度	0°C ~ 40°C (動作時) / -20°C ~ 60°C (保存時)
大きさ	約71 mm (幅) × 29 mm (高さ) × 96 mm (奥行き)
質量 (電源コード含まず)	約85 g

- 付属の電源コードは本機専用のケーブルですので他の機器に使用しないでください。また、他の機器のケーブルをこのカメラに使用しないでください。

- 外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 最新の仕様は、当社ホームページをご覧ください。

HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または、登録商標です。

HDMI™
HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

7-8 システムチャート

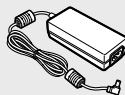
電源



BLH-1
リチウムイオン電池



BCH-1
リチウムイオン充電器



AC-5
ACアダプター

接続ケーブル

USBケーブル/
HDMIケーブル*1

リモコン/レリーズ

RM-CB2
リモートケーブル



ケース/ストラップ

ショルダーストラップ/
カメラケース

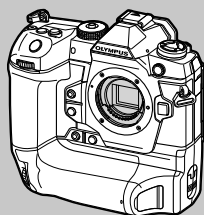
メモリーカード

SD/SDHC/
SDXC

ヘッドホン

マイク

E-M1X



ソフトウェア

OLYMPUS Capture
カメラコントロールソフトウェア

Olympus Workspace
画像管理・編集ソフトウェア

□ : E-M1X対応製品

■ : 市販製品

最新情報は当社ホームページをご確認ください。

*1 HDMIケーブルは市販製品をお求めください。

*2 アダプターと組み合わせて使用できるレンズには制限があります。詳しくは当社ホームページをご覧ください。

*3 取り付け可能なレンズについては、当社ホームページをご覧ください。

レンズ



マイクロフォーサーズシステムレンズ群



MMF-2/MMF-3*2
フォーサーズアダプター



フォーサーズシステム
レンズ群

コンバーター
レンズ*3

FCON-P01
フィッシュアイ

WCON-P01
ワイド

MCON-P01
マクロ

MCON-P02
マクロ

フラッシュ



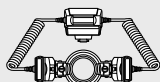
FL-LM3
エレクトロニックフラッシュ



FL-900R
エレクトロニックフラッシュ



FL-700WR
エレクトロニックフラッシュ



STF-8
マクロフラッシュ



FC-WR
電波式ワイヤレスコマンドー



FR-WR
電波式ワイヤレスレシーバー

8 安全にお使いいただく ために

人体への影響など重要な注意事項です。必ずお読みください。

8-1 安全にお使いいただくために

ご使用の前に、この内容をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 危険	「死亡や重傷を負うおそれ大きい内容」です。
⚠ 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠ 注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

⚠ 危険

電池は誤った使い方をしない

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによる火災ややけど、けがの原因となります。

- 火の中に投下したり、電子レンジやホットプレート、高圧容器で加熱しない
- 電磁調理器の上や傍らに置かない
- 端子を金属類で接続しない
- 電池とネックレスやヘアピン、鍵等の金属と一緒に持ち運んだり、保管しない
- 高温になる場所で使用・放置しない
直射日光のあたる場所、炎天下の車内、ストーブのそばなど
- 直接ハンダ付けしたり、変形・改造・分解をしない
端子部安全弁の破壊や、内容物の飛散が生じ危険です。
- コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み口等に直接接続しない
- 電池の液が目に入った場合は、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い流した後、直ちに医師の診断を受けてください。失明の恐れがあります。
- カメラから電池が取り出せなくなった場合、無理に取り出さず、お買い上げの販売店、当社修理センター、または当社サービスステーションにご相談ください。電池の外装にキズなどのダメージを加えますと、発熱・破裂のおそれがあります。

充電器は誤った使い方をしない

火災・破裂・発火・発煙・発熱・感電・やけど・故障の原因となります。

充電器が、熱い、異臭や異常音がする、煙がでているなど異常を感じたら、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて使用を中止し、お買い上げの販売店、当社修理センター、当社カスタマーサポートセンター、または当社サービスステーションにご連絡ください。

- 充電器を濡らしたり、濡れた状態または濡れた手で触ったり持ったりしない
- 充電器を布などで覆った状態で使用しない
- 充電器を分解・改造しない
- 充電器は指定の電源電圧で使用する

⚠ 警告

製品の取扱いについて

- 可燃性ガス、爆発性ガス等が大気中に存在するおそれのある場所では使用しない
引火・爆発の原因となります。
- ほこりや湿気、油煙、湯気が多い場所で長時間使用したり、保管しない
火災・感電の原因となります。
- ファインダーでの撮影時は、定期的に休憩をとる

目の疲労や気分が悪くなったり、乗り物酔いに似た症状が出る場合があります。必要な休憩の長さや頻度は個人によって異なりますので、ご自身でご判断ください。疲労感、不快感などの異常を感じたときには、回復するまでファインダーの使用を控え、必要に応じて医師にご相談ください。

- フラッシュやLED（AFイルミネーター含む）を人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光させない
- カメラで日光や強い光を見ない
視力障害をきたすおそれがあります。
- 幼児や子供の手の届く場所に放置しない
以下のような事故が発生するおそれがあります。
 - 誤ってストラップを首に巻きつけ、窒息を起こす。
 - 電池などの小さな付属品を飲み込む。
万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。
 - 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
 - カメラの動作部でけがをする。
- フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない
- 連続発光後、発光部分に手を触れない
やけどのおそれがあります。
- 分解や改造をしない
感電・けがをするおそれがあります。
- 内部に水や異物を入れない
火災・感電の原因となります。
万一水に落としたり、内部に水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り電池を抜き、お買い上げの販売店、当社修理センター、または当社サービスステーションにご相談ください。
- 本機の温度の高い部分に長時間触れない
低温やけどのおそれがあります。このような条件での使用が予想される場合は、あらかじめ三脚や手袋などを用意してください。
- 専用の当社製リチウムイオン電池、充電器以外は使用しない
発熱、変形などにより、火災・感電の原因となります。またカメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。専用品以外の使用により生じた傷害は補償しかねますので、ご了承ください。
- 通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない
充電中の充電器や電池は、温度が高くなります。長時間皮膚が触れていると、低温やけどのおそれがあります。

電池の取扱いについて

- 水や海水などの液体で濡らさない
- 濡れた手で触ったり持ったりしない
発熱・破裂・発火・感電・故障の原因となります。
- 所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を中止する
火災・破裂・発火・発熱の原因となります。
- 外装にキズや破損のある電池は使用しない、またキズを付けない
破裂・発熱・発火の原因となります。
- 膨れた電池を無理に機器に取り付けない
発熱、破裂、発火の原因となります。
- 落下や打撃により電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしない
破裂・発熱・発火の原因となります。
- 充電器や機器に接続時、無理に接続しない
プラス・マイナスを逆に接続すると、電池が逆に充電され内部で異常な反応が起こり、漏液、発熱、破裂、発火の原因となります。
- 電子レンジや高圧容器などに入れない
急に加熱されたり、密封状態が壊れたりして、発熱、破裂、発火の原因になります。
- 電磁調理器の上や傍らに置かない
誤って加熱され、発熱、破裂、発火の原因となります。
- 充電中や放電中に可燃物を上に載せたり、覆ったりしない
発熱、破裂、発火させるおそれがあります。
- カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしない
- 液漏れや異臭、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、すぐに火気から遠ざける火災・感電の原因となります。
お買い上げの販売店、当社修理センター、当社カスタマーサポートセンター、または当社サービスステーションにご連絡ください。
- 電池の液が皮膚・衣類へ付着すると、皮膚に傷害を起こすおそれがあるので、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。

充電器の取扱いについて

- コンセントからの抜き差しは、必ず電源プラグを持つ
電源プラグを持たないと、火災・感電の原因となることがあります。

無線LAN / Bluetooth®機能について

- 心臓ペースメーカーを装着している方から15cm以上離す
本機からの電波がペースメーカーの作動に影響を与える場合があります。
- 病院内や医療用電気機器のある場所では電源を切る
本機からの電波が医療用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。必ず無線LAN / Bluetooth®機能もオフにしてください(P.617)。
- 航空機内では電源を切る
運行の安全や支障をきたすおそれがあります。必ず無線LAN / Bluetooth®機能もオフにしてください(P.617)。
- 付近のレーダーシステムの動作に影響を与えないように使用する

⚠ 注意

製品の取扱いについて

- 異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常を感じたときは使用を中止する
火災・やけどの原因となることがあります。
やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、お買い上げの販売店、当社修理センター、当社カスタマーサービスセンター、または当社サービスステーションにご連絡ください。
(電池を取り外す際は、素手で電池を触らないでください。また可燃物のそばを避け屋外で行ってください。)
- 濡れた手でカメラを操作しない
故障・感電の原因となることがあります。
- カメラをストラップで提げて持ち運んでいるときは、他のものに引っかからないように注意する
けがや事故の原因となることがあります。
- 高温になるところに放置しない
部品の劣化・火災の原因となることがあります。

電池の取扱いについて

- 乳幼児や動物・ペットには、電池の取り扱い、運搬をさせない(舐める、口に入れる、噛む等の危険防止)
- 電池を使ってカメラを長時間連続使用したあとは、すぐに電池を取り出さない
やけどの原因となることがあります。
- 長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておく
液漏れ・発熱により、火災・けが・故障の原因となることがあります。
- 長期間保管する場合は、涼しいところに保管してください。
- 電池は、当社製リチウムイオン電池2個を使用します。指定の電池をお使いください。指定以外の電池を使用した場合、爆発(または破裂)の危険があります。
- 当社製リチウムイオン充電電池は、当社デジタルカメラ専用です。他の機器に使用しないでください。

充電器の取扱いについて

- 付属の電池は専用の充電器以外は使用しないでください。また、付属の充電器は専用の電池以外に使用しないでください。

電源コードの取扱いについて

- 付属の電源コードは、本製品専用のコードです。他の機器に使用しないでください。また、他の機器のコードを本製品に使用しないでください。

交換レンズの取り扱いについて

- レンズまたは光学ビューファインダー(外付け)で直接太陽や強い光を見ない
失明や視力障害を起こすことがあります。
- 使用しないときはレンズキャップを付けて保管する
太陽光が入射して、火災の原因になることがあります。

8-2 使用上のご注意

- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で長時間使用したり放置すると、動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
 - 直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど、高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
 - 砂、ほこり、ちりの多い場所
 - 火気のある場所
 - 水に濡れやすい場所
 - 激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつかけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けたまま撮影または放置しないでください。撮像素子の退色・焼きつきを起すことがあります。
- ファインダーを直射日光や強い光源に向けて放置しないでください。焼きつきを起すことがあります。
- カメラをご使用に際は、必ず電池/カードカバーを閉じロックをしてください。
- 寒い戸外から暖かい室内に入るなど急に温度が変わったときは、カメラ内部で結露が発生する場合があります。

ビニール袋などに入れてから室内に持ち込み、カメラを室内の温度になじませてからご使用ください。
- カメラを長期間使用しないと、カビがはえるなど故障の原因となることがあります。

使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- テレビ、電子レンジ、ゲーム機、スピーカー、大型モーター、電波塔や高圧線の近くでカメラを使用すると磁気や電磁波、電波、高電圧の影響で、カメラが誤動作する場合があります。カメラが正常に動作しない場合は、電源を切ってから、電池を抜き差しして再度電源を入れてください。
- カメラのそばにクレジットカードや磁気定期券、フロッピーディスクなどの磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。
- SD/SDHC/SDXCカード以外は、絶対にカメラに入れないでください。

その他のカードを誤って入れた場合は、無理に取り出さず、お買い上げの販売店、当社修理センター、または当社サービスデスクにご相談ください。
- 大切なデータは万一の場合に備え、パソコン等の他の記録媒体に定期的にバックアップしてください。
- 本製品によるデータの破損につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承願います。
- 三脚を着脱する際は、カメラを回さず三脚のネジを回してください。
- カメラを持ち運ぶ際は、当社純正アクセサリー以外(三脚など)は取り外してください。
- 本体の電気接点部には手を触れないでください。
- 水につけたり水をかけたりしないでください。
- 落下したり強い力を加えないでください。
- 各カバーの開け閉めや電池の交換時は、本機の水分を十分拭き取ってから行ってください。
- レンズの可動部で保持しないでください。
- レンズ面に直接触れないでください。
- 電気回路接点部に直接触れないでください。
- 急激な温度変化をかけないでください。
- カメラの消費電力は、使用条件などにより大きく異なります。

以下の条件では撮影をしなくても電力を多く消費するため、電池の消費が早くなります。

 - ズーム動作を繰り返す。
 - 撮影モードでシャッターボタンを半押しして、オートフォーカス動作を繰り返す。
 - 長時間、モニターで画像を表示する。
- 消耗した電池をお使いのときは、電池残量警告が表示されずにカメラの電源が切れることがあります。
- 電池の端子は、常にきれいにしておいてください。汗や油で汚れていると、接触不良を起す原因となります。

充電や使用する前に、乾いた布でよく拭いてください。

- 充電式電池をはじめでご使用になる場合、また長時間使用していなかった場合は、ご使用の前に必ず充電してください。
- 一般に電池は低温になるに従って一時的に性能が低下することがあります。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなど保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると性能が回復します。
- 海外では地域によって電池の入手が困難な場合があります。長期間の旅行などには、予備の電池を用意されることをおすすめします。
- 使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には、端子をテープなどで絶縁してから最寄の充電式電池リサイクル協力店をお持ちください。

- 詳しくは一般社団法人JBRC ホームページ(<http://www.jbrc.com>)をご覧ください。



Li-ion

- モニターは強く押さないでください。画面上ににじみが残ったり、画像が正しく再生されなくなったり、モニターが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れしないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、直ちにせっけんで洗い流してください。

- モニターの画面上下に光が帯状に見えることがあります。故障ではありません。
- 被写体が斜めるとき、モニターにギザギザが見えることがありますが、故障ではありません。

記録される画像には影響ありません。

- 一般に低温になるに従ってモニターは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したモニターは、常温に戻ると回復します。
- 本製品のモニターは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、モニターの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。

8-3 その他のご注意

- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報については当社カスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複製することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止します。

また、無断転載は固くお断りします。

- 本製品の不適当な使用による万一の損害、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなどお気づきの点がございましたら当社カスタマーサポートセンターまでご連絡ください。

機器認定について

本製品には、電波法に基づく認証を受けた無線設備が内蔵されています。認証ラベルは無線設備に添付されています。次の事項を行った場合、法律で罰せられることがあります。

- 本製品を分解、または改造すること
- 本製品の証明ラベルをはがすこと

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業、科学、医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)及び特定省電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くでこれらの無線局が運営されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに場所を変更するか、または電波の使用を停止してください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定省電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことがおきたときは、カスタマーサポートセンターへお問い合わせください。

無線LAN機能

本機は、2.4GHz周波数帯を使用するDSSS/OFDM変調方式を採用しており、与干渉距離は、40 m以下です。

2.4DS/OF4

IEEE802.11b/g/n

IEEE802.11a/n/ac

W52 W53 W56

Bluetooth®機能

本機は、2.4GHz周波数帯を使用するその他変調方式を採用しており、与干渉距離は、10 m以下です。

2.4 XX 1

無線LAN/Bluetooth®/GPS機能の使用について

本製品を購入した地域以外での無線LAN/Bluetooth®/GPS機能の使用については、その国の電波管理規則に違反する場合がありますので、当社では一切の責任は負えません。

電波法令により、W52、W53の帯域を利用した無線LAN機能の屋外使用は禁止されています。W52、W53を利用した無線LAN機能は屋内でのみご使用ください。

GPS機能、電子コンパスについて

- 上空が開けていない場所(室内、地下、水中、森や高層ビルの近く)、および強い磁気や電波の影響のあるところ(高圧電線の近く、磁石や電化製品、1.5GHz携帯電話の近く)では、測位できなかつたり、誤差が生じることがあります。
- 測位情報画面や静止画再生画面などで表示される標高は、カメラ本体に内蔵されている圧力センサーからの情報を元に表示・記録されています。GPSの測位情報に基づいた表示ではありませんのでご注意ください。
- 強い磁気や電波の影響(テレビ、電子レンジ、大型モーター、電波塔や高圧線の近くなど)があると電子コンパスが誤動作する場合があります。カメラをしっかりと持って、手首を返しながら8の字に振ると電子コンパス機能を復帰させることができます。
- GPS機能および電子コンパス機能は、精度を求める機能ではないため、いかなる場合においても測定した値(緯度経度、方角など)に対して保証しません。
- GPS機能及びWi-Fi機能搭載機種については、国や地域によっては定められた法律があり、修理サービスを提供できない場合がありますので、事前にその国や地域のサービスステーションにお問い合わせ下さい。
- 国や地域により、位置情報を政府への申請無しに取得することは違法になる場合があります。そのため、あらかじめ、当社販売エリアにより位置情報を表示できないよう設定している場合があります。また国外に持ち出す際には、持ち出す国や地域によって定められた法律があります。必ずそれに従ってください。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスB機器です。この装置は、住宅環境で使用することを目的としています。この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。本装置は、VCCI協会の運用規程に基づく技術基準に適合した文言、又はマークを画面に電子的に表示しています。表示の操作方法は、取扱説明書の「B 各種認証マークを表示する(認証マーク表示)」(P.566)に記載しております。

VCCI-B

接続ケーブル、ACアダプター（ACアダプター対応機種のみ）は、必ず、当製品指定のものをお使いください。

指定品以外では、VCCI協会の技術基準を超えることが考えられます。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。

MacintoshおよびAppleは米国アップル社の商標または登録商標です。

SDXCロゴは、SD-3C,LLCの商標です。

ApicalロゴはApical Limitedの登録商標です。



Micro Four Thirds / Four ThirdsおよびMicro Four Thirds / Four Thirdsロゴマークはオリンパス(株)の日本・米国・EU・その他の各国の商標または登録商標です。

Wi-Fiは、Wi-Fi Allianceの登録商標です。

Wi-Fi CERTIFIEDロゴは、Wi-Fi Allianceの認証マークです。



Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、オリンパス株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会(JEITA)で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NONCOMMERCIAL USE OF A CONSUMER TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://www.mpegla.com)

このカメラの内部のソフトウェアは第三者作成のソフトウェアを含んでいます。第三者作成のソフトウェアは、その所有者または著作権者により所定の条件が課せられており、その条件に基づいてあなたに配布されています。この条件の中であなたに告知するものがある場合には、以下のURLのウェブサイトに必要に応じて準備されたsoftware notice PDFファイル内に見出すことができます。

<http://www.olympus.co.jp/en/support/imgsdigicamera/download/notice/notice.cfm>

9 索引

アイコン

📷📷コントロール (カメラコントロール).....	603, 622
📷RCモード撮影.....	262, 541
📷+WB連動.....	540
📷低速制限.....	261, 539
📷同調速度.....	260, 539
📷📷残量表示.....	431
🔍(クローズアップ再生).....	267
🗑️(1コマ消去).....	275, 444
📷/Info表示設定.....	515
📷(インデックス再生).....	268, 300, 438
📷(シェア予約).....	277, 446
📷(顔優先AF).....	133, 360, 491
📷H設定.....	151, 155, 507
📷L設定.....	151, 155, 506
📷📷表示設定.....	520
📷[::]Mode表示設定.....	485
📷[::]縦位置/横位置切換.....	489
📷ピクチャーモード.....	393
📷モード(ムービー露出モード).....	332
[::]Home登録.....	487
[::]選択画面設定.....	488
[::]連動スポット測光.....	537
▶️スロット.....	547
📷中央ボタン機能.....	499
[::]ターゲットモード設定.....	125, 488
📷方向キー機能.....	499
✓(画像選択).....	279, 448
📷Info表示設定.....	555
📷半押し中水準器表示.....	556
🗣️(言語切り換え).....	455
📷+📷連動.....	540

英数

ACアダプター.....	35
AdobeRGB.....	232, 546
AEL/AFLモード.....	141, 482
AEL測光モード.....	537
AEロック.....	188, 373
AF+MF.....	115, 117, 481
AFイルミネーター (AF補助光).....	490
AF (オートフォーカス).....	115, 345

AFスキャン.....	146, 482
AFターゲット位置.....	123, 352
AFターゲットパッド.....	486
AFターゲット表示.....	486
AFターゲットモード.....	120, 349
AF微調節.....	492
AF方式	
静止画.....	115, 480
ムービー.....	345
AFリミッター.....	143, 490
ART (アートフィルター).....	215, 388
A (絞り優先AE撮影).....	96, 335
BKT (ブラケット撮影).....	236
Bluetooth ®.....	582, 584
BULB/TIME輝度設定.....	534
BULB/TIME中MF.....	107, 497
BULB/TIMEリミッター.....	533
B (長秒時撮影).....	104
C-AF.....	115, 346
C-AF MF	115, 346
C-AF+TR.....	116, 346
C-AF+TR MF	116, 346
C-AF中央スタート.....	147, 483
C-AF中央優先.....	148, 484
C-AF追従感度	
静止画.....	145, 483
ムービー.....	362
C-AF動作速度.....	363
C-LOCK設定.....	503
Control表示	
静止画.....	513
ムービー.....	428
dpi設定.....	549
DPOF.....	291
EVFガイド線表示設定.....	556
EVF自動切換設定.....	85, 328, 553
EVF調整.....	553
EVF表示スタイル.....	554
Exif情報.....	549, 550
Fnレバー機能	
静止画.....	475, 501
ムービー.....	426
Fnレバー/電源レバー.....	501

GPS位置情報記録	564, 570	OI.Track (OLYMPUS Image Track)	569, 571, 597
GPS動作モード	564, 579	OLYMPUS A-GPS Utility	569
HDMI	434, 528, 626	OLYMPUS Capture	582, 601, 614, 620
HDMIコントロール	630	Olympus Workspace	620
HDMI出力	432	OVFシミュレーション	89, 557
HDR撮影	195	PreMF	116, 346
Home登録([i:]Home登録)	487	Ps (プログラムシフト)	95
ICレコーダー	415	P (プログラムAE撮影)	94, 334
INFO	84, 265, 327	RAW	78, 284
Info表示設定		RAW+JPEG消去	551
 Info表示設定	515, 574	RAW編集	284
 Info表示	429	RCモード( RCモード撮影)	262, 541
 Info表示設定	555	S-AF	115, 345
ISOオート設定		S-AF MF	115, 345
静止画	183, 531	SDカード	36
ムービー	372	フォーマット(初期化)	38
ISOオート有効		sRGB	232, 546
静止画	185, 531	S (シャッター優先AE撮影)	98, 336
ムービー	372	USB PD	625
ISO感度		USB接続	34, 620
静止画	181	USB接続モード	529
ムービー	369	WBオート 電球色残し	
ISO感度ステップ	530	静止画	205, 545
JPEG編集	287	ムービー	383
LIVE BULB	104	WB (ホワイトバランス)	202, 544
LIVE TIME	104	WBモード	
LOG撮影	393	静止画	202, 544
LV-Info	515	ムービー	380
LV拡大設定	139, 523	Wi-Fi/Bluetooth設定	457, 586
LV拡大モード	139	Wi-Fi接続	582, 584, 605
LVコントロール	68, 312, 641		
LVスーパーコンパネ	62, 309, 641	あ	
LVブースト	139, 200, 521	アートLVモード	522
MFアシスト	495	アートフィルター	215, 388
MF切換	419, 465	アクセサリ	660
MFクラッチ		アスペクト比設定	233
	41, 127, 128, 355, 356, 496	圧縮率	322
MF (マニュアルフォーカス)		位置情報	570
	115, 116, 346	印刷	291
M (マニュアル撮影)	101, 337	インターバル撮影	172
OI.Share (OLYMPUS Image Share)		インターバル撮影設定	172
	582, 586		

インデックス再生	56, 268, 300, 438
オートフォーカス(AF)	115
音声録音	
静止画	281
ムービー	413, 415
音量調整	58

か

カード	36
カードスロット設定	547
カードセットアップ	38, 276, 445, 454
階調	223, 399
回転	269
回転再生	283
ガイド線表示設定	524
顔優先AF	133, 360, 491
拡大枠AF	136, 364
画質設定	81, 542
画質モード	
静止画	78
ムービー	321
カスタムセルフタイマー	151, 157
カスタム登録	111, 458
カスタムピクチャーモード	219, 392
カスタムメニュー	480, 648
カスタムモード	111
カスタムモード(C1/C2/C3/C4)	460
カスタム呼出	112
画像合成	289
画像サイズ	78, 81, 82, 542, 543, 655
画像転送	592, 614
画像編集	284
カメラコントロール	603, 622
画面表示	
静止画	86, 266
ムービー	329, 437
カラークリエイター	229, 405
カラーグレーティング	393
カラー設定	232, 546
カレンダー再生	56, 268, 300, 438
記録スロット	
静止画	74
ムービー	316

記録設定	72
記録フォルダ指定	76, 319
クイック撮影	342
クラスター表示	486
クローズアップ再生	267
ケーブルクリップ	24
ケーブルプロテクター	24, 29
言語切り換え(☺)	47, 455
言語設定(☺)	47, 455
効果	226, 402
高感度ノイズ低減	
静止画	532
ムービー	379
交換レンズ	42
合焦音	527
コピー	
1コマコピー	272, 441
全コマコピー	274, 443
コンテンツアスAF	115, 346
コントラスト	221, 397
コンボジット撮影設定	110, 535

さ

再生	
静止画	56, 265
ムービー	300, 436
再生拡大倍率設定	523
再生スロット	57, 547
再生メニュー	646
彩度	222, 398
撮影モード	93
撮影	
静止画	52
ムービー	295
撮影確認	90, 456
撮影可能枚数	655
撮影メニュー	643
シェア予約	277, 446
シェーディング補正	543
実行優先設定	552
自動電源Off	562
自分撮りアシスト	527
絞り優先撮影(A絞り優先AE撮影) ..	96, 335

シャープネス.....	220, 396	ダイレクトボタン	60, 305
シャッターボタン機能.....	423	多重露出撮影.....	246
シャッター優先撮影		タッチAF	54
(Sシャッター優先AE撮影).....	98, 336	タッチシャッター	54
充電.....	31	タッチパネル.....	54, 58, 298, 303
消去		タッチパネル設定	559
1コマ消去.....	275, 444	縦横比設定(アスペクト比設定).....	233
全コマ消去.....	276, 445	試し撮り撮影.....	465
選択コマ消去	279, 448	単写	151
初期化.....	38	長時間露光(B長秒時撮影).....	104
シングルAF	115, 345	調色	225, 401
深度合成.....	243	長秒時ノイズ低減.....	166, 533
水準器.....	84, 327	著作権情報.....	549
水準器調整.....	559	追尾AF.....	116, 346
スーパーコンパネ	62, 641	追尾被写体設定	149, 491
スーパースポットAF(拡大枠AF).....	136	低感度画像処理	532
ストレージ.....	624	低消費電力撮影.....	563
スリープ時間.....	562	低振動[◆]撮影.....	151, 160
スロー撮影.....	342	低速制限	261, 539
静音[♥]撮影.....	151, 163	デジタルシフト撮影.....	248
静音[♥]撮影時動作	167	デジタルテレコン	235, 411
静音[♥]長秒時ノイズ低減.....	166	手ぶれ補正	
静音操作.....	306	静止画.....	176, 510
静止画切り出し	451	ムービー.....	376
セットアップメニュー	454, 647	手ぶれ補正強度	378
セルフタイマー	151	テレビ	626
全WBモード補正		電子音	527
静止画.....	545	電池残量.....	431
ムービー.....	385	電池設定.....	561
全シエア予約解除	278, 447	電動ズーム.....	306, 419, 467
選択画面設定([L::]選択画面設定).....	488	電動ズーム速度	
全プロテクト解除	271, 440	静止画.....	502
専用フラッシュ	252	ムービー.....	408
測光.....	186, 536	動画メニュー.....	644
		同調速度.....	260, 539
		トリミング.....	450
た			
タイムコード設定	324	な	
タイム撮影.....	104	日時設定.....	48, 455
タイムラプス動画	172	認証マーク表示	566
ダイヤル機能			
静止画.....	473, 500	は	
ムービー.....	424	バージョン.....	457
ダイヤル方向.....	500		

パートカラー	231
ハイスピードムービー	339
ハイライト&シャドウコントロール	
.....	84, 227, 403
ハイレゾショット	151, 210
パソコン	600
バックグラウンド通信	590
バックライト時間	561
バッテリーカートリッジ	24, 31
バルブ撮影	104
半押し中水準器表示(ファインダー)	556
半押し中手ぶれ補正	178, 511
ピーキング	420, 466
ピーキング表示	525
ピクセルサイズ	82, 543, 655
ピクセルマッピング	558, 633
ピクチャーモード	215, 388
ピクチャーモード表示	520
ヒストグラム警告設定	526
ヒストグラム表示	84, 327
ビットレート	322
瞳優先AF	133, 491
ビューアシスト	395
標高/温度設定	565, 578
ファイル形式	655
ファイルサイズ	655
ファイルネーム	548
ファイルネーム編集	548
フィールドセンサー	567
フィールドセンサーログ	565, 571
フィッシュアイ補正撮影	250, 560
フィルター効果	224, 400
フォーカスモード(AF方式)	115, 345
フォーカスリング	496
フォーマット	38
ブラケット撮影	236
フラッシュ	254
フラッシュ低速制限	261, 539
フラッシュ同調速度	260, 539
フラッシュ補正	259
プリセットMF	116, 129, 346, 357
プリセットMF距離	494

フリッカースキャン	
静止画	193, 536
ムービー	374
フリッカー低減	190, 509
フリッカーレスLV	190
フリッカーレス撮影	191
プリント	291
プリント予約	291
フレームレート	175, 322, 522
プレビュー	464
プレビュー設定	524
プロキャプチャー撮影	151, 168
プログラム撮影(PプログラムAE撮影)	
.....	94, 334
プログラムシフト	95
プロテクト(保護)	270, 439
編集	284, 450
補助光(AFイルミネーター)	490
ボタン機能	
静止画	463, 498
ムービー	417
ボタン長押し時間調整	558
ホワイトバランス	
静止画	202, 544
ムービー	380
ホワイトバランス補正	
静止画	206
ムービー	384

ま

マイメニュー	477
マニュアル撮影(Mマニュアル撮影)	
.....	101, 337
マニュアルフォーカス(MF)	
.....	115, 116, 346
マニュアルフォーカスクラッチ	
(MFクラッチ)	41, 127, 355
マルチFn	470
マルチFn表示設定	521
マルチセレクター	22, 56, 300
マルチファンクション	470
ムービー再生	436
ムービー撮影	294

ムービーテレコン	409
ムービーモード	294
ムービー録音	413, 415
無線LAN	582
メニュー	66, 314
メニューカーソル保持	560
モードガイド表示	526
モニター調整	456

や

ユーザー登録	25
--------------	----

ら




ライトボックス表示	518
ライブBULB/TIME設定	104
ライブBULB設定	534
ライブND撮影	197
ライブTIME設定	535
ライブコントロール(LVコントロール)	68, 312, 641
ライブコンボジット撮影	108
リセット	91, 331
リモート撮影	55, 297, 596
レリーズ優先C	505
レリーズ優先S	505
連写	151, 506, 507
連写中手ぶれ補正	174, 511
レンズ情報登録	550
レンズ手ぶれ補正優先	512
レンズリセット	497
連動スポット測光	537
録音	
静止画	281
ムービー	413, 415
録画可能時間	656
露出基準調整	538
露出ステップ	530
露出補正	180, 367

わ

ワイヤレスRCフラッシュ	262
ワンタッチWB	207, 386
ワンプッシュ消去	551

10 ファームアップによる 追加・変更

カメラのファームウェアのアップデートにより、以下の機能が追加・変更されます。

ファームウェア Ver1.2の追加・変更機能	
EVF自動切換設定	681
初期設定	681
ファームウェア Ver2.0の追加・変更機能	
 追尾被写体設定	682
動画RAWデータ出力	682
マニュアルフォーカス時のフォーカス距離指標表示	684
SET機能/CALL機能を搭載しているレンズ装着時のモニター表示	684
初期設定	685

10-1 ファームウェア Ver1.2の追加・変更機能

EVF自動切換設定

カスタムメニュー（MENU → ✨ → **■** → [EVF自動切換設定]）で[On1]、[On2]が選択可能になりました。

Off	ファインダーに目を近づけても表示は切り換わりません。表示を切り換えるには O ボタンを押します。
On1	ファインダーに目を近づけると自動的に表示を切り換えます。 O ボタンを長押しすると[EVF自動切換設定]の設定画面を表示します。
On2	ファインダーに目を近づけると自動的に表示を切り換えます。モニターを開いているときは、表示は切り換わりません。 O ボタンを長押しすると[EVF自動切換設定]の設定画面を表示します。

初期設定

新機能の初期設定および初期設定が変更された機能は以下の通りです。

- *1：[カスタム登録]が登録可能な機能
- *2：[リセット]（フル）で初期設定に戻る機能
- *3：[リセット]（標準）で初期設定に戻る機能

✨ カスタムメニュー

タブ	機能	初期設定	*1	*2	*3	🔍
✨ ■	EVF自動切換設定	On1	—	✓	—	85, 328, 553

10-2 ファームウェア Ver2.0の追加・変更機能

📷 追尾被写体設定

カスタムメニュー（**MENU** → **✳** → **A3** → **[📷 追尾被写体設定]**）で**[鳥]**が追加されました。

モータースポーツ	車やオートバイを検出します。主にモータースポーツで使用される車両やドライバーなどに追従してオートフォーカスします。
飛行機	飛行機やヘリコプターを検出します。機体やコックピットなどに追従してオートフォーカスします。
鉄道	鉄道車両を検出します。車両や運転席などに追従してオートフォーカスします。
鳥	鳥を検出します。頭部や瞳などに追従してオートフォーカスします。
Off	被写体を指定しません。

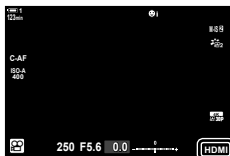
動画RAWデータ出力

動画メニュー（**MENU** → **🔗** → **[🔗 HDMI出力]** → **[出力モード設定]**）で**[RAWモード]**が追加されました。

出力モード設定	<p>[モニターモード]：HDMI接続機器を外部モニターとして使用します。映像とカメラの情報表示を出力します。出力の設定は✳カスタムメニュー D4の[HDMI]で設定します(P.434)。</p> <p>[記録モード]：HDMI接続機器を外部レコーダーとして使用します。映像のみ出力します。画像サイズや音声の設定はカメラの設定に従います。</p> <p>[RAWモード]：対応するHDMI接続機器に映像をRAW形式で出力します。カメラ内のカードには記録されません。画像サイズや音声の設定はカメラの設定に従います。</p> <ul style="list-style-type: none">• P/A/S/M/B（静止画撮影）モード、メニュー表示、画像再生中は、[モニターモード]で動作します。
---------	---

- **[RAWモード]**に対応するHDMI接続機器については、当社ホームページをご覧ください。
- **[RAWモード]**を設定すると、露出補正やホワイトバランスなどの撮影の設定が反映されていない未加工の状態のデータを記録できます。

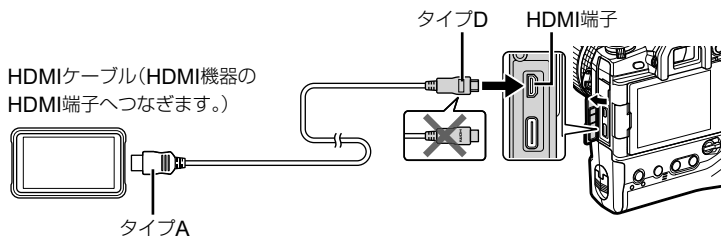
- **[RAWモード]**で出力中は、カメラのモニターに**HDMI**が表示されます。



- **[RAWモード]**で出力中の映像は、カメラのモニターには表示されません。映像はHDMI接続機器のモニターでご確認ください。
- **[RAWモード]**で出力した映像の記録フォーマットはProResRAWです。
- **[RAWモード]**を設定し、対応するHDMI接続機器に映像を出力するとき、**[ピクチャーモード]**は**[On]**に、**[ピクチャーモード]**は**[OM-Log400]**に設定されます。
- **[RAWモード]**設定時は、以下の制限があります。
 - **[画質モード]**：**[C4K]**または**[4K]**のみ設定できます。ハイスピードムービー撮影とスロー/クイック撮影はできません。
 - **[手ぶれ補正]**：**[M-IS Off]**または**[M-IS2]**のみ設定できます。
 - **[デジタルテレコン]**は**[Off]**に設定されます。
 - フォーサースレンズ装着時の**[AF方式]**：**[MF]**または**[PreMF]**のみ設定できます。

カメラとHDMI機器を接続する

HDMIケーブルでカメラとHDMI機器を接続します。



- HDMI機器の設定については、ご使用のHDMI機器の取扱説明書をご覧ください。

マニュアルフォーカス時のフォーカス距離指標表示

カスタムメニュー (**MENU** → ***** → **A4** → **[MFアシスト]**)で**[フォーカス距離指標]**が追加されました。

拡大	レンズのフォーカスリングを回したときに自動的に画面の一部を拡大して表示します。
ピーキング	レンズのフォーカスリングを回したときに画面内の輪郭のはっきりした箇所を強調表示します。
フォーカス距離指標	マニュアルフォーカス時にフォーカスリングを回すと、フォーカスの移動方向や位置の目安を表示し、ピント合わせを補助します。



- ・フォーカスクラッチ機構を搭載した他社レンズでは、ピントの移動方向とフォーカス距離指標の表示が反対になる場合があります。その場合は**[フォーカスリング]** (P.496)の設定を変更してください。
- ・フォーサーズマウント規格レンズ使用時は、フォーカス距離指標は表示されません。

SET機能/CALL機能を搭載しているレンズ装着時のモニター表示

SET機能でピント位置を記憶したときに**SET●**が、CALL機能でピント位置を呼び出したときに**CALL●**がカメラのモニターに表示されます。

SET機能/CALL機能の詳細については、ご使用のレンズの取扱説明書をご覧ください。



初期設定


新機能の初期設定および初期設定が変更された機能は以下の通りです。

*1：【カスタム登録】が登録可能な機能

*2：【リセット】（フル）で初期設定に戻る機能

*3：【リセット】（標準）で初期設定に戻る機能

★ カスタムメニュー

タブ	機能		初期設定	*1	*2	*3	
★	A4	MFアシスト	拡大	Off	✓	✓	—
			ピーキング	Off	✓	✓	—
			フォーカス距離	Off	✓	✓	—
			指標				
						495	

OLYMPUS

オリンパス株式会社

● インターネットでの情報入手

<https://olympus-imaging.jp/>

製品仕様、パソコン接続、OS 対応、Q&A などの各種最新情報は、
オリンパスホームページで簡単にご確認いただけます。
上記 URL より [サポート / ダウンロード] のページへお進みください。

● 電話でのお問合せ（オリンパスカスタマーサポートセンター）



0570-073-000

ナビダイヤル

* 携帯電話・PHS からのご利用になれます。

FAX 042-642-7486

* 調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間：平日および土曜・日曜・祝日 10:00 ~ 18:00

* 年末年始、システムメンテナンス日はお休みさせていただきます。

※記載内容は変更されることがあります。